2022年度
大学院公共政策研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2022/5/2］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9000】政治理論［杉田　敦］春学期授業/Spring 1
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9001】行政学基礎［林　嶺那］春学期後半/Spring(2nd half) 2
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9002】比較行政研究［申　龍徹］春学期前半/Spring(1st half) 3
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9003】公共哲学基礎［西村　清貴］秋学期前半/Fall(1st half) 4
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9005】政策学基礎［渕元　初姫］春学期前半/Spring(1st half) 6
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9006】現代政治分析研究［白鳥　浩］春学期前半/Spring(1st half) 7
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9007】公共政策とジャーナリズム［白鳥　浩、読売新聞社講師］春学期後半/Spring(2nd half) 8
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9008】公共政策の社会理論［池田　寛二］春学期後半/Spring(2nd half) 9
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9009】財政学基礎［其田　茂樹］秋学期後半/Fall(2nd half) 10
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9010】経済学基礎［芦谷　典子］春学期前半/Spring(1st half) 11
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9011】環境哲学・倫理学［吉永　明弘］秋学期後半/Fall(2nd half) 12
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9012】環境法基礎［永野　秀雄、横内　恵、立松　美也子］春学期前半/Spring(1st half) 13
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9013】地球環境学基礎［藤倉　良］春学期後半/Spring(2nd half) . 14
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9014】国際政治学基礎［湯澤　武］秋学期授業/Fall 15
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9015】国際協力論［武貞　稔彦］秋学期前半/Fall(1st half) 16
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9016】サステイナビリティ研究入門［宮川　路子、金藤　正直］春学期前半/Spring(1st half) 17
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9018】SDGs への招待［武貞　稔彦］秋学期前半/Fall(1st half) .. 18
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9019】政策法務論［神﨑　一郎］春学期後半/Spring(2nd half) ... 19
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9020】立法学研究［神﨑　一郎］春学期前半/Spring(1st half) 20
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9021】政策評価論［南島　和久］春学期後半/Spring(2nd half) ... 21
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9022】社会調査法１［竹元　秀樹］春学期前半/Spring(1st half) .. 22
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9023】社会調査法２［中筋　直哉］春学期後半/Spring(2nd half) . 23
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9024】社会調査法３［見田　朱子］秋学期後半/Fall(2nd half) 24
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9025】社会調査法４［見田　朱子］秋学期前半/Fall(1st half) 25
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9026】社会調査法５［竹元　秀樹］秋学期前半/Fall(1st half) 26
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9027】社会調査法６［竹元　秀樹］秋学期後半/Fall(2nd half) 27
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9028】社会調査法７［見田　朱子］秋学期前半/Fall(1st half) 28
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9029】社会調査法８［竹元　秀樹］春学期後半/Spring(2nd half) . 29
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9030】政策分析評価技法［阿部　一知］春学期後半/Spring(2nd half) 30
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9033】地域コンサルティング論［佐谷　和江］春学期前半/Spring(1st half) 31
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9034】ファシリテーション演習［德田　太郎］秋学期後半/Fall(2nd half) 33
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9035】ＣＳＲ論［長谷川　直哉］春学期前半/Spring(1st half) 34
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9036】政策研究概論（外国語）※韓国語［申　龍徹］春学期授業/Spring 36
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9037】政策研究概論（外国語）※中国語［毛　桂榮］春学期授業/Spring 37
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9038】公共政策論文技法１［白鳥　浩、塚﨑　裕子、笈米地　真理］春学期前半/Spring(1st half) 39
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9039】公共政策論文技法２［渕元　初姫］春学期後半/Spring(2nd half) 40
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9040】政策学研究［渕元　初姫］春学期後半/Spring(2nd half) 41
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9041】行政学事例研究の方法［林　嶺那］秋学期後半/Fall(2nd half) 42
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9044】自治体議会論［鍵屋　一］春学期後半/Spring(2nd half) 43
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9045】公務員制度研究［森谷　明浩］秋学期後半/Fall(2nd half) 44
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9048】政策過程研究［土山　希美枝］春学期前半/Spring(1st half) 45

公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9049】自治体福祉政策論［鏡　諭］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 46
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9051】コミュニティ制度論［西谷内　博美］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 47
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9052】日本政治史研究［明田川　融］春学期授業/Spring . . . 48
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9053】地方自治論［土山　希美枝］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 49
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9054】自治体経営論［谷本　有美子］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 50
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9055】比較公務員制度研究［申　龍徹］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 52
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9056】比較自治行政研究［申　龍徹］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 53
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9057】防災危機管理研究［鍵屋　一］春学期前半/Spring(1st half) . . . 54
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9058】雇用労働政策研究［濱口　桂一郎］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 55
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9059】政策過程事例研究［鄭　智允］秋学期後半/Fall(2nd half) . . . 56
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9060】政策開発実践論［富澤　守、小森　岳史、清水　英弥、髙橋　良一］秋学期後半/Fall(2nd half) . . . 57
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9062】自治体政策実践論１［青山　貴洋、宇佐美　淳］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 58
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9063】自治体政策実践論２［押立　貴志、渡部　朋宏］秋学期後半/Fall(2nd half) . . . 60
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9064】自治体政策実践論３［青木　隆、鈴木　良祐］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 63
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9065】ガバナンス研究［芦立　秀朗］春学期前半/Spring(1st half) . . . 64
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9066】リージョナリズムと非政府組織［大芝　亮］春学期集中/Intensive(Spring) . . . 65
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9067】企業論［加藤　寛之］春学期授業/Spring . . . 66
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9068】グローバル企業戦略論［多田　和美］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 67
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9069】市民社会ガバナンス論［柏木　宏］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 68
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9070】ＮＰＯ論［柏木　宏］春学期前半/Spring(1st half) 70
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9071】非営利セクター研究［矢代　隆嗣］春学期前半/Spring(1st half) . . . 72
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9073】市民社会とコミュニティ［渕元　初姫］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 73
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9074】都市ガバナンス論［植木　豊］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 74
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9075】まちづくり研究［野口　和雄］秋学期授業/Fall . . . 75
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9076】文化政策研究［松本　茂章］春学期前半/Spring(1st half) . . . 76
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9077】シンクタンク論［蒔田　純］秋学期集中/Intensive(Fall) 78
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9079】環境自治体政策研究［馬場　健司、増原　直樹］秋学期集中/Intensive(Fall) . . . 80
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9080】公共空間形成論［申　龍徹］秋学期後半/Fall(2nd half) 82
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9081】ジェンダー政策研究［中野　洋恵］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 83
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9082】公共哲学研究［宮川　裕二］秋学期後半/Fall(2nd half) 85
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9083】イノベーション政策論［糸久　正人］秋学期後半/Fall(2nd half) . . . 86
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9084】外交政策論［宮本　悟］春学期後半/Spring(2nd half) 87

公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9085】国際環境政策の社会学［島田　昭仁］春学期授業/Spring 89
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9088】比較公共政策論［桐谷　仁］春学期後半/Spring(2nd half) 90
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9090】経済政策［金子　勝］秋学期後半/Fall(2nd half) . . 91
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9100】論文研究指導１Ａ［杉崎　和久］春学期授業/Spring 92
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9101】論文研究指導１Ｂ［杉崎　和久］秋学期授業/Fall 93
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9102】論文研究指導１Ａ［土山　希美枝］春学期授業/Spring 94
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9103】論文研究指導１Ｂ［土山　希美枝］秋学期授業/Fall 95
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9104】論文研究指導１Ａ［名和田　是彦］春学期授業/Spring 96
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9105】論文研究指導１Ｂ［名和田　是彦］秋学期授業/Fall 97
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9106】論文研究指導１Ａ［林　嶺那］春学期授業/Spring 98
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9107】論文研究指導１Ｂ［林　嶺那］秋学期授業/Fall 99
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9108】論文研究指導１Ａ［廣瀬　克哉］春学期授業/Spring 100
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9109】論文研究指導１Ｂ［廣瀬　克哉］秋学期授業/Fall 101
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9110】論文研究指導１Ａ［渕元　初姫］春学期授業/Spring 102
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9111】論文研究指導１Ｂ［渕元　初姫］秋学期授業/Fall 103
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9112】論文研究指導１Ａ［糸久　正人］春学期授業/Spring 104
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9113】論文研究指導１Ｂ［糸久　正人］秋学期授業/Fall 105
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9114】論文研究指導１Ａ［加藤　寛之］春学期授業/Spring 106
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9115】論文研究指導１Ｂ［加藤　寛之］秋学期授業/Fall 107
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9116】論文研究指導１Ａ［白鳥　浩］春学期授業/Spring 108
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9117】論文研究指導１Ｂ［白鳥　浩］秋学期授業/Fall 109
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9120】論文研究指導１Ａ［多田　和美］春学期授業/Spring 110
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9121】論文研究指導１Ｂ［多田　和美］秋学期授業/Fall 111
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9122】論文研究指導１Ａ［谷本　有美子］春学期授業/Spring 112
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9123】論文研究指導１Ｂ［谷本　有美子］秋学期授業/Fall 113
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9124】論文研究指導１Ａ［中筋　直哉］春学期授業/Spring 114
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9125】論文研究指導１Ｂ［中筋　直哉］秋学期授業/Fall 115
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9126】論文研究指導２Ａ［杉崎　和久］春学期授業/Spring 116
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9127】論文研究指導２Ｂ［杉崎　和久］秋学期授業/Fall 117
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9130】論文研究指導２Ａ［名和田　是彦］春学期授業/Spring 118
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9131】論文研究指導２Ｂ［名和田　是彦］秋学期授業/Fall 119
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9134】論文研究指導２Ａ［廣瀬　克哉］春学期授業/Spring 120
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9135】論文研究指導２Ｂ［廣瀬　克哉］秋学期授業/Fall 121
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9136】論文研究指導２Ａ［渕元　初姫］春学期授業/Spring 122
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9137】論文研究指導２Ｂ［渕元　初姫］秋学期授業/Fall 123
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9138】論文研究指導２Ａ［池田　寛二］春学期授業/Spring 124
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9139】論文研究指導２Ｂ［池田　寛二］秋学期授業/Fall 125
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9140】論文研究指導２Ａ［糸久　正人］春学期授業/Spring 126
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9141】論文研究指導２Ｂ［糸久　正人］秋学期授業/Fall 127
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9144】論文研究指導２Ａ［白鳥　浩］春学期授業/Spring 128
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9145】論文研究指導２Ｂ［白鳥　浩］秋学期授業/Fall 129
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9148】論文研究指導２Ａ［多田　和美］春学期授業/Spring 130
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9149】論文研究指導２Ｂ［多田　和美］秋学期授業/Fall 131
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9150】論文研究指導２Ａ［谷本　有美子］春学期授業/Spring 132
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9151】論文研究指導２Ｂ［谷本　有美子］秋学期授業/Fall 133
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9152】論文研究指導２Ａ［中筋　直哉］春学期授業/Spring 134
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9153】論文研究指導２Ｂ［中筋　直哉］秋学期授業/Fall 135
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9300】公共政策学特殊研究１Ａ［杉崎　和久］春学期授業/Spring 136
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9301】公共政策学特殊研究１Ｂ［杉崎　和久］秋学期授業/Fall 137
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9302】公共政策学特殊研究１Ａ［土山　希美枝］春学期授業/Spring 138
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9303】公共政策学特殊研究１Ｂ［土山　希美枝］秋学期授業/Fall 139

公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9304】公共政策学特殊研究１Ａ［名和田　是彦］春学期授業/Spring 140
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9305】公共政策学特殊研究１Ｂ［名和田　是彦］秋学期授業/Fall 141
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9306】公共政策学特殊研究１Ａ［林　嶺那］春学期授業/Spring 142
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9307】公共政策学特殊研究１Ｂ［林　嶺那］秋学期授業/Fall 143
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9308】公共政策学特殊研究１Ａ［廣瀬　克哉］春学期授業/Spring 144
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9309】公共政策学特殊研究１Ｂ［廣瀬　克哉］秋学期授業/Fall 145
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9310】公共政策学特殊研究１Ａ［糸久　正人］春学期授業/Spring 146
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9311】公共政策学特殊研究１Ｂ［糸久　正人］秋学期授業/Fall 147
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9312】公共政策学特殊研究１Ａ［加藤　寛之］春学期授業/Spring 148
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9313】公共政策学特殊研究１Ｂ［加藤　寛之］秋学期授業/Fall 149
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9314】公共政策学特殊研究１Ａ［白鳥　浩］春学期授業/Spring 150
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9315】公共政策学特殊研究１Ｂ［白鳥　浩］秋学期授業/Fall 151
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9318】公共政策学特殊研究１Ａ［多田　和美］春学期授業/Spring 152
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9319】公共政策学特殊研究１Ｂ［多田　和美］秋学期授業/Fall 153
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9320】公共政策学特殊研究１Ａ［谷本　有美子］春学期授業/Spring 154
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9321】公共政策学特殊研究１Ｂ［谷本　有美子］秋学期授業/Fall 155
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9322】公共政策学特殊研究１Ａ［中筋　直哉］春学期授業/Spring 156
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9323】公共政策学特殊研究１Ｂ［中筋　直哉］秋学期授業/Fall 157
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9326】公共政策学特殊研究２Ａ［土山　希美枝］春学期授業/Spring 158
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9327】公共政策学特殊研究２Ｂ［土山　希美枝］秋学期授業/Fall 159
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9328】公共政策学特殊研究２Ａ［名和田　是彦］春学期授業/Spring 160
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9329】公共政策学特殊研究２Ｂ［名和田　是彦］秋学期授業/Fall 161
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9348】公共政策学特殊研究２Ａ［谷本　有美子］春学期授業/Spring 162
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9349】公共政策学特殊研究２Ｂ［谷本　有美子］秋学期授業/Fall 163
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9350】公共政策学特殊研究２Ａ［中筋　直哉］春学期授業/Spring 164
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9351】公共政策学特殊研究２Ｂ［中筋　直哉］秋学期授業/Fall 165
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9352】公共政策学特殊研究３Ａ［杉崎　和久］春学期授業/Spring 166
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9353】公共政策学特殊研究３Ｂ［杉崎　和久］秋学期授業/Fall 167

公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9354】公共政策学特殊研究３Ａ［土山　希美枝］春学期授業/Spring 168
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9355】公共政策学特殊研究３Ｂ［土山　希美枝］秋学期授業/Fall 169
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9356】公共政策学特殊研究３Ａ［名和田　是彦］春学期授業/Spring 170
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9357】公共政策学特殊研究３Ｂ［名和田　是彦］秋学期授業/Fall 171
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9360】公共政策学特殊研究３Ａ［廣瀬　克哉］春学期授業/Spring 172
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9361】公共政策学特殊研究３Ｂ［廣瀬　克哉］秋学期授業/Fall 173
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9362】公共政策学特殊研究３Ａ［渕元　初姫］春学期授業/Spring 174
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9363】公共政策学特殊研究３Ｂ［渕元　初姫］秋学期授業/Fall 175
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9364】公共政策学特殊研究３Ａ［池田　寛二］春学期授業/Spring 176
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9365】公共政策学特殊研究３Ｂ［池田　寛二］秋学期授業/Fall 177
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9366】公共政策学特殊研究３Ａ［糸久　正人］春学期授業/Spring 178
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9367】公共政策学特殊研究３Ｂ［糸久　正人］秋学期授業/Fall 179
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9368】公共政策学特殊研究３Ａ［加藤　寛之］春学期授業/Spring 180
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9369】公共政策学特殊研究３Ｂ［加藤　寛之］秋学期授業/Fall 181
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9369】公共政策学特殊研究３Ｂ［加藤　寛之］秋学期授業/Fall 182
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9370】公共政策学特殊研究３Ａ［白鳥　浩］春学期授業/Spring 183
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9371】公共政策学特殊研究３Ｂ［白鳥　浩］秋学期授業/Fall 184
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9378】公共政策学特殊研究３Ａ［中筋　直哉］春学期授業/Spring 185
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9379】公共政策学特殊研究３Ｂ［中筋　直哉］秋学期授業/Fall 186
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9400】公共政策ワークショップ（公共）１Ａ［渕元　初姫］春学期授業/Spring 187
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9401】公共政策ワークショップ（公共）１Ｂ［渕元　初姫］秋学期授業/Fall 188
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9402】公共政策ワークショップ（公共）２Ａ［渕元　初姫］春学期授業/Spring 189
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9403】公共政策ワークショップ（公共）２Ｂ［渕元　初姫］秋学期授業/Fall 190
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9404】公共政策ワークショップ（公共）３Ａ［渕元　初姫］春学期授業/Spring 191
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9405】公共政策ワークショップ（公共）３Ｂ［渕元　初姫］秋学期授業/Fall 192
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9406】公共政策ワークショップ（政策研究）１Ａ［加藤　寛之、中筋　直哉］春学期授業/Spring 193
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9407】公共政策ワークショップ（政策研究）１Ｂ［加藤　寛之、中筋　直哉］秋学期授業/Fall 194
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9408】公共政策ワークショップ（政策研究）２Ａ［加藤　寛之、中筋　直哉］春学期授業/Spring 195

公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9409】公共政策ワークショップ（政策研究）２Ｂ［加藤　寛之、中筋　直哉］秋学期授業/Fall 196
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9410】公共政策ワークショップ（政策研究）３Ａ［加藤　寛之、中筋　直哉］春学期授業/Spring 197
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9411】公共政策ワークショップ（政策研究）３Ｂ［加藤　寛之、中筋　直哉］秋学期授業/Fall 198
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9500】行政学基礎［林　嶺那］春学期後半/Spring(2nd half) 199
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9501】比較行政研究［申　龍徹］春学期前半/Spring(1st half) 200
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9502】公共哲学基礎［西村　清貴］秋学期前半/Fall(1st half) 201
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9503】政策学基礎［渕元　初姫］春学期前半/Spring(1st half) 203
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9504】現代政治分析研究［白鳥　浩］春学期前半/Spring(1st half) 204
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9505】公共政策とジャーナリズム［白鳥　浩、読売新聞社講師］春学期後半/Spring(2nd half) 205
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9506】公共政策の社会理論［池田　寛二］春学期後半/Spring(2nd half) 206
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9507】財政学基礎［其田　茂樹］秋学期後半/Fall(2nd half) 207
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9508】経済学基礎［芦谷　典子］春学期前半/Spring(1st half) 208
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9509】環境哲学・倫理学［吉永　明弘］秋学期後半/Fall(2nd half) 209
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9510】環境法基礎［永野　秀雄、横内　恵、立松　美也子］春学期前半/Spring(1st half) 210
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9511】地球環境学基礎［藤倉　良］春学期後半/Spring(2nd half) 211
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9512】国際政治学基礎［湯澤　武］春学期授業/Spring . 212
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9513】国際協力論［武貞　稔彦］秋学期前半/Fall(1st half) 213
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9514】サステイナビリティ研究入門［宮川　路子、金藤正直］春学期前半/Spring(1st half) 214
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9516】SDGs への招待［武貞　稔彦］秋学期前半/Fall(1st half) 215
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9517】政策法務論［神﨑　一郎］春学期後半/Spring(2nd half) 216
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9518】立法学研究［神﨑　一郎］春学期前半/Spring(1st half) 217
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9519】政策評価論［南島　和久］春学期後半/Spring(2nd half) 218
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9520】社会調査法１［竹元　秀樹］春学期前半/Spring(1st half) 219
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9521】社会調査法２［中筋　直哉］春学期後半/Spring(2nd half) 220
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9522】社会調査法３［見田　朱子］秋学期後半/Fall(2nd half) 221
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9523】社会調査法４［見田　朱子］秋学期前半/Fall(1st half) 222
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9524】社会調査法５［竹元　秀樹］秋学期前半/Fall(1st half) 223
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9525】社会調査法６［竹元　秀樹］秋学期後半/Fall(2nd half) 224
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9526】社会調査法７［見田　朱子］秋学期前半/Fall(1st half) 225
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9527】社会調査法８［竹元　秀樹］春学期後半/Spring(2nd half) 226

サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9528】政策分析評価技法［阿部　一知］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 227
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9531】地域コンサルティング論［佐谷　和江］春学期前半/Spring(1st half) . . . 228
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9532】ファシリテーション演習［德田　太郎］秋学期後半/Fall(2nd half) . . . 230
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9533】政策研究概論（外国語）※韓国語［申　龍徹］春学期授業/Spring . . . 231
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9534】政策研究概論（外国語）※中国語［毛　桂榮］春学期授業/Spring . . . 232
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9535】公共政策論文技法１［白鳥　浩、塚﨑　裕子、笹米地　真理］春学期前半/Spring(1st half) . . . 234
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9536】公共政策論文技法２［渕元　初姫］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 235
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9537】環境行政法［横内　恵］春学期前半/Spring(1st half) . . . 236
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9538】環境私法［永野　秀雄］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 237
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9539】環境政策法務と条例［朝賀広伸］秋学期後半/Fall(2nd half) . . . 238
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9542】国際機構論［弓削　昭子］春学期授業/Spring . . . 240
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9543】外交政策論［宮本　悟］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 241
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9547】地域環境史研究［根崎　光男］春学期前半/Spring(1st half) . . . 243
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9549】サステイナブル地域政策研究［小島　聡］春学期前半/Spring(1st half) . . . 244
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9550】地域環境計画研究［湯澤　規子］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 245
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9551】サステイナビリティ学事例研究Ⅰ［辻　英史］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 246
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9552】環境ガバナンスⅠ［西城戸　誠］247
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9553】環境経営論［金藤　正直］春学期授業/Spring . . . 248
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9554】サステイナビリティ・レポーティング［八木　裕之］春学期授業/Spring . . . 250
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9555】環境経済論［杉野　誠］春学期前半/Spring(1st half) . . . 251
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9556】サステイナブル経営論［長谷川　直哉］春学期前半/Spring(1st half) . . . 253
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9557】環境と知的財産権［中里　妃沙子］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 255
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9560】グローバル環境経営論［白鳥和彦］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 256
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9561】開発経済論［山田　英嗣］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 257
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9562】国際環境協力論［藤倉　良］秋学期後半/Fall(2nd half) . . . 259
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9565】国際 NGO・NPO 論［小野行雄］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 260
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9566】ヒューマン・エコロジー［山内　愛子］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 261
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9567】社会起業家論［吉田　秀美］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 262
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9568】国際環境政策の社会学［島田昭仁］春学期授業/Spring . . . 263

サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9569】環境工学の基礎［藤倉　良］春学期前半/Spring(1st half) 264
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9570】環境資源・エネルギー政策論［菊地　昌廣］秋学期授業/Fall 265
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9571】公衆衛生研究［宮川　路子］春学期前半/Spring(1st half) 267
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9572】自然環境共生研究［高田　雅之］秋学期前半/Fall(1st half) 268
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9573】大気人間環境論［北川　徹哉］秋学期後半/Fall(2nd half) 269
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9574】自然災害と防災［杉戸　信彦］春学期後半/Spring(2nd half) 270
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9602】論文研究指導１Ａ［金藤　正直］春学期授業/Spring271
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9603】論文研究指導１Ｂ［金藤　正直］秋学期授業/Fall . 272
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9604】論文研究指導１Ａ［北川　徹哉］春学期授業/Spring273
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9605】論文研究指導１Ｂ［北川　徹哉］秋学期授業/Fall . 274
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9606】論文研究指導１Ａ［小島　聡］春学期授業/Spring. 275
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9607】論文研究指導１Ｂ［小島　聡］秋学期授業/Fall . . . 276
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9608】論文研究指導１Ａ［杉戸　信彦］春学期授業/Spring277
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9609】論文研究指導１Ｂ［杉戸　信彦］秋学期授業/Fall . 278
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9610】論文研究指導１Ａ［杉野　誠］春学期授業/Spring. 279
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9611】論文研究指導１Ｂ［杉野　誠］秋学期授業/Fall . . . 280
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9612】論文研究指導１Ａ［高田　雅之］春学期授業/Spring281
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9613】論文研究指導１Ｂ［高田　雅之］秋学期授業/Fall . 282
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9614】論文研究指導１Ａ［高橋　五月］春学期授業/Spring283
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9615】論文研究指導１Ｂ［高橋　五月］秋学期授業/Fall . 284
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9616】論文研究指導１Ａ［武貞　稔彦］春学期授業/Spring285
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9617】論文研究指導１Ｂ［武貞　稔彦］秋学期授業/Fall . 286
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9618】論文研究指導１Ａ［辻　英史］春学期授業/Spring. 287
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9619】論文研究指導１Ｂ［辻　英史］秋学期授業/Fall . . . 288
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9620】論文研究指導１Ａ［永野　秀雄］春学期授業/Spring289
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9621】論文研究指導１Ｂ［永野　秀雄］秋学期授業/Fall . 290
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9622】論文研究指導１Ａ［長谷川　直哉］春学期授業/Spring291
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9623】論文研究指導１Ｂ［長谷川　直哉］秋学期授業/Fall 292
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9624】論文研究指導１Ａ［藤倉　良］春学期授業/Spring. 293
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9625】論文研究指導１Ｂ［藤倉　良］秋学期授業/Fall . . . 294
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9626】論文研究指導１Ａ［松本　倫明］春学期授業/Spring295
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9627】論文研究指導１Ｂ［松本　倫明］秋学期授業/Fall . 296
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9628】論文研究指導１Ａ［宮川　路子］春学期授業/Spring297
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9629】論文研究指導１Ｂ［宮川　路子］秋学期授業/Fall . 298
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9630】論文研究指導１Ａ［湯澤　規子］春学期授業/Spring299
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9631】論文研究指導１Ｂ［湯澤　規子］秋学期授業/Fall . 300
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9632】論文研究指導１Ａ［吉永　明弘］春学期授業/Spring301
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9633】論文研究指導１Ｂ［吉永　明弘］秋学期授業/Fall . 302
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9634】論文研究指導１Ａ［横内　恵］春学期授業/Spring. 303
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9635】論文研究指導１Ｂ［横内　恵］秋学期授業/Fall . . . 304
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9636】論文研究指導１Ａ［渡邊　誠］春学期授業/Spring. 305
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9637】論文研究指導１Ｂ［渡邊　誠］秋学期授業/Fall . . . 306
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9638】論文研究指導２Ａ［金藤　正直］春学期授業/Spring307
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9639】論文研究指導２Ｂ［金藤　正直］秋学期授業/Fall . 308
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9640】論文研究指導２Ａ［小島　聡］春学期授業/Spring. 309
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9641】論文研究指導２Ｂ［小島　聡］秋学期授業/Fall . . . 310
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9642】論文研究指導２Ａ［高田　雅之］春学期授業/Spring311
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9643】論文研究指導２Ｂ［高田　雅之］秋学期授業/Fall . 312
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9644】論文研究指導２Ａ［高橋　五月］春学期授業/Spring313
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9645】論文研究指導２Ｂ［高橋　五月］秋学期授業/Fall . 314
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9646】論文研究指導２Ａ［武貞　稔彦］春学期授業/Spring315

サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9647】論文研究指導２Ｂ［武貞　稔彦］秋学期授業/Fall . 316
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9648】論文研究指導２Ａ［長谷川　直哉］春学期授業/Spring317
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9649】論文研究指導２Ｂ［長谷川　直哉］秋学期授業/Fall 318
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9650】論文研究指導２Ａ［藤倉　良］春学期授業/Spring. 319
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9651】論文研究指導２Ｂ［藤倉　良］秋学期授業/Fall . . . 320
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9652】論文研究指導２Ａ［宮川　路子］春学期授業/Spring321
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9653】論文研究指導２Ｂ［宮川　路子］秋学期授業/Fall . 322
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9654】論文研究指導２Ａ［渡邊　誠］春学期授業/Spring. 323
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9655】論文研究指導２Ｂ［渡邊　誠］秋学期授業/Fall . . . 324
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9702】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［金藤　正直］春学期授業/Spring 325
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9703】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［金藤　正直］秋学期授業/Fall 326
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9704】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［北川　徹哉］春学期授業/Spring 327
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9705】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［北川　徹哉］秋学期授業/Fall 328
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9706】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［小島　聡］春学期授業/Spring 329
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9707】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［小島　聡］秋学期授業/Fall 330
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9708】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［杉戸　信彦］春学期授業/Spring 331
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9709】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［杉戸　信彦］秋学期授業/Fall 332
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9710】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［杉野　誠］春学期授業/Spring 333
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9711】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［杉野　誠］秋学期授業/Fall 334
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9712】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［高田　雅之］春学期授業/Spring 335
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9713】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［高田　雅之］秋学期授業/Fall 336
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9714】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［高橋　五月］春学期授業/Spring 337
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9715】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［高橋　五月］秋学期授業/Fall 338
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9716】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［武貞　稔彦］春学期授業/Spring 339
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9717】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［武貞　稔彦］秋学期授業/Fall 340
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9718】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［辻　英史］春学期授業/Spring 341
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9719】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［辻　英史］秋学期授業/Fall 342
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9720】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［永野　秀雄］春学期授業/Spring 343
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9721】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［永野　秀雄］秋学期授業/Fall 344
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9722】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［長谷川　直哉］春学期授業/Spring 345
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9723】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［長谷川　直哉］秋学期授業/Fall 346
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9724】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［藤倉　良］春学期授業/Spring 347
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9725】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［藤倉　良］秋学期授業/Fall 348

サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9726】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［松本　倫明］春学期授業/Spring 349
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9727】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［松本　倫明］秋学期授業/Fall 350
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9728】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［宮川　路子］春学期授業/Spring 351
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9729】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［宮川　路子］秋学期授業/Fall 352
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9730】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［湯澤　規子］春学期授業/Spring 353
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9731】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［湯澤　規子］秋学期授業/Fall 354
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9732】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［吉永　明弘］春学期授業/Spring 355
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9733】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［吉永　明弘］秋学期授業/Fall 356
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9734】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［横内　恵］春学期授業/Spring 357
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9735】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［横内　恵］秋学期授業/Fall 358
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9736】サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［渡邊　誠］春学期授業/Spring 359
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9737】サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［渡邊　誠］秋学期授業/Fall 360
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9738】サステイナビリティ特殊研究２Ａ
［武貞　稔彦］春学期授業/Spring 361
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9739】サステイナビリティ特殊研究２Ｂ
［武貞　稔彦］秋学期授業/Fall 362
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9740】サステイナビリティ特殊研究２Ａ
［宮川　路子］春学期授業/Spring 363
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9741】サステイナビリティ特殊研究２Ｂ
［宮川　路子］秋学期授業/Fall 364
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9742】サステイナビリティ特殊研究２Ａ
［渡邊　誠］春学期授業/Spring 365
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9743】サステイナビリティ特殊研究２Ｂ
［渡邊　誠］秋学期授業/Fall 366
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9744】サステイナビリティ特殊研究３Ａ
［金藤　正直］春学期授業/Spring 367
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9745】サステイナビリティ特殊研究３Ｂ
［金藤　正直］秋学期授業/Fall 368
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9746】サステイナビリティ特殊研究３Ａ
［武貞　稔彦］春学期授業/Spring 369
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9747】サステイナビリティ特殊研究３Ｂ
［武貞　稔彦］秋学期授業/Fall 370
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9748】サステイナビリティ特殊研究３Ａ
［藤倉　良］春学期授業/Spring 371
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9749】サステイナビリティ特殊研究３Ｂ
［藤倉　良］秋学期授業/Fall 372
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9750】サステイナビリティ特殊研究３Ａ
［宮川　路子］春学期授業/Spring 373
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9751】サステイナビリティ特殊研究３Ｂ
［宮川　路子］秋学期授業/Fall 374
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9800】環境法基礎Ｄ［永野　秀雄、横内　恵、立松　美也子］春学期前半/Spring(1st half) 375
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9801】地球環境学基礎Ｄ［藤倉　良］春学期後半/Spring(2nd half) 376

サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9802】国際協力論 D ［武貞　稔彦］秋学期前半/Fall(1st half) 377
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9806】環境経営論 D ［金藤　正直］春学期授業/Spring 378
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9807】環境行政法 D ［横内　恵］春学期前半/Spring(1st half) 380
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9808】環境私法 D ［永野　秀雄］秋学期前半/Fall(1st half) 381
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9809】自然環境共生研究 D ［高田　雅之］秋学期前半/Fall(1st half) 382
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9811】大気人間環境論 D ［北川　徹哉］秋学期後半/Fall(2nd half) 383
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9812】環境工学の基礎 D ［藤倉　良］春学期前半/Spring(1st half) 384
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9813】自然災害と防災 D ［杉戸　信彦］春学期後半/Spring(2nd half) 385
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9814】環境経済論 D ［杉野　誠］春学期前半/Spring(1st half) 386
サステイナビリティ学専攻【X9815】サステイナブル地域政策研究 D ［小島　聡］春学期前半/Spring(1st half) 387
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9816】公衆衛生研究 D ［宮川　路子］春学期前半/Spring(1st half) 388
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9817】サステイナブル経営論 D ［長谷川　直哉］春学期前半/Spring(1st half) 389
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9818】地域環境計画研究 D ［湯澤　規子］秋学期前半/Fall(1st half) 391
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9820】国際環境協力論 D ［藤倉　良］秋学期後半/Fall(2nd half) 392
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9822】ヒューマン・エコロジー D ［山内　愛子］春学期後半/Spring(2nd half) 393
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9823】サステイナビリティ学事例研究 D Ⅰ ［辻　英史］春学期後半/Spring(2nd half) 394
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9826】環境ガバナンス D Ⅰ ［西城戸　誠］395

POL500P1 － 001

政治理論

杉田　敦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】
権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回、英語文献を講読して議論する。
対面で行う予定だが、感染症の状況次第では遠隔で実施することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 1	テキストを読んでディスカッションする 1
第 2 回	文献講読 2	テキストを読んでディスカッションする 2
第 3 回	文献講読 3	テキストを読んでディスカッションする 3
第 4 回	文献講読 4	テキストを読んでディスカッションする 4
第 5 回	文献講読 5	テキストを読んでディスカッションする 5
第 6 回	文献講読 6	テキストを読んでディスカッションする 6
第 7 回	文献講読 7	テキストを読んでディスカッションする 7
第 8 回	文献講読 8	テキストを読んでディスカッションする 8
第 9 回	文献講読 9	テキストを読んでディスカッションする 9
第 10 回	文献講読 10	テキストを読んでディスカッションする 10
第 11 回	文献講読 11	テキストを読んでディスカッションする 11
第 12 回	文献講読 12	テキストを読んでディスカッションする 12
第 13 回	文献講読 13	テキストを読んでディスカッションする 13
第 14 回	文献講読 14	テキストを読んでディスカッションする 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】
その都度指定する。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点１００点。

【学生の意見等からの気づき】
今後、アンケートをふまえ対応する。

【その他の重要事項】
本講義は、学部における外書購読（英語）と合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治学
＜研究テーマ＞政治理論
＜主要研究業績＞
『権力論』、『境界線の政治学　増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】
This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic litterature in English.

POL500P1 － 002

行政学基礎

林　嶺那

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。後者の特定のテーマとして今回は「第一線公務員」を取り上げます。

【到達目標】
行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「行政学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
毎週 1 コマ目は行政学の基本書を、2 コマ目は特定のテーマに関する日本語・英語論文を扱います。ただし、最初の週のみ 1 コマ目はガイダンス、2 コマ目は基本書の読解とします。
1 コマ目は、真渕勝（2020）『行政学［新版］』を利用します。受講者は、事前に予習を行った上で、不明点あるいは疑問点をまとめたコメントペーパー（A4 一枚程度）を準備します。このコメントペーパーを受講者間で共有し、議論を行います。2 コマ目は、予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。受講を予定している方は、初回までに真渕（2020）を購入した上で、「序章」「第 1 章」「第 2 章」「第 3 章」を通読し、コメントペーパーを準備してきてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第 2 回	官僚制ほか	真渕（2020）の「序章」～「第 3 章」
第 3 回	政策決定と実施ほか	真渕（2020）の「第 4 章」～「第 8 章」
第 4 回	論文の報告①	第一線公務員研究のサーベイ論文
第 5 回	行政責任ほか	真渕（2020）の「第 9 章」～「第 13 章」
第 6 回	論文の報告②	第一線公務員と市民との関係
第 7 回	中央省庁ほか	真渕（2020）の「第 14 章」～「第 18 章」
第 8 回	論文の報告③	第一線公務員相互の関係
第 9 回	予算編成ほか	真渕（2020）の「第 19 章」～「第 23 章」
第 10 回	論文の報告④	第一線公務員と代表的官僚制
第 11 回	地方自治ほか	真渕（2020）の「第 24 章」～「第 28 章」
第 12 回	論文の報告⑤	第一線公務員の意思決定
第 13 回	大都市行政ほか	真渕（2020）の「第 29 章」～「終章」
第 14 回	論文の報告⑥	第一線公務員とコミュニケーションスタイル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、教科書講読 60 分、論文報告資料準備 120 分で、合計 180 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
真渕勝（2020）『行政学［新版］』有斐閣、4290 円。

【参考書】
適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーの提出（５０%）
論文の報告（５０%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
The course aims to provide students with an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. As the latter specific theme, we will focus on "street-level bureaucrats. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL500P1 － 003

比較行政研究

申　龍徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
比較行政研究の学際的理解及び比較研究手法の習得

【到達目標】
①比較行政研究の理論展開を分析することにより、比較行政研究の理論的背景を理解できる（比較行政運動の展開）。
② OECD 加盟国における多様な行政現象の中から事例分析を行い、国際比較の方法論を体系的に習得できる（主要国の行政システムの展開と特徴）。
③実際の行政活動の改善に役立つ政策案が提案できる専門能力の習得ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「比較行政研究」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
国際化の深化という現代社会の行政現象を分析する上で欠かせない比較行政研究を研究対象とするこの授業は、講義と発表で進める。講義では、比較行政研究の学際的な発展過程について理解を深めるとともに、OECD 加盟国の行政制度及び行政過程、個別行政の特徴に関する国際比較を通じて、現在の行政課題に対する政策対案の作成を可能とする政策形成能力の向上を目指す。
前半は講義を中心に、後半は受講者の発表と討論で構成する。発表では、受講者が設定したテーマ（行政課題）に対し、国内や OECD 諸国との事例の比較・分析を通じて、もっとも有効と思われる対案の作成を目指す。
原則として対面で授業を実施すること、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンラインに切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回目	授業の概要説明	個人課題の設定、発表スケジュールの調整
2 回目	比較行政の概念と歴史的展開及び比較行政と発展行政の理論統合	形成期、沈滞期、転換期、跳躍期の比較行政研究 比較行政研究と発展行政論の関係、理論的統合
3 回目	行政システムの国際比較 A	英米独仏の行政システムの比較分析
4 回目	行政システムの国際比較 B	北欧諸国の行政システムの比較分析
5 回目	行政システムの国際比較 C	NICs の行政システム及び日韓の行政システムの比較分析
6 回目	比較行政研究事例分析	受講者の事例発表・討論
7 回目	比較行政研究の課題と展望	比較行政研究の課題と展望について理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
事前に講義レジュメ及び参考資料などをアップする。
Eric E. Otenyo & Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

【参考書】
特に限定しないが、主に参考している資料は、以下の通り。
Eric E. Otenyo & Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

【成績評価の方法と基準】
質問力（25 %）、調査力（25 %）、構成力（25 %）、プレゼンテーション（25 %）の 4 つによる絶対評価（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講者には関心のあるテーマの発表が課題として課されるので、事前準備が必要です。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞行政学、比較行政
＜研究テーマ＞比較自治行政、行政文化
＜主要研究業績＞
『現代日本の公務員人事ー政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』（執筆分担、第一法規、2019）
『公務員制度改革という時代』（執筆分担、敬文堂、2017）
『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版局、2013）
『アジアの中の日本官僚：歴史と現在』（執筆分担、勉誠出版、2010）
『韓国行政・自治入門』（単著、公人社、2006）
『自治体経営改革』（執筆分担、公人社、2006）

【Outline (in English)】
Interdisciplinary understanding of comparative administrative research and acquisition of comparative research method
Understand the theoretical development of comparative administrative research and understand the theoretical background of comparative administrative research (development of comparative administrative movement)
Required reading references
Absolute evaluation (100%) based on four questions: questioning ability (25%), research ability (25%), composition ability (25%), and presentation ability (25%).

PHL500P1 － 004

公共哲学基礎

西村　清貴

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「公共性」、「市民社会」といった公共哲学における基本的概念の歴史的由来と、現代公共哲学における意義を学ぶことを目的とする。

【到達目標】
「公共性」、「市民社会」といった公共哲学における基本的概念、そして「国家」、「共同体」、「個人」、「市場」といった公共哲学において重要な諸概念の思想史的意義について理解したうえで、現代の代表的公共哲学において、これらの諸概念にどのような意義が与えられているかを理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「公共哲学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
公共政策研究科の「公共哲学基礎」と政治学研究科の「公共哲学研究 I」とを合併開講する。講義を行うほか、文献を講読する。
講義については、「国家」、「共同体」、「個人」、「市場」といった公共哲学にとって重要と思われる諸概念が生成されるにあたり大きく貢献した思想家を取り扱う。
文献購読については、J・J・ルソー『社会契約論』について各参加者に割り振られた箇所について報告してもらう。本書は、公共哲学や政治哲学の古典中の古典である。古典として今日においても読まれていることの意義をしっかりと味わってもらいたい。
本講義は、2 コマ続きを 7 回行う 4 期制の科目であるが、以下の「授業計画」では、1 コマずつ記載している。初日と最終日を除いて、1 コマ目が講義、2 コマ目が文献講読、というように進める予定である。
なお、今後のコロナ感染状況に関する大学の方針等により変更はあり得るが、原則として、対面で授業を行う。スケジュールの伝達は Hoppi を通じて行うので、確認しておくこと。
なお、学期末にレポートを提出してもらう。レポートについては講評を付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 (1 日目 前半)	イントロダクション	講義の目的や内容について説明する
第 2 回 (1 日目 後半)	政治社会の成立	古代や中世において政治がいかなる営みであったかを見る
第 3 回 (2 日目 前半)	カントにおける啓蒙と公共性	公共哲学において頻繁に取り上げられる「理性の公共的使用」という用語法を中心にカントの思想を見る
第 4 回 (2 日目 後半)	文献購読	テキスト第一編前半
第 5 回 (3 日目 前半)	アダム・スミスと市場	しばしば公共性と対立する概念として取り上げられる市場という概念についてアダム・スミスを中心として見る
第 6 回 (3 日目 後半)	文献購読	テキスト第一編後半
第 7 回 (4 日目 前半)	ヘーゲルと市民社会／国家	近代的な意味での市民社会と国家との峻別を確立したヘーゲルの思想を見る
第 8 回 (4 日目 後半)	文献購読	テキスト第二編前半
第 9 回 (5 日目 前半)	ハンナ・アレントと公共性	今日の公共哲学において最も著名な論者の一人であるハンナ・アレントの公共性論を『人間の条件』を中心に見る
第 10 回 (5 日目 後半)	文献購読	テキスト第二編後半
第 11 回 (6 日目 前半)	ハーバマスと公共性	「公共性の構造転換」を中心にユルゲン・ハーバマスの議論を見る
第 12 回 (6 日目 後半)	文献購読	テキスト第三編前半
第 13 回 (7 日目 前半)	文献購読	テキスト第三編後半
第 14 回 (7 日目 後半)	文献購読	テキスト第四編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、報告者であるないにかかわらず、テキストの該当箇所を事前に読んでおき、授業における発言についてあらかじめ考えておくこと。

【テキスト（教科書）】
ルソー、中山元訳『社会契約論/ジュネーヴ草稿』(光文社古典新訳文庫、2008 年)

【参考書】
西村清貴『法思想史入門』(成文堂、2020 年)

【成績評価の方法と基準】
報告 40 パーセント、学期末レポート 40 パーセント、その他授業への貢献度 (討論等)20 パーセント。

【学生の意見等からの気づき】
前年度に引き続き、感染対策にしっかりと気をつけたい

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　法思想史・法哲学
＜研究テーマ＞　19 世紀ドイツ法思想
＜主要研究業績＞　西村清貴『近代ドイツの法と国制』(成文堂、2017 年)
西村清貴『法思想史入門』(成文堂、2020 年)

【Outline (in English)】
【Course outline】
This lecture aims to learn the historical origins of basic concepts in public philosophy such as "publicness" and "civil society" and their significance in contemporary public philosophy.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand the basic concepts in public philosophy such as "publicness" and "civil society", and the historical-philosophical significance of important concepts in public philosophy such as "nation", "community", "individual", and "market".
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read the relevant part of the text in advance and think about what you will say in class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following .

Short report: 40%, Term-end report : 40%, class contribution: 20%

POL500P1 － 006

政策学基礎

淵元　初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学からの政策研究へのアプローチについて、基礎的な知識と分析手法の習得を目指す、入門的な位置づけの科目である。学部までの段階で政治学を専攻していない受講生も想定し、政治学の基礎概念の習得ができるように配慮する。取りあげる主要な論点は、政策と政治過程の関係、政治的正統性と政策的合理性の関係、制度研究と政策研究の関係などである。

【到達目標】
政策研究一般の中で、政治学からのアプローチの特性を把握し、対象とする政策領域に対する適切な研究設問を立てることができるようになる。その上、学術論文の作成の際に、適切な文脈の中で活用することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究の基本的知識について整理します。受講者は、個人の研究関心に沿って課題を設定して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。
授業方式は原則として対面授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	政策に関する諸学問分野の中で政治学からのアプローチの特徴とは何か。あわせて政策に関する諸学問分野の中で、政治学の隣接諸学の基本的な特徴を整理する。
第 2 回	公共政策学の誕生前史	公共政策学の誕生についてそのルーツを探る。
第 3 回	公共政策学の成立	公共政策がアメリカで成立したことの背景を整理する。
第 4 回	公共政策学の発展	公共政策学の発展とその挫折について検討する。
第 5 回	公共政策学の変容	公共政策学の変容と、多様な政策科学のアプローチについて学ぶ。
第 6 回	公共政策の構成と特徴	公共政策の構成要素及び公共政策がもつ特徴について整理する。
第 7 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、公共政策学の歴史に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 8 回	政策のライフ・ステージと政策過程	政策過程を段階に分けて整理する概念を検討する。
第 9 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策段階論に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 10 回	政策過程における参加者	政策過程におけるアクターの役割について考える。
第 11 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策過程におけるアクターに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 12 回	政策をめぐる価値の対立	政策がめざすべき諸価値について検討し、それらの対立関係について考える。
第 13 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策をめぐる価値の対立に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。
事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。
課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題報告（30%）及び期末レポート（50 %）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
公共政策学を理解するために、その歴史的な成り立ちを丁寧に説明することが重要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
The overall aim of this course is to introduce students to a range of political theories and concepts used in the academic study of public policy, such as rationalism, incrementalism and institutionalism. The course aims to be accessible for those who have not studied politics before, and is suitable for students looking for a multi-disciplinary experience.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Course presentation 30%, Short Essay50%, Class contribution 20%

POL500P1 － 007

現代政治分析研究

白鳥　浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代政治の総合的理解を目指す。

【到達目標】
同上。詳細は【授業の進め方と方法】に記載。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
①現代政治の今日的展開の姿を主に研究者を志望とする学生を対象とし、デモクラシーの視点及び脱冷戦時代の視点から分析し、現代政治分析の理念と手法を明らかにする
②具体的には、国際・国内・地域社会における公的課題の解決に向けて、自治体と住民・市民組織との新たな関係の再構築
③国際・国内のガバナンスの理念に立脚した政治システムと機構の改革方向
④冷戦後の構造変化と政府の新たなあり方などの課題を具体的に考え、そのための仕組みや政策のあり方を設計することを目的とする
⑤さらに、将来のデモクラシーについて履修した学生諸君と共に考える
⑥対面により講義を行う。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	現代政治分析とは	同左
第 2 回	現代政治学の基礎	同左
第 3 回	政治学の基礎概念	同左
第 4 回	政治学の理論	同左
第 5 回	現代日本政治の基礎	同左
第 6 回	現代日本政治の変動	同左
第 7 回	日本政治の現在	同左
第 8 回	日本政治の構造	同左
第 9 回	構造的視座による理解	同左
第 10 回	国際的視座の中の日本	同左
第 11 回	国民国家の国際化	同左
第 12 回	比較の中の日本政治	同左
第 13 回	多様なデモクラシー	同左
第 14 回	日本政治の理論的解明	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に適宜指示。

【参考書】
①白鳥浩『都市対地方の日本政治』芦書房、2009 年

【成績評価の方法と基準】
試験、レポートと講義への積極性による総合評価（100 %）。（講義への貢献度 50 %、期末 50 %を目安とする）。

【学生の意見等からの気づき】
学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年

Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to attain student's understanding of modern politics. In order to reach that goal, it is needed to study modern politics in a systematic way. It starts out from clarification of the definitions of important notions which appears on literatures of political science.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and decision-making process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

POL500P1 － 008

公共政策とジャーナリズム

白鳥　浩、読売新聞社講師

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における政策とジャーナリズムの総合的理解。

【到達目標】
本講座の目的は、「新聞が行っている報道、論説、提言などの実際を現役記者等が紹介し、新聞メディアの機能、影響力、課題について解説・分析することで、大学院生の視野を広げ、新聞など活字文化への関心を高める」こととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義は読売新聞特別講座である。第一線のジャーナリストをお招きし、新聞社の調査、分析と報道の実際と、論説提言のあり方を学ぶ。講義は、毎回異なるジャーナリストのオムニバス講義によって行う。以下は予想される講義のトピックであるが、変更もありうる。また講義計画は対面を中心とするが、講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
(1)	新聞とジャーナリズム	同左
(2)	政治とジャーナリズム	同左
(3)	安全保障政策とジャーナリズム	同左
(4)	外交政策とジャーナリズム	同左
(5)	社会保障政策とジャーナリズム	同左
(6)	医療政策とジャーナリズム	同左
(7)	経済政策とジャーナリズム	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義当日の読売新聞朝刊を必ず持参して、講義に臨む事。

【参考書】
講義時に適時指示。

【成績評価の方法と基準】
出席、毎回の講義で課される課題への取り組み、毎回の感想文、さらにレポートなどを総合的に考慮して評価（100 %）。(講義への貢献度 50 %、期末 50 % を目安)。

【学生の意見等からの気づき】
学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course offers advanced understanding of the public policy on each policy fields, international politics, domestic politics, public administration, local government, international economy and so on. Lecturers are all distinguished journalists from the Yomiuri Shinbun, Yomiuri News Paper Company.
The goals of this course are to realize relationship between journalism and policy process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

SOC500P1 － 009

公共政策の社会理論

池田　寛二

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、公共政策を研究するための基礎となる社会理論に対する学生の理解を深めることを目的とする。この授業によって習得された社会理論に関する理解は、個々の学生が学位論文を執筆するのための研究に役立てられることが期待される。

【到達目標】
公共政策の理論を受講生が各自の研究テーマに活用できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
主に社会学の視点から公共政策の実態と問題点を経験科学的に解明するとともに、それを政策的に解決するための理論的な視座について講義する。少人数の場合は、討論も取り入れる。各回の講義後にリアクションペーパーを書かせ、次回の冒頭で口頭でフィードバックする。原則として、授業は対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：公共政策の理論的課題	経験科学と規範理論
第 2 回	社会理論と公共政策の関係	「中範囲の理論」（マートン）の重要性を中心に検討する。
第 3 回	格差と資本主義（1）	社会学における資本主義と格差の理論を検討する。
第 4 回	格差と資本主義（2）	資本主義と公共政策の関係を理論的に考察する。
第 5 回	格差と資本主義（3）	『大転換』（ポランニー）と『21 世紀の資本』（ピケティ）の間の社会変動を考察する。
第 6 回	持続可能な社会の公共政策（1）	リスク社会論（ベック）からの考察。
第 7 回	持続可能な社会の公共政策（2）	エコロジー的近代化論からの考察。
第 8 回	持続可能な社会の公共政策（3）	自然資本論と社会関係資本論の統合可能性をめぐる考察。
第 9 回	市場経済社会と公共政策（1）	経済社会学の理論的視座の検討。
第 10 回	市場経済社会と公共政策（2）	グローバル化とローカルな社会の持続可能性をめぐる理論的検討。
第 11 回	市場経済社会と公共政策（3）	サブシディアリティの原理と「ポリアーキー」（ダール）の理論的意義の考察。
第 12 回	政策事例分析への社会理論の応用可能性（1）	気候変動政策とエネルギー政策（再エネ、原発…）を事例とする考察。
第 13 回	政策事例分析への社会理論の応用可能性（2）	地域再生政策（都市政策、農村政策、農林漁業政策…）を事例とする考察。
第 14 回	総括	中心的論点の整理と補足。公共政策研究への社会理論の活用法の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンナ・アーレント,2015『活動的生』（みすず書房）、ウルリヒ・ベック，1998『危険社会ー新しい近代への道』（法政大学出版局）、カール・ポランニー，2009『大転換ー市場社会の形成と崩壊』（東洋経済新報社）、トマ・ピケティ，2014『21 世紀の資本』（みすず書房）、ロバート・ダール，2014『ポリアーキー』（岩波文庫）、『ハーバート・スペンサー　コレクション』所収の「政府の適正領域」（2017、ちくま学芸文庫）など

【参考書】
池田寛二，2013「3.11 以後の気候変動政策と原発政策のゆくえ」『公共政策志林』第 1 号、
池田寛二,2021「変容する「豊かさ」と現代社会の持続可能性―グラノヴェターの経済社会学理論を視座として―」『経済社会学会年報 Vol.43
など逐次指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価基準は、中間レポート (20%)、期末レポート (70%)、授業への貢献度（10 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
この講義は、受講生各自の研究テーマに応用可能な社会理論の理解を目指している。したがって、受講生各自の問題関心に引き寄せて講義内容を受けとめ、積極的に質問して欲しい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、社会学理論、東南アジア地域研究
＜研究テーマ＞環境・エネルギー政策、地域政策
＜主要研究業績＞池田ほか編著，2012『環境をめぐる公共圏のダイナミズム』（法政大学出版局）等。

【Outline (in English)】
This class aims to deepen students understanding of social theories for studying public policy. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from texts directed by the teacher. Final grade will be calculated according to the following process : Mid-term report (20%), term-end report (70%), and in-class contribution(10%).

ECN500P1 － 010

財政学基礎

其田　茂樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、財政学全般の概要と日本の財政制度の理解に重点を置く。政策の遂行や評価において密接に関係する財政であるため、これらの理解は研究の進展に資するものと思われる。

【到達目標】
受講者自身の研究に対して財政の理論や制度を位置づけながら研究の進捗を図ること、日本の財政制度のもつ課題を認識し、自らの見解を形成・確立することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として対面授業で行う予定である。
受講者数にもよるが、授業計画に従い財政学の基本的な素養を確認しつつ、受講者各自の問題意識と財政との関連等について授業内で報告を求める予定である。受講者の疑問点などは授業内で質疑の時間を設けるとともに、その場での回答が難しい場合は、後日対応する。なお、受講者の要望を反映して授業計画等は柔軟に見直す予定である。可能な限り初回の授業への参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスの内容について共有し、授業の進め方や授業計画に関する意見交換を行う。
第 2 回	財政と財政学	各自の研究テーマや問題関心を確認しつつ財政との関係を意識してみる。
第 3 回	市場の失敗と政府の失敗	財政運営を行う政府の必要性について経済学的に考察する。
第 4 回	予算と予算原則	予算に関する理論と日本の制度を理解する。
第 5 回	経費論	経費に関する理論と日本における運用の特質を理解する。
第 6 回	租税論	租税理論や租税原則を学ぶ。
第 7 回	日本の主な税目	所得税、法人税、消費税について理解を深める。
第 8 回	公債論	公債に関する理論、制度を学ぶ。
第 9 回	財政投融資	財政投融資制度の概要を理解する。
第 10 回	国と地方の財政関係	税収や歳出における国と地方の関係を理解する。
第 11 回	国庫支出金	国から地方への財源移転のうち、原則として使途が特定された国庫支出金を理解する。
第 12 回	地方交付税	一般補助金としての性格をもつ地方交付税の重要性を理解する。
第 13 回	口頭報告	各自の問題意識と財政の関係等をまとめてみる。
第 14 回	まとめ	報告に対する受講者相互の質疑等をおこないつつ授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
学術書・専門書による学習もさることながら、財政や地域経済にまつわる報道等についても各授業計画に掲げた項目に応じて目を通してほしい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
1．佐藤進・関口浩『新版財政学入門』同文舘出版、2019 年
2．佐々木伯朗編『財政学制度と組織を学ぶ』有斐閣、2019 年
3．高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020 年
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
口頭報告の内容（70 %）、平常点（30 %）による。
平常点の内訳は、授業内でのコメント（15 %）、相互討論への参画（15 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
対面授業による受講者相互のコミュニケーションへの期待が大きいと考えていたが、意外に、ハイフレックスの授業を求める声も多かった。
第 1 回の授業において意見交換しつつ柔軟に対応する必要性を感じた。

【学生が準備すべき機器他】
特にないが、都合によりオンライン参加等になる場合には必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】
受講者の研究内容や関心に応じて授業の進め方や授業計画は柔軟に対応する予定である。すなわち、授業計画における授業形態は対面としてあるが、受講者が参加しやすい形態を柔軟に検討する。そのため、第 1 回・第 2 回の授業には特に積極的にご参加いただきたい。
一方で、担当者の都合でオンラインに変更されることがある旨、ご留意いただきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、地方財政論、経済政策論
＜研究テーマ＞
国と地方の財政関係、地方税における法定外税と超過課税、公共交通政策と財政
＜主要研究業績＞
『自治から考える自治体 DX』（編者）公人の友社、2021 年
『国税森林環境税』（共著）公人の友社、2021 年
『生活を支える社会のしくみを考える』（共著）日本経済評論社、2019 年
『地方自治論（第 2 版）』2018 年、弘文堂　など

【Outline (in English)】
This course focuses on an overview of Public Finance and fiscal system in
Japan.
In addition to reference books, you need to be interested in the websites and press of ministries and agencies to understand the administrative and financial system of Japan.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Research presentation:70%,Partipation&Contribution:30%.

ECN500P1 － 011

経済学基礎

芦谷　典子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ミクロ・マクロの分野をまたぐ経済学の基礎を学びます。経済学の原理と方法から入り、ミクロ経済学基礎、マクロ経済学の基礎の順に、必須のトピックを網羅していきます。加えて、学んだ基礎理論をどのように応用し、論文執筆に繋げるかを念頭に置いた形でのディスカッションを取り入れていく予定です。講義の進行は、受講者主体のアクティブ・ラーニングを基本とします。

【到達目標】
①入門的教科書を選び、クラスで１冊読み終えることを通じて、論文執筆に必要となる経済学の基礎知識を網羅的に身につけます。
②受講生が各々の関心領域をプレゼンし、経済学の知識を使って議論することを通じて、教科書に記される知識を実際面に適用/応用する力を身につけます。
③クラスにおける議論の結果を記録し、内容をレポートにまとめることを通じて、論文執筆のための基礎力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
アクティブ・ラーニング方式。シラバス記載の教科書を受講者間で分担し、1時間目は毎回担当者がプレゼンします。２時間目は担当者の関心領域のプレゼンを含めたディスカッションを経済学の考え方を使いながら行います。予習復習には e-ラーニングを活用し、進捗状況を確認しながら、次章に進むことになります。ディスカッションの内容は、記録と共に、論文執筆の土台になりうる形にまとめることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方/自己紹介/研究テーマ・関心領域の紹介
第 2 回	経済学への誘い	経済学の原理と実践；経済学の方法と問い；最適化：最善をつくす；需要、供給と均衡
第 3 回	ミクロ経済学１	消費者とインセンティブ
第 4 回	ミクロ経済学２	生産者とインセンティブ
第 5 回	ミクロ経済学３	完全競争と見えざる手
第 6 回	ミクロ経済学４	貿易
第 7 回	マクロ経済学１	国の富：マクロ経済全体を定義して測定する
第 8 回	マクロ経済学２	経済成長
第 9 回	マクロ経済学３	雇用と失業
第 10 回	マクロ経済学４	クレジット市場
第 11 回	マクロ経済学５	金融システム
第 12 回	マクロ経済学６	景気変動
第 13 回	経済理論の研究テーマへの応用①	受講生の研究テーマ関わるディスカッション
第 14 回	経済理論の研究テーマへの応用②	受講生の研究テーマ関わるディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習： e-ラーニングを活用（時間は各 2 時間を標準とします）
プレゼン担当回の準備：教科書の担当章について要点をまとめ、関連する関心領域について資料を作成（時間は、4 時間を標準とします）

【テキスト（教科書）】
『アセモグル/レイブソン/リスト 入門経済学』 東洋経済新報社、2020 年
※購入が必要です。教科書と共に、予習復習用としてｅラーニングを活用します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
到達目標①について： 20%・・教科書の予習復習、ｅラーニング
到達目標②について： 50%・・プレゼンテーション
到達目標③について： 30%・・議論の記録、レポートの作成

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多くが経済学の初学者であり、また社会人であることを考慮のうえ、教科書を選定しました。効率的な予習復習の実行と知識の定着を目指すため、ｅラーニングを取り入れます。教科書を１冊読みこなすことは決して容易なことではありませんが、これまでの受講生の意見や活動状況からみて、より高い達成感および満足感につながるものと確信しています。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業形態について：非対面時は zoom を活用、初回は対面実施の予定です。シラバス公開時点では概ね未定としていますが、受講生の間の意見交換、ディスカッションには対面の機会が有効になると考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経済理論および経済統計
＜研究テーマ＞不動産と国際経済（金融、貿易、開発、環境、補償）
＜主要研究業績＞"The Modified Phillips Curve as a Possible Answer to Japanese Deflation," Advances in Economics and Business, 5 (10), 2017; "Determinants of Potential Seller/Lessee Benefits in Sale-Leaseback Transactions," International Real Estate Review, 18 (1), 2015; "'Perfect' Real Estate Liquidity and Adjustment Paths to Long-run Equilibrium," Journal of International Economic Studies, 27 (5), 2013; "The Robustness of Cartels Facilitated by Anti-dumping Regulations," Australian Economic Papers, 43 (3), 2004 ほか。

【Outline (in English)】
Economics can be divided into “micro” and “macro”. The “micro” part views individual actors of the economy, such as consumers, households and firms and the market economics of larger scale producers. We examine demand and supply and other market mechanisms. The “macro” part takes an overall look at the economy starting with measuring economic performance, followed by learning the model of circular flow. This makes it possible to grasp how households, firms and governments interact with each other, and also understand the role of the financial sector in countries as well as in the world economy. Some topics might include rather unfamiliar notion, but all will enrich your ability to think as an economist and to analyze those decision-making processes of all individuals, consumers, firms, and governments.

PHL500P1 － 013

環境哲学・倫理学

吉永　明弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講者は環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握する。あわせて発表を行い、自身の問題意識を他者に伝えることができる。

【到達目標】
受講者は、環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの考えを文章で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面で行う。環境哲学・倫理学の文献の解説と、参加者による発表を中心に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
第 2 回	現代倫理学の射程	現代倫理学の基本文献を紹介する
第 3 回	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理の基本文献を紹介する
第 4 回	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理に関する文献を紹介する
第 5 回	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理に関する文献を紹介する
第 6 回	科学技術の倫理	科学技術の倫理を論じた文献を紹介する
第 7 回	公害と環境正義	公害と環境正義に関する文献を紹介する
第 8 回	自然保護から生物多様性保全へ	自然保護・生物多様性保全に関する文献を紹介する
第 9 回	意見交換会（1）	授業内容に関する意見交換を行う
第 10 回	環境問題と社会科学	社会科学の視点から環境問題を論じた文献を紹介する
第 11 回	地域環境保全と市民の力	地域環境や市民運動に関する文献を紹介する
第 12 回	場所論と風土論	場所論と風土論の基本文献を紹介する
第 13 回	景観保全と都市環境	景観保全と都市環境に関する文献を紹介する
第 14 回	意見交換会（2）	授業内容に関する意見交換を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘『ブックガイド　環境倫理』勁草書房、2017 年

【参考書】
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年

【成績評価の方法と基準】
授業内の意見交換での発言（20 %）と期末の書評レポート（80 %）。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間を増やすことにしました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境倫理学
＜研究テーマ＞都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理
＜主要研究業績＞
『都市の環境倫理』
『ブックガイド　環境倫理』
『未来の環境倫理学』
いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire environmental reading and presentation. At the end of the course, students are expected to writing a book review. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

book review : 80%,in class contribution: 20%.

LAW500P1 － 014

環境法基礎

永野　秀雄、横内　恵、立松　美也子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生の皆さんは、本授業で、環境問題に関する民事法、行政法、国際法について、その基礎を学ぶことができます。授業は、皆さんが、法律の素人であることを前提にして授業を行います。

【到達目標】
環境法の知識のない学生が、その全体像を把握することが、到達目標である。環境分野で仕事をする上で不可欠な知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
まず、環境法がどのような法律分野から構成されており、環境問題に対して、どのような機能を果たしているのかについて概観する。また、基本的な文献リサーチ方法についても説明する。次に、環境私法について、私人間の環境紛争で、民法に規定された不法行為という考え方がどのように機能するのかを学ぶ。そして、最後に、実際に起こった公害事案をもとにしながら、判例法の妥当性を検証する。
次に、環境行政法について、日本における環境行政法の展開を学んだ後、個別規制法と環境アセスメント、自然保護法及び環境行政訴訟を概観する。
最後に、国際的な環境問題を検討するにあたり必要となる国際法の基本理論を学ぶ。国際社会の基本単位である国家の役割、国際法の特質を概観した後、受講者の関心がある国際環境問題を取り上げながら、国際社会における紛争解決の仕組み、国家責任等について適宜判例を紹介しつつ検討し、国際環境問題への国際法からのアプローチの仕方を習得する。
また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	環境法の概観（1）（永野秀雄）	環境問題と環境法
2	環境法の概観（2）（永野秀雄）	①環境法とは何か、②環境法の構成
3	環境私法（1）（永野秀雄）	①環境私法とは何か、②不法行為の基礎理論
4	環境私法（2）（永野秀雄）	損害賠償請求と差止請求
5	環境私法（3）（永野秀雄）	①環境訴訟における因果関係の立証、②複合汚染と共同不法行為
6	環境私法（4）（永野秀雄）	公害事案に基づく議論
7	環境行政法（1）（横内恵）	日本における環境行政法の展開
8	環境行政法（2）（横内恵）	個別規制法と環境アセスメント
9	環境行政法（3）（横内恵）	自然保護法
10	環境行政法（4）（横内恵）	環境行政訴訟
11	国際環境法（1）（立松美也子）	国際法の基本原則と国際環境問題
12	国際環境法（2）（立松美也子）	国際環境問題における国家責任法とその限界
13	国際環境法（3）（立松美也子）	持続可能な開発と国際環境法の発展
14	国際環境法（4）（立松美也子）	判例研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。プリントを適宜配布する。

【参考書】
北村喜宣『環境法（第５版）』（有斐閣ストゥディア、2020 年）。
黒川哲志・奥田進一編『環境法へのフロンティア』（成文堂、2015 年）。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦他編著『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020 年）。

【成績評価の方法と基準】
配分：授業内での発表、議論への参加・貢献度 30 %、期末レポート 70 %。
評価基準： 3 人の講師が、授業中に、それぞれ 2 つのテーマを提示する。この合計 6 つのテーマの中からレポートを 1 つ作成し、担当講師に提出する。選択したテーマにつき、判例や法律論文等を最低 5 つ以上参照して、レポートを書くこと。論点、構成、内容の理解度から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン。

【担当教員の専門分野等】
永野　秀雄
＜専門領域＞日米比較法 (特に、環境法、労働法、先端技術法)
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞ (環境関連のもの)
①単著『電磁波訴訟の判例と理論―米国の現状と日本の展望』(三和 書籍、2008 年)。
②「気候変動と企業統治」鈴木幸毅・所伸之編著『環境経営学の扉 ―社会科学からのアプローチ』(文眞堂、2008 年) 171-184 頁。
③「米国における高レベル放射性廃棄物の処分と問題点」人間環境 論集 6 巻 2 号 (2006 年)1-21 頁。
横内　恵
＜専門領域＞環境法、公法（憲法・行政法）
＜研究テーマ＞環境リスクの法的制御、廃棄物処理法制
＜主要研究業績＞
①「順応型リスク制御と比例性：ドイツ遺伝子技術法の閉鎖系規律手続を題材として」大塚直編『環境法研究』7 号（信山社、2017 年）13-45 頁。
②「廃棄物処理法に基づく生活環境影響調査の対象地域に関する一考察 ― 高城町事件と東海村事件を事例として」大阪経大論集 67 巻 3 号（2016 年）113-134 頁。
③「科学的不確実性を伴う環境リスクに対する法的制御の可能性と限界」OUFC ブックレット 8 号「中国の食・健康・環境の現状から導く東アジアの未来」（2016 年）62-74 頁。
立松美也子
〈専門領域〉国際法 (国際人権法、条約法、国際環境法)
〈研究テーマ〉　国際法の履行確保、国内実施、難民、出入国管理
〈主要研究業績〉
(共著)　Chapter8 人権を国際的に保護する、Chapter10 国境を越えるモノ、サービス、資本、Chapter11　地球規模の環境問題に取り組む 加藤信行、植木俊哉、森川幸一、真山全、酒井啓亘、立松美也子編『ビジュアルテキスト国際法第 2 版』（有斐閣、　2020 年）。
単著
「難民をめぐる国際制度： UNHCR と難民条約」国際法外交雑誌 117 巻 3 号 (2018 年)。
「環境問題と少数者を文化を享受する権利－ポマ対ペルー事件 (自由権規約委員会 2009 年 3 月 27 日見解)」国際人権 21 号 122 － 124 頁、(2010 年)。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
Students will learn the basics of civil, administrative, and international law on environmental issues in this class. The class will be taught on the assumption that you are a layman in the law.
< Learning Objectives >
The goal of this course is for students who have no knowledge of environmental law to grasp the whole picture. Students are expected to acquire essential knowledge for working in the environmental field.
< Learning Activities outside of Classroom >
Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, three instructors will each present two themes during these classes. You can take one of the themes, referring to five or more legal cases or papers, write a report on the theme, and submit it to the instructor in charge. Your report will be evaluated based on issues, structure, and understanding of the content.

SES500P1 － 015

地球環境学基礎

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせない。本講義では気候変動を中心にしつつ、オゾン層保護、酸性雨など環境問題や、エネルギーや淡水などの資源問題について、発生メカニズムと対処に関する科学の基礎を修得し、地球規模や国境を超える環境問題に対処する基礎力を養うことを目指す。

【到達目標】
以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。
人口増加と減少パターンの発生理由。
オゾンホールが南極上空にできる理由。
温室効果のメカニズムと気候変動の科学の不確実性。
日本では酸性雨の生態影響が顕在化していない理由。
生物多様性を保全しなければならない理由。
資源のもつ意味。
淡水、土壌、金属などの資源のもつ役割。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントは Hoppii にアップする。なお講義の順番は状況によって変更になることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	地球環境問題をとりまく諸状況
第 2 回	人口	人口が増加する要因、都市の人口問題
第 3 回	オゾン層	オゾン層が破壊されるメカニズム、オゾン層破壊物質、ウイーン条約、モントリオール議定書、国内対策
第 4 回	気候変動①	地球温暖化のメカニズム、将来予測
第 5 回	気候変動②	ＩＰＣＣ、国際社会、国際交渉、パリ協定
第 6 回	気候変動③	緩和策と適応策
第 7 回	越境する大気汚染	酸性雨、光化学オキシダント、PM2.5
第 8 回	生物多様性	生物多様性保全の意義、生態系サービス、遺伝資源
第 9 回	資源とは何か	「資源」の持つ意味、「資源の呪い」、資源に関する楽観論と悲観論
第 10 回	水資源	世界の水資源、国際流域の課題
第 11 回	土壌資源、窒素とリン	土壌の成り立ち、機能、窒素とリンの循環、リン資源
第 12 回	エネルギー資源①	化石燃料
第 13 回	エネルギー資源②	原子力、新エネルギー
第 14 回	金属資源	ベースメタル、レアメタル、リサイクル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文科系のための環境科学入門』　有斐閣

【参考書】
講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
最終回に行う試験 (100%) またはレポート（100 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

【学生が準備すべき機器他】
とくにない。

【担当教員の専門分野等】
環境システム科学、国際環境協力

【担当教員が関連した書籍】
1. Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford
2. Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London
3. Ryo Fujikura (Guest Editor) (2011) Environmental Policy in Japan: From Pollution Control to Sustainable Environmental Management, Special Issue, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5
4. Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development – Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

【Outline (in English)】
Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource problems such as energy and freshwater. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be based on the final exam (100%) or report (100%).

POL500P1 － 016

国際政治学基礎

湯澤　武

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、国際政治学に関する基礎知識を修得するとともに、専門知識を体系的に学習するための準備を行うことにある。

複雑さを増してやまない国際社会の諸問題を、広い視野から理解したり説明したりするのに必要な国際政治学や国際関係論と呼ばれる学問分野の基本概念や理解・認識の枠組み（パラダイムないしリサーチ・プログラム）を解説する。現在進行中の国際政治経済、国際安全保障の話題を随時取り上げる。

【到達目標】

次の三つの到達目標を目指して、＜国際政治学ないし国際関係論の主要パラダイム＞について学ぶ。

第一に、国際政治学における基本的な用語・概念や主要なテーマについての知識を身につける。

第二に、国際政治学ないし国際関係論を捉えるための分析枠組みにまつわる諸々のポイントを正確に理解する。

第三に、現実の国際社会の諸事象を、基本的な概念や分析枠組みを使って理解し、諸資料を活用しながら実証的に説明できる初歩的な能力を修得する。

また、2 年次以降に、国際政治の専門的なテーマに関する理論を扱う学術論文を正確に理解するための基礎理解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業計画や授業形態を変更する場合には、学習支援システムでその都度告知する。学習支援システムからの授業に関する通知メールを確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：国際政治理論とは	本講義の目的と概要の説明。理論とは何か。国際政治を理解するうえで、なぜ理論を学ぶ必要があるのか。
2	国際政治学の分析枠組み	分析レベルの枠組みと分析のアプローチについて
3	国際政治理論:リアリズム I	主に古典的リアリズムを考察する。
4	国際政治理論：リアリズム II + 事例研究	主に構造的リアリズム（防御的・攻撃的リアリズム）を考察する。事例研究として、リアリズムを用いて国際政治上の事象を分析する。
5	国際政治理論：リベラリズム I	古典的リベラリズム（理想主義、社会的リベラリズム）を考察する。
6	国際政治理論 ：リベラリズム II + 事例研究	相互依存論、ネオリベラル制度論、民主平和論を考察する。事例研究として、リアリズムを用いて国際政治上の事象を分析する。
7	国際政治理論 コンストラクティビズム + 事例研究	アイデンティティ、信念、規範などの観念的要素が国際政治に及ぼす影響を考察する。事例研究として、コンストラクティビズムを用いて国際政治上の事象を分析する。
8	中間レビュー	前半の諸理論のポイントを振り返る。
9	国際政治理論を使った国際政治の分析手法：応用編	国際政治を分析するうえで、異なる理論をどのように応用すべきなのか、その分析方法を理解する。
10	国際政治経済 (IPE) の理論 I	経済的国家主義（重商主義）と経済的自由主義を考察する。
11	国際政治経済 (IPE) の理論 II	ネオ・マルクス主義（従属論）、世界システム論を考察する。
12	国際政治経済 (IPE) の事例研究 I	事例研究として、発展途上国における開発問題を取り上げる。
13	国際政治経済 (IPE) の事例研究 II	事例研究として、経済的グローバリゼーションを取り上げる。
14	総括	学期中の主要課題に関する解説・講評を行う。学期末レポート課題の説明など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は 2 時間程度を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。学習支援システムで講義用資料を配信する。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。以下を購入する義務はないが、適宜参照されたい。

吉川直人、野口和彦 (編)『国際関係理論』第 2 版、勁草書房、2015 年

ジョセフ・ナイ・ジュニア 『国際紛争：理論と歴史』 原書第 10 版、有斐閣、2017 年

村田晃嗣、君塚直隆, 石川卓、栗栖 薫子、秋山信将（編）『国際政治学をつかむ』新版、2015 年

野林健、 大芝亮、 納家政嗣、 山田敦、 長尾悟『国際政治経済学・入門 』第 3 版、有斐閣、2007 年

田中明彦、中西寛　(編) 『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2006 年

【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート課題により評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】

・毎回、授業の冒頭で、前回後半の講義内容を振り返って、記憶を喚起する。

・複雑な概念を扱う際には、二回の講義を利用して説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用するパワーポイント資料を授業支援システムにアップロードする。履修者は各自でそれをダウンロードして、授業に持参するとよい。資料は講義の重要ポイントを空白にするなど、あえて不完全な状態でアップロードする。講義に出席して、自ら空白欄を埋めるなどの努力をしてほしい。

【Outline (in English)】

This is an introductory course on international politics. The objective of this course is to gain knowledge of basic concepts of international relations in order to lay the foundation for systematically learning advanced theories of international relations. Students would be exposed to the main paradigms or research programs relating to international politics.

ARSl500P1 － 017

国際協力論

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】
一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1) 現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2) 国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3) 誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻「国際協力論」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。
　報告対象とする文献については、2022 年度秋学期開始前に学習支援システム（Hoppii）を通じて通知／配布予定。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景ー途上国の貧困と先進国との格差ーについて概観する。
第 2 回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後 1970 年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第 3 回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980 年代、90 年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第 4 回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000 年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第 5 回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第 6 回	「開発」とは何か:開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第 7 回	アフリカ	国際協力における近年の「大きな課題（問題）」であるアフリカについて、何が「問題」となっているのか、その由来や対応を含めて概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
斎藤文彦『国際開発論』（日本評論社）、下村恭民他『国際協力』（有斐閣）、外務省『日本の経済協力』（ODA 白書）を基本書とします。
他は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末レポート (50%)、各回の担当報告の内容 (30%)、授業やディスカッションへの貢献 (20%) を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】
過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】
担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.
[Learning Objectives]
Completing the course, students are expected;
1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.
{Learning Activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

SES500P1 － 018

サステイナビリティ研究入門

宮川　路子、金藤　正直

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義はサステイナビリティと関連する問題を研究するための学際的なアプローチを学ぶための入門コースである。
学習目標
学生は、今後のサステイナビリティ学研究の出発点として、サステイナビリティ学専攻を構成する様々な研究分野の基本概念と方法論の概要を理解する。また、これらの分野において、サステイナビリティという概念がどのように扱われているかを理解することを目的としている。

【到達目標】
学生はこれからサステイナビリティ学を研究していく上での出発点として、サステイナビリティ学専攻を構成するさまざまな研究領域において、その基礎概念や方法論について概観を得るとともに、それらの領域においてサステイナビリティ概念はどのように扱われているのかについて理解する。
講義は 7 名の教員がオムニバス方式で担当する。学生はこの講義を 2 年連続して受講することにより、本専攻に所属する専任教員全員の講義を受けることが可能となり、サスティナビリティ学における幅広い基礎知識を身に着け、多角的な視野を持つことを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
サステイナビリティ学専攻の専任教員が各 1 回、合計 7 回を担当するオムニバス形式でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：サステイナビリティ研究の目指すもの。21 世紀を健康に生きていくために（宮川）	健康を守っていくことはまさにヒトがサステイナブルであることに他ならない。日本の長寿の背景に潜む様々な問題について考察する
第 2 回	気流から風力エネルギーへ（北川）	風力エネルギーの基礎について
第 3 回	地球システムと人間活動（渡邊）	エネルギーと物質の保存と拡散、物質循環とエントロピーについて（熱力学から考えるサステイナビリティ）
第 4 回	環境リスクと安心・安全（横内）	産業廃棄物処理施設設置に際する環境アセスメントと住民参加手続
第 5 回	サステイナブル経営の国際的潮流（長谷川）	COP21（気候変動枠組条約締約国会議）で合意されたパリ協定が提起した「脱炭素革命」と企業経営のこれからを考える
第 6 回	環境法とサステイナビリティ（永野）	環境法は、サステイナビリティを維持するための執行力をもった規範
第 7 回	環境・サステナビリティ経営論（企業編・地域編）/総括（金藤）	日本企業で現在実践されている環境経営やサステイナビリティ経営の基礎構造（戦略、組織、管理の流れ）を、実践例を利用しながら習得することを目的とする。 授業内容についてのディスカッション、レポート課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。

【参考書】
その都度教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業最終回に提示するテーマからひとつを選択し、それにもとづくレポートを作成する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
"Introduction to Sustainability Studies " is an introductory course to learn interdisciplinary approaches to study sustainability and related issues.
Learning Objective
As a starting point for future research in sustainability studies, students will gain an overview of the basic concepts and methodologies of the various research areas that make up the Department of Sustainability Studies. In addition, students will gain an understanding of how the concept of sustainability is treated in these fields.
Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Policy
Choose one of the themes presented in the last class and write a report based on it (100%).

SES500P1 ― 020

SDGs への招待

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2030 年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」（以下 SDGs）について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGs についての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。SDGs Plus 履修証明プログラムの入り口として設置されているものである。

【到達目標】
グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだ SDGs については、主に国際機関、政府や NGO ／ NPO が主体的に活動するものと思われがちである。しかし SDGs では、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ受講生として、① SDGs に関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、② SDGs にあげられた各種課題を「自分ごと」として捉えることができる当事者としての意識を涵養すること、が本講義の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本セミナーでは、SDGs に関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者の SDGs や現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。
受講者は各回にコメントペーパー（講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの）の記入と提出が求められる。
同時に可能な範囲で参加者によるアクティブラーニングの要素を取り入れ、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。
最終回には各受講者にショートプレゼンテーションを実施してもらう予定である。
なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の目的、進め方等の説明。講義の全体像の解説。
第 2 回	セミナー	外部講師による講義
第 3 回	セミナー	外部講師による講義
第 4 回	セミナー	外部講師による講義
第 5 回	セミナー	外部講師による講義
第 6 回	セミナー	外部講師による講義
第 7 回	プレゼンテーションと総括	受講者によるショートプレゼンテーションと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント（資料）が配布される。

【参考書】
外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）40 %、
プレゼンテーション 30%、期末レポート 30 %の総合評価による。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン実施の経験も踏まえ、参加者のコミュニケーションのバリエーションや方法の工夫に努める。

【その他の重要事項】
講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。
本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および研究科ウェブサイトで発表する。

【実務経験のある教員による授業】
担当者（コーディネーター）は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている部分がある。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course is to introduce and give basic understandings of the Sustainable Development Goals, which is internationally agreed goals and strategies toward sustainable societies. Each class will consist of lecture, discussion among participants and guest speaker's lectures.
[Learning Objectives]
The SDGs, which have a global scope and include a variety of goals, some of which are expected to be difficult to achieve, are often thought of as being primarily the work of international organizations, governments, and NGOs/NPOs. However, the SDGs recognize the importance of the private sector and citizens as key players. As students learning about sustainable society, the goals of this lecture are (1) to have a basic knowledge of the SDGs and be able to explain them to others, and (2) to cultivate an awareness of being a party to the SDGs so that they can see the various issues listed in the SDGs as their own.
[Learning Activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a composite evaluation of 40% contribution points (attitude toward participation, content of comment papers, comments made in class, etc.), 30% presentation, and 30% final report.

LAW500P1 － 051

政策法務論

神﨑　一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
特に 2000 年の第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」ということが唱えられてきた。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者の間で「政策法務」という言葉は一般的ではない。この差に着目し、自治体政策法務について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。
【授業目的】
現在の自治体法務が直面している問題点を検討するとともに、条例論を学ぶ。

【到達目標】
・自治体政策法務のイメージをつかむ。
・条例案立案のポイントをつかむ。
・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
・本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
②授業は、講義を中心とするが、立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。
②本講義の最後の 2 回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1. はじめに～「政策法務」とは？ 2. 自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府と GHQ の攻防	1.GHQ 民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2. 日本側草案の起草～民政局案との対比 3. チャーター制定権の変貌
5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1. 基本法・基本条例の法規範的性格の稀薄性 2. 法体系上の位置づけ 3. 自治基本条例の意義 4. 民主的契機としての住民投票 5. 議会基本条例の意義
7-8	条例論	1. 条例の定義 2. 条例の類型 3. 法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1. 分権改革前の判例 2. 比例原則 3. 分権改革後の判例 4. 違憲審査基準論と合理性の基準 5. 合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
講義録を配付する予定である。

【参考書】
大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）
神崎一郎「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %・立法演習 40 %・報告 30 %。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい（パソコン・タブレットで対応可）。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞立法学
＜研究テーマ＞立法過程論・自治体政策法務論・条例論
＜主要研究業績＞
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline (in English)】
Course outline;
Since the first decentralisation reform in 2000, the term "policy legal affairs" has been advocated mainly by those in charge of legal affairs in local governments. However, this term is not commonly used among legal staff in the central government. We will focus on this difference, and examine the problems faced by municipal legal affairs, while clarifying the concept of policy legal affairs.
Learning Objectives;
To get an idea of "policy legal affiairs".
To understand the key points of drafting ordinances.
Granding Criteria/Policy;
The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.
Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.
From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

LAW500P1 － 052

立法学研究

神﨑　一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和 21 年に、既に末弘巌太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての優れた能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に見るにとどまるのではなく、法的視点（法学の基礎知識から立法における憲法・行政法上の比例原則まで）も含めて検討していきたい。
【授業目的】
我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をする。

【到達目標】
・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までの正確な知識を得る。
・上記のベースとなる法学についての基礎的知識を得る。
・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。
②授業は、講義を中心とするが、必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせて行う。
③本講義の最大の特徴は、最後の 2 回に行う立法演習である。講義において会得した発想方法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。
※本講義は、原則として対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1. 序論～立法学とは 2. 現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など
3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1. 内閣による法案提出プロセス 2. 政党内の意思決定システム 3. 議員立法のプロセスの特徴 4. 民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1. 国会審議過程の現状と課題 2. 内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3. ねじれ国会下における立法傾向 4. ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か	1.「法律」とは何か～歴史的経緯から憲法 41 条の解釈まで 2. 現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3.「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する（必要に応じて主要判例を検討する）。
13-14	立法演習	提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
講義録を配付する予定である。

【参考書】
大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方　第２版』有斐閣（2021 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %・立法演習 40 %・報告 30 %。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい（パソコン・タブレットでも対応可）。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞立法学
＜研究テーマ＞立法過程論・自治体政策法務論・条例論
＜主要研究業績＞
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline (in English)】
Course outline;
Japanese jurisprudence has been developed mainly on the interpretation of laws. Already in 1946, Dr.Suehiro pointed out that the work of drafting laws and regulations is done only by the professional skills of the bureaucrats concerned, and that there has been no scientific study. In this lecture, we will try to systematize "Legislation Studies" based on the results of these studies.
Learning Objectives;
To acquire an accurate knowledge of Japanese legislation, from the planning stage to the enactment and enforcement stage.
To gain knowledge of the structure of laws and regulations and the means of achieving policy objectives, and to be able to design simple systems and draft articles.
Granding Criteria/Policy;
The class will consist mainly of lectures, but will also include a combination of research, presentations and discussions by the participants as necessary.
The most important feature of this course is the legislative exercise held in the last two sessions. Students will design a legal system for a given issue, using the ideas and tools they have acquired in the lectures, and report on and discuss the legal system they have designed. Participation in the legislative exercise is mandatory for the evaluation of this lecture. From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures

POL500P1 － 053

政策評価論

南島　和久

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1990 年代後半には日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされてこなかった。本講義では、これら公的部門の評価のあり方について議論する。その際、歴史を踏まえつつ理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】
本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。
これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の３点である。
①政策評価の類型に関する理解
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
②政策評価の歴史に関する理解
PPBS、GAO のプログラム評価、GPRA/GPRAMA の史的展開
日本の政策評価の史的展開に関する理解
③政策評価の理論に関する理解
ロジックモデル、評価階層、アカウンタビリティの理解
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
オンラインにて行う予定である。授業は 1 回 2 時限続きで実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、あくまでも計画段階のものであり、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形での討論を交えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：行政学、政策学との関係について議論する。	この科目について、成績評価の方法についてなど
第 2 回	政策の概念：公共政策学と評価学の政策のイメージの違い、ロジックモデルについて概説する。	政策の合理性、体系性、循環性、ロジックモデル
第 3 回	評価の概念：政策分析、プログラム評価、業績測定の違いを概説する。	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第 4 回	政策分析：政策分析に関して、公共事業評価、規制影響分析について学ぶ。	費用便益分析、公共事業評価、規制評価
第 5 回	業績測定と自治体①：自治体評価がどのように取り組まれてきたのか。三重県の事例も含めて概説する。	事務事業評価、総合計画の評価
第 6 回	業績測定と自治体②：自治体評価において用いられる必要性、有効性、効率性の規準を議論する。また、政治と評価について議論する。	計画と評価、マニフェストと評価
第 7 回	業績測定と独立行政法人①：国の独立行政法人の評価とその課題について議論する。	NPM と評価、独法の歴史、３つの独法形態と評価
第 8 回	業績測定と独立行政法人②：地方独法の評価とその課題について議論する。	地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価
第 9 回	国の府省の評価①：政策評価制度の導入の経緯を詳細に議論する。政策評価法の構造にも触れる。	中央省庁等改革と評価、総務省の行政評価局調査、政策評価法
第 10 回	国の府省の評価②：国の府省の政策評価の実像に迫る。あわせて行政事業レビューの取組を紹介する。	府省の自己評価、３つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
第 11 回	アメリカの評価①：アメリカの政策評価の歴史を概観する。	PPBS、プログラム評価、PGRA
第 12 回	アメリカの評価②：アメリカの政策評価のうち GPRA の改革過程と論点を議論する。	GPRAMA、データドリブン、エビデンスベースド、APGs、CAPGs、評価の日米比較
第 13 回	評価理論①：評価類型を整理する。あわせて評価階層の理論について議論する。	評価の類型論、評価階層の理論（システマティックアプローチ）
第 14 回	評価理論②：評価に関する学説史について概要に触れる。	評価をめぐる学説、科学主義と実用主義の対立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』晃洋書房、2020 年。

【参考書】
今村都南雄・武藤博己・佐藤克廣・沼田良・南島和久『ホーンブック基礎行政学（第３版）』北樹出版、2015 年。
石橋・佐野・土山・南島『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018 年。
行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008 年。
佐藤竺監修、今川晃・馬場健編著『市民のための地方自治入門（新訂版）』実務教育出版、2009 年。
南島和久編『JAXA の研究開発と評価』晃洋書房、2020 年。
益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010 年。
松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018 年。
武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014 年。
広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013 年。
山谷清志『政策評価の理論とその展開』晃洋書房、1997 年。
山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006 年。
山谷清志編著『公共部門の評価と管理』晃洋書房、2010 年。
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012 年。
山谷清志監修、大島巌、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』晃洋書房、2020 年。
山谷清志編『政策と行政』晃洋書房、2021 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点及び報告（40 %）、期末レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、najima @ jura. niigata-u. ac. jp（「@」と「.」は全角となっています。）

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、公共政策学
＜研究テーマ＞政策評価の制度運用
＜主要研究業績＞『政策評価の行政学』（晃洋書房）、『「それでも大学が必要」と言われるために』（創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第３版）』（北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（法大出版）、『組織としての大学』（岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（晃洋書房）、『市民のための地方自治入門』（実務教育出版）など

【Outline (in English)】
Since 1990's, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.

SOC500P1 － 054

社会調査法 1

竹元　秀樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 社会調査の全体像、社会調査の歴史的経緯について概説する。
2. 社会調査の様々な手法について検討する。
3. 質的調査と量的調査双方の基本事項を理解する。
4. 調査倫理など調査に伴う問題を学ぶ。

【到達目標】
1. 社会調査の基本事項、歴史を簡潔に説明できる。
2. 量的調査と質的調査の相違を識別できる。
3. 社会調査のプロセスを具体的に述べることができ、実際に調査を始めることができる。
4. 倫理違反といった概念について具体的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
社会調査の基本事項を理解し、全体像を把握するために，次のように授業を進めていく。
1. 社会調査の歴史的経緯を学びつつ、様々な社会調査の手法を説明する。
2. 質・量双方の調査研究の特性について、調査の企画・実施、成果の発表に至るまでの流れを具体的に解説する。
3. 調査倫理の問題を踏まえつつ，社会調査の意義についての理解を促す。
授業は原則対面で実施する講義形式によって進められるが，必要に応じて，グループ討議などの形式をとることがある。授業への学生の積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。
授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	社会調査の基本的な考え方 1	・社会調査の諸定義と目的 ・社会調査の諸類型
第 2 回	社会調査の基本的な考え方 2	・量的調査と質的調査 ・成果の公表
第 3 回	社会調査の歴史 1	・社会調査の源流：人口調査，貧困調査 ・民族誌の系譜：文化人類学，シカゴ学派社会学
第 4 回	社会調査の歴史 2	・日本の社会調査：国勢調査，都市及び農村調査，SSM 調査等
第 5 回	社会調査の設計 1	・社会調査の全過程：着想から成果の公表まで ・問いと対象の設定
第 6 回	社会調査の設計 2	・調査・分析手法の選択 ・手法による手順の違い：研究における「仮説」の位置
第 7 回	量的調査の方法と実例 1	量的調査のステップ：仮説の操作化，調査票の作成，サンプリング，実施，データの入力と分析
第 8 回	量的調査の方法と実例 2	・実例に基づく量的調査実施過程の追体験
第 9 回	質的調査の方法と実例 1	・質的調査のステップ：関連資料の収集，参与観察，聞き取り調査の実施，データの整理と分析
第 10 回	質的調査の方法と実例 2	・実例に基づく質的調査実施過程の追体験
第 11 回	理論と調査との関係 1	・理論命題と理論枠組 ・先行理論の位置づけ
第 12 回	理論と調査との関係 2	・認識の深まりと問いの洗練
第 13 回	調査倫理	・調査者と被調査者との関係 ・学問としての倫理，調査における倫理
第 14 回	調査の社会的意義	・社会調査と価値判断の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。

【参考書】
都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 2～8」

【専門領域】
地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】
現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】
単著『祭りと地方都市―都市コミュニティ論の再興』2014 年，新曜社.
共著『よくわかる都市社会学』2013 年，ミネルヴァ書房.
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件―異質的なコミュニティ・ビロンギングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号，2021 年.

【Outline (in English)】
This course deal with basic matters of social research. It also enhances the development of students' skill in considering various methods of social research.
By the end of the course, students should be able to explain basic matters of social research, especially about the difference of quantitative and qualitative research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P1 － 055

社会調査法２

中筋　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学の社会調査法のうち、統計学の応用による、大人数の社会意識や集合行動の構造の解明を目的とするサーベイ型の調査法について概説する。まずこの調査法の成立の歴史的経緯と基本的な論点を踏まえた上で、調査計画から結果の統計解析までのプロセスを概観するとともに、その時々に生じる実践的課題について詳論する。さらに、社会意識調査を政策形成に活用する方途についても考察したい。

【到達目標】
サーベイ型の社会調査に関する基本的知識、特に調査の計画から報告書の作成までの一連の流れを理解し、知識として習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。実習的な作業をともなう、各回 2 時限の連続講義。課題やリポートについては事後に全員に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論 1	社会科学的認識と計量的社会調査の関係について
2	概論 2	近代日本における計量的社会調査の展開と課題
3	調査の設計 1	調査票調査の企画・設計（質問文案をリポートとして提出）
4	調査の設計 2	質問文と選択肢の構成（調査票作成作業を実習形式で行う）
5	サンプリング 1	サンプリングの統計学的基礎
6	サンプリング 2	サンプリングの種類と実施上の問題
7	調査の実際 1	計量的社会調査における調査者と被調査者の関係
8	調査の実際 2	調査票の配布・回収をめぐる諸問題
9	データの集計と整理 1	コーディングとデータクリーニングの方法
10	データの集計と整理 2	コーディングから度数分布表作成までの過程（仮想的な調査データを用いて実習形式で行う）
11	調査データの読み方	基本統計量とデータ分布の概説
12	展開的講義	政策形成と社会意識調査
13	まとめ 1	社会調査を政策形成に活用する方途について（講義）
14	まとめ 2	社会調査を政策形成に活用する方途について（討論）別途リポート提出および筆記試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示した課題を指示された期日までに自宅で用意し、提出すること。授業終了後参考書を入手・熟読して、重要箇所を復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
授業中に適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加 30 %、課題提出 15 % ×2 回、筆記試験 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
最近の現場での社会調査の応用についての批評的講義を増やす

【学生が準備すべき機器他】
各自自宅でパソコンを使用した作業が必要。学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『よくわかる都市社会学』(2013, ミネルヴァ書房)、『群衆の居場所』(2005, 新曜社)

【Outline (in English)】
(Course outline)This lecture aims to study basic methods of social research by statistical sampling and questionnaires.(Learning Objectives)The goals of this lecture are understanding the basics of social research by statistical sampling and questionnaires.(Learning activities outside of classroom)Writing reports and Reading directed books(Grading Criteria /Policy)Positivity to classwork:30%,Reports:15%*2,Final Exam:40%

SOC500P1 － 056

社会調査法３

見田　朱子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科学研究における統計データの利用法。
「統計データ」を読み、書（描）き、利用するための基本概念や方法を理解する。具体的には、統計資料の整理の仕方、基本的な統計量の読み方、図表の読み方、作成方法について。また、変数間の関係を記述する方法やその読み取り方についても解説するので身に着けてほしい。
さらに「非統計（質的）データ」を読むときの基本事項の学習を踏まえ、社会調査におけるデータ活用方法についての理解を促す。技術的には、Excel および無料の統計ソフト R 等を用いた実習を通じてデータ分析の実践的理解を深める。

【到達目標】
統計データの形式を整えたり、変数を操作化することができる。
統計データの情報を要約することができる。
統計ソフトを用いて変数間の相関や連関を調べることができる。
統計ソフトを用いて推定や仮説検定を行うことができる。
統計データをグラフや表によって可視化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC 操作の可能な学習室を利用予定。
「社会統計」と「社会調査」の仕組みを根本的に理解するための講義を行う。また Excel や統計ソフト R の技術的な習得が一つの重要な目標であるため、PC 操作の実習は必須である。発表や課題提出は社会調査の結果報告に欠かせないため、Word や PowerPoint 等の扱い方を含めた、基本的なレポート（論文）の書き方についても指導する。
クラスの親睦を深め、具体的なテーマに接するため、授業内発表の機会も設ける予定である。また、リアクションペーパーではなく、都度の質問や対話やメールでの補足を受け付ける予定。
成績は、受講人数にもよるが、授業内での小課題と発表、レポートによる予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	1 統計データの基本事項	・統計データの目的と種類
	2 統計データの基本概念	・社会（学）理論とデータとの関係
		・測定と変数の種類
		・記述統計と推測統計
		・データの解釈
第 2 回	3 統計資料の整理	・統計資料の整理
	4 度数分布	・データファイルの作成
		・2 次資料と公開データ・単純集計と度数分布表
		・図の種類
		・相対度数による表示の機能と問題
第 3 回	5 分布と統計量 1	・平均
	6 分布と統計量 2	・分散
		・標準偏差
		・中央値
		・分位数
		・標準化
		・（標準）正規分布
第 4 回	7 検定の基礎知識	・母集団と標本データ
	8 クロス表 1	・仮説
		・独立変数と従属変数
		・因果関係
		・クロス表の作成と読み取りの一般原則
		・DK と NA
		・情報の圧縮
第 5 回	9 クロス表 2	・関連性の読み取り：オッズ比とリスク比
	10 相関 1	・第 3 変数とエラボレーション
		・散布図
		・相関係数
第 6 回	11 相関 2	・相関関係と因果関係
	12 復習と補足	・擬似相関
		・結果の解釈と提示の方法
		・作図のオプション
第 7 回	13 非統計データについて	・「量的データ」への変換と利用の方法
	14　総括	・テキスト（化）データの扱い方
		・社会調査の基本事項に関するまとめと成績評価に関わる作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
杉野勇『入門・社会統計学: 2 ステップで基礎から [R で] 学ぶ』法律文化社, 2017 年.（データ資料を利用します。web 上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布する予定。初回授業では未購入で構いません。）

【参考書】
G.W. ボーンシュテット／ D. ノーキ著, 海野道郎・中村隆監訳, 1992,『社会統計学―社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社.
『入門・社会統計学』サポートウェブ（http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html）
R Tips (http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips/r.html)
他（授業中に適宜紹介）

【成績評価の方法と基準】
課題提出によって評価。
課題は、複数回ある小課題（合計 40%）、期末の発表（30 %）および期末レポート課題（30 %）を指す。
また、授業期間中の授業貢献度（クラス全体の理解を助ける質問や意欲的な取り組みなど）を 10-20 %程度取り入れる場合がある。
※出席が 2/3 に満たない場合は無条件に「不可」

【学生の意見等からの気づき】
学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。双方向性のある授業を心がけたい。
また授業時間外の学習に取り組みやすいよう、オンライン資料等の活用を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】
実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや授業システム等を利用予定。必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコン等の演算機器が必要になる。自宅に用意できない場合は登校して学習する必要が出てくる。

【その他の重要事項】
社会調査士資格認定のためのカリキュラム「C」科目に相当する。
オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。
その他の機会については初回授業でお知らせする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　社会意識、比較社会学
＜研究テーマ＞　「幸福」の社会学
＜主要研究業績＞
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series ― World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA － 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009 年.

【Outline (in English)】
Learning how to use statistical data in social science research: Beginner level.
Understand basic concepts and methods for reading, writing and drawing statistical data. Specifically, how to organize statistical data, how to read basic statistics, and how to understand and create tables and graphs. Then, also we learn how to know and describe (and read) relationships between variables. Furthermore, based on the learning about basic non-statistical (qualitative) data, encourage understanding of "data" analysis in social survey research.
Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.
Grading will be decided based on tasks: assignments 40%,presentation 30% and end-term report 30%. Maybe in-class contribution also will be considered (20% max.and in case, assignments 30% and presentation 20%).
*We use Windows PC; Excel and statistical package "R".

SOC500P1 － 057

社会調査法４

見田　朱子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既存の、あるいはオリジナルに収集されたデータセットについて、基礎的な統計処理を経てレポートを作成するまでのスキルを身につけることを目的とする。
主な内容は、既存の統計調査の検討、学術的調査と実務的調査の違い、統計の理論的背景、R の使用法などである。あわせて、数値データの解釈に必要となる現代社会の諸相についての知識も得る。

【到達目標】
本講義の到達目標は以下の４点である。
①定量的社会調査の基礎知識を得る
②定量的社会調査をともなう学術論文を理解できるようになる
③自身の論文作成において定量的社会調査を活用できるようになる
④行政、ビジネス等の実務において定量的社会調査を活用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC 操作の可能な学習室を利用予定。
2 コマ連続のクラスだが、1 コマずつ別の単元で区切る場合と、連続して 1 つの単元に取り組む場合、あるいは前半と後半を講義と実習に振り分けることなどがある。講義もだが、特に実習は遅刻や欠席によって進行についていけなくなるので留意されたい。
リアクションペーパーを兼ねた小課題、期末にはレポートと発表を兼ねた課題を出す予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	イントロダクション 社会調査と社会統計学の歴史
第 2 回	統計ソフト R の扱い方	Rの紹介と基本的な使い方 復習を兼ねて、基本統計量の算出などを確認。
第 3 回	確率論の基礎	確率分布の考え方 正規分布の意味と性質
第 4 回	R 実習 1	基本操作方法～確率と確率分布に関するコマンド
第 5 回	統計的（量的）分析の基本	データセットの取り扱いとデータクリーニングについて
第 6 回	R 実習 2	データ操作の基本・データ取得～データクリーニング
第 7 回	分布と確率	正規分布の意味と性質～二項分布
第 8 回	R実習３	表の作成と解読 正規分布曲線をはじめとしたグラフィックの基本（図の作成）
第 9 回	統計的検定の基礎	推測統計と、帰無仮説の考え方
第 10 回	検定の手順	検定の手順を確認しつつ、R を使って例題を解き、結果を解釈し文章化する。
第 11 回	各種の検定 独立性の検定 ２群間の差の検定	検定の種類外観 カイ二乗検定と t 検定
第 12 回	R 実習	カイ二乗検定と t 検定
第 13 回	回帰分析	回帰分析の考え方と手順
第 14 回	R 実習 まとめ	回帰分析の実習 成績評価にかかわるまとめ作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習は Windows パソコンで無料の統計ソフト R を使用して行う。このため、特別なスキルは必要ないが、エクセルやワードをごく一般的なレベルで使える程度のスキルが必要である。できれば R を予めダウンロードしておくこと。またパソコンスキルに自信のない受講者は事前に Windows パソコンに十分に慣れておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しないが、下記の書籍を適宜参照すると理解の助けとなる。この書籍の公開データなどを利用させてもらう予定である。
また、R の操作方法については Web 上に公開されている参考ページなどを交えて適宜紹介する。
杉野勇『入門・社会統計学: 2 ステップで基礎から [R で] 学ぶ』法律文化社, 2017 年.

【参考書】
石川淳志他編 1998,『見えないものを見る力――社会調査という認識』八千代出版
G.W. ボーンシュテット／ D. ノーキ著, 海野道郎・中村隆監訳, 1992,『社会統計学―社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社.

【成績評価の方法と基準】
実習的な小課題 30 %
授業中の理解・貢献状況 10 %
期末レポート・発表 60 %
で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・実習の進行について、パソコンに慣れていないと「早すぎる」と感じられるかもしれない。不安を感じる場合は、受講までにパソコンにできるだけ慣れておくことが望ましい。エクセルが一応使えるというレベルを念頭においている。
・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては初回授業で相談のうえクラス運営をする予定である。
・社会調査法１～３（特に３）は、必須ではないが既習であることが望ましい。例年、「３」より先に本講「４」を履修したいという相談がある。履修予定等さまざまな事情はあるだろうから、できる限り対応したいと思うが、理解度としてはやはり難しいところがあると感じている。「３」からは積み重ねの関連性が非常に高い科目なので、非常な努力の覚悟が必要になる。履修相談に来るのは構わない。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（Windows）および周辺機器。Mac や Linax でも履修可能だが、授業は Windows を前提として行う。iPad 等のタブレット端末は使用できない。Excel もしくはこれと同等に使用できる表計算ソフト。ただし Excel 以外のソフトを使用する場合、それに合わせた特別な指導や補助はできない。
できれば R をインストールしておくこと。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　社会意識、比較社会学
＜研究テーマ＞　「幸福」の社会学
＜主要研究業績＞
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series ― World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA － 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009 年.

【Outline (in English)】
This course introduces the skill of quantitative research data.
We will study about technics to analyze statistical data and social research plan. At the end of the course, participants are expected to understand the difference between academic and practical research, theoretical background of social statistics, and be able to analyze statistical data using R.
Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.
Grading will be decided based on assignments 30%,end-term report and presentation 60% and in-class contribution 10%.

SOC500P1 － 058

社会調査法５

竹元　秀樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的な調査と分析の方法についてより深く学び、基本的な質的調査計画が設計できることを目指す。そのために、さまざまな質的データの収集と分析の具体的方法について理解を深め、実践に役立つ知識を身に付ける。とくにフィールドワークで必要な技法や倫理的な問題についての知識を習得する。

【到達目標】
1. 質的調査におけるデータ収集の基本手法である、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析について、各手法の利点と問題点を説明できる。
2. 質的調査の分析技法である、インタビュー分析、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析、内容分析、ビジュアルデータ分析について、各技法の内容を説明できる。
3. 質的調査の実施に向け、基本的な調査計画が設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
1. まず、質的調査の考え方と設計の仕方について解説する。
2. つぎに、フィールドワークの基本的な質的調査手法である、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析の各項目について、事例を使って具体的な解説を行い、質的データの収集・分析方法について理解を深める。
3. さらに、分析結果の提示（論文・報告書の発表）を念頭におき、被調査者との関係など倫理的な問題についての理解を促す。
授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論１：社会調査の全体像	・社会調査と質的調査の定義／目的 ・質的調査と量的調査の定義／種類／特徴
2	総論２：方法論的スタンスの識別	・方法論的スタンス（個人主義／集団主義）の自己把握と客観性問題
3	総論３：質的研究の意義と特性	・質的研究の現在的特徴と意義 ・帰納的研究および「中範囲の理論」の重要性
4	質的調査の設計―調査研究のプロセス	・質的調査のプロセス ・「問い」「仮説」の設定の重要性と問題点 ・先行研究との関連性
5	フィールドワーク１―社会的生活の記述	・質的調査におけるフィールドワークの流れ ・フィールドワークの論点
6	フィールドワーク２―事例の俯瞰的把握	・先行研究事例の構造とプロセス ・事例の評価と限界
7	質的データの収集１―聞き取り調査	・聞き取り調査の意義と限界 ・インタビューの種類 ・聞き取り調査のプロセス
8	質的データの収集２―参与観察	・参与観察の利点と問題点 ・「問い」の設定時期
9	質的データの分析１―さまざまな分析技法	・ドキュメント分析／ライフヒストリー分析／内容分析／会話分析／ビジュアルデータ分析の特性
10	質的データの分析２―ライフヒストリー分析	・ライフヒストリー分析の特徴と意義 ・先行研究の解読
11	グループワーク１―映像データによる疑似体験	・「問い」と「仮説」の設定 ・質的調査計画の策定
12	グループワーク２―疑似体験を通じての討論	・「仮説」の発表と立証 ・先行研究との対話
13	調査結果のまとめ方と発表での活用	・論文／報告書の作成 ・発表での活用事例の検証
14	調査倫理―成果の公表とその問題	・調査倫理規定 ・プライバシー保護 ・被調査者保護をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。
なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】
都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 1・2・3・6・8」

【専門領域】
地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】
現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】
単著『祭りと地方都市―都市コミュニティ論の再興』2014 年，新曜社.
共著『よくわかる都市社会学』2013 年，ミネルヴァ書房.
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件―異質的なコミュニティ・ビロンギングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号，2021 年.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn about specific methods of collecting and analyzing qualitative data.
By the end of the course, students should be able to explain specific methods of qualitative research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P1 － 059

社会調査法６

竹元　秀樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学および政策科学の研究の実際場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する調査の方法論と有機的に結びついたかたちで、調査をデザインしてデータを収集／分析する思考法を実践的に習得する。とくに調査企画・設計のプロセスに主軸をおいた、量的調査と質的調査の両面からの実習体験を通じて、さまざまな社会調査手法の利点／欠点、意義／限界について理解する。そして最終的に、受講者が各自の問題関心に応じた調査デザイン（データ収集／分析手法）を構想・発表し、相互討論を通して洗練することを試みる。

【到達目標】
1. 社会調査の実施に向け、社会データを収集／分析するための実践的な思考法を身につけている。
2. 量的調査の基本的な企画・設計ができ、それに基づいて比較的簡単な量的分析とグラフ作成を行える。
3. 社会調査の方法論的立場を認識して、質的調査の基本的な企画・設計ができる。
4. 受講生各自の問題関心に基づく調査計画、およびその調査に基づく修士論文の執筆計画を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
1. 総論として、社会学および政策科学の社会調査について、そして社会調査のプロセス・諸類型・倫理について解説する。
2. グループワークによる実習を中心にして、量的調査の基本的な企画・設計と簡単な量的分析を行う。
3. グループワークおよび個別単位での実習を中心に、質的調査の基本的な企画・設計と方法論的立場の違う質的先行研究の分析を行う。
4. 受講者各自の問題間に基づく調査デザインの発表と相互討論を実施する。
授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論１：社会学・政策科学と社会調査	・調査背景、調査目的、意義と限界
2	総論２：社会調査のプロセス	・企画から報告書の作成まで ・データの収集と分析
3	総論３：社会調査の諸類型	・量的調査／質的調査、混合研究法、デジタル・サーベイ
4	総論４：社会調査の倫理と真正性	・ラポールの構築 ・調査に特有の倫理
5	グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計１	・調査テーマの設定 ・仮説構成 ・サンプリングの対象・方法
6	グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計２	・調査票の作成 ・ワーディング、プリテスト ・企画・設計内容の発表
7	調査票調査の既存データを利用しての簡単な量的分析１	・調査データの整理 ・度数分布表・ヒストグラム・円グラフの作成
8	調査票調査の既存データを利用しての簡単な量的分析２	・クロス集計分析 ・分析結果の発表
9	事例の映像データから構想する質的調査の企画・設計１	・データの収集方法 ・聞き取り調査 ・社会構造主義／構築主義
10	事例の映像データから構想する質的調査の企画・設計２	・ライフヒストリー分析 ・会話分析 ・企画／設計策定結果の発表
11	質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較１	・研究目的の相違 ・先行研究の批判的視点 ・調査手法の組合せと限界
12	質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較２	・方法論的個人主義／集団主義 ・参与観察の利点 ・マルチメソッド法の効用
13	総括的討論１	受講者各自の問題関心に基づく調査デザインの発表と相互討論①
14	総括的討論２	受講者各自の問題関心に基づく調査デザインの発表と相互討論②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。
なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】
都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
第 1 回目の講義時に確認する。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 1・2・3・5・8」

【専門領域】
地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】
現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】
単著『祭りと地方都市―都市コミュニティ論の再興』2014 年，新曜社.
共著『よくわかる都市社会学』2013 年，ミネルヴァ書房.
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件―異質的なコミュニティ・ビロンギングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号，2021 年.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn about planning and design of social research by practical training.
By the end of the course, students should be able to make a research plan based on each student's interests in problems.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P1 － 061

社会調査法７

見田　朱子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
昨今、統計パッケージの普及によって、複雑な統計解析も容易に行えるようになってきた。しかしその反面、それぞれの統計手法の基礎や特徴を理解しないまま分析がされることも少なくない。
そこで本講義では、統計学の基礎を確認しつつ、まずは分散分析と線形回帰モデルの学習を通じて、交互作用項を中心とした多変量解析の基本的な考え方を学ぶ。さらに線形回帰モデルとの差異に注目しながら、ロジスティック回帰分析について学習する。また、探索的分析手法として主成分分析と因子分析についても学ぶ。
これらの分析手法は、統計パッケージ R による実習を通じて、実践的に修得することが目指される。またその際には、統計パッケージの単なる使用方法の習得ではなく、各手法の考え方やその結果の意味を理解することに重点を置く。

【到達目標】
本講義の目標は、線形回帰モデルなどの学習を通じて、多変量解析の基本的な考え方までを修得することである。
座学と実習を通じて各分析手法の考え方や仮定について理解し、自ら説明できるようになることが目標である。それと同時に、統計パッケージ R を用いた実習によって、実際に分析するための技術の修得も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本講では、対面の講義と実習を通じて多変量解析の考え方や仮定について学習する。各回の授業は講義とともに適宜統計パッケージの操作実習をはさむことで理解を深める形でおこなう予定である。
表計算ソフト Excel のほか、統計ソフトとしては無料の R を用いる。R については基本的な操作方法から確認するので初見でも構わないが、統計的（量的）分析については社会調査法３、４などで推測統計の基礎までは学んでいることが望ましい（必須ではない）。
履修人数にもよるが、都度の質問や対話やメール・学習支援システムの機能等によって補足をしていきたい。リアクションペーパーは対面の場合のみ予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	多変量解析に向けた準備 1	社会学と多変量解析、R 紹介と復習を兼ねて、基本統計量の算出方法。標準化、共分散と相関係数について。
2	多変量解析に向けた準備 2	R の操作に慣れつつ、統計的推測と仮説検定、検定の全体図を確認。
3	分散分析	多変量解析の基本的な考え方。分散分析の基本。級内平均と級間平均、一元配置、多元配置、実習
4	線形回帰分析と最小二乗法（OLS）	線形回帰分析における仮定
5	基本統計量と OLS 推定量の関係	分散分析表の読み方や決定係数について学習
6	重回帰分析	統制・偏相関、多重共線性、修正済み決定係数、結果の t 検定・F 検定
7	実習と補足：分析の準備～結果の解釈	ダミー変数とその作り方、直接効果と間接効果、交互作用
8	ロジスティック回帰分析の基礎	オッズとロジット、回帰係数の解釈、回帰係数とモデルの検定
9	分析方法の整理	仮説検定のための分析と、探索的分析
10	主成分分析と因子分析	考え方の基礎、主成分、潜在因子と観測因子、因子負荷量、寄与率
11	主成分分析の実習	主成分分析表の図示と解釈
12	因子分析の実習	因子分析表の解釈
13	データの選び方、分析方法の選択方法、補足	「データ」について、判別分析とクラスター分析の紹介
14	まとめ	まとめと成績評価にかかわる作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
杉野勇『入門・社会統計学: 2 ステップで基礎から [R で] 学ぶ』法律文化社, 2017 年.
（データ資料を利用します。web 上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布するので、初回授業では未購入で構いません。）

【参考書】
G.W. ボーンシュテット／ D. ノーキ著, 海野道郎・中村隆監訳, 1992, 『社会統計学―社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社.
盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.
『入門・社会統計学』サポートウェブ（http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html）
R Tips (http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips/r.html)
他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献と理解度（20 %）と課題（80 %）によって評価。
授業への貢献と理解度とは、クラス全体の理解を促す質問、意欲的な取り組みなどを指す。
課題は授業期間中に 1 － 2 回の小課題および期末レポートとする。人数によっては、発表も取り入れる。
※出席が 2/3 に満たない場合は自動的に「不可」となる。

【学生の意見等からの気づき】
・学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。双方向の授業を心がけたい。
・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては初回授業で相談のうえクラス運営をする予定である。

【学生が準備すべき機器他】
実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや授業システム等を利用予定。必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコンおよび周辺機器、Excel と R のインストールが必須となる。自宅にこれらを準備できない場合は学校の設備を利用するために登校するなどの必要がある。
R のインストールは授業での案内後でもよい。

【その他の重要事項】
専門社会調査士資格認定のためのカリキュラム「I」科目に相当する。
シラバス内容にある通り、多変量解析とその応用を扱う。推測統計の基礎については理解していること、少なくとも履修済みのものとして授業を進めるため、未履修あるいは同時並行して学習することは望ましくない。ただし、自信がない程度であれば本講を是非履修して、分析技術を実用的なものとしてほしい。
オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。
その他の機会については初回授業でお知らせします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　社会意識、比較社会学
＜研究テーマ＞　「幸福」の社会学
＜主要研究業績＞
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series ― World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA － 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009 年.

【Outline (in English)】
Advanced class: Social statistical analysis (multivariate data analysis)
We learn:
Interaction term through variance analysis and linear regression model, then logistic regression analysis, at last, exploratory analysis method – principal component analysis and factor analysis.
It is a practical class using a statistical package soft "R".
Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.
Grading will be decided based on in-class contribution 20% and on tasks 80%; including assignments and end-term report, and maybe presentation (depends on class size).

SOC500P1 － 062

社会調査法８

竹元　秀樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的調査に関する基礎的理解を踏まえた上で、様々な質的データの分析法を疑似体験を通じて理解する。特にグループワークにより、インタビュー分析、アートベースリサーチ分析、ドキュメント分析、内容分析、会話分析、混合研究法等における実践的な分析能力を、意識と感性の両レベルから習得する。
また、質的データの収集方法から分類化される、それぞれの質的調査手法の分析局面における限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てる能力を獲得する。
そして、最後に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し議論する。

【到達目標】
1. 質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題について概要を説明できる。
2. インタビュー分析、会話分析、内容分析、グラウンデッド・セオリー分析の特性を理解の上実践できる。
3. 質的データの分析結果を、中範囲の理論の構築へとつなげることができる。
4. 質的調査の各手法の限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
1. 総論として、質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題について解説する。
2. グループワークによる実習を中心にして、フィールドワークの映像データやアートベースリサーチを活用しての質的分析を行う。
3. グループワークの実習を中心にして、ドキュメント分析、内容分析、会話分析、マルチメソッド分析を行う。
4. 最後に、質的分析という研究作業の仕組みを実践的な観点から議論・総括する。
授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総論 1:質的調査とは何か	・社会調査／質的調査の意義・目的、量的調査との違い
第 2 回	総論 2:質的調査の調査技法―質的データの収集とプロセス	・フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析
第 3 回	総論 3:質的調査の分析技法―質的データの分析と知見の抽出	・インタビュー分析、内容分析、ライフヒストリー分析、会話分析、アートベースリサーチ
第 4 回	総論 4:質的調査の倫理問題	・聞き取り調査でのラポール形成、参与観察での立ち位置
第 5 回	フィールドワークの映像データを活用しての質的分析 1	・聞き取り調査／参与観察の疑似体験、フィールドノートの作成、収集したデータの把握
第 6 回	フィールドワークの映像データを活用しての質的分析 2	・KJ 法によるデータの整理と分析、分析結果の発表と討論
第 7 回	アートベースリサーチを活用しての質的分析 1	・他者の語りをなぞる演技―意識レベルから感性レベルでの体験からの把握
第 8 回	アートベースリサーチを活用しての質的分析 2	・他者の語りをなぞる作画―作画意識の相対化から主体化への変容からの把握
第 9 回	ドキュメント分析の実践	・地域活動家の語り―テキストデータから見えてくるもの
第 10 回	内容分析の実践	・テレビドラマと原作の表現相違―映像データから見えてくるもの
第 11 回	会話分析の実践	・社会構築主義に基づく論文―会話データから見えてくるもの
第 12 回	マルチメソッド分析の実践	・混合研究法による研究事例―研究デザインのデータから見えてくるもの
第 13 回	総合討論 1	・受講者各自の問題関心に基づく質的調査デザインの発表と討論
第 14 回	総合討論 2	質的調査の分析における実践的課題と取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。
なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】
都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 1・2・3・5・6」

【専門領域】
地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】
現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】
単著『祭りと地方都市―都市コミュニティ論の再興』2014 年，新曜社.
共著『よくわかる都市社会学』2013 年，ミネルヴァ書房.
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件―異質的なコミュニティ・ビロンギングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号，2021 年.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a performance in their qualitative research.
By the end of the course, students should be able to acquire the practical skills and knowledge in their qualitative research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

POL500P1 － 063

政策分析評価技法

阿部　一知

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①公的主体が実施する経済政策の効果について、経済学的な分析方法の枠組と手順を理解
②日本あるいは海外の経済政策のいくつかの例を取り上げ、目的・効果の分析方法と結果を議論
③政策・プロジェクト評価手法の概略について理解

【到達目標】
公共経済学に基づいた政策評価の基本的枠組を入門的に理解する。代表的手法として費用便益分析の基本的考え方を学ぶ。政策評価の手順に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
全体 7 回程度の講義において、最初の 4 回程度は、公共的な政策の分析の枠組と手順について教科書に沿って紹介する。基本となるのは、厚生経済学を適用した公共経済学に基づいた理論である。また、その応用分野として、費用便益分析などのプロジェクト評価や、政策の評価手順などについても触れる。これらは講義と質疑を中心とする。
残り 3 回程度程度は、実際の政策を取り上げて、ディスカッションを行いながら事例研究する。具体事例は、学生の希望を取りながら選択する。原則として、1 週間前に材料を示すので、それに基づいた準備があることを前提に講義する。
講義は原則対面で行う。毎回の講義で、学生の理解の確認のため課題を提示し、ディスカッションすることで理解を深める。また、フォードバックとして、メールで直接学生と質問応答や追加説明を行う。
講義は対面とオンラインで行う。毎回の講義で、学生の理解の確認のため課題を提示し、ディスカッションすることで理解を深める。また、フィードバックとして、メールで直接学生と質問応答や追加説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、政策分析の基本的な考え方	科目の全般的な内容、講義の進め方、教科書の説明。
第 2 回	分析の手順	ストーキー教科書第１章
第 3 回	政策分析の手法（外部性モデル、選好の定義など）	厚生経済学の基礎の説明。政策決定モデルの紹介。ストーキー教科書第２～３章、第６章。
第 4 回	政策分析の手法（外部性モデル、選好の定義など）	厚生経済学の基礎の説明（続き）政策決定モデルの紹介。ストーキー教科書第２～３章、第６章。
第 5 回	政策分析の手法（費用便益分析入門など）	費用便益分析一般の説明。ストーキー教科書８～１０章。
第 6 回	政策分析の手法（費用便益分析入門など）	費用便益分析一般の説明（続き）ストーキー教科書８～１０章。
第 7 回	政策分析の手順、公共選択、公共主体が政策を実施する根拠	公共選択理論の説明。ストーキー教科書１１～１３章。
第 8 回	事例研究の準備	事例研究のテーマ希望聴取など準備。
第 9 回	政策分析の手順など確認。	政策分析の手順（問題確定、選択肢提示、効果分析、評価）
第 10 回	事例研究 (1)	事例研究：具体的な政策（教員が提示）を取り上げて研究
第 11 回	事例研究 (2-1)	事例研究：具体的な政策を取り上げて研究
第 12 回	事例研究 (2-2)	事例研究：具体的な政策を取り上げて研究
第 13 回	まとめ、補足的なディスカッション	全体のまとめ。
第 14 回	まとめ、補足的なディスカッション 筆記試験（あるいはレポート）	全体のまとめ。筆記試験（レポートとする場合は、レポートの作成についての説明）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の講義で、指示された資料・教科書該当ページを事前に読む。また、必要に応じて参考資料を参照する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ストーキー、ゼックハウザー「政策分析入門」　勁草書房

【参考書】
指定教科書よりも網羅的・体系的でないが、より新しい教科書として、バーダック「政策立案の技法」東洋経済新報社、を勧める（講義でも一部使用する）。その他の資料は、授業中に適宜指示する。配布できる資料は、ウェブで公開する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の参加（20 %）と期末試験（80 %、レポートにする場合もある）

【学生の意見等からの気づき】
事例研究をより幅広く行うため、課題の学生からの希望聴取を、第２回目から口頭でも行うこととした。

【担当教員の専門分野】
経済政策（貿易投資の経済効果、マクロ経済対策など）、応用経済学（応用計量経済モデルを含む）。研究者データベース参照
https://ra-data.dendai.ac.jp/tduhp/KgApp?kyoinId=ymkkgkysggy

【Outline (in English)】
【Course outline and Objectives】
The students are:
1. to understand the framework and procedures to analyze the economic effects of public policies,
2. to discuss several examples of economic policies in Japan and other countries, on their objectives and scope,
3. to understand policy/project evaluation methods.
As the goal, the students are to understand the basic framework of the policy evaluation, based on the public enoconomics, including the cost-benefit analysis. In addition, the students are to be accustomed with the procedures of policy evaluation.
【Learning activities outside of classroom】
None
【Grading Criteria /Policy】
Participation in the class (20%), final exam (80%, The exam may be replaced with submission of research reports).

SOS500P1 － 066

地域コンサルティング論

佐谷　和江

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①本講義では地域コンサルティングの具体的なケースについて、発意・背景、コンサルティングの過程、成果・課題を分析・評価して提示する。
②また、コンサルティングに関する手法の演習を行う。
③さらに、地域自治やローカルガバナンスという枠組みの中で、実現のための体制やシステムのあり方、その中での地域コンサルティングの位置づけなどについて、方向性を示す。

【到達目標】
①地域コンサルティングの理論や方法論を実践的に学び、それを踏まえて、他事例について説明することができる。
②基礎的な地域コンサルティング能力を習得することができる。加えて、コンサルティングという職種研究を通じてキャリアデザインの一助とすることができる。
③地域コンサルティングの位置づけやシステムのあり方について、討論を重ねる。その結果、ローカルガバナンスについての自説を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
コンサルティングとは、専門性を活かして、企業や行政などに対して外部から客観的に現状を把握し、問題点を指摘し、対策案を提示する業務を行うことである。 地域コンサルティングは、自治体や住民に対して行うことが多い。ローカルガバナンスの主体である住民、ＮＰＯ、行政、企業とは異なり、意志決定に参画するものではないが、それらに与える影響は小さくない。
本講義ではケーススタディや手法のスタディ・演習を行う中で、地域コンサルティングに関する理論や方法論を実践的に学ぶ。
授業形式（対面）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義概論	授業の概要や地域コンサルティングにおいて重要なキーワードを紹介する。手法としては「話し方」を学ぶ。
2	全市レベルの計画作成を支援するコンサルティング	練馬区や港区をケースに全市レベルの計画作成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション」を学ぶ。
3	地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティング	新宿区落合三世代モデル事業をケースに地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション・グラフィックス」を学ぶ。
4	地縁型・テーマ型コミュニティ組織のコンサルティング	横浜市まち普請事業や川崎市の区民会議等をケースに地縁型・テーマ型コミュニティ組織のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ロールプレイング」を学ぶ。
5	地域活性化（コミュニティビジネス）のコンサルティング	墨田区玉の井地区をケースに地域活性化のためのコミュニティビジネスへのコンサルティングを学ぶ。手法としては「プロセス・デザイン」を学ぶ。
6	社会貢献する人材育成のコンサルティング	江戸川総合人生大学をケースに社会貢献する人材育成のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ワークショップのプログラム作成」を学ぶ。
7	講義の総括とレポート発表	これまでの講義の総括を行う。また、各自レポートを発表し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各ケースのＵＲＬを下記に示すので、事前に概要を把握する。
○第２回：練馬区都市計画マスタープラン改定支援/12 ～ 15 年度
http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/
港区まちづくりマスタープラン改定支援/15 ～ 16 年度
https://www.city.minato.tokyo.jp/sougoukeikaku/kankyo-machi/toshikekaku/kekaku/master-plan.html
○第３回：新宿区落合三世代モデル事業/06 年度～ 08 年度
http://wp.3sedai.com/
○第４回：横浜市まち普請事業　左近山地区/07 年度
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/machibusin.html
川崎市「区民会議運営」/10 年度～
http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000017573.html
○第５回：墨田区玉の井地区/08 ～ 11 年度
https://teratama.tokyo/
http://ameblo.jp/tamanoicafe/
○第６回：江戸川総合人生大学/04 年度～現在
http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

【参考書】
①都市のイメージ／ケヴィン・リンチ／ 1960、翻訳 1968、新版 2007 ／岩波書店
②アメリカ大都市の死と生／ジェイン・ジェイコブス／ 1961、翻訳 2010 ／鹿島出版会
③人間の街: 公共空間のデザイン／ヤン・ゲール／ 2014 ／鹿島出版会
④まちづくりキーワード事典／三船康道＋まちづくりコラボレーション／ 2009 ／学芸出版
⑤稼ぐまちが地方を変える　誰も言わなかった１０の鉄則／木下 斉／ 2015 ／ＮＨＫ出版新書

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %：地域コンサルティングに関する理論や方法論を積極的に学んでいるか。
討論への参加 40 %：基礎的なコンサルティング能力の習得のための演習等に積極的に取り組んでいるか。
レポート・発表 30 %：地域コンサルティングの位置づけなどについて、具体的なケースを踏まえて方向性を検討し、発表してもらうが、その際、適切なケースを把握し、十分に考察を行っているか。

【学生の意見等からの気づき】
紹介する事例を更新するとともに、それぞれのケースにおいて、各主体の関わり方をわかりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
都市計画、地域計画、コミュニティマネジメント
＜研究テーマ＞
自治体の都市政策、コミュニティのエンパワーメント、地区計画制度
＜主要研究業績＞

○「パンデミック × デジタル空間・グローバル社会」で続けるべきこと／ 2021 ／建築ジャーナル
○都市計画の構造転換　整・開・保からマネジメントまで／ 2021 ／鹿島出版会
○ BIOCITY No.74 特集 エコロジカル・デモクラシーのデザイン―世界をつなぐ 15 の原則／ 2018 ／ブックエンド
○ 60 プロジェクトによむ日本の都市づくり／ 2011 ／朝倉書店

【Outline (in English)】
● Course outline
① In this lecture, you will learn specific examples of regional consulting.
② We will also practice consulting methods.
③ In addition, we will discuss the structure of the system and the role of regional consulting within the framework of local autonomy and local governance.
● Learning Objectives
The first goal is to learn the theory and methodology of regional consulting in a practical manner and be able to explain about other cases based on this learning.
The second goal is to acquire basic regional consulting skills. In addition, students will be able to consider their own career design by researching the consulting profession.
The third goal is to discuss the positioning of regional consulting and how the system should be. As a result, students will be able to explain their own theory of local governance.
● Learning activities outside of classroom
You are expected to understand the outline of each case in advance by referring to the Internet.
The standard preparation and review time for this class is 2hours each.
● Grading Criteria /Policy
Ordinary points (30%)
Evaluate by actively learning theory and methodology
Participation in discussion（40 %）
Evaluate whether you are actively engaged in exercises for acquiring basic consulting skills
Report and presentation (30%)
The report will be considered based on specific cases of regional consulting. At that time, evaluate whether it is an appropriate case and whether it is sufficiently considered.

SOS500P1 － 067

ファシリテーション演習

徳田　太郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複雑化・多様化する社会における政策プロセスに必要なスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本科目においては、政策過程における参加や熟議の位置づけ、その中でのファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】
・参加者主体の合意形成や課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
・政策過程における参加や協働の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
・演習での体験を通じ、多様な人々の個性を活かし、ともに協力しあうチームを育んでいくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面授業にて実施する。各回とも、講義と演習を織り交ぜながら進める。
・第 1 回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
・第 2 回：講義と質疑応答を中心に、政策過程と参加・熟議の関連を学習する。
・第 3～4 回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
・第 5 回～第 10 回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
・第 11 回～第 13 回：それまでに学んだスキルとこころを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
・第 14 回：まとめの講義を行う。
＊各回とも、各授業時間の最後の 10 分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 (1-前)	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
第 2 回 (1-後)	政策過程と参加・熟議	政策過程におけるファシリテーションの位置づけを確認する（講義）
第 3 回 (2-前)	ファシリテーションとは何か	ファシリテーション・ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
第 4 回 (2-後)	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
第 5 回 (3-前)	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
第 6 回 (3-後)	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
第 7 回 (4-前)	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
第 8 回 (4-後)	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
第 9 回 (5-前)	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
第 10 回 (5-後)	話しあいの場をホールドする技術③意見の吟味	意見の集約方法を学ぶ（講義・演習）
第 11 回 (6-前)	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
第 12 回 (6-後)	ファシリテーション実践①	参加型の場（ミーティング）の運営を体験する（演習）
第 13 回 (7-前)	ファシリテーション実践②	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
第 14 回 (7-後)	まとめ	全体のまとめを行う（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第 2 回～第 4 回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にする。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理する。（予習・復習各 120 分程度）
・第 5 回～第 10 回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備する。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめる。（予習・復習各 120 分程度）
・第 11 回～第 13 回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨む。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解する。（予習・復習各 120 分程度）

【テキスト（教科書）】
徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法』（北樹出版、2021 年、1,600 円＋税、978-4-7793-0652-5）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】
・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・冨岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』（岩波書店、2009 年）
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016 年）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に記した 3 点について、各回の振り返りシートの質と量（約 50%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約 50%）から、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でファシリテーター（進行役）を体験する機会を、より多く持てるように工夫する。

【その他の重要事項】
受講者同士の話しあいを中心にした体験型の授業です。受講希望者は、必ず第 1 回授業に出席してください。やむを得ない事情で第 1 回授業に出席できない場合には、事前にメールにて担当教員にご連絡ください（宛先：taro.tokuda.83@hosei.ac.jp、件名：法政大学大学院ファシリテーション演習）。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
政治理論（デモクラシー論）／ファシリテーション論
＜研究テーマ＞
熟議デモクラシーの理論と実践／その中でのファシリテーションの位置づけ
＜主要研究業績＞
・「アイルランドの憲法改正における熟議と直接投票」『法學志林』118 巻 3-4 号、2020-2021 年
・「対話／熟議の場を生成するファシリテーション」『総合人間学』14 号、2020 年
・『はじめての地域づくり実践講座：全員集合！ を生み出す 6 つのリテラシー』（分担執筆）北樹出版、2018 年

【Outline (in English)】
（Course outline）
Facilitation is one of the skills and mindsets necessary for the policy process in an increasingly complex and diverse society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this class, you will understand and acquire the position of participation and deliberation in the policy process, the significance of facilitation in this process, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.
（Learning Objectives）
1. You will be able to explain the methodology of participant-centered consensus building and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to participation and collaboration in the policy process.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of diverse people and cooperates together.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following; short reports: 50%, in class contribution: 50%.

MAN500P1 － 224

ＣＳＲ論

長谷川　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではサステナビリティを巡る国際的な動向を整理し、CSR、CSV、SDGs が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。サステナビリティ経営の強化を求めるコーポレートガバナンス・コードや東証市場再編、影響力を強めている ESG マネー（投資・融資・保険）が企業経営にもたらす影響について理解を深めることめざします。

【到達目標】
サステナビリティに関する国際的な政策動向に関する基本知識を習得し、国内外の企業および機関投資家の行動を理解し正しく評価する能力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻「CSR 論」においては公共マネジメントコースの「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻「サステイナブル経営論」においては「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の SDGs/CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	価値共創時代のサステナビリティ経営①	価値共創とは何か 価値共創を実現する経営のあり方とは
第 2 回	価値共創時代のサステナビリティ経営②	越境による新事業のデザイン 価値共創ビジネスのケーススタディ
第 3 回	ESG 経営の最新動向「ガバナンス編」①	日本型ガバナンスの現状 取締役会の機能不全
第 4 回	ESG 経営の最新動向「ガバナンス編」②	企業価値を左右する社外取締役 攻めのガバナンス 東証再編とガバナンスコードの改訂
第 5 回	ESG 経営の最新動向「環境編」①	ビジネスルールが変わる パリ協定－脱炭素の本質とは
第 6 回	ESG 経営の最新動向「環境編」②	脱炭素を加速する ESG マネーの動向 企業評価の新たな尺度となる炭素利益率
第 7 回	ESG 経営の最新動向「社会編」①	変わる企業と社会の関係 人権・ダイバーシティを巡るケーススタディ
第 8 回	ESG 経営の最新動向「社会編」②	ビリーフドリブン消費者の台頭 ブランドストーリーの再構築
第 9 回	近代産業の勃興と経済倫理〔1〕「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第 10 回	日本社会における企業倫理の形成	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第 11 回	SDGs 時代に求められるパーパス経営	パーパスと SDGs の関係性 企業価値を高めるパーパス経営
第 12 回	SDGs 時代の経営モデル	シェアリングエコノミー
第 13 回	ゲストスピーカーによる講義①	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します
第 14 回	ゲストスピーカーによる講義②	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業が発行する統合報告書やサステナビリティ報告書を参照しながら、SDGs やパリ協定と企業はどのように向き合おうとしているのかについて自己学習を深めて下さい。詳細については、初回授業において説明します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメを配布します。

【参考書】
Naoya.HASEGAWA （2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGs とパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021 年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文眞堂，2019 年
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文眞堂，2018 年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016 年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート： 80 %
発表・討議： 20 %

【学生の意見等からの気づき】
複雑な数式等は使わず、財務分析や証券投資に関する知識の無い方にも理解しやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステイナビリティ
＜主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021 年 9 月 28 日）』2021 年
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020 年 3 月 2 日～12 日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319 号』2021 年

【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 1 部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連視角】
証券アナリスト検定会員（CMA）

【Outline (in English)】
In this lecture, we will review how international trends in sustainability (CSR, CSV, SDGs) have been changing. We will also examine the impact of the Corporate Governance Code, the restructuring of the Tokyo Stock Exchange and ESG money (investment, financing and insurance) on corporate management.
Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the final report (80%) and presentation (20%).

POL501P1 － 068

政策研究概論（外国語）※韓国語

申　龍徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の公共政策の仕組みと運用に関する理解

【到達目標】
この授業は、主に韓国からの留学生を対象とし、母語語（韓国語）により、日韓比較の視点から、日本の政治行政システムの基礎的な知識を説明し、日本の公共政策の制度的基盤や基本的な仕組みなどに関する基礎的知識の理解を目指す。この知識の活用により、より効果的な比較分析を行い、完成度の高い論文執筆ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、日本の政治行政に関する基礎的な知識の習得を目指し、政治体制・行政システム・地方自治制度・公務員制度・公共事業などテーマごとに基本的な仕組みと現況を説明し、受講者の質疑に応答する形式で進める。受講者の登録状況を勘案し、日本語と韓国語を兼用する。
原則として対面で授業を実施すること、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンラインに切り替える。
受講生には、期末に課題レポートの提出及びその発表を求め、質疑応答を行う。課題レポートについては、学際的なコメントを付けてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回目	歴史	明治維新、戦後改革
2 回目	体制	憲法、議院内閣制
3 回目	国会	国会の構成と政党制
4 回目	選挙	選挙制度の仕組みと現況（国・地方）
5 回目	55 年体制 55	自民党の長期政権の形成と崩壊
6 回目	行政	行政組織の構成と役割
7 回目	行政改革 A A	行政改革の歴史と内容
8 回目	行政改革 B B	省庁再編と行政改革
9 回目	自治制度	地方自治法と自治体改革
10 回目	地方分権	地方分権改革の内容
11 回目	少子高齢化社会	少子高齢化の現況と対策
12 回目	政策過程	政策決定と執行のプロセス（予算策定プロセス等）
13 回目	公共事業	公共事業の仕組み
14 回目	公務員制度	国家公務員・地方公務員の法制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。2

【テキスト（教科書）】
事前にレジュメや参考資料などをアップする。

【参考書】
レジュメ及び関連する参考資料をアップする。

【成績評価の方法と基準】
参加度（50 %）と理解度（50 %）よる絶対評価

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントによる講義を基本に、受講者との質疑応答を交えながら進める。

ppt

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、比較行政
＜研究テーマ＞比較自治行政、公共空間形成
＜主要研究業績＞
①『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版局、2013）
②『韓国行政自治入門』（単著、公人社、2006）
③「日韓の地方公務員制度比較に関する予備的考察–＜民主性＞と＜能率性＞の交差」『法學志林』（105 － 1、法政大学、2007）
④「住民参加制度の日韓比較」『自治総研』（33-6、通号 344、地方自治総合研究所、2007）
⑤「市民活動の法制度と支援に関する日韓比較」『自治総研』（33 - 4、通号 342、地方自治総合研究所、2007）

【Outline (in English)】
Understanding of Japanese public policy mechanism and operation
Creating a highly accurate master's thesis in Japanese
Read the reference materials carefully
Evaluate attendance and high motivation

POL502P1 － 068

政策研究概論（外国語）※中国語

毛　桂榮

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策に関する基礎文献を中国語で講読することを中心に勉強し、学生が政策分析の基礎を固めることができるように教授します。

文献は、日本語、中国語、英語のものですが、履修者と相談しながら、適宜変更もします。また、学生の要望にできるだけ応えるように日程の調整もします。しかし、基礎文献を理解することが大事で、じっくり資料を理解することを薦めます。

ゼミの進行に関しては、基本的に中国語をもって行いますが、適宜、日本語も使用します。

なお、この科目は公共政策論を中国語を利用しながら、公共政策論の専門科目を勉強するようにカリキュラムを設定しており、中国語を勉強することを目的にした授業ではありません。この点に関しては、十分理解してください。

【到達目標】

以下の内容、提示する基礎文献を基本にじっくり「読解」します。資料・論文を要約した上で議論をする形で進めます。半年、基本文献１５本以上を熟読するようにします。

言葉・概念の問題だけではなく、社会科学における議論の仕方、論文の書き方も含めて、資料を利用しながら、解説し討論します。

ゼミの最終回（適宜調整）に関しては、学生が関心する政策課題を事例として、研究発表を行う予定にしています。政策研究の手法を修得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本は、対面授業です。

（1）新型肺炎の流行により、一部オンライン授業はあるが、本ゼミは、法政大学の方針に則り、「対面」を基本とする予定です。

（2）もちろん、柔軟に「オンライン」も必要に応じて調整します。

（3）また、ゼミの進め方は：基本文献の要約からスタートし、議論を深めていきます。資料の事前予習、また関連文献の復習・勉強も必要です。基本文献を中心に、関連する分野の研究資料なども、ある程度把握できるようにしていきましょう。最後は、各自の発表をもって基礎修得の確認をおこないます。

（4）勉強に関する質問は、（本システム、あるいは LINE を通じて）常時受付ます。また、ゼミでは質疑応答の時間も用意します。さらに、報告、提出するレポートに関しても、随時、コメントを返しますので、利用をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	予定の打ち合わせ。また大学院の勉強についても相談。履修する場合、本システムにアップスする資料を確認すること。事前相談する場合：maoguirong@g メールで連絡すること。	文献「若い大学院生へ」を事前配布、当日討論、勉強についての相談。学生のフィールドワークに関して相談も可能。
第 2 回	行政学の研究史、公共政策論の先行研究について	配布資料を踏まえて議論：資料「行政学の歴史」など資料を配布、中国語資料もある。
第 3 回	行政学の歴史における公共政策研究	西尾行政学第４章、日本語と中国語を講読。
第 4 回	さらにもう一つ専門文献を読む	行政学の基礎概念所収「行政と組織」論文など行政、政策と管理などの論文を読む。参照：「組織と行政」１書も必要文献。
第 5 回	USA PA 歴史。英文資料を読む。	英文資料を持って勉強。公共政策研究の歴史も確認。
第 6 回	公共政策論研究の歴史、並びにガバナンス概念に関する英文資料一つ読解	資料「アメリカ公共政策論の台頭」を講読。また英文：Reflections on governance。状況に応じて、この勉強を 2 回に分けて進めることも可能
第 7 回	日本の行政学研究と教育	中国語資料「日本行政学史」（公開資料論文、毛）
第 8 回	日本の公共政策研究の歴史	「日本の公共政策研究」論文を読む。日本公共政策学会の機関誌に掲載された論文に関する分析論文、中国語論文も参照。
第 9 回	「公共性」概念の研究	論文「公共性」に関する論文、または、「公共政策とは何か」を読む。
第 10 回	decision theory「非決定」、「権力の 3 つの顔」の概念	英文資料、日本語資料を講読。
第 11 回	政策形成における政治家と官僚	Bureaucrats and Politicians in Western...1981 の終章を読む。毛「政府と行政」も参照。
第 12 回	官僚制の概念	資料「官僚制への視点」今村「行政学の基礎理論」所収を読む。西尾「新版・行政学」官僚制論 2 章も参照。
第 13 回	政策リサーチ手法	東大出版「政策リサーチ入門」の文章２つ：事例研究
第 14 回	学生の各自発表、フィールドワーク調査の結果を踏まえて	研究発表。学生が関心する課題について分析・発表。修士論文などの検討・相談も可能。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西尾『行政学の基礎概念』（東大出版。（毛が参加した）中国語譯もあり、法政大学の図書館にも所蔵あります。一部資料は配布する予定です）、また、今村『行政学の基礎理論』（三領書房）、秋吉ほか「公共政策学の基礎」（有斐閣、最新版）、伊藤修一郎「政策リサーチ入門」（東大出版）のほか、配布する資料を必ず読むこと。

【参考書】

日本公共政策学会の機関誌を読むこと

【成績評価の方法と基準】

授業での報告４０％、討論６０％で総合評価する

【学生の意見等からの気づき】

１、大量に読書すること。
２、しっかり考え、よく質問すること。
３、欠席することは、絶対しないように。
最後まで頑張りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

配布資料は、基本的にデジタルの形式で渡します。本システムにアップした資料を確認してください。電子メールに可能ですが、別途相談の上、決める。

【その他の重要事項】

事前の連絡がある場合、maoguirong @の G メールです。
少人数のクラスですので、読書の負担がかなりあります。
注意：新型肺炎の流行もあり、以上の予定は、適宜変更していく。履修者と相談しながら、やっていきます。
成績は、討論、報告などを踏まえて総合判断する。

【担当教員の専門分野等】
行政学、日本行政などを研究。著書「日本の行政改革」「比較の中の日中行政」があり、また「行政の概念」、「公務員の用語と概念」の論文（中国語、日本語）などがある。最近は、中国の公務員制度などを研究中、複数論文を公表。論文のほとんどは、ネットで検索・入手可能。

【Outline (in English)】
This course introduces students the basic literatures and knowledge on public policy and policy analysis. The literatures are papers and books on Japanese, Chinese and English. This course will enhance students' skill in policy analysis.
Students will be expected to have completed the required assignments (read papers and prepare class report and so on) before each class meeting and then participate in discussions on each topic. Your study time will be more than three hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process: (1)class reports 40%, (2) and in-class contribution (discussions) 60%.

BSP500P1 － 069

公共政策論文技法 1

白鳥　浩、塚﨑　裕子、笘米地　真理

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策科学の先端的研究の現場に触れる。

【到達目標】
政策科学分野における学術論文の作法を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
博士号を取得した政策研究を行っている研究者による、先端的研究の紹介を中心として、政策科学が抱えている現代の問題をアカデミックに理解することを目指す本講義は、複数教員による分担講義として展開される。そこでは、現代の政策科学が抱える、アクチュアルな問題が提示される。学術的な価値の高い修士論文の執筆を目指す大学院生に、専門研究者レベルのスタンダードを明示することとなろう。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1	政策科学の最先端と政策へのアカデミックなアプローチ (白鳥)	政策科学の定義と歴史，政策と学術研究の関係
2	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析 1(笘米地)	問題提起と分析
3	理論的フレームワークとデータの収集 1(笘米地)	フレームワークの提示，データへのアクセス
4	分析結果と学会内での研究上の位置 1(笘米地)	分析の位置，研究の意義
5	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析 2(塚﨑)	問題提起と分析
6	理論的フレームワークとデータの収集 2(塚﨑)	フレームワークの提示，データへのアクセス
7	分析結果と学会内での研究上の位置 2(塚﨑)	分析の位置，研究の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中適宜指示

【参考書】
講義中適宜指示

【成績評価の方法と基準】
出席および毎回の講義への取り組み 30 %，レポート 70 %。レポートについては，各自の研究テーマの学術的価値を的確に表現できているかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
論文執筆過程での具体的トラブル・課題をより具体的に解説する。

【担当教員の専門分野等】
白鳥　浩
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.
塚﨑　裕子
＜専門領域＞労働政策、ジェンダー政策
＜研究テーマ＞外国人雇用、ダイバーシティと雇用、地方移住と雇用
＜主要業績＞
塚﨑裕子 (2008)「外国人専門職・技術職の雇用問題－職業キャリアの観点から」，明石書店
塚﨑裕子 (2012)「日本の職場風土と外国人高度人材のキャリア」，こころと文化・第 11 巻・第 2 号，pp.163-168
塚﨑裕子 (2013)「グローバル人材の多様性－国を問わず働く人材と二国間をつなぐ人材を中心に－」，日本労務学会誌・第 14 巻・第 2 号，pp.27-51
Yuko Tsukasaki,"Impact of Spousal Violence on Employment at the Post-Leaving Stage in Japan", Violence and Victims, forthcoming

【担当教員の専門分野】
笘米地真理
＜専門領域＞政策過程。国際政治。
＜研究テーマ＞国際化時代の東アジアの分析。
＜主要研究業績＞
笘米地真理『尖閣問題 政府見解はどう変遷したのか』柏書房、2020 年。ほか。

【担当教員の専門分野】
塚﨑　裕子
＜専門領域＞労働政策、ジェンダー政策
＜研究テーマ＞外国人雇用、ダイバーシティと雇用、移動とキャリア
＜主要業績＞
塚﨑裕子 (2008)「外国人専門職・技術職の雇用問題－職業キャリアの観点から」，明石書店
塚﨑裕子 (2013)「グローバル人材の多様性－国を問わず働く人材と二国間をつなぐ人材を中心に－」，『日本労務学会誌』第 14 巻・第 2 号，pp.27-51
塚﨑裕子（2020）「キャリアによる国内人口移動の違いと世代効果」『人口問題研究』第 76 巻第 3 号、pp.375-393
Yuko Tsukasaki,"Impact of Spousal Violence on Employment at the Post-Leaving Stage in Japan", Violence and Victims, forthcoming

【Outline (in English)】
This course offers our Ph.D. holder's knowledge on tips to write a thesis. The lecture is mainly on the framework of writing academic paper.
The goals of this course are to realize relationship between theory, research, and thesis.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end report 70%, and class contribution 30%.

SOS500P1 － 070

公共政策論文技法２

渕元　初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主として修士課程１年生を対象として、修士論文を執筆する上でのポイントとなる事項について、各専攻及びコースの教員による講義と修士論文執筆者の報告という形で授業を展開する。１年生は是非とも受講してほしい。

【到達目標】
修士論文を執筆する上でのポイントを理解する。
換言すれば、修士論文を書くための学習方法、修士論文の構成の考え方、文献資料探索の進め方、調査の進め方、執筆の進め方、論文指導の受け方、発表会での報告、文章の訂正について、修士論文の完成に至るまでの過程を体得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
修士論文を書くための初歩から実践までを理解するために、教員と院生（修士号取得者）による報告によって講義を進める。原則として、教員は各専攻及びコースからそれぞれ１～２名が講義を担当する。また、修士号取得者は原則として各コースからそれぞれ２名（博士課程の在籍院生や修士課程修了者など）が担当し、修士論文の執筆に関する経験を報告する。各回とも、前半に各報告を受け、後半はその質疑とする。
第 7 回目の授業では各受講者によるリサーチ・プロポーザルの報告を行う。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の全体概要とスケジュール	講義の全体概要とスケジュールを示し、修士論文の執筆に関する標準的スケジュールについて説明する。
2	修士論文の執筆に向けて	研究テーマの選定や、先行研究の調査等について説明する。
3	教員１による修士論文執筆の経験 報告に対する討論	本学専任教員による講義 報告に対する討論
4	学位取得者１による修士論文執筆の経験	本学院生による講義 報告に対する討論
5	教員２による修士論文執筆の経験	本学専任教員による講義 報告に対する討論
6	学位取得者２による修士論文執筆の経験	本学院生による講義 報告に対する討論
7	教員３による修士論文執筆の経験	本学専任教員による講義 報告に対する討論
8	学位取得者３による修士論文執筆の経験	本学院生による講義 報告に対する討論
9	教員４による修士論文執筆の経験	本学専任教員による講義 報告に対する討論
10	学位取得者４による修士論文執筆の経験	本学院生による講義 報告に対する討論
11	教員５による修士論文執筆の経験	本学専任教員による講義 報告に対する討論
12	学位取得者５による修士論文執筆の経験	本学院生による講義 報告に対する討論
13	修士論文のプロポーザル作成に向けた準備	これまでの講義と報告に基づき、各自の研究における「問い」を明らかにし、それについて検討を加える。
14	まとめ	総括討論を行い、各自の課題を明確にする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて、各教員、各修了生よりレジュメを配布する。

【参考書】
特になし。必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各回の授業後に記入するコメント票の内容（25 %）、期末レポート（50 %）、授業中の質疑や討論における発言（25 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
修士論文執筆に当たっての心構えに始まり、学術研究の意義や方法、論文執筆上の作法などについて、専攻やコースを超えた複数の教員や修了生から学ぶ機会となっているようです。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
MA or PhD students in their first year are welcome to sign up to this course. Each lecture will provide students with an understanding of writing a Masters dissertation or PhD thesis. Upon completion of this course, students should be able to develop good academic practice.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Reaction paper 25%, Reporting paper 50%, Class contribution 25%

POL500P1 － 101

政策学研究

浦元　初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学からの政策研究へのアプローチについて、政策過程研究の方法論のうち、実証的な政策研究に必要なものを取りあげ、修士課程での研究の中で活用できるよう、その特徴、適した分析対象、期待される分析結果などについて考察する。

【到達目標】
政策過程研究の主要な理論、枠組、モデルについて概要を把握し、研究テーマに応じた分析方法の的確な選択、応用ができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究一般におけるアプローチ方法について整理します。受講者は、個人の関心に沿って課題を設定し、政策研究の分析方法を応用して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。
授業方式は原則として対面授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実証的な政策研究とは何か。また、なぜ政策の分析に理論・モデル・フレームワークを用いる必要があるのかを論じる。
第 2 回	政策研究のフレームワーク	政策研究における理論・モデル・フレームワークの概念を整理し、現代の政策研究の枠組みがどのように展開してきたかを振り返る。
第 3 回	政策研究におけるモデルの基礎 1	アクターに着目したモデルについて学ぶ。
第 4 回	政策研究におけるモデルの基礎 2	方法論に着目したモデルについて学ぶ。
第 5 回	政策決定における合理性と不確実性	合理性とは何か、合理的な意思決定は可能か検討する。
第 6 回	政策決定と制度・利益・アイディア	政策決定における３つの「I」について学ぶ。
第 7 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策決定と３つの「I」に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 8 回	アリソンの３つのモデル	G. アリソンによる対外政策決定研究のための３つの概念レンズから学ぶ。
第 9 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、アリソンの３つのモデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 10 回	キングダンの政策の窓モデル	J. キングダンの政策の窓モデルから学ぶ。
第 11 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、キングダンの政策の窓モデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 12 回	政策とデータ	政策立案に際してその根拠となる政府統計について考える。
第 13 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策とデータに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。
事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。
課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題報告（30%）及び期末レポート（50 %）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生による課題報告については、少しテーマを絞ったほうがよいかと考えました。受講生の皆さんと相談しながら工夫したいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
We now turn to more detail on how policies are actually made. The course will look at how policy agenda is set and how policy issues are constructed and framed. It will also explore how we can evaluate public policy. Important themes will include the role of ideas, institutions and interests in the policy-making process. The course will employ a number of case studies to give life to the theories and concepts explored.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Course presentation 30%, Short Essay50%, Class contribution 20%

POL500P1-128

行政学事例研究の方法

林　嶺那

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、行政学における事例研究の理論と実践について、体系書と実証研究を元に理解を深め、事例研究を実践できるようになることを目的とする。なお、本講義では、事例研究を「より大きな事例の集合に、少なくとも部分的に光を当てることを目的とするような単一あるいは複数事例の研究」と定義する。

【到達目標】
行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究のタイプと研究論文の構造	記述的な研究と因果的な研究の区別を理解した上で、研究論文の基本的な構造を学ぶ。
第 3 回	事例研究のタイプ	事例研究のタイプに関する著作の一部を読む。
第 4 回	事例選択の基準	事例選択の基準に関する著作の一部を読む。
第 5 回	記述的な事例研究	記述的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第 6 回	因果的な事例研究	因果的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第 7 回	定性的研究と定量的研究の違い	定性的研究と定量的研究の違いを理解し、両者を組み合わせた混合手法について理解する。
第 8 回	事例研究の評価基準	事例研究の評価基準に関する著作の一部を読む。
第 9 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。行政改革に関する論文を予定している。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。第一線公務員論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。リーダーシップに関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。ガバナンスに関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。途上国の行政に関する論文を予定している。
第 14 回	研究構想の発表	事例研究に基づく研究計画の構想を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
King, G., Keohane, R. O., & Verba, S., 1994, Designing social inquiry, Princeton university press.
Gerring, J., 2016, Case Study Research: Principles and Practices, Cambridge University Press.
Yin, R.K., 1994, Case Study Research: Design and Methods, Sage.

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
This course aims to deepen students' understanding of the theory and practice of case studies in public administration and enable them to implement case studies. In this course, a case study is defined as a study on single or multiple cases that aims to shed light, at least partially, on a more extensive set of cases. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

POL500P1 － 104

自治体議会論

鍵屋　一

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自治体議会の歴史、意義を学び、議会の課題、国内外における先進事例を調査研究することにより、二元代表機関としての議会・議員のあり方について理解を深める。これにより、執行機関との緊張関係の下で住民福祉の向上を図る議会・議員となることを目指す。

【到達目標】
研究活動の基本となる議会の意義、歴史、先進事例を調査研究し、学生間、講師とともに討議を行いそれぞれの問題意識に合わせて課題を深堀りしていく。これにより、現実の自治体議会の抱える課題と今後の議会改革方策を浮き彫りにできる。学生は洞察力を深め、討議による集合知を紡ぎだすことができる。学生が積極的に討議に参加し、自らと他者の理解を深める主体となっているかを評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業形式☒対面授業。主として松下圭一「政策型思考と政治」の議会関係部分を講師が解説し、重要部分について討議、集合知の紡ぎ出しを行う。また、現実の自治体議会のニュース、トピックスを積極的に取り上げ、解説、討議を行うことで学生の洞察力を高める。授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後にメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	議会の成立、歴史、意義と歴史	議会の成立過程、歴史、意義を学ぶ
第3.4回	各国の議会	わが国、および各国の議会の歴史、意義を学ぶ
第5.6回	各国の自治体議会の歴史	わが国、および各国の自治体議会の歴史、意義を学ぶ
第7.8回	各国の自治体議会の課題	わが国、および各国の自治体議会の現状と課題を学ぶ
第9.10回	自治体議会のあり方について	現実の自治体議会の課題、今後の方向性を学ぶ
第11.12回	自治体議会改革について	自治体改革の歴史と概要を学ぶ
第13.14回	災害時の自治体議会・議員について	災害時の自治体議会・議員のあるべき行動規範について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生の住む自治体議会のホームページ、直近の議事録を読む。直近の自治体改革の動向を示す書籍、ホームページ等を調査しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
政策型思考と政治、松下圭一、東京大学出版会、1991 年、4,644 円
なお、講師が必要な部分を資料として提供するので、購入する必要はない。

【参考書】
江藤俊昭「自治体議会学 議会改革の実践手法」等
自治体議会改革フォーラムホームページ、www.gikai-kaikaku.net

【成績評価の方法と基準】
討議への参加など平常点　70 %
振り返りシート　30 %

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、講義内容が濃密であるとの意見があった。理解が難しいと思われる部分については、質疑を促すとともに丁寧に解説していきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自治体、防災
＜研究テーマ＞自治体議会・議員の災害対策
＜主要研究業績＞紀要論文、議員研修

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this course is to help students acquire the history and significance of the local council.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to deepen the understanding of the council and members of parliament as a dual representative body.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports :30 %、in class contribution: 70%

POL500P1 － 105

公務員制度研究

森谷　明浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治主導、官邸主導の下における政官関係の在り方が議論される今日の状況も踏まえつつ、日本の国家公務員制度について、国際比較（英米独仏）なども織り交ぜながら、その内容及び実態について考察する。

【到達目標】
日本の国家公務員制度の具体的内容及び制度の背景にある事情について理解を深めるとともに、国際比較の中における日本の国家公務員制度の特色などについても考察する。これらを踏まえ、今後の国家公務員制度のあるべき姿について自ら考える能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義は対面で行う。まず、日本の国家公務員制度の成り立ち、全体像について概観する。その上で、採用や昇任、人事評価の仕組み、給与制度の概要などいくつかの主要分野に関する現行制度や運用状況などについて説明するとともに、そのような制度設計に至った背景事情などの解説も行う。その中で、国際比較における日本の特色や近年の公務員制度改革の動向などについても言及していく。
各回の授業の前半では、教員がその回に取り上げる分野について解説を行い、後半では学生が取り上げたい個別のテーマを選んで、自らが考える問題点や今後考え得る方策などについて自由討議を行い、学生が今後更なる研究を進めるに当たっての視座を提供していくことを主眼とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回・第2回	公務員制度の全体像及び成立過程	日本の公務員制度の全体像を示すとともに、国家公務員法の成立過程を見る。
第3回・第4回	採用、昇進、人事評価	国家公務員の採用、昇進、人事評価について考える。
第5回・第6回	給与	国家公務員の給与の決定過程について考える。
第7回、第8回	服務・倫理、身分保障、公平審査、研修	国家公務員に課されている服務・倫理に関する規定、国家公務員制度の身分保障とそれを受けた救済制度である公平審査などについて考える。
第9回、第10回	退職管理、高齢期雇用、天下り	国家公務員の退職管理や天下りの問題、高齢期の職員の活用（定年年齢の引上げなど）について考える。
第11回、第12回	公務員制度改革	公務員制度改革に関するこれまでの流れについて検証し、公務員制度のあるべき姿について考える。
第13回、第14回	公務員制度の将来像	それまでの講義内容を振り返り、将来のあるべき公務員制度としてどのようなものが考えられるかについて議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
村松岐夫編著「公務員人事改革―最新米・英・独・仏の動向を踏まえて―」（２０１８年学陽書房）
村松岐夫編著「最新公務員制度改革」（２０１２年学陽書房）
西尾勝著「行政学［新版］」（２００１年有斐閣）
西尾隆著「公務員制」（行政学叢書⑪）（２０１８年東京大学出版会）
森園幸男ほか編「逐条国家公務員法全訂版」（２０１５年学陽書房）
人事院ＨＰ　https://www.jinji.go.jp/
内閣官房内閣人事局ＨＰ　https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/index.html
内閣官房（旧）国家公務員制度改革推進本部ＨＰ　https://www.gyoukaku.go.jp/koumuin/index.html

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %（毎回の授業において、その回における課題を理解して自らの理解の上に立って議論に貢献しているか）
小論文（レポート）50 %（自ら選択する課題について考察を行った小論文）

【学生の意見等からの気づき】
学生自らが問題点を発見し考察を深めることができるようにします。

【その他の重要事項】
中央人事行政機関である人事院に在職し、国家公務員の人事行政の制度及びその運用を実際に担当している。さらに内閣人事局などへの出向経験を通じ、人事院以外の角度からも人事行政に関わってきている。
これらを通じた経験や知見を紹介し、近年の公務員制度の動向や将来のあるべき公務員像などについても幅広く議論していきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞公務員制度
＜研究テーマ＞近年における我が国の公務員制度の動向
＜主要研究業績＞
森園幸男ほか編「逐条国家公務員法全訂版」（２０１５年学陽書房）（共著）
吉田耕三編著「公務員給与法精義第五次全訂版」（２０１８年学陽書房）（共著）

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire Japanese civil service system including international comparison(U.K.,U.S.A.,Germany and France).
This course deals with detailed explanation of the Japanese civil system and its actual implementation.
Your overall grade in this course will be decided based on the following
Short reports: 50%,in-class contribution: 50%

POL500P1 － 110

政策過程研究

土山　希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。
都市型社会の構造と特質を知り、こんにちにいたるまで歴史的にどのような政策類型が蓄積されてきたかを理解し、政策主体と〈政策・制度〉のありかたを理解する。そのうえで、政策過程がどのように進むのかを学ぶ。
この講義を通じて、各自の研究対象とする政策分野を政策学からとらえるための視角を養うこととなる。

【到達目標】
この講義の到達目標は以下である。
・公共政策が展開される前提であるこんにちの社会構造（都市型社会）の特質を理解する
・歴史的に形成されてきた政策類型をふまえ
・公共政策の過程の基礎を学び
・各自の研究対象とする政策分野をとらえる政策学の視角を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。
※初回開講時にはテキスト１章を読了して参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	導入	の講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第２回	講義「政治・政策と市民」	都市型社会における〈政策・制度〉と市民の関係を学ぶ（第１章）
第３回	都市型社会の特性	都市型社会と政策の特性を学ぶ（第２章）
第４回	都市型社会の成立	政策の歴史と類型を学ぶ（第３章）
第５回	政策の多元化	政府の三層化と政策（第４章）
第６回	日本と近代化	日本の政策を条件づける近代化を整理（第５章）
第７回	政策の主体	都市型社会における政策主体の多様化を学ぶ（第６章）
第８回	政策の資源：政治技術と政策手法	政治技術と政策手法を学ぶ（第７章）
第９回	政策の資源：政府と資源の調達	政策の資源とその調達、政府の機能の転換を学ぶ（第８章）
第10回	政策型思考の特質	政策型思考の特質と論理を学ぶ（第９章）
第11回	政治思考の特質	政治思考と〈決断〉の特質を学ぶ（第 10 章）
第12回	政策型思考と政策主体	政策型思考の「習熟」を学ぶ（第 11 章）
第13回	政策の決定	政策の決定とその過程（第 12 章）
第14回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。テキスト、配布資料、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】
松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会,1991 年。

【参考書】
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018 年。
土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。
石

【成績評価の方法と基準】
授業への参加：議論への参加（25 %）、コメント（25 %）の様子、授業の成果：授業内での報告（25 %）、期末レポート（25 %）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】
講義中、また講義後にコメントを集め、その内容を反映させている。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】
Policies (and their systems) are the "foundation of life" for people living in today's society (urban-type society).
We'll learn the structure and characteristics of urban-type society, and understand the policy process.
It will develop your perspective for your research from the perspective of policy studies.
Learning Objectives;
- Understand the characteristics of today's social structure ('Urban-type Society'), which is the premise for public policy.
- Understand the policy types that have been formed historically.
- Understand the basics of the process of public policy and gain a policy studying' perspective.
Learning activities outside of classroom;
- Completion of textbook and related papers/books
Grading Criteria /Policy
- Participation 50% (discussion 25%, Presentation 25%)
- Achievement 50% (report on presentation 25%, the final report 25%)

SOW500P1 － 111

自治体福祉政策論

鏡　諭

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在社会保障給付費は１００兆円を超えている。国の予算においては、社会保障関係費として一般会計の４割近くを支弁している。自治体において、介護保険制度や高齢者福祉制度の運営が課題となっている。高齢者の生活を支える自治体政策を通して、これからの更なる高齢社会に向かう人々の暮らしに、どのような給付と負担の関係を構築する必要があるのかを考える。
今日の社会保障制度改革においては、給付の縮減を是とした改正が続いているが、安心できる暮らしを維持していく事が可能かを議論する。財源負担の在り方や世代間の給付と負担のバランス等を学ぶ。

【到達目標】
2000 年に制度化された介護保険は、今や 10 兆円を超える規模の給付となり、この後もさらに拡大を続けようとしている。この介護保険制度を中心とした社会保障における給付と負担の形について研究をして、政策の在り方を理解する。
キーワードは次の通り。
・介護保険制度の課題と市町村対応
・地域包括ケアの課題
・介護予防日常生活支援事業の可能性
・介護と医療の連携の課題
・判断能力を欠く状況になった場合の意思決定
・成年後見制度の効果と課題
上記それぞれの項目について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業は対面授業で、実施する。しかし、社会情勢により、対面授業が難しい場合は、ブレンド型授業を実施し、通学が困難な状況にも対応する、
また、次の各項目等について講義と院生の発表により研究する。
授業においての質問やレポートにかかる解説は、質問等があった次の回の授業で対応する。
さらに、映像資料を用いた分かり易い説明を行う。
各項目については、以下の通り。
・日本の将来予測から社会保障のあり方について
・介護保険制度創設と自治体高齢者福祉行政の変化の理解
・措置制度から契約への変化が意味するものの理解
・2006 年・2012 年・2015 年・2018 年制度改正の課題
・介護予防と地域支援事業の課題把握
・在宅医療と地域包括ケアの機能と役割の理解
・一人暮らし高齢者・認知症高齢者支援乃実態把握
・意思能力のない人の医療同意についての問題提起

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション＆高齢者をとりまく諸情報の整理と社会保障・自治体福祉政策	(1) 社会変化と社会保障 (2) 自治体福祉政策の必然性 (3)2020 年介護保険改正後の議論
第 3.4 回	介護保険制度 (1) ☆介護保険制度の理念と課題 (介護保険によって自治体福祉政策がどのように変わったか)	発表　A (1) 措置から契約へ (2) 介護の社会化 (3) サービスの質の担保と効率（民間サービスの参入と課題・ケアマネジメントの課題） (4) 介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画の策定 (5) 給付と負担・保険料決定の仕組み
第 5.6 回	介護保険制度 (2) ☆介護保険改正のめざしたもの (介護保険における給付と負担)	発表　B (1) 介護保険と地方分権（三位一体改革の影響） (2) 介護予防・日常生活支援総合事業とは何か（地域支援事業創設） (3) 崩れた給付と負担のバランス (4) 自立支援介護とは何か
第 7.8 回	介護保険制度 (3) ☆地域包括支援センターと介護予防の政策的効果	発表　C (1) 地域包括支援センターの創設 (2) 地域包括ケアとは何か (3) 介護予防・日常生活支援総合事業の課題 (4) 医療との連携の形 (5) 地域の見守りネットワーク
第　9.10 回	介護保険制度 (4) ☆介護サービス事業の現状と課題 (介護保険外の高齢者ケアの課題は何か・地域ネットワークについて)	発表　D (1) 高齢者虐待・介護放棄 (2) 独居の認知症高齢者 (3) 生活支援の難しさ (4) 精神疾患者の支援
第 11.12 回	介護保険制度 (5) ☆施設サービスと地域密着サービス (在宅と施設高齢者サービスの選択)	発表　E (1) 高齢者福祉施設の種類と目的 (2) 特養を利用する人とは (3) ユニット個室化の課題 (4) 地域密着サービスとは (5) 住んでみたい施設づくり
第 13.14 回	高齢者ケア ☆判断能力を欠く状況における権利擁護 (介護保険外の高齢者ケアの課題と地域ネットワークについて)	発表　F (1) 成年後見制度の概要 (2) 成年後見制度利用支援事業・生活支援事業（旧地域福祉権利擁護制度） (3) 市民後見制度の課題 (4) 任意後見制度と法人後見 (5) 判断能力を欠く者の医療侵襲行為の阻却事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
内容としては、テキストを読み問題をまとめる。
事後学習は、授業の内容から質問をまとめ、次回の授業時に質問をする。

【テキスト（教科書）】
教科書は、「介護保険制度の強さと脆さ」、鏡諭編著、公人の友社刊、2017 年 4 月発行、定価 2600 円＋税を使用する。
さらに適宜参照資料としてプリント配布する。

【参考書】
「総介護社会」岩波新書刊　小竹雅子著
「総括・介護保険の 10 年～2012 年改正の論点～」公人の友社刊　鏡　諭編著
「自治体現場から見た介護保険」公人の友社刊　鏡　諭著

【成績評価の方法と基準】
授業での発表及びディスカッションによる総合評価とする。課題発表については、７０％以上の配点とする。その他は講義中の発言及び質問、さらにディスカッション等を３０％の評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートによる要望に沿うように対応する。また、初回のオリエンテーションの際に、院生からの要望について意見を徴収する。

【学生が準備すべき機器他】
PC。適宜映像資料を活用する。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは、授業終了後実施する。
自治体福祉行政に身を置き、介護保険制度の創設及び運営にかかわった実務経験を生かして、現場での知見を基に院生に情報提供していく。

【担当教員の専門分野】
自治体福祉政策、介護保険制度、地方自治

【Outline (English)】
授業概要（Course outline）:This course introduces We discuss and understand issues and responses based on actual issues in local government sites on the issues of care insurance system and the elderly care of local governments and The social welfare policy in the municipality begins with the history that the benefit is provided to the poor and the anti-poverty as the agency delegation clerical work and measures are limited to the target person to students taking this course.
到達目標（Learning Objectives）： The goals of this course are to The policy that the elderly can live with peace of mind is about the balance of benefits and burdens between generations, In local Government policy ”Benefits and Burdens”, and discuss the relationship between.

授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）： Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）： Final grade will be calculated according to the following process in-class report (70%), and in-class contribution.

POL500P1 － 113

コミュニティ制度論

西谷内　博美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティとは、合併によって制度的枠組を失った身近な地域的まとまりである。という観点から、このコミュニティを再制度化する政策ないし制度を国際比較的に考察する。これによってコミュニティ政策というものについて基礎的な理解を得ることが目的である。

【到達目標】
・「参加」と「協働」、「地域的まとまり」や「都市内分権」といった概念を用いて、現実のさまざまなコミュニティの制度を比較分析することができる。
・コミュニティの制度について、それぞれの地域の歴史文化的特性を踏まえたうえで、制度の特徴や課題について考察し説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
対面授業。授業の構成は受講者数に依存しますが、おおよそ、講義が 2/3、受講生による課題発表が 1/3 程度を予定しています。講義は、think-pair-share 等アクティブラーニングの手法を取り入れ、受講生の主体的な参加を促します。課題へのフィードバックは授業内で実施されます。すなわち、課題発表のさいに、発表された内容についてクラス全体で検討・議論をするなかで、課題の取り組みに対する量的・質的なフィードバックが行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回前半	オリエンテーション	授業の内容と進め方を共有する。
第 1 回後半	コミュニティ制度論の視角	たとえば「参加」と「協働」といった、コミュニティの制度を分析するための本授業におけるキー概念を共有する。
第 2 回前半	日本におけるコミュニティの制度化	日本におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 2 回後半	地域運営の条件	ミルトン・コトラーの地域運営の条件について学習する。
第 3 回前半	ドイツにおけるコミュニティの制度化	ドイツにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 3 回後半	自治会・町内会論	日本の自治会・町内会に関して、民間原理の側面と、制度的な側面について考察する。
第 4 回前半	スコットランドにおけるコミュニティの制度化	スコットランドにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 4 回後半	ライティングの技法	期末レポートの課題を提示するとともに、英米型のライティングメソッドを共有する。
第 5 回前半	フランスにおけるコミュニティの制度化	フランスにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 5 回後半	インドにおけるコミュニティの制度化Ⅰ	インド農村部におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 6 回前半	フィリピンにおけるコミュニティの制度化	フィリピンにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 6 回後半	インドにおけるコミュニティの制度化Ⅱ	インド都市部におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第 7 回前半	ライティング発展	期末レポートの進捗状況、すなわちテーマや方向性などについて確認・議論・検討する。
第 7 回後半	日本におけるコミュニティ政策の展開	日本におけるコミュニティ政策の展開を概観し、その制度的特徴及び今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を予習・復習し理解を深めてください。とりわけ第 1 回後半で実施するキー概念の共有は極めて重要です。
また、各自、担当課題の報告準備（学習、調査、資料作成）をしてもらいます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
名和田是彦編, 2009, 『コミュニティの自治』日本評論社.

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 35 %、課題報告（レジュメ作成を含む）35 %、授業内での討論・発言 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、コミュニティ論、国際協力論
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発と社会
＜主要研究業績＞
2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.
2016『開発援助の介入論』東信堂.
2011「デリー準州のバギダリ（Bhagidari）政策」『国際開発研究』67-80.

【Outline (in English)】
I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries.
The goals of this course are to A, B, and C.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end essay: 35%、in class presentation (including reporting regime) : 35%、in class contribution: 30%.

POL500P1 － 114

日本政治史研究

明田川　融

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、あらためて日本政治史において対日占領期の持つ意味を問う研究が上梓されている。本授業は、連合国―といっても主力は米国であったが―による対日占領と、米国による琉球／沖縄占領とを比較しながら、第二次大戦後の日本占領について再検討・再評価を試みるものである。いわゆる日本本土占領および琉球／沖縄占領にかかわる一次資料・研究論文・文献の精読を踏まえたうえで、受講生と議論を行いたい。

【到達目標】
受講生は、占領史に関する先行研究を踏まえたうえで、日本政治史における対日、対琉球／沖縄占領の光と影の所産を的確に把握・評価できるようになることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
テキストとしては、福永文夫『日本占領史 1945-1952　東京・ワシントン・沖縄』（中央公論新社、2014 年）および櫻澤 誠『沖縄現代史　米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社、2015 年）を精読し、議論する。
なお、2 回目以降となるが、授業のはじめに課題（試験やレポート等）に対して講評し、受講生に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	対日占領性政策の立案	SWINCC150 シリーズ、JCS1380 シリーズ、ポツダム宣言、ブラックリスト作戦の形成
第 2 回	対日占領のはじまり	その究極目的
第 3 回	統治体制の変革	象徴天皇制と主権在民への道
第 4 回	双面神の憲法構想	「平和憲法」と沖縄要塞化の相関
第 5 回	対日早期講和の提唱と安保問題	いわゆる芦田メモと沖縄の将来に関する昭和天皇メッセージ
第 6 回	戦後政党政治の起動	占領初期における本土と沖縄の政党活動
第 7 回	対日政策の転換	PPS28 シリーズ～NSC13 シリーズの形成
第 8 回	講和論争	日米で二分される国論
第 9 回	講和準備研究作業	NSC60/1 への道、A・B・C・D 作業
第 10 回	講和交渉	日米の外交指導
第 11 回	対日講和条約の成立	第 3 条（潜在主権方式）の形成を中心に
第 12 回	日米安保条約の成立	「安保条約の論理」を中心に
第 13 回	サンフランシスコ体制	その光と影を考察する
第 14 回	日本、琉球／沖縄占領とは何だったのか	日本政治史における占領の意味を考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業を履修する大学院生は、自ら関連する文献や資料を読んだり、レポート課題に取り組んだりすることにより、各々が適当と判断する時間の、授業時間外学修が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】
福永文夫『日本占領史 1945-1952　東京・ワシントン・沖縄』中央公論新社、2014 年。
櫻澤 誠『沖縄現代史　米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』中央公論新社、2015 年。

【参考書】
思想の科学研究会編『共同研究／日本占領』徳間書店、1972 年。
竹前栄治『GHQ』岩波書店、1983 年。
五百旗頭真『米国の日本占領政策　戦後日本の設計図』上・下、中央公論社、1985 年。
坂本義和・R. E. ウォード編『日本占領の研究』東京大学出版会、1987 年。
袖井林二郎『吉田茂＝マッカーサー往復書簡集　1945-1951』法政大学出版局、2000 年。
賀茂道子『ウォー・ギルト・プログラム　GHQ 情報教育政策の実像』法政大学出版局、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点のみ（100 %）。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度（出席等）、報告（レジュメ）の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用したり、オンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】
重要なお知らせ（2022 年 2 月 8 日）
新型コロナ禍により、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小マメにチェックするようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　日米関係史、日本政治外交史
＜研究テーマ＞　日米地位協定の成立過程
沖縄と日米安保体制の歴史
日本と核兵器との関係史
＜主要研究業績および刊行物＞
・『日米行政協定の政治史―日米地位協定研究序説―』法政大学出版局、1999 年。
・『沖縄基地問題の歴史―非武の島、戦の島―』みすず書房、2008 年（第 30 回沖縄協会・沖縄研究奨励賞 [社会科学部門] 受賞）。
・『日米地位協定―その歴史と現在―』みすず書房、2017 年。
・波多野澄雄・河野康子監修（明田川補）『沖縄返還関係資料』（第 1 回配本分、全 7 巻）現代史料出版、2017 年。
・「核兵器と『国民の特殊な感情』」1～6（雑誌『みすず』に 2013 年 6 月号より 2015 年 8 月まで不定期連載）。
・ジョン・ハーシー『ヒロシマ　増補版』法政大学出版局、2003 年（共訳）。
・ジョン・W. ダワー著『昭和　戦争と平和の日本』みすず書房、2010 年（監訳）。
・ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック著『転換期の日本へ　「パックス・アメリカーナ」か「パックス・アジア」か』ＮＨＫ出版、2014 年（共訳）。
・『占領期年表 1945-1952 年　沖縄・憲法・日米安保』創元社、2015 年（監修）。
近年、広島・長崎・ビキニを経験した日本の核兵器に対する〝国民感情〟と政府の安全保障政策との連関について研究をまとまるべく、資料収集や分析視覚の検討を行っている。
また、1950 年代半ばの沖縄で米軍により強行された土地強制収用にさいして、住民代表である立法院（県議会のような組織）がなしえたことと、なしえなかったことの実証にも取り組んできた。
現在は、波多野澄雄・筑波大学名誉教授および河野康子・法政大学名誉教授ならびに平良好利・中京大学准教授らによる監修で刊行が進められている沖縄施政権返還交渉関係資料集成の編集補佐がおもな仕事となっている。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In recent years, remarkable literatures on Allied occupation of Japan proper and American occupation of Ryukyu (Okinawa) islands have been published. Political history of Japan 1 is an essay to revise and re-evaluate occupation of Japan. In this class, comparison perspective between occupation of Japan proper and that of Ryukyu (Okinawa) is used. Students must read a lot of articles, literatures, and historical documents.
【Learning objectives】
The goal of this course is to understand political process of the Allied Occupation of Japan.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria/policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution: 100%

POL500P1 － 115

地方自治論

土山　希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。
今日的意味での日本の地方自治制度は、1947 年の日本国憲法・地方自治法の同時施行を起点とするが、地方自治の実態は、高度成長期の社会変動のなかで進む「自治体の政府化」によって展開していった。2000 年地方分権改革は、この「自治体の政府化」を反映する大きな地方自治制度改革であった。しかし、2020 年代の地方自治はなお、この制度改革を実態として生かしきれていないように見える。
本講座は、2000 年分権改革直前、また 2020 年間近の２つの地方自治・自治体論を読んで比較し、地方自治の今日的課題を検討する。

【到達目標】
この講義の到達目標は以下である。
· 2000 年分権改革における地方自治と自治体改革の到達点を理解する
· こんにちの地方自治と自治体の状況と課題を理解する
· 高度成長期以降の歴史的文脈で地方自治をとらえる視線を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては、「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第 2 回	高度成長期と「自治体の政府化」	テキストの理解の前提となる内容の講義
第 3 回	『自治体は変わるか』第１章	テキスト精読と解題
第 4 回	『自治体は変わるか』第２章	テキスト精読と解題
第 5 回	『自治体は変わるか』第３章、第４章	テキスト精読と解題
第 6 回	『自治体は変わるか』第５章	テキスト精読と解題
第 7 回	『自治体は変わるか』第６章	テキスト精読と解題
第 8 回	政『自治体は変わるか』第７章	テキスト精読と解題、テキスト全体の振り返り
第 9 回	『地方自治講義』はじめにと第１章	テキスト精読と解題
第 10 回	『地方自治講義』第２章	テキスト精読と解題
第 11 回	『地方自治講義』第３章	テキスト精読と解題
第 12 回	『地方自治講義』第４章	テキスト精読と解題
第 13 回	『地方自治講義』第５章	テキスト精読と解題
第 14 回	『地方自治講義』第６章	テキスト精読と解題、講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。テキスト、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】
松下圭一『自治体は変わるか』岩波書店,1999 年。
今井照『地方自治講義』ちくま新書,2017 年。

【参考書】
土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加：議論への参加（25 %）、コメント（25 %）の様子、授業の成果：授業内での報告（25 %）、期末レポート（25 %）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度が科目の初年度であるため、反映するべき意見を受け取っていない。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】
Policy is the "foundation of Itonami" for people living in today's society (urban society).
Japanese local governance system of today starts with the simultaneous enforcement of the Constitution Law and the Local Autonomy Law in 1947. However, the actual development of local governance was started with social strucure changing during the high-growth period, as "govermentalization of municipality".
The 2000 decentralization reform was a major reform of the local governance system that reflected this "govermentalization of municipality". However, local government in the 2020s still does not seem to make full use of this institutional reform.
In this lecture, we will read and compare the two textbooks of local autonomy / local government theories just before the 2000 decentralization reform and the 2020s. It'll shows us the current issues of local governance.
Learning Objectives;
- Understand the goals of local governance/goverment reform in 2000 decentralization reform
- Understand the situation and issues of today's local autonomy and local governments
- Cultivate a perspective to understand local governance in the historical context of the high-growth period and beyond
Learning activities outside of classroom;
- Completion of textbook and related papers/books
Grading Criteria /Policy;
- Participation 50% (discussion 25%, Presentation 25%)
- Achievement 50% (report on presentation 25%, the final report 25%)

POL500P1 － 116

自治体経営論

谷本　有美子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自治体経営」が意味する概念は幅広い。1990 年代以降、自治体において「経営」の概念が積極的に登場したのは、NPM 理論の影響が多大である。それらは主に行政改革の側面から、民間企業の経営手法を新たな行政スタイルとして導入を図る動きとして活発化した。また、大都市による「都市経営」や地域開発に伴う「地域経営」など、自治体の事業者的な側面に着目した概念も広義の「自治体経営」と解しうる。加えて、2000 年代以降は政策実施を民間セクターが担う例が拡大し、政府セクターと民間セクターとの境界線が曖昧となりつつあることから、近年の自治体経営は「公共経営」としての色彩を強めている。

そこでこの授業では、まず「公共経営」に関わる基本的な制度と理論を学ぶ。その上で、21 世紀の自治体が直面する「地域の持続可能性」という公共課題を前提に、自治体が民間セクターとの連携や地域資源の活用を図る際の政策責任や民主的統制の問題も視野に入れながら、これからの自治体経営とガバナンスのあり方について理念的に検討する。

【到達目標】

・自治体経営に関わる基本的な制度や理論を理解する
・制度運用を多角的な観点から研究する術を身につける
・公共政策に対する理念的な思考力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業で行う。
前半は、テキストや参考書等を利用した講義と受講生間の討議を通じ、公共経営に関わる基本的な制度や理論、及び運用の実際についての理解を深める。
後半は、受講生による事例報告や論点提起を中心にテーマに即した討議を行い、既存のしくみや制度論を超えた多角的な観点から自治体経営のあり方や今後の可能性について考察する。
受講者数に応じ、授業内容や取り扱うテーマの順序に変更があり得るので、その際は前半の授業時に変更スケジュールを案内します。
発表やレポート等に対する講評は授業内に適宜行い、全体にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション－自治体経営と公共経営	既存の自治体経営論や公共経営論の視座を俯瞰する（テキスト第 1 章参照）
第 2 回	行政改革と NPM の潮流	日本の行政改革の歴史や傾向と 90 年代の NPM 改革を把握する（テキスト第 2 章参照）
第 3 回	民間委託の歴史とパートナーシップへの展開	自治体における民間委託の歴史と展開を学び、運用の課題を検討する（テキスト第 3 章参照）
第 4 回	指定管理者制度をめぐる論点	指定管理者制度の運用を通じて提起された課題と影響を先行研究が示した論点を中心に検討する（テキスト第 7 章参照）
第 5 回	公営企業・第三セクターによる事業経営	自治体の公営企業のしくみや会計的な特性を確認した上で、外郭団体として設立される第三セクターの活用動向について検討する（テキスト第 4 章参照）
第 6 回	地方独立行政法人制度の効用	中央政府の政策実施部門分離を踏まえ、自治体に導入された地方独立行政法人制度の運用状況を概観し、その効用を検討する（テキスト第 8 章参照）
第 7 回	PFI・市場化テストの導入と現在	2000 年代に政府主導で推進された民間活用手法を取り上げ、そのしくみと導入の実際を検討する（テキスト第 5 章及び第 6 章参照）
第 8 回	非常時の自治体マネジメントと資源調達の方法	災害やパンデミック等、予測不能な事態に直面した自治体の人的資源や財源の調達、民間との連携策等について、事例から考察する
第 9 回	公務従事者の多様化と人材活用	非正規職員が増加する中での会計年度任用職員制度の運用に着眼し、人的資源のマネジメントの可能性を考察する（テキスト第 12 章参照）
第 10 回	政策評価と議会の役割	自治体行政における政策評価制度と二元代表制を担う議会によるガバナンスとの関係性について考察する（テキスト第 11 章参照）
第 11 回	自治体の DX・AI 活用	テーマに関する事例報告を受講生が行い、全体で討議を行う
第 12 回	持続可能な地域社会と多様な協働	テーマに関する事例報告を受講生が行い、全体で討議を行う
第 13 回	自治体の政策責任と民主的統制	自治体による政策責任や民主的統制についての理念を踏まえ、前回までの自治体経営のあり方についての討議を振り返りながら、総合的に検討する
第 14 回	自治体間の協力体制と「公・共・私のベストミックス」を考える	近年、政府が提唱する公共サービスの新たな提供手法について、ガバナンスの観点から考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを通読し、複数の参考書を読む。
事例報告や論点提起のための準備を行う。
討議の論点事項を中心に追加情報を収集し、精察する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

外山公美ほか (2014)『日本の公共経営－新しい行政』北樹出版

【参考書】

稲継裕昭 (2013)『自治体行政の領域－「官」と「民」の境界線を考える』ぎょうせい
片木淳・藤井浩司 (2012)『自治体経営学入門』一藝社
曽我謙吾 (2019)『日本の地方政府-1700 自治体の実態と課題』中央公論新社
トニー・ボベール、エルク・ラフラー／みえガバナンス研究会訳 (2008)『公共経営入門　公共領域のマネジメントとガバナンス』公人の友社
柗永佳甫編著 (2015)『公共経営学入門』大阪大学出版会
武藤博己編著 (2004)『【自治体改革◆第 2 巻】自治体経営改革』ぎょうせい
ヤン＝エリック・レーン／稲継裕昭訳 (2017)『テキストブック 政府経営論』勁草書房
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内報告 30 %、平常点 20 %、最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの質疑を踏まえ、後日授業で補足説明や追加資料の提供を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治、市民自治
＜研究テーマ＞中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制
＜主要研究業績＞
『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』（2019）公人の友社
「『透明性』・『誠実性』・『戦術性』－“転職”を迫られる地方公務員」(2001)『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい
「国による『上から』の自治体統制の持続と変容」（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会
「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢　人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】
The concept of“management of local government”is broad. The NPM theory which was introduced to Japan in the 1990s, a new administrative style, were made use of mainly in the aspect of administrative reform, as a movement to introduce the management methods of private companies. Such as "city management" by large cities and "regional management" accompanying regional development, although they are focus on the business aspects of local governments, can also be interpreted as "management of local government" in a broad sense. The phenomenon that private sector and the voluntary sector has been taking charge of policy implementation since the 2000s raised needs of the local governments to work on "public management".
First, students learn the basic systems and theories related to "public management". Then, assuming the public issues of "local sustainability" that local governments face, we'll consider the management of local government which cooperating with the private sector and using regional resources, while taking into account the issues of policy responsibilities and democratic control.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. To understand the basic systems and theories related “public management
-B. To acquire the skill of research the way of public management and enforcement from various point of view
-C. To develop the ability to think based on the philosophy of public policy
Students will be expected to prepare for case reports and for raising issues, besides read through the text in advance and read multiple reference books. After the class meeting to gather and scrutinize additional information, focusing on the issues of discussion. Before/after each class meeting, your study time will be about two hours.
Your overall grade will be decided based on the following
Term-end report (50%), in-class presentation (30%), and participation in discussions (20%).

POL500P1 － 117

比較公務員制度研究

申　龍徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
比較官僚制の学際的な理解及び公務員制度改革の国際比較

【到達目標】
①官僚制に対する学際的理解を深めるとともに、官僚制がもつ現代的な病理現象の発生メカニズムが理解できる。
②政府・行政機能の転換が求められる中、公的セクターの担い手である公務員制度の現状と改革課題について、国際比較の観点から比較分析できる。
③官僚制及び公務員制度における日本的特徴を識別し、具体的かつ個別的な対応策を提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は、前半の講義と後半は受講者の発表による。講義では、比較官僚制研究の学際的な理解を深めることにより、政府官僚制の病理現象に対する分析能力の向上を目指すとともに、政府や行政機能の転換が求められている現代社会における公的サービスの担い手のあり方について e-HRM などの人的資源管理などの手法も取り入れた官民比較、OECD 加盟国を中心とする国際比較を行う。発表は、比較官僚制に関する先行研究の紹介・分析、事例分析による学際的な分析手法の習得、個人が設定した課題の発表を中心に構成する。受講生には、期末に課題レポートの提出及びその発表を求め、質疑応答を行う。課題レポートについては、学際的なコメントを付けてフィードバックする。原則として対面で授業を実施すること、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンラインに切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回目	比較官僚制研究の意義、特性、研究動向	比較官僚制理論の国際的・国内的状況を検討する。
2 回目	先行研究の分析①	官僚制の病理現象と行政文化との関係
3 回目	先行研究の分析②	戦後の公務員法制の形成と国際比較について理解する。
4 回目	現状分析①	上級職公務員制度の国際比較（英・米・仏・独・日・韓）
5 回目	現状分析②	公務員制度改革動向の国際比較（HRM、成果主義、人事評価）
6 回目	課題発表①	受講者の課題発表と討論
7 回目	課題発表②	受講者の課題発表と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
事前に講義レジメと関連する参考資料などをアップする。

【参考書】
事前に講義レジメと関連する参考資料などをアップする。

【成績評価の方法と基準】
質問力（25 %）、調査力（25 %）、構成力（25 %）、プレゼンテーション（25 %）の 4 つの要素による絶対評価

【学生の意見等からの気づき】
後半では受講生の課題発表が必須ですので、発表テーマなどを事前に準備してください。

【行政学】
＜専門領域＞行政学、比較行政
＜研究テーマ＞比較自治行政、行政文化
＜主要研究業績＞
『現代日本の公務員人事ー政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』（執筆分担、第一法規、2019）
『公務員制度改革という時代』（執筆分担、敬文堂、2017）
『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版局、2013）
「東アジアの行政文化研究の形成と課題：文化決定論から〈文化理論〉及び〈競争価値モデル〉の応用へ」（単著、公共政策志林、2014）
『アジアの中の官僚制度：歴史と現在』（共著、勉誠出版、2011）

【Outline (in English)】
Interdisciplinary understanding of comparative bureaucracy
International Comparison of Public Service System Reform
Interdisciplinary understanding of bureaucracy
Understand the mechanism of modern pathological phenomena of bureaucracy.
Required reading references
Absolute evaluation (100%) based on four questions: questioning ability (25%), research ability (25%), composition ability (25%), and presentation ability (25%).

POL500P1 － 118

比較自治行政研究

申　龍徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自治行政をめぐる学際的な理論と国際動向の国際比較

【到達目標】
①比較自治行政研究の学際的な動向を理解できる。
②ローカルガバナンスの形成過程、改革動向に関する国際比較を通じて自治行政の国際化・世界化の推移が分析できる。
③自治行政が抱える様々な個別課題の国際比較を通じて、その解決方法を提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は、前半の講義と後半の受講生の発表で構成する。講義では、自治行政研究の学際的な基盤である主要概念の分析のほか、自治行政の制度・政策の国際比較を通じて自治行政の国際化（世界化）現象を理解するとともに、自治行政をめぐる制度改革や政策競争の現状把握を利用して、現実社会において求められている政策課題についてその解決方法の提案を目指す。受講者の発表は、個人の関心に沿った課題設定を行い、その解決策を内外の事例分析により得られた知見を利用し、新しい政策案の提示が求められる。
受講生には、期末に課題レポートの提出及びその発表を求め、質疑応答を行う。課題レポートについては、学際的なコメントを付けてフィードバックする。
原則として対面で授業を実施すること、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンラインに切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション	比較自治行政研究の意義、範囲、背景、方法
2 回目	概念の整理	自治体学、自治体行政学、ローカルガバナンスなど、類似する概念の比較
3 回目	政府間関係（IGR）	政府間関係の国際比較（英米独仏）
4 回目	国際比較 A	地方分権と自治体改革の動向
5 回目	国際比較 B	公共政策及び行政サービス改革
6 回目	事例分析 A/B	受講者の事例発表・討論
7 回目	事例分析 C/D	受講者の事例発表・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
事前に、講義レジメ及び関連する参考資料などをアップする。

【参考書】
事前に、講義レジメ及び関連する参考資料などをアップする。

【成績評価の方法と基準】
質問力（25%）、調査力（25%）、構想力（25%）、プレゼンテーション（25%）の 4 つの要素による絶対評価

【学生の意見等からの気づき】
後半において受講生の課題発表が必要ですので、事前に発表テーマなどを考えておいてください。

【行政学】
＜専門領域＞行政学、比較行政
＜研究テーマ＞比較自治行政、行政文化
＜主要研究業績＞
『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版局、2013）
「東アジアの行政文化研究の形成と課題：文化決定論から〈文化理論〉及び〈競争価値モデル〉の応用へ」（単著、公共政策志林、2014）
『アジアの中の官僚制度：歴史と現在』（共著、勉誠出版、2011）

【Outline (in English)】
Comparison of interdisciplinary theory and international trends over autonomous administration
Understand the interdisciplinary trends in comparative autonomous administration research
Required reading references
Absolute evaluation (100%) based on four questions: questioning ability (25%), research ability (25%), composition ability (25%), and presentation ability (25%).

POL500P1 － 119

防災危機管理研究

鍵屋　一

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東日本大震災の発生以後、国土強靭化など防災対策の重要性が叫ばれている。そして、災害には大地震、風水害、火山など自然災害、原子力災害など大規模な事故、テロなど人為的災害など多様に存在する。現代は危機の時代であり、防災危機管理は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマとなっている。本授業は、大学院生が防災危機管理に強い人材になるよう支援する。

【到達目標】
①日本の国・自治体の防災危機管理の現状と課題を理解する。
②現状の政策と被害軽減の具体例を研究する。
③今後の国・自治体の防災危機管理政策のあるべき姿を研究する。
④大学院生自身の危機対応力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業形式☒対面授業
授業では、自然災害を中心に防災対策の現状と課題を理解し、現実的な解決政策を研究する。その際、わが国の防災文化、法制度、行政構造、市民意識を念頭において政策的アプローチを重視した講義を行う。
また、ワークショップ形式も併用し、自らの頭で考え、仲間や講師と議論することで、より深い理解につながるように努めていく。
授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後であってもメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回・2回	ガイダンス及び国・自治体の防災危機管理政策の概観	講師の自己紹介、防災危機管理の講義の狙い、概要の説明。PPTおよび中央防災会議資料を使用して国、自治体の防災危機管理政策の全体像を説明する。
第3回・4回	大災害時の市民、行政の活動	阪神淡路大震災時の対応をした行政職員の生々しい記録を読む。その後、グループワークでKJ法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
第5回・6回	地震防災と耐震化	地震防災の最重要課題である耐震化の政策の変遷について解説する。現在の、専門家や地域の取り組みを紹介しながら、今後の推進方策を検討する。
第7回・8回	災害時要配慮者支援	高齢者や障害者は、災害時には特別な支援が必要である。事前にどのような準備が必要かを説明し、それが日常生活の延長上にあり、また地域コミュニティの絆を高めた事例を検討する。
第9回・10回	防災教育、ボランティア	東日本大震災では、防災教育に取り組んだ岩手県沿岸地域の子どもの生存率が極めて高かった。防災教育の内容と効果を考える。また被災地においてボランティアの存在感が高まっている。ボランティアがどのように進化したかを議論する。
第11回・12回	地域防災計画、防災条例、政策評価	東日本大震災を受けて地域防災計画の見直しが進んでいる。その具体例を検討する。また防災条例の制定過程とその効果について議論する。防災の政策評価のあり方と活用について検討する。
第13回・14回	企業、行政等の事業継続（BC）	企業や行政等は災害時に災害対応するだけでなく、自らの事業を継続していかなければならない。その計画がBCPであり、その内容と効果について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
防災政策は生きているものであり、最新の状況を把握することが重要である。内閣府「防災情報のページ」「防災白書」を事前に見ておいていただきたい。
また、ボランティアなどの活動体験があれば望ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業では、PPTや論文を使用するが、その資料を毎回配付する。

【参考書】
鍵屋一「地域防災力強化宣言」ぎょうせい・2005年
鍵屋一「よくわかる自治体の地域防災・危機管理」学陽書房・2019年
令和3年「防災白書」

【成績評価の方法と基準】
質疑への参加　70％（講義中の質疑、意見表明などを積極的に行ったものを高く評価する）
リアクションペーパー等　30％

【学生の意見等からの気づき】
実務体験が評価されているので、今後もリアリティある講義を行いたい。また、学生と積極的に議論していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
地域防災、危機管理
＜研究テーマ＞
防災危機管理政策、建築物の耐震化、災害時要援護者支援、防災教育、人材育成、事業継続（BCP）
＜主要研究業績＞
・『都市災害を生き残る』「現代用語の基礎知識2009」2008年、自由国民社
・『ひな型でつくる福祉防災計画』（共著）2020年、東京都福祉保健財団
・『地域防災力強化宣言』2005年、ぎょうせい

【Outline (in English)】
(Course outline) The modern age is an age of crisis, and disaster risk management has become an unavoidable theme for citizens, governments, organizations, and businesses.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to help graduate students to become strong in disaster prevention and crisis management.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports :30 %、in class contribution: 70%

POL500P1 － 120

雇用労働政策研究

濱口　桂一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公労使三者構成の審議会において労使団体と政府 (厚生労働省) の間で行われる対立と妥協のメカニズムを中心に、その延長戦としての国会における審議や修正も含め、具体的な労働立法の政策決定過程を跡づける形で、労働法制の内容を説明する。いわば、完成品としての労働法ではなく、製造過程に着目した労働法の講義である。

【到達目標】
現代日本におけるさまざまな雇用労働問題を、表層的なマスコミ報道等に踊らされることなく、雇用システムと労働法制の複雑な関係を踏まえて理解し、説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として対面授業を予定している。
各コマとも、前半は下記テキスト（『日本の労働法政策』）に沿って概略の説明を行い、後半はそれに基づきフリーディスカッションとする。
あらかじめテキストを読んできたことを前提に、毎回のトピックについて各自の職業経験に基づく意見を尋ねることがあるので、各自用意しておくことが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	イントロダクション、労働力需給調整システム、労働市場のセーフティネット	全体の概観、労働者派遣事業と職業紹介事業、雇用保険、生活保護、求職者支援制など
第 3.4 回	雇用政策の諸相、高齢者・障害者の雇用就業政策	雇用政策思想、外国人雇用対策、高齢者、障害者など
第 5.6 回	職業教育訓練政策、労働基準監督システム、労災保険、労働安全衛生政策	職業訓練、職業教育、若年者、過労死・過労自殺、過重労働・メンタルヘルス・受動喫煙など
第 7.8 回	労働時間政策、賃金処遇政策	時間外・休日労働、年休、裁量労働制、最低賃金など
第 9.10 回	賃金処遇政策、労働契約政策	非正規均等待遇、解雇規制、有期契約、労働条件変更、フリーランスなど
第 11.12 回	男女平等政策、ワークライフバランス、ハラスメント	男女平等、育児・介護休業、セクハラ・パワハラなど
第 13.14 回	集団的労使関係システム	労働組合、労使協議制、個別労使紛争など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『日本の労働法政策』労働政策研究・研修機構 (2018 年)
なお、刊行から若干時間が経っているため、アップデートした PDF ファイルを受講者に配布する予定。

【参考書】
濱口桂一郎『新しい労働社会』岩波新書 (2009 年)
濱口桂一郎『日本の雇用と労働法』日経文庫 (2011 年)
濱口桂一郎『若者と労働』中公新書ラクレ（2013 年）
濱口桂一郎『日本の雇用と中高年』ちくま新書（2014 年）
濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書 (2015 年)
濱口桂一郎・海老原嗣生『働き方改革の世界史』ちくま新書 (2020 年)
濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書 (2021 年)
なお、関連する論文等が講師ホームページにアップされているので、適宜読むこと。
http://hamachan.on.coocan.jp/

【成績評価の方法と基準】
参加人数にもよるが、今のところレポート作成を予定している。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>
労働法政策
< 研究テーマ>
日本と EU の労働法政策、日本の個別労働紛争の分析
< 主要研究業績>
『EU の労働法政策』、『日本の労働法政策』、『日本の雇用終了』、『日本の雇用紛争』、『団結と参加』（いずれも労働政策研究・研修機構）

【Outline (in English)】
It is not a lecture on labor law as a finished product, but one on labor law focusing on the manufacturing process.
The goal of this course is to explain the contents of labor legislation in such a way as to trace the decision making process.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
： Grading will be decided based on short reports.

POL500P1 － 121

政策過程事例研究

鄭　智允

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、政策過程理論を応用して個別行政分野の政策を考察する。まず、『政策形成の過程：民主主義の公共性』を用いて基本的な理論を確認する。次に事例研究を通じて政策過程についての理解を深める。例えば、市町村合併、防災対策、廃棄物処理などの事例から、各々のアクターが制度の中でどのように責任を負い対応していくのか。また、既存制度の中でアクターが外部もしくは内部の環境要因によって政策をどのように形成・漸進させていくのかを分析する。この過程を通じて政策過程に関する理解を高める。

【到達目標】
既存の政策形成過程の理法を理解し、個々の政策過程事例を考察する中で政策過程の視点・考え方など、政策過程に関する幅広い知識を習得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は対面で行う。まず政策過程の全対象について、事例を用いて復習する。その後、参加者の報告順を決め、報告およびそれについて質疑・討論の方法で進める。また、リアクションペーパーにおける質問事項等に対しては、次回の授業で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	ガイダンス	授業の概要を説明し、講義の狙いとテーマを確認する。受講生各自の研究テーマ・関心分野を紹介する。
第 3.4 回	政策過程とその主体について	政策過程の理論を確認する。政策過程に参加する主体とその行動について各政策段階で検討する。
第 5.6 回	政策と官僚、そして規制	官僚ははぜ規制したがるのか、その原因について考える。
第 7.8 回	政策事例① 市町村合併と公共施設の再編	市町村合併がもたらしたことについて、公共施設の統廃合問題から考察する。
第　9.10 回	政策事例② 防災政策	東日本大震災を事例として防災政策のあり方を考察する。
第 11.12 回	政策事例③ 自治体と廃棄物処理	自治体における廃棄物の処理と課題について考察する。
第 13.14 回	政策事例④ コロナ対策	保健所を軸とするコロナ対策と課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
最初の授業で指示する。

【参考書】
C.E. リンドブロム、E.J. ウッドハウス著『政策形成の過程：民主主義と公共性』（東京大学出版会、2004 年）
ハーバート・カウフマン著『官僚はなぜ規制したがるのか』（勁草書房、2015 年）
松本三和夫『構造災』（岩波新書、2012 年）
その他、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業における積極的議論参加（60%）、レポート（40%）を判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治、環境政策
＜研究テーマ＞国策と地方自治
＜主要研究業績＞
「 合併政令市の引力と遠心力浜松市行政区再編住民投票で問われた行革と自治区意識 」『自治総研』2020 年（第 499 号 pp.86 － 122）
「土砂災害危険区域と行政改革による行政の撤退戦略―浜松市北区引佐町鎮玉地域を事例に― 」『『年報中部の経済と社会』2019 年（pp.69 － 80）
「指定廃棄物処理における自治のテリトリー」『自治総研』2019 年（第 489 号 pp.45 － 82）
「『自区内処理の原則』と広域処理」『自治総研』2014 年（第 428 号 pp.29-46、第 429 号 pp.45-65、第 430 号 pp.35-53）
「災害廃棄物の処理をめぐって」『月刊自治研』2012 年（第 637 号 pp.56-65）
「『漂着ごみ』に見る古くて新しい公共の問題」小原・寄本編著『新しい公共と自治の現場』コモンズ 2011 年 (pp.202-216)
「廃棄物問題から考える合併・参加・住民組織の論点」『環境自治体白書 2008 年版』環境自治体会議編 2008 年 (pp.40-52)
『市民参加・合意形成手法事例とその検証』（共著）市民がつくる政策調査会 2005 年

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire knowledge about policy process. First, we confirm the basic theory by using "Policy-Making Process" （Charles E. Lindblom and Edward J. Woodhouse 2004). Next, we will deepen our understanding of policy processes through case studies. We analyze what kind of responsibility is taken care of in the system and how the main actor forms and progresses policies by external or internal environmental factors in existing system. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 40%、in class contribution: 60%.

POL500P1 － 122

政策開発実践論

富澤　守、小森　岳史、清水　英弥、髙橋　良一

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自治体の政策・制度設計と行政技術の開発手法を研究する。

【到達目標】
人口減少時代への対応に迫られた自治体政策について、先駆自治体の実践例を考察するとともに、市民本位の政策づくりについて研究する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
自治体政策の実践例を基調に、「対面」（ハイフレックス含む）にて講義を実施する。
受講者からの質疑・討論を含め、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個人情報保護と情報公開（富澤　守）	個人情報保護・情報公開の法律、条例の意義と課題。
第 2 回	地方財政（富澤　守）	収入、租税の役割、単年度予算と債務負担。
第 3 回	自治体（総合）計画は必要か？（小森岳史）	これまでの自治体計画の成果について、政策開発の面から考察する。
第 4 回	有効な自治体（総合）計画にするために（小森岳史）	自治体運営の仕組みとして総合計画を有効に機能させるための計画システムのあり方を考察する。
第 5 回	自治体の都市政策（清水英弥）	解決策の見えない自治体の都市政策について考察する。
第 6 回	自治体の環境政策（清水英弥）	自治体の環境政策について、具体例をあげながら考察する。
第 7 回	自治体の開発政策（清水英弥）	自治体の開発政策について、具体例をあげながら考察する。
第 8 回	自治体の公民館政策（清水英弥）	自治体の公民館の現状と課題について考察する。
第 9 回	自治体の財産と危機管理（富澤　守）	公有財産管理と損失補。具体的な訴訟や行政救済。
第 10 回	社会的価値と自治体契約（富澤　守）	法務契約を基点とした公契約条例から契約手法による政策の実現。
第 11 回	公共政策と財政計画（高橋良一）	様々な市民ニーズに対応するため各々の自治体政策が構築されてきたが、総合計画と表裏一体をなす財政計画について考察する。
第 12 回	地域づくりと財政の役割（高橋良一）	連携や協働、行財政改革をキーワードにしながら、財政の観点から国と地方自治体、規模が異なる自治体同士などの今後の地域づくりを考える。
第 13 回	自治体の監査制度①（高橋良一）	自治体の財務や業務の適正性を住民に保証する監査の重要性が注目されている。自治体における監査や内部統制について考察する。
第 14 回	自治体の監査制度②（高橋良一）	自治体の監査制度の今日的な課題や住民訴訟の前置制度としての住民監査請求について、事例を見ながら考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
本授業のテーマに関する著書・論文等を可能な限り熟読し、事前に学習してください。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業の前に、レジュメを配布します。

【参考書】
富澤守、『保育問題の本質を問う』(共著)、都市問題、2017 年所収
富澤守、『法務契約を基点とした公契約条例』、イマジン出版、2017 年所収
富澤守、『選挙をめぐる事件と制度の見直し』イマジン出版、2019 年所収
小森岳史、「武蔵野市方式の継承と発展」、神原勝・大矢野修編書、『総合計画の理論と実務』、公人の友社、2015 年所収
髙橋良一、「自治体監査の現場から－監査委員監査の今日的課題、2」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2017 年 Vol. 70（夏号）、71（秋号）所収
髙橋良一、「住民監査請求・住民訴訟の諸課題」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2020 年 Vol. 81（春号）所収
清水英弥、「人口減少時代における都市計画行政－入間市の取組み事例をみる－」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2016 年 Vol. 65（春号）所収

【成績評価の方法と基準】
授業における積極的議論への参加（７０％）、期末レポート（３０％）を総合的に判断して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
内容を検討のうえ、可能なものは授業に反映します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
必要な時は授業で説明する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞

【小森　岳史】
自治体計画（総合計画）
自治体政策開発（公共施設）

【富澤　守】
自治体政策（行政法務・財務・契約）
再開発（再開発・まちづくり）

【髙橋　良一】
自治体政策（財政計画、行財政改革）
自治体監査（住民監査請求、行政不服審査）

【清水　英弥】
自治体政策（都市問題、環境問題、公民館問題）

【Outline (in English)】
Study policy and institution design of municipalities and development method of administrative technology.
Regarding local government policies that have been forced to respond to the era of depopulation, we will consider practical examples of pioneering local governments and consider citizen-oriented policy planning.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end reports:30%、in class contribution: 70%.

POL500P1 － 125

自治体政策実践論 1

青山　貴洋、宇佐美　淳

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「シェアリング・ソサイエティ」（地域防災・自治体政策）
求められる社会のかたちは、価値観の変化と多様化により、新たなシステムを模索している。そして、自然災害や新型コロナウイルス感染症の猛威、また少子高齢化や急速なデジタル化といった、多くの困難な問題や課題への対応は、従来の制度にとらわれない、新たな政策展開の必要性を生じさせている。「シェアリング・ソサイエティ」は、人々が社会に対し能動的な関わりを持ち協力することによって、様々な問題を解決していこうとする取組である。
青山は、「市民」による地域防災力をテーマに、災害時初期段階の共助による事例から、「自助・共助・公助」の防災における「シェアリング」の実態と必要性に関する理解を目指す。
宇佐美は、ローカル・ガバナンスが重視される時代の地域コミュニティにおける自治体職員の役割をテーマに、特に、自治体内の最前線の地域コミュニティを現場として活動する自治体職員に着目しつつ、「行政」と地域コミュニティで活動する各種アクターとの関係性から、「ソサイエティ」の実態と必要性に関する理解を目指す。
本講義は、２人の講師がそれぞれの部分のみを担当するのではなく、基本的に常時２人で、それぞれの事象の中にある「シェアリング」及び「ソサイエティ」の内容を認識し、議論しながら行うものである。

【到達目標】
院生が「シェアリング・ソサイエティ」の事例を通して、国・自治体と経済、社会に対する役割を理解することができる。講義を通し、院生がそれぞれの研究対象の背景にある社会の動きについて、自ら考えを深め、既定概念にとらわれない研究の展開をもたらすことを目指す。「シェアリング・ソサイエティ」の世界では、人々の能動性が一般的な政策展開と言われるものと比べ、より多く求めるとも考えられることから、人々の関わり方についての議論は普遍的であるという点で、研究対象が多種多様となる院生それぞれに対し、幅広く有益なものになると考える。そこで、本授業は、修士課程の院生だけでなく、広く博士課程の院生の参加も可能としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては、「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本、対面での講義方式で行う。知識の蓄積に応じ、グループディスカッション等により汎用的能力の育成を図る。状況によりオンライン併用もあり得る。適宜、各人の研究における関心事項に関し、講義で得た知見との関係等について発表をしてもらい、それに各講師が所見を述べることや、レポート作成に関し、個別に協議を行うこと等で、フィードバックを行いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ～「シェアリング・ソサイエティ」のイノベーションとガバナンス～（青山・宇佐美）	イントロダクション（２講師から講義の全体構想と担当概要等を説明）
第 2 回	「自助・共助・公助」概論（青山）	①自助、共助、公助とは（福祉と防災の視点） ②広領域を担う共助（互助領域と公共領域） ③共助と市民
第 3 回	公助と自助の実態（青山）	①公助（自治体の食料備蓄状況と配布の課題） ②自助（家庭備蓄の現実と重要性、なぜ「備蓄」は進まないか）
第 4 回	災害時空白期間における二つの共助・1（青山）	①避難所良好運営に必要な要素 ②避難所における共助とリーダーシップ（避難所トライアングル・モデル） ③避難所内部による自治組織形成
第 5 回	災害時空白期間における二つの共助・2（青山）	①ボランティアによる避難所良好運営の刺激 ②被災地域での共助の取り組み ③「自助・共助・公助」による地域防災力
第 6 回	地域防災の視点からみるシェアリング・ソサイエティ（青山）	①地域防災の現状と課題 ②共助組織とコミュニケーション ③シェアリング・ソサイエティと地域防災力
第 7 回	（青山・宇佐美・ゲスト講師）	「シェアリング・ソサイエティ」についてゲスト講師から事例紹介等
第 8 回	（青山・宇佐美・ゲスト講師）	「シェアリング・ソサイエティ」についてゲスト講師から事例紹介等
第 9 回	ローカル・ガバナンスにおける地域コミュニティ概論（宇佐美）	①政策ネットワーク論からのローカル・ガバナンスの視座 ②ガバナンスと地域コミュニティとの関係
第 10 回	自治体行政職員による「地域担当職員制度」（宇佐美）	①「地域担当職員制度」とは何か ②事例分析
第 11 回	最前線の地域コミュニティを現場とする自治体行政職員の役割（宇佐美）	① M. リプスキーによる “Street-Level Bureaucracy” ② “Community-Level Bureaucracy” としての “地域密着型公務員” ③アメリカのネイバーフッドカウンシル制度における地域担当職員に関する比較分析
第 12 回	地域コミュニティにおける各種アクターによるネットワーク（宇佐美）	①自治体議会及び議員並びに議会局（事務局）の役割 ②町内会自治会長や民生委員・児童委員等の従来のアクター役割 ③ NPO や地域おこし協力隊等の新たなアクターの役割 ④「地域を飛び出す公務員」（「地域公務員」）に関する取組との比較分析
第 13 回	コロナ禍における地域コミュニティの現状と自治体若手職員の早期退職（宇佐美）	①コロナ禍における地域コミュニティの現状と自治体行政 ②自治体行政における若手職員の早期退職と人材育成 ③「シェアリング・ソサイエティ」の観点からのまとめ
第 14 回	エピローグ～地域の課題解決のために～(青山・宇佐美)	全体のまとめ（自身の研究に向け、何を学び、何に問題意識を持ったのか）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書を事前に読むほか、講義資料に関連する案件につき、調査・検索し、まとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
青山貴洋『地域防災イノベーション 自助・共助・公助で「空白期間」を乗り切る』文芸社、2020 年。
その他、講師が配布する講義資料。

【参考書】
十嵐敬喜編著『現代総有論』法政大学出版局、2016 年。

青山貴洋『「自助・共助・公助」と「市民」による地域防災力 ―食料危機管理政策からみた災害時空白期間における相互補完的防災体制の可能性―』博士学位論文、2019 年。
宇佐美淳『ローカル・ガバナンスが重視される時代の地域コミュニティにおける自治体職員の役割に関する研究― “地域密着型公務員” としての地域担当職員制度に関する分析を通して―』博士学位論文、2021 年。

【成績評価の方法と基準】
授業での学習状況や参加度である「平常点」50%、期末試験 (レポート)50%。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は、参加学生との双方向で行われることから、学生から寄せられる気付きや所感等から、逐次講義のブラッシュアップを行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室で質問を受け付ける。なお、本授業を担当する講師の青山は経済・社会活動の事業家であり、災害支援の経験と実績から、また、宇佐美は市役所にて勤務の経験を有しており、自治体行政職員として、各々の経験を踏まえた実務的観点からの内容を交えて講義を行う。

【担当教員の専門分野等】
【青山貴洋】
＜専門領域＞公共政策学（災害時食料危機管理政策）
＜研究テーマ＞地域の食料安全保障、災害食、自助・共助・公助論
＜主要研究業績＞
①『「自助・共助・公助」と「市民」による地域防災力 ―食料危機管理政策からみた災害時空白期間における相互補完的防災体制の可能性―』博士学位論文、2019 年。
②「災害時初期段階の良好な避難所運営をめぐる地域力と共助組織に関する論考」『公共政策志林』第 6 号、2018 年 3 月、法政大学大学院公共政策研究科、pp.39-54。
③「平成 28 年 (2016 年) 熊本地震の自治体対応からみる食料供給時系列検証」『日本災害食学会誌』VOL.5 NO.1、2017 年 7 月、pp.7-17。

【担当教員の専門分野等】
【宇佐美淳】
＜専門領域＞行政学、公共政策学
＜研究テーマ＞地方自治論、ガバナンス論
＜主要研究業績＞
①『ローカル・ガバナンスが重視される時代の地域コミュニティにおける自治体職員の役割に関する研究― “地域密着型公務員” としての地域担当職員制度に関する分析を通して―』博士学位論文、2021 年。
②「【研究ノート】ローカル・ガバナンスが重視される時代の地域コミュニティにおける自治体職員の役割に関する考察―地域担当職員制度に関する分析を通して―」『公共政策志林』第 8 号、2020 年 3 月、法政大学大学院公共政策研究科、pp.13-27。
③「大都市自治体における地域担当職員制度に関する一考察―福岡市、世田谷区、札幌市の比較事例分析を通して―」『都市政策研究』第 21 号、2020 年 1 月、公益財団法人福岡アジア都市研究所、pp.11-23。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The form of society that is required is seeking new systems through changes in values and diversification. And, responding to many difficult problems and challenges, such as natural disasters and the rise of coronavirus infection, the declining birthrate and the rapid digitalization, has created the need for new policy developments that are independent of the conventional system. "Sharing Society" are efforts to solve various problems by actively engaging and collaborating with society.
The aim of this course is to help students acquire understanding the “Sharing Society” as new policy development.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to understand the role of the national / local government, economy, and society through analyzing cases of the “Sharing Society”.
"Sharing Society" requires a lot of people’s activity. In the sense that the discussion on how people interact is universal, we think it will be widely useful to each student with a variety of research subjects. Therefore, not only master’s students, but also doctoral students will be able to participate in this class.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (report) (50%), and in-class contribution (50%).

POL500P1 － 126

自治体政策実践論２

押立　貴志、渡部　朋宏

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・地方自治体が政策を進めていくうえで重要な住民論、事故調査論の２つのテーマについて、オムニバス形式で授業を行う。学生は、２つのテーマを通じて、自治体政策及び自治体に対する国の政策を分析する視点を学ぶ。
・各テーマの概要は以下の通り。
・住民論：東日本大震災及び福島原発事故により避難生活を余儀なくされた住民をテーマとして「住民論」の基礎を学ぶとともに、自治の現場で発生している課題を研究につなげる手法の修得を目的とする。
・事故調査論：国の運輸安全委員会等の事故調査の制度と実務から、刑事手続きの関係を考察し、その問題点を取り上げる。今後増えると考えられる自治体が管理する各種施設内での事故に対する事故調査に、自治体職員として備えるべきことを、法的側面や実務的側面から考察しておくことは重要である。これらを通じて事故調査制度の問題点を理解することにより、制度が果たす効果と負の側面を的確に見つめることの重要性に注目する。これを通じて、理不尽な事故を乗り越える共生社会の在り方を深く考える。

【到達目標】
・住民に関する先行研究、関連する各種判例、地方自治制度・住民登録制度の歴史的経過を踏まえ、住民概念の形成過程を理解する。また、より実践に即した研究課題へのアプローチ、方法論を学び、自己の研究テーマを深化させることが目標である。
・事故調査の重要な点は、科学技術の発展に必要となる事故や失敗の情報共有である。一方で情報共有・情報公開に伴う社会的批判や責任追及という実態がある。a) 事故調査機関側、b) 加害企業側（原因関係者側）、c) 警察捜査関係者側、d) 検察官側、e) 裁判官側、f) 被害者側、g) 市民視線の側それぞれの立場を理解し、考察し、現代社会のあるべき方向性を構想することに到達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては、「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・原則として対面で授業を実施（新型コロナウイルス感染状況を踏まえ，十分な安全性が確保されないと判断された場合には，オンラインに切り替える）
・２人の講師によるオムニバス形式での講義を行う。原則として、毎回、講師がパワーポイントなどの資料を準備して講義を行い、レジュメを配布する。質問、意見を出すなど積極的な参加が望ましい。適宜、ディスカッションを行うこともある。また、テーマにより、事前に参考書を読んでおくなど、関連する情報を集め、問題意識を高めておくことを推奨する。
・事故調査論（第 13 回講義）では、受講者はディベート形式での討議を行うので、事故に関わる新聞報道、裁判事例に注目しておくことを推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	東日本大震災と福島原発事故避難の実態	初回はイントロダクションとして講義全体の概要と目的を明確にする。そして、本講義の問題意識となる東日本大震災と福島原発事故による全域避難自治体の一つを詳細に検証し、基礎的自治体が直面している様々な行政課題について考察する。
第 2 回	原発避難者特例法と二重の住民登録制度	福島原発事故による全域避難自治体の現状を整理したうえで、国が整備した原発避難者特例法について考察する。更に、二重の住民登録制度について、求められた背景を踏まえた考察を加える。
第 3 回	住民概念の考察（住所）	住民概念の法的位置づけを整理したうえで、住民の基礎となる「住所」について先行研究や判例をもとに考察する。
第 4 回	住民概念の考察（住民）	住民概念の先行研究や「住民」についての判例研究を踏まえ、住民の基礎的概念について理解を深める。更に、原発避難者に対する現行制度の問題点を考察する。
第 5 回	住民概念の考察（選挙制度）	住民にとって基本的な権利である選挙権について考察する。特に「住所」「居住実態」を前提とした現行制度の問題点について、先行研究や判例から検証する。
第 6 回	地方自治制度における住民概念	明治期以降の地方自治制度において住民概念がいかにして構築されてきたのかについて考察する。
第 7 回	住民登録制度の歴史的考察	住民登録制度の歴史的経過を踏まえ、今後のあるべき住民登録制度について考察する。また、これまでの授業で取り上げた「住民」についての論点を踏まえ、ディスカッションにより全体のまとめを行う。
第 8 回	事故調査論 (1) ：オリエンテーション及び事故を知る（事故調査制度概説）	科学技術の発展はより安全・安心な社会を形成することになるが、そのためには事故調査結果の活用が必要である。一方、事故では、過失犯罪捜査という責任追及も行われ、事故調査と刑事手続きは分離できない要素も持ち合わせている。責任追及や社会的批判に萎縮するあまり事故調査への協力が抑制的になれば、安心な社会形成を阻むことに繋がりかねない。事故調査論では、オリエンテーション及び身近な事故事例 VTR を紹介し、事故調査制度を概説する。事故調査研究手法として、①比較法研究、②多元的視座の考察研究をとりあげる。
第 9 回	事故調査論 (2) ：事故調査制度の詳説	国の運輸安全委員会、消費者事故調査委員会の制度や、自治体が管理する学校、病院、各種施設に対する事故調査制度を、比較しながら、講義する。

第 10 回	事故調査論 (3) ：事故と捜査手続き、刑事裁判、略式命令、検察審査会	行政機関の行う事故調査と、警察の過失犯罪捜査は、同時並行に行われる。証拠物件の扱い、相互協力の限界など、法的側面からの問題を取上げる。また、事故調査の各種制度を比較検討し、その目的や、制度相互調和を研究する。 刑事裁判の証拠、略式命令に応じる加害者意識、検察審査会へ申し立てる被害者意識なども含め、講義する。
第 11 回	事故調査と危機管理：事故、災害の危機管理と自治体	自然災害、重大事故の発生に対処する危機管理を政府の視点、自治体の視点で講義する。危機発生における各種法令の特則、違法性阻却の運用を研究し、危機対処における社会の在り方を研究する。
第 12 回	事故調査と自治体：自治体における事故調査、行政調査、事故対応及びマスコミ対応の実務	自治体職員が対処する事故について、調査、情報収集、警察連携、マスコミ対応、関係機関連携を講義する。また、事故の被害者説明について、講師の実践経験からの考察を行う。
第 13 回	事故調査と民事事件（和解）：事故に向き合う社会とは	受講者は、前回までの講義内容で得た知識を参考に、a) 事故調査機関側、b) 加害企業側（原因関係者側）、c) 警察捜査関係者側、d) 検察官側、e) 裁判官側、f) 被害者側、g) 市民視線の側の立場を選び、事故に対してあるべき社会を発表し、ディベート形式での討議を行う。
第 14 回	共生社会実現にむけて事故調査が果たす役割	討議のまとめを行う。事故調査論の全体講義のまとめとして、共生社会実現に向け、事故調査が果たす役割を研究する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習時間は特に必要ないが、時間内は集中し、積極的に質問や意見提出を行い、ディスカッションに参加する。報告、ディスカッションを行う場合は、調査・取りまとめで 2~4 時間程度。
事故調査論（第 13 回講義）における a) 事故調査機関側、b) 加害企業側（原因関係者側）、c) 警察捜査関係者側、d) 検察官側、e) 裁判官側、f) 被害者側、g) 市民視線の側の立場のいずれか２つ程度を受講者は予め選択し、討議の準備をしておくこと。

【テキスト（教科書）】
・特に指定しない。各回、レジュメや資料を配布する。

【参考書】
（渡部分）
・戸田典樹編著（2016）『福島原発事故　漂流する自主避難者たち　実態調査からみた課題と社会的支援のあり方』　明石書店
・今井照・自治体政策研究会・編著（2016）『福島インサイドストーリー　役場職員が見た原発避難と震災復興』　公人の友社
・戸田典樹編著（2018）『福島原発事故　取り残される避難者　直面する生活問題の現状とこれからの支援課題』　明石書店
・渡部朋宏著（2020）『住民論　統治の対象としての住民から自治の主体としての住民へ』　公人の友社
（押立分）
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・講義への出席、意見発表や議論の積極性（８０％）、レポート提出・発表（２０％）。

【学生の意見等からの気づき】
・学生の論文作成テーマとかかわることから履修する場合もそうでない場合も、講義テーマと学生の関心が重なり、様々な質問・意見から相互に学びあうことができる。講義中の質疑による理解の深まりに期待したい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
・住民論の講師は現職の自治体職員であり、問題意識を明確にして授業に臨んでいただければ、実践的・実務的な情報を得て、議論を交わすことができる。
・事故調査論の講師は、政府事故調の事故調査官経験者、国の首席鉄道安全監査官及び交通安全対策室長の経験者である。実務者、制度研究者として、法的側面、実務的側面の両面から説明を行う。事故調査論は、制度の比較研究であるため、可能な限り、受講者の制度比較研究手法等についての問いにも応えていく。

【押立】
＜専門領域＞　事故調査論、行政調査論、安全リスク論、適正刑事手続論、危機管理。
＜研究テーマ＞
　事故調査制度、行政調査制度、リスク事故を報告する心理、安全社会システム、人権保障と適正刑事手続。危機管理対処。
＜主要研究業績＞
①『事故調査制度に関する研究－刑事手続きとの関係からの考察－』（2019, 博士論文）
②「事故調査制度について－事故調査、事故報告、行政調査の関連性－」プレゼン。総務省情報通信審議会 情報通信技術分科会 IP ネットワーク設備委員会 事故報告・検証制度等タスクフォース (第 5 回) 2021.4.26(WEB), 情報通信審議会 情報通信技術分科会ＩＰネットワーク設備委員会第五次報,https://www.soumu.go.jp/main_content/000768759.pdf
③「事故調査、インシデント調査及び故障調査の原因究明の目的・結果利用に関する考察」日本学術会議総合工学委員会主催、ほか 34 学会共催。 安全工学シンポジュウム 2021 2021.7,2)。予稿集掲載。
④「事故調査制度に関する研究 －行政諸機関との関係からの一考察－」日本学術会議総合工学委員会主催、ほか 34 学会共催。 安全工学シンポジュウム 2021 2021.7,2)。
予稿集掲載。
⑤「鉄道安全運行のレジリエンスを高める インシデント調査 に関する一考察」 J － Rail2021(第 28 回鉄道技術連合シンポジュウム 2021.12.01)
⑥「鉄道信号の安全性・信頼性の歴史の変遷」(2017. 日本信頼性学会)、⑦「刑事裁判の証拠として使用される事故調査報告書のあり方について」(2016. 日本学術会議安全工学シンポジュウム予稿集)、⑧「事故調査への協力を萎縮させる刑事休職制度の改善考察」(2018. 日本学術会議) ⑨「鉄道事故の対応と関係者」(2017. 信号工業協会誌)、
⑩「鉄道安全対策とリスク分析－レジリエンス力の手がかりまで－」(2017. 日本技術士会 IT21 講演会予稿集)

【渡部】
＜専門領域＞
　地方自治、公共政策、住民論
＜研究テーマ＞
　住民概念、原発事故避難、原発事故損害賠償、基礎的自治体連携
＜研究業績＞
①『住民論　統治の対象としての住民から自治の主体としての住民へ』　公人の友社（2020.12）　自治体学会【研究論文賞受賞】
②「福島原発事故避難の実態と「住民」概念の転換－統治のための住民から住民による自治へ－」　自治体学 vol.31-1（2017.11）　自治体学会【自治体学研究奨励賞受賞】
③「震災復興の現状と課題」 地方自治職員研修通巻 708 号（2018.3）　公職研
④「人口減少社会における「住民」概念の考察～福島原発事故避難自治体の実態から～」自治実務セミナー 2018 年 12 月　第一法規
⑤「「住民」概念の研究～統治される対象としての住民から自治の主体としての住民へ～」　公共政策志林第 7 号 2019 年 3 月　法政大学大学院公共政策研究科

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
This lecture is an omnibus on the two themes , comprehensive resident theory, and accident investigation theory.These are indispensable for local governments' Raison d'etre and policy making. Through two themes, you can learn the point of view to analyze the local government policy and the national policy for local governments.
【Attainment target / Goal】

· Based on the precedent study on inhabitants, associated various precedents, the historic progress of a local autonomy system, the resident registration system, I understand the formation process of the inhabitants concept. In addition, it learns approach, the methodology to a research theme in line with practice more, and it is an aim that lets you deepen a study theme of the self.
· The important point of the Accident Investigation is information sharing of an accident and the failure to be necessary for development of the technology. On the other hand, there is the actual situation called the social criticism and responsibility investigation accompanied with information sharing, the information disclosure.It understands a) the accident investigation organization side, b) the doing damage to company side (the cause person concerned side), c) the police investigation side, d) the prosecutor side, e)the judge side, f)the victim side, g) citizen eyes, and it examines it, and it is an aim that arrives at that I envision the directionality that there should be of the modern society.
【Grading criteria】
· The aggressiveness (80%) of the attendance to a lecture, opinion announcement and the discussion, report submission, announcement (20%).

POL500P1 － 127

自治体政策実践論３

青木　隆、鈴木　良祐

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・効率的に修士論文を執筆することを意識しながら、公共政策研究の基礎を学び、その特性を理解することを目的とする。授業は「公共政策研究の基礎 (1)」及び「公共政策研究の基礎 (2)」から構成され、オムニバス形式の授業を通して、先行研究や統計資料などを基に修士論文を執筆する方法を探っていく。それぞれの概要は次のとおりである。
・「公共政策研究の基礎 (1)」では、公共政策の中核である政府事業のプロセスと、政府事業の実現を支える行政と企業の関係を紹介し、その在り方を考える。
・「公共政策研究の基礎 (2)」では、公共政策の多くを担う国家公務員、地方公務員の人事・給与に関する先行研究を紹介し、その在り方を考える。

【到達目標】
・政府事業の理想と現状を理解した上で、その課題を指摘し、政策案の創造、制度改革の提案、ビジネスモデルの提案をすることができる。
・国家公務員及び地方公務員の人事・給与制度の現状を理解した上で、その課題を指摘し、改革案を提案することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては、「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・原則として、対面で授業を実施する。なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンライン授業に切り替える。
・２人の教員によるオムニバス形式で毎回、教員の準備するレジュメや資料で講義を行う。
・毎回の授業テーマについて、学生と教員との意見交換、学生同士の討論を組み入れたアクティブラーニングを織り交ぜた授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	公共政策研究の取組方法について考える。
第 2 回	公共の目指す社会	公平性、公正性、公益性を確保する制度について考える。
第 3 回	職能別分業組織	公共を支える官民の組織の特性を考える。
第 4 回	政府事業のプロセス	政府事業実現のフレームワークを考える。
第 5 回	政府調達の世界	政府調達の制度と官民それぞれの役割を考える。
第 6 回	企業力（競争と協調）	政府事業を支える企業の価値観と行動特性を考える。
第 7 回	官庁ビジネスの現状	官庁ビジネスの本質と展望について考える。
第 8 回	イントロダクション	公共政策を担う公務員研究の意義について考える。
第 9 回	国家公務員の人事 (1)	キャリア官僚の人事について考える。
第 10 回	国家公務員の人事 (2)	国家公務員の地方自治体への出向人事について考える。
第 11 回	地方公務員の人事 (1)	地方公務員の人事について考える。
第 12 回	地方公務員の人事 (2)	地方自治体の臨時・非常勤職員の状況について考える。
第 13 回	国家公務員の給与	国家公務員給与の民間準拠について考える。
第 14 回	地方公務員の給与	地方公務員給与の国公準拠について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業の１週間前までにレジュメや資料を学習支援システムにアップするので、準備学習をした上で、授業に出席すること。なお、本授業の準備学習は１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回、レジュメや資料を配付する。

【参考書】
(公共政策研究の基礎 (1))
鈴木良祐、(監) 武藤博己法政大学名誉教授 (2021)『入札改革へのアプローチ　予定価格論　第 2 版』太郎丸出版.
鈴木良祐、(監) 武藤博己法政大学名誉教授 (2021)『高校生からの公共　適正価格』太郎丸出版.
(公共政策研究の基礎 (2))
青木隆 (2021)『地方公務員の給与システムに関する研究』日本評論社.
稲継裕昭 (1996)『日本の官僚人事システム』東洋経済新報社.
稲継裕昭 (2000)『人事・給与と地方自治』東洋経済新報社.
稲継裕昭 (2005)『公務員給与序説 ―　給与体系の歴史的変遷』有斐閣.
大谷基道・河合晃一（2019）『現代日本の公務員人事』第一法規.
西尾隆（2018）『公務員制』東京大学出版会.
西村美香（1999）『日本の公務員給与政策』東京大学出版会.

【成績評価の方法と基準】
授業中の意見発表や議論の積極性（80 %）
授業中のレポート（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメや資料、インターネット情報を閲覧するため、PDF を読めるパソコンあるいはタブレットを持参願います。

【その他の重要事項】
・「公共政策研究の基礎 (1)」を担当する教員は、官庁ビジネスを専業とする企業人であり、事業化推進制度、官民それぞれの価値観、学術的理論と実践におけるトピックス、歴史的事実を交えて、修士論文執筆のヒントを提供する。
・「公共政策研究の基礎 (2)」を担当する講師は、2022 年 3 月まで現職の地方公務員であり、先行研究、統計資料を基に学位論文を執筆した自らの経験を踏まえ、修士論文執筆のヒントを提供する。

【鈴木良祐】
＜専門領域＞
政府事業論、政府調達制度論、原価計算制度論、公契約論
＜研究テーマ＞
予定価格（適正価格決定のメカニズム）、組織における意思決定と行動選択、デジタル・トランスフォーメーション（デジタル・ガバメント）
＜主要研究業績＞
『入札改革へのアプローチ　予定価格論　第 2 版』(2021)　太郎丸出版
『高校生からの公共　適正価格』(2021)　太郎丸出版
「事業プロセスから見た調達改善の課題解決に向けての一考察」『公共政策志林』第 8 号（2020）法政大学大学院公共政策研究科

【青木　隆】
＜専門領域＞
地方自治論、行政学、公共政策論
＜研究テーマ＞
地方公務員の人事・給与、地方自治
＜主要研究業績＞
『地方公務員の給与システムに関する研究』(2021)　日本評論社
「人事院の官民給与比較方法に関する一考察 ― 「民間準拠」の観点から ― 」『公共政策志林』第 8 号（2020）法政大学大学院公共政策研究科
「地方公務員の給与制度及び給与水準の決定をめぐる一考察 ― 給与構造改革以降の状況から ― 」『自治体学』第 32 巻第 1 号（2018）自治体学会

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of public policy research. It also enhances the development of students' skill in writing master's thesis.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge of public policy research on Government business, Civil servant personnel and salary.
（Learning activities outside of classroom）
Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution: 80%、Short reports in class : 20%

POL500P1 － 201

ガバナンス研究

芦立　秀朗

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いわゆる「ガバナンス論」の第一人者の著作を英語・日本語で講読し、最終的にはそれらの理論枠組みを用いて学生が実際の政策形成過程を分析し、授業内で発表する。

【到達目標】
近年の行政改革で散見される参加型（住民参加・国民参加）とも関係の深い、「ネットワークによるガバナンス」の議論を自分なりに説明できるようになること。それらの議論を実際の政策形成過程に当てはめて説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として対面で実施される。この授業では「ガバナンス論」の第一人者の著作を英語・日本語で講読する。受講生は要点を日本語のレジュメにまとめて、発表することが求められよう。補足の解説や著作の内容に関する議論も行う。最終的にはそれらの理論枠組みを用いて実際の政策形成過程を分析し、発表してもらう。課題については、次回の授業あるいはメールにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「ガバナンス論」とは何か（1）	この授業の目的と進め方について解説し、到達目標を確認する。
第 2 回	「ガバナンス論」とは何か（2）	「ガバナンス論」について説明した短い文献を講読し、レジュメの作り方について学ぶ。
第 3 回	「政府の道具」の議論	「ガバナンス論」の前提としてフッドらによる「政府の道具」の議論について学ぶ。
第 4 回	行政改革に関する議論	「ガバナンス論」の前提としてガイ・ピーターズによる「政府の道具」の議論や行政改革について学ぶ。
第 5 回	第一世代の「ガバナンス論」（1）	ローズの著作（英書）を講読し、第一世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第 6 回	第一世代の「ガバナンス論」（2）	ガイ・ピーターズの著作（英書）を講読し、第一世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第 7 回	期末レポートについての構想の中間報告とそれに基づく議論	各自が関心のある問題を一つ取り上げ、各自がその見解を討議する。
第 8 回	第ニ世代の「ガバナンス論」（1）	トルフィングの著作（英書・和訳）を講読し、第二世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第 9 回	第ニ世代の「ガバナンス論」（2）	ソレンセンの著作（英書・和訳）を講読し、第二世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第 10 回	具体的な社会問題の検証（1）	これまで学んだ「ガバナンス論」を実際の分析に用いるとどうなるか、担当者が執筆した論文を講読しながら、考える。
第 11 回	具体的な社会問題の検証（2）	現在問題となっている社会問題を取り上げ、各自がその見解を討議する。
第 12 回	「ガバナンス論」の最前線	「ガバナンス論」をはじめとする政治・法律・公共政策のキーコンセプトを理解する。
第 13 回	ローカル・ガバナンスの最前線（1）	各自が関心のある自治体を事例に、地方政治と国政の関係を理解する。
第 14 回	ローカル・ガバナンスの最前線（2）	各自が関心のある自治体を事例に、地方行政について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間（合計 4 時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】
様々な著作の一部を扱うのでテキストは特に指定しない。初回に文献リストを配布するので、図書館で借りる等すること。

【参考書】
岩崎正洋［編著］（2011）『ガバナンス論の現在』東京：勁草書房
村上弘・佐藤満［編著］（2016）『よくわかる行政学　第 2 版』京都：ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 40 %と平常点 60%で評価する。平常点は文献の理解の程度、授業への貢献、報告内容で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度より授業を担当しているが、過年度の受講生からは英語で文献を読む習慣付けになったとコメントを得ている。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは授業の前後に実施するが、メールでの相談も行う。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉行政学
〈研究テーマ〉ガバナンス、援助行政
〈主要研究業績〉
・「援助行政への参加と政策への支持の関係-JGSS-2006 データから-」『産大法学』第 48 巻、第 1・2 号，2015 年。
・「幹部人事と政治介入制度」大谷基道・河合晃一編『現代日本の公務員人事』第一法規，2019 年。
・「二〇〇〇年代前半への回帰なのか- 京都二区- 」白鳥浩編著『二〇一四年衆院選：「一強多弱」の完成』ミネルヴァ書房，2021 年。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this class, students will first learn theories of “governance,” and be asked to apply them to the current policies in Japan.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goals of this course are to be familiar with theories of “governance, ”and to understand Japanese politics by using those frameworks.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end report : 40%, in class contribution: 60%.

POL500P1 － 202

リージョナリズムと非政府組織

大芝　亮

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際関係における非政府組織（NGO）の活動・課題について、グローバリズム、リージョナリズム、ナショナリズムの３つの次元から考察する。次に、さまざまな地域協力の活動について具体的にとりあげる。具体的活動を見るなかで、あらためて、国際秩序のありかたについて、考察する。

【到達目標】
国際関係について、理論的に分析するとはどういうことかについて、理解する。また、抽象論だけでなく、地域協力枠組みの具体例を事例として、実証分析できる能力を養う。
③ 授業の進め方と方法 必須
基本的に、毎週ごとのテーマに関連する論文を取り上げ、皆で議論する。履修者は、数回、論文についての要約と論点提示を行う。なにが、いま、国際政治でとりあげるべき問題＝パズルの発見を行う。また、パズルの解決方法を考察する。そのための糸口として、この授業では、リージョナリズムという概念および非政府組織というアクターに焦点をあてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的に、毎週ごとのテーマについて、簡単に紹介したのち、関連する論文を取り上げ、皆で議論する。履修者は、数回、論文についての要約と論点提示を行う。事前リーディングのアサイメントについては、集中講義であることを配慮して、実際に対応できるようにする（和文・英文、文献の分量など）。論文要約、論点提示、展開した議論の内容に対して、その都度、コメントを行うことで、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の目的等の説明
第 2 回	リージョンとは？	多様なリージョン概念と政治的含意について
第 3 回	経済のグローバル化	グローバル・サプライチェーンとは？
第 4 回	グローバル・ガバナンス	グローバル・ガバナンスの理論
第 5 回	プライベート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンス、ステークホルダー・ガバナンス、プライベート・ガバナンス
第 6 回	非政府組織と公共	公共の担い手はだれか？ 公と私
第 7 回	NGO の分類	NGO の分類と新しいタイプの登場
第 8 回	NGO と地球環境問題	世界銀行インスペクションパネルの場合
第 9 回	NGO と児童労働問題	東南アジアにおける劣悪労働問題
第 10 回	NGO と人権	英国奴隷法の場合
第 11 回	中国の戦略	一帯一路政策
第 12 回	米中関係と多国籍企業	ウィグル人問題を事例として
第 13 回	米中関係と国際 NGO	米中関係と国際 NGO　国際消費者運動を事例として
第 14 回	総括	政府・企業・NGO の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌日、とりあげる文献を事前に目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
国際関係の理論について、基礎的知識のあることを前提としているが、理論についてあまり詳しくない場合には、以下のテキストが参考になる。

【参考書】
・国際関係の理論について、基礎的知識のあることを前提としているが、最初の数回ほど、入門的テキストを使用する。大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016 年。
・授業でとりあげる文献は PDF で配布する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の議論、および最終時間に研究発表を行う。これらに基づいて成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
適宜、実態を示すビデオを活用する。

毎週とりあげるテーマに関連して、自主的に、新聞記事なり、国際組織・ＮＧＯ等の報告書なりを調べ、授業の際に、簡単に皆に対して報告することを歓迎する。

【その他の重要事項】
原則、対面授業とする。ただし、教員が地方在住のこともあり、状況に応じてオンラインで授業を行うこともある。集中講義の具体的日程 (夏休み期間中) については、履修者が確定した段階で、履修者と協議して決定する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際関係論、国際機構・NGO 研究
＜研究テーマ＞世界銀行の資金配分
＜主要研究業績＞大芝亮他『パワーから読み解くグローバル・ガバナンス論』、有斐閣、2016n 年。大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ、2016 年。大芝亮編『日本の外交　対外政策　課題別』岩波書店、2013 年。

【Outline (in English)】
The goal of the course is to understand the basic structure of international relations focusing on regionalism and non-state organizations.

MAN500P1 – 203

企業論

加藤　寛之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のテーマは、受講生が企業に関する正確な理解をもつことにおきます。次のような問い、企業とは何か、企業はなぜ存在するのか、企業は経済活動上どんな役割を果たすのか、への答えを説明します。経済学の企業論は 20 世紀に入って生まれた理論です。その概要を理解することが目的です.

【到達目標】
基礎理論を踏まえつつ、最新の理論的成果と現代企業が直面する主要な活動を学ぶことを通じて、受講生各自が、様々な企業を分析理解できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
個別企業のケースを取り上げながら説明します。そのためパワーポイントを使った説明が主になります。原則対面で実施します。フィードバックは毎回課題を提出してもらい、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	現代の企業社会	企業の発展と企業の理論・ディスカッション
第 2 回	損益計算書	5 つの利益、付加価値・ディスカッション
第 3 回	貸借対照表	ROE、ROA・ディスカッション
第 4 回	キャッシュフロー計算書	黒字倒産・ディスカッション
第 5 回	近代企業の登場	専門経営者・ディスカッション
第 6 回	所有と支配の分離	経営者支配・ディスカッション
第 7 回	財閥の形成と解体	企業集団、買収・合併・ディスカッション
第 8 回	資本主義と企業の発展	工場と経営体の誕生 経営管理の生成・ディスカッション
第 9 回	経営管理の系統図	科学的管理法・ディスカッション
第 10 回	経営管理の諸理論	大量生産方式、コンティンジェンシー理論・ディスカッション
第 11 回	組織のデザイン	機能別組織 事業部制組織・ディスカッション
第 12 回	日本型組織デザイン	日本型組織デザインの特殊性と普遍性・ディスカッション
第 13 回	構造は戦略に従う	戦略と組織の適合性・ディスカッション
第 14 回	資源の束としての企業	ペンローズ 資源配分・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に参考文献をいくつか指定するので読んでおくこと。問題意識を持って講義に臨んでください。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いません。プリントを配布します。

【参考書】
毎回の講義の最後に、参考文献をお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準は、企業の理論を理解し説明できること、に置きます。
評価方法は、次の二つの要素の総合です。
毎回の簡単な宿題 50 %、授業への貢献度 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の簡単な宿題提出の際に質問や、自分の修論に関係するであろう取り上げてもらいたいテーマについて学生からの反応に応じて授業内容やスタイルをカスタマイズしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
講義では必要に応じてパワーポイントを利用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論
＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
＜主要研究業績＞
「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）
「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
The theme of this class is for students to have an accurate understanding of corporations. We will explain the answers to the following questions: what is a corporation, why do corporations exist, and what role do corporations play in economic activity? The theory of the firm in economics is a theory that emerged in the 20th century. The purpose of this course is to provide an overview of this theory.To study about modern firms and modern societies.Course Outline:The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory,
Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.
Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.
Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)Content of the final submission (30%)

MAN500P1 － 204

グローバル企業戦略論

多田　和美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，グローバル企業の経営戦略に関する基本理論を学びます。今日，市場や経済のグローバル化はたしかに進展する一方で，各国・各地域の相違も根強く存在します。このような経営環境において，グローバル企業にはいかなる戦略が必要なのか。この問題に関して，理論的・実践的に分析するための基本概念を学ぶことを目的とします。

【到達目標】
授業では，下記の 2 点に到達することを目標とします。
1) グローバル企業の戦略に関する基本理論を理解し，活用できる。
2) 授業で学んだ知識をもとに，グローバル企業の戦略を論理的かつ実証的に分析できる。
The goals of this course are the followings.
1)Understanding of basic theories of International Business.
2)Empirical analysis of strategy of MNCs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は，教科書を使用し演習形式を中心に実施します。授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	グローバル企業による戦略の概要
第 2 回	国際経営環境の分析	CAGE フレーム・ワーク
第 3 回	海外直接投資の理論①	優位性の命題，内部化理論，OLI パラダイム
第 4 回	海外直接投資の理論②	ディスカッション
第 5 回	グローバル企業の国際競争の歴史①	グローバル企業の変遷
第 6 回	グローバル企業の国際競争の歴史②	ディスカッション
第 7 回	グローバル企業の組織デザイン①	グローバル企業の発展と組織構造
第 8 回	グローバル企業の組織デザイン②	ディスカッション
第 9 回	トランスナショナル経営①	グローバル統合とローカル適応
第 10 回	トランスナショナル経営②	ディスカッション
第 11 回	海外子会社の経営①	海外子会社特有の優位性と経営課題
第 12 回	海外子会社の経営①	ディスカッション
第 13 回	研究発表①	プレゼンテーションとディスカッション
第 14 回	研究発表②	プレゼンテーションとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。特に，プレゼンテーションを担当する回は入念な準備が必要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】
浅川和宏（2003）『グローバル経営入門』日本経済新聞社。
大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。
吉原英樹（2021）『国際経営（第 5 版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献： 70%，期末レポート:30%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:in class contribution: 70% and Term paper: 30%.

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果をはじめ，学生からの意見や要望は，随時，授業改善に活かすように努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to understand the basic of international business from the theoretical and practical points of view. The course is mainly composed of the followings:
1)Basic theory of international business
2)Basic framework of international business
3)Advantages/disadvantages of international business

SOC500P1 － 205

市民社会ガバナンス論

柏木　宏

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
NPO 論Ⅰを NPO に関する歴史や制度、現状と課題などの概論、入門編とすると、NPO 論Ⅱは NPO をどのように運営していくのかを示す、マネジメント編として位置づけることができる。したがって、NPO のマネジメントの基本である、ヒト、カネ、プランを中心に、具体的な手法を提示し、議論、NPO の運営能力の基本を獲得する。なお、以上の点について、コロナ禍において、NPO のマネジメントに生じた変化を含めた考察を行う。

【到達目標】
上記の【授業の概要と目的】を踏まえ、NPO マネジメントの基礎となる、ヒューマンリソース、資金、プランニングなどを中心に、マネジメント手法を理解することで、NPO の運営状況の分析や経営を担う基礎的な能力を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・教員による講義
各回の講義の資料は、事前に学習支援システム（Hoppii）を通じて送付する。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として 3 分の 2 程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめをする。
・学生の発表
講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを 2 回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。
・オフィス・アワー
講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。
・授業の形式
授業は、Zoom を使用し、オンライン授業形式で行う予定。Zoom の ID・パスコード等については、初回授業までに学習支援システム（Hoppii）を通じて連絡する。授業開始前または後、新型コロナウイルスの感染状況が改善し、対面授業が可能となった場合は、対面授業に切り替える。その場合、事前通知を行い、2 週間後より対面授業に切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生の NPO マネジメントの知識や関心を聞き、今後の授業に反映させる。
第 2 回	NPO マネジメントの特色	NPO のマネジメントが企業や行政のマネジメントとどう異なるかについて検討することを通じて、その特色を理解する。
第 3 回	ヒューマンリソースのマネジメント 1	NPO が活用するヒューマンリソースは、ボランティアとスタッフ、理事に大別できる。この三者がどのように連携することで、効果的な組織運営が可能になるか考える。
第 4 回	ヒューマンリソースのマネジメント 2	ボランティアとスタッフ、理事のそれぞれに対するマネジメントの手法について考える。
第 5 回	資金のマネジメント 1	NPO の事業の受益者の多くは、十分な支払い能力がない。このため、非営利の社会的企業は、ファンドレイジングが必要となる。ファンドレイジングをどのように行うか、考える。
第 6 回	資金のマネジメント 2	ファンドレイジングで獲得した資金も含め、適切な財務管理を行う必要がある。これらの意義や手法について検討する。
第 7 回	授業のふりかえり	第 2 回から 6 回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる
第 8 回	レポートのアウトラインの発表	最終回に発表を行うレポートのアウトラインを示し、フィードバックを受ける。
第 9 回	プログラムプランニング	NPO の実態は、個々の事業、すなわちプログラムである。これをいかに企画立し、実施してくのかについて検討する。
第 10 回	戦略計画	変化の激しい現代において、NPO も内外の変化に対応していかなければ、継続、発展はできない。このため、組織の内外環境を分析し、優先順位をつけて運営を進めるための戦略計画について検討する。
第 11 回	NPO の設立	組織は、設立しなければ機能しない。営利であれば株式会社、非営利であれば NPO 法人や一般社団・財団など法人格の取得を行うことになる。ここでは、NPO 法人の設立について考える。
第 12 回	NPO の世代交代	NPO においても、設立から時間が経過すると、世代交代の問題が出てくる。営利企業との比較も含め、これらを進める手法を検討する。
第 13 回	授業のふりかえり	第 9 回から 12 回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第 14 回	レポートの発表	授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受けるとともに、NPO の運営方法や運営の現状、課題などについて、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義に関する学習
事前に学習支援システム（Hoppii）を通じて送付された授業資料を読み、授業内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習に加え、復習として、講義のメモや授業中の質問、回答、議論などについて、毎回、簡単に整理しておく。
・講義以外に関する学習
授業期間中に 2 回ふりかえりを提出する。さらに、レポートに関して、アウトラインとレポート（発表用レジュメと本文）を期限（オリエンテーションで提示）までに提出する。なお、これらの学習時間については、予習・復習が各回 30 分程度、ふりかえりの作成が 1 回につき 1 時間（2 回なので 2 時間）、レポートのアウトラインは 2 時間、レポートの作成（発表用レジュメと本文）は 10 時間程度を要する。

【テキスト（教科書）】
柏木宏著『NPO マネジメントハンドブック』明石書店、2004 年。

【参考書】
柏木宏編著『コロナ禍における日米の NPO』明石書店、2020 年。
受講生の希望と必要に応じて、随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50 %、「ふりかえり」とレポート 50 %。
レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合は、必要な PC や Wi-Fi 設備などを用意したうえで、Zoom を利用できる環境の準備が求められる。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
NPO 論、NPO マネジメント
＜研究テーマ＞
日米の NPO、社会運動
＜主要研究業績＞
・『アメリカの外国人労働者』明石書店、1991 年
・『企業経営と人権』解放出版社、1993 年
・『アメリカのなかの日本企業』日本評論社、1994 年
・『災害ボランティアと NPO』共編著、朝日新聞社、1995 年
・『ボランティア活動を考える』岩波書店、1996 年
・『NPO インターンシップの魅力』共編著、アルク、1998 年
・『アメリカの労働運動の挑戦』労働大学、1999 年
・『NPO マネジメントハンドブック』明石書店、2004 年
・『指定管理者制度と NPO』明石書店、2007 年
・『NPO と政治』明石書店、2008 年
・『創造都市経済と都市地域再生』共著、大阪公立大学共同出版会、2011 年
・『みんなで考える広域複合災害』共著、大阪公立大学共同出版会、2013 年
・『高齢者が動けば社会が変わる』共著、ミネルヴァ書房、2017 年
・『未来を切り拓く女性たちの NPO 活動』共著、明石書店、2019 年

・『コロナ禍における日米の NPO』編著、明石書店、2020 年

【Outline (in English)】
This class focuses on how to manage a nonprofit organization. By learning management of its human resources, financial resources and planning methods, students could obtain basic skills to manage a nonprofit organization.

SOC500P1 － 207

ＮＰＯ論

柏木　宏

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
NPO（民間非営利組織）は、サービス活動の提供による社会・地域問題への対応と、社会変革に向けたアドボカシー活動の両輪によって成り立っている。これらの活動により、NPO は、市民セクターの形成・発展の中心的な役割を担うとともに、市民社会を構築するための重要なツールとして機能している。日本における NPO は、1998 年の NPO 法成立によって具体化、顕在化したといえるが、「NPO の先進国、アメリカ」では、1 世紀以上前から生成し、1960 年代以降、急速に発展している。本授業では、NPO に関する基本的な概念の整理、こうした日米における NPO の歴史的背景や意義、現状と課題などについて理解することを目的にする。

【到達目標】
上記の【授業の概要と目的】を踏まえ、日米を中心にした NPO に関する歴史や制度、社会的な役割、企業や行政との協働を含めた活動の携帯などについて基本的な知識を幅広く獲得することができる。また、日本だけでなく、アメリカをはじめとした世界全体におけるコロナ禍における現状や課題を含めた、NPO の今日的課題や意義について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・教員による講義
各回の講義の資料は、事前に学習支援システム（Hoppii）を通じて送付する。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として 3 分の 2 程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめをする。
・学生の発表
講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを 2 回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。
・オフィス・アワー
講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。
・授業の形式
授業は、Zoom を使用し、オンライン授業形式で行う予定。Zoom の ID・パスコード等については、初回授業までに学習支援システム（Hoppii）を通じて連絡する。授業開始前または後、新型コロナウイルスの感染状況が改善し、対面授業が可能となった場合は、対面授業に切り替える。その場合、事前通知を行い、2 週間後より対面授業に切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生の NPO に関する知識や関心を聞き、今後の授業に反映させる。
第 2 回	非営利と公益の概念整理	NPO にとって最も重要といえる「非営利」と「公益」というふたつの概念を整理、理解する。
第 3 回	ボランティア活動と NPO	ボランティア活動と NPO 活動の同質性と異質性、また関係性について検討、理解する。
第 4 回	NPO 法の成立とその後	阪神淡路大震災後のボランティア活動の広がりと、その影響もあり 1998 年に成立した NPO 法の背景と成立過程、法の概要を整理するとともに、同法の成立後の NPO の発展や税制優遇制度の導入など、同法に関連した重要な動きやコロナ禍に NPO が直面した課題などを概観する。
第 5 回	世界の NPO	ジョンズ・ホプキンス大学の調査をベースに、世界の NPO を概観する。
第 6 回	アメリカの NPO	世界最大の NPO セクターをもつアメリカで、NPO がどのように発展し、制度が築かれてきたのかについて考える。そのうえで、コロナ禍を含めたアメリカの NPO セクターの現状について最新のデータを用いて把握するとともに、課題についても検討する。
第 7 回	授業のふりかえり	第 2 回から 6 回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第 8 回	レポートのアウトラインの発表	最終回に発表を行うレポートのアウトラインを示し、フィードバックを受ける。
第 9 回	NPO のサービス活動	NPO のサービス活動とアドボカシー活動が、どのように関連して展開され、NPO のサービスの充実や社会課題に関する政策の形成に寄与しているのか、理論的に検討する。
第 10 回	NPO のアドボカシー活動	日本とアメリカにおける NPO のサービス活動とアドボカシー活動について、その 実態について事例を含め、検討、理解する。
第 11 回	NPO の協働に関する理論の検討	NPO と行政・企業の関係の理論的な枠組みを検討する。
第 12 回	NPO 協働に関する事例研究	日米において NPO と行政・企業の間で、どのように協働が展開されているのか、事例を含め、検討する。
第 13 回	授業のふりかえり	第 9 回から 12 回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第 14 回	レポートの発表	授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受けるとともに、NPO の社会的役割や現状、課題などについて、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義に関する学習
事前にウェブにアップされた授業資料を読み、授業内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習に加え、復習として、講義のメモや授業中の質問、回答、議論などについて、毎回、簡単に整理しておく。
・発表に関する学習
授業期間中に 2 回ふりかえりを提出する。さらに、レポートに関して、アウトラインとレポート（発表用レジュメと本文）を期限（オリエンテーションで提示）までに提出する。なお、これらの学習時間については、予習・復習が各回 30 分程度、ふりかえりの作成が 1 回につき 1 時間（2 回なので 2 時間）、レポートのアウトラインは 2 時間、レポートの作成（発表用レジュメと本文）は 10 時間程度を要する。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは定めない。授業中に配布する資料を用いて、授業を行う。

【参考書】
柏木宏編著『コロナ禍における日米の NPO』明石書店、2020 年。
その他、受講生の希望と必要に応じて、随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50 %、「ふりかえり」とレポート 50 %。
レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業になる可能性がある。オンライン事業の場合は、必要な PC や Wi-Fi 設備などを用意したうえで、学習支援視システム利用できる環境の準備が必要。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
NPO 論、NPO マネジメント
＜研究テーマ＞
日米の NPO、社会運動
＜主要研究業績＞
・『アメリカの外国人労働者』明石書店、1991 年
・『企業経営と人権』解放出版社、1993 年
・『アメリカのなかの日本企業』日本評論社、1994 年
・『災害ボランティアと NPO』共編著、朝日新聞社、1995 年
・『ボランティア活動を考える』岩波書店、1996 年
・『NPO インターンシップの魅力』共編著、アルク、1998 年
・『アメリカの労働運動の挑戦』労働大学、1999 年
・『NPO マネジメントハンドブック』明石書店、2004 年
・『指定管理者制度と NPO』明石書店、2007 年
・『NPO と政治』明石書店、2008 年
・『創造都市経済と都市地域再生』共著、大阪公立大学共同出版会、2011 年

・『みんなで考える広域複合災害』共著、大阪公立大学共同出版会、2013 年
・『高齢者が動けば社会が変わる』共著、ミネルヴァ書房、2017 年
・『未来を切り拓く女性たちの NPO 活動』共著、明石書店、2019 年
・『コロナ禍における日米の NPO』編著、明石書店、2020 年

【Outline (in English)】
Nonprofit organizations (NPOs) have two primary roles; to deal with social and community problems by providing services and to advocate these problems to solve them. By these works, NPOs take a leading role in developing civil society. NPOs in Japan were recognized in 1998 through the law promoting nonprofit activities. In the US, NPOs started more than a century ago and have developed rapidly since the 1960s. This class analyzes their significance and examines the history and current situations in the US and Japan.

SOC500P1 － 208

非営利セクター研究

矢代　隆嗣

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における非営利セクターの位置づけを理解した上で、非営利組織についての現状と課題を整理する。その上で民間非営利組織である NPO（Non Profit Organization）に焦点を当て、公的課題解決における役割について整理する。また、地域課題解決に向けての NPO と行政、また企業との協働についても考察を深める。

【到達目標】
・現代社会における非営利セクターの位置づけと民間非営利組織に関する基礎知識を理解すること。
・公的課題解決に向けた非営利組織の経営・事業マネジメントの重要性と実践でのポイントを理解すること。
・地域課題解決に向けた民間非営利組織の活動、他セクター（政府、民間企業）との協働の現状と課題について理解するとともに、課題解決の方向性をまとめること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で進めるが、各回のテーマに関する事例を活用したクラス内討議を行う演習を組み込み実務での実践につなげるスキル強化も図る。また、授業では受講生からの研究報告とそれに関する質疑応答・討議を行う。講師は発表への講評を行うとともに、質疑応答・討議でのファシリテーターを担う。（授業形式：対面）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のねらい、全体構造、講義の進め方、評価方法について説明する。
第 2 回	非営利セクターとは	現代社会における非営利セクター（サードセクター）を他セクターとの比較を通じて、その特徴を説明する。
第 3 回	日本の非営利セクター	日本の非営利セクターの特性、活動状況を説明する
第 4 回	非営利組織の特性	非営利組織の特性、その分類概念、行動原理、市民社会との関係について説明する。また、政府の失敗、市場の失敗、非営利の失敗について説明する。
第 5 回	非営利組織と新しい公共	新しい公共について整理するとともに、その担い手としての非営利組織の役割を考察する。
第 6 回	非営利組織と公共サービス	公共サービスにおける非営利組織の活動分野（保健・医療、福祉、教育、環境、まちづくり、その他）を概観する。準市場についての考察も行う。また、準市場についての考察も行う。
第 7 回	社会的企業・コミュニティビジネス	社会的企業、コミュニティビジネス、社会的起業家について説明するとともに、社会における社会的企業の位置づけ・役割を考察する。
第 8 回	民間非営利組織（NPO）とは	特定非営利活動（NPO 法）とその背景を概観し、NPO の組織特性や組織マネジメントの特徴を整理する。
第 9 回	NPO の戦略・事業プロセスマネジメント	NPO の戦略と事業プロセス（立案・実施・評価）におけるマネジメントポイントを考察する。
第 10 回	NPO と行政の協働	地域課題解決における協働（Coproduction）について整理した上で協働の現状と課題について説明するとともに課題解決の方向性を考察する。
第 11 回	NPO と行政の協働の事例	地域課題解決に向けた NPO と自治体の協働事例から協働の実態と課題を整理するとともにその克服の方向性を考察する。
第 12 回	NPO と行政の協働マネジメント	NPO と行政の協働における成果に向けたマネジメント対象について説明するとともにそのマネジメントのポイントを考察する。
第 13 回	NPO と企業の協働	NPO と企業の協働の現状と課題を説明するとともにその解決の方向性を考察する。
第 14 回	まとめ	地域課題解決における非営利組織の課題と展望について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。講義毎に必要に応じて資料配布する。

【参考書】
雨森孝悦『テキストブック NPO 非営利組織制度・活動・マネジメント（第 2 版）』東洋経済新報社、2012 年
今田忠『概説市民社会論』関西学院大学出版会、2014 年
岡本仁宏編『市民社会セクターの可能性』関西学院大学出版会、2015 年
河合明宣、大橋正明『新訂 NPO マネジメント』放送大学振興会、2017 年
川口清史編（2005）『よくわかる NPO・ボランティア』ミネルヴァ書房
坂本浩也編著『市民社会論』法律文化社、2017 年
佐藤慶幸『NPO と市民社会』有斐閣、2002 年
田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織』有斐閣、2009 年
矢代隆嗣『NPO と行政による《協働》活動における “成果要因”』公人の友社、2013 年
矢代隆嗣『自治体の政策形成マネジメント入門』公人の友社、2017 年
矢代隆嗣『NPO と行政の協働事業マネジメント～共同から” 協働” による地域の問題を解決する』公人の友社、2020 年
サラモン,L.M. 他今田忠訳『台頭する非営利セクター』ダイヤモンド社、1996 年
サラモン,L.M. 江上哲監訳『NPO と公共サービス　政府と民間のパートナーシップ―』ミネルヴァ書房、2007 年
ペストプ,V. 藤田他訳『福祉社会と市民民主主義』日本経済評論社、2000 年
リピエッツ,A. 井上泰夫訳『サードセクター「新しい公共」と「新しい経済」』藤原書店、2011 年

【成績評価の方法と基準】
授業での発言、演習・討議への参画度（５０％）、報告発表と質疑応答（３０％）、期末レポート（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域協働研究、地域課題と非営利組織研究、自治体政策マネジメント研究
＜研究テーマ＞自治体と非営利組織の協働、自治体政策マネジメント、事業評価、地域課題解決能力開発
＜主要研究業績＞『NPO と行政による《協働》活動における成果要因』（公人の友社、2013 年）、『NPO と行政の協働事業マネジメント～共同から” 協働” による地域の問題を解決する』（公人の友社、2020 年）

【Outline (in English)】
[Course outline]
After understanding placing by the nonprofit sector in modern society, organize the current situation and issues on non-profit organizations. Then, focus on NPO which is private nonprofit organization on it and organize the role in solving public issues. In addition, we will deepen our consideration of the coproduction between NPOs and the government for resolving regional issues, and the companies also consider about coproduction between NPOs and enterprises.
[Learning Objectives]
The goals of this course are to understand the position of the non-profit sector in modern society and basic knowledge about private non-profit organizations (NPOs),to understand the importance of NPO management and business management in resolving regional issues and the key points to be considered in practice,to understand the activities of private non-profit organizations and the current status and issues of collaboration with other sectors (local government, private sector) in resolving regional issues, and to summarize the directions for resolving these issues.
[Learning activities outside of classroom]
In each class, we plan to make presentations (themes related to regional problem solving and private non-profit organizations) and Q & A sessions, so the reporter should prepare in advance, such as creating a report.
[Grading Criteria]
Final grade will be calculated according to the following process participation in exercises, discussions (50%), presentations and questions and answers (30%), final report (20%).

SOC500P1 － 210

市民社会とコミュニティ

渕元　初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の「市民社会とコミュニティ」と政治学研究科の「コミュニティ論研究 1」との合併開講で、地域コミュニティに関する政策論を学ぶための科目の一つとして設置されている。本科目ではコミュニティ・レベルで展開している諸主体の公共的な動きを、事例研究を通じて考え、理論的な整理を行う。
日本では、合併によって失われた制度枠組を自治会・町内会が民間的に回復するという特異な経過を辿ったほか、民間（「市民社会」）側の多彩な営為が生活を支えてきたことを論じていく。

【到達目標】
日本のコミュニティの基礎的組織（自治会・町内会や地区社会福祉協議会、地区民生委員協議会、消防団など）や地域で活動する NPO などについて理解し、その現代的、日本的特徴を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。
授業方式は原則として対面授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	福祉国家の変容とコミュニティ	福祉国家の形成と変容に伴い、人と人の間の「つながり」がどのように変化してきたのかを論ずる。
第 2 回	市民社会の概念史	日本人の市民社会意識を考えるため、市民社会の概念史を確認する。
第 3 回	都市化とコミュニティ	都市の発展により、コミュニティにおけるネットワークがどのように変化したのかを考える。
第 4 回前半	日本における自治会・町内会	自治会・町内会の基本的特質と歴史を論ずる。
第 4 回後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、日本の自治会・町内会に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 5 回前半	スコットランドの住民組織	スコットランドの地域評議会について説明する。
第 5 回後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、各国の住民組織に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 6 回前半	コミュニティにおける「居場所」づくり	近年活発に取組まれているサロン活動、コミュニティ・カフェなどの事例を検討する
第 6 回後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、コミュニティにおける居場所作りに関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 7 回前半	コミュニティの「再生」	現代におけるコミュニティの「再生」について事例に基づいて検討を行う。
第 7 回後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、コミュニティの「再生」に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。
事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。
課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
必要に応じて、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題報告（30%）及び期末レポート（50 %）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
市民社会やコミュニティに対する受講生の分析視角が多様であり、その多様性を理解するためにも相互に議論する機会をより多く設けることが必要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
Community governance in many countries has gone through great transformations in the last half century. The course seeks to provide an understanding of these changes in community policy and why they have come about. The course analyses the ideological and political factors which have shaped the development of civil society in industrial countries in the past and are shaping it in the present.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Course presentation 30%, Short Essay50%, Class contribution 20%

SOC500P1 － 211

都市ガバナンス論

植木　豊

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、公共性と「都市ガバナンス」をテーマに講義を行う。今日、公共的な問題を解決するためには、中央政府といった単独主体だけでは不十分になりつつある。都市の問題を、地方政府・企業・非営利組織・自治会等の連繋よって解決する様式が求められつつある。このように、公共的な問題を、地元地域の複数主体連繋（ガバナンス）によって解決していく様式の成立如何を議論していく。

【到達目標】
複数主体間連携による問題解決（ガバナンス型問題解決）の成否要因を分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
対面講義形式。配布資料に基づいて講義を進めていき、合わせて、扱った問題について、議論していく。その際、講義内容に基づいた論文作成／アウトライン作成演習等の課題を課し、返却時に議論を含めたフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	I　ガバナンスとは何か―総論―（1）ガバナンスをめぐる様々な議論	ガバナンス論をめぐる概観
第 2 回	（2）公共性とガバナンスの実際―思考実験による例解―	具体的な事例を基にして、ガバナンス論の分析枠組みの概略を知る。
第 3 回	II　ガバナンス論登場の社会的背景（1）「制度の失敗」総論	ガバナンス論が登場した背景を「制度の失敗」という観点から捉え返す。
第 4 回	（2）「市場の失敗」	「市場の失敗」を社会学の観点から考察する。
第 5 回	（3）「市場の失敗」に対する国家の介入	福祉国家論と「土建国家」論の具体的事例を理解する。
第 6 回	（4）「国家の失敗」	福祉国家の失敗と「土建国家」の失敗の要因を把握する。
第 7 回	（5）「国家の失敗」に対する新自由主義的処方箋の失敗	欧米、日本における新自由主義の登場とその帰結を考察する。
第 8 回	III　中間考察―公共性とガバナンス	ガバナンス論登場の背景を把握した上で、ガバナンス論の課題・分析枠組みを理解する。
第 9 回	（1）ガバナンスにおけるデューイ的公共性とハーバーマス的公共圏の交差－その1	ガバナンス型問題解決は、デューイ的公共性とハーバーマス的公共圏との交差場面で主題化されることを把握する。
第 10 回	（2）ガバナンスにおけるデューイ的公共性とハーバーマス的公共圏の交差－その2	デューイ的公共性とハーバーマス的公共圏の分析枠組みを理解する。
第 11 回	IV　ガバナンスの実際　規範理論と経験理論	ガバナンス論の現状を、規範理論と経験理論の観点から考察する。
第 12 回	（1）ガバナンスの分析枠組み	具体的な事例を念頭に、何をどう分析すべきかを考察する。
第 13 回	（2）複数主体間連携による問題解決の実際	具体的事例をガバナンス論の分析枠組みを用いて考察する。
第 14 回	まとめ	ガバナンス型問題解決の行方と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料（専門書・論文・新聞記事等のコピー）を予習・復習に用いること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回、論文・新聞記事等のコピーを配布。

【参考書】
Mark Bevir ed. (2011) The Sage Handbook of Governance, Sage.
マーク・ベヴィア『ガバナンスとは何か』NTT 出版。

【成績評価の方法と基準】
ガバナンスに関する小論文を学期末に提出してもらい、この小論文（2,000 字以上）で成績を評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の問題関心は、理論志向、事例志向など様々であると思われるので、受講生の要望に適宜応じていく予定。
たとえば、２０１７年度は事例分析を多くし、２０１９年度２０２０年度２０２１年度は理論分析を多くした。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会学
＜研究テーマ＞社会理論、都市論
＜主要研究業績＞
著書
植木豊『プラグマティズムとデモクラシー―― デューイ的公衆と「知性の社会的使用」』ハーベスト社
訳書
ジョン・デューイ『公衆とその諸問題』ハーベスト社
『プラグマティズム古典集成―― パース、ジェイムズ、デューイ』作品社
『G・H・ミード著作集成―― プラグマティズム、社会、歴史』作品社

【Outline (in English)】
The aim of this lecture is to provide an analytical framework for urban governance. Given that a single governmental body is not sufficient to solve public problems under today's complicated urban conditions, it is worth noting that co-operations of different kinds of urban associations are emerging as means for solving urban problems. The lecture discusses in what way urban governance can solve them.
The evaluation of learning results will be based on a term-end paper with more than 2,000 characters (100%).
The paper requires research on governance studies and technical writing expertise.

SOC500P1 － 212

まちづくり研究

野口　和雄

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
まちづくりは、日本に特有の多義的言語である。研究者はもとより「まちづくり」を語る主体により、また文脈により、地域により、時代状況により意味が異なる。人口減少地域では、地域の活性化を図るための「まちづくり」が必要であるとして定住人口の確保、子育て環境づくり、高齢者対策、身近な購買機会の確保等を含む概念であると定義され、狭隘な駅前などでは再開発や区画整理が「まちづくり」と同義語で使われている。民間企業による住宅開発、商業施設開発も「まちづくり」とされ、市民による子ども食堂も「まちづくり」と言われるので、固定的な定義はここでは避けたい。
この研究では、人口減少期に突入した現在の日本にもける地域の課題を共有化した上で、その解決手法としての「まちづくり」を、日本のみならず海外の歴史や現在の試みを学びながら、これからの「まちづくり」のあり方を検討したい。なお、講師は、まちづくりの選択肢とプロセスは複数存在し、それをどう提示できるか、まちづくり主体によるアクションをどう引き出せるかが重要だと考えている.

【到達目標】
・地域もおけるまちづくり上の政策課題を分析し整理できる能力を養う。
・課題を解決するためのまちづくりの理念とビジョンを策定する思考力を養う。
・理念やビジョンを実現する制度手法を見つけ出すことができる提案力を身につける。
Students can analyze regional issues.
Students can formulate a regional vision and policies .
Students can think of policy realization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
対面式で行う。
授業では、授業ごとに、講義形式と講義+ディベート形式を組み合わせて行う。講義形式では、講義後質疑と意見交換を行う。講義+ディベート形式では、授業の前半は講師が作成したテキストに基づき講義し、後半は質疑と講師からの問題提起を受けての受講者間のディベートにより授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	まちづくり概論	「まちづくり」の領域と日本における「まちづくり課題」を整理し共有化する。受講者の「まちづくり」への関心等について聞く。
第 2 回	近代の都市・まちづくりの起源	都市への集中、高密とそれに伴う環境、衛生問題からはじまった近代都市におけるまちづくりの系譜を概観する。
第 3 回	田園都市、近隣住区論と輝く都市	ハワードの「田園都市」、ペリーの「近隣住区」、コルビジェの「輝く都市」の問題提起と現代的意味を学ぶ。
第 4 回	米国の都市・まちづくり	米国のまちづくりマネジメントの思想と方法を学ぶ。
第 5 回	日本の都市・まちづくり	日本の都市・まちづくりの歴史的経過と制度的課題を整理する。
第 6 回	都市規制と緩和の効果	都市・まちづくりにおける新自由主義の展開とその「光と影」を考える。
第 7 回	人口減少と都市・まちづくりの課題	人口減少時代における地域の政策課題とまちづくりのあり方を考える。
第 8 回	コンパクトシティと都市再生	政府によるコンパクトシティ、都市再生戦略の。効果と課題を考える
第 9 回	空家問題、所有者不明土地問題と都市・まちづくり	空家問題、所有者不明土地問題と立法措置を整理した上で、課題と解決方策を検討する。
第 10 回	高層マンションの街の持続可能性	区分所有マンション、特にタワーマンションの実態と法律上の課題を整理した上で、解決方策を検討する。
第 11 回	公共空間のコモンズ化の方法と課題	地域において公共空間はもとより、かつてあった（都市）コモンズが失われつつある。その一方で、コモンズの再生の試みが行われている。実態と制度、試み等に学びながら、コモンズ再生のあり方を検討する。
第 12 回	まちづくりと市民参加	まちづくりの分野における市民参加には、多様な手法が試みられ、参加を実質化する試みが行われていることから、まちづくりにおける市民参加の方法、意味などを考える。
第 13 回	まちづくり条例によるまちづくり	日本では、まちづくり関連法とのは別に自治体の独自の制度として多様なまちづくり条例が制定され一定の役割を果たしてきた。その歴史と事例から、まちづくり制度のあり方を考える。
第 14 回	試験・まとめと解説	最終回で、試験を行う。幾つかの問いに対するレポート提出の形式による。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Preparation and review is 2hours each.

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。テキスト、参考文献、参考論文、事例等は、適宜受講者に通知する。

【参考書】
「いきづく町をつくる　美の条例」（五十嵐・野口・池上共著、学芸出版）
「都市計画法改正『土地総有』の提言」（五十嵐・野口・萩原、第一法規）

【成績評価の方法と基準】
授業内議論参加 40 %、最終レポート 60 %
in-class discussion and opinion presentation/40%
last report/60%

【学生の意見等からの気づき】
受講者からの質疑、意見を踏まえ、後日授業で資料配付、補足説明等を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。ただし、発表の際にプロジェクターを使用する場合は、ＰＣを持参のこと。

【その他の重要事項】
講師は、大学の兼任講師として教育医の現場に携わる一方で、再開発、区画整理、まちづくり条例の制定、地方創生事業等に携わってきた。また、政府に都市方の改正を提案してきた。これらの経験を踏まえ、まちづくりの理論を学ぶだけでなく、実際のまちづくりの現場で活かすことができる力が養われるような授業を行いたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞まちづくり制度、土地利用計画、」合意形成
＜研究テーマ＞
都市関連法改正、人口減少下における都市政策及び土地利用政策、まちづくりにおける市民参加
＜主要研究業績＞
都市計画の日米比較 1994 年 10 月財）第一住宅建設協会
地方自治体と成長管理 1995 年 1 月都市計画
独自のまちづくり体系確立の試み 1997 年 7 月法学セミナー
景観法と「美の条例」2008 年 4 月自治体法務ナビ Vol.22
まちづくり条例の実態と課題 2011 年 4 月日本不動産学会誌 No.95
言語基準と実効性 2013 年 12 月日本不動産学会誌 No.106
まちづくり条例の展望と限界 2013 年 2 月都市問題 Vol.104
空き地・空き家対策における地域社会の役割 2020 年 3 月千葉商科大学経済研究所 CUC
ＶＩＥＷ&ＶＩＳＩＯＮ
No49
所有者不明土地解消に向けた民事基本法制の見直しについて 2021 年 8 月地域開発 vol.638

【Outline (in English)】
The word “MACHIDUKURI” has several meanings.
The word “MACHIDUKURI” is used in different definitions by city planners and researchers , and used in different meanings according to the area or the context by citizen.
So, I the lecture do not use the word in some fixed definition, but support students to find their own definitions.
This class aim to develop the ability to plan a future “MACHIDUKURI” by studying history and practicing “MACHIDUKURI” on present spot.

SOC500P1 － 213

文化政策研究

松本　茂章

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自治体の文化政策についての理解を深め、論議することをテーマとする。狭義の自治体文化政策は文化施設の設置と運営、文化事業の展開が中心になるだろうが、本授業では広義の自治体文化政策にも話を広げたい。観光振興やまちづくりなど、文化を通じた地域振興策に言及する。

【到達目標】
中央政府の文化政策を総括したうえで、近年に展開されている自治体文化行政あるいは文化政策の経緯と現状を修得する。その後、都内を中心とした自治体文化政策の事例を学ぶ。現地を踏査することで、現状把握に努める。視察をもとに、受講生は自らの出身地あるいは現在の居住地のありようについて調べ、討議し、21 世紀の地域づくりを考える。
観光振興やまちづくりの政策も取り上げ、受講生の視野を広げたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
広義の文化政策を積極的に取り上げようと考えている。文化による地域活性化、まちづくりである。文化施設の設置あるいは文化事業の実施によって、まちの空気が変わっていく……。そのような先駆的事例を紹介しつつ、都内を歩いて現場を体験したいと想定している。身近な課題である観光振興、まちづくり等について、具体的な事例を取り上げる予定。受講生とともに、21 世紀の文化政策のありようを考える。
しかし、政策は「生きもの」なので、適宜、新しいニュースが入れば、授業計画を変更して、新たなことに言及する可能性があることを了承願いたい。
視察については、シラバス作成時点で具体的な場所を明記できない。市ヶ谷という都心に立地する法政の地理的利点を生かしたいと考えている。
受講生は自らの関心のある都市、たとえば出身地や居住地の取り組みについて調査を行い、適宜、発表することで、討議の材料を提供する。
感染状況次第で、対面授業にするか、オンライン授業にするか、を詰めていく。
今後、感染の状況を丁寧に把握しながら、実施のありようを検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	◆ガイダンス／授業の進め方	・授業目的の説明。どのように授業を展開するかの言及。および大学院での勉学の心得。
第 2 回	◆文化芸術基本法の制定	・2017 年に制定された文化芸術基本法の意義や特色について説明する。
第 3 回	◆自治体が展開した文化政策の歴史と特徴	・戦後に始まった県や市町村の文化政策の歩みを振り返る。
第 4 回	◆中央政府が展開した文化政策の歴史と特徴	・明治以降に展開した中央政府の文化政策の過程を振り返る。
第 5 回	◆文化政策と観光①	・六本木アートナイトを事例に、海外観光客を誘引する文化事業について語る。
第 6 回	◆文化政策と観光②	・京都・美山町の取り組みを事例に、かやぶきの里が海外観光客をひきつける様子を紹介し、インバウンド観光に必要な要素を考える。
第 7 回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪れ、実態を把握する。 （シラバス作成時は未定） （交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する）
第 8 回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪れ、実態を把握する。 （シラバス作成時は未定） （交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する）
第 9 回	◆文化政策とまちづくり①	・杉並区・高円寺の阿波踊りを事例に、商店街振興と文化事業のありようについて説明する。
第 10 回	◆文化政策とまちづくり②	・鳥取市の取り組みを事例に、空き家を活用した文化事業に言及する。
第 11 回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪れ、実態を把握する。 （シラバス作成時は未定） （交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する）
第 12 回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪れ、実態を把握する。 （シラバス作成時は未定） （交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する）
第 13 回	◆文化政策と教育	・廃校になった小学校をアートセンターに改装した立川市の取り組みを事例に、これからの文化政策を話し合う。
第 14 回	◆まとめ	・受講生が自ら関心のある都市の現状を報告して論議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
松本茂章編著『文化で地域をデザインする　社会の課題解決と文化をつなぐ現場から』(学芸出版社、2020 年）

【参考書】
松本茂章『日本の文化施設を歩く　官民協働のまちづくり』（水曜社、2015 年）
松本茂章編『はじまりのアートマネジメント』（水曜社、2021 年）など。
必要があれば、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席点 50 %（単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要）
平常点 20 %（授業中の発表、発言、出席カードのコメントなど）
期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
公立文化施設等を訪ねるフィールドワークは毎年好評なので継続したい。
法政大学公共政策研究科は都心にあり、地理的に恵まれている。この環境を生かして都内各地に足を運ぶ予定である。
しかし、フィールドワークは感染拡大の状況次第であり、事態に注視しながら検討する。授業中に改めて指示を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
文化政策研究は、市民社会ガバナンスコースの専門科目に含まれているものの、自治体文化政策を主に取り上げるので、ぜひ公共マネジメントコースの院生にも受講していただきたい。自治体職員や NPO 職員、あるいはこれらを目指す院生にも参考になる、と考えている。
政策は日々動いているので、新たな取り組みが展開したり話題になったりした場合、ニュースとして直近の動きを取り上げる場合がある。
視察に関しても、ゲストの都合や天候などを考慮して変更される場合がある。このため、上記の授業計画の内容や順番は変更される可能性があることを事前に了承願いたい。
視察に関しては、交通費、入館料は自己負担であることを、あらかじめ了承して受講すること。
社会人受講生の場合、仕事に追われるため、日々の通学は大変だと思われるが、頑張って出席していただければ……と願う。やる気のある院生の受講を期待する。
講義のなかで、おりをみて、修士論文作成に臨む姿勢や図書館の利用等についても助言する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
政策科学、文化政策学、まちづくり政策論
＜研究テーマ＞
自治体文化政策の現状と課題、文化による地域デザイン、文化施設研究、指定管理者制度
（日本アートマネジメント学会や日本文化政策学会などに所属）
＜主要研究業績＞
◆単著
松本茂章『芸術創造拠点と自治体文化政策　京都芸術センターの試み』（水曜社、2006 年）
松本茂章『官民協働の文化政策　人材・資金・場』（水曜社、2011 年）
松本茂章『日本の文化施設を歩く　官民協働のまちづくり』（水曜社、2015 年）
◆共編著
中川幾郎、松本茂章編『指定管理者は今どうなっているのか』（水曜社、2007 年）
など
◆共著
『入門　文化政策』（ミネルヴァ書房、2008 年）
『地域の自律的蘇生と文化政策の役割』（学文社、2011 年）
『都市自治体の文化芸術ガバナンスと公民連携』(公益財団法人日本都市センター、2018 年）
など

【Outline (in English)】
This course is designed for students who want to learn the actual situation and problems of community development with cultural activities in Japan. We are going to focus especially on municipal cultural policies, including tourism promotion, landscape conservation, and revitalization of central urban area. At the same time, however, it is possible to deepen your understanding of governmental cultural policies, with which municipalities have to build a mutually complementary relationship in order to realize these policies. Each of the cities or towns familiar to students is an important subject for our study. The main objective of this course is to extend the whole knowledge of cultural policies through concrete examples enough to discuss with each other and consider together the community development with arts and culture in the 21th century. Sometimes field research in Tokyo will be conducted.
Grading criteria
・Class attendance (50%)
・Attitude in class (20%)
・Term-end examination (30%)

SOC500P1 － 214

シンクタンク論

蒔田　純

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的要素の概念的な意味と具体的な成り立ちに関する理解を踏まえ、それらにおいてシンクタンクがどのように位置づけられ、どのような役割を果たしているか、について考察する。

【到達目標】
・海外および国内の主要なシンクタンクについて、その機能と政策形成過程における役割について把握することができる。
・政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的概念を踏まえた上で、シンクタンクという視点を通して、それらの仕組みや特徴、課題等について理解することができる。
・「仮説」⇒「検証」という科学的思考の基礎を踏まえて、公共政策の文脈の中で、シンクタンクと他の諸要素との因果関係について論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
　授業前半では、「シンクタンクとは何か」「シンクタンク論を学ぶ意義とは何か」について踏まえた上で、国家－社会間関係や政策形成過程等、公共政策の概念をシンクタンクの視点から考察し、加えて、政策形成への人材供給や資金の在り方等、シンクタンクをめぐる主要な論点について検討する。これに基づき後半では、機能や母体等の観点からシンクタンクを分類した上で、海外・日本のそれぞれにおけるシンクタンクについて、その政策形成における位置づけや役割について具体的に論ずる。
　特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布する。授業を行う上では、概念的な説明のみではなく、できるだけ具体的に現実における動きを踏まえた講義とすることを心掛けたい。場合によっては、実際にシンクタンクで働く方やその関係者等、各回のテーマに沿うゲストスピーカーを招聘し、実際におけるシンクタンクの働きをお話しいただく。
　授業は一方的な講義ではなく、受講者による質問・意見交換を歓迎する。一つの質問を基に教室中に議論が起こるような、参加型の学習空間としたい。授業後半では受講者に何らかのプレゼンテーションを行ってもらう。
　受講者には授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらい、次回講義時に口頭にて、あるいは、講義後にメール等にて、それに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容・日程等の説明、講師の自己紹介など
第 2 回	シンクタンクとは	シンクタンクの定義、歴史、機能など
第 3 回	国家と社会	国家－社会間関係、「政策ネットワーク論」など
第 4 回	政策形成とシンクタンク	政策形成過程の基礎、シンクタンクから見た政策形成過程
第 5 回	シンクタンクの人材	リボルビングドア、政治任用など
第 6 回	シンクタンクの資金	フィランソロピー、501(C)3 など
第 7 回	シンクタンクの分類	コントラクト、アカデミック、アドボカシーなど
第 8 回	海外のシンクタンク①	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第 9 回	海外のシンクタンク②	欧州を中心に海外のシンクタンクについて
第 10 回	日本のシンクタンク	日本のシンクタンクについて
第 11 回	立法補佐機関とシンクタンク	議会の立法活動を補佐する機関としての立法補佐機関とシンクタンクの関係性について
第 12 回	団体とシンクタンク	利益集団・圧力団体とシンクタンクの関係性について
第 13 回	自治体シンクタンク	自治体が創設したシンクタンクについて
第 14 回	まとめ	全体のまとめと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。準備学習については文献講読を基本とし、復習については、授業で示したシンクタンクに関する考え方を各自で現実の事象に当てはめ、その構造を把握する作業を行ってほしい。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。

【参考書】
Alex Abella, 2009. Soldiers of Reason: The RAND Corporation and the Rise of the American Empire, Mariner Books.
船橋洋一．2019.『シンクタンクとは何か―政策起業力の時代』中央公論新社.
飯尾潤．2007.『日本の統治構造』中央公論新社.
小池洋次（編著）．2010.『政策形成』ミネルヴァ書房.
宮田智之，2017.『アメリカ政治とシンクタンク―政治運動としての政策研究機関―』東京大学出版会.
Shimizu, Mika. 2015 “Think Tanks and Policy Analysis: Meeting the Challenges of Think Tanks in Japan”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., Policy Analysis in Japan, Policy Press at the University of Bristol, Chap.14.
Smith, James A. 1991. The Idea Brokers: Think Tanks and the Rise of the New Policy Elite, Free Press.
鈴木崇弘．2007.『日本に民主主義を起業する―自伝的シンクタンク論』第一書林.
鈴木崇弘．2011.「日本になぜ（米国型）シンクタンクが育たなかったのか？」『季刊政策・経営研究』pp.30-50.
鈴木崇弘・上野真城子．1993.『世界のシンク・タンク―「知」と「治」を結ぶ装置』サイマル出版会.
鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎. 2005.『シチズン・リテラシー―社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版
Smith, James, 1993. The Idea Brokers: ThinkTanks And The Ruse if The New Policy Elite, Free Press.
Suzuki, Takahiro. 2015. “Policy Analysis and Policymaking by Japanese Political Parties”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., Policy Analysis in Japan, Policy Press at the University of Bristol, Chap.11.
建林正彦・曽我謙悟・待鳥聡史，2008『比較政治制度論』有斐閣.
横江公美，2008.『アメリカのシンクタンク　第五の権力の実相』ミネルヴァ書房.
横江公美，2004.『第五の権力　アメリカのシンクタンク』文藝春秋.
Weaver, R., 2002. Think Tanks and Civil Societies: Catalysts for Ideas and Action, Routledge.

【成績評価の方法と基準】
出席・質疑・討論参加 40 %、レポート 30 %、プレゼンテーション 30 %
＜評価基準＞
質疑・討論参加：積極性、分析力、批判力、問題提起性等
レポート・プレゼンテーション：分析力、論理性、新規性、簡潔性等

【学生の意見等からの気づき】
基本的な政治学用語、政治学的な考え方についても適宜、解説を行う。

【その他の重要事項】
レポートの提出期限、内容等については適宜指定する。
やむを得ず授業を欠席する際は、事前あるいは事後にその理由につき連絡すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治過程、議会、利益団体、政治教育、政策分析
＜研究テーマ＞政治過程における民間アクターの役割、政策形成における政策ネットワークの役割、テクノロジーと政治、主権者教育の効果　など
＜主要研究業績＞
"A study of the functions of political appointees from a comparative perspective," Asian Journal of Comparative Politics, 2021, https://journals.sagepub.com/doi/full/10.1177/20578911211036943
「地方議員のなり手不足問題と直接民主制型の意思決定－ブロックチェーンを用いた新たな投票システムの検討－」『季刊行政管理研究』170 号、2020 年、pp.38-47.
『政治をいかに教えるか―知識と行動をつなぐ主権者教育―』弘前大学出版会、2019 年.
「政府－議会関係から見た行政組織編成権に関する一考察」『季刊行政管理研究』No.155, pp.29-39、2016 年.
「団体形成から見る政策ネットワークの変化－医薬品ネット販売の規制緩和を事例として－」『政治社会論叢』第 4 号、pp.55-70、2016 年.
“Chap.8, A Policy Analysis of the Japanese Diet from the Perspective of Legislative Supporting Agencies”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., Policy Analysis in Japan, Policy Press at the University of Bristol, 2015, pp.123-138.
『立法補佐機関の制度と機能－各国比較と日本の実証分析』晃洋書房、2013 年.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Examining how think-tanks play a role in the political process, based on the understandings regarding the concept meanings and concrete structures of fundamental factors about public policy including policy process, political structure, politician-bureaucrats relationship and nation-society relationship.
(Learning Objectives)
*Grasping roles and functions of internal and external thinktanks in the policy process.

*Understanding characteristics and problems of public-policy-related factors including policy process, political system, politico-administrative relation and nation-society relation through a perspective of thinktank.
*Gaining a capability to logically explain a causation between thinktanks and other political factors in the context of public policy based on the scientific thinking of "constructing hypothesis → verifying it".
(Learning activities)
Standard times for preparation and review is two hours per each.
In preparation, reading articles presented in references is required.
In review, a thinking training to apply some thoughts or theories about thinktanks presented in the classes to the real political phenomena for understanding their structures is required.
(Grading Criteria/Policy)
Attendance, discussion(proactivity, analytical ability, critical ability, proposing ability): 40%
Report(analytical ability, logicality, novelty, simplicity): 30%
Presentation(analytical ability, logicality, novelty, simplicity): 30%

SOC500P1 － 216

環境自治体政策研究

馬場　健司、増原　直樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地方自治体の環境基本条例・計画を中心として、気候変動緩和・適応、生物多様性保全、廃棄物・資源循環、水循環・地下水保全等の分野別条例や関連行政計画・施策の政策プロセスを題材として取上げ、基礎理論の習得とともにフィールドでの事例研究を行う。

【到達目標】
地方自治体における環境政策関連の条例や計画、各種施策の立案・決定・実施・評価過程、とりわけ市民参加や合意形成についての理論と実際を学ぶことにより、実践的な政策立案能力の基礎を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
自治体環境政策へのアプローチに必要な基本的な政策過程論、市民参加、合意形成論の理論や視点、手法についての概略の講義の後、受講者による事例研究対象の条例、行政計画などの各種行政文書および関連文献に関するサーベイ、フィールドでのステークホルダーへのインタビュー調査などを行い、その結果を報告書にとりまとめて報告会を実施する。講義と校外実習を併せ持つ課題解決型学習（PBL）を短期集中的に行う。原則として対面で実施する。フィードバックはインタビュー調査実施時などに適時行い，最終的な報告会においても行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の進め方・自治体環境政策過程の概観	受講者の問題関心を確認しつつ、講義の進め方について解説する。そのうえで自治体環境政策へアプローチする際に必要となる政策過程論の基本的な視点について概説する。
第 2 回	自治体環境政策過程の分析事例	自治体環境政策へアプローチする際に必要となる政策過程論の基本的な視点から分析したいくつかの事例について概説する。
第 3 回	自治体環境政策過程における市民参加手法の概観	全国の自治体環境政策における市民参加手法の方法論について概説する。
第 4 回	自治体環境政策過程における市民参加手法の適用事例	自治体環境政策における市民参加手法のいくつかの適用事例について概説する。
第 5 回	自治体環境政策過程におけるステークホルダー分析の概観	自治体環境政策過程を分析する際に必要となるステークホルダー分析などの合意形成手法の方法論について概説する。
第 6 回	自治体環境政策過程のステークホルダー分析の適用事例	自治体政策過程におけるステークホルダー分析などの合意形成手法のいくつかの適用事例について概説する。
第 7 回	事例研究の準備：基本的な文献調査	事例研究対象の条例、行政計画などの各種行政文書や関連文献のサーベイにより、政策過程の経緯や背景などについて理解を深める。
第 8 回	事例研究の準備：ステークホルダーと論点の仮定的抽出と調査票の設計等	文献調査の結果を踏まえ、ステークホルダーや論点を仮定的に抽出し、インタビュー調査に向けた調査票の設計などを行う。
第 9 回	事例研究の実施：インタビュー調査の実施	ステークホルダーへのインタビュー調査など、フィールドでの事例研究を行う。
第 10 回	事例研究の小括：インタビュー調査結果の小括	インタビュー調査結果などを暫定的に小括としてとりまとめる。
第 11 回	事例研究の実施：追加的なインタビュー調査の実施	追加的なステークホルダーの抽出とインタビュー調査など、フィールドでの事例研究を行う。
第 12 回	事例研究の小括：追加的なインタビュー調査結果の小括	追加的なインタビュー調査結果などを暫定的に小括としてとりまとめる。
第 13 回	事例研究のとりまとめ：ステークホルダー分析などの実施と考察	調査結果を総合的に用いてステークホルダー分析などを実施し、考察を加えて、事例研究の成果を報告書としてとりまとめる。
第 14 回	事例研究の最終報告	報告書としてとりまとめた事例研究の成果を、各人 (チーム) から報告し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
随時指定する。

【成績評価の方法と基準】
事例研究への参加状況 (50%)、報告書への貢献状況 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インタビュー調査実施の際、記録用パソコン等の準備が必要な場合がある。

【その他の重要事項】
受講者と調整のうえオータムセッション期間中に集中的に実施する。

【馬場健司】
＜専門領域＞環境政策論、合意形成論
＜研究テーマ＞自治体環境政策過程、環境問題解決の社会的意思決定
＜主要研究業績＞
・Tanaka, M. and Baba, K.,Eds., Resilient Policies in Asian Cities; Adaptation to Climate Change and Natural Disasters, Springer, 2019. ISBN:978-981-13-8598-8
・Baba, K. et al., Perception and Attitude Changes of Stakeholders for Resilient City Policy by Online Deliberation, Frontiers in Sustainable Cities, 3, 1-15, 2021.
・Baba, K., Masuhara, N., and Kimura, M. Scenario-based Approach to Local Water-energy-food Nexus Issues with Experts and Stakeholders, Endo et al. Eds. "The Water-Energy-Food Nexus Human-Environmental Security in the Asia-Pacific Ring of Fire", 321-333, 2018, Springer.
・Baba, K. et al. Climate Change Adaptation Strategies of Local Governments in Japan, Oxford Research Encyclopedia of Climate Science, 1-27, 2017.
・"IPCC AR5 WGII Ch.24" (contributing author, 2014)
以下のサイトも参考にされたい
https://researchmap.jp/Kenshi_Baba/?lang=japanese

【増原直樹】
＜専門領域＞地域エネルギー・環境政策、地方自治論

＜研究テーマ＞資源ネクサスの現状解析と合意形成（小水力発電、地熱発電等）
＜主要研究業績＞
・増原直樹, 馬場健司（2021）水・エネルギーネクサスに対する学際・超学際的アプローチの成果と課題－別府市における温泉・観光と地熱発電に関するシナリオプランニングの事例－. 環境科学会誌 34(2):66-79.
・増原直樹（2020）ローカル SDGs から見える地域の強み：富士山麓自治体を事例として. BIOCITY (84):94-99.
・増原、岩見、松井 (2019) 地域における SDGs 達成に向けた取組みと課題：先進地域における目標・指標設定の傾向. 環境情報科学学術研究論文集, 33, pp.43-48.
・馬場、増原、遠藤編著 (2018) 地熱資源をめぐる水・エネルギー・食料ネクサス. 近代科学社.
・Naoki Masuhara, Kenshi Baba, Akihiro Tokai (2016) Clarifying relationships between participatory approaches, issues, processes, and results, through crosscutting case analysis in Japan's environmental, energy, and food policy areas. Environment Systems and Decisions. DOI:10.1007/s10669-016-9613-6.
以下のサイトも参考にされたい
https://researchmap.jp/masuhara3

【Outline (in English)】
1. To learn about environmental policy process cases which focus on environmental basic ordinances and plans of local government in Japan,
2. To carry out related field studies such as climate change, renewable energy, waste and groundwater management issues and so on,
3. Graduate students need each 2 hours for preparation and review for the class,
4. As for evaluation, half (50%) based on situation of field works and half (50%) based on contribution for final report of field works.

POL500P1 － 220

公共空間形成論

申　龍徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
明治期以降の都市公園政策を通して、近代的な公共空間（Open spaces/Public Spaces）の形成と変容を理解する。

【到達目標】
近代・現代社会の公共空間としての定着した公園緑地政策の形成過程を通じて、遊覧のための自然空間が物理的な施設へと変化して行く機能変化を実証的に分析できる。
また、防災・景観や市民文化の形成の場として変容していく公園のマクロ的な政策形成のプロセスを通じて、公共空間に求められている機能の現代的理解と市民自治・市民文化を基盤とする空間管理のあり方を実証的に検証できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は、前半の講義と後半の受講生の課題発表で進める。主な内容は、明治維新以降、欧化の近代文明の象徴として移植された近代的な都市公園の政策形成過程を対象に、①欧化の象徴たる公園が如何なる経路を通じて欧米とは異なる日本的変容を成し遂げたのか、そのメカニズムを実証的な資料に基づき詳細を解明する。その上、②この分析の結果を踏まえ、公共空間及び施設に対する行政管理における構造的課題の究明と新しい公共空間管理の視点を提案する。受講者は、関心ある公共施設の課題について、その解決方法の提案（対案）が求められる。
受講生には、期末に課題レポートの提出及びその発表を求め、質疑応答を行う。課題レポートについては、学際的なコメントを付けてフィードバックする。
原則として対面で授業を実施すること、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンラインに切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回目	公共空間の象徴としての公園	公共空間の象徴としての公園（parks）の誕生と伝播
2 回目	公園空間の類型	近代的公園の歴史的展開（英・米・独・日）
3 回目	公園機能の変容	公園機能の複合化・多様化、マネジメントの社会化
4 回目	公共空間の機能変化	市民文化としての公園と創り続ける公共空間
5 回目	課題発表①	受講者の課題発表と討論
6 回目	課題発表②	受講者の課題発表と討論
7 回目	総括討論	総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
事前に講義レジメ及び関連する参考資料などをアップする。

【参考書】
事前に講義レジメ及び関連する参考資料などをアップする。

【成績評価の方法と基準】
質問力（25 %）、調査力（25 %）、構想力（25 %）、プレゼンテーション（25 %）の 4 つの要素による絶対評価

【学生の意見等からの気づき】
講義の後半では受講生の課題発表を行いますので、発表テーマなどの事前準備が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、比較行政
＜研究テーマ＞比較自治行政、公共空間形成、行政文化の国際比較
＜主要研究業績＞
『都市公園政策形成史：協働型社会における緑とオープンスペースの原点』（申龍徹著、法政大学出版局、2004）
「都市公園政策の歴史的変遷過程における「機能の社会化」と政策形成 (1～6・完)」『法學志林』（100-2～104-2、法政大学、2003～2006）
「自治体の公共空間整備とパークマネジメント」『自治総研』（30-7、通号 309、2004）

【Outline (in English)】
Formation and transformation of modern public spaces (Open spaces / Public Spaces)
Empirically analyze the functional changes in which the natural space for sightseeing is transformed into physical facilities through the process of forming the park green space policy
Required reading references
Absolute evaluation (100%) based on four questions: questioning ability (25%), research ability (25%), composition ability (25%), and presentation ability (25%)

GDR500P1 – 221

ジェンダー政策研究

中野　洋恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ジェンダーの視点から政策について考察することを目的とする。1999 年に男女共同参画社会基本法が施行されてから様々な分野でジェンダー政策が進められている。しかし GGGI（グローバルジェンダーギャップ指数）で比較すると日本の順位は 100 位以下が続いている。2021 年 3 月に発表されたランキングは 156 ヶ国中 120 位で過去最低となった。本講義では、現在の日本のジェンダー政策の現状と課題を把握し、その要因を分析した上で課題解決の方策についてディスカッションを行う。ディスカッションを通じて考えたことを振り返り、ジェンダー政策の理解を深めるとともに今後を展望する。

【到達目標】
・21 世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけられた男女共同参画社会を実現するための基本法である「男女共同参画基本法」と基本法に基づいて 5 年ごとに定められる「男女共同参画基本計画」について理解する。
・2020 年 12 月に策定された「第 5 次男女共同参画基本計画」で強調されている視点、「あらゆる分野における女性の活躍」、「安全・安心な暮らしの実現」、「男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備」、「推進体制の整備・強化」について理解する。
・現在の政策を理解した上で、国際的な動向も踏まえディスカッションにおいて課題を把握し、今後必要とされる改善策を提案する。
特に今年度はコロナの影響についても言及する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進める。課題ごとのレポートを提出する。提出されたレポートをもとにプレゼンテーションとディスカッションで理解を深める。
レポートの提出は「学習支援システム」通じて行う予定である。
授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の目的、進め方を説明する
第 2 回	国内外の男女共同参画に関する動向を理解する	○第 2 次世界大戦以降の国際社会の動き 国連女性の地位委員会（CSW）、女子差別撤廃条約（CEDAW）　国際婦人年（1975 年）以降の世界女性会議 持続可能な開発目標（SDG ｓ）世界経済フォーラムが発表する GGGI などから国際社会の変遷を捉える。 ○国内の動向 1975 年に総理府に設置された婦人問題企画推進本部、女子差別撤廃条約の批准、国内行動計画、雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、女性の職業生活における活躍推進に関する法律、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律などから国内の変遷を捉える。
第 3 回	女共同参画基本法と男女共同参画基本計画①	1999 年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020 年 12 月に策定された第５次男女共同参画基本計画の 12 分野のうち一つの分野を選んで報告し議論する。
第 4 回	女共同参画基本法と男女共同参画基本計画②	1999 年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020 年 12 月に策定された第５次男女共同参画基本計画の 12 分野のうち一つの分野を選んで報告し議論する。
第 5 回	ワーク・ライフ・バランス　働き方改革①	勤続年数を重視しがちな年功序列的な処遇、長時間労働や転勤が当然というこれまでの男性中心の働き方を前提とする労働慣行（男性中心型労働慣行）について考える。 また、いわゆる女性の M 字カーブ問題等がいまだに解決しない要因を考える。
第 6 回	ワーク・ライフ・バランス　働き方改革②	女性も男性もワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためにはどのような解決策があるのか、実態や政策を踏まえて議論する。特に現在政策的課題として関心が高まっている男性の育児休業についても検討する。
第 7 回	女性の活躍推進	003 年、男女共同参画推進本部は「社会のあらゆる分野において 2020 年までに、指導的地位に占める女性の割合が、少なくとも 30%程度になるよう期待する（202030）」との目標を設定した。その後の動向を踏まえて、クオータ制やポジティブアクションについて議論する。
第 8 回	女性に対する暴力①	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。配偶者等からの暴力、ストーカーなどに加えて、最近ではデート DV、デートレイプドラッグ、JK ビジネス、AV 出演強要など問題が多様化している。こうした状況を踏まえ、暴力の根絶を図るための方策について議論する。
第 9 回	女性に対する暴力②	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。配偶者等からの暴力、ストーカーなどに加えて、最近ではデート DV、デートレイプドラッグ、JK ビジネス、AV 出演強要など問題が多様化している。こうした状況を踏まえ、暴力の根絶を図るための方策について議論する。
第 10 回	教育・メディア①	男女共同参画を推進し多様な選択を可能にするために学校教育はどうすればいいのか、教育現場をジェンダーの視点で見たときの課題を捉える。理工系を選択する女子学生が少なく研究者、技術者の女性割合が少ない状況を踏まえ、女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成のための方策を考える。また学校現場の管理職の女性割合が少ない要因についても考える。
第 11 回	教育・メディア②	意識形成にメディアの与える影響は大きい。メディアの中で女性がどのように描かれているかについて広報媒体や映像を見ながら分析し、性別役割分担意識の解消のための広報・啓発のあり方について議論する。
第 12 回	新たな課題－自然災害やコロナなどのリスクに対応するジェンダー政策①	東日本大震災等の経験から、性別、年齢や障害の有無等社会的立場によって影響が異なることが明らかにされたことから女性と男性で災害から受ける影響に配慮し、ジェンダーの視点から防災復興体制を確立することが求められている。何が問題だったのかを踏まえ、解決の方策について議論する。
第 13 回	新たな課題－自然災害やコロナなどのリスクに対応するジェンダー政策②	また、新型コロナウイルス感染症の拡大は、特に女性への影響が深刻であることが報告されている。リスクに対して「どのように」対応すればいいのかを考える。
第 14 回	ジェンダーと政治	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】
・第 5 次男女共同参画基本計画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html
・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト　ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
http://wwwa.cao.go.jp/wlb/index.html
・女性に対する暴力

若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
NWEC 実践研究第９号「ジェンダーに基づく暴力」
・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html
・内閣府男女局　理工チャレンジ（リコチャレ）
http://www.gender.go.jp/c-challenge/
・科学技術振興機構　ダイバーシティ推進
http://www.jst.go.jp/diversity/index.html
・初等中等教育における男女共同参画
国立女性教育会館
https://www.nwec.jp/research/hqtuvq0000002ko2.html

【成績評価の方法と基準】
授業参加（ディスカッションでの発言）と課題ペーパーの提出（40%）
レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】
多様な生活経験を持つ受講生がいるので、それぞれの経験を共有することによって、ディスカッションの充実を目指す。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ジェンダー論
＜研究テーマ＞ジェンダーと家族
　　ジェンダーと教育・学習
＜主要研究業績＞
「教育と学習」『男女共同参画データブック 2015』男女共同参画統計研究会編　ぎょうせい　2015
『国際比較にみる再開の家族と子育て』（編著）ミネルヴァ書房　2010

【Outline (in English)】
Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.
Course outline
This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society
to students taking this course.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to
think critically about social phenomena.
Lecture/Exercise（two-credits）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%

POL500P1 – 222

公共哲学研究

宮川　裕二

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目である。主として「自由」や「リベラリズム」の概念にかかわる文献の講読を行い、受講生が思想的なアプローチから公共そして公共政策にかかわる現代的な課題を把握し議論できる知見を涵養することを目的とする。

【到達目標】
自由やリベラリズムという思想と概念と「法の支配」や「民主主義」といった社会・政治システムとの関わりを理解し、受講生が公共そして公共政策にかかわる現代的な課題について理論的に考察・探究できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業のはじめに報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入的講義	講読する文献とテーマについての導入的講義を行う
第 2 回	文献講読：中村隆文『リベラリズムの系譜学』第 1 章	「法の支配」
第 3 回	文献講読：中村隆文『リベラリズムの系譜学』第 2 章	「民主主義とリベラリズム」
第 4 回	文献講読：中村隆文『リベラリズムの系譜学』第 3 章	「正義・善・幸福」
第 5 回	文献講読：中村隆文『リベラリズムの系譜学』第 4 章	「『自由』と『合理性』の限界とその先へ」
第 6 回	文献講読：「自由」および関連テーマに関する論文（思想）	文献講読のなかで関心の深まった思想的テーマに関する論文について講読する
第 7 回	文献講読：「自由」および関連テーマに関する論文（現代的課題）	文献講読のなかで関心の深まった現代的課題に関する論文について講読する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は文献を事前に精読し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。

【テキスト（教科書）】
中村隆文『リベラリズムの系譜学』（みすず書房）を文献講読のテキストとする。思想的潮流や諸論点が要領よく整理され、専門書としては取りつきやすいものと思われる。また第 6・7 回は「自由」および関連テーマに関する論文を講読予定である。受講生は、どんな文献を読みたいかを考えながら受講すること。

【参考書】
必要に応じて授業中に示唆する。

【成績評価の方法と基準】
レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50 %）に加え、授業中の質疑や討論における発言 （20 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞公共政策の政治社会学
＜研究テーマ＞新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治
＜主要研究業績＞
『日本の「新しい公共（空間）」政策言説：統治性研究アプローチによる「新しい公共」概念の類型化を通じた分析』（博士論文、2021 年）
「『新自由主義ガバナンス』論による『地方創生』実施スキーム分析」（『唯物論研究年誌』第 23 号、 2018 年）
「日本の『新しい公共 (空間)』政策言説：『統治性研究』アプローチを用いた類型化分析」（『公共政策志林』第 5 号、2017 年）

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to develop students' ability to understand and discuss contemporary issues related to the public and public policy from an ideological approach by reviewing literature, mainly on the concepts of "freedom/liberty" and "liberalism". (Learning Objectives) The goals of this course are to understand the relationship between the ideas and concepts of "freedom/liberty" and "liberalism" and the social/political systems such as "rule of law" and "democracy", and to be able to theoretically consider and explore contemporary issues related to the public and public policy. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports., and to write a term-end report to be presented at the end of the class. (Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20 %).

MAN500P1 － 223

イノベーション政策論

糸久　正人

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、1）企業におけるイノベーションマネジメントと2）国のイノベーション政策について学びます。イノベーションとは新結合による創造的破壊を意味し、経済発展の原動力となります。しかし、近年、グローバル化と IoT 化を背景としてイノベーションをめぐる環境は大きく変容し、こうした変化に対応したマネジメントや政策が求められています。本授業では、こうした比較的新しいトピックスも踏まえつつ、イノベーションに関する理解を深めます。

【到達目標】
・イノベーションに対する理解
・企業におけるイノベーションマネジメントに関する理解
・国のイノベーション政策に関する理解
・企業や公共組織においてイノベーションを推進するための実践知

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業形式は、教員による講義と参加者全員のディスカッションをひとつのセットとして、各回に取り上げたテーマを多面的理解することを目指します。ディスカッションでは主体的な発言が求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお。講義は原則対面で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第 2 回	イノベーションとは？	イノベーションの定義、類型、課題について
第 3 回	製品アーキテクチャ論（1）	製品アーキテクチャ（インテグラル型、モジュラー型）の理解、企業におけるアーキテクチャの位置取り戦略、国の競争力
第 4 回	製品アーキテクチャ論（2）	製品アーキテクチャ（インテグラル型、モジュラー型）の理解、企業におけるアーキテクチャの位置取り戦略、国の競争力
第 5 回	ビジネスエコシステムとプラットフォーム戦略（1）	企業の枠を超えたビジネスエコシステム（ビジネスの生態系）という発想を理解し、価値獲得とのためのプラットフォーム戦略について理解する
第 6 回	ビジネスエコシステムとプラットフォーム戦略（2）	企業の枠を超えたビジネスエコシステム（ビジネスの生態系）という発想を理解し、価値獲得とのためのプラットフォーム戦略について理解する
第 7 回	標準とイノベーション（1）	標準（standard）の基本的意義とイノベーションの関係について理解する
第 8 回	標準とイノベーション（2）	標準（standard）の基本的意義とイノベーションの関係について理解する
第 9 回	イノベーションの実践（1）	ゲスト講師を呼んで、イノベーション活動を実践する上での課題について考える
第 10 回	イノベーションの実践（2）	ゲスト講師を呼んで、イノベーション活動を実践する上での課題について考える
第 11 回	つながる世界のイノベーション政策（1）	製品やサービスがつながる世界を想定し、具体的なイノベーション政策について理解する
第 12 回	つながる世界とイノベーション政策（2）	製品やサービスがつながる世界を想定し、具体的なイノベーション政策について理解する
第 13 回	中小企業政策とイノベーション（1）	中小企業政策の歴史を概観し、中小企業の活性化について考える
第 14 回	中小企業政策とイノベーション（2）	中小企業政策の歴史を概観し、中小企業の活性化について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
議論に参加するために、予習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加： 60 %、期末レポート： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
なるべく多くの事例を取り上げたいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
Technology & Innovation Management
Operation Management
＜研究テーマ＞
集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象とした IoT 化に伴う技術ベースの変遷に関する研究
日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究
＜主要研究業績＞
糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争： IoT 化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』
糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』
Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” International Journal of Automotive Technology and Management.
公文溥・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業―日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社.
糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』
糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』
Oleijniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” Journal of Management and Business Administration, vol.25, No.2.
糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』
富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社
糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】
This lecture aims to give you a comprehensive understanding of innovation policy in terms of 1)innovation management at a firm level and 2)innovation policy at the national level. Innovation has a meaning of creative destruction by new combinations of technology, market, process, and so on; therefore, innovation is an economic growth engine. However, a circumstance in innovation has been changing rapidly because of globalization and IoT(Internet of Things). It is necessary for management and policy to consider these conditions. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 60%, 2)short reports 40%.

POL500P1 － 225

外交政策論

宮本　悟

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の戦後外交史や領土問題、外交政策理論について学んだうえで、外交政策がどのようにして決定されるのかについて理解していく。重要なことは、国際社会や日本が直面している外交問題や領土問題について知識を深め、国際政治学における外交政策論を理解した上で、現実の外交政策を考察する際に応用できるようになることである。

【到達目標】
外交政策について、（1）日本の外交政策の歴史的な経緯と現状の説明をでき、（2）日本が置かれている領土や外交上の問題とその対処について理解を深め、（3）実際の外交政策の決定過程について学んだうえで、その理論的な知識を実際の問題に応用できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
2021 年度は対面で実施する予定である。戦後日本外交史と日本の領土については、全体的に理解していくことが目的であり、基本的には講義形式によって授業を進めていくが、教員側の一方的な講義ではなく、受講者と対話をしながら授業を進めることを重視する。質問があれば、講義の途中でも遠慮なく質問してかまわないし、教員側からも積極的に受講者に問いかける。
対外政策の選択については、受講者側の発表について教師も含めて討議しながら、理解を深めていく。従って、授業が充実したものになるかは、受講者側の積極的な参加にかかっている。受講者の発表に対するフィードバックは、その都度、授業内でコメントすることにする。重要なことは、領土や安全保障上の問題に対して、外交政策が必ずしも合理的に決定されるわけではないことを理解し、実際の外交政策を理解するための応用力をつけることである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	戦後日本外交史（1）	戦後日本外交史のあらましと占領期における日本と GHQ の交渉について学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 2 回	戦後日本外交史（2）	戦後日本外交史について 50 年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 3 回	戦後日本外交史（3）	戦後日本外交史について 60 年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 4 回	戦後日本外交史（4）	戦後日本外交史について 70 年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 5 回	戦後日本外交史（5）	戦後日本外交史について 80 年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 6 回	戦後日本外交史（6）	戦後日本外交史について冷戦後を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 7 回	戦後日本外交史（7）	戦後日本外交史について全体像を議論する。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 8 回	日本の領土（1）	領土の概念や北方領土問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第 9 回	日本の領土（2）	竹島問題と尖閣諸島問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第 10 回	対外政策の選択 (1)	外交とは何かを学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第 11 回	対外政策の選択 (2)	国内政治と対外政策の連関について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第 12 回	対外政策の選択 (3)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係ついて学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第 13 回	対外政策の選択 (4)	国際情勢についての認識と行動から戦争が勃発する原因について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第 14 回	対外政策の選択 (5)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係ついて学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『戦後日本外交史』第三版補訂版、五百旗頭真編、有斐閣、2014 年、2,200 円
『日本の領土』芹田健太郎、中央公論新社、2010 年、755 円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は授業でパワーポイントやレジュメで解説します。
『国際政治学』中西寛, 石田淳, 田所昌幸、有斐閣、2013 年、3,520 円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は最初の授業で配布する。

【参考書】
『新訂第 5 版　安全保障学入門』防衛大学校安全保障学研究会編、株式会社亜紀書房。
『決定の本質―キューバ・ミサイル危機の分析』グレアム T. アリソン (著)、宮里 政玄 (訳)、中央公論新社、1977 年。絶版。

【成績評価の方法と基準】
７０％：平常点と、授業における発言内容の充実度
３０％： 発表：「対外政策の選択」に関して、自分の研究にどのように応用できるのか最後の授業で一人一人発表してもらう。

【学生の意見等からの気づき】
過度な学生の負担はない授業内容にしています。受講者の発表は短い時間でかまいません。
勤務後に授業に来られる方がおられたら、時間を考慮しますので、申し出てください。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業では授業支援システムは使いません。オンライン授業では ZOOM を使います。

【その他の重要事項】
大学院の方針によって全てオンライン授業になる可能性があります。対面授業でも第 8 回の講義ではパワーポイントを使って説明します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際政治学、比較政治学、政軍関係論、安全保障論
＜研究テーマ＞東アジアの安全保障、経済制裁、北朝鮮研究
＜主要研究業績＞

"North Korea's Foreign Policy: A Non-isolated Country with Expanding Relations" Takashi Inoguchi ed., The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy, Dec. 2019,Sage Publishing.
「北朝鮮流の戦争方法-軍事思想と軍事力、テロ方針」川上高司編『「新しい戦争」とは何か-方法と戦略-』2016 年 1 月、ミネルヴァ書房。
「北朝鮮の軍事・国防政策」木宮正史編『朝鮮半島と東アジア』2015 年 6 月、岩波書店。
『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか？ 政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』2013 年 10 月、潮書房光人社。

【Outline (in English)】
The objectives of the class is to understand how foreign policy is decided, while leaning Japanese postwar diplomatic history, territorial issues and foreign policy theory. The important point is the applying foreign policy theory in considering real foreign policy, while deepening the knowledge of the territorial issues and diplomatic issues facing Japan and international society, understanding the foreign policy theory in international politics. The prior learning and review are need each 2 hours. The distribution of score is as follows: class participation remarks: 70%, presentation: 30%

SOC500P1 － 226

国際環境政策の社会学

島田　昭仁

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に、日本とドイツのエネルギーシフト政策の違いについて学ぶ。違いの要因を知るためにコミュニティや労働に対する考え方の違いを学ばなくてはならない。そしてドイツの政策、次に日本の政策、そしてＥＵとアジアの違いについて説明する。５Ｇを活用したスマートシティー等、今後のトピックについても扱う。

【到達目標】
エネルギーシフト政策を通して、ドイツと日本、及びＥＵとアジアのコミュニティの意識の違いについて理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面式で行う。毎回、テキストと参考書に沿って進め、PPT で解説を行い、ディスカッションを行う。さらに授業でリアクションペーパーを配布し、その結果を授業にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに EU におけるドイツとは	EU において緑の党が果たした役割について…なぜ脱炭素なのか？
第 2 回	脱炭素と現代文明	労働とコミュニティと文明の関り
第 3 回	独のＥ政策 (福島の影響)	日独「エネルギー転換」比較分析 C1
第 4 回	独のＥ政策 (草創期)	日独「エネルギー転換」比較分析 C2
第 5 回	独のＥ政策 (討議主義)	日独「エネルギー転換」比較分析 C3
第 6 回	独のＥ政策 (核ｴﾈﾙｷﾞｰ)	日独「エネルギー転換」比較分析 C4
第 7 回	独のＥ政策 (政策の結末)	日独「エネルギー転換」比較分析 C5,6
第 8 回	日本のＥ政策 (電力供給)	市民電力とは何か…各地取組の実態
第 9 回	日本のＥ政策 (建築)	ZEB、ZEH …ゼロエネルギーとは
第 10 回	日本のＥ政策 (運輸交通)	運輸・航空業界における実態
第 11 回	日本のＥ政策 (都市計画)	ｽﾏｰﾄｼﾃｨｰと 5G で、都市はどうなる？
第 12 回	EU とアジアの比較 (資本主義経済とピグー税)	環境税とは何か 経済学におけるﾋﾟｸﾞｰ税の適用限界
第 13 回	EU とアジアの比較（ﾍﾟｲｼｯｸｲﾝｶﾑと森林税）	森林環境税はどこからきたのか
第 14 回	まとめ　独日、EU とｱｼﾞｱはなぜちがう	労働とｺﾐｭﾆﾃｨの考え方の違いについてディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下のテキストは授業内で配布します（購入する必要はありません。）。
・『日独「エネルギー転換」の比較分析』2019, 壽福

【参考書】
以下の参考書は授業内で配布します（購入する必要はありません。）。
・『資料で見るドイツ「エネルギー転換」の歩み』2019, 壽福
・『ゼックプロジェクト調査・研究報告書』2019, 谷口・島田

【成績評価の方法と基準】
①期末試験期間内に提出するレポート課題によって評価する。
②課題は第 14 回の授業内で示す。講義内容から自分の意見を記述する。
③評価基準は課題把握の的確さ (30%)、論理一貫性 (30%)、論拠の正当性 (30%)、誠実性 (10%) とする。

【学生の意見等からの気づき】
大事なことは何度も繰り返して説明する。

【学生が準備すべき機器他】
状況によっては Zoom 環境 (端末、Wifi) が必要となる。

【その他の重要事項】
国や自治体の政策に 25 年間関わった教員が、関連法規や施策の解説を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞都市計画
＜研究テーマ＞住民の合意形成
＜主要研究業績＞『地域づくり計画学』ｺﾐｭﾆﾃｨ科学出版,2021

【Outline (in English)】
Learn about the difference between Japan and German energy shift policy mainly. The goals is to have knowledge of the difference in way of the community and the labor. Students will be expected to read the text book and prepare reporting for the next. Your overall grade in this class will be decided based on in class contribution 50% and qualities of reports.

POL500P1 － 229

比較公共政策論

桐谷　仁

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、欧米を中心とする主要 OECD 諸国という一見類似した国々を対象にして、比較の観点から、広義の政治体制の相違が、政策結果や経済実績の各国間の差異にどのように影響を与えているのかという問題を学びます。これによって、これまでの先行研究等の理解が深まり、公共政策への視野が広がります。

【到達目標】
前述の概要と目的に従って、本授業では、比較分析モデルの理論的な側面と経験的側面の両面での認識を深めることが到達目標です。
　ひとつは、政治体制 (political regime) の概念をめぐる種々の先行研究についての認識が深まります。もうひとつは、そうした政治体制と政策結果や経済実績との関係をめぐる先行研究について比較の観点からの理解が広がること、この二つが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
　・毎回、受講者による報告と、教員による説明・解説と、その後の質疑応答や討論という進め方をします。とくに授業内での報告に基づいた討論を方法として重視します。。
　・期末までに、１回大きな課題でのレポートを作成してもらい、それについてコメントをするというフィードバックの方法を実施する予定です。
　・原則対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総論（導入）	政治体制と政策結果・経済実績との関係についての比較政治分析に向けての本授業の概要
第 2 回	比較政治体制論（１）	比較分析のための準拠枠組としての政治体制概念とその展開についての概要
第 3 回	比較政治体制論（２）	政治体制の諸類型：多元主義論/コーポラティズム論/「資本主義の多様性論」などについての解説
第 4 回	政策レジーム（１）	政策の立案と執行・実施をめぐる種々の議論の展開（政策フィードバック論等）についてについての概説
第 5 回	政策レジーム（２）	政府能力：政府の抽出能力・転換能力・執行能力についての考察
第 6 回	政治制度（１）	ウェストミンスターモデルとコンセンサスモデルの比較と考察
第 7 回	政治制度（２）	議会－執行府関係/政権形態/政権構成、および選挙制度についての概要
第 8 回	政策・経済実績（１）	所得政策とインフレ・賃金問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第 9 回	政策・経済実績（２）	所得格差と所得再分配の問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第 10 回	政策・経済実績（３）	雇用規制と失業・就労問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第 11 回	政策・経済実績（４）	労働市場政策と技能形成の問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第 12 回	政策・経済実績（５）	福祉国家ならびに比較福祉レジーム論についての先行研究の整理と課題についての考察
第 13 回	政策・経済実績（６）	財政・金融政策と経済成長（中央銀行の独立性の問題を含む）政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第 14 回	総括（まとめと解説）	主要 OECD 諸国の政治体制および政策結果・経済実績の多様性をめぐる議論の課題と展望を議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、①新川敏光・宮本太郎・眞柄秀子『比較政治経済学』（有斐閣）、②田中拓道・近藤正基・矢内勇生・上川龍之進『政治経済学』（有斐閣）③建林正彦・曽我謙吾・待鳥聡史『比較政治制度論』（有斐閣）の三冊は事前に読了しておくことが望ましいと考えています。また、できれば④田中拓道『福祉政治史』（勁草書房）にも事前に目を通していただきければ幸いです。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書としては、前述の
・新川敏光・宮本太郎・眞柄秀子『比較政治経済学』（有斐閣）
・田中拓道・近藤正基・矢内勇生・上川龍之進『政治経済学』（有斐閣）の二冊を挙げておきます。この二冊は、毎回の授業で該当箇所を提示します。
また、随時、文献・資料等は提示します。

【参考書】
特定の参考書としては、前述の
・建林正彦・曽我謙吾・待鳥聡史『比較政治制度論』（有斐閣）
・田中拓道『福祉政治史』（勁草書房）の二冊を挙げておきます。
・また随時、文献・資料等は提示します。

【成績評価の方法と基準】
出席 30 %、授業中の討論等への参加と小テスト 20 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
開講時に、受講生の要望等を考慮する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
とくになし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
政治学、比較政治学、比較政治経済学
＜研究テーマ＞
比較政治体制論/比較コーポラティズム体制論/国家論。
政治体制と政策・経済実績との関係についての比較政治学的研究
＜主要研究業績＞
＜論文＞桐谷仁「政策協調から社会協定へ：コーポラティズムの新たな展開？（1）（2）（3）（4）（5）」『法政研究』（静岡大学）第 22・23・24 巻 2018・19・20 年.
＜論文＞桐谷仁「社会コーポラティズムから政策協調へ」『法政研究』（静岡大学）第 19 巻 2014 年.
桐谷仁「コーポラティズム論から『資本主義の多様性論』へ？」『慶應義塾大学-
150 周年記念法学部論文集』(慶應義塾大学出版会)2008 年.
桐谷仁「ＯＥＣＤ諸国の所得格差と政治－制度編成との関係についての比較分析」『法政研究』(静岡大学) 第 10 巻、2005 年.
桐谷仁「先進諸国における制度の補完性と調整行為」『法政研究』(静岡大学) 第９巻 2004 年.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to study the causal relationships between political institutional factors and public policy outcomes or economic performance from comparative political perspectives. The class will begin with reviewing the relevant literature and then argue about the theoretical accounts.

First, we shed light on the elements of political institutional arrangements such as interest organizational configurations, electoral systems, party systems, and parliament government linkages.

Second, we pick up some of public policy areas (ex., industrial policies, financial policies, welfare policies and so on) and compare the differences of economic performance among the main OECD countries, 1960-2015.

Third, the impacts of the above political institutional variable on these policy outcomes and economic performance are examined and assessed by using various quantitative and qualitative methodologies.

Finally, the class will discuss about the comparative methods for explaining political dimensions of the economic-policy results.

The aim of this course is to help students acquire A. After each class meeting, students will be expected to understand the relevant chapters from the texts.

Final grade in the class will be decided based on the following: Term-end report (50%), Short report(20%), and in-class contribution(30%).

ECN500P1 － 231

経済政策

金子　勝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コロナ不況が深刻であるが、バブル崩壊以降、日本経済は長期衰退過程にある。金融、エネルギー、社会保障などの分野をあげて、今がどのような意味で歴史的大転換期であるかを明らかにし、日本経済が直面する問題を克服する政策を考えたい。

【到達目標】
論文を書くための基本的能力を磨く。研究分野のサーベイと論点の設定、論理の組み立て、論証の手続きといった点に重点を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
いくつかの進め方をとる。（1）講義形式：私が数回、講義をして参加者と討論する。（2）授業内発表：参加院生が研究の途中経過の報告を行い、議論する。（3）演習形式：重要な著作や論文があれば、共通テキストとして輪読して議論する。昨年は（2）、一昨年は（1）が中心だった。（1）と（2）を併用したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本経済の現状に関する講義 1 回目	日本経済の衰退過程をめぐって（1）
第 2 回	その内容をめぐるディスカッション 1 回目	講義 1 回目をめぐって議論する。
第 3 回	日本経済の現状に関する講義 2 回目	新しい経済政策のあり方をめぐって（2）
第 4 回	その内容をめぐるディスカッション 2 回目	講義 2 回目をめぐって議論する。
第 5 回	参加者の報告 1 回目	参加者の研究テーマを報告する。
第 6 回	ディスカッション 1 回目	参加者の報告をめぐって議論する。
第 7 回	参加者の報告 2 回目	参加者の研究テーマを報告する。
第 8 回	ディスカッション 2 回目	参加者の報告をめぐって議論する。
第 9 回	参加者の報告 3 回目	参加者の研究テーマを報告する。
第 10 回	ディスカッション 3 回目	参加者の報告をめぐって議論する。
第 11 回	参加者の報告 4 回目	参加者の研究テーマを報告する。
第 12 回	ディスカッション 4 回目	参加者の報告をめぐって議論する。
第 13 回	テキストの内容の把握 1 回目	話し合い 1 回目
第 14 回	テキストの内容の把握 2 回目	話し合い 2 回目

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
デモクラシータイムス「金子勝の言いたい放題」の動画を指定し、事前に見てもらう。

【テキスト（教科書）】
金子勝「平成経済　衰退の本質」岩波新書（２０１９年）
金子勝「逆システム学　市場と生命のしくみを解き明かす」岩波新書（２００４年）など

【参考書】
金子勝・飯田哲也「メガリスク時代の日本再生戦略」筑摩書房（２０２１年）

【成績評価の方法と基準】
出席し、報告し、議論に参加する日常点を基本とする。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な説明を怠らないようにしたいと思います。初歩的な質問、疑問などを遠慮せずに聞くことが大事です。同時に、深く考える習慣を身につけてほしいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞財政学、地方財政論、制度経済学
＜研究テーマ＞経済の現状分析
＜主要研究業績＞「市場と制度の制度経済学」（東京大学出版会）、「反経済学」（新書館）、「反グローバリズム」（岩波書店）、「セーフィティネットの政治経済学」（筑摩書房）、刊行予定に「イギリス近代と自由主義」（筑摩書房）

【Outline (in English)】
The Japanese economy has been in a long-term declining process since the burst of the Bubble Economy. What meaning the historical turning points have today will be shown for such fields as finance, energy, and social security, and policies for overcoming the problems faced by the Japanese economy will be discussed. Grading criterion is positivity for the class(100%).

SOS600P1 － 501

論文研究指導１Ａ

杉崎　和久

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 1 年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】
各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程 1 年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追求できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。
課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。
授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	最初に当たって、大学院でのコースワークを経ながら自分固有の研究を論文として著していくことのイメージをつかむ。
第 3.4 回	関心のある研究テーマ案の検討	関心のあるテーマを発表する。
第 5.6 回	図書館を利用した資料探索	図書館の利用の仕方、オンラインデータベースの利用の仕方の基礎を学ぶ。
第 7.8 回	論文構成の技法　その 1　基礎編	論文の構成の仕方の基礎を指導する。
第 9.10 回	論文構成の技法　その 2　発展編	し、かつ構成のすっきりした良質な学術論文を選定し、これを実際に講読することを通じて、論文の構成の仕方を学ぶ。
第 11.12 回	既往研究リストの作成	関心のあるテーマに関する既往研究リストを作成する。
第 13.14 回	研究計画の確認	研究の進捗状況を発表し、夏季休暇期間の研究計画を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した 4 つの項目に沿って、具体的に行なっておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞都市計画、市民参加手法
＜研究テーマ＞公共的意思決定における市民参加のあり方、住民主体のまちづくりを支える支援システム、まちづくりの現代史
＜主要研究業績＞『住民主体の都市計画』(分担執筆) 学芸出版社、2009 年
「まちづくりセンターを取り巻く課題」『季刊まちづくり』2011 年 3 年
「参加のプロセスマネジメント」『地方自治職員研修』2013 年 9 月号

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60 %）,and reports（40 %）.

SOS600P1 － 502

論文研究指導１Ｂ

杉崎　和久

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 1 年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】
各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程 1 年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追求できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。
課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。
授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	研究進捗状況の報告	夏季休暇期間中の研究活動の進捗状況を発表する。
第 3.4 回	研究スケジュールの検討	１年半後の論文提出に向けたスケジュールを確認する。
第 5.6 回	研究テーマの精査	研究テーマ・論点の絞込みを行う、
第 7.8 回	目次案の作成	論文全体の構成を検討する。
第　9.10 回	調査企画の検討	調査等の作業内容を検討する。
第 11.12 回	研究スケジュールの確認	論文執筆までのスケジュール（特に春季休暇期間の研究活動予定）を検討する
第 13.14 回	中間発表に向けた準備	中間発表の発表内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した 4 つの項目に沿って、具体的に行なっておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞都市計画、市民参加手法
＜研究テーマ＞公共的意思決定における市民参加のあり方、住民主体のまちづくりを支える支援システム、まちづくりの現代史
＜主要研究業績＞『住民主体の都市計画』(分担執筆) 学芸出版社、2009 年
「まちづくりセンターを取り巻く課題」『季刊まちづくり』2011 年 3 年
「参加のプロセスマネジメント」『地方自治職員研修』2013 年 9 月号

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60 %）,and reports（40 %）.

SOS600P1 － 501

論文研究指導１Ａ

土山　希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士過程１年生にむけた、論文作成のための起点となる科目。自身の研究テーマを明確にし、修士論文としての構想を練ることをめざす。また、修士論文作成のために必要な資料や文献をどのように収集し読解していくか、どのようにテーマを章立てていくかというリテラシーも学ぶ。

【到達目標】
この講義の到達目標は以下である。
・修士論文のテーマを明確にする
・修士論文の作成に必要な、情報、資料また文献の検索、収集の技法を学ぶ
・修士論文の作成に必要な、情報、資料また文献の読解をすすめる
・修士論文の章節構成を検討する
・秋学期以降の研究計画をたてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講生との面談を通じて、テーマの明確化、技法の習得、修論の章節構成の作成を指導していく。報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	講義の目標や進めかたについて確認する
第 2 回	テーマを検討する	修士論文のテーマと想定している内容について報告をうけ、議論する
第 3 回	情報検索を学ぶ	テーマをめぐる情報を検索する方法を学ぶ
第 4 回	文献検索を学ぶ	テーマをめぐる文献、資料を検索する方法を学ぶ
第 5 回	テーマを仮定する	修士論文のテーマを仮定したものを報告し、その内容について議論するテーマを仮定する
第 6 回	テーマを具体化する	修士論文のテーマをより具体化するために、報告を受け、議論する
第 7 回	テーマをめぐる情報を整理する	修士論文のテーマをめぐって収集した情報を整理し、報告する
第 8 回	テーマをめぐる事実を確認する	修士論文のテーマをめぐって、経緯や状況などを整理し、報告する
第 9 回	テーマを明確にする	それまでの蓄積をふまえて、修士論文のテーマを明確にする
第 10 回	テーマについて議論する	修士論文のテーマをめぐって、論の展開などの方向性を議論する
第 11 回	論文作成の技法の基礎を学ぶ	注のつけかた、参考文献の引用のしかたを学ぶ
第 12 回	論文作成の技法の基礎を習得する	注のつけかた、参考文献の引用の仕方を習得する
第 13 回	修士論文の構成を検討する	修士論文のテーマに即し、論文の章・節構成を仮定する
第 14 回	修士論文の作成に向けて	夏季休暇中の目標を設定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
事前準備　50%、
当日報告と説明　50%

【学生の意見等からの気づき】
講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】
This lecture is designed for first-year students in master course to start writing their thesis. Students aim to clarify their research topic and develop a concept for their master's thesis. They also learn writing techniques, such as how to collect and read the materials and literature necessary for writing a master's thesis and how to formulate chapters.
Learning Objectives;
- Clarify the topic of the master's thesis.
- Learn the techniques of searching and collecting information, documents and literature necessary for writing a master's thesis.
- To read and understand the information, documents and literature necessary for the preparation of a master's thesis
- Review the chapter and section structure of the master's thesis
- Research plans for the autumn term and beyond
Learning activities outside of classroom;
Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis
Grading Criteria /Policy;
Advance preparation 50%.
Report and presentation 50%.

SOS600P1 － 502

論文研究指導１Ｂ

土山　希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文研究指導１Ａから続く、修士論文作成のための科目。明確になったテーマについて、先行研究の調査、論文で示す事実（fact）の収集、整理、分析をすすめ、論文作成をより具体的なものとする。

【到達目標】
この講義の獲得目標は以下である。
・明確になったテーマを章節構成に反映させていく
・論文で示すための情報、資料の収集、整理、分析
・先行研究の収集と整理
・テーマについてのより深い考察
・春季休暇と次年度の研究計画の策定

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講生との面談を通じて、テーマの明確化、技法の習得、修論の章節構成の作成を指導していく。報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	報告	夏季休暇中の研究活動を報告する
第 2 回	論文構成の検討	章、節構成を検討する
第 3 回	研究テーマを深く考察する	研究テーマについての意見交換
第 4 回	研究テーマの論点を整理する	研究テーマについての意見交換をふまえて、今後検討すべき論点を整理する
第 5 回	研究計画の更新	これまでの検討をふまえ、研究計画を更新する
第 6 回	先行研究の報告	先行研究について報告する
第 7 回	先行研究の検討	先行研究の論旨について検討する
第 8 回	研究テーマをめぐる事実（fact）の整理	研究テーマの現状を示す事実（face）を検討する
第 9 回	研究テーマをめぐる事実（fact）の分析	研究テーマの経緯を示す事実（fact）を検討する
第 10 回	研究テーマをめぐる国内事例を検討する	研究テーマにかんする事例を検討する
第 11 回	研究テーマの論点の一部を検討する	研究テーマの論点のいくつかを検討する
第 12 回	研究テーマの論点の一部を検討する	研究テーマの論点のいくつかを検討する
第 13 回	論文構成の確認	論文の章節構成を確認し、更新する
第 14 回	春季休暇、次年度にむけての研究計画の作成	春季休暇、次年度にむけて、研究計画を検討し作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
事前準備　50%、
当日の報告、説明　50%

【学生の意見等からの気づき】
講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聞いた。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。
『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】
This lecture is designed for first-year students in master course to start writing their thesis. Students aim to clarify their research topic and develop a concept for their master's thesis. They also learn writing techniques, such as how to collect and read the materials and literature necessary for writing a master's thesis and how to formulate chapters.
Learning Objectives;
- Clarify the topic of the master's thesis.
- Learn the techniques of searching and collecting information, documents and literature necessary for writing a master's thesis.
- To read and understand the information, documents and literature necessary for the preparation of a master's thesis
- Review the chapter and section structure of the master's thesis
- Research plans for the autumn term and beyond
Learning activities outside of classroom;
Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis
Grading Criteria /Policy;
Advance preparation 50%.
Report and presentation 50%.

SOS600P1 － 501

論文研究指導１Ａ

名和田　是彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 1 年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】
各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程 1 年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意をもって取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追究できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローする時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、どんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。
原則として対面により行うことを考えている。また、授業で報告をしてもらった場合には、原則としてその場で、場合によっては次回に、コメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	一個の研究を作り上げていく心構え	最初に当たって、大学院でのコースワークを経ながら自分固有の研究を論文として著していくことのイメージをつかむ。
第 2 回	図書館を利用した資料探索　その 1　基本編	図書館の利用の仕方、オンラインデータベースの利用の仕方の基礎を学ぶ。
第 3 回	図書館を利用した資料探索　その 2　発展編	図書館の閉架部分を見ながらどんな資料があるかを実感すること、それから、オンラインデータベースの様々な使い方を知ること。
第 4 回	研究企画の立案	さしあたりこの時点で持っている研究テーマ、仮説、それを追究する具体的な方法、理論枠組、先行研究、などをフォーマットに記載してもらい、これに基づいて指導を行なう。
第 5 回	論文構成の技法　その 1　基礎編	論文の構成の仕方の基礎を指導する。
第 6 回	論文構成の技法　その 2　発展編	院生の研究関心にも合致し、かつ構成のすっきりした良質な学術論文を選定し、これを実際に講読することを通じて、論文の構成の仕方を学ぶ。
第 7 回	論文構成の技法　その 3　レジュメの作り方	大学院の授業では、レジュメを作成して発表するという機会が多くあるだろう。論文の構成を読み解き、簡略で分かりやすいレジュメを作成してみることを通じて、論文の構成の仕方を学ぶと同時に、レジュメの上手な作り方をも習得できるようにしたい。
第 8 回	フィールド調査の基礎	論文を作成していく上で、様々な形で外に出て人の話を聞いたり資料の提供をお願いしたりする場面があるだろう。このようなフィールド調査の基礎について指導する。
第 9 回	研究企画の推進	第 4 回の研究企画の立案でさしあたり取組むこととした方向に従った結果を報告してもらい、研究の進め方について指導する。
第 10 回	先行研究のフォロー	論文では先行研究をきちんとフォローしてあることが大事である。先行研究の見つけ方、整理の仕方について、具体的に指導する。
第 11 回	先行研究の整理	それぞれの院生がさしあたり設定している研究企画に沿って、できる範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行なう。
第 12 回	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの院生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える。
第 13 回	論文の理論枠組の設定	理論枠組とは、社会認識上の大理論だけではなく、それぞれの研究の基本的な枠組をも含めて考えている。さしあたり設定している研究企画に沿って、どんな枠組によって説得的な論文を書こうとしているかを報告してもらい、指導を行なう。
第 14 回	論文の基本ルール	論文を書くことへの意欲が高まった時期を捉えて、論文の形式上のスタイル、例えば、註の付け方とか文献表の作り方、更には学会誌への投稿の際の様々なルールなどについて、一通りの指導を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した 4 つの項目に沿って、具体的に行なっておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
「授業の到達目標」欄に記した 4 つの項目を果たしてまたどの程度身につけたかを評価基準とする（各項目 25 %ずつ）。

【学生の意見等からの気づき】
該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞コミュニティ政策論
＜研究テーマ＞都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究
＜主要研究業績＞
編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009 年）
単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法―― civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257 ～ 287 頁。
単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性　―宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1 ～ 88 頁。
単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望　～高松市を素材として～」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57 ～ 104 頁。

【Outline (in English)】
This is part of the research-training program for master course 1st semester students working in the area of public policy studies. The workshop's principal objective is to foster intellectual exchange by showcasing work from leading and emerging scholars. The workshop will provide a forum in which research students can present their work, discuss the theoretical and methodological problems involved, discuss common challenges in conducting research in this area and obtain feedback on their work. Every student must give a report of his/her own research at least once a semester. Throughout the semester he/she must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' own research theme and the adequate theoretical framework for it as well as to learn how to construct an academic research paper and how to collect necessary materials, which are also the grading criteria.

SOS600P1 － 502

論文研究指導１Ｂ

名和田　是彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 1 年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】
各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程 1 年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意をもって取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追究できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、どんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。
原則として対面により行うことを考えている。
原則として対面により行うことを考えている。また、授業で報告をしてもらった場合には、原則としてその場で、場合によっては次回に、コメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの本格的設定	修士課程でまとめようとしている論文の基本的なテーマを設定する。もちろんあとで変更可能であるし、研究の進展によって微修正していくものであることを前提とする。
第 2 回	研究テーマに即した具体的な研究スケジュールについての検討	前回を受けて、今後ほぼ 1 年半で論文を書き上げていくことを目標に、どんな内容の研究をどんなペースで進めていくかを確認する。
第 3 回	研究の現状の整理	設定した研究テーマについて、現在の学界や実務界での認識の現状がどのようになっているか、先行研究はどんな状態か、を整理してもらい、指導を行なう。
第 4 回	主要な先行研究の検討	研究テーマにとってベーシックな意義を有する著書や論文を取り上げ、その内容を報告してもらう。
第 5 回	主要な資料の検討	研究テーマにとってベーシックな意義を有する資料を取り上げ、その内容を報告してもらう。
第 6 回	研究推進上の悩みの解決	現時点で抱えている研究上の悩みを話してもらい、解決の方策を相談する。
第 7 回	論文の理論的筋道の整理	ベーシックな情報が得られた段階で、あくまで暫定的なものではあるが、論文の全体を貫く仮説となる理論枠組を考えてもらい、指導を行なう。
第 8 回	論文の目次	あくまで暫定的なものだが、論文の目次を作成してみることで、研究テーマに関する認識を整理し深める。
第 9 回	論文の一部を書いてみる	はしがきでもどれか一つの章でもかまわないが、論文の一部分を書いてみる。実際に一定の長さの文章を書くことは多くの人にとってハードルが高い。その経験をこの段階でしてもらうためのものである。
第 10 回	文章の推敲　その 1　基礎編	書いてみた論文の一部について、論理構成（起承転結）、論理的整合性、てにをは、表現、言葉遣いなどについて細かく指導する。まず、その 1 として、総括的な指摘を行ない、課題を明確にする。
第 11 回	文章の推敲　その 2　完成編	書いてもらっている論文の一部を素材に、学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるようにする。
第 12 回	英文サマリーの作り方　その 1　基礎編	学会誌への投稿などに際して、英文サマリーの作成を求められることが多い。年度の最後にこの練習をしておく。まず基礎的な事項を指導し、英作文をしてもらう。
第 13 回	英文サマリーの作り方　その 2　実践編	なれない外国語で自分の考えていることの細かいニュアンスを伝えるのは難しいことである。自らの語学力の範囲でそれをどう工夫したらいいかを考えていく。
第 14 回	英文サマリーの作り方　その 3　完成編	自らの研究テーマに即して一応の英文サマリーを完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した 4 つの項目に沿って、具体的に行なっておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
「授業の到達目標」欄に記した 4 つの項目を果たしてまたどの程度身につけたかを評価基準とする（各項目 25 %ずつ）。

【学生の意見等からの気づき】
該当せず。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> コミュニティ政策論
< 研究テーマ> 都市内分権 (特に日本とドイツ)、自治会・町内会の研究
< 主要研究業績>
編著『コミュニティの自治』(日本評論社、2009 年)
単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法―― civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257~287 頁。
単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性　―宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1~88 頁。
単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望　～高松市を素材として～」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57 ～ 104 頁。

【Outline (in English)】
This is part of the research-training program for master course 2nd semester students working in the area of public policy studies. The workshop's principal objective is to foster intellectual exchange by showcasing work from leading and emerging scholars. The workshop will provide a forum in which research students can present their work, discuss the theoretical and methodological problems involved, discuss common challenges in conducting research in this area and obtain feedback on their work. Every student must give a report of his/her own research at least once a semester. Throughout the semester he/she must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' own research theme and the adequate theoretical framework for it as well as to learn how to construct an academic research paper and how to collect necessary materials, which are also the grading criteria.

SOS600P1 － 501

論文研究指導１Ａ

林　嶺那

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第 3 回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第 4 回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第 5 回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 6 回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 7 回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第 8 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第 9 回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivation に関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第 14 回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS600P1 － 502

論文研究指導１Ｂ

林　嶺那

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第 3 回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第 4 回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第 5 回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 6 回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 7 回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第 8 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第 9 回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivation に関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第 14 回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS600P1 － 501

論文研究指導１Ａ

廣瀬　克哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程１年目の院生を対象に、研究の開始に際する指導を行うものである。

【到達目標】
院生は、各自の研究関心に従って適切な研究テーマを確定させるための予備的作業を求められる。この予備的作業とは、（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各自の意識を共有しながら、修士論文とは何か、それに何が期待されているのかを確認する。
第 2 回	修士論文とは何か	修士論文のイメージを具体化するため、修了生による実際の修士論文を参照しながら学ぶ。
第 3 回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第 4 回	資料の探索と調査の基礎	図書館やオンラインデータベースの基本的な利用方法に加え、フィールド調査を行う場合の基礎について学ぶ。
第 5 回	研究倫理の理解	研究を遂行する上で留意すべき研究倫理について理解する。
第 6 回	先行研究の選定	先行研究の調査とその整理の仕方について学ぶ。
第 7 回	先行研究の報告	各自の調査に基づいた先行研究についてその概要を報告し、議論する。
第 8 回	研究テーマの設定	研究テーマを設定するにあたり、それをどのように具体化すべきか学ぶ。
第 9 回	分析枠組と方法の習得	適切な先行研究を選定し、その輪読により、基本的な分析枠組と方法について学ぶ。
第 10 回	分析枠組と方法の選定	各自の研究テーマに即して、分析枠組と方法を選定する。
第 11 回	論文の基本的構成の理解	学術論文の構成について、その基礎を学ぶ。
第 12 回	論文執筆上の基本的ルールの確認	論文の執筆に際して、引用註や脚注、参考文献リストの作成について理解する。
第 13 回	研究テーマの報告	各自の研究テーマを報告し、議論する。
第 14 回	研究課題の明確化	修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。
オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】
2022 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また、授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018 年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】
(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
(Learning Objectives) To be ready to set master's thesis research theme.
(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.
(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 － 502

論文研究指導１Ｂ

廣瀬　克哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程１年目の院生を対象に、修士論文のリサーチ・デザインを適切に行うための指導を行うものである。

【到達目標】
院生は、論文研究指導 1A で体得した（１）先行研究の調査、（２）基本的な分析枠組や方法の習得、（２）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、に基づき、各自の研究関心に従った研究テーマを確定させるとともに、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確に設定することを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、現時点での研究テーマを設定する。
第 2 回	研究スケジュールの確認	今後の研究に向けたスケジュールを設定し、共有する。
第 3 回	先行研究の報告	各自の調査に基づいた先行研究についてその内容を報告し、議論する。
第 4 回	先行研究の分析	各自の研究において主要な先行研究が、各研究領域でどのように位置付けられているのかを検討する。
第 5 回	リサーチ・クエスチョン（問い）の設定	よいリサーチ・クエスチョンとは何かを学ぶ。
第 6 回	仮説の検討	リサーチ・クエスチョンに対する暫定的な答えをいかに導くかを指導する。
第 7 回	リサーチ・クエスチョン（問い）と仮説の報告	各自の設定したリサーチ・クエスチョンと仮説について相互に批判的な検討を加える。
第 8 回	目次の作成	暫定的な論文の目次作成を試みる。
第 9 回	リサーチ・プロポーザルの作成	用意されたフォーマットに沿って、リサーチ・プロポーザルを作成する。
第 10 回	リサーチ・プロポーザルの報告	各自のリサーチ・プロポーザルについて議論する。
第 11 回	論文の部分的な試作	暫定的に作成した目次に従い、そのうちの１章について執筆を試みる。
第 12 回	文章の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 13 回	リサーチ・プロポーザルの再検討	前回の報告に基づき各自リライトしたリサーチ・プロポーザルについて、相互に批判的な検討を加える。
第 14 回	研究課題の明確化	修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。
オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】
2022 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　行政学、地方自治
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018 年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】
(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
(Learning Objectives) To be ready to set master's thesis research theme.
(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.
(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 － 501

論文研究指導１Ａ

浦元　初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程１年目の院生を対象に、研究の開始に際する指導を行うものである。

【到達目標】
院生は、各自の研究関心に従って適切な研究テーマを確定させるための予備的作業を求められる。この予備的作業とは、（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各自の意識を共有しながら、修士論文とは何か、それに何が期待されているのかを確認する。
第 2 回	修士論文とは何か	修士論文のイメージを具体化するため、修了生による実際の修士論文を参照しながら学ぶ。
第 3 回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第 4 回	資料の探索と調査の基礎	図書館やオンラインデータベースの基本的な利用方法に加え、フィールド調査を行う場合の基礎について学ぶ。
第 5 回	研究倫理の理解	研究を遂行する上で留意すべき研究倫理について理解する。
第 6 回	先行研究の選定	先行研究の調査とその整理の仕方について学ぶ。
第 7 回	先行研究の報告	各自の調査に基づいた先行研究についてその概要を報告し、議論する。
第 8 回	研究テーマの設定	研究テーマを設定するにあたり、それをどのように具体化すべきか学ぶ。
第 9 回	分析枠組と方法の習得	適切な先行研究を選定し、その輪読により、基本的な分析枠組と方法について学ぶ。
第 10 回	分析枠組と方法の選定	各自の研究テーマに即して、分析枠組と方法を選定する。
第 11 回	論文の基本的構成の理解	学術論文の構成について、その基礎を学ぶ。
第 12 回	論文執筆上の基本的ルールの確認	論文の執筆に際して、引用註や脚注、参考文献リストの作成について理解する。
第 13 回	研究テーマの報告	各自の研究テーマを報告し、議論する。
第 14 回	研究課題の明確化	修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS600P1 － 502

論文研究指導１Ｂ

浜元　初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程１年目の院生を対象に、修士論文のリサーチ・デザインを適切に行うための指導を行うものである。

【到達目標】
院生は、論文研究指導 1A で体得した（１）先行研究の調査、（２）基本的な分析枠組や方法の習得、（２）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、に基づき、各自の研究関心に従った研究テーマを確定させるとともに、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確に設定することを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、現時点での研究テーマを設定する。
第 2 回	研究スケジュールの確認	今後の研究に向けたスケジュールを設定し、共有する。
第 3 回	先行研究の報告	各自の調査に基づいた先行研究についてその内容を報告し、議論する。
第 4 回	先行研究の分析	各自の研究において主要な先行研究が、各研究領域でどのように位置付けられているのかを検討する。
第 5 回	リサーチ・クエスチョン（問い）の設定	よいリサーチ・クエスチョンとは何かを学ぶ。
第 6 回	仮説の検討	リサーチ・クエスチョンに対する暫定的な答えをいかに導くかを指導する。
第 7 回	リサーチ・クエスチョン（問い）と仮説の報告	各自の設定したリサーチ・クエスチョンと仮説について相互に批判的な検討を加える。
第 8 回	目次の作成	暫定的な論文の目次作成を試みる。
第 9 回	リサーチ・プロポーザルの作成	用意されたフォーマットに沿って、リサーチ・プロポーザルを作成する。
第 10 回	リサーチ・プロポーザルの報告	各自のリサーチ・プロポーザルについて議論する。
第 11 回	論文の部分的な試作	暫定的に作成した目次に従い、そのうちの１章について執筆を試みる。
第 12 回	文章の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 13 回	リサーチ・プロポーザルの再検討	前回の報告に基づき各自リライトしたリサーチ・プロポーザルについて、相互に批判的な検討を加える。
第 14 回	研究課題の明確化	修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS600P1 － 501

論文研究指導１Ａ

糸久　正人

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。主な対象は「イノベーション政策」になります。

【到達目標】
修士論文または政策研究論文を完成させ、修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習形式で行います。受講生は与えられた課題を準備して臨み、積極的にディスカッションに参加してください。また。他の受講生の発表に対するコメントも求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお。講義は原則対面で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方の確認
第 2 回	演習	院生の報告と討論
第 3 回	演習	院生の報告と討論
第 4 回	演習	院生の報告と討論
第 5 回	演習	院生の報告と討論
第 6 回	演習	院生の報告と討論
第 7 回	演習	院生の報告と討論
第 8 回	演習	院生の報告と討論
第 9 回	演習	院生の報告と討論
第 10 回	演習	院生の報告と討論
第 11 回	演習	院生の報告と討論
第 12 回	演習	院生の報告と討論
第 13 回	演習	院生の報告と討論
第 14 回	演習	院生の報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて指示する。

【参考書】
研究テーマに応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
Technology & Innovation Management
Operation Management
＜研究テーマ＞
集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象とした IoT 化に伴う技術ベースの変遷に関する研究
日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究
＜主要研究業績＞
糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT 化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』
糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』
Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” International Journal of Automotive Technology and Management.
公文溥・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業―日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社.
糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』
糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』
Oleijniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” Journal of Management and Business Administration, vol.25, No.2.
糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』
富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社
糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】
This lecture aims to provide you with how to write a master thesis and research policy paper according to your concern. We mainly focus on Innovation policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2)short reports 50%.

SOS600P1 － 502

論文研究指導１Ｂ

糸久　正人

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行う。主な対象はイノベーション政策になります。

【到達目標】
修士論文または政策研究論文を完成させ、修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習形式で行います。受講生は与えられた課題を準備して臨み、積極的にディスカッションに参加してください。また。他の受講生の発表に対するコメントも求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお。講義は原則対面で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方の確認
第 2 回	演習	院生の報告と討論
第 3 回	演習	院生の報告と討論
第 4 回	演習	院生の報告と討論
第 5 回	演習	院生の報告と討論
第 6 回	演習	院生の報告と討論
第 7 回	演習	院生の報告と討論
第 8 回	演習	院生の報告と討論
第 9 回	演習	院生の報告と討論
第 10 回	演習	院生の報告と討論
第 11 回	演習	院生の報告と討論
第 12 回	演習	院生の報告と討論
第 13 回	演習	院生の報告と討論
第 14 回	演習	院生の報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて指示する。

【参考書】
研究テーマに応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
Technology & Innovation Management
Operation Management
＜研究テーマ＞
集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象とした IoT 化に伴う技術ベースの変遷に関する研究
日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究
＜主要研究業績＞
糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT 化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』
糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』
Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” International Journal of Automotive Technology and Management.
公文溥・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業―日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社.
糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』
糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』
Oleijniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” Journal of Management and Business Administration, vol.25, No.2.
糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』
富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社
糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】
This lecture aims to provide you with how to write a master thesis and research policy paper according to your concern. We mainly focus on Innovation policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2)short reports 50%.

SOS600P1 － 501

論文研究指導１Ａ

加藤　寛之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導 1A・1B］と［論文研究指導 2A・2B］は存在する。これらは、企業論領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は１年次、２は２年次に対応する。）
各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として 2 年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。
原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマ設定	同左・ディスカッション
2 回	テーマを中心とした基礎的理解	同左・ディスカッション
3 回	テーマを中心とした標準的理解	同左・ディスカッション
4 回	論文構成の基礎的技法	同左・ディスカッション
5 回	論文構成の応用的技法	同左・ディスカッション
6 回	研究報告のレジュメの作成法	同左・ディスカッション
7 回	研究テーマ企画の立案	同左・ディスカッション
8 回	研究テーマ企画の修正	同左・ディスカッション
9 回	先行研究の検討	同左・ディスカッション
10 回	先行研究の整理	同左・ディスカッション
11 回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左・ディスカッション
12 回	論文の理論的フレームワークの提示	同左・ディスカッション
13 回	論文の研究対象の確認	同左・ディスカッション
14 回	論文の構成の確認	同左・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席 20 %、調査研究活動および報告 80 %

【学生の意見等からの気づき】
社会人学生が多く、自社の状況を反映した意見交換が活発です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論
＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
＜主要研究業績＞
「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）
「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
The courses [Thesis Research Guidance 1A and 1B] and [Thesis Research Guidance 2A and 2B] are designed to teach master's students how to write academic papers. In these courses, students collect and analyze data to help them write their master's theses in the area of corporate theory, and formulate a logic for the issues surrounding policy problems. (In both cases, 1 corresponds to the first year and 2 to the second year.
Course Outline:The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory,
Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.
Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.
Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)Content of the final submission (30%)
Students will be guided by a faculty member who is most appropriate for each theme, and will be advised on the methods of research and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. Students will be advised on how to search for necessary materials in relation to their problem interest, narrow down their research theme, and conduct research.

SOS600P1 － 502

論文研究指導１Ｂ

加藤　寛之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導 1A・1B］と［論文研究指導 2A・2B］は存在する。これらは、企業論領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は１年次、２は２年次に対応する。）
各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として 2 年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。
原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマ設定	同左・ディスカッション
2 回	テーマを中心とした基礎的理解	同左・ディスカッション
3 回	テーマを中心とした標準的理解	同左・ディスカッション
4 回	論文構成の基礎的技法	同左・ディスカッション
5 回	論文構成の応用的技法	同左・ディスカッション
6 回	研究報告のレジュメの作成法	同左・ディスカッション
7 回	研究テーマ企画の立案	同左・ディスカッション
8 回	研究テーマ企画の修正	同左・ディスカッション
9 回	先行研究の検討	同左・ディスカッション
10 回	先行研究の整理	同左・ディスカッション
11 回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左・ディスカッション
12 回	論文の理論的フレームワークの提示	同左・ディスカッション
13 回	論文の研究対象の確認	同左・ディスカッション
14 回	論文の構成の確認	同左・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席 20 %、調査研究活動および報告 80 %

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論
＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
＜主要研究業績＞
「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）
「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
This course is designed to teach master's students how to write an academic paper. In these courses, students collect and analyze data to help them write their master's theses in the area of corporate theory, and formulate a logic for the issues surrounding policy problems. (In both cases, 1 corresponds to the first year and 2 to the second year.
Students will be guided by a faculty member who is most appropriate for each theme, and will be advised on the methods of research and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. In addition, students are advised on the methods of survey and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. The series of work includes searching for necessary materials in relation to the problem interest, narrowing down the research theme, selecting the research target, creating the research plan, creating the questionnaire and questionnaire items, collecting and organizing the data, and analyzing the data. In principle, the goal of the second year is to complete a master's thesis or policy research paper.
Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.
Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.
Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)Content of the final submission (30%)

SOS600P1 － 501

論文研究指導１Ａ

白鳥　浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導 1A・1B］と［論文研究指導 2A・2B］は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は１年次、２は２年次に対応する。）
各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として 2 年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマ設定	同左
2 回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3 回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4 回	論文構成の基礎的技法	同左
5 回	論文構成の応用的技法	同左
6 回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7 回	研究テーマ企画の立案	同左
8 回	研究テーマ企画の修正	同左
9 回	先行研究の検討	同左
10 回	先行研究の整理	同左
11 回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左
12 回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13 回	論文の研究対象の確認	同左
14 回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席 20 %、調査研究活動および報告 80 %

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 － 502

論文研究指導１Ｂ

白鳥　浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導 1A・1B］と［論文研究指導 2A・2B］は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は１年次、２は２年次に対応する。）
各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として 2 年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、報告、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマ設定	同左
2 回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3 回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4 回	論文構成の基礎的技法	同左
5 回	論文構成の応用的技法	同左
6 回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7 回	研究テーマ企画の立案	同左
8 回	研究テーマ企画の修正	同左
9 回	先行研究の検討	同左
10 回	先行研究の整理	同左
11 回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左
12 回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13 回	論文の研究対象の確認	同左
14 回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席 20 %、調査研究活動および報告 80 %

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 － 501

論文研究指導１Ａ

多田　和美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 1 年次の院生を対象に，修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
本授業では，次の 3 点に到達することを目標とします。
1)2 年次修了までに修士論文を完成できる。
2) 厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
3) 設定された課題について実証的に分析できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis.
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	オリエンテーション
第 2 回	学術論文の作法①	教員による解説とディスカッション
第 3 回	学術論文の作法②	教員による解説とディスカッション
第 4 回	研究の方法論①	院生による発表とディスカッション
第 5 回	研究の方法論②	院生による発表とディスカッション
第 6 回	研究課題の発見①	院生による発表とディスカッション
第 7 回	研究課題の発見②	院生による発表とディスカッション
第 8 回	研究課題の発見③	院生による発表とディスカッション
第 9 回	研究課題の発見④	院生による発表とディスカッション
第 10 回	研究計画①	院生による発表とディスカッション
第 11 回	研究計画②	院生による発表とディスカッション
第 12 回	先行研究の検討①	院生による発表とディスカッション
第 13 回	先行研究の検討②	院生による発表とディスカッション
第 14 回	先行研究の検討②	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。修士論文の完成に向けて，入念な準備と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。

【参考書】
田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況： 80%，ディスカッションへの貢献度： 20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
Term paper: 80 % and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 － 502

論文研究指導１Ｂ

多田　和美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 1 年次の院生を対象に，修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
本授業では，次の 3 点に到達することを目標とします。
1)2 年次修了までに修士論文を完成できる。
2) 厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
3) 設定された課題について実証的に分析できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis.
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	先行研究の課題①	院生による発表とディスカッション
第 2 回	先行研究の課題②	院生による発表とディスカッション
第 3 回	理論的枠組①	院生による発表とディスカッション
第 4 回	理論的枠組②	院生による発表とディスカッション
第 5 回	実証研究①	院生による発表とディスカッション
第 6 回	実証研究②	院生による発表とディスカッション
第 7 回	実証研究③	院生による発表とディスカッション
第 8 回	実証研究④	院生による発表とディスカッション
第 9 回	実証研究⑤	院生による発表とディスカッション
第 10 回	実証研究⑥	院生による発表とディスカッション
第 11 回	実証研究⑦	院生による発表とディスカッション
第 12 回	実証研究⑧	院生による発表とディスカッション
第 13 回	実証研究⑨	院生による発表とディスカッション
第 14 回	中間報告	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。修士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。
この他，適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況： 80%，ディスカッションへの貢献度： 20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 － 501

論文研究指導１Ａ

谷本　有美子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士１年の院生を対象とする。院生は、修士論文作成のために必要な資料収集方法や準備作業等について基礎的な知識を身につけ、調査研究計画を作成する。

【到達目標】
・学術論文の技法や資料収集の方法についての知識を習得する
・先行研究を踏まえて、研究テーマに関わる論点を提起する
・論文構成に即した調査研究計画を組み立てる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は原則対面で行う。
論文作成のための基礎的な情報提供を行いながら、各院生の研究テーマの決定と研究計画作成までの過程を指導する。院生が相互に学び合う機会として適宜、演習を取り入れていく。
発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	学術論文の目的や特質を理解した上で、院生の論文作成目的を確認する
第２回	研究関心の表明	院生各自が現時点で論文テーマと考えている問題について、レジュメを作成して報告する
第３回	研究テーマの仮決定	研究関心事項を整理し研究テーマを仮決定する
第４回	資料探索の基礎	図書館やデータベース等を活用した基本的な資料の探索方法について学ぶ
第５回	資料探索の実践	仮決定した研究テーマに関連する資料を探索し、リストアップする
第６回	主要な先行研究の調査	院生の研究テーマと関連する先行研究を抽出する
第７回	主要な先行研究の報告	主要な先行研究の概要を報告する
第８回	論文構成の基礎	論文の構成や体裁、文章等の基本を学ぶ
第９回	問題認識の文章化	仮決定した研究テーマについて、先行研究を踏まえた問題認識を文章化する
第10回	調査研究事項の整理	調査研究の対象事項を整理する
第11回	研究テーマの決定	各自の研究テーマを決定する
第12回	関連文献リストの作成	論文テーマに関連した文献のリストを作成する
第13回	論文作成の作業整理	論文作成に必要な作業を抽出、整理する
第14回	調査研究計画の確定	調査研究計画を確定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の作成に必要な調査、資料や文献の収集等の準備作業を行う。授業内報告のレジュメを作成する。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
先行研究調査の必要に応じて、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内報告 40 %、討議への参加姿勢 30%、課題提出 30 %の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治、市民自治
＜研究テーマ＞
中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制
＜主要研究業績＞『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』（2019）公人の友社
「『透明性』・『誠実性』・『戦術性』－“転職”を迫られる地方公務員」(2001)『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい
「国による『上から』の自治体統制の持続と変容」（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会
「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢　人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】
This seminar is intended for the graduate students in the first year of master course. Graduate students acquire basic knowledge on collecting data and on preparation for the master's thesis, then make a research plan.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. To acquire the knowledge on the technique of a dissertation and the way of collecting materials and data for research
-B. To raise points at research issue on basis of preceding studies
-C. To make a research plan in according to the structure of thesis
Students will be expected to to make summary for presentation in class, besides make preparation for your thesis by research, collecting materials, the literature, and data etc.
Your overall grade will be decided based on the following
Presentation (40%), participation in discussions (30%), and the task of assignment (30%).

SOS600P1 － 502

論文研究指導１Ｂ

谷本　有美子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士１年の院生を対象とする。院生は、修士論文作成のために必要な技法を習得し、先行研究や資料を収集しながら論文の枠組みを構築する。

【到達目標】
・学術論文作成の技法を習得する
・修士論文作成に必要な先行研究や資料を収集し、整理する
・調査研究をもとに修士論文の枠組みをつくる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。
春学期に確定した研究計画に沿って、院生が進めている研究内容について報告を受けながら、修士論文の枠組みづくりを指導する。小論文による報告を通じて、文章の指導を行う。院生相互が学び合う機会として適宜、演習を取り入れる。
発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	調査研究の報告①	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第２回	論文の枠組みと目次の作成	現時点で予定した素材をもとに修士論文の枠組みと目次を作成する
第３回	先行研究に基づく報告	先行研究や資料から得た知見とともに研究課題を報告する
第４回	小論文の報告①	論文の一部を構成する内容について小論文を作成し、報告する
第５回	小論文の推敲	実際に書いた小論文を基に論述のスタイルや体裁等を確認する
第６回	調査研究の報告②	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第７回	小論文の報告②	論文の一部を構成する内容について小論文を作成し、報告する
第８回	調査研究の報告③	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第９回	小論文の報告③	論文の一部を構成する内容について小論文を作成し、報告する
第10回	調査研究の報告④	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第11回	小論文の報告④	論文の一部を構成する内容について小論文を作成し、報告する
第12回	理論枠組みの検討	ここまでに得られた素材をもとに、論文の理論枠組みについて検討する
第13回	研究課題の整理	この時点で不足している調査研究や文献資料収集の状況を整理する
第14回	論文構成の修正	１年次終了時までの進捗を踏まえて、論文の構成を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の作成に必要な調査、資料や文献の収集等の作業を進める。調査研究の報告準備や小論文を作成する。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
論文作成の必要に応じて、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内報告 40 %、討議への参加姿勢 30%、課題提出 30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治、市民自治
＜研究テーマ＞
中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制
＜主要研究業績＞
『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』（2019）公人の友社
「『透明性』・『誠実性』・『戦術性』－“転職”を迫られる地方公務員」(2001)『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい
「国による『上から』の自治体統制の持続と変容」（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会
「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢　人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】
This seminar is intended for the graduate students in the first year of master course. Graduate students acquire the techniques necessary for the master's thesis and construct a framework for the thesis while collecting preceding studies and materials.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. To master the technique of a dissertation
-B. To collect and organize materials for research
-C. To construct the framework of the thesis on your research
Students will be expected to make summary for presentation in class and to write essay, besides to work on your thesis by research, collecting materials, the literature, and data etc.
Your overall grade will be decided based on the following Presentation (40%), participation in discussions (30%), and the task of assignment (30%).

SOS600P1 － 501

論文研究指導１Ａ

中筋　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆の個別指導

【到達目標】
修士論文の 2 年間の執筆過程の 1 年次として，十分な知識と研究能力を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施。個別面談と履修者全員による演習形式の授業の組み合わせによって，地域社会学，都市社会学，農村社会学の立場からみた，公共政策と市民活動，コミュニティ形成の連携に関する研究と論文制作の方法を指導する。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	顔合わせ	各自の関心の提示と相互評価
2	1 人目の個別指導 1	テーマ設定に関する指導
3	1 人目の個別指導 2	文献調査に関する指導
4	1 人目の個別指導 3	データ収集に関する指導
5	2 人目の個別指導 1	テーマ設定に関する指導
6	2 人目の個別指導 2	文献調査に関する指導
7	2 人目の個別指導 3	データ収集に関する指導
8	3 人目の個別指導 1	テーマ設定に関する指導
9	3 人目の個別指導 2	文献調査に関する指導
10	3 人目の個別指導 3	データ収集に関する指導
11	4 人目の個別指導 1	テーマ設定に関する指導
12	4 人目の個別指導 2	文献調査に関する指導
13	4 人目の個別指導 3	データ収集に関する指導
14	全員演習	各自の論文テーマに関する討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回指導の材料となるレジュメを事前に準備し，教員にメール等で提出する。事後，指導に基づく研究の修正状況を教員にメール等で報告する。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
個別指導や演習での研究の進展度とその表現 100 %。

【学生の意見等からの気づき】
各自の問題関心により共感的に接するよう努める

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 地域社会学
< 研究テーマ> 地域社会の構造分析
< 主要研究業績> 『よくわかる都市社会学』(2013, ミネルヴァ書房)、『群衆の居場所』(2005, 新曜社)

【Outline (in English)】
(Course outline)This seminar aims to prepare student's master thesis by face to face direction and group discussion.(Learning Objectives)The goals of this lecture are the first step of writing the master thesis.(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar.(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

SOS600P1 － 502

論文研究指導１Ｂ

中筋　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆の個別指導

【到達目標】
修士論文の 2 年間の執筆過程の 1 年次として，十分な知識と研究能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施。個別面談と履修者全員による演習形式の授業の組み合わせによって，地域社会学，都市社会学，農村社会学の立場からみた，公共政策と市民活動，コミュニティ形成の連携に関する研究と論文制作の方法を指導する。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1 人目の個別指導 1	理論に関する指導
2	1 人目の個別指導 2	研究方法に関する指導
3	1 人目の個別指導 3	政策提言に関する指導
4	2 人目の個別指導 1	理論に関する指導
5	2 人目の個別指導 2	研究方法に関する指導
6	2 人目の個別指導 3	政策提言に関する指導
7	3 人目の個別指導 1	理論に関する指導
8	3 人目の個別指導 2	研究方法に関する指導
9	3 人目の個別指導 3	政策提言に関する指導
10	4 人目の個別指導 1	理論に関する指導
11	4 人目の個別指導 2	研究方法に関する指導
12	4 人目の個別指導 3	政策提言に関する指導
13	全員演習	各自の論文構想をめぐる討論
14	中間報告会での報告	中間報告会での報告に関する討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回指導の材料となるレジュメを事前に準備し，教員にメール等で提出する。事後，指導に基づく研究の修正状況を教員にメール等で報告する。さらに年度末に研究計画リポートを提出する。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
個別指導や演習での研究の進展度とその表現 30 %，中間報告会での報告の完成度 30 %，年度末リポート 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
各自の問題関心により共感的に接するよう努める

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 地域社会学
< 研究テーマ> 地域社会の構造分析
< 主要研究業績> 『よくわかる都市社会学』(2013, ミネルヴァ書房)、『群衆の居場所』(2005, 新曜社)

【Outline (in English)】
(Course outline)This seminar aims to prepare student's master thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)The goals of this lecture are the first step of writing the master thesis.
(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,
(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

SOS600P1 － 503

論文研究指導２Ａ

杉崎　和久

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 2 年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】
各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程 1 年目の論文研究指導 1 の成果を踏まえて、引き続きの課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを確定すること、(2) その研究テーマを追求できる適切な理論枠組や方法を確定し習熟すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解しそれを実際に適用できること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解しそれを実際に適用すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。
課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。
授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	1 年目での成果を確認し、今年度の論文完成までのスケジュールの確認する
第 3.4 回	研究テーマと論文の方向性の確認	論文の方向性の検討する
第 5.6 回	論文の仮説と理論枠組の検討	論文の仮説と理論枠組を検討する
第 7.8 回	論文構成の検討	論文構成の検討する
第　9.10 回	論文の基本ルール	論文の形式上のルール、スタイルを把握する
第 11.12 回	研究進捗状況の報告	研究テーマ設定や作業をするための課題を報告する
第 13.14 回	研究計画の再考	研究進捗状況を踏まえて、夏季休暇期間の研究計画を再検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した 4 つの項目に沿って、具体的に行なっておくべき作業を指示する。特に、締切り間際に慌てるのではなく、11 月あたりで第 1 稿が完成しているように進めてもらいたい。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞都市計画、市民参加手法
＜研究テーマ＞公共的意思決定における市民参加のあり方、住民主体のまちづくりを支える支援システム、まちづくりの現代史
＜主要研究業績＞『住民主体の都市計画』(分担執筆) 学芸出版社、2009 年
「まちづくりセンターを取り巻く課題」『季刊まちづくり』2011 年 3 年
「参加のプロセスマネジメント」『地方自治職員研修』2013 年 9 月号

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60 %）,and reports（40 %）.

SOS600P1 － 504

論文研究指導２Ｂ

杉崎　和久

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 2 年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】
各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程 1 年目の論文研究指導 1 の成果を踏まえて、引き続きの課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを確定すること、(2) その研究テーマを追求できる適切な理論枠組や方法を確定し習熟すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解しそれを実際に適用できること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解しそれを実際に適用すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。
課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。
授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	本格執筆に向けて	夏休みでの進展を踏まえて、提出までのスケジュールを確認し、論文の中身に関する現時点での考えを確認する。
第 3.4 回	研究推進上の悩みの解決	現時点で抱えている研究上の悩みを話してもらい、解決の方策を相談する。
第 5.6 回	研究進捗状況の報告と指導	研究の進捗状況を発表し、作業の方向性を確認する。
第 7.8 回	研究進捗状況の報告と指導	研究の進捗状況を発表し、作業の方向性を確認する。
第 9.10 回	研究進捗状況の報告と指導	研究の進捗状況を発表し、作業の方向性を確認する。
第 11.12 回	初稿の確認	論文の完成度を高めるための改善報告を確認する。
第 13.14 回	発表の準備	口述試験に向けた発表練習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した 4 つの項目に沿って、具体的に行なっておくべき作業を指示する。特に、締切り間際に慌てるのではなく、11 月あたりで第 1 稿が完成しているように進めてもらいたい。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞都市計画、市民参加手法
＜研究テーマ＞公共的意思決定における市民参加のあり方、住民主体のまちづくりを支える支援システム、まちづくりの現代史
＜主要研究業績＞『住民主体の都市計画』(分担執筆) 学芸出版社、2009 年
「まちづくりセンターを取り巻く課題」『季刊まちづくり』2011 年 3 年
「参加のプロセスマネジメント」『地方自治職員研修』2013 年 9 月号

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60 %）,and reports（40 %）.

SOS600P1 － 503

論文研究指導２Ａ

名和田　是彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文研究指導１に引き続き、修士論文の完成を目指して、各自のテーマに則して現実の諸問題に関するデータ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題状況を総合的に把握すること、および、その解決策を検証することを課題とする。

【到達目標】
修士論文の構想と章構成の確定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の問題関心を大切にし、調査やデータ分析の手法について研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。
なお原則として、論文研究指導１の受講を前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題設定	問題意識の再確認、研究スケジュール
2	研究計画	計画案の報告と質疑
3 ～ 13	調査研究の実施	必要な助言等
14	中間報告	成果の報告と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

【参考書】
各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（20 %）、論文執筆のための調査活動および報告（80 %）

【学生の意見等からの気づき】
なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞コミュニティ政策、公共哲学、法社会学
＜研究テーマ＞都市内分権。地域法人制度。コミュニティカフェ。「領域団体」及び「市民社会」の概念史。
＜主要研究業績＞
単著『コミュニティの法理論』（創文社、1998 年）
編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009 年）
単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法―― civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257 ～ 287 頁。
単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性　―宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1 ～ 88 頁。
単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望　～高松市を素材として～」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57 ～ 104 頁。

【Outline (in English)】
Students in the third semester should subscribe to this subject.
Each student should prepare for her/his master paper,
collecting and analyzing data and materials,
trying to understand the current situation of policy making in the field of her/his own research theme as well as
trying to propose her/his own solution. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her master paper, which is also the grading criterion.

SOS600P1 － 504

論文研究指導２Ｂ

名和田　是彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文指導１に引き続いて、修士論文の完成を目指して、各自のテーマに則して現実の諸問題に関するデータ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題状況を総合的に把握すること、および、その解決策を検証することを課題とする。

【到達目標】
十分な水準の修士論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の問題関心を大切にし、調査やデータ分析の手法について研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。
なお原則として、論文研究指導２ A を履修していることを前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究評価（３回目）	到達状況の確認と課題の明確化
2-12	調査研究の実施	必要な助言等
13	論文報告	報告と質疑
14	研究評価（最終）	成果の確認と残された課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

【参考書】
各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（20 %）、論文執筆のための調査活動および報告（80 %）

【学生の意見等からの気づき】
なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞コミュニティ政策、公共哲学、法社会学
＜研究テーマ＞都市内分権。地域法人制度。コミュニティカフェ。「領域団体」及び「市民社会」の概念史。
＜主要研究業績＞
単著『コミュニティの法理論』（創文社、1998 年）
編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009 年）
単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法―― civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257 ~287 頁。
単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性 ―宮崎市の地域自治区制度の 運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1 ~88 頁。
単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望 ～高松市を素材として～」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57 ~104 頁。

【Outline (in English)】
Students in the fourth semester should subscribe to this subject.
Each student should prepare for, and at the end of the semester complete, her/his master paper,
collecting and analyzing data and materials,
trying to understand the current situation of policy making in the field of her/his own research theme as well as
trying to propose her/his own solution. The goal is that each student comp;etes his/her master paper. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/fer own research project at least once a semester. which are also the grading criteria.

SOS600P1 － 503

論文研究指導２Ａ

廣瀬　克哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 2 年目の院生を対象に、修士論文の執筆を着実に進めるための指導を行うものである。

【到達目標】
院生は、1 年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確にしながら、引き続き（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、リライトされたリサーチ・プロポーザルを共有する。
第 2 回	研究スケジュールの確認	今後の研究に向けたスケジュールを設定し、共有する。
第 3 回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第 4 回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第 5 回	研究倫理の理解	研究を遂行する上で留意すべき研究倫理について演習形式で学ぶ。
第 6 回	論文の部分的な試作	暫定的に設定された目次に従い、そのうちの 1 章について執筆を試みる。
第 7 回	文章の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 8 回	概要（要旨）の作成	草稿の執筆に先立ち、現時点における構想を元に、1,000 文字程度で修士論文の概要を表すことを試みる。
第 9 回	概要（要旨）の推敲	各自が執筆した概要を報告し、相互に検討しながら推敲する。
第 10 回	英文サマリー作成の基礎	英文サマリーの作成に関する基本的事項を学ぶ。
第 11 回	英文サマリーの執筆	各自の修士論文の概要を英文で執筆する。英文サマリーの推敲
第 12 回	英文サマリーの推敲	各自が執筆した英文サマリーを報告し、相互に検討しながら推敲する。
第 13 回	リサーチ・プロポーザルの報告	各自の研究の進捗に基づき、リライトしたリサーチ・プロポーザルについて、相互に批判的な検討を加える。
第 14 回	研究課題の明確化	修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。
オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】
2022 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018 年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】
(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
(Learning Objectives) To be ready to start writing master's thesis.
(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.
(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 － 504

論文研究指導２Ｂ

廣瀬　克哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 2 年目の院生を対象に、修士論文の執筆を完成させるための指導を行うものである。

【到達目標】
院生は、1 年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確にしながら、引き続き（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深め、修士論文を完成させることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、提出までのスケジュールを確認する。
第 2 回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第 3 回	主要な資料の報告	論文を作成する上で最も重要な資料について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第 4 回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第 5 回	論文の目次の確認	現時点における論文の構成について報告する。
第 6 回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第 7 回	第 1 稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第 8 回	第 1 稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 9 回	第 2 稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第 10 回	第 2 稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 11 回	要旨の推敲	修士論文の要旨を推敲する。
第 12 回	進捗の確認	修士論文の提出に向けた事務的な諸注意を行う。
第 13 回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第 14 回	論点に関する質疑	口述試験のための準備として、重要な論点について質疑を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。
オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】
2022 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018 年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】
（Course outline）This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
（Learning Objectives）To be ready to complete master's thesis.
（Learning activities outside of classroom）Several hours a week at least.
（Grading Criteria /Policy）The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 － 503

論文研究指導２Ａ

浦元　初姫

備考（履修条件等）：

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 2 年目の院生を対象に、修士論文の執筆を着実に進めるための指導を行うものである。

【到達目標】
院生は、1 年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確にしながら、引き続き（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、リライトされたリサーチ・プロポーザルを共有する。
第 2 回	研究スケジュールの確認	今後の研究に向けたスケジュールを設定し、共有する。
第 3 回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第 4 回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第 5 回	研究倫理の理解	研究を遂行する上で留意すべき研究倫理について演習形式で学ぶ。
第 6 回	論文の部分的な試作	暫定的に設定された目次に従い、そのうちの 1 章について執筆を試みる。
第 7 回	文章の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 8 回	概要（要旨）の作成	草稿の執筆に先立ち、現時点における構想を元に、1,000 文字程度で修士論文の概要を表すことを試みる。
第 9 回	概要（要旨）の推敲	各自が執筆した概要を報告し、相互に検討しながら推敲する。
第 10 回	英文サマリー作成の基礎	英文サマリーの作成に関する基本的事項を学ぶ。
第 11 回	英文サマリーの執筆	各自の修士論文の概要を英文で執筆する。英文サマリーの推敲
第 12 回	英文サマリーの推敲	各自が執筆した英文サマリーを報告し、相互に検討しながら推敲する。
第 13 回	リサーチ・プロポーザルの報告	各自の研究の進捗に基づき、リライトしたリサーチ・プロポーザルについて、相互に批判的な検討を加える。
第 14 回	研究課題の明確化	修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS600P1 － 504

論文研究指導２Ｂ

渕元　初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 2 年目の院生を対象に、修士論文の執筆を完成させるための指導を行うものである。

【到達目標】
院生は、1 年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確にしながら、引き続き（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深め、修士論文を完成させることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、提出までのスケジュールを確認する。
第 2 回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第 3 回	主要な資料の報告	論文を作成する上で最も重要な資料について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第 4 回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第 5 回	論文の目次の確認	現時点における論文の構成について報告する。
第 6 回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第 7 回	第 1 稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第 8 回	第 1 稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 9 回	第 2 稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第 10 回	第 2 稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 11 回	要旨の推敲	修士論文の要旨を推敲する。
第 12 回	進捗の確認	修士論文の提出に向けた事務的な諸注意を行う。
第 13 回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第 14 回	論点に関する質疑	口述試験のための準備として、重要な論点について質疑を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS600P1 － 503

論文研究指導２Ａ

池田　寛二

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次以上の院生を対象に、修士論文または政策研究論文を執筆するための研究指導を行う。

【到達目標】
修士論文または政策研究論文を完成させ、9 月か 3 月の修了時までには修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習。各回の報告に応じて次回の課題を指示し、その都度フィードバックしながら修論の執筆を指導する。原則として、授業は対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方と各自の 1 年目の研究の進捗状況の確認
第 2 回	演習	院生の報告と討論
第 3 回	演習	院生の報告と討論
第 4 回	演習	院生の報告と討論
第 5 回	演習	院生の報告と討論
第 6 回	演習	院生の報告と討論
第 7 回	演習	院生の報告と討論
第 8 回	演習	院生の報告と討論
第 9 回	演習	院生の報告と討論
第 10 回	演習	院生の報告と討論
第 11 回	演習	院生の報告と討論
第 12 回	演習	院生の報告と討論
第 13 回	演習	院生の報告と討論
第 14 回	演習	9 月に提出する修士論文または政策研究論文の最終点検、後期の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生各自の研究の実施。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて指示する。

【参考書】
研究テーマに応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
各自の修士論文に向けた研究内容の報告（40 %）と修士論文に向けた研究の到達レベルを示す最終レポート（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
この演習を通じて教員の指示とアドバイスを真摯に受けとめ、スケジュールの自己管理を怠らなければ、修士論文を完成させることができます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、社会学理論、東南アジア地域研究
＜研究テーマ＞環境・エネルギー政策、地域政策
＜主要研究業績＞池田ほか編著，2012『環境をめぐる公共圏のダイナミズム』（法政大学出版局）等。

【Outline (in English)】
Supervising to write master's thesis or a policy research paper for students over second year of Master's course.　Grading will be decided based on contents of presentation of each student (40%), and the final report showing the progress of research toward the master's thesis (60 %).

SOS600P1 － 504

論文研究指導２Ｂ

池田　寛二

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次以上の院生を対象に修士論文または政策研究論文を完成させるための研究指導を行う。

【到達目標】
修士論文または政策研究論文を完成させ、年度末の 3 月もしくは遅くとも次年度 9 月には修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習。各回の報告に応じて次回の課題を指示し、課題への対応の報告を受けてその都度フィードバックしながら修論の執筆を指導し完成させる。原則として、授業は対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方と前期の到達点の確認
第 2 回	演習	院生の報告と討論
第 3 回	演習	院生の報告と討論
第 4 回	演習	院生の報告と討論
第 5 回	演習	院生の報告と討論
第 6 回	演習	院生の報告と討論
第 7 回	演習	院生の報告と討論
第 8 回	演習	院生の報告と討論
第 9 回	演習	院生の報告と討論
第 10 回	演習	院生の報告と討論
第 11 回	演習	院生の報告と討論
第 12 回	演習	院生の報告と討論
第 13 回	演習	院生の報告と討論
第 14 回	演習	修士論文または政策研究論文の最終点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生各自の研究の実施。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて指示する。

【参考書】
研究テーマに応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
各自の修士論文に向けた研究内容の報告（40 %）と修士論文に向けた研究の到達レベルを示す最終レポート（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
この演習を通じて教員の指示とアドバイスを真摯に受けとめ、スケジュールの自己管理を怠らなければ、修士論文を完成させることができます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、社会学理論、東南アジア地域研究
＜研究テーマ＞環境・エネルギー政策、地域政策
＜主要研究業績＞池田ほか編著，2012『環境をめぐる公共圏のダイナミズム』（法政大学出版局）等。

【Outline (in English)】
Supervising to complete master's thesis or a policy research paper for students over second year of Master's course. Grading will be decided based on contents of presentation of each student (40%), and the final report showing the progress of research toward the master's thesis (60 %).

SOS600P1 － 503

論文研究指導２Ａ

糸久　正人

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。主な対象は「イノベーション政策」になります。

【到達目標】
修士論文または政策研究論文を完成させ、修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習形式で行います。受講生は与えられた課題を準備して臨み、積極的にディスカッションに参加してください。また。他の受講生の発表に対するコメントも求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお。講義は原則対面で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方の確認
第 2 回	演習	院生の報告と討論
第 3 回	演習	院生の報告と討論
第 4 回	演習	院生の報告と討論
第 5 回	演習	院生の報告と討論
第 6 回	演習	院生の報告と討論
第 7 回	演習	院生の報告と討論
第 8 回	演習	院生の報告と討論
第 9 回	演習	院生の報告と討論
第 10 回	演習	院生の報告と討論
第 11 回	演習	院生の報告と討論
第 12 回	演習	院生の報告と討論
第 13 回	演習	院生の報告と討論
第 14 回	演習	院生の報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて指示する。

【参考書】
研究テーマに応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
Technology & Innovation Management
Operation Management
＜研究テーマ＞
集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象とした IoT 化に伴う技術ベースの変遷に関する研究
日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究
＜主要研究業績＞
糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争： IoT 化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』
糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』
Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” International Journal of Automotive Technology and Management.
公文溥・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業―日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社.
糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』
糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』
Oleijniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” Journal of Management and Business Administration, vol.25, No.2.
糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』
富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社
糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】
this lecture aims to provide you with how to write a master thesis and research policy paper according to your concern. We mainly focus on Innovation policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2)short reports 50%.

SOS600P1 － 504

論文研究指導２Ｂ

糸久　正人

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行う。主な対象はイノベーション政策になります。

【到達目標】
修士論文または政策研究論文を完成させ、修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習形式で行います。受講生は与えられた課題を準備して臨み、積極的にディスカッションに参加してください。また。他の受講生の発表に対するコメントも求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお。講義は原則対面で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方の確認
第 2 回	演習	院生の報告と討論
第 3 回	演習	院生の報告と討論
第 4 回	演習	院生の報告と討論
第 5 回	演習	院生の報告と討論
第 6 回	演習	院生の報告と討論
第 7 回	演習	院生の報告と討論
第 8 回	演習	院生の報告と討論
第 9 回	演習	院生の報告と討論
第 10 回	演習	院生の報告と討論
第 11 回	演習	院生の報告と討論
第 12 回	演習	院生の報告と討論
第 13 回	演習	院生の報告と討論
第 14 回	演習	院生の報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて指示する。

【参考書】
研究テーマに応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
Technology & Innovation Management
Operation Management
＜研究テーマ＞
集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象とした IoT 化に伴う技術ベースの変遷に関する研究
日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究
＜主要研究業績＞
糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争： IoT 化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』
糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』
Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” International Journal of Automotive Technology and Management.
公文溥・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業―日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社.
糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』
糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』
Oleijniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” Journal of Management and Business Administration, vol.25, No.2.
糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』
富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社
糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】
This lecture aims to provide you with how to write a master thesis and research policy paper according to your concern. We mainly focus on Innovation policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2)short reports 50%.

SOS600P1 － 503

論文研究指導２Ａ

白鳥　浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導 1A・1B］と［論文研究指導 2A・2B］は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は１年次、２は２年次に対応する。）
各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として 2 年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、報告、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマ設定	同左
2 回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3 回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4 回	論文構成の基礎的技法	同左
5 回	論文構成の応用的技法	同左
6 回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7 回	研究テーマ企画の立案	同左
8 回	研究テーマ企画の修正	同左
9 回	先行研究の検討	同左
10 回	先行研究の整理	同左
11 回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左
12 回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13 回	論文の研究対象の確認	同左
14 回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席 20 %、調査研究活動および報告 80 %

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 － 504

論文研究指導２Ｂ

白鳥　浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導 1A・1B］と［論文研究指導 2A・2B］は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は１年次、２は２年次に対応する。）
各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として 2 年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマ設定	同左
2 回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3 回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4 回	論文構成の基礎的技法	同左
5 回	論文構成の応用的技法	同左
6 回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7 回	研究テーマ企画の立案	同左
8 回	研究テーマ企画の修正	同左
9 回	先行研究の検討	同左
10 回	先行研究の整理	同左
11 回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左
12 回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13 回	論文の研究対象の確認	同左
14 回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席 20 %、調査研究活動および報告 80 %

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 － 503

論文研究指導２Ａ

多田　和美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次の院生を対象に，修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
本授業では，次の 3 点に到達することを目標とします。
1) 修士論文を完成できる。
2) 厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
3) 設定された課題について実証的に分析できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis.
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス
第 2 回	実証分析①	院生による発表とディスカッション
第 3 回	実証分析②	院生による発表とディスカッション
第 4 回	実証分析③	院生による発表とディスカッション
第 5 回	実証分析④	院生による発表とディスカッション
第 6 回	実証分析⑤	院生による発表とディスカッション
第 7 回	実証分析⑥	院生による発表とディスカッション
第 8 回	実証分析⑦	院生による発表とディスカッション
第 9 回	考察①	院生による発表とディスカッション
第 10 回	考察②	院生による発表とディスカッション
第 11 回	考察③	院生による発表とディスカッション
第 12 回	考察④	院生による発表とディスカッション
第 13 回	考察⑤	院生による発表とディスカッション
第 14 回	中間報告	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。修士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。
この他，適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況： 80%，ディスカッションへの貢献度： 20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 － 504

論文研究指導２Ｂ

多田　和美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次の院生を対象に，修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
本授業では，次の 3 点に到達することを目標とします。
1) 修士論文を完成できる。
2) 厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
3) 設定された課題について実証的に分析できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis.
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の執筆と報告①	院生による発表とディスカッション
第 2 回	修士論文の執筆と報告②	院生による発表とディスカッション
第 3 回	修士論文の執筆と報告③	院生による発表とディスカッション
第 4 回	修士論文の執筆と報告④	院生による発表とディスカッション
第 5 回	修士論文の執筆と報告⑤	院生による発表とディスカッション
第 6 回	修士論文の執筆と報告⑥	院生による発表とディスカッション
第 7 回	修士論文の執筆と報告⑦	院生による発表とディスカッション
第 8 回	修士論文の執筆と報告⑧	院生による発表とディスカッション
第 9 回	修士論文の執筆と報告⑨	院生による発表とディスカッション
第 10 回	修士論文の執筆と報告⑩	院生による発表とディスカッション
第 11 回	修士論文の執筆と報告⑪	院生による発表とディスカッション
第 12 回	修士論文の執筆と報告⑫	院生による発表とディスカッション
第 13 回	修士論文の執筆と報告⑬	院生による発表とディスカッション
第 14 回	最終報告	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。修士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。
この他，適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況： 80%，ディスカッションへの貢献度： 20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 － 503

論文研究指導２Ａ

谷本　有美子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士 2 年の院生を対象とする。院生は、調査研究内容の報告と指導教員との討議を通じて考察を深めながら修士論文を執筆する。

【到達目標】
・修士論文作成に必要な調査研究資料を収集し、整理する
・調査研究内容を文章化し、修士論文を構成する
・論理的思考力を高める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。
1 年次に作成した修士論文の構成に沿って院生が進める研究内容について報告を受けながら、修士論文の内容について指導を行う。提出された小論文に対し文言や文章の体裁を指導する。また、院生相互が学び合う機会として適宜、演習を取り入れる。
発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文構成と作業スケジュールの作成	1 年次最後に作成した論文構成の確認とともに、春学期の研究・執筆スケジュールを作成する
第 2 回	調査研究の報告①	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第 3 回	小論文の報告①	前回報告内容を基に論文の一部をなす小論文を作成し報告、提出する
第 4 回	小論文の推敲①	前回提出した小論文を推敲し、加筆・修正を行う
第 5 回	調査研究の報告②	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第 6 回	小論文の報告②	前回報告内容を基に論文の一部をなす小論文を作成し報告、提出する
第 7 回	小論文の推敲②	前回提出した小論文を推敲し、加筆・修正を行う
第 8 回	調査研究の報告③	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第 9 回	小論文の報告③	前回報告内容を基に論文の一部をなす小論文を作成し報告、提出する
第 10 回	小論文の推敲③	前回提出した小論文を推敲し、加筆・修正を行う
第 11 回	調査研究の報告④	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第 12 回	小論文の報告④	前回報告内容を基に論文の一部をなす小論文を作成し報告、提出する
第 13 回	小論文の推敲④	前回提出した小論文を推敲し、加筆・修正を行う
第 14 回	進捗の確認と追加調査等の洗い出し	春学期の執筆状況を踏まて、夏休み中に必要な追加作業等を洗い出し、その準備を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の作成に必要な調査、資料や文献の収集等の作業を進める。調査研究の報告準備や小論文の作成・加筆修正作業等を行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
論文執筆の必要に応じて、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内報告 40 %、討議への参加姿勢 30%、課題提出 30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治、市民自治
＜研究テーマ＞
中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制
＜主要研究業績＞
『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』（2019）公人の友社
「『透明性』・『誠実性』・『戦術性』－“転職”を迫られる地方公務員」(2001)『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい
「国による『上から』の自治体統制の持続と変容」（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会
「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢　人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】
This seminar is intended for the graduate students in the second year of master course. Graduate students write thesis while considering the idea from your research deeply and discussing to teacher.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. To collect and organize materials and data for research
-B. To construct the framework of the thesis by writing
-C. To improve the skill of a logical thinking
Students will be expected to make summary for presentation in class and to write essay and correct them, besides to work on your thesis by research, collecting materials, the literature, and data etc.
Your overall grade will be decided based on the following Presentation (40%), participation in discussions (30%), and the task of assignment (30%).

SOS600P1 － 504

論文研究指導２Ｂ

谷本　有美子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士２年の院生を対象とする。院生は、調査研究内容の報告と指導教員との討議を通じて考察を深めながら修士論文を完成する。

【到達目標】
・修士論文作成に必要な調査研究資料を収集・整理する
・論理的思考力を高める
・調査研究をもとに修士論文を完成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。
修士論文の構成に沿って、院生が執筆中の論文について報告を受けながら、修士論文の完成に向けた指導を行う。論文に使用する文言や文章の体裁等について指導する。院生相互が学び合う機会として適宜、演習を取り入れる。
発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	論文構成の再検討	夏休み中に獲得した新たな知見を用いて、論文の構成を再検討する
第２回	論文の執筆と報告①	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第３回	論文の執筆と報告②	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第４回	論文の執筆と報告③	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第５回	論文の執筆と報告④	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第６回	論文の執筆と報告⑤	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第７回	論文の執筆と報告⑥	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第８回	論文の執筆と報告⑦	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第９回	論文の執筆と報告⑧	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第10回	論文の執筆と報告⑧	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第11回	修士論文の推敲①	仕上げに向けた推敲を行う
第12回	修士論文の推敲②	仕上げに向けた推敲を行う
第13回	修士論文の推敲③	仕上げに向けた推敲を行う
第14回	修士論文の最終確認	提出までに必要な修正について指示する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の完成に向けて計画的に執筆を進める。
論文審査に必要な報告資料を作成する。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
論文執筆の必要に応じて、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内報告 40 %、討議への参加姿勢 30%、課題提出 30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治、市民自治
＜研究テーマ＞
中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制
＜主要研究業績＞
『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』（2019）公人の友社
「『透明性』・『誠実性』・『戦術性』－“転職”を迫られる地方公務員」(2001)『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい
「国による『上から』の自治体統制の持続と変容」（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会
「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢　人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】
This seminar is intended for the graduate students in the second year of master course. Graduate students finish thesis while considering the idea from your research deeply and discussing to teacher.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. To collect and organize materials for research
-B. To improve the skill of a logical thinking
-C. To finish the thesis on your research
Students will be expected to make summary for presentation in examination, besides to write thesis while keeping your plan.
Your overall grade will be decided based on the following
Presentation (40%), participation in discussions (30%), and the task of assignment (30%).

SOS600P1 － 503

論文研究指導２Ａ

中筋　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆の個別指導

【到達目標】
修士論文の 2 年間の執筆過程の 2 年次として，十分な知識と研究能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。個別面談と履修者全員による演習形式の授業の組み合わせによって，地域社会学，都市社会学，農村社会学の立場からみた，公共政策と市民活動，コミュニティ形成の連携に関する研究と論文制作の方法を指導する。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	顔合わせ	各自の関心の提示と相互評価
2	1 人目の個別指導 1	論文の構成に関する指導
3	1 人目の個別指導 2	論文の展開に関する指導
4	1 人目の個別指導 3	論文の結論に関する指導
5	2 人目の個別指導 1	論文の構成に関する指導
6	2 人目の個別指導 2	論文の展開に関する指導
7	2 人目の個別指導 3	論文の結論に関する指導
8	3 人目の個別指導 1	論文の構成に関する指導
9	3 人目の個別指導 2	論文の展開に関する指導
10	3 人目の個別指導 3	論文の結論に関する指導
11	4 人目の個別指導 1	論文の構成に関する指導
12	4 人目の個別指導 2	論文の展開に関する指導
13	4 人目の個別指導 3	論文の結論に関する指導
14	中間報告会	各自の中間報告会原稿の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回指導の材料となるレジュメを事前に準備し，教員にメール等で提出する。事後，指導に基づく研究の修正状況を教員にメール等で報告する。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。**オンラインを活用し、授業時間変更で 2 回減った分のし同時間を確保するよう努める。**

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
個別指導や演習での研究の進展度とその表現 60 %、中間報告会での報告の完成度 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
各自の問題関心により共感的に接するよう努める

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 地域社会学
< 研究テーマ> 地域社会の構造分析
< 主要研究業績> 『よくわかる都市社会学』(2013, ミネルヴァ書房)、『群衆の居場所』(2005, 新曜社)

【Outline (in English)】
(Course outline)This seminar aims to prepare student's master thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)The goals of this lecture are the second step of writing the master thesis.
(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,
(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

SOS600P1 － 504

論文研究指導２Ｂ

中筋　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆の個別指導

【到達目標】
修士論文の 2 年間の執筆過程の 2 年次として，十分な知識と研究能力を習得し、修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。個別面談と履修者全員による演習形式の授業の組み合わせによって，地域社会学，都市社会学，農村社会学の立場からみた，公共政策と市民活動，コミュニティ形成の連携に関する研究と論文制作の方法を指導する。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1 人目の個別指導 1	文献調査に関する確認
2	1 人目の個別指導 2	データ分析に関する確認
3	1 人目の個別指導 3	政策提言に関する確認
4	2 人目の個別指導 1	文献調査に関する確認
5	2 人目の個別指導 2	データ分析に関する確認
6	2 人目の個別指導 3	政策提言に関する確認
7	3 人目の個別指導 1	文献調査に関する確認
8	3 人目の個別指導 2	データ分析に関する確認
9	3 人目の個別指導 3	政策提言に関する確認
10	4 人目の個別指導 1	文献調査に関する確認
11	4 人目の個別指導 2	データ分析に関する確認
12	4 人目の個別指導 3	政策提言に関する確認
13	全員演習 1	修士論文の最終調整
14	全員演習 2	修士論文の最終調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回指導の材料となるレジュメを事前に準備し，教員にメール等で提出する。事後，指導に基づく研究の修正状況を教員にメール等で報告する。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
修士論文の出来 100 %

【学生の意見等からの気づき】
各自の問題関心により共感的に接するよう努める

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 地域社会学
< 研究テーマ> 地域社会の構造分析
< 主要研究業績> 『よくわかる都市社会学』(2013, ミネルヴァ書房)、『群衆の居場所』(2005, 新曜社)

【Outline (in English)】
(Course outline)This seminar aims to prepare student's master thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)The goals of this lecture are the second step of writing the master thesis.
(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,
(Grading Criteria /Policy)Master thesis:100%.

SOS700P1 － 001

公共政策学特殊研究１Ａ

杉崎　和久

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士論文指導科目として，博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について，個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】
都市政策に関する専門知識や高度な研究方法，論文執筆の力を体得し，最終的に博士論文を作成することを目標とする。特に１年春学期は、研究テーマの絞込みとそれに関連する既往研究の把握をすることを主眼とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。
課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。
授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	博士研究の進めるためのスケジュール・手法等を確認する。
第 3.4 回	研究関心の発表	研究活動に着手する前の問題関心等を発表する。
第 5.6 回	研究計画の立案	当面の研究の進め方・手法等を検討する。
第 7.8 回	既往研究の把握	関心のあるテーマに関する既往研究のリストを作成する
第 9.10 回	既往研究の整理	関心のあるテーマに関する既往研究論文等を読み込む
第 11.12 回	研究テーマ案の検討	研究テーマに関する論点整理を踏まえた研究テーマ案の発表
第 13.14 回	ふりかえり	研究進捗状況の発表と夏季休暇期間の研究活動予定の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
論文研究指導科目については，授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞都市計画、市民参加手法
＜研究テーマ＞公共的意思決定における市民参加のあり方、住民主体のまちづくりを支える支援システム、まちづくりの現代史
＜主要研究業績＞『住民主体の都市計画』(分担執筆) 学芸出版社、2009 年
「まちづくりセンターを取り巻く課題」『季刊まちづくり』2011 年 3 年
「参加のプロセスマネジメント」『地方自治職員研修』2013 年 9 月号

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60 %）,and reports（40 %）.

SOS700P1 － 002

公共政策学特殊研究１Ｂ

杉崎　和久

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
共政策研究科の博士論文指導科目として，博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について，個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】
都市政策に関する専門知識や高度な研究方法，論文執筆の力を体得し，最終的に博士論文を作成することを到達目標とする。特に博士課程１年次の秋学期は、引き続き既往研究の把握を踏まえた研究テーマの絞込みと２年次の学会論文投稿に向けた作業を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。
課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。
授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	夏季休暇期間の進捗状況の報告と研究計画の検討を行う。
第 3.4 回	既往研究の把握	関心のあるテーマに関する既往研究論文等を読み込む
第 5.6 回	理論枠組みの設定	既往研究を踏まえたテーマに関する理論枠組みを検討する。
第 7.8 回	研究テーマ案の検討	研究テーマ案の絞込みを行う。
第　9.10 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 11.12 回	投稿論文構成の検討	学会論文投稿に向けた目次構成、調査計画を検討する。
第 13.14 回	ふりかえり	研究進捗状況の発表と春季休暇期間の研究活動予定を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
論文研究指導科目については，授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞都市計画、市民参加手法
＜研究テーマ＞公共的意思決定における市民参加のあり方、住民主体のまちづくりを支える支援システム、まちづくりの現代史
＜主要研究業績＞『住民主体の都市計画』(分担執筆) 学芸出版社、2009 年
「まちづくりセンターを取り巻く課題」『季刊まちづくり』2011 年 3 年
「参加のプロセスマネジメント」『地方自治職員研修』2013 年 9 月号

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60 %）,and reports（40 %）.

SOS700P1 － 001

公共政策学特殊研究１Ａ

土山　希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の１年めにあたり、博士論文作成のためのテーマを念頭において、研究計画をたて、そのテーマをめぐる情報、資料、文献の収集と調査をすすめ、テーマについての知見を醸成し、自らの独創性を模索していく。

【到達目標】
この講義は以下を到達目標とする。
・博士論文のテーマを念頭に置いて、３年間の研究計画を立てる
・テーマをめぐる情報、資料、文献の収集と調査を進める
・テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
　受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	講義の進めかた、博士論文の指導の方法の確認
第 2 回	博士論文のテーマの検討	博士論文テーマとして検討しているものについて報告する
第 3 回	博士論文のテーマの構想	博士論文テーマについて、検討をふまえた構想を報告する
第 4 回	意見交換	意見交換と今後の作業の確認
第 5 回	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究について収集し、状況を報告する
第 6 回	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究について収集し、状況を報告する
第 7 回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実（fact）、先行研究をふまえて議論し、考察を深める
第 8 回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実（fact）、先行研究をふまえての議論、考察をさらに深める
第 9 回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実（fact）、先行研究をふまえての議論、考察をさらに深める
第 10 回	研究計画を更新する	これまでの講義をふまえて、博士論文の研究計画を更新する
第 11 回	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究について収集し、状況を報告する
第 12 回	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究について収集し、状況を報告する
第 13 回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実（fact）、先行研究をふまえての議論、考察をさらに深める
第 14 回	研究計画を更新する	夏季休暇中の研究計画を検討し、研究計画を更新する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】
教科書は使わない。

【参考書】
院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
事前準備　50%、
報告と説明　50%

【学生の意見等からの気づき】
講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】
専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】
This lectures would be taken by first-year doctor-course students.
Students will make a research plan with a theme for their doctoral thesis in mind.　Students collect information, materials, papers and studies on the theme, develop their knowledge of the theme and search for their own originality.
Learning Objectives;
- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.
- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.
- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.
Learning activities outside of classroom;
Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis
Grading Criteria /Policy;
Advance preparation 50%.
Report and presentation 50%.

SOS700P1 － 002

公共政策学特殊研究１Ｂ

土山　希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の１年めの後期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。博士論文作成のためのテーマをめぐる知見の涵養、研究計画にそった研究活動の展開をすすめ、ひきつづき情報、資料、文献の収集と調査し、自らの独創性を模索していく。

【到達目標】
この講義は以下を到達目標とする。
・博士論文のテーマを念頭に置いて、研究計画を進める
・テーマをめぐる情報、資料、文献の収集と調査を進める
・テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
　受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	報告	夏季休暇までの研究活動の到達点を報告する
第 2 回	後期の研究計画を立てる	これまでの研究の進捗をふまえ、研究計画を更新する
第 3 回	テーマについて報告	テーマについて報告する
第 4 回	テーマについて議論	テーマについての報告を踏まえ、議論し、次回の目標を設定する
第 5 回	テーマをめぐる論点の検討	テーマをめぐる論点を検討する
第 6 回	テーマをめぐる論点の整理	テーマをめぐる論点を整理し、それら論点の検討スケジュールをたてる
第 7 回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について報告する
第 8 回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について議論する
第 9 回	研究計画の更新	これまでの講義をふまえ、研究計画を見直す
第 10 回	論文テーマとその独創性	論文のテーマを前提に、研究の独創性について議論する
第 11 回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について報告する
第 12 回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について報告する
第 13 回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について報告する
第 14 回	春季休暇中、来年度の研究計画を更新する	研究計画を見直し、更新する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
事前準備　50%、
報告と説明　50%

【学生の意見等からの気づき】
講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】
Course outline;
In this lecture, students will make the necessary research progress in the second semester of the first year of the doctor-course.
Students will cultivate their knowledge on the topic for the preparation of their doctoral thesis.
The students will continue their research activities according to their research plan and will continue to collect and research information, materials, studies and literature and to search for their own originality.
Learning Objectives;
- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.
- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.
- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.
Learning activities outside of classroom;
Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis
Grading Criteria /Policy;
Advance preparation 50%.
Report and presentation 50%.

SOS700P1 － 001

公共政策学特殊研究１Ａ

名和田　是彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士後期課程一年目の院生を対象に、学界に新しい知見をもたらすオリジナルな研究を行なって博士論文にまとめていくために、一年目になすべきことを自ら考え、実行することを目的とする。

【到達目標】
博士論文の完成と博士号の取得という究極の目的を見据え、まずは一年目に幅広い文献研究とフィールド調査を行ない、博士論文に向けた研究テーマを設定すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の研究は、博士論文の執筆をはじめとして、学界に新たな知見をもたらすオリジナルな研究であるから、各院生の個性を十分に発揮してもらう必要がある。定まった進め方や方法はないと言ってもよく、院生相互の及び教員との議論から学ぶことが、授業としては本来的なあり方である。
原則として対面により行うことを考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究関心とさし当りの作業の確認	最初の時点での研究関心を言葉に出してみて、さしあり 2、3 ヶ月程度の間の研究作業を試行的に設定してみる。
第 2 回～第 5 回	試行的研究作業の報告と討論	さしあり試行的に行なう研究作業を逐次報告し、討論の中で必要な軌道修正をしていく。
第 6 回	中間総括	試行的な研究作業を総括し、秋までに追究していくテーマを確認する。
第 7 回～第 13 回	研究の推進	各自テーマに沿った研究を推進していく。
第 14 回	春学期の総括と今後の研究計画の確認	夏休み中の研究計画を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士後期課程の院生としての自覚を持って、それぞれの研究テーマを追究していくこと。

【テキスト（教科書）】
決まった教科書は特にない。

【参考書】
各自の研究テーマが設定された時点で、さらに研究が深化した時点で、それぞれに対して指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究テーマの設定や研究状況の報告などによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>　コミュニティ政策論
< 研究テーマ>　都市内分権 (特に日本とドイツ)、自治会・町内会の研究
< 主要研究業績>
編著『コミュニティの自治』(日本評論社、2009 年)
単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法―― civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257 ~287 頁。
単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性 ―宮崎市の地域自治区制度の 運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1 ~88 頁。
単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望　～高松市を素材として～」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57 ～ 104 頁。

【Outline (in English)】
This is part of the research-training program for Ph.D research students working in the area of public policy studies. The workshop's principal objective is to foster intellectual exchange by showcasing work from leading and emerging scholars. The workshop will provide a forum in which research students can present their work, discuss the theoretical and methodological problems involved, discuss common challenges in conducting research in this area and obtain feedback on their work. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/fer own research project at least once a semester. which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 － 002

公共政策学特殊研究１Ｂ

名和田　是彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士後期課程一年目の院生を対象に、学界に新しい知見をもたらすオリジナルな研究を行なって博士論文にまとめていくために、一年目になすべきことを自ら考え、実行することを目的とする。

【到達目標】
博士論文の完成と博士号の取得という究極の目的を見据え、まずは一年目に幅広い文献研究とフィールド調査を行ない、博士論文に向けた研究テーマを設定すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の研究は、博士論文の執筆をはじめとして、学界に新たな知見をもたらすオリジナルな研究であるから、各院生の個性を十分に発揮してもらう必要がある。定まった進め方や方法はないと言ってもよく、院生相互の及び教員との議論から学ぶことが、授業としては本来的なあり方である。
原則として対面により行うことを考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期までの研究の到達点の確認	研究テーマと研究仮説をどのくらい深めることができたかを確認する。
第 2 回～第 5 回	研究テーマに関する先行研究の到達点に学ぶ	これまでに参照した先行研究の中で特に重要なものを紹介・報告し、討論する。
第 6 回～第 10 回	一年目の研究の中間総括	研究のプロセスにおいて行なったフィールド調査や思索を取りまとめて報告し、討論する。今後の研究作業の計画を設定する。
第 11 回～第 13 回	研究の推進	各自テーマに沿った研究を推進していく。
第 14 回	秋学期の総括と今後の研究計画の確認	一年目の研究の成果を振り返り、二年目に向けての展望を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士後期課程の院生としての自覚を持って、それぞれの研究テーマを追究していくこと。

【テキスト（教科書）】
決まった教科書は特にない。

【参考書】
各自の研究テーマが設定された時点で、さらに研究が深化した時点で、それぞれに対して指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究テーマの設定や研究状況の報告などによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> コミュニティ政策論
< 研究テーマ> 都市内分権 (特に日本とドイツ)、自治会・町内会の研究
< 主要研究業績>
編著『コミュニティの自治』(日本評論社、2009 年)
単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法―― civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257 ~287 頁。
単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性 ―宮崎市の地域自治区制度の 運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1 ~88 頁。
単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望　～高松市を素材として～」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57 ～ 104 頁。

【Outline (in English)】
This is part of the research-training program for Ph.D research students working in the area of public policy studies. The workshop's principal objective is to foster intellectual exchange by showcasing work from leading and emerging scholars. The workshop will provide a forum in which research students can present their work, discuss the theoretical and methodological problems involved, discuss common challenges in conducting research in this area and obtain feedback on their work. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/fer own research project at least once a semester. which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 － 001

公共政策学特殊研究１Ａ

林　嶺那

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第 3 回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第 4 回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第 5 回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 6 回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 7 回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第 8 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第 9 回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivation に関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第 14 回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 － 002

公共政策学特殊研究１Ｂ

林　嶺那

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第 3 回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第 4 回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第 5 回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 6 回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 7 回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第 8 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第 9 回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivation に関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第 14 回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０％）
研究報告（３０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 － 001

公共政策学特殊研究１Ａ

廣瀬　克哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程 1 年次の院生を対象に、博士論文の準備のための研究計画の立案を学生の個別の研究テーマに応じて指導する。

【到達目標】
受講生に自らの研究テーマに関連する先行研究の徹底的な読解を通して専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得させ，専門的な学会や学術雑誌での発表や投稿を経験させたうえで、原則として最短 3 年間で博士論文を完成させることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の博士論文の研究テーマに応じて学際性と専門性のバランスに配慮しながら指導する。原則として、1 回に 1 人その都度の研究の進展に応じた報告をさせ、それにもとづいて講義と討論を織り交ぜながら指導する。
各履修者の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるが、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。
基本的には対面で行うことを予定しているが、感染状況によって Zoom によるオンラインに切りかえて行う場合がある。指導学生を登録した Google Classroom を設定する予定であり、発表資料等はそれを使って共有する。
学生へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博士研究へのイントロダクション	各自の研究テーマと博士論文完成に向けたスケジュールの確認、研究倫理の基本
第 2 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 3 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 4 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 5 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 6 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 7 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 8 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 9 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 10 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 11 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 12 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 13 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 14 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の調査研究を進めつつ、その成果をまとめて演習に参加することが原則である。平均して 1 日数時間程度の研究時間が必要である。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。
オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】
2022 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018 年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】
(Course outline) For graduate students in the first year of the doctoral course, the instructor will guide the formulation of a research plan for the preparation of the doctoral dissertation according to the individual research theme of the student.
(Learning Objectives) To be ready to start dissertation research.
(Learning activities outside of classroom) A few hours a day.
(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS700P1 － 002

公共政策学特殊研究１Ｂ

廣瀬　克哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士後期課程１年次向けの論文指導科目として，博士号取得に向けた研究を開始するに当たっての指導を行う。

【到達目標】
公共政策のさまざまな領域や、研究課題の設定に応じた分析枠組、手法について広く概観することによって、博士論文執筆のテーマを具体化していくために必要な知識を得たうえで、自身の博士論文のための研究活動をスタートさせるための準備を完了させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における博士論文の作成を目指す研究指導を行う。学生全員による演習方式で，研究課題の設定，方法論の選定，資料の収集・検討・分析について，参加者各自が自分の研究テーマについて予備作業をおこなったうえで授業において報告し，その報告を相互に検討することによって，博士論文に求められる研究能力の水準に到達することを目指す。あわせて，論文作成に関する個別指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習	博士論文研究への準備状況の共有と一年次秋学期の課題の確認
第 2 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 3 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 4 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 5 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 6 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 7 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 8 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 9 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 10 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 11 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 12 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 13	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 14 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある分析枠組の渉猟と選定など。平均して 1 日数時間必要である。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当しない。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。
オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】
2022 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018 年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】
(Course outline) For graduate students in the first year of the doctoral course, the instructor will guide the formulation of a research plan for the preparation of the doctoral dissertation according to the individual research theme of the student.
(Learning Objectives) To be ready to start dissertation research.
(Learning activities outside of classroom) A few hours a day.
(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS700P1 － 001

公共政策学特殊研究１Ａ

糸久　正人

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文は概ね３本の学術論文から構成されます。本講義では、学術論文を書くためのアカデミックな作法を学び、ディスカッションを通じて研究のブラッシュアップを行います。最終的なゴールは、博士論文を完成させることです。

【到達目標】
・学術論文を書けるようになること
・学会発表を行えるようになること
・博士論文を完成させること
・研究者として自立すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回、論文の進捗状況について報告し、必要な論点について議論します。議論の内容をもとに、調査分析を進めてください。講義の最後にフィードバックを行います。なお。講義は原則対面で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	博士論文とは何か	学問研究の観点から博士論文の意味を考えます。
第２回	先輩の意見を聞く	すでに博士号を取得した先輩に意見を聞きます。
第３回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第４回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第５回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第６回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第７回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第８回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第９回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第10回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第11回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第12回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第13回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第14回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。

【参考書】
必要に応じて指定します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
Technology & Innovation Management
Operation Management
＜研究テーマ＞
集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象とした IoT 化に伴う技術ベースの変遷に関する研究
日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究
＜主要研究業績＞
糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT 化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』
糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』
Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” International Journal of Automotive Technology and Management.
公文溥・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業―日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社.
糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』
糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』
Oleijniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” Journal of Management and Business Administration, vol.25, No.2.
糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』
富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社
糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】
The dissertation usually consists of 3 academic papers. This seminar provides you with how to write an academic paper, then brush up on your research through continuous discussions. The final goal is to complete your dissertation. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2)short reports 50%.

SOS700P1 － 002

公共政策学特殊研究１Ｂ

糸久　正人

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文は概ね３本の学術論文から構成されます。本講義では、学術論文を書くためのアカデミックな作法を学び、ディスカッションを通じて研究のブラッシュアップを行います。最終的なゴールは、博士論文を完成させることです。

【到達目標】
・学術論文を書けるようになること
・学会発表を行えるようになること
・博士論文を完成させること
・研究者として自立すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文の進捗状況を報告すること、必要な論点について議論すること、議論の結果を元に再度調べて報告すること、この繰り返しです。講義の最後にフィードバックを行います。なお。講義は原則対面で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	論文の現在の進捗状況について報告する。	報告と討論。
第２回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第３回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第４回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第５回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第６回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第７回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第８回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第９回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第10回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第11回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第12回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第13回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第14回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはなし。

【参考書】
討論の中で必要な文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
Technology & Innovation Management
Operation Management
＜研究テーマ＞
集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象とした IoT 化に伴う技術ベースの変遷に関する研究
日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究
＜主要研究業績＞
糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT 化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』
糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』
Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” International Journal of Automotive Technology and Management.
公文溥・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業―日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社.
糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』
糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』
Oleijniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” Journal of Management and Business Administration, vol.25, No.2.
糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』
富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社
糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】
The dissertation usually consists of 3 academic papers. This seminar provides you with how to write an academic paper, then brush up on your research through continuous discussions. The final goal is to complete your dissertation. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2)short reports 50%.

SOS700P1 － 001

公共政策学特殊研究１Ａ

加藤　寛之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程として博士論文を近い将来に執筆できるようになるように基礎的な力を養います。

【到達目標】
経営学・地域産業論・経営学におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
経済学・地域産業論・経営学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの設定	同左
2 回	研究テーマの基礎的理解	同左
3 回	研究テーマの標準的理解	同左
4 回	研究テーマの高度な理解	同左
5 回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6 回	論文作成の基礎的技法	同左
7 回	論文作成の標準的技法	同左
8 回	論文報告のレジュメの作成	同左
9 回	先行研究の基礎的検討	同左
10 回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11 回	先行研究の整理	同左
12 回	研究テーマの意義の確認	同左
13 回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14 回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、１年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に１本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００％。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論
＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
＜主要研究業績＞
「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）
「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
This course is designed to teach master's students how to write an academic paper. In these courses, students collect and analyze data to help them write their master's theses in the area of corporate theory, and formulate a logic for the issues surrounding policy problems. (In both cases, 1 corresponds to the first year and 2 to the second year.

Students will be guided by a faculty member who is most appropriate for each theme, and will be advised on the methods of research and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. In addition, students are advised on the methods of survey and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. The series of work includes searching for necessary materials in relation to the problem interest, narrowing down the research theme, selecting the research target, creating the research plan, creating the questionnaire and questionnaire items, collecting and organizing the data, and analyzing the data. In principle, the goal of the second year is to complete a master's thesis or policy research paper.
Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.
Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.
Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)Content of the final submission (30%)

SOS700P1 － 002

公共政策学特殊研究１Ｂ

加藤　寛之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程として博士論文を近い将来に執筆できるようになるように基礎的な力を養います。

【到達目標】
経営学・地域産業論・経営学におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
経済学・地域産業論・経営学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの設定	同左
2 回	研究テーマの基礎的理解	同左
3 回	研究テーマの標準的理解	同左
4 回	研究テーマの高度な理解	同左
5 回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6 回	論文作成の基礎的技法	同左
7 回	論文作成の標準的技法	同左
8 回	論文報告のレジュメの作成	同左
9 回	先行研究の基礎的検討	同左
10 回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11 回	先行研究の整理	同左
12 回	研究テーマの意義の確認	同左
13 回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14 回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、１年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に１本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００％。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究＜主要研究業績＞「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
Thiscourseisdesignedtoteachmaster'sstudentshowtowriteanacademicpaper.Inthesecourse
Studentswillbeguidedbyafacultymemberwhoismostappropriatefore-
achtheme,andwillbeadvisedonthemethodsofresearchanddataanalysis,emphasizingtheirc

SOS700P1 － 001

公共政策学特殊研究１Ａ

白鳥　浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】
公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの設定	同左
2 回	研究テーマの基礎的理解	同左
3 回	研究テーマの標準的理解	同左
4 回	研究テーマの高度な理解	同左
5 回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6 回	論文作成の基礎的技法	同左
7 回	論文作成の標準的技法	同左
8 回	論文報告のレジュメの作成	同左
9 回	先行研究の基礎的検討	同左
10 回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11 回	先行研究の整理	同左
12 回	研究テーマの意義の確認	同左
13 回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14 回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、１年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に１本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００％。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 － 002

公共政策学特殊研究１Ｂ

白鳥　浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】
公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの設定	同左
2 回	研究テーマの基礎的理解	同左
3 回	研究テーマの標準的理解	同左
4 回	研究テーマの高度な理解	同左
5 回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6 回	論文作成の基礎的技法	同左
7 回	論文作成の標準的技法	同左
8 回	論文報告のレジュメの作成	同左
9 回	先行研究の基礎的検討	同左
10 回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11 回	先行研究の整理	同左
12 回	研究テーマの意義の確認	同左
13 回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14 回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、１年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に１本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００％。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 － 001

公共政策学特殊研究１Ａ

多田　和美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程 1 年次の院生を対象に，博士論文を作成するための研究指導を行います。個々の院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に応じて指導しますが，1 年次は主に研究計画の立案と理論研究を実施します。また，必要に応じて研究調査にも着手します。

【到達目標】
本授業では，次の 3 点に到達することを目標とします。
1) 博士課程修了までに博士論文を完成できる。
2) 博士論文の完成に向けて，適格な研究計画を立案できる。
3) 研究計画にもとづいて調査を実施し，研究データを収集できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis.
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	院生による報告とディスカッション
第 2 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 3 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 4 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 5 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 6 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 7 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 8 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 9 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 10 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 11 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 12 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 13 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 14 回	演習	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。博士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
多田和美（2014）『グローバル製品開発戦略』有斐閣。
この他，適宜提示します。・

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況： 80%，ディスカッションへの貢献度： 20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

SOS700P1 － 002

公共政策学特殊研究１Ｂ

多田　和美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程 1 年次の院生を対象に，博士論文を作成するための研究指導を行います。個々の院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に応じて指導しますが，1 年次は主に研究計画の立案と理論研究を実施します。また，必要に応じて研究調査にも着手します。

【到達目標】
本授業では，次の 3 点に到達することを目標とします。
1) 博士課程修了までに博士論文を完成できる。
2) 博士論文の完成に向けて，適格な研究計画を立案できる。
3) 研究計画にもとづいて調査を実施し，研究データを収集できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis.
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	院生による報告とディスカッション
第 2 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 3 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 4 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 5 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 6 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 7 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 8 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 9 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 10 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 11 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 12 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 13 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 14 回	演習	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。博士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
多田和美（2014）『グローバル製品開発戦略』有斐閣。
この他，適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況： 80%，ディスカッションへの貢献度： 20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
博士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

SOS700P1 － 001

公共政策学特殊研究１Ａ

谷本　有美子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士後期課程１年目の院生を対象とする。院生は、自ら研究材料を獲得し、教員の指導と演習を通して研究の知見を積み重ねながら、博士論文のテーマ設定とフレーム構築をすすめる。

【到達目標】
・博士論文の研究テーマを確定する
・先行文献研究に着手する
・研究構想案を作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。
院生の研究関心や調査研究の成果等についての報告を受けながら、研究の進捗に応じて博士論文執筆に必要な指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。
発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	当初の研究関心を表明し、その問題認識や研究のフレームについての討議を行う
第２回	研究ストックの報告	修士論文または現時点での研究関心に即した自身の研究成果を報告し、研究課題を整理する
第３回	研究構想の検討 (1)	当初の問題関心に沿って、主要な先行研究のリサーチを進め、研究構想（案）を練る
第４回	研究構想の検討 (2)	当初の問題関心に沿って、主要な先行研究のリサーチを進め、研究構想（案）を練る
第５回	研究構想の検討 (3)	当初の問題関心に沿って、主要な先行研究のリサーチを進め、研究構想（案）を練る
第６回	研究構想の検討（4）	当初の問題関心に沿って、主要な先行研究のリサーチを進め、研究構想（案）を練る
第７回	研究構想（案）の報告	構想案の報告を受け、研究の意義や実現可能性を検討する
第８回	研究テーマの検討	研究テーマの変更も視野に入れながら、テーマ設定の方向性を確認する
第９回	研究の推進 (1)	構想案に沿って、各自の研究作業を進める
第10回	研究の推進 (2)	構想案に沿って、各自の研究作業を進める
第11回	研究の推進 (3)	構想案に沿って、各自の研究作業を進める
第12回	研究成果の中間報告	研究作業で獲得した内容を報告し、討議を行う
第13回	研究成果の整理	春学期に獲得した研究成果について、リサーチペーパーをまとめる
第14回	研究作業計画の作成	春学期の研究作業状況を踏まえて、今年度後半の研究行程について計画を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生自身が設定したテーマに即し、自主的に研究課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究状況の報告 70%、討議への参加姿勢 30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治、市民自治
＜研究テーマ＞中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制
＜主要研究業績＞
『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』（2019）公人の友社
「『透明性』・『誠実性』・『戦術性』 － “転職” を迫られる地方公務員」(2001)『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい
「国による『上から』の自治体統制の持続と変容」（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会
「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢　人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】
For graduate students in the first year of doctoral course. Graduate students acquire the research materials themselves, accumulate their research knowledge through the guidance and exercises of faculty members, and advance the theme setting and frame construction of doctoral dissertations.
By the end of the course students, should be able to do the followings:
-A. To decide the research theme
-B. To set about the research on preceding studies
-C. To design your research plan
Students will be expected to work on the research spontaneously.
Your overall grade will be decided based on the following
Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 － 002

公共政策学特殊研究１Ｂ

谷本　有美子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士後期課程１年目の院生を対象とする。院生は、自ら研究材料を獲得し、教員の指導と演習を通して研究の知見を積み重ねながら、博士論文の素材を蓄積し、フレームを構築する。

【到達目標】
・先行文献研究のリサーチペーパーを作成する
・予備的現地調査等を行う
・１年次に探索した文献や資料の検討を通じ論点を提起する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。
院生が獲得した研究成果についての報告を受けながら、研究の進捗に応じて、博士論文執筆に必要な指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	これまでの成果の確認	夏休みまでに獲得した研究成果を確認する
第２回	主要な先行研究の検証 (1)	研究テーマに不可欠な重要な先行研究を題材に議論する
第３回	主要な先行研究の検証 (2)	研究テーマに不可欠な重要な先行研究を題材に議論する
第４回	文献と資料の探索と要点整理 (1)	研究テーマに関連する文献や資料を探索し、それぞれの要点を整理する
第５回	文献と資料の探索と要点整理 (2)	研究テーマに関連する文献や資料を探索し、それぞれの要点を整理する
第６回	文献と資料の探索と要点整理 (3)	研究テーマに関連する文献や資料を探索し、それぞれの要点を整理する
第７回	探索からの論点提起	既存の文献や資料の整理により導き出された論点を報告する
第８回	研究の推進 (1)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第９回	研究の推進 (2)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第10回	研究の推進 (3)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第11回	研究の推進 (4)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第12回	研究の推進 (5)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第13回	研究成果の報告	秋学期に獲得した研究成果について、リサーチペーパーにまとめて報告する
第14回	１年次の総括と次年度研究作業計画の作成	初年度に獲得した研究成果を踏まえ、次年度の研究計画を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生自身が設定したテーマに即して、自主的に研究課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究状況の報告 70 %、討議への参加姿勢 30 %の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治、市民自治
＜研究テーマ＞中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制
＜主要研究業績＞
『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』（2019）公人の友社
「『透明性』・『誠実性』・『戦術性』 － “転職” を迫られる地方公務員」(2001)『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい
「国による『上から』の自治体統制の持続と変容」（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会
「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢　人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】
For graduate students in the first year of doctoral course. Graduate students acquire research materials themselves, accumulate research knowledge through the guidance and exercises of faculty members, and build frames while examining information and data for doctoral dissertations.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. To make the research paper on preceding studies
-B. To do preliminary survey on field or case study
-C. To raise issues from the research in the first year
Students will be expected to work on the research spontaneously.
Your overall grade will be decided based on the following Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 － 001

公共政策学特殊研究１Ａ

中筋　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】
博士論文の研究計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。履修生ごとに個別指導する他、全履修生による文献講読演習を月 1 回程度行う。提出物には個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	履修者の顔合わせ	各自の研究計画発表と自己紹介
2	1 人目の個別指導 1	研究計画の検討 1
3	2 人目の個別指導 1	研究計画の検討 1
4	3 人目の個別指導 1	研究計画の検討 1
5	文献講読演習 1	専門文献の講読と討論
6	1 人目の個別指導 2	文献調査の検討 1
7	2 人目の個別指導 2	文献調査の検討 1
8	3 人目の個別指導 2	文献調査の検討 1
9	文献講読演習 2	専門文献の講読と討論
10	1 人目の個別指導 3	データ収集の検討 1
11	2 人目の個別指導 3	データ収集の検討 1
12	3 人目の個別指導 3	データ収集の検討 1
13	文献講読演習 3	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の到達度の確認と合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房.

【参考書】
文献講読演習にて指示する

【成績評価の方法と基準】
指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが成績評価の条件。研究計画通り研究を進められれば C、文献講読演習等において貢献すれば B、学会査読論文など成果を挙げれば A、その内容が学術的に顕著なものであれば A+、とする。

【学生の意見等からの気づき】
より専門性の高い指導を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉上記教科書、『群衆の居場所』(2005, 新曜社)

【Outline (in English)】
(Course outline)This seminar aims to prepare student's doctoral thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)The goals of this lecture are the first step of writing the doctoral thesis.
(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,
(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

SOS700P1 － 002

公共政策学特殊研究１Ｂ

中筋　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】
博士論文の研究計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。履修生ごとに個別指導する他、全履修生による文献講読演習を月 1 回程度行う。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献講読演習 4	専門文献の講読と討論
2	1 人目の個別指導 4	研究計画の検討 2
3	2 人目の個別指導 4	研究計画の検討 2
4	3 人目の個別指導 4	研究計画の検討 2
5	文献講読演習 5	専門文献の講読と討論
6	1 人目の個別指導 5	文献調査の検討 2
7	2 人目の個別指導 5	文献調査の検討 2
8	3 人目の個別指導 5	文献調査の検討 2
9	文献講読演習 6	専門文献の講読と討論
10	1 人目の個別指導 6	データ収集の検討 2
11	2 人目の個別指導 6	データ収集の検討 2
12	3 人目の個別指導 6	データ収集の検討 2
13	文献講読演習 7	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の到達度の確認と合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房.

【参考書】
文献講読演習にて指示する

【成績評価の方法と基準】
指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが成績評価の条件。研究計画通り研究を進められれば C、文献講読演習等において貢献すれば B、学会査読論文など成果を挙げれば A、その内容が学術的に顕著なものであれば A+、とする。

【学生の意見等からの気づき】
より専門性の高い指導を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉上記教科書、『群衆の居場所』(2005, 新曜社)

【Outline (in English)】
(Course outline)This seminar aims to prepare student's doctoral thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)The goals of this lecture are the first step of writing the doctoral thesis.
(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,
(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

SOS700P1 － 003

公共政策学特殊研究２Ａ

土山　希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の２年め前期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。学生は、博士論文作成のためのテーマをめぐる知見の涵養、研究計画にそった研究活動の展開をすすめ、ひきつづき情報、資料、論文、文献の収集と調査により考察を深め、自らの独創性を模索する。

【到達目標】
この講義は以下を到達目標とする。
・研究計画を確認、必要があれば調整し、計画に沿って研究を進める
・テーマをめぐる情報、資料、論文、文献の収集と調査を進める
・テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の確認	研究計画を確認し、必要であれば調整を加える
第 2 回～第 5 回	知見の整理	先行研究や資料収集の状況を確認する
第 6 回～第 13 回	執筆を進める	研究計画や論文の基本的方向い基づいて執筆を進める
第 14 回	春学期の総括、秋学期の構想	計画とその進捗を振り返り、夏季休暇と秋学期の研究計画を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
研究の進展に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【学生の意見等からの気づき】
講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】
Course outline;
In this lecture, students will make the necessary research progress in the spring semester of the 2nd year of the doctor-course.
Students will cultivate their knowledge on the topic for the preparation of their doctoral thesis.
Students will continue their research activities according to their research plan and will continue to collect and research information, materials, studies and literature and to search for their own originality.
Courses to check the development of research activities required in the first semester of the second year of the doctoral programme.
Students will review their research plan, make adjustments if necessary, and carry out their research in accordance with the plan.
Gathering and researching information, documents, materials, studies and literature on the subject
Discussing the topic, fostering knowledge and seeking their own originality approach to the thesis
Learning Objectives;
- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.
- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.
- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.

SOS700P1 － 004

公共政策学特殊研究２Ｂ

土山　希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の２年め後期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。学生は、博士論文作成のためのテーマをめぐる知見の涵養、研究計画にそった研究活動の展開をすすめ、ひきつづき情報、資料、論文、文献の収集と調査により考察を深め、自らの独創性を模索する。

【到達目標】
この講義は以下を到達目標とする。
・研究計画を確認、必要があれば調整し、計画に沿って進める
・テーマをめぐる情報、資料、文献の収集と調査を進める
・テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
　受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の確認	研究の進捗を振り返り、調整し、計画に沿って秋学期のタスクを確認する
第 2 回～第 13 回	研究活動の展開について　報告	研究活動を進め、進捗を報告する
第 14 回	総括と研究計画の確認	秋学期の研究の到達点を確認し、今後の進め方を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。

【参考書】
院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
事前準備　50%、
報告と説明　50%

【学生の意見等からの気づき】
講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】
Course outline;
In this lecture, students will make the necessary research progress in the autumn semester of the 2nd year of the doctor-course.
Students will cultivate their knowledge on the topic for the preparation of their doctoral thesis.
Students will continue their research activities according to their research plan and will continue to collect and research information, materials, studies and literature and to search for their own originality.
Courses to check the development of research activities required in the first semester of the second year of the doctoral programme.
Students will review their research plan, make adjustments if necessary, and carry out their research in accordance with the plan.
Gathering and researching information, documents, materials, studies and literature on the subject
Discussing the topic, fostering knowledge and seeking their own originality approach to the thesis
Learning Objectives;
- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.
- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.
- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.
Learning activities outside of classroom;
Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis
Grading Criteria /Policy;
Advance preparation 50%.
Report and presentation 50%.

SOS700P1 － 003

公共政策学特殊研究２Ａ

名和田　是彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 2 年目の院生を対象に、公共政策学に新たな知見を与え得る博士論文を執筆すべく指導を行うものである。

【到達目標】
受講生に自らの研究テーマに関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得させ，専門的な学会や学術雑誌での発表や投稿を経験させたうえで、最終的に博士論文を完成させるに足る研究力量を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。
各履修者の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるが、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。
基本的には対面で行うことを予定しているが、感染状況によって Zoom によるオンラインに切りかえて行う場合がある。指導学生を登録した Google Classroom を設定する予定であり、発表資料等はそれを使って共有する。
学生へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第 3 回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第 4 回	研究報告 1	3 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 5 回	研究報告 2	2 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 6 回	研究報告 3	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究計画の作成	1 年目の研究計画を振り返り、2〜3 年目の研究計画を定める。
第 8 回	先行研究の整理	先行研究のレビューに関する章の執筆を試みる。
第 9 回	現地調査の整理 1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第 10 回	現地調査の整理 2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第 11 回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。
第 12 回	研究報告 4	3 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 13 回	研究報告 5	2 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 14 回	研究報告 6	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> コミュニティ政策論
< 研究テーマ> 都市内分権 (特に日本とドイツ)、自治会・町内会の研究、地域集会施設の研究。
< 主要研究業績>
編著『コミュニティの自治』(日本評論社、2009 年) 単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法―― civil の思想と制度』日本評論社、 2018 年、257 ~287 頁。単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性 —宮崎市の地域自治区制度の 運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1 ~88 頁。 単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望 ~高松市を素材として ~」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57 ~104 頁。

【Outline (in English)】
This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/fer own research project at least once a semester. which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 － 004

公共政策学特殊研究２Ｂ

名和田　是彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 2 年目の院生を対象に、公共政策学に新たな知見を与え得る博士論文を執筆すべく指導を行うものである。

【到達目標】
受講生に自らの研究テーマに関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得させ，専門的な学会や学術雑誌での発表や投稿を経験させたうえで、最終的に博士論文を完成させるに足る研究力量を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。
各履修者の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるが、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。
基本的には対面で行うことを予定しているが、感染状況によって Zoom によるオンラインに切りかえて行う場合がある。指導学生を登録した Google Classroom を設定する予定であり、発表資料等はそれを使って共有する。
学生へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	資料の収集	研究対象とする資料にアクセスする。
第 3 回	基本的な文献の検討	基本的な文献を批判的に検討する。
第 4 回	文献報告 1	3 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 5 回	文献報告 2	2 年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 6 回	文献報告 3	1 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第 8 回	理論枠組みの明確化	論文の基本的な理論枠組みを検討する。
第 9 回	論文のオリジナリティの明確化	各自の研究における独自性について議論する。
第 10 回	リサーチ・プロポーザルの作成	プロポーザルを更新する。
第 11 回	英文によるサマリーの執筆	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第 12 回	研究報告 1	3 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 13 回	研究報告 2	2 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 14 回	研究報告 3	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> コミュニティ政策論
< 研究テーマ> 都市内分権 (特に日本とドイツ)、自治会・町内会の研究
< 主要研究業績>
編著『コミュニティの自治』(日本評論社、2009 年) 単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法―― civil の思想と制度』日本評論社、 2018 年、257 ~287 頁。
単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性 ―宮崎市の地域自治区制度の 運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1 ~88 頁。 単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望 ~高松市を素材として ~」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57 ~104 頁。

【Outline (in English)】
This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/fer own research project at least once a semester. which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 － 003

公共政策学特殊研究２Ａ

谷本　有美子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士後期課程 2 年目の院生を対象とする。院生は、自ら博士論文の研究材料を獲得・蓄積した上で、教員の指導と演習を通して論理的思考力を高めつつ、研究テーマに関わる素材の分析・考察をすすめ、論文のフレームを構築する。

【到達目標】
・文献調査を通じ考察に必要な知見を獲得する
・現地調査等により分析に必要なデータを収集し、蓄積する
・論理的思考力を高める
・博士論文の章立てを形成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。
院生の研究関心や調査研究の成果等についての報告を受けながら、研究の進捗に応じて博士論文執筆に必要な指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。
発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究構想の洗練	1 年次に予定した構想案について教員と討議しながら、ブラッシュアップする
第 2 回	研究スケジュールの作成	春学期の研究スケジュールを作成する
第 3 回	研究の推進 (1)	構想案に沿って研究作業を進める
第 4 回	研究の推進 (2)	構想案に沿って研究作業を進める
第 5 回	研究の推進 (3)	構想案に沿って研究作業を進める
第 6 回	研究の経過報告と討議（1）	研究作業で獲得した内容を報告し、教員と討議を行う
第 7 回	研究の推進 (4)	構想案に沿って研究作業を進める
第 8 回	研究の推進 (5)	構想案に沿って研究作業を進める
第 9 回	研究の推進 (6)	構想案に沿って研究作業を進める
第 10 回	研究の経過報告と討議（2）	研究作業で獲得した内容を報告し、教員と討議を行う
第 11 回	研究の推進 (7)	構想案に沿って研究作業を進める
第 12 回	研究の推進 (8)	構想案に沿って研究作業を進める
第 13 回	研究の推進 (9)	構想案に沿って研究作業を進める
第 14 回	研究の経過報告と討議（3）	研究作業で獲得した内容を報告し、教員と討議を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生自身が設定したテーマに即し、自主的に研究課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究状況の報告 70%、討議への参加姿勢 30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治、市民自治
＜研究テーマ＞中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制
＜主要研究業績＞
『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』（2019）公人の友社
「『透明性』・『誠実性』・『戦術性』－“転職”を迫られる地方公務員」(2001)『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい
「国による『上から』の自治体統制の持続と変容」（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会
「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢　人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】
For graduate students in the second year of doctoral course. Graduate students acquire the research materials themselves, improve the skill of logical thinking through the guidance and exercises of faculty members, and frame construction of doctoral dissertations while analyzing and considering material.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. To acquire the knowledge necessary for consideration through literature research
-B. To collect and accumulate data necessary for analysis through field surveys, etc.
-C. To improve logical thinking ability
-D. To form a chapter for a doctoral dissertation
Students will be expected to work on research subjects voluntarily according to the theme set by the graduate students themselves.
Your overall grade will be decided based on the following
Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 － 004

公共政策学特殊研究２Ｂ

谷本　有美子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士後期課程 2 年目の院生を対象とする。院生は、自ら博士論文の研究材料を獲得・蓄積した上で、教員の指導と演習を通して論理的思考力を高めつつ、研究テーマに関わる素材の分析・考察を進め、論文のフレームを構築する。

【到達目標】
・文献調査を通じ考察に必要な知見を獲得する
・現地調査等により分析に必要なデータを収集し、蓄積する
・論理的思考力を高める
・博士論文において章に相当する程度の小論文を執筆する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。
院生が獲得した研究成果についての報告を受けながら、研究の進捗に応じて、博士論文執筆に必要な指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	夏季休暇中研究成果の確認と構想案の検討	夏季休業中に獲得した研究成果や知見を確認し、構想案を再検討する
第 2 回	研究の推進 (1)	構想案に沿って研究作業を進める
第 3 回	研究の推進 (2)	構想案に沿って研究作業を進める
第 4 回	研究の推進 (3)	構想案に沿って研究作業を進める
第 5 回	研究の推進 (4)	構想案に沿って研究作業を進める
第 6 回	研究の経過報告と討議 (1)	研究作業で獲得した内容を報告し、教員と討議を行う
第 7 回	研究の推進 (5)	構想案に沿って研究作業を進める
第 8 回	研究の推進 (6)	構想案に沿って研究作業を進める
第 9 回	研究の推進 (7)	構想案に沿って研究作業を進める
第 10 回	研究の推進 (8)	構想案に沿って研究作業を進める
第 11 回	研究の経過報告と討議 (2)	研究作業で獲得した内容を報告し、教員と討議を行う
第 12 回	章立ての検討 (1)	ここまでの研究成果を軸に教員と討議し、論文の章立てを検討する
第 13 回	章立ての検討 (2)	ここまでの研究成果を軸に教員と討議し、論文の章立てを検討する
第 14 回	2 年次の総括と 3 年次の研究作業・執筆計画の検討	2 年次に獲得した研究成果を踏まえ、3 年次に追加する研究作業と執筆計画を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生自身が設定したテーマに即して、自主的に研究課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究状況の報告 70 %、討議への参加姿勢 30 %の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治、市民自治
＜研究テーマ＞中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制
＜主要研究業績＞
『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』（2019）公人の友社
「『透明性』・『誠実性』・『戦術性』 － “転職” を迫られる地方公務員」(2001)『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい
「国による『上から』の自治体統制の持続と変容」（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会
「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢　人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】
For graduate students in the second year of doctoral course. Graduate students acquire the research materials themselves, improve the skill of logical thinking through the guidance and exercises of faculty members, and frame construction of doctoral dissertations while analyzing and considering material.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. To acquire the knowledge necessary for consideration through the literature research
-B. To collect and accumulate data necessary for analysis through field surveys, etc.
-C. To improve logical thinking ability
-D. To write a chapter-equivalent essay in your dissertation
Students will be expected to work on research subjects voluntarily according to the theme set by the graduate students themselves.
Your overall grade will be decided based on the following Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 － 003

公共政策学特殊研究２Ａ

中筋　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】
博士論文につながる学会投稿論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。履修生ごとに個別指導する他、全履修生による文献講読演習を月 1 回程度行う。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	履修者の顔合わせ	各自の論文テーマの発表
2	1 人目の個別指導 1	論文構想の検討
3	2 人目の個別指導 1	論文構想の検討
4	3 人目の個別指導 1	論文構想の検討
5	文献講読演習 1	専門文献の講読と討論
6	1 人目の個別指導 2	先行研究の検討
7	2 人目の個別指導 2	先行研究の検討
8	3 人目の個別指導 2	先行研究の検討
9	文献講読演習 2	専門文献の講読と討論
10	1 人目の個別指導 3	データ分析の検討
11	2 人目の個別指導 3	データ分析の検討
12	3 人目の個別指導 3	データ分析の検討
13	文献講読演習 3	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の到達度の確認と合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房.

【参考書】
文献講読演習にて指示する

【成績評価の方法と基準】
指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが成績評価の条件。研究計画通り研究を進められれば C、文献講読演習等において貢献すれば B、学会査読論文など成果を挙げれば A、その内容が学術的に顕著なものであれば A+、とする。

【学生の意見等からの気づき】
より専門性の高い指導を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉上記教科書、『群衆の居場所』(2005, 新曜社)

【Outline (in English)】
(Course outline)This seminar aims to prepare student's doctoral thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)The goals of this lecture are the second step of writing the doctoral thesis.
(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,
(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

SOS700P1 － 004

公共政策学特殊研究２Ｂ

中筋　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】
博士論文につながる学会投稿論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。履修生ごとに個別指導する他、全履修生による文献講読演習を月 1 回程度行う。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献講読演習 4	専門文献の講読と討論
2	1 人目の個別指導 4	論文構成の確認
3	2 人目の個別指導 4	論文構成の確認
4	3 人目の個別指導 4	論文構成の確認
5	文献講読演習 5	専門文献の講読と討論
6	1 人目の個別指導 5	結論の確認
7	2 人目の個別指導 5	結論の確認
8	3 人目の個別指導 5	結論の確認
9	文献講読演習 6	専門文献の講読と討論
10	1 人目の個別指導 6	政策提言の確認
11	2 人目の個別指導 6	政策提言の確認
12	3 人目の個別指導 6	政策提言の確認
13	文献講読演習 7	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の到達度の確認と合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房.

【参考書】
文献講読演習にて指示する

【成績評価の方法と基準】
指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが成績評価の条件。研究計画通り研究を進められれば C、文献講読演習等において貢献すれば B、学会査読論文など成果を挙げれば A、その内容が学術的に顕著なものであれば A+、とする。

【学生の意見等からの気づき】
より専門性の高い指導を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉上記教科書、『群衆の居場所』(2005, 新曜社)

【Outline (in English)】
(Course outline)This seminar aims to prepare student's doctoral thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)The goals of this lecture are the second step of writing the doctoral thesis.
(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,
(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

SOS700P1 － 005

公共政策学特殊研究３Ａ

杉崎　和久

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士論文指導科目として，博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について，個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】
都市政策に関する専門知識や高度な研究方法，論文執筆の力を体得し，最終的に博士論文を作成することを目標とする。特に３年春学期は、博士論文本論執筆に向けて、学会論文等の投稿を行うこととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。
課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。
授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	春季休暇期間の進捗状況の報告をし、研究計画を検討する。
第 3.4 回	論文投稿の準備	学会等への論文投稿のための報告を行い、指導をする。
第 5.6 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 7.8 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第　9.10 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 11.12 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 13.14 回	ふりかえり	夏季休暇期間中の研究計画の検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
論文研究指導科目については，授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞都市計画、市民参加手法
＜研究テーマ＞公共的意思決定における市民参加のあり方、住民主体のまちづくりを支える支援システム、まちづくりの現代史
＜主要研究業績＞『住民主体の都市計画』(分担執筆) 学芸出版社、2009 年
「まちづくりセンターを取り巻く課題」『季刊まちづくり』2011 年 3 年
「参加のプロセスマネジメント」『地方自治職員研修』2013 年 9 月号

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60 %）,and reports（40 %）.

SOS700P1 － 006

公共政策学特殊研究３Ｂ

杉崎　和久

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士論文指導科目として，博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について，個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】
都市政策に関する専門知識や高度な研究方法，論文執筆の力を体得し，最終的に博士論文を作成する能力を獲得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。
課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。
授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	夏季休暇期間中の進捗状況の報告、今後の研究計画を検討する。
第 3.4 回	都市政策セミナー大学院生セッションの投稿	都市政策セミナー大学院生セッションに投稿する論文の確認をする。
第 5.6 回	博士論文執筆状況の報告	都市政策セミナー大学院生セッションにおける発表の練習をする。。
第 7.8 回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第 9.10 回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第 11.12 回	博士論文の提出確認	博士論文の提出に向けた、作業報告を行い、指導をうける。
第 13.14 回	博士論文口述試験の準備	口述試験に向けた発表準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
論文研究指導科目については，授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞都市計画、市民参加手法
＜研究テーマ＞公共的意思決定における市民参加のあり方、住民主体のまちづくりを支える支援システム、まちづくりの現代史
＜主要研究業績＞『住民主体の都市計画』(分担執筆) 学芸出版社、2009 年
「まちづくりセンターを取り巻く課題」『季刊まちづくり』2011 年 3 年
「参加のプロセスマネジメント」『地方自治職員研修』2013 年 9 月号

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60 %）,and reports（40 %）.

SOS700P1 － 005

公共政策学特殊研究３Ａ

土山　希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の３年め春学期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。学生は、論文の完成を視野において執筆を進める。

【到達目標】
学生は、研究計画に沿って、論文構想に基づいて、論文執筆を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
　受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究計画と進捗の確認	執筆の完成に向けて、タスクを整理する
2- 6	先行研究、歴史的展開などの fact 部分の論述	執筆を進める
7-11	分析、考察部分の論述	執筆を進める
12 － 14	独自性の確認、補強	執筆を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
事前準備　50%、
報告と説明　50%

【学生の意見等からの気づき】
講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かす。

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】
Course outline;
This lecture is designed to develop of research activities in the spring semester of the 3rd year student of the doctor-course. Students proceed with their writing with a view to completing their dissertation.
Learning Objectives;
- The student proceeds with the thesis concept in accordance with the research plan.
Learning activities outside of classroom;
Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis
Grading Criteria /Policy;
Advance preparation 50%.
Report and presentation 50%.

SOS700P1 － 006

公共政策学特殊研究３Ｂ

土山　希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士後期課程３年次向けの論文指導科目として，博士論文の完成を図る。

【到達目標】
本講義の到達目標は以下である：
・秋学期の早い時期に博士論文の第一稿を提出する
・必要な修正を行い、博士論文を完成させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
　受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	論文第一稿の検討、修正点の確認	全体を通読し、審査委員会の指摘も踏まえ、必要な修正点を確認する
3-7	修正作業を進める	博士論文第一稿の修正作業を進める
8	論文修正稿の検討、追加修正や補完点の確認	全体を通読し、審査委員会の指摘を踏まえ、必要な修正や補完点を確認する
9- 13	修正作業を進める	修正作業を進める
14	完成原稿の確認	博士論文の完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
博士論文の第一稿から完成までの内容　100%

【学生の意見等からの気づき】
講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かす

【担当教員の専門分野】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】
Course outline;
This lecture is designed to develop of research activities in the autumn semester of the 3rd year student of the doctor-course. Students are expected to complete a doctor thesis.
Learning Objectives;
- Students submit the first draft of their doctor thesis early in the autumn term.
- The student completes the doctoral thesis by making revisions to the submitted draft.
Learning activities outside of classroom;
Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their doctor thesis

SOS700P1 － 005

公共政策学特殊研究３Ａ

名和田　是彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 3 年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

【到達目標】
院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第 3 回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第 4 回	研究報告 1	3 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 5 回	研究報告 2	2 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 6 回	研究報告 3	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究計画の作成	これまでの研究を振り返り、3 年目の研究計画を定める。
第 8 回	先行研究の整理	先行研究のレビューを完成させる。
第 9 回	現地調査の整理 1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第 10 回	現地調査の整理 2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第 11 回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。
第 12 回	研究報告 4	3 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 13 回	研究報告 5	2 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 14 回	研究報告 6	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> コミュニティ政策論
< 研究テーマ> 都市内分権 (特に日本とドイツ)、自治会・町内会の研究、地域集会施設の研究。
< 主要研究業績>
編著『コミュニティの自治』(日本評論社、2009 年) 単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法―― civil の思想と制度』日本評論社、 2018 年、257 ~287 頁。単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性 ―宮崎市の地域自治区制度の 運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1 ~88 頁。 単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望 ~高松市を素材として ~」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57 ~104 頁。

【Outline (in English)】
This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/fer own research project at least once a semester. which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 － 006

公共政策学特殊研究３Ｂ

名和田　是彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 3 年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

【到達目標】
院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	章立てに沿った執筆 1	執筆を進める。
第 3 回	章立てに沿った執筆 2	執筆した原稿の推敲を進める。
第 4 回	文献報告 1	3 年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 5 回	文献報告 2	2 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 6 回	文献報告 3	1 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第 8 回	理論枠組みの明確化	論文の理論枠組みを深める。
第 9 回	論文のオリジナリティの明確化	各自の研究における独自性について議論する。
第 10 回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第 11 回	英文によるサマリーの執筆	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第 12 回	研究報告 1	3 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 13 回	研究報告 2	2 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 14 回	研究報告 3	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> コミュニティ政策論
< 研究テーマ> 都市内分権 (特に日本とドイツ)、自治会・町内会の研究、地域集会施設の研究。
< 主要研究業績>
編著『コミュニティの自治』(日本評論社、2009 年) 単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法―― civil の思想と制度』日本評論社、 2018 年、257 ~287 頁。単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性 ―宮崎市の地域自治区制度の 運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1 ~88 頁。 単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望 ~高松市を素材として ~」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57 ~104 頁。

【Outline (in English)】
This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/fer own research project at least once a semester. which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student comp;etes his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 － 005

公共政策学特殊研究３Ａ

廣瀬　克哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士後期課程３年次向けの論文指導科目として，博士論文の完成に向けて研究のとりまとめを図る。

【到達目標】
春学期終了時に博士論文のおおよその完成を図り、夏期休暇中に完成稿のとりまとめと９月の論文提出を展望できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における博士論文の完成を目指す研究指導を行う。学生全員による演習方式で，研究課題の設定，方法論の選定，資料の収集・検討・分析について，参加者各自が自分の研究テーマについて予備作業をおこなったうえで授業において報告し，その報告を相互に検討することによって，博士論文に求められる研究能力の水準に到達することを目指す。あわせて，論文作成に関する個別指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	先行研究の整理の完了	確定した博士論文のテーマ設定と構成に照らして、必要な補完を施したうえで先行研究の整理を完了する。
第 2 回	研究の背景の整理	ここまでの調査、検討によって得られた知見も加味して、あらためて博士論文にとっての研究の背景を整理し文章化する。
第 3 回	実体的な章の組み込み構成を確定する	独立した章として前年度までに執筆してきた研究成果をとりまとめ、博士論文全体のなかに収めるにあたっての構成を確定する。
第 4 回	実体的な章の確定	実体的な章を博士論文のなかに収録して確定する。
第 5 回	総合的な検討	実体的な分析について、全体を通して振り返り、総合的な検討を行う。
第 6 回	意義と限界の確認	総合的な分析の結果の意義と限界を確認し、研究成果の積極的な意義を明示するとともに、限界を明確に検証したうえで、論文全体の防御線を確定する。
第 7 回	補論の検討と準備	分析結果の意義の積極的な説明や、限界についての検討を明示するために効果的と想定される補論を準備する。
第 8 回	補論の執筆	補論を執筆し、博士論文の適切な箇所に組み込む。
第 9 回	方法や枠組の確認	博士論文の分析方法や枠組についてメタレベルで検討して位置づけを確認する章を執筆する。
第 10 回	全体構成と論文各部の確認	全体構成と論文の各部分が完成形となり得る水準に到達していることを改めて確認し、足りない要素を補う。
第 11 回	得られた成果と残された課題の考察	ここまでの研究結果を振り返り、得られた成果と残された課題について考察し、整理する。
第 12 回	結論の章の完成	実体的な部分の第一稿をふまえて、博士論文全体を通しての結論を確定する。
第 13 回	序章の完成	実体的な部分の第一稿をふまえて、問題関心の説明と研究全体の意義を整理しながら序章を完成する。
第 14 回	得られた成果と残された課題の確認	博士論文の完成に向けて、得られた成果をとりまとめるとともに、残された課題を明示的に確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある分析枠組の渉猟と選定など、1 日平均数時間程度の研究時間が必要である。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当しない。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。
オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】
2022 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018 年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】
(Course outline) As a dissertation guidance class for the third year of the doctoral program, we will organize research toward the completion of the doctoral dissertation.
(Learning Objectives) To be ready to complete the dissertation research.
(Learning activities outside of classroom) A few hours a day.
(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS700P1 － 006

公共政策学特殊研究３Ｂ

廣瀬　克哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士後期課程３年次向けの論文指導科目として，博士論文の完成を図る。

【到達目標】
秋学期冒頭に博士論文を提出し、修正指示への対応を行いながら博士論文を最終的に完成し、確定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における博士論文の完成を目指す研究指導を行う。学生全員による演習方式で，研究課題の設定，方法論の選定，資料の収集・検討・分析について，参加者各自が自分の研究テーマについて予備作業をおこなったうえで授業において報告し，その報告を相互に検討することによって，博士論文に求められる研究能力の水準に到達することを目指す。あわせて，論文作成に関する個別指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文各部の確認	梗概、文献リストや注、付属資料など本文以外の部分も含めた論文各部の完成を確認する。
第 2 回	提出稿の完成	博士論文の提出稿を完成させる。
第 3 回	提出版の報告	博士論文提出版について口頭で報告を行い、講評を受ける。
第 4 回	修正指示の整理	審査委員会からの修正指示を整理、検討する。
第 5 回	修正指示への対応方法の検討	修正指示への対応方法について具体的に検討し、作業計画をたてる。
第 6 回	修正指示への対応	修正指示への対応作業をおこなう。
第 7 回	第一修正稿の検討	修正指示に対応した第一修正稿の仕上げ方を検討する。
第 8 回	第一修正稿の完成	第一修正稿を完成させる。
第 9 回	第二次修正指示の整理	審査委員会からの二次的な修正指示を整理する。
第 10 回	第二次修正指示への対応	第二次の修正指示への対応作業をおこなう。
第 11 回	第二修正稿の検討	修正指示に対応した第二修正稿の仕上げ方を検討する。
第 12 回	第二修正稿の完成	第二修正稿を完成させる。
第 13 回	公表手段の構想	完成した博士論文の、審査修了後の公表手段を構想し、必要に応じて論文投稿の予定の確認や、出版助成申請の準備を進める。
第 14 回	公開審査、口述試験への対応	博士論文審査の公開審査、口述試験への対応を準備する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
提出〆切に合わせた博士論文の完成と、審査過程での修正指示への対応など。1 日平均数時間程度。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当しない。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。
オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】
2022 年度は対面を基本とすることを予定しているが，状況により，また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018 年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】
（Course outline）As a dissertation guidance class for the third year of the doctoral program, we will organize research toward the completion of the doctoral dissertation.
（Learning Objectives）To complete the dissertation research.
（Learning activities outside of classroom）A few hours a day.
（Grading Criteria /Policy）The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS700P1 － 005

公共政策学特殊研究３Ａ

渕元　初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 3 年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

【到達目標】
院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第 3 回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第 4 回	研究報告 1	3 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 5 回	研究報告 2	2 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 6 回	研究報告 3	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究計画の作成	これまでの研究を振り返り、3 年目の研究計画を定める。
第 8 回	先行研究の整理	先行研究のレビューを完成させる。
第 9 回	現地調査の整理 1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第 10 回	現地調査の整理 2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第 11 回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。
第 12 回	研究報告 4	3 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 13 回	研究報告 5	2 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 14 回	研究報告 6	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS700P1 － 006

公共政策学特殊研究３Ｂ

渕元　初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 3 年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

【到達目標】
院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	章立てに沿った執筆 1	執筆を進める。
第 3 回	章立てに沿った執筆 2	執筆した原稿の推敲を進める。
第 4 回	文献報告 1	3 年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 5 回	文献報告 2	2 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 6 回	文献報告 3	1 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第 8 回	理論枠組みの明確化	論文の理論枠組みを深める。
第 9 回	論文のオリジナリティの明確化	各自の研究における独自性について議論する。
第 10 回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第 11 回	英文によるサマリーの執筆	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第 12 回	研究報告 1	3 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 13 回	研究報告 2	2 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 14 回	研究報告 3	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS700P1 － 005

公共政策学特殊研究３Ａ

池田　寛二

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程 3 年次以上を対象に博士論文完成に向けた最終的な指導を行う。

【到達目標】
受講生に博士論文を完成させることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士論文の執筆に即して学際性と専門性のバランスに配慮しながら指導する。原則として、1 回に 1 人その都度の執筆の進展に応じた報告をさせ、それにもとづいて討論を織り交ぜながら指導する。各回の報告に応じて次回の課題を指示し、その都度フィードバックしながら博論の完成に近づける。原則、対面で授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	各自の研究の進捗状況とスケジュールの確認
第 2 回	演習	院生の報告と討論
第 3 回	演習	院生の報告と討論
第 4 回	演習	院生の報告と討論
第 5 回	演習	院生の報告と討論
第 6 回	演習	院生の報告と討論
第 7 回	演習	院生の報告と討論
第 8 回	演習	院生の報告と討論
第 9 回	演習	院生の報告と討論
第 10 回	演習	院生の報告と討論
第 11 回	演習	院生の報告と討論
第 12 回	演習	院生の報告と討論
第 13 回	演習	院生の報告と討論
第 14 回	演習	院生の報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究の進捗状況に応じて適宜指示する。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
各自の博士論文に向けた研究内容の報告（40 %）と博士論文に向けた研究の到達レベルを示す最終レポート（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの結果は随時参考にしながら指導に活かす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、社会学理論、東南アジア地域研究
＜研究テーマ＞環境・エネルギー政策、地域政策
＜主要研究業績＞池田ほか編著，2012『環境をめぐる公共圏のダイナミズム』（法政大学出版局）等。

【Outline (in English)】
Supervising to complete doctoral dissertation for over third year students of the doctoral program. Grading will be decided based on contents of presentation of each student (40%), and the final report showing the progress of research toward doctoral dissertation(60%).

SOS700P1 － 006

公共政策学特殊研究３Ｂ

池田　寛二

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程 3 年次以上の院生を対象に博士論文完成に向けた最終的な指導を実施する。

【到達目標】
博士論文を完成させ博士の学位授与を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
原則として、1 回に 1 人その都度の論文執筆の進展に応じた報告をさせ、それにもとづいて討論を織り交ぜながら指導する。各回の報告に応じて次回の課題を指示し、その都度フィードバックしながら博論を完成をさせる。原則、対面で授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	各自の研究の進捗状況とスケジュールの確認
第 2 回	演習	院生の報告と討論
第 3 回	演習	院生の報告と討論
第 4 回	演習	院生の報告と討論
第 5 回	演習	院生の報告と討論
第 6 回	演習	院生の報告と討論
第 7 回	演習	院生の報告と討論
第 8 回	演習	院生の報告と討論
第 9 回	演習	院生の報告と討論
第 10 回	演習	院生の報告と討論
第 11 回	演習	院生の報告と討論
第 12 回	演習	院生の報告と討論
第 13 回	演習	院生の報告と討論
第 14 回	演習	院生の報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究の進捗状況に応じて適宜指示する。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
各自の博士論文に向けた研究内容の報告（40 %）と博士論文に向けた研究の到達レベルを示す最終レポート（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの結果は随時参考にしながら指導に活かす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、社会学理論、東南アジア地域研究
＜研究テーマ＞環境・エネルギー政策、地域政策
＜主要研究業績＞池田ほか編著，2012『環境をめぐる公共圏のダイナミズム』（法政大学出版局）等。

【Outline (in English)】
Supervising to complete doctoral dissertation for over third year students of the doctoral program. Grading will be decided based on contents of presentation of each student (40%), and the final report showing the progress of research toward doctoral dissertation(60%).

SOS700P1 － 005

公共政策学特殊研究３Ａ

糸久　正人

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文は概ね３本の学術論文から構成されます。本講義では、学術論文を書くためのアカデミックな作法を学び、ディスカッションを通じて研究のブラッシュアップを行います。最終的なゴールは、博士論文を完成させることです。

【到達目標】
・学術論文を書けるようになること
・学会発表を行えるようになること
・博士論文を完成させること
・研究者として自立すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回、論文の進捗状況について報告し、必要な論点について議論します。議論の内容をもとに、調査分析を進めてください。講義の最後にフィードバックを行います。なお。講義は原則対面で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学問研究の観点から博士論文の意味を考えます。
第 2 回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第 3 回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第 4 回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第 5 回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第 6 回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第 7 回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第 8 回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第 9 回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第 10 回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第 11 回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第 12 回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第 13 回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第 14 回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。

【参考書】
必要に応じて指定します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
Technology & Innovation Management
Operation Management
＜研究テーマ＞
集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象とした IoT 化に伴う技術ベースの変遷に関する研究
日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究
＜主要研究業績＞

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争： IoT 化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』
糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』
Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” International Journal of Automotive Technology and Management.
公文溥・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業―日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社.
糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』
糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』
Oleijniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” Journal of Management and Business Administration, vol.25, No.2.
糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』
富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社
糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】
The dissertation usually consists of 3 academic papers. This seminar provides you with how to write an academic paper, then brush up on your research through continuous discussions. The final goal is to complete your dissertation. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2)short reports 50%.

SOS700P1 － 006

公共政策学特殊研究３Ｂ

糸久　正人

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文は概ね３本の学術論文から構成されます。本講義では、学術論文を書くためのアカデミックな作法を学び、ディスカッションを通じて研究のブラッシュアップを行います。最終的なゴールは、博士論文を完成させることです。

【到達目標】
・学術論文を書けるようになること
・学会発表を行えるようになること
・博士論文を完成させること
・研究者として自立すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文の進捗状況を報告すること、必要な論点について議論すること、議論の結果を元に再度調べて報告すること、この繰り返しです。講義の最後にフィードバックを行います。なお。講義は原則対面で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の現在の進捗状況について報告する。	報告と討論。
第 2 回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第 3 回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第 4 回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第 5 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 6 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 7 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 8 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 9 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 10 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 11 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 12 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 13 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 14 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはなし。

【参考書】
討論の中で必要な文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
Technology & Innovation Management
Operation Management
＜研究テーマ＞
集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象とした IoT 化に伴う技術ベースの変遷に関する研究
日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究
＜主要研究業績＞
糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争： IoT 化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』
糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』
Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” International Journal of Automotive Technology and Management.
公文溥・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業―日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社.
糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』
糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』
Oleijniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” Journal of Management and Business Administration, vol.25, No.2.
糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』
富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社
糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】
The dissertation usually consists of 3 academic papers. This seminar provides you with how to write an academic paper, then brush up on your research through continuous discussions. The final goal is to complete your dissertation. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2)short reports 50%.

SOS700P1 － 005

公共政策学特殊研究３Ａ

加藤　寛之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を作成することが受講生の課題である。博士論文の中間報告について討論しながら作成する。
4 月 21 日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】
到達目標は大学院生が論文を作成することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文の進捗状況を報告すること、必要な論点について議論すること、議論の結果を元に再度調べて報告すること、この繰り返しです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の現在の進捗状況について報告する。	報告と討論。
第 2 回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第 3 回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第 4 回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第 5 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 6 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 7 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 8 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 9 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 10 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 11 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 12 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 13 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 14 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究を着実に行うこと。

【テキスト（教科書）】
テキストはなし。

【参考書】
討論の中で必要な文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、論文の進捗状況と討論への参加をもとに行います。
成績評価は出席 40 %と議論への参加 40 %、論文進捗状況 20 %で 100 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
各学生の研究テーマや研究の進展具合に応じて指導をカスタマイズしていきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論
＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
＜主要研究業績＞
「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）
「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
To publish your papers, you must understand research methods and you must make time for writing.
Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

SOS700P1 － 006

公共政策学特殊研究３Ｂ

加藤　寛之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文の作成を指導するのがこの講義の目的です。
4 月 21 日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】
到達目標は大学院生が論文を作成することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文の進捗状況を報告すること、必要な論点について議論すること、議論の結果を元に再度調べて報告すること、この繰り返しです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の現在の進捗状況について報告する。	報告と討論。
第 2 回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第 3 回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第 4 回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第 5 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 6 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 7 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 8 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 9 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 10 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 11 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 12 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 13 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 14 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究を着実に行うこと。

【テキスト（教科書）】
テキストはなし。

【参考書】
討論の中で必要な文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、論文の進捗状況と討論への参加をもとに行います。
成績評価は出席 40 %と議論への参加 40 %、論文進捗状況 20 %で 100 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
各学生の研究テーマや研究の進展具合に応じて指導をカスタマイズしていきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論
＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
＜主要研究業績＞
「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）
「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
To hand in your doctoral paper,you must make time for writing.We brush up your paper many times.
Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.
Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.
Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)
Content of the final submission (30%)

SOS700P1 － 006

公共政策学特殊研究３Ｂ

加藤　寛之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文の作成を指導するのがこの講義の目的です。
4 月 21 日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】
到達目標は大学院生が論文を作成することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文の進捗状況を報告すること、必要な論点について議論すること、議論の結果を元に再度調べて報告すること、この繰り返しです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の現在の進捗状況について報告する。	報告と討論。
第 2 回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第 3 回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第 4 回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第 5 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 6 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 7 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 8 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 9 回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第 10 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 11 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 12 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 13 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第 14 回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究を着実に行うこと。

【テキスト（教科書）】
テキストはなし。

【参考書】
討論の中で必要な文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、論文の進捗状況と討論への参加をもとに行います。
成績評価は出席 40 %と議論への参加 40 %、論文進捗状況 20 %で 100 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
各学生の研究テーマや研究の進展具合に応じて指導をカスタマイズしていきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論
＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
＜主要研究業績＞
「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）
「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
To hand in your doctoral paper,you must make time for writing.We brush up your paper many times.
Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.
Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

SOS700P1 － 005

公共政策学特殊研究３Ａ

白鳥　浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】
公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの設定	同左
2 回	研究テーマの基礎的理解	同左
3 回	研究テーマの標準的理解	同左
4 回	研究テーマの高度な理解	同左
5 回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6 回	論文作成の基礎的技法	同左
7 回	論文作成の標準的技法	同左
8 回	論文報告のレジュメの作成	同左
9 回	先行研究の基礎的検討	同左
10 回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11 回	先行研究の整理	同左
12 回	研究テーマの意義の確認	同左
13 回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14 回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、１年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に１本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００％。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 － 006

公共政策学特殊研究３Ｂ

白鳥　浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】
公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの設定	同左
2 回	研究テーマの基礎的理解	同左
3 回	研究テーマの標準的理解	同左
4 回	研究テーマの高度な理解	同左
5 回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6 回	論文作成の基礎的技法	同左
7 回	論文作成の標準的技法	同左
8 回	論文報告のレジュメの作成	同左
9 回	先行研究の基礎的検討	同左
10 回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11 回	先行研究の整理	同左
12 回	研究テーマの意義の確認	同左
13 回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14 回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、１年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に１本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００％。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 － 005

公共政策学特殊研究３Ａ

中筋　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】
博士論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。履修生ごとに個別指導する他、全履修生による文献講読演習を月 1 回程度行う。提出物には個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	履修者の顔合わせ	各自の博士論文構想の発表
2	1 人目の個別指導 1	論文テーマの検討
3	2 人目の個別指導 1	論文テーマの検討
4	3 人目の個別指導 1	論文テーマの検討
5	文献講読演習 1	専門文献の講読と討論
6	1 人目の個別指導 2	論文構成の検討
7	2 人目の個別指導 2	論文構成の検討
8	3 人目の個別指導 2	論文構成の検討
9	文献講読演習 2	専門文献の講読と討論
10	1 人目の個別指導 3	文献調査の検討
11	2 人目の個別指導 3	文献調査の検討
12	3 人目の個別指導 3	文献調査の検討
13	文献講読演習 3	専門文献の講読と討論
14	全員演習	博論中間報告会原稿の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房.

【参考書】
文献講読演習にて指示する

【成績評価の方法と基準】
指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが成績評価の条件。研究計画通り研究を進められれば C、文献講読演習等において貢献すれば B、学会査読論文など成果を挙げれば A、その内容が学術的に顕著なものであれば A+、とする。

【学生の意見等からの気づき】
より専門性の高い指導を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉上記教科書、『群衆の居場所』(2005, 新曜社)

【Outline (in English)】
(Course outline)This seminar aims to prepare student's doctoral thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)The goals of this lecture are the final step of writing the doctoral thesis.
(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,
(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

SOS700P1 － 006

公共政策学特殊研究３Ｂ

中筋　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】
博士論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」に特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。履修生ごとに個別指導する他、全履修生による文献講読演習を月 1 回程度行う。提出物には個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献講読演習 4	専門文献の講読と討論
2	1 人目の個別指導 4	データ分析の検討
3	2 人目の個別指導 4	データ分析の検討
4	3 人目の個別指導 4	データ分析の検討
5	文献講読演習 5	専門文献の講読と討論
6	1 人目の個別指導 5	結論の検討
7	2 人目の個別指導 5	結論の検討
8	3 人目の個別指導 5	結論の検討
9	文献講読演習 6	専門文献の講読と討論
10	1 人目の個別指導 6	政策提言の検討
11	2 人目の個別指導 6	政策提言の検討
12	3 人目の個別指導 6	政策提言の検討
13	文献講読演習 7	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の博士論文の合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房.

【参考書】
文献講読演習にて指示する

【成績評価の方法と基準】
指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが成績評価の条件。研究計画通り研究を進めて博士論文完成までの目処がつけば C、博士論文を完成できれば B、論文の内容が学術的に優れていれば A、とくに優れていれば A+、とする。

【学生の意見等からの気づき】
より専門性の高い指導を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉上記教科書、『群衆の居場所』(2005, 新曜社)

【Outline (in English)】
(Course outline)This seminar aims to prepare student's doctoral thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)The goals of this lecture are the final step of writing the doctoral thesis.
(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,
(Grading Criteria /Policy)doctoral thesis:100%.

POL700P1 － 101

公共政策ワークショップ（公共）１Ａ

渕元　初姫

備考（履修条件等）：**隔週授業**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共マネジメントコースの全教員による集団的論文研究指導の科目であることから、いつも指導を受けている指導教員以外の教員やそのほかの院生などからのコメントをもらい、博士論文の完成に向けて、作業を進める。

【到達目標】
１年目については、テーマの決定と論文構想の大枠にたどり着くことが目標となろう。少なくとも１章分については、執筆をはじめることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
院生の報告に対して、参加院生との質疑、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評、という方法で進めることによってフィードバックを行う。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	院生 1 の報告	院生 1 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 2 回	院生 2 の報告	院生 2 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 3 回	院生 3 の報告	院生 3 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 4 回	院生 4 の報告	院生 4 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 5 回	院生 5 の報告	院生 5 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 6 回	院生 6 の報告	院生 6 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 7 回	院生 7 の報告	院生 7 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 8 回	院生 8 の報告	院生 8 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 9 回	院生 9 の報告	院生 9 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 10 回	院生 10 の報告	院生 10 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 11 回	院生 11 の報告	院生 11 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 12 回	院生 12 の報告	院生 12 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 13 回	院生 13 の報告	院生 13 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 14 回	院生 14 の報告	院生 14 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容（60%）及びワークショップでの質疑や討論における発言（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっています。OB として参加する博士号取得者も増えてきており、論文執筆に際する体験談なども交えながら研究をバックアップしてくれています。

【担当教員の専門分野等】
【渕元初姫】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
All PhD students in Public Management are required to attend this compulsory course.
A series of workshops encourage doctoral students to reflect on the wider context of their research, publishing their research and preparing for the viva voce exam. Discussion with tutors and fellow students will stimulate you to think critically about societal issues.
Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

POL700P1 － 102

公共政策ワークショップ（公共）１Ｂ

渕元　初姫

備考（履修条件等）：**隔週授業**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共マネジメントコースの全教員による集団的論文研究指導の科目であることから、いつも指導を受けている指導教員以外の教員やそのほかの院生などからのコメントをもらい、博士論文の完成に向けて、作業を進める。

【到達目標】
１年目の秋学期については、テーマの決定と論文構想の大枠にたどり着き、洗練させることが目標となろう。少なくとも１章分については、執筆をはじめることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
院生の報告に対して、参加院生との質疑、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評、という方法で進めることによってフィードバックを行う。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	院生 1 の報告	院生 1 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 2 回	院生 2 の報告	院生 2 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 3 回	院生 3 の報告	院生 3 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 4 回	院生 4 の報告	院生 4 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 5 回	院生 5 の報告	院生 5 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 6 回	院生 6 の報告	院生 6 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 7 回	院生 7 の報告	院生 7 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 8 回	院生 8 の報告	院生 8 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 9 回	院生 9 の報告	院生 9 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 10 回	院生 10 の報告	院生 10 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 11 回	院生 11 の報告	院生 11 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 12 回	院生 12 の報告	院生 12 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 13 回	院生 13 の報告	院生 13 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 14 回	院生 14 の報告	院生 14 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容（60%）及びワークショップでの質疑や討論における発言（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっています。OB として参加する博士号取得者も増えてきており、論文執筆に際する体験談なども交えながら研究をバックアップしてくれています。

【担当教員の専門分野等】
【渕元初姫】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
All PhD students in Public Management are required to attend this compulsory course.
A series of workshops encourage doctoral students to reflect on the wider context of their research, publishing their research and preparing for the viva voce exam. Discussion with tutors and fellow students will stimulate you to think critically about societal issues.
Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

POL700P1 － 103

公共政策ワークショップ（公共）２Ａ

渕元　初姫

備考（履修条件等）：**隔週授業**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共マネジメントコースの全教員による集団的論文研究指導の科目であることから、いつも指導を受けている指導教員以外の教員やそのほかの院生などからのコメントをもらい、博士論文の完成に向けて、作業を進める。

【到達目標】
2 年目については、テーマの決定と論文構想の大枠にたどり着くことが目標となろう。少なくとも複数章分について、執筆をいていることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
院生の報告に対して、参加院生との質疑、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評、という方法で進めることによってフィードバックを行う。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	院生 1 の報告	院生 1 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 2 回	院生 2 の報告	院生 2 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 3 回	院生 3 の報告	院生 3 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 4 回	院生 4 の報告	院生 4 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 5 回	院生 5 の報告	院生 5 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 6 回	院生 6 の報告	院生 6 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 7 回	院生 7 の報告	院生 7 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 8 回	院生 8 の報告	院生 8 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 9 回	院生 9 の報告	院生 9 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 10 回	院生 10 の報告	院生 10 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 11 回	院生 11 の報告	院生 11 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 12 回	院生 12 の報告	院生 12 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 13 回	院生 13 の報告	院生 13 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 14 回	院生 14 の報告	院生 14 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容（60%）及びワークショップでの質疑や討論における発言（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっています。OB として参加する博士号取得者も増えてきており、論文執筆に際する体験談なども交えながら研究をバックアップしてくれています。

【担当教員の専門分野等】
【渕元初姫】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
All PhD students in Public Management are required to attend this compulsory course.
A series of workshops encourage doctoral students to reflect on the wider context of their research, publishing their research and preparing for the viva voce exam. Discussion with tutors and fellow students will stimulate you to think critically about societal issues.
Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

POL700P1 － 104

公共政策ワークショップ（公共）２Ｂ

渕元　初姫

備考（履修条件等）：**隔週授業**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共マネジメントコースの全教員による集団的論文研究指導の科目であることから、いつも指導を受けている指導教員以外の教員やそのほかの院生などからのコメントをもらい、博士論文の完成に向けて、作業を進める。

【到達目標】
2 年目については、テーマの決定と論文構想の大枠にたどり着き、それをさらに洗練させながら、少なくとも複数章分について、執筆していることが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
院生の報告に対して、参加院生との質疑、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評、という方法で進めることによってフィードバックを行う。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	院生 1 の報告	院生 1 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 2 回	院生 2 の報告	院生 2 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 3 回	院生 3 の報告	院生 3 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 4 回	院生 4 の報告	院生 4 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 5 回	院生 5 の報告	院生 5 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 6 回	院生 6 の報告	院生 6 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 7 回	院生 7 の報告	院生 7 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 8 回	院生 8 の報告	院生 8 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 9 回	院生 9 の報告	院生 9 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 10 回	院生 10 の報告	院生 10 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 11 回	院生 11 の報告	院生 11 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 12 回	院生 12 の報告	院生 12 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 13 回	院生 13 の報告	院生 13 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 14 回	院生 14 の報告	院生 14 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容（60%）及びワークショップでの質疑や討論における発言（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっています。OB として参加する博士号取得者も増えてきており、論文執筆に際する体験談なども交えながら研究をバックアップしてくれています。

【担当教員の専門分野等】
【渕元初姫】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
All PhD students in Public Management are required to attend this compulsory course.
A series of workshops encourage doctoral students to reflect on the wider context of their research, publishing their research and preparing for the viva voce exam. Discussion with tutors and fellow students will stimulate you to think critically about societal issues.
Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

POL700P1 － 105

公共政策ワークショップ（公共）３Ａ

渕元　初姫

備考（履修条件等）：**隔週授業**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共マネジメントコースの全教員による集団的論文研究指導の科目であることから、いつも指導を受けている指導教員以外の教員やそのほかの院生などからのコメントをもらい、博士論文の完成に向けて、作業を進める。

【到達目標】
３年目については、博士論文全体の完成を目ざす。翌年の３月修了のためには、９月末までが提出期限となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
院生の報告に対して、参加院生との質疑、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評、という方法で進めることによってフィードバックを行う。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	院生 1 の報告	院生 1 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 2 回	院生 2 の報告	院生 2 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 3 回	院生 3 の報告	院生 3 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 4 回	院生 4 の報告	院生 4 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 5 回	院生 5 の報告	院生 5 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 6 回	院生 6 の報告	院生 6 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 7 回	院生 7 の報告	院生 7 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 8 回	院生 8 の報告	院生 8 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 9 回	院生 9 の報告	院生 9 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 10 回	院生 10 の報告	院生 10 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 11 回	院生 11 の報告	院生 11 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 12 回	院生 12 の報告	院生 12 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 13 回	院生 13 の報告	院生 13 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 14 回	院生 14 の報告	院生 14 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容（60%）及びワークショップでの質疑や討論における発言（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっています。OB として参加する博士号取得者も増えてきており、論文執筆に際する体験談なども交えながら研究をバックアップしてくれています。

【担当教員の専門分野等】
【渕元初姫】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
All PhD students in Public Management are required to attend this compulsory course.
A series of workshops encourage doctoral students to reflect on the wider context of their research, publishing their research and preparing for the viva voce exam. Discussion with tutors and fellow students will stimulate you to think critically about societal issues.
Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

POL700P1 － 106

公共政策ワークショップ（公共）３Ｂ

渕元　初姫

備考（履修条件等）：**隔週授業**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共マネジメントコースの全教員による集団的論文研究指導の科目であることから、いつも指導を受けている指導教員以外の教員やそのほかの院生などからのコメントをもらい、博士論文の完成に向けて、作業を進める。

【到達目標】
３年目の秋学期は、順調にいけば、論文を提出しているため、公開審査会と口述試験のための準備となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
院生の報告に対して、参加院生との質疑、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評、という方法で進めることによってフィードバックを行う。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	院生 1 の報告	院生 1 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 2 回	院生 2 の報告	院生 2 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 3 回	院生 3 の報告	院生 3 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 4 回	院生 4 の報告	院生 4 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 5 回	院生 5 の報告	院生 5 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 6 回	院生 6 の報告	院生 6 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 7 回	院生 7 の報告	院生 7 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 8 回	院生 8 の報告	院生 8 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 9 回	院生 9 の報告	院生 9 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 10 回	院生 10 の報告	院生 10 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 11 回	院生 11 の報告	院生 11 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 12 回	院生 12 の報告	院生 12 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 13 回	院生 13 の報告	院生 13 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第 14 回	院生 14 の報告	院生 14 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容（60%）及びワークショップでの質疑や討論における発言（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっています。OB として参加する博士号取得者も増えてきており、論文執筆に際する体験談なども交えながら研究をバックアップしてくれています。

【担当教員の専門分野等】
【渕元初姫】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
All PhD students in Public Management are required to attend this compulsory course.
A series of workshops encourage doctoral students to reflect on the wider context of their research, publishing their research and preparing for the viva voce exam. Discussion with tutors and fellow students will stimulate you to think critically about societal issues.
Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS700P1 － 201

公共政策ワークショップ（政策研究）１Ａ

加藤　寛之、中筋　直哉

備考（履修条件等）：**隔週授業**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】
１．博士後期課程第１年度は、博士論文で取り組むべきテーマの決定と論文構想の大枠を決定する。
２．学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者による応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期１回程度の報告を行う。報告は内容を (1) 学会発表プロポーザル (proposal)、(2) 博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第 2 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 3 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 4 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 5 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 6 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 7 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 8 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 9 回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第 10 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 11 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 12 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 13 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 14 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %) を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】
This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class are the finding theme of doctoral thesis and planning to make it. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOS700P1 － 202

公共政策ワークショップ（政策研究）１Ｂ

加藤　寛之、中筋　直哉

備考（履修条件等）：**隔週授業**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】
１．博士後期課程第１年度は博士論文で取り組むべきテーマの決定と論文構想の大枠を決定する。
２．学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。　授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期１回程度の報告を行う。報告は内容を (1) 学会発表プロポーザル (proposal)、(2) 博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第 2 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 3 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 4 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 5 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 6 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 7 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 8 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 9 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 10 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 11 回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第 12 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 13 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 14 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %) を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】
This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class are the finding theme of doctoral thesis and planning to make it. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOS700P1 － 203

公共政策ワークショップ（政策研究）２Ａ

加藤　寛之、中筋　直哉

備考（履修条件等）：**隔週授業**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】
１．博士後期課程第２年度は博士論文で扱うテーマに関する体系的な文献の再検討を行い、またデータの収集および分析をする。
２．引き続き、学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。　授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期１回程度の報告を行う。報告は内容を (1) 学会発表プロポーザル (proposal)、(2) 博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第 2 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 3 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 4 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 5 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 6 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 7 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 8 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 9 回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第 10 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 11 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 12 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 13 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 14 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。**オンラインを活用し、授業回数 2 回減分の学習時間の挽回に努める。**

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %) を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】
This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class is critical exploring books and thesis about theme of doctoral thesis. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOS700P1 － 204

公共政策ワークショップ（政策研究）２Ｂ

加藤　寛之、中筋　直哉

備考（履修条件等）：**隔週授業**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】
１．博士後期課程第２年度は博士論文で扱うテーマに関する体系的な文献の再検討を行い、またデータの収集および分析をする。
２．引き続き、学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期１回程度の報告を行う。報告は内容を (1) 学会発表プロポーザル (proposal)、(2) 博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第 2 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 3 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 4 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 5 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 6 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 7 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 8 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 9 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 10 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 11 回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第 12 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 13 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 14 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %) を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】
This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class is critical exploring books and thesis about theme of doctoral thesis. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOS700P1 － 205

公共政策ワークショップ（政策研究）３Ａ

加藤　寛之、中筋　直哉

備考（履修条件等）：**隔週授業**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】
1．博士後期課程第３年度は博士論文を完成させる。
2．学会発表および論文投稿を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期１回程度の報告を行う。報告は内容を (1) 学会発表プロポーザル (proposal)、(2) 博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第 2 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 3 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 4 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 5 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 6 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 7 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 8 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 9 回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第 10 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 11 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 12 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 13 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 14 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %) を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】
This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aim of this class is completing doctoral thesis. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOS700P1 － 206

公共政策ワークショップ（政策研究）３Ｂ

加藤　寛之、中筋　直哉

備考（履修条件等）：**隔週授業**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】
1．博士後期課程第３年度は博士論文を完成させる。
2．学会発表および論文投稿を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教員による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期１回程度の報告を行う。報告は内容を (1) 学会発表プロポーザル (proposal)、(2) 博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第 2 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 3 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 4 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 5 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 6 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 7 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 8 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 9 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 10 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 11 回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第 12 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 13 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第 14 回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %) を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】
This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aim of this class is completing doctoral thesis. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

POL500P2 － 001

行政学基礎

林　嶺那

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。後者の特定のテーマとして今回は「第一線公務員」を取り上げます。

【到達目標】
行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
毎週 1 コマ目は行政学の基本書を、2 コマ目は特定のテーマに関する日本語・英語論文を扱います。ただし、最初の週のみ 1 コマ目はガイダンス、2 コマ目は基本書の読解とします。
1 コマ目は、真渕勝（2020）『行政学［新版］』を利用します。受講者は、事前に予習を行った上で、不明点あるいは疑問点をまとめたコメントペーパー（A4 一枚程度）を準備します。このコメントペーパーを受講者間で共有し、議論を行います。2 コマ目は、予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。受講を予定している方は、初回までに真渕（2020）を購入した上で、「序章」「第 1 章」「第 2 章」「第 3 章」を通読し、コメントペーパーを準備してきてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第 2 回	官僚制ほか	真渕（2020）の「序章」～「第 3 章」
第 3 回	政策決定と実施ほか	真渕（2020）の「第 4 章」～「第 8 章」
第 4 回	論文の報告①	第一線公務員研究のサーベイ論文
第 5 回	行政責任ほか	真渕（2020）の「第 9 章」～「第 13 章」
第 6 回	論文の報告②	第一線公務員と市民との関係
第 7 回	中央省庁ほか	真渕（2020）の「第 14 章」～「第 18 章」
第 8 回	論文の報告③	第一線公務員相互の関係
第 9 回	予算編成ほか	真渕（2020）の「第 19 章」～「第 23 章」
第 10 回	論文の報告④	第一線公務員と代表的官僚制
第 11 回	地方自治ほか	真渕（2020）の「第 24 章」～「第 28 章」
第 12 回	論文の報告⑤	第一線公務員の意思決定
第 13 回	大都市行政ほか	真渕（2020）の「第 29 章」～「終章」
第 14 回	論文の報告⑥	第一線公務員とコミュニケーションスタイル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、教科書講読 60 分、論文報告資料準備 120 分で、合計 180 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
真渕勝（2020）『行政学［新版］』有斐閣、4290 円。

【参考書】
適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーの提出（５０%）
論文の報告（５０%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
The course aims to provide students with an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. As the latter specific theme, we will focus on "street-level bureaucrats. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL500P2 － 002

比較行政研究

申　龍徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
比較行政研究の学際的理解及び比較研究手法の習得

【到達目標】
①比較行政研究の理論展開を分析することにより、比較行政研究の理論的背景を理解できる（比較行政運動の展開）。
② OECD 加盟国における多様な行政現象の中から事例分析を行い、国際比較の方法論を体系的に習得できる（主要国の行政システムの展開と特徴）。
③実際の行政活動の改善に役立つ政策案が提案できる専門能力の習得ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
国際化の深化という現代社会の行政現象を分析する上で欠かせない比較行政研究を研究対象とするこの授業は、講義と発表で進める。講義では、比較行政研究の学際的な発展過程について理解を深めるとともに、OECD 加盟国の行政制度及び行政過程、個別行政の特徴に関する国際比較を通じて、現在の行政課題に対する政策対案の作成を可能とする政策形成能力の向上を目指す。前半は講義を中心に、後半は受講者の発表と討論で構成する。発表では、受講者が設定したテーマ（行政課題）に対し、国内や OECD 諸国との事例の比較・分析を通じて、もっとも有効と思われる対案の作成を目指す。
原則として対面で授業を実施すること、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンラインに切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回目	授業の概要説明	個人課題の設定、発表スケジュールの調整
2 回目	比較行政の概念と歴史的展開及び比較行政と発展行政の理論統合	形成期、沈滞期、転換期、跳躍期の比較行政研究 比較行政研究と発展行政論の関係、理論的統合
3 回目	行政システムの国際比較 A	英米独仏の行政システムの比較分析
4 回目	行政システムの国際比較 B	北欧諸国の行政システムの比較分析
5 回目	行政システムの国際比較 C	NICs の行政システム及び日韓の行政システムの比較分析
6 回目	比較行政研究事例分析	受講者の事例発表・討論
7 回目	比較行政研究の課題と展望	比較行政研究の課題と展望について理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
事前に講義レジュメ及び参考資料などをアップする。
Eric E. Otenyo & Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

【参考書】
特に限定しないが、主に参考している資料は、以下の通り。
Eric E. Otenyo & Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

【成績評価の方法と基準】
質問力（25 %）、調査力（25 %）、構成力（25 %）、プレゼンテーション（25 %）の 4 つによる絶対評価（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講者には関心のあるテーマの発表が課題として課されるので、事前準備が必要です。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞行政学、比較行政
＜研究テーマ＞比較自治行政、行政文化
＜主要研究業績＞
『現代日本の公務員人事ー政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』（執筆分担、第一法規、2019）
『公務員制度改革という時代』（執筆分担、敬文堂、2017）
『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版局、2013）
『アジアの中の日本官僚：歴史と現在』（執筆分担、勉誠出版、2010）
『韓国行政・自治入門』（単著、公人社、2006）
『自治体経営改革』（執筆分担、公人社、2006）

【Outline (in English)】
Interdisciplinary understanding of comparative administrative research and acquisition of comparative research method
Understand the theoretical development of comparative administrative research and understand the theoretical background of comparative administrative research (development of comparative administrative movement)
Required reading references
Absolute evaluation (100%) based on four questions: questioning ability (25%), research ability (25%), composition ability (25%), and presentation ability (25%).

PHL500P2 － 003

公共哲学基礎

西村　清貴

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「公共性」、「市民社会」といった公共哲学における基本的概念の歴史的由来と、現代公共哲学における意義を学ぶことを目的とする。

【到達目標】
「公共性」、「市民社会」といった公共哲学における基本的概念、そして「国家」、「共同体」、「個人」、「市場」といった公共哲学において重要な諸概念の思想史的意義について理解したうえで、現代の代表的公共哲学において、これらの諸概念にどのような意義が与えられているかを理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
公共政策研究科の「公共哲学基礎」と政治学研究科の「公共哲学研究 I」とを合併開講する。講義を行うほか、文献を講読する。
講義については、「国家」、「共同体」、「個人」、「市場」といった公共哲学にとって重要と思われる諸概念が生成されるにあたり大きく貢献した思想家を取り扱う。
文献購読については、J・J・ルソー『社会契約論』について各参加者に割り振られた箇所について報告してもらう。本書は、公共哲学や政治哲学の古典中の古典である。古典として今日においても読まれていることの意義をしっかりと味わってもらいたい。
本講義は、2 コマ続きを 7 回行う 4 期制の科目であるが、以下の「授業計画」では、1 コマずつ記載している。初日と最終日を除いて、1 コマ目が講義、2 コマ目が文献講読、というように進める予定である。
なお、今後のコロナ感染状況に関する大学の方針等により変更はあり得るが、原則として、対面で授業を行う。スケジュールの伝達は Hoppi を通じて行うので、確認しておくこと。
なお、学期末にレポートを提出してもらう。レポートについては講評を付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 (1 日目 前半)	イントロダクション	講義の目的や内容について説明する
第 2 回 (1 日目 後半)	政治社会の成立	古代や中世において政治がいかなる営みであったかを見る
第 3 回 (2 日目 前半)	カントにおける啓蒙と公共性	公共哲学において頻繁に取り上げられる「理性の公共的使用」という用語法を中心にカントの思想を見る
第 4 回 (2 日目 後半)	文献購読	テキスト第一編前半
第 5 回 (3 日目 前半)	アダム・スミスと市場	しばしば公共性と対立する概念として取り上げられる市場という概念についてアダム・スミスを中心として見る
第 6 回 (3 日目 後半)	文献購読	テキスト第一編後半
第 7 回 (4 日目 前半)	ヘーゲルと市民社会／国家	近代的な意味での市民社会と国家との峻別を確立したヘーゲルの思想を見る
第 8 回 (4 日目 後半)	文献購読	テキスト第二編前半
第 9 回 (5 日目 前半)	ハンナ・アレントと公共性	今日の公共哲学において最も著名な論者の一人であるハンナ・アレントの公共性論を『人間の条件』を中心に見る
第 10 回 (5 日目 後半)	文献購読	テキスト第二編後半
第 11 回 (6 日目 前半)	ハーバマスと公共性	「公共性の構造転換」を中心にユルゲン・ハーバマスの議論を見る
第 12 回 (6 日目 後半)	文献購読	テキスト第三編前半
第 13 回 (7 日目 前半)	文献購読	テキスト第三編後半
第 14 回 (7 日目 後半)	文献購読	テキスト第四編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、報告者であるないにかかわらず、テキストの該当箇所を事前に読んでおき、授業における発言についてあらかじめ考えておくこと。

【テキスト（教科書）】
ルソー、中山元訳『社会契約論/ジュネーヴ草稿』(光文社古典新訳文庫、2008 年)

【参考書】
西村清貴『法思想史入門』(成文堂、2020 年)

【成績評価の方法と基準】
報告 40 パーセント、学期末レポート 40 パーセント、その他授業への貢献度 (討論等)20 パーセント。

【学生の意見等からの気づき】
前年度に引き続き、感染対策にしっかりと気をつけたい

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　法思想史・法哲学
＜研究テーマ＞　19 世紀ドイツ法思想
＜主要研究業績＞　西村清貴『近代ドイツの法と国制』(成文堂、2017 年)
西村清貴『法思想史入門』(成文堂、2020 年)

【Outline (in English)】
【Course outline】
This lecture aims to learn the historical origins of basic concepts in public philosophy such as "publicness" and "civil society" and their significance in contemporary public philosophy.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand the basic concepts in public philosophy such as "publicness" and "civil society", and the historical-philosophical significance of important concepts in public philosophy such as "nation", "community", "individual", and "market".
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read the relevant part of the text in advance and think about what you will say in class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following .

Short report: 40%, Term-end report : 40%, class contribution: 20%

POL500P2 － 004

政策学基礎

渕元　初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学からの政策研究へのアプローチについて、基礎的な知識と分析手法の習得を目指す、入門的な位置づけの科目である。学部までの段階で政治学を専攻していない受講生も想定し、政治学の基礎概念の習得ができるように配慮する。取りあげる主要な論点は、政策と政治過程の関係、政治的正統性と政策的合理性の関係、制度研究と政策研究の関係などである。

【到達目標】
政策研究一般の中で、政治学からのアプローチの特性を把握し、対象とする政策領域に対する適切な研究設問を立てることができるようになる。その上、学術論文の作成の際に、適切な文脈の中で活用することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究の基本的知識について整理します。受講者は、個人の研究関心に沿って課題を設定して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。
授業方式は原則として対面授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	政策に関する諸学問分野の中で政治学からのアプローチの特徴とは何か。あわせて政策に関する諸学問分野の中で、政治学の隣接諸学の基本的な特徴を整理する。
第 2 回	公共政策学の誕生前史	公共政策学の誕生についてそのルーツを探る。
第 3 回	公共政策学の成立	公共政策がアメリカで成立したことの背景を整理する。
第 4 回	公共政策学の発展	公共政策学の発展とその挫折について検討する。
第 5 回	公共政策学の変容	公共政策学の変容と、多様な政策科学のアプローチについて学ぶ。
第 6 回	公共政策の構成と特徴	公共政策の構成要素及び公共政策がもつ特徴について整理する。
第 7 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、公共政策学の歴史に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 8 回	政策のライフ・ステージと政策過程	政策過程を段階に分けて整理する概念を検討する。
第 9 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策段階論に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 10 回	政策過程における参加者	政策過程におけるアクターの役割について考える。
第 11 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策過程におけるアクターに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 12 回	政策をめぐる価値の対立	政策がめざすべき諸価値について検討し、それらの対立関係について考える。
第 13 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策をめぐる価値の対立に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。
事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。
課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題報告（30%）及び期末レポート（50 %）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
公共政策学を理解するために、その歴史的な成り立ちを丁寧に説明することが重要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
The overall aim of this course is to introduce students to a range of political theories and concepts used in the academic study of public policy, such as rationalism, incrementalism and institutionalism. The course aims to be accessible for those who have not studied politics before, and is suitable for students looking for a multi-disciplinary experience.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Course presentation 30%, Short Essay50%, Class contribution 20%

POL500P2 － 005

現代政治分析研究

白鳥　浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代政治の総合的理解を目指す。

【到達目標】
同上。詳細は【授業の進め方と方法】に記載。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
①現代政治の今日的展開の姿を主に研究者を志望とする学生を対象とし、デモクラシーの視点及び脱冷戦時代の視点から分析し、現代政治分析の理念と手法を明らかにする
②具体的には、国際・国内・地域社会における公的課題の解決に向けて、自治体と住民・市民組織との新たな関係の再構築
③国際・国内のガバナンスの理念に立脚した政治システムと機構の改革方向
④冷戦後の構造変化と政府の新たなあり方などの課題を具体的に考え、そのための仕組みや政策のあり方を設計することを目的とする
⑤さらに、将来のデモクラシーについて履修した学生諸君と共に考える
⑥対面により講義を行う。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	現代政治分析とは	同左
第 2 回	現代政治学の基礎	同左
第 3 回	政治学の基礎概念	同左
第 4 回	政治学の理論	同左
第 5 回	現代日本政治の基礎	同左
第 6 回	現代日本政治の変動	同左
第 7 回	日本政治の現在	同左
第 8 回	日本政治の構造	同左
第 9 回	構造的視座による理解	同左
第 10 回	国際的視座の中の日本	同左
第 11 回	国民国家の国際化	同左
第 12 回	比較の中の日本政治	同左
第 13 回	多様なデモクラシー	同左
第 14 回	日本政治の理論的解明	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に適宜指示。

【参考書】
①白鳥浩『都市対地方の日本政治』芦書房、2009 年

【成績評価の方法と基準】
試験、レポートと講義への積極性による総合評価（100 %）。（講義への貢献度 50 %、期末 50 %を目安とする）。

【学生の意見等からの気づき】
学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to attain student's understanding of modern politics. In order to reach that goal, it is needed to study modern politics in a systematic way. It starts out from clarification of the definitions of important notions which appears on literatures of political science.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and decision-making process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

POL500P2 － 006

公共政策とジャーナリズム

白鳥　浩、読売新聞社講師

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における政策とジャーナリズムの総合的理解。

【到達目標】
本講座の目的は、「新聞が行っている報道、論説、提言などの実際を現役記者等が紹介し、新聞メディアの機能、影響力、課題について解説・分析することで、大学院生の視野を広げ、新聞など活字文化への関心を高める」こととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義は読売新聞特別講座である。第一線のジャーナリストをお招きし、新聞社の調査、分析と報道の実際と、論説提言のあり方を学ぶ。講義は、毎回異なるジャーナリストのオムニバス講義によって行う。以下は予想される講義のトピックであるが、変更もありうる。また講義計画は対面を中心とするが、講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
(1)	新聞とジャーナリズム	同左
(2)	政治とジャーナリズム	同左
(3)	安全保障政策とジャーナリズム	同左
(4)	外交政策とジャーナリズム	同左
(5)	社会保障政策とジャーナリズム	同左
(6)	医療政策とジャーナリズム	同左
(7)	経済政策とジャーナリズム	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義当日の読売新聞朝刊を必ず持参して、講義に臨む事。

【参考書】
講義時に適時指示。

【成績評価の方法と基準】
出席、毎回の講義で課される課題への取り組み、毎回の感想文、さらにレポートなどを総合的に考慮して評価（100 %）。(講義への貢献度 50 %、期末 50 % を目安)。

【学生の意見等からの気づき】
学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course offers advanced understanding of the public policy on each policy fields, international politics, domestic politics, public administration, local government, international economy and so on. Lecturers are all distinguished journalists from the Yomiuri Shinbun, Yomiuri News Paper Company.
The goals of this course are to realize relationship between journalism and policy process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

SOC500P2 － 007

公共政策の社会理論

池田　寛二

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、公共政策を研究するための基礎となる社会理論に対する学生の理解を深めることを目的とする。この授業によって習得された社会理論に関する理解は、個々の学生が学位論文を執筆するのための研究に役立てられることが期待される。

【到達目標】
公共政策の理論を受講生が各自の研究テーマに活用できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
主に社会学の視点から公共政策の実態と問題点を経験科学的に解明するとともに、それを政策的に解決するための理論的な視座について講義する。少人数の場合は、討論も取り入れる。各回の講義後にリアクションペーパーを書かせ、次回の冒頭で口頭でフィードバックする。原則として、授業は対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：公共政策の理論的課題	経験科学と規範理論
第 2 回	社会理論と公共政策の関係	「中範囲の理論」（マートン）の重要性を中心に検討する。
第 3 回	格差と資本主義（1）	社会学における資本主義と格差の理論を検討する。
第 4 回	格差と資本主義（2）	資本主義と公共政策の関係を理論的に考察する。
第 5 回	格差と資本主義（3）	『大転換』（ポランニー）と『21 世紀の資本』（ピケティ）の間の社会変動を考察する。
第 6 回	持続可能な社会の公共政策（1）	リスク社会論（ベック）からの考察。
第 7 回	持続可能な社会の公共政策（2）	エコロジー的近代化論からの考察。
第 8 回	持続可能な社会の公共政策（3）	自然資本論と社会関係資本論の統合可能性をめぐる考察。
第 9 回	市場経済社会と公共政策（1）	経済社会学の理論的視座の検討。
第 10 回	市場経済社会と公共政策（2）	グローバル化とローカルな社会の持続可能性をめぐる理論的検討。
第 11 回	市場経済社会と公共政策（3）	サブシディアリティの原理と「ポリアーキー」（ダール）の理論的意義の考察。
第 12 回	政策事例分析への社会理論の応用可能性（1）	気候変動政策とエネルギー政策（再エネ、原発…）を事例とする考察。
第 13 回	政策事例分析への社会理論の応用可能性（2）	地域再生政策（都市政策、農村政策、農林漁業政策…）を事例とする考察。
第 14 回	総括	中心的論点の整理と補足。公共政策研究への社会理論の活用法の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンナ・アーレント,2015『活動的生』（みすず書房）、ウルリヒ・ベック，1998『危険社会ー新しい近代への道』（法政大学出版局）、カール・ポランニー，2009『大転換ー市場社会の形成と崩壊』（東洋経済新報社）、トマ・ピケティ，2014『21 世紀の資本』（みすず書房）、ロバート・ダール，2014『ポリアーキー』（岩波文庫）、『ハーバート・スペンサー　コレクション』所収の「政府の適正領域」（2017、ちくま学芸文庫）など

【参考書】
池田寛二，2013「3.11 以後の気候変動政策と原発政策のゆくえ」『公共政策志林』第 1 号、
池田寛二,2021「変容する「豊かさ」と現代社会の持続可能性―グラノヴェターの経済社会学理論を視座として―」『経済社会学会年報 Vol.43
など逐次指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価基準は、中間レポート (20%)、期末レポート (70%)、授業への貢献度（10 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
この講義は、受講生各自の研究テーマに応用可能な社会理論の理解を目指している。したがって、受講生各自の問題関心に引き寄せて講義内容を受けとめ、積極的に質問して欲しい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、社会学理論、東南アジア地域研究
＜研究テーマ＞環境・エネルギー政策、地域政策
＜主要研究業績＞池田ほか編著，2012『環境をめぐる公共圏のダイナミズム』（法政大学出版局）等。

【Outline (in English)】
This class aims to deepen students understanding of social theories for studying public policy. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from texts directed by the teacher. Final grade will be calculated according to the following process : Mid-term report (20%), term-end report (70%), and in-class contribution(10%).

ECN500P2 － 008

財政学基礎

其田　茂樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、財政学全般の概要と日本の財政制度の理解に重点を置く。政策の遂行や評価において密接に関係する財政であるため、これらの理解は研究の進展に資するものと思われる。

【到達目標】
受講者自身の研究に対して財政の理論や制度を位置づけながら研究の進捗を図ること、日本の財政制度のもつ課題を認識し、自らの見解を形成・確立することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として対面授業で行う予定である。
受講者数にもよるが、授業計画に従い財政学の基本的な素養を確認しつつ、受講者各自の問題意識と財政との関連等について授業内で報告を求める予定である。受講者の疑問点などは授業内で質疑の時間を設けるとともに、その場での回答が難しい場合は、後日対応する。なお、受講者の要望を反映して授業計画等は柔軟に見直す予定である。可能な限り初回の授業への参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスの内容について共有し、授業の進め方や授業計画に関する意見交換を行う。
第 2 回	財政と財政学	各自の研究テーマや問題関心を確認しつつ財政との関係を意識してみる。
第 3 回	市場の失敗と政府の失敗	財政運営を行う政府の必要性について経済学的に考察する。
第 4 回	予算と予算原則	予算に関する理論と日本の制度を理解する。
第 5 回	経費論	経費に関する理論と日本における運用の特質を理解する。
第 6 回	租税論	租税理論や租税原則を学ぶ。
第 7 回	日本の主な税目	所得税、法人税、消費税について理解を深める。
第 8 回	公債論	公債に関する理論、制度を学ぶ。
第 9 回	財政投融資	財政投融資制度の概要を理解する。
第 10 回	国と地方の財政関係	税収や歳出における国と地方の関係を理解する。
第 11 回	国庫支出金	国から地方への財源移転のうち、原則として使途が特定された国庫支出金を理解する。
第 12 回	地方交付税	一般補助金としての性格をもつ地方交付税の重要性を理解する。
第 13 回	口頭報告	各自の問題意識と財政の関係等をまとめてみる。
第 14 回	まとめ	報告に対する受講者相互の質疑等をおこないつつ授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
学術書・専門書による学習もさることながら、財政や地域経済にまつわる報道等についても各授業計画に掲げた項目に応じて目を通してほしい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
1．佐藤進・関口浩『新版財政学入門』同文舘出版、2019 年
2．佐々木伯朗編『財政学制度と組織を学ぶ』有斐閣、2019 年
3．高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020 年
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
口頭報告の内容（70 %）、平常点（30 %）による。
平常点の内訳は、授業内でのコメント（15 %）、相互討論への参画（15 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
対面授業による受講者相互のコミュニケーションへの期待が大きいと考えていたが、意外に、ハイフレックスの授業を求める声も多かった。
第 1 回の授業において意見交換しつつ柔軟に対応する必要性を感じた。

【学生が準備すべき機器他】
特にないが、都合によりオンライン参加等になる場合には必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】
受講者の研究内容や関心に応じて授業の進め方や授業計画は柔軟に対応する予定である。すなわち、授業計画における授業形態は対面としてあるが、受講者が参加しやすい形態を柔軟に検討する。そのため、第 1 回・第 2 回の授業には特に積極的にご参加いただきたい。
一方で、担当者の都合でオンラインに変更されることがある旨、ご留意いただきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、地方財政論、経済政策論
＜研究テーマ＞
国と地方の財政関係、地方税における法定外税と超過課税、公共交通政策と財政
＜主要研究業績＞
『自治から考える自治体 DX』（編者）公人の友社、2021 年
『国税森林環境税』（共著）公人の友社、2021 年
『生活を支える社会のしくみを考える』（共著）日本経済評論社、2019 年
『地方自治論（第 2 版）』2018 年、弘文堂　など

【Outline (in English)】
This course focuses on an overview of Public Finance and fiscal system in
Japan.
In addition to reference books, you need to be interested in the websites and press of ministries and agencies to understand the administrative and financial system of Japan.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Research presentation:70%,Partipation&Contribution:30%.

ECN500P2 － 009

経済学基礎

芦谷　典子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ミクロ・マクロの分野をまたぐ経済学の基礎を学びます。経済学の原理と方法から入り、ミクロ経済学基礎、マクロ経済学の基礎の順に、必須のトピックを網羅していきます。加えて、学んだ基礎理論をどのように応用し、論文執筆に繋げるかを念頭に置いた形でのディスカッションを取り入れていく予定です。講義の進行は、受講者主体のアクティブ・ラーニングを基本とします。

【到達目標】
①入門的教科書を選び、クラスで１冊読み終えることを通じて、論文執筆に必要となる経済学の基礎知識を網羅的に身につけます。
②受講生が各々の関心領域をプレゼンし、経済学の知識を使って議論することを通じて、教科書に記される知識を実際面に適用/応用する力を身につけます。
③クラスにおける議論の結果を記録し、内容をレポートにまとめることを通じて、論文執筆のための基礎力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
アクティブ・ラーニング方式。シラバス記載の教科書を受講者間で分担し、1時間目は毎回担当者がプレゼンします。２時間目は担当者の関心領域のプレゼンを含めたディスカッションを経済学の考え方を使いながら行います。予習復習には e-ラーニングを活用し、進捗状況を確認しながら、次章に進むことになります。ディスカッションの内容は、記録と共に、論文執筆の土台になりうる形にまとめることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方/自己紹介/研究テーマ・関心領域の紹介
第 2 回	経済学への誘い	経済学の原理と実践；経済学の方法と問い；最適化：最善をつくす；需要、供給と均衡
第 3 回	ミクロ経済学１	消費者とインセンティブ
第 4 回	ミクロ経済学２	生産者とインセンティブ
第 5 回	ミクロ経済学３	完全競争と見えざる手
第 6 回	ミクロ経済学４	貿易
第 7 回	マクロ経済学１	国の富：マクロ経済全体を定義して測定する
第 8 回	マクロ経済学２	経済成長
第 9 回	マクロ経済学３	雇用と失業
第 10 回	マクロ経済学４	クレジット市場
第 11 回	マクロ経済学５	金融システム
第 12 回	マクロ経済学６	景気変動
第 13 回	経済理論の研究テーマへの応用①	受講生の研究テーマ関わるディスカッション
第 14 回	経済理論の研究テーマへの応用②	受講生の研究テーマ関わるディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習： e-ラーニングを活用（時間は各 2 時間を標準とします）
プレゼン担当回の準備：教科書の担当章について要点をまとめ、関連する関心領域について資料を作成（時間は、4 時間を標準とします）

【テキスト（教科書）】
『アセモグル/レイブソン/リスト 入門経済学』 東洋経済新報社、2020 年
※購入が必要です。教科書と共に、予習復習用としてｅラーニングを活用します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
到達目標①について： 20%・・教科書の予習復習、ｅラーニング
到達目標②について： 50%・・プレゼンテーション
到達目標③について： 30%・・議論の記録、レポートの作成

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多くが経済学の初学者であり、また社会人であることを考慮のうえ、教科書を選定しました。効率的な予習復習の実行と知識の定着を目指すため、ｅラーニングを取り入れます。教科書を１冊読みこなすことは決して容易なことではありませんが、これまでの受講生の意見や活動状況からみて、より高い達成感および満足感につながるものと確信しています。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業形態について：非対面時は zoom を活用、初回は対面実施の予定です。シラバス公開時点では概ね未定としていますが、受講生の間の意見交換、ディスカッションには対面の機会が有効になると考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経済理論および経済統計
＜研究テーマ＞不動産と国際経済（金融、貿易、開発、環境、補償）
＜主要研究業績＞"The Modified Phillips Curve as a Possible Answer to Japanese Deflation," Advances in Economics and Business, 5 (10), 2017; "Determinants of Potential Seller/Lessee Benefits in Sale-Leaseback Transactions," International Real Estate Review, 18 (1), 2015; "'Perfect' Real Estate Liquidity and Adjustment Paths to Long-run Equilibrium," Journal of International Economic Studies, 27 (5), 2013; "The Robustness of Cartels Facilitated by Anti-dumping Regulations," Australian Economic Papers, 43 (3), 2004 ほか。

【Outline (in English)】
Economics can be divided into “micro” and “macro”. The “micro” part views individual actors of the economy, such as consumers, households and firms and the market economics of larger scale producers. We examine demand and supply and other market mechanisms. The “macro” part takes an overall look at the economy starting with measuring economic performance, followed by learning the model of circular flow. This makes it possible to grasp how households, firms and governments interact with each other, and also understand the role of the financial sector in countries as well as in the world economy. Some topics might include rather unfamiliar notion, but all will enrich your ability to think as an economist and to analyze those decision-making processes of all individuals, consumers, firms, and governments.

PHL500P2 － 011

環境哲学・倫理学

吉永　明弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講者は環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握する。あわせて発表を行い、自身の問題意識を他者に伝えることができる。

【到達目標】
受講者は、環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの考えを文章で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面で行う。環境哲学・倫理学の文献の解説と、参加者による発表を中心に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
第 2 回	現代倫理学の射程	現代倫理学の基本文献を紹介する
第 3 回	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理の基本文献を紹介する
第 4 回	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理に関する文献を紹介する
第 5 回	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理に関する文献を紹介する
第 6 回	科学技術の倫理	科学技術の倫理を論じた文献を紹介する
第 7 回	公害と環境正義	公害と環境正義に関する文献を紹介する
第 8 回	自然保護から生物多様性保全へ	自然保護・生物多様性保全に関する文献を紹介する
第 9 回	意見交換会（1）	授業内容に関する意見交換を行う
第 10 回	環境問題と社会科学	社会科学の視点から環境問題を論じた文献を紹介する
第 11 回	地域環境保全と市民の力	地域環境や市民運動に関する文献を紹介する
第 12 回	場所論と風土論	場所論と風土論の基本文献を紹介する
第 13 回	景観保全と都市環境	景観保全と都市環境に関する文献を紹介する
第 14 回	意見交換会（2）	授業内容に関する意見交換を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘『ブックガイド　環境倫理』勁草書房、2017 年

【参考書】
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年

【成績評価の方法と基準】
授業内の意見交換での発言（20 %）と期末の書評レポート（80 %）。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間を増やすことにしました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境倫理学
＜研究テーマ＞都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理
＜主要研究業績＞
『都市の環境倫理』
『ブックガイド　環境倫理』
『未来の環境倫理学』
いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire environmental reading and presentation. At the end of the course, students are expected to writing a book review. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

book review : 80%,in class contribution: 20%.

LAW500P2 － 012

環境法基礎

永野　秀雄、横内　恵、立松　美也子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生の皆さんは、本授業で、環境問題に関する民事法、行政法、国際法について、その基礎を学ぶことができます。授業は、皆さんが、法律の素人であることを前提にして授業を行います。

【到達目標】
環境法の知識のない学生が、その全体像を把握することが、到達目標である。環境分野で仕事をする上で不可欠な知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
まず、環境法がどのような法律分野から構成されており、環境問題に対して、どのような機能を果たしているのかについて概観する。また、基本的な文献リサーチ方法についても説明する。次に、環境私法について、私人間の環境紛争で、民法に規定された不法行為という考え方がどのように機能するのかを学ぶ。そして、最後に、実際に起こった公害事案をもとにしながら、判例法の妥当性を検証する。
次に、環境行政法について、日本における環境行政法の展開を学んだ後、個別規制法と環境アセスメント、自然保護法及び環境行政訴訟を概観する。
最後に、国際的な環境問題を検討するにあたり必要となる国際法の基本理論を学ぶ。国際社会の基本単位である国家の役割、国際法の特質を概観した後、受講者の関心がある国際環境問題を取り上げながら、国際社会における紛争解決の仕組み、国家責任等について適宜判例を紹介しつつ検討し、国際環境問題への国際法からのアプローチの仕方を習得する。
また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	環境法の概観（1）（永野秀雄）	環境問題と環境法
2	環境法の概観（2）（永野秀雄）	①環境法とは何か、②環境法の構成
3	環境私法（1）（永野秀雄）	①環境私法とは何か、②不法行為の基礎理論
4	環境私法（2）（永野秀雄）	損害賠償請求と差止請求
5	環境私法（3）（永野秀雄）	①環境訴訟における因果関係の立証、②複合汚染と共同不法行為
6	環境私法（4）（永野秀雄）	公害事案に基づく議論
7	環境行政法（1）（横内恵）	日本における環境行政法の展開
8	環境行政法（2）（横内恵）	個別規制法と環境アセスメント
9	環境行政法（3）（横内恵）	自然保護法
10	環境行政法（4）（横内恵）	環境行政訴訟
11	国際環境法（1）（立松美也子）	国際法の基本原則と国際環境問題
12	国際環境法（2）（立松美也子）	国際環境問題における国家責任法とその限界
13	国際環境法（3）（立松美也子）	持続可能な開発と国際環境法の発展
14	国際環境法（4）（立松美也子）	判例研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。プリントを適宜配布する。

【参考書】
北村喜宣『環境法（第５版）』（有斐閣ストゥディア、2020 年）。
黒川哲志・奥田進一編『環境法へのフロンティア』（成文堂、2015 年）。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦他編著『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020 年）。

【成績評価の方法と基準】
配分：授業内での発表、議論への参加・貢献度 30 %、期末レポート 70 %。
評価基準： 3 人の講師が、授業中に、それぞれ 2 つのテーマを提示する。この合計 6 つのテーマの中からレポートを 1 つ作成し、担当講師に提出する。選択したテーマにつき、判例や法律論文等を最低 5 つ以上参照して、レポートを書くこと。論点、構成、内容の理解度から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン。

【担当教員の専門分野等】
永野　秀雄
＜専門領域＞日米比較法 (特に、環境法、労働法、先端技術法)
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞ (環境関連のもの)
①単著『電磁波訴訟の判例と理論―米国の現状と日本の展望』(三和 書籍、2008 年)。
②「気候変動と企業統治」鈴木幸毅・所伸之編著『環境経営学の扉 ―社会科学からのアプローチ』(文眞堂、2008 年) 171-184 頁。
③「米国における高レベル放射性廃棄物の処分と問題点」人間環境 論集 6 巻 2 号 (2006 年)1-21 頁。
横内　恵
＜専門領域＞環境法、公法（憲法・行政法）
＜研究テーマ＞環境リスクの法的制御、廃棄物処理法制
＜主要研究業績＞
①「順応型リスク制御と比例性：ドイツ遺伝子技術法の閉鎖系規律手続を題材として」大塚直編『環境法研究』7 号（信山社、2017 年）13-45 頁。
②「廃棄物処理法に基づく生活環境影響調査の対象地域に関する一考察 ― 高城町事件と東海村事件を事例として」大阪経大論集 67 巻 3 号（2016 年）113-134 頁。
③「科学的不確実性を伴う環境リスクに対する法的制御の可能性と限界」OUFC ブックレット 8 号「中国の食・健康・環境の現状から導く東アジアの未来」（2016 年）62-74 頁。
立松美也子
〈専門領域〉国際法 (国際人権法、条約法、国際環境法)
〈研究テーマ〉　国際法の履行確保、国内実施、難民、出入国管理
〈主要研究業績〉
(共著)　Chapter8 人権を国際的に保護する、Chapter10 国境を越えるモノ、サービス、資本、Chapter11　地球規模の環境問題に取り組む 加藤信行、植木俊哉、森川幸一、真山全、酒井啓亘、立松美也子編『ビジュアルテキスト国際法第 2 版』（有斐閣、　2020 年）。
単著
「難民をめぐる国際制度： UNHCR と難民条約」国際法外交雑誌 117 巻 3 号 (2018 年)。
「環境問題と少数者を文化を享受する権利－ポマ対ペルー事件 (自由権規約委員会 2009 年 3 月 27 日見解)」国際人権 21 号 122 － 124 頁、(2010 年)。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
Students will learn the basics of civil, administrative, and international law on environmental issues in this class. The class will be taught on the assumption that you are a layman in the law.
< Learning Objectives >
The goal of this course is for students who have no knowledge of environmental law to grasp the whole picture. Students are expected to acquire essential knowledge for working in the environmental field.
< Learning Activities outside of Classroom >
Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, three instructors will each present two themes during these classes. You can take one of the themes, referring to five or more legal cases or papers, write a report on the theme, and submit it to the instructor in charge. Your report will be evaluated based on issues, structure, and understanding of the content.

SES500P2 － 013

地球環境学基礎

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせない。本講義では気候変動を中心にしつつ、オゾン層保護、酸性雨など環境問題や、エネルギーや淡水などの資源問題について、発生メカニズムと対処に関する科学の基礎を修得し、地球規模や国境を超える環境問題に対処する基礎力を養うことを目指す。

【到達目標】
以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。
人口増加と減少パターンの発生理由。
オゾンホールが南極上空にできる理由。
温室効果のメカニズムと気候変動の科学の不確実性。
日本では酸性雨の生態影響が顕在化していない理由。
生物多様性を保全しなければならない理由。
資源のもつ意味。
淡水、土壌、金属などの資源のもつ役割。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントは Hoppii にアップする。なお講義の順番は状況によって変更になることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	地球環境問題をとりまく諸状況
第 2 回	人口	人口が増加する要因、都市の人口問題
第 3 回	オゾン層	オゾン層が破壊されるメカニズム、オゾン層破壊物質、ウイーン条約、モントリオール議定書、国内対策
第 4 回	気候変動①	地球温暖化のメカニズム、将来予測
第 5 回	気候変動②	ＩＰＣＣ、国際社会、国際交渉、パリ協定
第 6 回	気候変動③	緩和策と適応策
第 7 回	越境する大気汚染	酸性雨、光化学オキシダント、PM2.5
第 8 回	生物多様性	生物多様性保全の意義、生態系サービス、遺伝資源
第 9 回	資源とは何か	「資源」の持つ意味、「資源の呪い」、資源に関する楽観論と悲観論
第 10 回	水資源	世界の水資源、国際流域の課題
第 11 回	土壌資源、窒素とリン	土壌の成り立ち、機能、窒素とリンの循環、リン資源
第 12 回	エネルギー資源①	化石燃料
第 13 回	エネルギー資源②	原子力、新エネルギー
第 14 回	金属資源	ベースメタル、レアメタル、リサイクル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文科系のための環境科学入門』　有斐閣

【参考書】
講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
最終回に行う試験 (100%) またはレポート（100 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

【学生が準備すべき機器他】
とくにない。

【担当教員の専門分野等】
環境システム科学、国際環境協力

【担当教員が関連した書籍】
1. Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford
2. Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London
3. Ryo Fujikura (Guest Editor) (2011) Environmental Policy in Japan: From Pollution Control to Sustainable Environmental Management, Special Issue, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5
4. Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development – Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

【Outline (in English)】
Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource problems such as energy and freshwater. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be based on the final exam (100%) or report (100%).

POL500P2 － 014

国際政治学基礎

湯澤　武

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、国際政治学に関する基礎知識を修得するとともに、専門知識を体系的に学習するための準備を行うことにある。

複雑さを増してやまない国際社会の諸問題を、広い視野から理解したり説明したりするのに必要な国際政治学や国際関係論と呼ばれる学問分野の基本概念や理解・認識の枠組み（パラダイムないしリサーチ・プログラム）を解説する。現在進行中の国際政治経済、国際安全保障の話題を随時取り上げる。

【到達目標】

次の三つの到達目標を目指して、＜国際政治学ないし国際関係論の主要パラダイム＞について学ぶ。

第一に、国際政治学における基本的な用語・概念や主要なテーマについての知識を身につける。

第二に、国際政治学ないし国際関係論を捉えるための分析枠組みにまつわる諸々のポイントを正確に理解する。

第三に、現実の国際社会の諸事象を、基本的な概念や分析枠組みを使って理解し、諸資料を活用しながら実証的に説明できる初歩的な能力を修得する。

また、2 年次以降に、国際政治の専門的なテーマに関する理論を扱う学術論文を正確に理解するための基礎理解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業計画や授業形態を変更する場合には、学習支援システムでその都度告知する。学習支援システムからの授業に関する通知メールを確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：国際政治理論とは	本講義の目的と概要の説明。理論とは何か。国際政治を理解するうえで、なぜ理論を学ぶ必要があるのか。
2	国際政治学の分析枠組み	分析レベルの枠組みと分析のアプローチについて
3	国際政治理論:リアリズム I	主に古典的リアリズムを考察する。
4	国際政治理論：リアリズム II + 事例研究	主に構造的リアリズム（防御的・攻撃的リアリズム）を考察する。事例研究として、リアリズムを用いて国際政治上の事象を分析する。
5	国際政治理論：リベラリズム I	古典的リベラリズム（理想主義、社会的リベラリズム）を考察する。
6	国際政治理論 ：リベラリズム II + 事例研究	相互依存論、ネオリベラル制度論、民主平和論を考察する。事例研究として、リアリズムを用いて国際政治上の事象を分析する。
7	国際政治理論 コンストラクティビズム + 事例研究	アイデンティティ、信念、規範などの観念的要素が国際政治に及ぼす影響を考察する。事例研究として、コンストラクティビズムを用いて国際政治上の事象を分析する。
8	中間レビュー	前半の諸理論のポイントを振り返る。
9	国際政治理論を使った国際政治の分析手法：応用編	国際政治を分析するうえで、異なる理論をどのように応用すべきなのか、その分析方法を理解する。
10	国際政治経済 (IPE) の理論 I	経済的国家主義（重商主義）と経済的自由主義を考察する。
11	国際政治経済 (IPE) の理論 II	ネオ・マルクス主義（従属論）、世界システム論を考察する。
12	国際政治経済 (IPE) の事例研究 I	事例研究として、発展途上国における開発問題を取り上げる。
13	国際政治経済 (IPE) の事例研究 II	事例研究として、経済的グローバリゼーションを取り上げる。
14	総括	学期中の主要課題に関する解説・講評を行う。学期末レポート課題の説明など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は 2 時間程度を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。学習支援システムで講義用資料を配信する。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。以下を購入する義務はないが、適宜参照されたい。

吉川直人、野口和彦 (編)『国際関係理論』第 2 版、勁草書房、2015 年

ジョセフ・ナイ・ジュニア 『国際紛争：理論と歴史』 原書第 10 版、有斐閣、2017 年

村田晃嗣、君塚直隆, 石川卓、栗栖 薫子、秋山信将（編）『国際政治学をつかむ』新版、2015 年

野林健、 大芝亮、 納家政嗣、 山田敦、 長尾悟『国際政治経済学・入門 』第 3 版、有斐閣、2007 年

田中明彦、中西寛　(編) 『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2006 年

【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート課題により評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】

・毎回、授業の冒頭で、前回後半の講義内容を振り返って、記憶を喚起する。

・複雑な概念を扱う際には、二回の講義を利用して説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用するパワーポイント資料を授業支援システムにアップロードする。履修者は各自でそれをダウンロードして、授業に持参するとよい。資料は講義の重要ポイントを空白にするなど、あえて不完全な状態でアップロードする。講義に出席して、自ら空白欄を埋めるなどの努力をしてほしい。

【Outline (in English)】

This is an introductory course on international politics. The objective of this course is to gain knowledge of basic concepts of international relations in order to lay the foundation for systematically learning advanced theories of international relations. Students would be exposed to the main paradigms or research programs relating to international politics.

ARSl500P2 － 015

国際協力論

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】
一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1) 現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2) 国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3) 誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。
　報告対象とする文献については、2022 年度秋学期開始前に学習支援システム（Hoppii）を通じて通知／配布予定。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景ー途上国の貧困と先進国との格差ーについて概観する。
第 2 回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後 1970 年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第 3 回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980 年代、90 年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第 4 回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000 年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第 5 回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第 6 回	「開発」とは何か:開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第 7 回	アフリカ	国際協力における近年の「大きな課題（問題）」であるアフリカについて、何が「問題」となっているのか、その由来や対応を含めて概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
斎藤文彦『国際開発論』（日本評論社）、下村恭民他『国際協力』（有斐閣）、外務省『日本の経済協力』（ODA 白書）を基本書とします。
他は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末レポート (50%)、各回の担当報告の内容 (30%)、授業やディスカッションへの貢献 (20%) を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】
過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】
担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.
[Learning Objectives]
Completing the course, students are expected;
1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.
{Learning Activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

SES500P2 － 016

サステイナビリティ研究入門

宮川　路子、金藤　正直

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義はサステイナビリティと関連する問題を研究するための学際的なアプローチを学ぶための入門コースである。
学習目標
学生は、今後のサステイナビリティ学研究の出発点として、サステイナビリティ学専攻を構成する様々な研究分野の基本概念と方法論の概要を理解する。また、これらの分野において、サステイナビリティという概念がどのように扱われているかを理解することを目的としている。

【到達目標】
学生はこれからサステイナビリティ学を研究していく上での出発点として、サステイナビリティ学専攻を構成するさまざまな研究領域において、その基礎概念や方法論について概観を得るとともに、それらの領域においてサステイナビリティ概念はどのように扱われているのかについて理解する。
講義は 7 名の教員がオムニバス方式で担当する。学生はこの講義を 2 年連続して受講することにより、本専攻に所属する専任教員全員の講義を受けることが可能となり、サスティナビリティ学における幅広い基礎知識を身に着け、多角的な視野を持つことを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
サステイナビリティ学専攻の専任教員が各 1 回、合計 7 回を担当するオムニバス形式でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：サステイナビリティ研究の目指すもの。21 世紀を健康に生きていくために（宮川）	健康を守っていくことはまさにヒトがサステイナブルであることに他ならない。日本の長寿の背景に潜む様々な問題について考察する
第 2 回	気流から風力エネルギーへ（北川）	風力エネルギーの基礎について
第 3 回	地球システムと人間活動（渡邊）	エネルギーと物質の保存と拡散、物質循環とエントロピーについて（熱力学から考えるサステイナビリティ）
第 4 回	環境リスクと安心・安全（横内）	産業廃棄物処理施設設置に際する環境アセスメントと住民参加手続
第 5 回	サステイナブル経営の国際的潮流（長谷川）	COP21（気候変動枠組条約締約国会議）で合意されたパリ協定が提起した「脱炭素革命」と企業経営のこれからを考える
第 6 回	環境法とサステイナビリティ（永野）	環境法は、サステイナビリティを維持するための執行力をもった規範
第 7 回	環境・サステナビリティ経営論（企業編・地域編）/総括（金藤）	日本企業で現在実践されている環境経営やサステイナビリティ経営の基礎構造（戦略、組織、管理の流れ）を、実践例を利用しながら習得することを目的とする。 授業内容についてのディスカッション、レポート課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。

【参考書】
その都度教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業最終回に提示するテーマからひとつを選択し、それにもとづくレポートを作成する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
"Introduction to Sustainability Studies " is an introductory course to learn interdisciplinary approaches to study sustainability and related issues.
Learning Objective
As a starting point for future research in sustainability studies, students will gain an overview of the basic concepts and methodologies of the various research areas that make up the Department of Sustainability Studies. In addition, students will gain an understanding of how the concept of sustainability is treated in these fields.
Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Policy
Choose one of the themes presented in the last class and write a report based on it (100%).

SES500P2 － 018

SDGs への招待

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2030 年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」（以下 SDGs）について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGs についての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。SDGs Plus 履修証明プログラムの入り口として設置されているものである。

【到達目標】
グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだ SDGs については、主に国際機関、政府や NGO ／ NPO が主体的に活動するものと思われがちである。しかし SDGs では、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ受講生として、① SDGs に関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、② SDGs にあげられた各種課題を「自分ごと」として捉えることができる当事者としての意識を涵養すること、が本講義の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本セミナーでは、SDGs に関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者の SDGs や現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。
受講者は各回にコメントペーパー（講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの）の記入と提出が求められる。
同時に可能な範囲で参加者によるアクティブラーニングの要素を取り入れ、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。
最終回には各受講者にショートプレゼンテーションを実施してもらう予定である。
なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の目的、進め方等の説明。講義の全体像の解説。
第 2 回	セミナー	外部講師による講義
第 3 回	セミナー	外部講師による講義
第 4 回	セミナー	外部講師による講義
第 5 回	セミナー	外部講師による講義
第 6 回	セミナー	外部講師による講義
第 7 回	プレゼンテーションと総括	受講者によるショートプレゼンテーションと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント（資料）が配布される。

【参考書】
外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）40 %、
プレゼンテーション 30%、期末レポート 30 %の総合評価による。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン実施の経験も踏まえ、参加者のコミュニケーションのバリエーションや方法の工夫に努める。

【その他の重要事項】
講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。
本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および研究科ウェブサイトで発表する。

【実務経験のある教員による授業】
担当者（コーディネーター）は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている部分がある。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course is to introduce and give basic understandings of the Sustainable Development Goals, which is internationally agreed goals and strategies toward sustainable societies. Each class will consist of lecture, discussion among participants and guest speaker's lectures.
[Learning Objectives]
The SDGs, which have a global scope and include a variety of goals, some of which are expected to be difficult to achieve, are often thought of as being primarily the work of international organizations, governments, and NGOs/NPOs. However, the SDGs recognize the importance of the private sector and citizens as key players. As students learning about sustainable society, the goals of this lecture are (1) to have a basic knowledge of the SDGs and be able to explain them to others, and (2) to cultivate an awareness of being a party to the SDGs so that they can see the various issues listed in the SDGs as their own.
[Learning Activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a composite evaluation of 40% contribution points (attitude toward participation, content of comment papers, comments made in class, etc.), 30% presentation, and 30% final report.

LAW500P2 － 051

政策法務論

神﨑　一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
特に 2000 年の第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」ということが唱えられてきた。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者の間で「政策法務」という言葉は一般的ではない。この差に着目し、自治体政策法務について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。
【授業目的】
現在の自治体法務が直面している問題点を検討するとともに、条例論を学ぶ。

【到達目標】
・自治体政策法務のイメージをつかむ。
・条例案立案のポイントをつかむ。
・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
・本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
②授業は、講義を中心とするが、立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。
②本講義の最後の 2 回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1. はじめに～「政策法務」とは？ 2. 自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府とGHQ の攻防	1.GHQ 民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2. 日本側草案の起草～民政局案との対比 3. チャーター制定権の変貌
5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1. 基本法・基本条例の法規範的性格の稀薄性 2. 法体系上の位置づけ 3. 自治基本条例の意義 4. 民主的契機としての住民投票 5. 議会基本条例の意義
7-8	条例論	1. 条例の定義 2. 条例の類型 3. 法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1. 分権改革前の判例 2. 比例原則 3. 分権改革後の判例 4. 違憲審査基準論と合理性の基準 5. 合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
講義録を配付する予定である。

【参考書】
大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）
神崎一郎「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %・立法演習 40 %・報告 30 %。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい（パソコン・タブレットで対応可）。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞立法学
＜研究テーマ＞立法過程論・自治体政策法務論・条例論
＜主要研究業績＞
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline (in English)】
Course outline;
Since the first decentralisation reform in 2000, the term "policy legal affairs" has been advocated mainly by those in charge of legal affairs in local governments. However, this term is not commonly used among legal staff in the central government. We will focus on this difference, and examine the problems faced by municipal legal affairs, while clarifying the concept of policy legal affairs.
Learning Objectives;
To get an idea of "policy legal affiairs".
To understand the key points of drafting ordinances.
Granding Criteria/Policy;
The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.
Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.
From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

POL500P2 － 052

立法学研究

神﨑　一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和 21 年に、既に末弘巌太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての優れた能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に見るにとどまるのではなく、法的視点（法学の基礎知識から立法における憲法・行政法上の比例原則まで）も含めて検討していきたい。
【授業目的】
我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をする。

【到達目標】
・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までの正確な知識を得る。
・上記のベースとなる法学についての基礎的知識を得る。
・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。
②授業は、講義を中心とするが、必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせて行う。
③本講義の最大の特徴は、最後の 2 回に行う立法演習である。講義において会得した発想方法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。
※本講義は、原則として対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1. 序論～立法学とは 2. 現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など
3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1. 内閣による法案提出プロセス 2. 政党内の意思決定システム 3. 議員立法のプロセスの特徴 4. 民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1. 国会審議過程の現状と課題 2. 内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3. ねじれ国会下における立法傾向 4. ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か	1.「法律」とは何か～歴史的経緯から憲法 41 条の解釈まで 2. 現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3.「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する（必要に応じて主要判例を検討する）。
13-14	立法演習	提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
講義録を配付する予定である。

【参考書】
大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方　第２版』有斐閣（2021 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %・立法演習 40 %・報告 30 %。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい（パソコン・タブレットでも対応可）。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞立法学
＜研究テーマ＞立法過程論・自治体政策法務論・条例論
＜主要研究業績＞
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline (in English)】
Course outline;
Japanese jurisprudence has been developed mainly on the interpretation of laws. Already in 1946, Dr.Suehiro pointed out that the work of drafting laws and regulations is done only by the professional skills of the bureaucrats concerned, and that there has been no scientific study. In this lecture, we will try to systematize "Legislation Studies" based on the results of these studies.
Learning Objectives;
To acquire an accurate knowledge of Japanese legislation, from the planning stage to the enactment and enforcement stage.
To gain knowledge of the structure of laws and regulations and the means of achieving policy objectives, and to be able to design simple systems and draft articles.
Granding Criteria/Policy;
The class will consist mainly of lectures, but will also include a combination of research, presentations and discussions by the participants as necessary.
The most important feature of this course is the legislative exercise held in the last two sessions. Students will design a legal system for a given issue, using the ideas and tools they have acquired in the lectures, and report on and discuss the legal system they have designed. Participation in the legislative exercise is mandatory for the evaluation of this lecture. From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures

POL500P2 － 053

政策評価論

南島　和久

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1990 年代後半には日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされてこなかった。本講義では、これら公的部門の評価のあり方について議論する。その際、歴史を踏まえつつ理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】
本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。
これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の３点である。
①政策評価の類型に関する理解
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
②政策評価の歴史に関する理解
PPBS、GAO のプログラム評価、GPRA/GPRAMA の史的展開
日本の政策評価の史的展開に関する理解
③政策評価の理論に関する理解
ロジックモデル、評価階層、アカウンタビリティの理解
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
オンラインにて行う予定である。授業は 1 回 2 時限続きで実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、あくまでも計画段階のものであり、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形での討論を交えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：行政学、政策学との関係について議論する。	この科目について、成績評価の方法についてなど
第 2 回	政策の概念：公共政策学と評価学の政策のイメージの違い、ロジックモデルについて概説する。	政策の合理性、体系性、循環性、ロジックモデル
第 3 回	評価の概念：政策分析、プログラム評価、業績測定の違いを概説する。	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第 4 回	政策分析：政策分析に関して、公共事業評価、規制影響分析について学ぶ。	費用便益分析、公共事業評価、規制評価
第 5 回	業績測定と自治体①：自治体評価がどのように取り組まれてきたのか。三重県の事例も含めて概説する。	事務事業評価、総合計画の評価
第 6 回	業績測定と自治体②：自治体評価において用いられる必要性、有効性、効率性の規準を議論する。また、政治と評価について議論する。	計画と評価、マニフェストと評価
第 7 回	業績測定と独立行政法人①：国の独立行政法人の評価とその課題について議論する。	NPM と評価、独法の歴史、３つの独法形態と評価
第 8 回	業績測定と独立行政法人②：地方独法の評価とその課題について議論する。	地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価
第 9 回	国の府省の評価①：政策評価制度の導入の経緯を詳細に議論する。政策評価法の構造にも触れる。	中央省庁等改革と評価、総務省の行政評価局調査、政策評価法
第 10 回	国の府省の評価②：国の府省の政策評価の実像に迫る。あわせて行政事業レビューの取組を紹介する。	府省の自己評価、３つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
第 11 回	アメリカの評価①：アメリカの政策評価の歴史を概観する。	PPBS、プログラム評価、PGRA
第 12 回	アメリカの評価②：アメリカの政策評価のうち GPRA の改革過程と論点を議論する。	GPRAMA、データドリブン、エビデンスベースド、APGs、CAPGs、評価の日米比較
第 13 回	評価理論①：評価類型を整理する。あわせて評価階層の理論について議論する。	評価の類型論、評価階層の理論（システマティックアプローチ）
第 14 回	評価理論②：評価に関する学説史について概要に触れる。	評価をめぐる学説、科学主義と実用主義の対立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』晃洋書房、2020 年。

【参考書】
今村都南雄・武藤博己・佐藤克廣・沼田良・南島和久『ホーンブック基礎行政学（第３版）』北樹出版、2015 年。
石橋・佐野・土山・南島『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018 年。
行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008 年。
佐藤竺監修、今川晃・馬場健編著『市民のための地方自治入門（新訂版）』実務教育出版、2009 年。
南島和久編『JAXA の研究開発と評価』晃洋書房、2020 年。
益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010 年。
松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018 年。
武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014 年。
広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013 年。
山谷清志『政策評価の理論とその展開』晃洋書房、1997 年。
山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006 年。
山谷清志編著『公共部門の評価と管理』晃洋書房、2010 年。
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012 年。
山谷清志監修、大島巌、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』晃洋書房、2020 年。
山谷清志編『政策と行政』晃洋書房、2021 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点及び報告（40 %）、期末レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
初回の講義にて案内します。万が一回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、najima @ jura. niigata-u. ac. jp（「@」と「.」は全角となっています。）

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、公共政策学
＜研究テーマ＞政策評価の制度運用
＜主要研究業績＞『政策評価の行政学』（晃洋書房）、『「それでも大学が必要」と言われるために』（創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第３版）』（北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（法大出版）、『組織としての大学』（岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（晃洋書房）、『市民のための地方自治入門』（実務教育出版）など

【Outline (in English)】
Since 1990's, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.

SOC500P2 － 054

社会調査法 1

竹元　秀樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 社会調査の全体像、社会調査の歴史的経緯について概説する。
2. 社会調査の様々な手法について検討する。
3. 質的調査と量的調査双方の基本事項を理解する。
4. 調査倫理など調査に伴う問題を学ぶ。

【到達目標】
1. 社会調査の基本事項、歴史を簡潔に説明できる。
2. 量的調査と質的調査の相違を識別できる。
3. 社会調査のプロセスを具体的に述べることができ、実際に調査を始めることができる。
4. 倫理違反といった概念について具体的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
社会調査の基本事項を理解し、全体像を把握するために，次のように授業を進めていく。
1. 社会調査の歴史的経緯を学びつつ、様々な社会調査の手法を説明する。
2. 質・量双方の調査研究の特性について、調査の企画・実施、成果の発表に至るまでの流れを具体的に解説する。
3. 調査倫理の問題を踏まえつつ，社会調査の意義についての理解を促す。
授業は原則対面で実施する講義形式によって進められるが，必要に応じて，グループ討議などの形式をとることがある。授業への学生の積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	社会調査の基本的な考え方 1	・社会調査の諸定義と目的 ・社会調査の諸類型
第 2 回	社会調査の基本的な考え方 2	・量的調査と質的調査 ・成果の公表
第 3 回	社会調査の歴史 1	・社会調査の源流：人口調査，貧困調査 ・民族誌の系譜：文化人類学，シカゴ学派社会学
第 4 回	社会調査の歴史 2	・日本の社会調査：国勢調査，都市及び農村調査，SSM 調査等
第 5 回	社会調査の設計 1	・社会調査の全過程：着想から成果の公表まで ・問いと対象の設定
第 6 回	社会調査の設計 2	・調査・分析手法の選択 ・手法による手順の違い：研究における「仮説」の位置
第 7 回	量的調査の方法と実例 1	量的調査のステップ：仮説の操作化，調査票の作成，サンプリング，実施，データの入力と分析
第 8 回	量的調査の方法と実例 2	・実例に基づく量的調査実施過程の追体験
第 9 回	質的調査の方法と実例 1	・質的調査のステップ：関連資料の収集，参与観察，聞き取り調査の実施，データの整理と分析
第 10 回	質的調査の方法と実例 2	・実例に基づく質的調査実施過程の追体験
第 11 回	理論と調査との関係 1	・理論命題と理論枠組 ・先行理論の位置づけ
第 12 回	理論と調査との関係 2	・認識の深まりと問いの洗練
第 13 回	調査倫理	・調査者と被調査者との関係 ・学問としての倫理，調査における倫理
第 14 回	調査の社会的意義	・社会調査と価値判断の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。

【参考書】
都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 2～8」

【専門領域】
地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】
現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】
単著『祭りと地方都市―都市コミュニティ論の再興』2014 年，新曜社.
共著『よくわかる都市社会学』2013 年，ミネルヴァ書房.
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件―異質的なコミュニティ・ビロンギングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号，2021 年.

【Outline (in English)】
This course deal with basic matters of social research. It also enhances the development of students' skill in considering various methods of social research.
By the end of the course, students should be able to explain basic matters of social research, especially about the difference of quantitative and qualitative research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P2 － 055

社会調査法２

中筋　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学の社会調査法のうち、統計学の応用による、大人数の社会意識や集合行動の構造の解明を目的とするサーベイ型の調査法について概説する。まずこの調査法の成立の歴史的経緯と基本的な論点を踏まえた上で、調査計画から結果の統計解析までのプロセスを概観するとともに、その時々に生じる実践的課題について詳論する。さらに、社会意識調査を政策形成に活用する方途についても考察したい。

【到達目標】
サーベイ型の社会調査に関する基本的知識、特に調査の計画から報告書の作成までの一連の流れを理解し、知識として習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施 (予定)。実習的な作業をともなう、各回 2 時限の連続講義。課題やリポートについては事後に全員に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論 1	社会科学的認識と計量的社会調査の関係について
2	概論 2	近代日本における計量的社会調査の展開と課題
3	調査の設計 1	調査票調査の企画・設計（質問文案をリポートとして提出）
4	調査の設計 2	質問文と選択肢の構成（調査票作成作業を実習形式で行う）
5	サンプリング 1	サンプリングの統計学的基礎
6	サンプリング 2	サンプリングの種類と実施上の問題
7	調査の実際 1	計量的社会調査における調査者と被調査者の関係
8	調査の実際 2	調査票の配布・回収をめぐる諸問題
9	データの集計と整理 1	コーディングとデータクリーニングの方法
10	データの集計と整理 2	コーディングから度数分布表作成までの過程（仮想的な調査データを用いて実習形式で行う）
11	調査データの読み方	基本統計量とデータ分布の概説
12	展開的講義	政策形成と社会意識調査
13	まとめ 1	社会調査を政策形成に活用する方途について（講義）
14	まとめ 2	社会調査を政策形成に活用する方途について（討論）別途リポート提出および筆記試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示した課題を指示された期日までに自宅で用意し、提出すること。授業終了後参考書を入手・熟読して、重要箇所を復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
授業中に適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加 30 %、課題提出 15 % ×2 回、筆記試験 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
最近の現場での社会調査の応用についての批評的講義を増やす

【学生が準備すべき機器他】
各自自宅でパソコンを使用した作業が必要。学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『よくわかる都市社会学』(2013, ミネルヴァ書房)、『群衆の居場所』(2005, 新曜社)

【Outline (in English)】
(Course outline)This lecture aims to study basic methods of social research by statistical sampling and questionnaires.(Learning Objectives)The goals of this lecture are understanding the basics of social research by statistical sampling and questionnaires.(Learning activities outside of classroom)Writing reports and Reading directed books(Grading Criteria /Policy)Positivity to classwork:30%,Reports:15%*2,Final Exam:40%

SOC500P2 － 056

社会調査法３

見田　朱子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科学研究における統計データの利用法。
「統計データ」を読み、書（描）き、利用するための基本概念や方法を理解する。具体的には、統計資料の整理の仕方、基本的な統計量の読み方、図表の読み方、作成方法について。また、変数間の関係を記述する方法やその読み取り方についても解説するので身に着けてほしい。
さらに「非統計（質的）データ」を読むときの基本事項の学習を踏まえ、社会調査におけるデータ活用方法についての理解を促す。技術的には、Excel および無料の統計ソフト R 等を用いた実習を通じてデータ分析の実践的理解を深める。

【到達目標】
統計データの形式を整えたり、変数を操作化することができる。
統計データの情報を要約することができる。
統計ソフトを用いて変数間の相関や連関を調べることができる。
統計ソフトを用いて推定や仮説検定を行うことができる。
統計データをグラフや表によって可視化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC 操作の可能な学習室を利用予定。
「社会統計」と「社会調査」の仕組みを根本的に理解するための講義を行う。また Excel や統計ソフト R の技術的な習得が一つの重要な目標であるため、PC 操作の実習は必須である。発表や課題提出は社会調査の結果報告に欠かせないため、Word や PowerPoint 等の扱い方を含めた、基本的なレポート（論文）の書き方についても指導する。
クラスの親睦を深め、具体的なテーマに接するため、授業内発表の機会も設ける予定である。また、リアクションペーパーではなく、都度の質問や対話やメールでの補足を受け付ける予定。
成績は、受講人数にもよるが、授業内での小課題と発表、レポートによる予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	1 統計データの基本事項	・統計データの目的と種類
	2 統計データの基本概念	・社会（学）理論とデータとの関係
		・測定と変数の種類
		・記述統計と推測統計
		・データの解釈
第 2 回	3 統計資料の整理	・統計資料の整理
	4 度数分布	・データファイルの作成
		・2 次資料と公開データ・単純集計と度数分布表
		・図の種類
		・相対度数による表示の機能と問題
第 3 回	5 分布と統計量 1	・平均
	6 分布と統計量 2	・分散
		・標準偏差
		・中央値
		・分位数
		・標準化
		・（標準）正規分布
第 4 回	7 検定の基礎知識	・母集団と標本データ
	8 クロス表 1	・仮説
		・独立変数と従属変数
		・因果関係
		・クロス表の作成と読み取りの一般原則
		・DK と NA
		・情報の圧縮
第 5 回	9 クロス表 2	・関連性の読み取り：オッズ比とリスク比
	10 相関 1	・第 3 変数とエラボレーション
		・散布図
		・相関係数
第 6 回	11 相関 2	・相関関係と因果関係
	12 復習と補足	・擬似相関
		・結果の解釈と提示の方法
		・作図のオプション
第 7 回	13 非統計データについて	・「量的データ」への変換と利用の方法
	14　総括	・テキスト（化）データの扱い方
		・社会調査の基本事項に関するまとめと成績評価に関わる作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
杉野勇『入門・社会統計学: 2 ステップで基礎から [R で] 学ぶ』法律文化社, 2017 年.（データ資料を利用します。web 上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布する予定。初回授業では未購入で構いません。）

【参考書】
G.W. ボーンシュテット／ D. ノーキ著, 海野道郎・中村隆監訳, 1992,『社会統計学―社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社.
『入門・社会統計学』サポートウェブ（http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html）
R Tips (http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips/r.html)
他（授業中に適宜紹介）

【成績評価の方法と基準】
課題提出によって評価。
課題は、複数回ある小課題（合計 40%）、期末の発表（30 %）および期末レポート課題（30 %）を指す。
また、授業期間中の授業貢献度（クラス全体の理解を助ける質問や意欲的な取り組みなど）を 10-20 %程度取り入れる場合がある。
※出席が 2/3 に満たない場合は無条件に「不可」

【学生の意見等からの気づき】
学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。双方向性のある授業を心がけたい。
また授業時間外の学習に取り組みやすいよう、オンライン資料等の活用を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】
実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや授業システム等を利用予定。必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコン等の演算機器が必要になる。自宅に用意できない場合は登校して学習する必要が出てくる。

【その他の重要事項】
社会調査士資格認定のためのカリキュラム「C」科目に相当する。
オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。
その他の機会については初回授業でお知らせする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　社会意識、比較社会学
＜研究テーマ＞　「幸福」の社会学
＜主要研究業績＞
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series ― World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA － 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009 年.

【Outline (in English)】
Learning how to use statistical data in social science research: Beginner level.
Understand basic concepts and methods for reading, writing and drawing statistical data. Specifically, how to organize statistical data, how to read basic statistics, and how to understand and create tables and graphs. Then, also we learn how to know and describe (and read) relationships between variables. Furthermore, based on the learning about basic non-statistical (qualitative) data, encourage understanding of "data" analysis in social survey research.
Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.
Grading will be decided based on tasks: assignments 40%,presentation 30% and end-term report 30%. Maybe in-class contribution also will be considered (20% max.and in case, assignments 30% and presentation 20%).
*We use Windows PC; Excel and statistical package "R".

SOC500P2 － 057

社会調査法４

見田　朱子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既存の、あるいはオリジナルに収集されたデータセットについて、基礎的な統計処理を経てレポートを作成するまでのスキルを身につけることを目的とする。
主な内容は、既存の統計調査の検討、学術的調査と実務的調査の違い、統計の理論的背景、R の使用法などである。あわせて、数値データの解釈に必要となる現代社会の諸相についての知識も得る。

【到達目標】
本講義の到達目標は以下の４点である。
①定量的社会調査の基礎知識を得る
②定量的社会調査をともなう学術論文を理解できるようになる
③自身の論文作成において定量的社会調査を活用できるようになる
④行政、ビジネス等の実務において定量的社会調査を活用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC 操作の可能な学習室を利用予定。
2 コマ連続のクラスだが、1 コマずつ別の単元で区切る場合と、連続して 1 つの単元に取り組む場合、あるいは前半と後半を講義と実習に振り分けることなどがある。講義もだが、特に実習は遅刻や欠席によって進行についていけなくなるので留意されたい。
リアクションペーパーを兼ねた小課題、期末にはレポートと発表を兼ねた課題を出す予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	イントロダクション 社会調査と社会統計学の歴史
第 2 回	統計ソフト R の扱い方	Rの紹介と基本的な使い方 復習を兼ねて、基本統計量の算出などを確認。
第 3 回	確率論の基礎	確率分布の考え方 正規分布の意味と性質
第 4 回	R 実習 1	基本操作方法～確率と確率分布に関するコマンド
第 5 回	統計的（量的）分析の基本	データセットの取り扱いとデータクリーニングについて
第 6 回	R 実習 2	データ操作の基本・データ取得～データクリーニング
第 7 回	分布と確率	正規分布の意味と性質～二項分布
第 8 回	R実習３	表の作成と解読 正規分布曲線をはじめとしたグラフィックの基本（図の作成）
第 9 回	統計的検定の基礎	推測統計と、帰無仮説の考え方
第 10 回	検定の手順	検定の手順を確認しつつ、R を使って例題を解き、結果を解釈し文章化する。
第 11 回	各種の検定 独立性の検定 ２群間の差の検定	検定の種類外観 カイ二乗検定と t 検定
第 12 回	R 実習	カイ二乗検定と t 検定
第 13 回	回帰分析	回帰分析の考え方と手順
第 14 回	R 実習 まとめ	回帰分析の実習 成績評価にかかわるまとめ作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習は Windows パソコンで無料の統計ソフト R を使用して行う。このため、特別なスキルは必要ないが、エクセルやワードをごく一般的なレベルで使える程度のスキルが必要である。できれば R を予めダウンロードしておくこと。またパソコンスキルに自信のない受講者は事前に Windows パソコンに十分に慣れておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しないが、下記の書籍を適宜参照すると理解の助けとなる。この書籍の公開データなどを利用させてもらう予定である。
また、R の操作方法については Web 上に公開されている参考ページなどを交えて適宜紹介する。
杉野勇『入門・社会統計学: 2 ステップで基礎から [R で] 学ぶ』法律文化社, 2017 年.

【参考書】
石川淳志他編 1998,『見えないものを見る力――社会調査という認識』八千代出版
G.W. ボーンシュテット／ D. ノーキ著, 海野道郎・中村隆監訳, 1992,『社会統計学―社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社.

【成績評価の方法と基準】
実習的な小課題 30 %
授業中の理解・貢献状況 10 %
期末レポート・発表 60 %
で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・実習の進行について、パソコンに慣れていないと「早すぎる」と感じられるかもしれない。不安を感じる場合は、受講までにパソコンにできるだけ慣れておくことが望ましい。エクセルが一応使えるというレベルを念頭においている。
・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては初回授業で相談のうえクラス運営をする予定である。
・社会調査法１～３（特に３）は、必須ではないが既習であることが望ましい。例年、「３」より先に本講「４」を履修したいという相談がある。履修予定等さまざまな事情はあるだろうから、できる限り対応したいと思うが、理解度としてはやはり難しいところがあると感じている。「３」からは積み重ねの関連性が非常に高い科目なので、非常な努力の覚悟が必要になる。履修相談に来るのは構わない。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（Windows）および周辺機器。Mac や Linax でも履修可能だが、授業は Windows を前提として行う。iPad 等のタブレット端末は使用できない。Excel もしくはこれと同等に使用できる表計算ソフト。ただし Excel 以外のソフトを使用する場合、それに合わせた特別な指導や補助はできない。
できれば R をインストールしておくこと。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　社会意識、比較社会学
＜研究テーマ＞　「幸福」の社会学
＜主要研究業績＞
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series ― World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA － 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009 年.

【Outline (in English)】
This course introduces the skill of quantitative research data.
We will study about technics to analyze statistical data and social research plan. At the end of the course, participants are expected to understand the difference between academic and practical research, theoretical background of social statistics, and be able to analyze statistical data using R.
Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.
Grading will be decided based on assignments 30%,end-term report and presentation 60% and in-class contribution 10%.

SOC500P2 － 058

社会調査法５

竹元　秀樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的な調査と分析の方法についてより深く学び、基本的な質的調査計画が設計できることを目指す。そのために、さまざまな質的データの収集と分析の具体的方法について理解を深め、実践に役立つ知識を身に付ける。とくにフィールドワークで必要な技法や倫理的な問題についての知識を習得する。

【到達目標】
1. 質的調査におけるデータ収集の基本手法である、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析について、各手法の利点と問題点を説明できる。
2. 質的調査の分析技法である、インタビュー分析、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析、内容分析、ビジュアルデータ分析について、各技法の内容を説明できる。
3. 質的調査の実施に向け、基本的な調査計画が設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
1. まず、質的調査の考え方と設計の仕方について解説する。
2. つぎに、フィールドワークの基本的な質的調査手法である、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析の各項目について、事例を使って具体的な解説を行い、質的データの収集・分析方法について理解を深める。
3. さらに、分析結果の提示（論文・報告書の発表）を念頭におき、被調査者との関係など倫理的な問題についての理解を促す。
授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論１：社会調査の全体像	・社会調査と質的調査の定義／目的 ・質的調査と量的調査の定義／種類／特徴
2	総論２：方法論的スタンスの識別	・方法論的スタンス（個人主義／集団主義）の自己把握と客観性問題
3	総論３：質的研究の意義と特性	・質的研究の現在的特徴と意義 ・帰納的研究および「中範囲の理論」の重要性
4	質的調査の設計―調査研究のプロセス	・質的調査のプロセス ・「問い」「仮説」の設定の重要性と問題点 ・先行研究との関連性
5	フィールドワーク１―社会的生活の記述	・質的調査におけるフィールドワークの流れ ・フィールドワークの論点
6	フィールドワーク２―事例の俯瞰的把握	・先行研究事例の構造とプロセス ・事例の評価と限界
7	質的データの収集１―聞き取り調査	・聞き取り調査の意義と限界 ・インタビューの種類 ・聞き取り調査のプロセス
8	質的データの収集２―参与観察	・参与観察の利点と問題点 ・「問い」の設定時期
9	質的データの分析１―さまざまな分析技法	・ドキュメント分析／ライフヒストリー分析／内容分析／会話分析／ビジュアルデータ分析の特性
10	質的データの分析２―ライフヒストリー分析	・ライフヒストリー分析の特徴と意義 ・先行研究の解読
11	グループワーク１―映像データによる疑似体験	・「問い」と「仮説」の設定 ・質的調査計画の策定
12	グループワーク２―疑似体験を通じての討論	・「仮説」の発表と立証 ・先行研究との対話
13	調査結果のまとめ方と発表での活用	・論文／報告書の作成 ・発表での活用事例の検証
14	調査倫理―成果の公表とその問題	・調査倫理規定 ・プライバシー保護 ・被調査者保護をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。
なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】
都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 1・2・3・6・8」

【専門領域】
地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】
現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】
単著『祭りと地方都市―都市コミュニティ論の再興』2014 年，新曜社.
共著『よくわかる都市社会学』2013 年，ミネルヴァ書房.
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件―異質的なコミュニティ・ビロンギングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号，2021 年.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn about specific methods of collecting and analyzing qualitative data.
By the end of the course, students should be able to explain specific methods of qualitative research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P2 － 059

社会調査法６

竹元　秀樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学および政策科学の研究の実際場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する調査の方法論と有機的に結びついたかたちで、調査をデザインしてデータを収集／分析する思考法を実践的に習得する。とくに調査企画・設計のプロセスに主軸をおいた、量的調査と質的調査の両面からの実習体験を通じて、さまざまな社会調査手法の利点／欠点、意義／限界について理解する。そして最終的に、受講者が各自の問題関心に応じた調査デザイン（データ収集／分析手法）を構想・発表し、相互討論を通して洗練することを試みる。

【到達目標】
1. 社会調査の実施に向け、社会データを収集／分析するための実践的な思考法を身につけている。
2. 量的調査の基本的な企画・設計ができ、それに基づいて比較的簡単な量的分析とグラフ作成を行える。
3. 社会調査の方法論的立場を認識して、質的調査の基本的な企画・設計ができる。
4. 受講生各自の問題関心に基づく調査計画、およびその調査に基づく修士論文の執筆計画を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
1. 総論として、社会学および政策科学の社会調査について、そして社会調査のプロセス・諸類型・倫理について解説する。
2. グループワークによる実習を中心にして、量的調査の基本的な企画・設計と簡単な量的分析を行う。
3. グループワークおよび個別単位での実習を中心に、質的調査の基本的な企画・設計と方法論的立場の違う質的先行研究の分析を行う。
4. 受講者各自の問題間に基づく調査デザインの発表と相互討論を実施する。
授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論１：社会学・政策科学と社会調査	・調査背景、調査目的、意義と限界
2	総論２：社会調査のプロセス	・企画から報告書の作成まで ・データの収集と分析
3	総論３：社会調査の諸類型	・量的調査／質的調査、混合研究法、デジタル・サーベイ
4	総論４：社会調査の倫理と真正性	・ラポールの構築 ・調査に特有の倫理
5	グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計１	・調査テーマの設定 ・仮説構成 ・サンプリングの対象・方法
6	グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計２	・調査票の作成 ・ワーディング、プリテスト ・企画・設計内容の発表
7	調査票調査の既存データを利用しての簡単な量的分析１	・調査データの整理 ・度数分布表・ヒストグラム・円グラフの作成
8	調査票調査の既存データを利用しての簡単な量的分析２	・クロス集計分析 ・分析結果の発表
9	事例の映像データから構想する質的調査の企画・設計１	・データの収集方法 ・聞き取り調査 ・社会構造主義／構築主義
10	事例の映像データから構想する質的調査の企画・設計２	・ライフヒストリー分析 ・会話分析 ・企画／設計策定結果の発表
11	質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較１	・研究目的の相違 ・先行研究の批判的視点 ・調査手法の組合せと限界
12	質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較２	・方法論的個人主義／集団主義 ・参与観察の利点 ・マルチメソッド法の効用
13	総括的討論１	受講者各自の問題関心に基づく調査デザインの発表と相互討論①
14	総括的討論２	受講者各自の問題関心に基づく調査デザインの発表と相互討論②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。
なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】
都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
第 1 回目の講義時に確認する。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 1・2・3・5・8」

【専門領域】
地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】
現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】
単著『祭りと地方都市―都市コミュニティ論の再興』2014 年，新曜社.
共著『よくわかる都市社会学』2013 年，ミネルヴァ書房.
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件―異質的なコミュニティ・ビロンギングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号，2021 年.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn about planning and design of social research by practical training.
By the end of the course, students should be able to make a research plan based on each student's interests in problems.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P2 － 050

社会調査法７

見田　朱子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
昨今、統計パッケージの普及によって、複雑な統計解析も容易に行えるようになってきた。しかしその反面、それぞれの統計手法の基礎や特徴を理解しないまま分析がされることも少なくない。
そこで本講義では、統計学の基礎を確認しつつ、まずは分散分析と線形回帰モデルの学習を通じて、交互作用項を中心とした多変量解析の基本的な考え方を学ぶ。さらに線形回帰モデルとの差異に注目しながら、ロジスティック回帰分析について学習する。また、探索的分析手法として主成分分析と因子分析についても学ぶ。
これらの分析手法は、統計パッケージ R による実習を通じて、実践的に修得することが目指される。またその際には、統計パッケージの単なる使用方法の習得ではなく、各手法の考え方やその結果の意味を理解することに重点を置く。

【到達目標】
本講義の目標は、線形回帰モデルなどの学習を通じて、多変量解析の基本的な考え方までを修得することである。
座学と実習を通じて各分析手法の考え方や仮定について理解し、自ら説明できるようになることが目標である。それと同時に、統計パッケージ R を用いた実習によって、実際に分析するための技術の修得も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本講では、対面の講義と実習を通じて多変量解析の考え方や仮定について学習する。各回の授業は講義とともに適宜統計パッケージの操作実習をはさむことで理解を深める形でおこなう予定である。
表計算ソフト Excel のほか、統計ソフトとしては無料の R を用いる。R については基本的な操作方法から確認するので初見でも構わないが、統計的（量的）分析については社会調査法３、４などで推測統計の基礎までは学んでいることが望ましい（必須ではない）。
履修人数にもよるが、都度の質問や対話やメール・学習支援システムの機能等によって補足をしていきたい。リアクションペーパーは対面の場合のみ予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	多変量解析に向けた準備 1	社会学と多変量解析、R 紹介と復習を兼ねて、基本統計量の算出方法。標準化、共分散と相関係数について。
2	多変量解析に向けた準備 2	R の操作に慣れつつ、統計的推測と仮説検定、検定の全体図を確認。
3	分散分析	多変量解析の基本的な考え方。分散分析の基本。級内平均と級間平均、一元配置、多元配置、実習
4	線形回帰分析と最小二乗法（OLS）	線形回帰分析における仮定
5	基本統計量と OLS 推定量の関係	分散分析表の読み方や決定係数について学習
6	重回帰分析	統制・偏相関、多重共線性、修正済み決定係数、結果の t 検定・F 検定
7	実習と補足：分析の準備～結果の解釈	ダミー変数とその作り方、直接効果と間接効果、交互作用
8	ロジスティック回帰分析の基礎	オッズとロジット、回帰係数の解釈、回帰係数とモデルの検定
9	分析方法の整理	仮説検定のための分析と、探索的分析
10	主成分分析と因子分析	考え方の基礎、主成分、潜在因子と観測因子、因子負荷量、寄与率
11	主成分分析の実習	主成分分析表の図示と解釈
12	因子分析の実習	因子分析表の解釈
13	データの選び方、分析方法の選択方法、補足	「データ」について、判別分析とクラスター分析の紹介
14	まとめ	まとめと成績評価にかかわる作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
杉野勇『入門・社会統計学: 2 ステップで基礎から [R で] 学ぶ』法律文化社, 2017 年.
（データ資料を利用します。web 上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布するので、初回授業では未購入で構いません。）

【参考書】
G.W. ボーンシュテット／ D. ノーキ著, 海野道郎・中村隆監訳, 1992, 『社会統計学―社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社.
盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.
『入門・社会統計学』サポートウェブ（http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html）
R Tips (http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips/r.html)
他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献と理解度（20 %）と課題（80 %）によって評価。
授業への貢献と理解度とは、クラス全体の理解を促す質問、意欲的な取り組みなどを指す。
課題は授業期間中に 1 － 2 回の小課題および期末レポートとする。人数によっては、発表も取り入れる。
※出席が 2/3 に満たない場合は自動的に「不可」となる。

【学生の意見等からの気づき】
・学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。双方向の授業を心がけたい。
・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては初回授業で相談のうえクラス運営をする予定である。

【学生が準備すべき機器他】
実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや授業システム等を利用予定。必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコンおよび周辺機器、Excel と R のインストールが必須となる。自宅にこれらを準備できない場合は学校の設備を利用するために登校するなどの必要がある。
R のインストールは授業での案内後でもよい。

【その他の重要事項】
専門社会調査士資格認定のためのカリキュラム「I」科目に相当する。
シラバス内容にある通り、多変量解析とその応用を扱う。推測統計の基礎については理解していること、少なくとも履修済みのものとして授業を進めるため、未履修あるいは同時並行して学習することは望ましくない。ただし、自信がない程度であれば本講を是非履修して、分析技術を実用的なものとしてほしい。
オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。
その他の機会については初回授業でお知らせします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　社会意識、比較社会学
＜研究テーマ＞　「幸福」の社会学
＜主要研究業績＞
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series ― World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA － 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009 年.

【Outline (in English)】
Advanced class: Social statistical analysis (multivariate data analysis)
We learn:
Interaction term through variance analysis and linear regression model, then logistic regression analysis, at last, exploratory analysis method – principal component analysis and factor analysis.
It is a practical class using a statistical package soft "R".
Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.
Grading will be decided based on in-class contribution 20% and on tasks 80%; including assignments and end-term report, and maybe presentation (depends on class size).

SOC500P2 － 051

社会調査法８

竹元　秀樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的調査に関する基礎的理解を踏まえた上で、様々な質的データの分析法を疑似体験を通じて理解する。特にグループワークにより、インタビュー分析、アートベースリサーチ分析、ドキュメント分析、内容分析、会話分析、混合研究法等における実践的な分析能力を、意識と感性の両レベルから習得する。
また、質的データの収集方法から分類化される、それぞれの質的調査手法の分析局面における限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てる能力を獲得する。
そして、最後に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し議論する。

【到達目標】
1. 質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題について概要を説明できる。
2. インタビュー分析、会話分析、内容分析、グラウンデッド・セオリー分析の特性を理解の上実践できる。
3. 質的データの分析結果を、中範囲の理論の構築へとつなげることができる。
4. 質的調査の各手法の限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
1. 総論として、質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題について解説する。
2. グループワークによる実習を中心にして、フィールドワークの映像データやアートベースリサーチを活用しての質的分析を行う。
3. グループワークの実習を中心にして、ドキュメント分析、内容分析、会話分析、マルチメソッド分析を行う。
4. 最後に、質的分析という研究作業の仕組みを実践的な観点から議論・総括する。
授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総論 1:質的調査とは何か	・社会調査／質的調査の意義・目的、量的調査との違い
第 2 回	総論 2:質的調査の調査技法―質的データの収集とプロセス	・フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析
第 3 回	総論 3:質的調査の分析技法―質的データの分析と知見の抽出	・インタビュー分析、内容分析、ライフヒストリー分析、会話分析、アートベースリサーチ
第 4 回	総論 4:質的調査の倫理問題	・聞き取り調査でのラポール形成、参与観察での立ち位置
第 5 回	フィールドワークの映像データを活用しての質的分析 1	・聞き取り調査／参与観察の疑似体験、フィールドノートの作成、収集したデータの把握
第 6 回	フィールドワークの映像データを活用しての質的分析 2	・KJ 法によるデータの整理と分析、分析結果の発表と討論
第 7 回	アートベースリサーチを活用しての質的分析 1	・他者の語りをなぞる演技―意識レベルから感性レベルでの体験からの把握
第 8 回	アートベースリサーチを活用しての質的分析 2	・他者の語りをなぞる作画―作画意識の相対化から主体化への変容からの把握
第 9 回	ドキュメント分析の実践	・地域活動家の語り―テキストデータから見えてくるもの
第 10 回	内容分析の実践	・テレビドラマと原作の表現相違―映像データから見えてくるもの
第 11 回	会話分析の実践	・社会構築主義に基づく論文―会話データから見えてくるもの
第 12 回	マルチメソッド分析の実践	・混合研究法による研究事例―研究デザインのデータから見えてくるもの
第 13 回	総合討論 1	・受講者各自の問題関心に基づく質的調査デザインの発表と討論
第 14 回	総合討論 2	質的調査の分析における実践的課題と取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。
なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】
都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 1・2・3・5・6」

【専門領域】
地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】
現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】
単著『祭りと地方都市―都市コミュニティ論の再興』2014 年，新曜社.
共著『よくわかる都市社会学』2013 年，ミネルヴァ書房.
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件―異質的なコミュニティ・ビロンギングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号，2021 年.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a performance in their qualitative research.
By the end of the course, students should be able to acquire the practical skills and knowledge in their qualitative research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

POL500P2 － 052

政策分析評価技法

阿部　一知

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①公的主体が実施する経済政策の効果について、経済学的な分析方法の枠組と手順を理解
②日本あるいは海外の経済政策のいくつかの例を取り上げ、目的・効果の分析方法と結果を議論
③政策・プロジェクト評価手法の概略について理解

【到達目標】
公共経済学に基づいた政策評価の基本的枠組を入門的に理解する。代表的手法として費用便益分析の基本的考え方を学ぶ。政策評価の手順に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
全体 7 回程度の講義において、最初の 4 回程度は、公共的な政策の分析の枠組と手順について教科書に沿って紹介する。基本となるのは、厚生経済学を適用した公共経済学に基づいた理論である。また、その応用分野として、費用便益分析などのプロジェクト評価や、政策の評価手順などについても触れる。これらは講義と質疑を中心とする。
残り 3 回程度程度は、実際の政策を取り上げて、ディスカッションを行いながら事例研究する。具体事例は、学生の希望を取りながら選択する。原則として、1 週間前に材料を示すので、それに基づいた準備があることを前提に講義する。
講義は原則対面で行う。毎回の講義で、学生の理解の確認のため課題を提示し、ディスカッションすることで理解を深める。また、フォードバックとして、メールで直接学生と質問応答や追加説明を行う。
講義は対面とオンラインで行う。毎回の講義で、学生の理解の確認のため課題を提示し、ディスカッションすることで理解を深める。また、フィードバックとして、メールで直接学生と質問応答や追加説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、政策分析の基本的な考え方	科目の全般的な内容、講義の進め方、教科書の説明。
第 2 回	分析の手順	ストーキー教科書第１章
第 3 回	政策分析の手法（外部性モデル、選好の定義など）	厚生経済学の基礎の説明。 政策決定モデルの紹介。 ストーキー教科書第２～３章、第６章。
第 4 回	政策分析の手法（外部性モデル、選好の定義など）	厚生経済学の基礎の説明（続き） 政策決定モデルの紹介。 ストーキー教科書第２～３章、第６章。
第 5 回	政策分析の手法（費用便益分析入門など）	費用便益分析一般の説明。 ストーキー教科書８～１０章。
第 6 回	政策分析の手法（費用便益分析入門など）	費用便益分析一般の説明（続き） ストーキー教科書８～１０章。
第 7 回	政策分析の手順、公共選択、公共主体が政策を実施する根拠	公共選択理論の説明。 ストーキー教科書１１～１３章。
第 8 回	事例研究の準備	事例研究のテーマ希望聴取など準備。
第 9 回	政策分析の手順など確認。	政策分析の手順（問題確定、選択肢提示、効果分析、評価）
第 10 回	事例研究 (1)	事例研究：具体的な政策（教員が提示）を取り上げて研究
第 11 回	事例研究 (2-1)	事例研究：具体的な政策を取り上げて研究
第 12 回	事例研究 (2-2)	事例研究：具体的な政策を取り上げて研究
第 13 回	まとめ、補足的なディスカッション	全体のまとめ。
第 14 回	まとめ、補足的なディスカッション 筆記試験（あるいはレポート）	全体のまとめ。 筆記試験（レポートとする場合は、レポートの作成についての説明）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の講義で、指示された資料・教科書該当ページを事前に読む。また、必要に応じて参考資料を参照する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ストーキー、ゼックハウザー「政策分析入門」　勁草書房

【参考書】
指定教科書よりも網羅的・体系的でないが、より新しい教科書として、バーダック「政策立案の技法」東洋経済新報社、を勧める（講義でも一部使用する）。その他の資料は、授業中に適宜指示する。配布できる資料は、ウェブで公開する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の参加（20 %）と期末試験（80 %、レポートにする場合もある）

【学生の意見等からの気づき】
事例研究をより幅広く行うため、課題の学生からの希望聴取を、第２回目から口頭でも行うこととした。

【担当教員の専門分野】
経済政策（貿易投資の経済効果、マクロ経済対策など）、応用経済学（応用計量経済モデルを含む）。研究者データベース参照
https://ra-data.dendai.ac.jp/tduhp/KgApp?kyoinId=ymkkgkysggy

【Outline (in English)】
【Course outline and Objectives】
The students are:
1. to understand the framework and procedures to analyze the economic effects of public policies,
2. to discuss several examples of economic policies in Japan and other countries, on their objectives and scope,
3. to understand policy/project evaluation methods.
As the goal, the students are to understand the basic framework of the policy evaluation, based on the public enoconomics, including the cost-benefit analysis. In addition, the students are to be accustomed with the procedures of policy evaluation.
【Learning activities outside of classroom】
None
【Grading Criteria /Policy】
Participation in the class (20%), final exam (80%, The exam may be replaced with submission of research reports).

SOS500P2 － 055

地域コンサルティング論

佐谷　和江

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①本講義では地域コンサルティングの具体的なケースについて、発意・背景、コンサルティングの過程、成果・課題を分析・評価して提示する。
②また、コンサルティングに関する手法の演習を行う。
③さらに、地域自治やローカルガバナンスという枠組みの中で、実現のための体制やシステムのあり方、その中での地域コンサルティングの位置づけなどについて、方向性を示す。

【到達目標】
①地域コンサルティングの理論や方法論を実践的に学び、それを踏まえて、他事例について説明することができる。
②基礎的な地域コンサルティング能力を習得することができる。加えて、コンサルティングという職種研究を通じてキャリアデザインの一助とすることができる。
③地域コンサルティングの位置づけやシステムのあり方について、討論を重ねる。その結果、ローカルガバナンスについての自説を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
コンサルティングとは、専門性を活かして、企業や行政などに対して外部から客観的に現状を把握し、問題点を指摘し、対策案を提示する業務を行うことである。 地域コンサルティングは、自治体や住民に対して行うことが多い。ローカルガバナンスの主体である住民、ＮＰＯ、行政、企業とは異なり、意志決定に参画するものではないが、それらに与える影響は小さくない。
本講義ではケーススタディや手法のスタディ・演習を行う中で、地域コンサルティングに関する理論や方法論を実践的に学ぶ。
授業形式（対面）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義概論	授業の概要や地域コンサルティングにおいて重要なキーワードを紹介する。手法としては「話し方」を学ぶ。
2	全市レベルの計画作成を支援するコンサルティング	練馬区や港区をケースに全市レベルの計画作成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション」を学ぶ。
3	地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティング	新宿区落合三世代モデル事業をケースに地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション・グラフィックス」を学ぶ。
4	地縁型・テーマ型コミュニティ組織のコンサルティング	横浜市まち普請事業や川崎市の区民会議等をケースに地縁型・テーマ型コミュニティ組織のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ロールプレイング」を学ぶ。
5	地域活性化（コミュニティビジネス）のコンサルティング	墨田区玉の井地区をケースに地域活性化のためのコミュニティビジネスへのコンサルティングを学ぶ。手法としては「プロセス・デザイン」を学ぶ。
6	社会貢献する人材育成のコンサルティング	江戸川総合人生大学をケースに社会貢献する人材育成のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ワークショップのプログラム作成」を学ぶ。
7	講義の総括とレポート発表	これまでの講義の総括を行う。また、各自レポートを発表し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各ケースのＵＲＬを下記に示すので、事前に概要を把握する。
○第２回：練馬区都市計画マスタープラン改定支援/12 ～ 15 年度
http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/
港区まちづくりマスタープラン改定支援/15 ～ 16 年度
https://www.city.minato.tokyo.jp/sougoukeikaku/kankyo-machi/toshikekaku/kekaku/master-plan.html
○第３回：新宿区落合三世代モデル事業/06 年度～ 08 年度
http://wp.3sedai.com/
○第４回：横浜市まち普請事業　左近山地区/07 年度
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/machibusin.html
川崎市「区民会議運営」/10 年度～
http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000017573.html
○第５回：墨田区玉の井地区/08 ～ 11 年度
https://teratama.tokyo/
http://ameblo.jp/tamanoicafe/
○第６回：江戸川総合人生大学/04 年度～現在
http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

【参考書】
①都市のイメージ／ケヴィン・リンチ／ 1960、翻訳 1968、新版 2007 ／岩波書店
②アメリカ大都市の死と生／ジェイン・ジェイコブス／ 1961、翻訳 2010 ／鹿島出版会
③人間の街: 公共空間のデザイン／ヤン・ゲール／ 2014 ／鹿島出版会
④まちづくりキーワード事典／三船康道＋まちづくりコラボレーション／ 2009 ／学芸出版
⑤稼ぐまちが地方を変える　誰も言わなかった１０の鉄則／木下 斉／ 2015 ／ＮＨＫ出版新書

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %：地域コンサルティングに関する理論や方法論を積極的に学んでいるか。
討論への参加 40 %：基礎的なコンサルティング能力の習得のための演習等に積極的に取り組んでいるか。
レポート・発表 30 %：地域コンサルティングの位置づけなどについて、具体的なケースを踏まえて方向性を検討し、発表してもらうが、その際、適切なケースを把握し、十分に考察を行っているか。

【学生の意見等からの気づき】
紹介する事例を更新するとともに、それぞれのケースにおいて、各主体の関わり方をわかりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
都市計画、地域計画、コミュニティマネジメント
＜研究テーマ＞
自治体の都市政策、コミュニティのエンパワーメント、地区計画制度
＜主要研究業績＞

○「パンデミック × デジタル空間・グローバル社会」で続けるべきこと／ 2021 ／建築ジャーナル
○都市計画の構造転換　整・開・保からマネジメントまで／ 2021 ／鹿島出版会
○ BIOCITY No.74 特集 エコロジカル・デモクラシーのデザイン―世界をつなぐ 15 の原則／ 2018 ／ブックエンド
○ 60 プロジェクトによむ日本の都市づくり／ 2011 ／朝倉書店

【Outline (in English)】
● Course outline
① In this lecture, you will learn specific examples of regional consulting.
② We will also practice consulting methods.
③ In addition, we will discuss the structure of the system and the role of regional consulting within the framework of local autonomy and local governance.
● Learning Objectives
The first goal is to learn the theory and methodology of regional consulting in a practical manner and be able to explain about other cases based on this learning.
The second goal is to acquire basic regional consulting skills. In addition, students will be able to consider their own career design by researching the consulting profession.
The third goal is to discuss the positioning of regional consulting and how the system should be. As a result, students will be able to explain their own theory of local governance.
● Learning activities outside of classroom
You are expected to understand the outline of each case in advance by referring to the Internet.
The standard preparation and review time for this class is 2hours each.
● Grading Criteria /Policy
Ordinary points (30%)
Evaluate by actively learning theory and methodology
Participation in discussion（40 %）
Evaluate whether you are actively engaged in exercises for acquiring basic consulting skills
Report and presentation (30%)
The report will be considered based on specific cases of regional consulting. At that time, evaluate whether it is an appropriate case and whether it is sufficiently considered.

SOS500P2 － 056

ファシリテーション演習

徳田　太郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複雑化・多様化する社会における政策プロセスに必要なスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本科目においては、政策過程における参加や熟議の位置づけ、その中でのファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】
・参加者主体の合意形成や課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
・政策過程における参加や協働の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
・演習での体験を通じ、多様な人々の個性を活かし、ともに協力しあうチームを育んでいくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面授業にて実施する。各回とも、講義と演習を織り交ぜながら進める。
・第 1 回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
・第 2 回：講義と質疑応答を中心に、政策過程と参加・熟議の関連を学習する。
・第 3～4 回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
・第 5 回～第 10 回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
・第 11 回～第 13 回：それまでに学んだスキルとこころを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
・第 14 回：まとめの講義を行う。
＊各回とも、各授業時間の最後の 10 分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 (1-前)	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
第 2 回 (1-後)	政策過程と参加・熟議	政策過程におけるファシリテーションの位置づけを確認する（講義）
第 3 回 (2-前)	ファシリテーションとは何か	ファシリテーション・ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
第 4 回 (2-後)	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
第 5 回 (3-前)	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
第 6 回 (3-後)	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
第 7 回 (4-前)	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
第 8 回 (4-後)	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
第 9 回 (5-前)	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
第 10 回 (5-後)	話しあいの場をホールドする技術③意見の吟味	意見の集約方法を学ぶ（講義・演習）
第 11 回 (6-前)	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
第 12 回 (6-後)	ファシリテーション実践①	参加型の場（ミーティング）の運営を体験する（演習）
第 13 回 (7-前)	ファシリテーション実践②	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
第 14 回 (7-後)	まとめ	全体のまとめを行う（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第 2 回～第 4 回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にする。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理する。（予習・復習各 120 分程度）
・第 5 回～第 10 回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備する。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめる。（予習・復習各 120 分程度）
・第 11 回～第 13 回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨む。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解する。（予習・復習各 120 分程度）

【テキスト（教科書）】
徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法』（北樹出版、2021 年、1,600 円＋税、978-4-7793-0652-5）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】
・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・冨岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』（岩波書店、2009 年）
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016 年）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に記した 3 点について、各回の振り返りシートの質と量（約 50%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約 50%）から、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でファシリテーター（進行役）を体験する機会を、より多く持てるように工夫する。

【その他の重要事項】
受講者同士の話しあいを中心にした体験型の授業です。受講希望者は、必ず第 1 回授業に出席してください。やむを得ない事情で第 1 回授業に出席できない場合には、事前にメールにて担当教員にご連絡ください（宛先：taro.tokuda.83@hosei.ac.jp、件名：法政大学大学院ファシリテーション演習）。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
政治理論（デモクラシー論）／ファシリテーション論
＜研究テーマ＞
熟議デモクラシーの理論と実践／その中でのファシリテーションの位置づけ
＜主要研究業績＞
・「アイルランドの憲法改正における熟議と直接投票」『法學志林』118 巻 3-4 号、2020-2021 年
・「対話／熟議の場を生成するファシリテーション」『総合人間学』14 号、2020 年
・『はじめての地域づくり実践講座：全員集合！ を生み出す 6 つのリテラシー』（分担執筆）北樹出版、2018 年

【Outline (in English)】
（Course outline）
Facilitation is one of the skills and mindsets necessary for the policy process in an increasingly complex and diverse society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this class, you will understand and acquire the position of participation and deliberation in the policy process, the significance of facilitation in this process, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.
（Learning Objectives）
1. You will be able to explain the methodology of participant-centered consensus building and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to participation and collaboration in the policy process.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of diverse people and cooperates together.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following; short reports: 50%, in class contribution: 50%.

POL501P2 － 057

政策研究概論（外国語）※韓国語

申　龍徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の公共政策の仕組みと運用に関する理解

【到達目標】
この授業は、主に韓国からの留学生を対象とし、母語語（韓国語）により、日韓比較の視点から、日本の政治行政システムの基礎的な知識を説明し、日本の公共政策の制度的基盤や基本的な仕組みなどに関する基礎的知識の理解を目指す。この知識の活用により、より効果的な比較分析を行い、完成度の高い論文執筆ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、日本の政治行政に関する基礎的な知識の習得を目指し、政治体制・行政システム・地方自治制度・公務員制度・公共事業などテーマごとに基本的な仕組みと現況を説明し、受講者の質疑に応答する形式で進める。受講者の登録状況を勘案し、日本語と韓国語を兼用する。
原則として対面で授業を実施すること、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンラインに切り替える。
受講生には、期末に課題レポートの提出及びその発表を求め、質疑応答を行う。課題レポートについては、学際的なコメントを付けてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1 回目	歴史	明治維新、戦後改革
2 回目	体制	憲法、議院内閣制
3 回目	国会	国会の構成と政党制
4 回目	選挙	選挙制度の仕組みと現況（国・地方）
5 回目	55 年体制 55	自民党の長期政権の形成と崩壊
6 回目	行政	行政組織の構成と役割
7 回目	行政改革 A A	行政改革の歴史と内容
8 回目	行政改革 B B	省庁再編と行政改革
9 回目	自治制度	地方自治法と自治体改革
10 回目	地方分権	地方分権改革の内容
11 回目	少子高齢化社会	少子高齢化の現況と対策
12 回目	政策過程	政策決定と執行のプロセス（予算策定プロセス等）
13 回目	公共事業	公共事業の仕組み
14 回目	公務員制度	国家公務員・地方公務員の法制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。2

【テキスト（教科書）】
事前にレジュメや参考資料などをアップする。

【参考書】
レジュメ及び関連する参考資料をアップする。

【成績評価の方法と基準】
参加度（50 %）と理解度（50 %）よる絶対評価

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントによる講義を基本に、受講者との質疑応答を交えながら進める。

ppt

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、比較行政
＜研究テーマ＞比較自治行政、公共空間形成
＜主要研究業績＞
①『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版局、2013）
②『韓国行政自治入門』（単著、公人社、2006）
③「日韓の地方公務員制度比較に関する予備的考察–＜民主性＞と＜能率性＞の交差」『法學志林』（105 － 1、法政大学、2007）
④「住民参加制度の日韓比較」『自治総研』（33-6、通号 344、地方自治総合研究所、2007）
⑤「市民活動の法制度と支援に関する日韓比較」『自治総研』（33 - 4、通号 342、地方自治総合研究所、2007）

【Outline (in English)】
Understanding of Japanese public policy mechanism and operation
Creating a highly accurate master's thesis in Japanese
Read the reference materials carefully
Evaluate attendance and high motivation

POL502P2 － 057

政策研究概論（外国語）※中国語

毛　桂榮

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策に関する基礎文献を中国語で講読することを中心に勉強し、学生が政策分析の基礎を固めることができるように教授します。

文献は、日本語、中国語、英語のものですが、履修者と相談しながら、適宜変更もします。また、学生の要望にできるだけ応えるように日程の調整もします。しかし、基礎文献を理解することが大事で、じっくり資料を理解することを薦めます。

ゼミの進行に関しては、基本的に中国語をもって行いますが、適宜、日本語も使用します。

なお、この科目は公共政策論を中国語を利用しながら、公共政策論の専門科目を勉強するようにカリキュラムを設定しており、中国語を勉強することを目的にした授業ではありません。この点に関しては、十分理解してください。

【到達目標】

以下の内容、提示する基礎文献を基本にじっくり「読解」します。資料・論文を要約した上で議論をする形で進めます。半年、基本文献１５本以上を熟読するようにします。

言葉・概念の問題だけではなく、社会科学における議論の仕方、論文の書き方も含めて、資料を利用しながら、解説し討論します。

ゼミの最終回（適宜調整）に関しては、学生が関心する政策課題を事例として、研究発表を行う予定にしています。政策研究の手法を修得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本は、対面授業です。

（1）新型肺炎の流行により、一部オンライン授業はあるが、本ゼミは、法政大学の方針に則り、「対面」を基本とする予定です。

（2）もちろん、柔軟に「オンライン」も必要に応じて調整します。

（3）また、ゼミの進め方は：基本文献の要約からスタートし、議論を深めていきます。資料の事前予習、また関連文献の復習・勉強も必要です。基本文献を中心に、関連する分野の研究資料なども、ある程度把握できるようにしていきましょう。最後は、各自の発表をもって基礎修得の確認をおこないます。

（4）勉強に関する質問は、（本システム、あるいは LINE を通じて）常時受付ます。また、ゼミでは質疑応答の時間も用意します。さらに、報告、提出するレポートに関しても、随時、コメントを返しますので、利用をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	予定の打ち合わせ。また大学院の勉強についても相談。履修する場合、本システムにアップスする資料を確認すること。事前相談する場合：maoguirong@g メールで連絡すること。	文献「若い大学院生へ」を事前配布、当日討論、勉強についての相談。学生のフィールドワークに関して相談も可能。
第 2 回	行政学の研究史、公共政策論の先行研究について	配布資料を踏まえて議論：資料「行政学の歴史」など資料を配布、中国語資料もある。
第 3 回	行政学の歴史における公共政策研究	西尾行政学第４章、日本語と中国語を講読。
第 4 回	さらにもう一つ専門文献を読む	行政学の基礎概念所収「行政と組織」論文など行政、政策と管理などの論文を読む。参照：「組織と行政」１書も必要文献。
第 5 回	USA PA 歴史。英文資料を読む。	英文資料を持って勉強。公共政策研究の歴史も確認。
第 6 回	公共政策論研究の歴史、並びにガバナンス概念に関する英文資料一つ読解	資料「アメリカ公共政策論の台頭」を講読。また英文：Reflections on governance。状況に応じて、この勉強を 2 回に分けて進めることも可能
第 7 回	日本の行政学研究と教育	中国語資料「日本行政学史」（公開資料論文、毛）
第 8 回	日本の公共政策研究の歴史	「日本の公共政策研究」論文を読む。日本公共政策学会の機関誌に掲載された論文に関する分析論文、中国語論文も参照。
第 9 回	「公共性」概念の研究	論文「公共性」に関する論文、または、「公共政策とは何か」を読む。
第 10 回	decision theory「非決定」、「権力の 3 つの顔」の概念	英文資料、日本語資料を講読。
第 11 回	政策形成における政治家と官僚	Bureaucrats and Politicians in Western...1981 の終章を読む。毛「政府と行政」も参照。
第 12 回	官僚制の概念	資料「官僚制への視点」今村「行政学の基礎理論」所収を読む。西尾「新版・行政学」官僚制論 2 章も参照。
第 13 回	政策リサーチ手法	東大出版「政策リサーチ入門」の文章２つ：事例研究
第 14 回	学生の各自発表、フィールドワーク調査の結果を踏まえて	研究発表。学生が関心する課題について分析・発表。修士論文などの検討・相談も可能。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西尾『行政学の基礎概念』（東大出版。（毛が参加した）中国語譯もあり、法政大学の図書館にも所蔵あります。一部資料は配布する予定です）、また、今村『行政学の基礎理論』（三領書房）、秋吉ほか「公共政策学の基礎」（有斐閣、最新版）、伊藤修一郎「政策リサーチ入門」（東大出版）のほか、配布する資料を必ず読むこと。

【参考書】

日本公共政策学会の機関誌を読むこと

【成績評価の方法と基準】

授業での報告４０％、討論６０％で総合評価する

【学生の意見等からの気づき】

１、大量に読書すること。
２、しっかり考え、よく質問すること。
３、欠席することは、絶対しないように。
最後まで頑張りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

配布資料は、基本的にデジタルの形式で渡します。本システムにアップした資料を確認してください。電子メールに可能ですが、別途相談の上、決める。

【その他の重要事項】

事前の連絡がある場合、maoguirong @の G メールです。
少人数のクラスですので、読書の負担がかなりあります。
注意：新型肺炎の流行もあり、以上の予定は、適宜変更していく。履修者と相談しながら、やっていきます。
成績は、討論、報告などを踏まえて総合判断する。

【担当教員の専門分野等】
行政学、日本行政などを研究。著書「日本の行政改革」「比較の中の日中行政」があり、また「行政の概念」、「公務員の用語と概念」の論文（中国語、日本語）などがある。最近は、中国の公務員制度などを研究中、複数論文を公表。論文のほとんどは、ネットで検索・入手可能。

【Outline (in English)】
This course introduces students the basic literatures and knowledge on public policy and policy analysis. The literatures are papers and books on Japanese, Chinese and English. This course will enhance students' skill in policy analysis.
Students will be expected to have completed the required assignments (read papers and prepare class report and so on) before each class meeting and then participate in discussions on each topic. Your study time will be more than three hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process: (1)class reports 40%, (2) and in-class contribution (discussions) 60%.

SOS500P2 － 058

公共政策論文技法 1

白鳥　浩、塚崎　裕子、笘米地　真理

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策科学の先端的研究の現場に触れる。

【到達目標】
政策科学分野における学術論文の作法を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
博士号を取得した政策研究を行っている研究者による、先端的研究の紹介を中心として、政策科学が抱えている現代の問題をアカデミックに理解することを目指す本講義は、複数教員による分担講義として展開される。そこでは、現代の政策科学が抱える、アクチュアルな問題が提示される。学術的な価値の高い修士論文の執筆を目指す大学院生に、専門研究者レベルのスタンダードを明示することとなろう。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
1	政策科学の最先端と政策へのアカデミックなアプローチ (白鳥)	政策科学の定義と歴史，政策と学術研究の関係
2	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析 1(笘米地)	問題提起と分析
3	理論的フレームワークとデータの収集 1(笘米地)	フレームワークの提示，データへのアクセス
4	分析結果と学会内での研究上の位置 1(笘米地)	分析の位置，研究の意義
5	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析 2(塚崎)	問題提起と分析
6	理論的フレームワークとデータの収集 2(塚崎)	フレームワークの提示，データへのアクセス
7	分析結果と学会内での研究上の位置 2(塚崎)	分析の位置，研究の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中適宜指示

【参考書】
講義中適宜指示

【成績評価の方法と基準】
出席および毎回の講義への取り組み 30 %，レポート 70 %。レポートについては，各自の研究テーマの学術的価値を的確に表現できているかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
論文執筆過程での具体的トラブル・課題をより具体的に解説する。

【担当教員の専門分野等】
白鳥　浩
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004 年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002 年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.
塚崎　裕子
＜専門領域＞労働政策、ジェンダー政策
＜研究テーマ＞外国人雇用、ダイバーシティと雇用、地方移住と雇用
＜主要業績＞
塚崎裕子 (2008)「外国人専門職・技術職の雇用問題－職業キャリアの観点から」，明石書店
塚崎裕子 (2012)「日本の職場風土と外国人高度人材のキャリア」，こころと文化・第 11 巻・第 2 号，pp.163-168
塚崎裕子 (2013)「グローバル人材の多様性－国を問わず働く人材と二国間をつなぐ人材を中心に－」，日本労務学会誌・第 14 巻・第 2 号，pp.27-51
Yuko Tsukasaki,"Impact of Spousal Violence on Employment at the Post-Leaving Stage in Japan", Violence and Victims, forthcoming

【担当教員の専門分野】
笘米地真理
＜専門領域＞政策過程。国際政治。
＜研究テーマ＞国際化時代の東アジアの分析。
＜主要研究業績＞
笘米地真理『尖閣問題 政府見解はどう変遷したのか』柏書房、2020 年。ほか。

【担当教員の専門分野】
塚崎　裕子
＜専門領域＞労働政策、ジェンダー政策
＜研究テーマ＞外国人雇用、ダイバーシティと雇用、移動とキャリア
＜主要業績＞
塚崎裕子 (2008)「外国人専門職・技術職の雇用問題－職業キャリアの観点から」，明石書店
塚崎裕子 (2013)「グローバル人材の多様性－国を問わず働く人材と二国間をつなぐ人材を中心に－」，『日本労務学会誌』第 14 巻・第 2 号，pp.27-51
塚崎裕子（2020）「キャリアによる国内人口移動の違いと世代効果」『人口問題研究』第 76 巻第 3 号、pp.375-393
Yuko Tsukasaki,"Impact of Spousal Violence on Employment at the Post-Leaving Stage in Japan", Violence and Victims, forthcoming

【Outline (in English)】
This course offers our Ph.D. holder's knowledge on tips to write a thesis. The lecture is mainly on the framework of writing academic paper.
The goals of this course are to realize relationship between theory, research, and thesis.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end report 70%, and class contribution 30%.

SOS500P2 － 059

公共政策論文技法２

渕元　初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主として修士課程１年生を対象として、修士論文を執筆する上でのポイントとなる事項について、各専攻及びコースの教員による講義と修士論文執筆者の報告という形で授業を展開する。１年生は是非とも受講してほしい。

【到達目標】
修士論文を執筆する上でのポイントを理解する。
換言すれば、修士論文を書くための学習方法、修士論文の構成の考え方、文献資料探索の進め方、調査の進め方、執筆の進め方、論文指導の受け方、発表会での報告、文章の訂正について、修士論文の完成に至るまでの過程を体得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
修士論文を書くための初歩から実践までを理解するために、教員と院生（修士号取得者）による報告によって講義を進める。原則として、教員は各専攻及びコースからそれぞれ１～２名が講義を担当する。また、修士号取得者は原則として各コースからそれぞれ２名（博士課程の在籍院生や修士課程修了者など）が担当し、修士論文の執筆に関する経験を報告する。各回とも、前半に各報告を受け、後半はその質疑とする。
第 7 回目の授業では各受講者によるリサーチ・プロポーザルの報告を行う。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の全体概要とスケジュール	講義の全体概要とスケジュールを示し、修士論文の執筆に関する標準的スケジュールについて説明する。
2	修士論文の執筆に向けて	研究テーマの選定や、先行研究の調査等について説明する。
3	教員１による修士論文執筆の経験 報告に対する討論	本学専任教員による講義 報告に対する討論
4	学位取得者１による修士論文執筆の経験	本学院生による講義 報告に対する討論
5	教員２による修士論文執筆の経験	本学専任教員による講義 報告に対する討論
6	学位取得者２による修士論文執筆の経験	本学院生による講義 報告に対する討論
7	教員３による修士論文執筆の経験	本学専任教員による講義 報告に対する討論
8	学位取得者３による修士論文執筆の経験	本学院生による講義 報告に対する討論
9	教員４による修士論文執筆の経験	本学専任教員による講義 報告に対する討論
10	学位取得者４による修士論文執筆の経験	本学院生による講義 報告に対する討論
11	教員５による修士論文執筆の経験	本学専任教員による講義 報告に対する討論
12	学位取得者５による修士論文執筆の経験	本学院生による講義 報告に対する討論
13	修士論文のプロポーザル作成に向けた準備	これまでの講義と報告に基づき、各自の研究における「問い」を明らかにし、それについて検討を加える。
14	まとめ	総括討論を行い、各自の課題を明確にする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて、各教員、各修了生よりレジュメを配布する。

【参考書】
特になし。必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各回の授業後に記入するコメント票の内容（25 %）、期末レポート（50 %）、授業中の質疑や討論における発言（25 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
修士論文執筆に当たっての心構えに始まり、学術研究の意義や方法、論文執筆上の作法などについて、専攻やコースを超えた複数の教員や修了生から学ぶ機会となっているようです。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
＜研究テーマ＞　ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
＜主要研究業績＞
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
MA or PhD students in their first year are welcome to sign up to this course. Each lecture will provide students with an understanding of writing a Masters dissertation or PhD thesis. Upon completion of this course, students should be able to develop good academic practice.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Reaction paper 25%, Reporting paper 50%, Class contribution 25%

LAW500P2 － 103

環境行政法

横内　恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境法の制度や理論の発展の歴史を踏まえて、環境法の基本的な考え方や仕組みを解説します。その上で、例えば環境アセスメント、廃棄物処理法、環境リスクといった個別分野につき、判例を検討対象に含めて、行政法理論との関係で理解を深めます。その際には、関連法令や判決文を実際に参照しながら、基礎的な調査能力を習得することをも目指します。

【到達目標】
本講義は、様々な環境問題に対する事前の防止や事後的な解決において法の果たす役割について、理論的かつ総合的に理解すること、また、個別の環境法制の検討を通して、環境法政策の実務的な課題をとらえるとともに、それをめぐる法的論点の理解を深めることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者が少数の場合は、演習形式を中心として授業を実施する。
オンラインでの開講を予定している。ZOOM 等を用いてリアルタイムで開講する回と、オンデマンド形式で開講する回の別については、授業開始日に学習支援システムにおいて提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、イントロダクション	スライドやレジュメに沿って解説します。
第 2 回	環境法の基本的な考え方・手法	教科書やレジュメに沿って解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 3 回	公害対策基本法と環境基本法	教科書やレジュメに沿って解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 4 回	個別規制法	教科書やレジュメに沿って解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 5 回	環境アセスメント（1）	教科書やレジュメに沿ってアセスの法制度を解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 6 回	環境アセスメント（2）	レジュメに沿って我が国のアセスの課題について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 7 回	環境アセスメント（3）	レジュメや資料に沿ってアセスをめぐる訴訟について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 8 回	廃棄物処理法（1）	教科書やレジュメに沿ってわが国の廃棄物処理法制について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 9 回	廃棄物処理法（2）	教科書やレジュメに沿って、とりわけ産業廃棄物処理の法制度について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 10 回	廃棄物処理法（3）	教科書やレジュメに沿って、産業廃棄物処理施設設置手続の諸問題について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 11 回	廃棄物処理法（4）	レジュメや資料に沿って、廃棄物処理施設をめぐるの訴訟について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 12 回	環境リスク制御法制（1）	レジュメや資料に沿って、環境リスクの法的対処に関する理論状況を解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 13 回	環境リスク制御法制（2）	レジュメや資料に沿って、ドイツにおける環境リスク対処を解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 14 回	環境リスク制御法制（3）	レジュメや資料に沿って、とりわけ遺伝子技術規制について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習については、講義中に指示します。授業後に、レジュメやノートをしっかりと読んで復習してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
北村喜宣『環境法〔第４版〕』（弘文堂、2017 年）。

【参考書】
大塚直『環境法〔第３版〕』（有斐閣、2010 年）。その他、必要に応じて講義中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容（60%）、討論参加の積極性（30%）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境法、公法（憲法・行政法）
＜研究テーマ＞
環境リスクの法的制御、廃棄物処理法制
＜主要研究業績＞
①「順応型リスク制御と比例性：ドイツ遺伝子技術法の閉鎖系規律手続を題材として」大塚直編『環境法研究』7 号（信山社、2017 年）13-45 頁。
②「廃棄物処理法に基づく生活環境影響調査の対象地域に関する一考察 ― 高城町事件と東海村事件を事例として」大阪経大論集 67 巻 3 号（2016 年）113-134 頁。
③「科学的不確実性を伴う環境リスクに対する法的制御の可能性と限界」OUFC ブックレット 8 号「中国の食・健康・環境の現状から導く東アジアの未来」（2016 年）62-74 頁。

【Outline (in English)】
Course outline : The programme gives special knowledge and skills within several environmental fields.
Learning Objectives :By the end of the course, students should be able to develop an understanding of the legal issues surrounding the practical challenges of environmental law and policy.
Learning activities outside of classroom :The standard preparation and review time for this class is two hours each week.
Grading Criteria /Policy :presentation (60%), active participation in discussion (40%).

LAW500P2 － 104

環境私法

永野　秀雄

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、これまで環境法を学んだことのない大学院生のために、環境私法を概説することを目的としている。この環境私法では、環境被害を受けた人々が、国や企業などに損害賠償を求めたり、その環境被害のもととなる汚染原因等を排出しないように求めたりする訴訟を扱う。具体的には、学生は民法に規定されている不法行為という考え方が、大気汚染訴訟、水質汚濁訴訟といった様々な形の訴訟の中で、どのように機能するかを学んでいく。

【到達目標】
　この授業の到達目標は、受講生の所属する組織または生活する地域が、環境にかかわる紛争に直面したときに、どのような法的なルールが適用されるのかを理解することにある。言い換えれば、受講生が、法の専門家（弁護士や企業法務部等）と協同してこのような問題に対処しえる知的枠組みを獲得することを目指している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
　まず、環境私法で最も基本となる民法に規定された「不法行為」という考え方を学ぶ。そして、この不法行為に関する理論が、環境紛争にどのように適用されるのかを概説する。
　これに続いて、具体的な環境汚染原因ごとに、不法行為を中心とする法理論が適用されるのかについて解説する。大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、日照、景観といった問題ごとに個別のルールが形成されているので、これを学んでいくことにする。
最後に、総合的な問題を扱う環境監査において、どのような法的規制が必要であり、今後どのように運営されるべきかを検討する。
また、本授業は、オンライン授業により実施される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	不法行為の基礎（１）	①環境法とは何か、②環境紛争と環境私法
2	不法行為の基礎（２）	不法行為法とは何か
3	不法行為の基礎（３）	共同不法行為とは何か
4	不法行為の基礎（４）	複合汚染と共同不法行為
5	公害紛争処理制度等	①公害紛争処理制度、②協定による紛争解決
6	大気汚染訴訟の基礎	①共同不法行為理論の適用、②大気汚染訴訟の難しさ
7	大気汚染訴訟の展開	大気汚染訴訟の展開と現状
8	水質汚濁訴訟	水質汚濁訴訟の分析
9	悪臭訴訟、騒音・振動訴訟	①悪臭訴訟、②騒音・振動訴訟
10	日照・通風・風害訴訟	日照・通風・風害訴訟の分析
11	眺望訴訟、景観訴訟	①眺望訴訟、②景観訴訟
12	風評被害訴訟	風評被害訴訟の分析
13	嫌悪施設訴訟（１）	原子力関連の民事訴訟
14	嫌悪施設訴訟（２）	廃棄物処理場関連の民事訴訟

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を Hoppi から配布します。

【参考書】
大塚直・北村喜宣編集『環境法判例百選（第 3 版）』（有斐閣、2018 年）。

【成績評価の方法と基準】
　授業内での発表、議論への参加・貢献度 30%、期末レポート 70 %。期末レポートは、環境私法のテーマの中から 1 つを取り上げ、法律論文等を 3 つ以上参照して、その問題に関するレポート（A4 で 10 頁程度）を作成すること。

【学生の意見等からの気づき】
今後も、わかりやすい解説に努めたいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日米比較法（特に、環境法、先端技術法）
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞（近年のもの）
「米国国防総省によるサイバーセキュリティ成熟度モデル認証 (CMMC) の導入：現行の NIST SP 800-171 の遵守制度を超えて」CISTEC journal186 号 200 頁以下（2020 年３月）。
「米国におけるセキュリティクリアランス制度の大改革」CISTEC journal185 号 223 頁以下（2020 年１月）。
「米国の重要インフラに関するサイバーセキュリティとセキュリティ・クリアランス法制 (上)」人間環境論集 19 巻１号 13 頁以下（2018 年 12 月）。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
This course provides a basic introduction of environmental civil litigation for graduate students. The course focuses on lawsuits in which people suffering from environmental damage sued the government of Japan and companies for damages and for the injunction of the pollutions and nuisances. Specifically, students will learn how the idea of torts in the Civil Code works in various forms of litigation, such as air pollution and water pollution cases.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to understand which legal rules should apply when a student's organization or area of residence faces an environmental conflict. In other words, this course will help students work with lawyers and other legal professionals to solve environmental problems.
< Learning Activities outside of Classroom >
Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, you can take one of the themes of private environmental law, referring to three or more legal papers, and write a report on the theme (about 10 pages in A4).

LAW500P2 － 110

環境政策法務と条例

朝賀　広伸

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境政策法務における条例の果たすべき役割は大きく、市民の身近な生活の実態に基づいた施策によって、環境行政はよりよく発展することができます。本講義では、環境政策法務における条例の果たすべき役割を現実の条例制度を通して、環境政策と条例に係る基本的知識を学びます。
受講される学生の皆様が、環境政策法務における条例の果たす役割を理解し、条例の現状を分析し、条例制度の課題を発見し、施策の検討を行い、改善のための新たな対策の提案などができるようになること目的とします。

【到達目標】
本講義では、環境政策と条例に係る基本的知識を学習し、条例と法律との関係、条例規制の実効性、条例における計画の役割などについて説明できる力を身につけていただきます。
上記の目標を達成するために、各学生の皆様は、関心のある環境政策に係るテーマについて研究し、①課題設定、②現状分析、③対策手法の提案を授業内で報告し、双方向の議論を通して、到達度を測ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
・環境政策と条例に関する基礎的知識を修得するために、テキストを中心に演習形式で進めます。テーマを割り振り、簡単なレジュメを作成し、授業内で報告をしていただきます。
・授業内での双方向の議論を通して、理解を深めていきます。
・授業形式：対面授業

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 都道府県と条例	都道府県の位置づけと権限 地方自治体が定める条例
第 2 回	地球温暖化対策条例の制度と運用	温暖化防止に関する法律と条例 温暖化対策条例の全国的な動向と特徴
第 3 回	廃棄物条例の制度と運用（1）	廃棄物処理法と条例との関係
第 4 回	廃棄物条例の制度と運用（2）	都道府県の廃棄物条例の動向と全体的な特徴
第 5 回	自然環境保全条例の制度と運用	自然環境保全等の法制度
第 6 回	環境影響評価条例の制度と運用（1）	環境影響評価法の手続および条例との関係
第 7 回	環境影響評価条例の制度と運用（2）	都道府県等における環境影響評価条例の概要
第 8 回	公害防止条例の制度と運用（1）	公害防止に関する条例制度 大気汚染防止に係る規制対策
第 9 回	公害防止条例の制度と運用（2）	水質汚濁防止に係る規制対策
第 10 回	公害防止条例の制度と運用（3）	条例による水質規制の事例
第 11 回	公害防止条例の制度と運用（4）	土壌汚染対策に係る規制・対策
第 12 回	公害防止条例の制度と運用（5）	騒音防止に係る規制対策
第 13 回	公害防止条例の制度と運用（6）	振動防止、地盤沈下防止、悪臭防止に係る規制対策
第 14 回	再生可能エネルギーの導入促進と規制対策	再生可能エネルギーの普及と法制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『環境条例の制度と運用』, 田中充 (法政大学教授) 著, 信山社 2015 年,2600 円

【参考書】
環境法政策を理解するための書として、
『コンパクト環境法政策』, 柳憲一郎 (明治大学法科大学院教授) 著, 清文社 2015 年

【成績評価の方法と基準】
授業貢献度（80%）：授業時のディスカッション及びレジュメ
レポート課題（20%）：関心のある環境政策に係るテーマを選び、①課題設定、②現状分析、③対策手法の提案について研究し、授業内で報告する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の関心テーマに近づけた授業運営に心掛けたいと考えております。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
行政法および環境法に関連が深い授業となりますが、初学者にも理解できるように努めていきたいと考えております。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境法
＜研究テーマ＞
環境法政策に係る総合研究
＜主要研究業績＞
・『司法試験の問題と解説』「環境法」（日本評論社 2020 年・2019 年・2018 年・2017 年
・『環境法判例百選 第 3 版』有斐閣 2018 年
・「最新の環境アセスメント法の動向と課題」人間環境問題研究会編, 有斐閣 2015 年
・『新司法試験論文式問題と解説』中央大学真法会編, 法学書院 2018 年・2012 年
・『演習ノート環境法』浅野直人・柳憲一郎編, 法学書院 2010 年
・「英国における土壌汚染法の概要」商事法務研究会 2009 年
・「Legislation related to groundwater in the EU: background and current status 」UNESCO2009 年
・「英国のリスク管理と予防原則」季刊環境研究 No.154,2009 年
・「EU 及び英国の地下水管理制度」明治大学法科大学院論集 第 3 号,2008 年
・『多元的環境問題論』柳憲一郎編, ぎょうせい 2006 年
・『オランダ環境法』国際比較環境法センター 2004 年
・『環境法辞典』有斐閣 2002 年
・『京都議定書』シュプリンガーフェアラーク 2001 年

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this lecture, students will learn about environmental policy legislation and ordinance. For example, students will acquire basic knowledge on the role of ordinance in environmental policies, the actual ordinance system, environmental policies and ordinance.
（Learning Objectives）
Students will acquire basic knowledge about environmental policy and ordinances and be able to explain the relationship between ordinances and laws, the effectiveness of regulations by ordinances, and the role of planning in ordinances.
（Method）
In order to acquire basic knowledge of environmental policies and regulations, the class will be conducted in an exercise format with a focus on the textbook. Students will be assigned a topic, prepare a simple resume, and report it in class.

We will deepen our understanding through interactive discussions in the class.
（Learning activities outside of classroom）
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
・Class contribution (80%): Class discussions and resumes.
・Brief report assignment (20%): Select a theme related to local environmental policy, and conduct research on (1) problem setting, (2) analysis of the current situation, and (3) proposals for countermeasure methods, and make a brief report in class.

ARSl500P2 － 136

国際機構論

弓削　昭子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on UN organizations), the students will examine the roles and activities of various UN agencies. They will analyze the different roles and activities of various international organizations in tackling global issues, and examine how they can effectively deal with the challenges of today‘s world.

【到達目標】
In this course, the students will deepen their understanding on how the UN system and its agencies have evolved to address the changing global issues. The students will develop the ability to critically analyze UN policies and practices in addressing major global issues bearing in mind the political and socio-economic contexts at different times. Through presentation and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, especially the UN and its development and peacebuilding activities. Classes will focus on the analysis of different roles and functions of the UN through presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by the UN and other international organizations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Definition and types of international organizations
2	The UN: continuity and change since 1945	Establishment of the UN and its evolving role
3	Political work of the UN	Multilateralism and the UN
4	General Assembly (GA)	Role and issues of General Assembly
5	Security Council	Role and issues of Security Council
6	Economic and Social Council (ECOSOC)	Role and issues of ECOSOC
7	UN Secretariat	UN Secretariat‘s role, independence, and reform
8	UN Secretary-General	UN Secretary-General‘s role, authority, and challenges
9	International Court of Justice	Role and issues of International Court of Justice
10	Regional groups and alliances	UN‘s relationship with regional actors
11	Civil society	UN‘s relationship with civil society actors
12	Private sector	UN‘s relationship with the private sector
13	UN reform	Issues and progress in UN reform
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Advance reading of assigned materials; participation in symposiums and seminars in related topics.

【テキスト（教科書）】
· Thomas G. Weiss and Sam Daws (ed.), The Oxford Handbook on the United Nations Second Edition, Oxford University Press, 2018.
· Sebastian von Einsiedel, David M. Malone, and Bruno Stagno Ugarte (ed.), The UN Security Council in the 21st Century, Lynne Rienner Publishers, Inc., 2016.
· United Nations, Our Common Agenda, Report of the Secretary-General, 2021.

【参考書】
· Tatiana Carayannis and Thomas G. Weiss, The "Third" United Nations, Oxford University Press, 2021.
· Stephen Browne and Thomas G. Weiss (ed.) Routledge Handbook on the UN and Development, Routledge Handbook, Routledge, 2021.
· Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, eighth edition. Westview Press, 2018.
· 日本国際連合学会（編）『持続可能な開発目標と国連』国連研究第 22 号、国際書院、2021 年
· 日本国際連合学会（編）『国連：戦後 70 年の歩み、課題、展望』国連研究第 17 号、国際書院、2016 年

【成績評価の方法と基準】
Class presentation and participation in discussion (50 %), final report（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
No particular points to note.

【担当教員の専門分野等】
International development and peacebuilding, International organizations

【Outline (in English)】
In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on UN organizations), the students will examine the roles and activities of various UN agencies. They will analyze the different roles and activities of various international organizations in tackling global issues, and examine how they can effectively deal with the challenges of today‘s world.

POL500P2 － 138

外交政策論

宮本　悟

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の戦後外交史や領土問題、外交政策理論について学んだうえで、外交政策がどのようにして決定されるのかについて理解していく。重要なことは、国際社会や日本が直面している外交問題や領土問題について知識を深め、国際政治学における外交政策論を理解した上で、現実の外交政策を考察する際に応用できるようになることである。

【到達目標】
外交政策について、（1）日本の外交政策の歴史的な経緯と現状の説明をでき、（2）日本が置かれている領土や外交上の問題とその対処について理解を深め、（3）実際の外交政策の決定過程について学んだうえで、その理論的な知識を実際の問題に応用できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
2021 年度は対面で実施する予定である。戦後日本外交史と日本の領土については、全体的に理解していくことが目的であり、基本的には講義形式によって授業を進めていくが、教員側の一方的な講義ではなく、受講者と対話をしながら授業を進めることを重視する。質問があれば、講義の途中でも遠慮なく質問してかまわないし、教員側からも積極的に受講者に問いかける。
対外政策の選択については、受講者側の発表について教師も含めて討議しながら、理解を深めていく。従って、授業が充実したものになるかは、受講者側の積極的な参加にかかっている。受講者の発表に対するフィードバックは、その都度、授業内でコメントすることにする。重要なことは、領土や安全保障上の問題に対して、外交政策が必ずしも合理的に決定されるわけではないことを理解し、実際の外交政策を理解するための応用力をつけることである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	戦後日本外交史（1）	戦後日本外交史のあらましと占領期における日本と GHQ の交渉について学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 2 回	戦後日本外交史（2）	戦後日本外交史について 50 年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 3 回	戦後日本外交史（3）	戦後日本外交史について 60 年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 4 回	戦後日本外交史（4）	戦後日本外交史について 70 年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 5 回	戦後日本外交史（5）	戦後日本外交史について 80 年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 6 回	戦後日本外交史（6）	戦後日本外交史について冷戦後を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 7 回	戦後日本外交史（7）	戦後日本外交史について全体像を議論する。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第 8 回	日本の領土（1）	領土の概念や北方領土問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第 9 回	日本の領土（2）	竹島問題と尖閣諸島問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第 10 回	対外政策の選択 (1)	外交とは何かを学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第 11 回	対外政策の選択 (2)	国内政治と対外政策の連関について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第 12 回	対外政策の選択 (3)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係ついて学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第 13 回	対外政策の選択 (4)	国際情勢についての認識と行動から戦争が勃発する原因について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第 14 回	対外政策の選択 (5)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係ついて学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『戦後日本外交史』第三版補訂版、五百旗頭真編、有斐閣、2014 年、2,200 円
『日本の領土』芹田健太郎、中央公論新社、2010 年、755 円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は授業でパワーポイントやレジュメで解説します。
『国際政治学』中西寛, 石田淳, 田所昌幸、有斐閣、2013 年、3,520 円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は最初の授業で配布する。

【参考書】
『新訂第 5 版　安全保障学入門』防衛大学校安全保障学研究会編、株式会社亜紀書房。
『決定の本質―キューバ・ミサイル危機の分析』グレアム T. アリソン (著)、宮里 政玄 (訳)、中央公論新社、1977 年。絶版。

【成績評価の方法と基準】
７０％：平常点と、授業における発言内容の充実度
３０％： 発表：「対外政策の選択」に関して、自分の研究にどのように応用できるのか最後の授業で一人一人発表してもらう。

【学生の意見等からの気づき】
過度な学生の負担はない授業内容にしています。受講者の発表は短い時間でかまいません。
勤務後に授業に来られる方がおられたら、時間を考慮しますので、申し出てください。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業では授業支援システムは使いません。オンライン授業では ZOOM を使います。

【その他の重要事項】
大学院の方針によって全てオンライン授業になる可能性があります。対面授業でも第 8 回の講義ではパワーポイントを使って説明します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際政治学、比較政治学、政軍関係論、安全保障論
＜研究テーマ＞東アジアの安全保障、経済制裁、北朝鮮研究
＜主要研究業績＞

"North Korea's Foreign Policy: A Non-isolated Country with Expanding Relations" Takashi Inoguchi ed., The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy, Dec. 2019,Sage Publishing.
「北朝鮮流の戦争方法-軍事思想と軍事力、テロ方針」川上高司編『「新しい戦争」とは何か-方法と戦略-』2016 年 1 月、ミネルヴァ書房。
「北朝鮮の軍事・国防政策」木宮正史編『朝鮮半島と東アジア』2015 年 6 月、岩波書店。
『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか？ 政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』2013 年 10 月、潮書房光人社。

【Outline (in English)】
The objectives of the class is to understand how foreign policy is decided, while leaning Japanese postwar diplomatic history, territorial issues and foreign policy theory. The important point is the applying foreign policy theory in considering real foreign policy, while deepening the knowledge of the territorial issues and diplomatic issues facing Japan and international society, understanding the foreign policy theory in international politics. The prior learning and review are need each 2 hours. The distribution of score is as follows: class participation remarks: 70%, presentation: 30%

EVN500P2 － 113

地域環境史研究

根崎　光男

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世日本における人間と環境とのかかわりを、歴史資料の読解・分析を通して環境歴史学の手法により学ぶ。特に、自然環境史と都市環境史とを中心として、自然破壊とその保護、動物保護とその駆除、都市問題の取り組みとその解決、ゴミ問題の発生とその対応などを考えながら、それらの環境問題と人々の暮らしとの相互作用について学ぶ。

【到達目標】
自然や都市の環境にかかわる歴史資料の読解・分析を通して、歴史資料の読解力や分析力を身につける。また環境の歴史を組み立てる方法を学び、また先人の経験知を感得することによって、現代の環境問題解決に資する感覚を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、原則として対面による講義・演習形式で行う。そのなかで、授業内での発表、課題解決型学習、校外学習を行う。レポート提出後の授業で、提出されたレポートからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 環境歴史学の視点	受講者の問題関心の確認と受講の心構えについて。環境歴史学の学び方と調べ方を説明する
第 2 回	人と自然との関係史 （自然破壊と自然保護）	人と自然との相互作用について、人の暮らしという視点から総合的に学ぶ
第 3 回	動物保護・駆除の環境史	人と動物とのかかわりを、人の暮らしという視点からその保護・駆除を学ぶ
第 4 回	巨大都市江戸と防災対策	火災都市江戸の復興と防災対策について、幕府や町人の視点から学ぶ
第 5 回	江戸の都市化とゴミ問題	江戸の都市化とゴミ問題の相関関係、そして解決に向けた取り組みを学ぶ
第 6 回	江戸の癒し空間と人々の暮らし	江戸の町に暮らす人々のストレス要因とその解放のメカニズムを学ぶ
第 7 回	受講者の研究発表と質疑応答	受講者各自の問題関心に沿った環境史研究の発表と質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】
根崎光男『犬と鷹の江戸時代』（吉川弘文館、2016 年）、同『「環境」都市の真実』（講談社+ α 新書、2008 年）、同『生類憐みの世界』（同成社、2006 年）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、レポート (50 %) と授業内での貢献 (50 %) により評価する。授業内での貢献とは、質問・意見表明など積極的発言に対する貢献をいう。

【学生の意見等からの気づき】
授業中における諸課題についての意見交換、質疑応答を活発にする。

【学生が準備すべき機器他】
新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近世史、日本環境史、日本絵画史
＜研究テーマ＞近世日本における自然および都市の環境史研究
＜主要研究業績＞
①『江戸幕府放鷹制度の研究』(単著、吉川弘文館、2008 年)
②『「環境」都市の真実』(単著、講談社＋ α 新書、2011 年）
③『犬と鷹の江戸時代』(単著、吉川弘文館、2016 年）

【Outline (in English)】
（Course outline）
Considers the relationship between humans and the environment in the early modern period of Japan from the perspective of Environmental History.
（Learning Objectives）
The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese environmental history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting. students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Report:50%,in class contribution:50%

POL500P2 － 120

サステイナブル地域政策研究

小島　聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「サステイナビリティ」（持続可能性）の視点から自治体政策について総合的に検討する。授業では、まず持続可能性の概念、地域の多様性と政策の方向性について考える。さらに、グローカルな政策、政策統合とSDGs、縮小都市問題と政策展開、都市と過疎地域の政策連携などについて議論する。この授業の目的は、持続可能な地域社会への公共政策を理解することである。

【到達目標】
この授業に参加することによる学生の到達目標は、以下のとおりである。
・持続可能な地域社会と自治体の役割に関する知識を習得する。
・公共政策の構造を理解する。
・政策型思考を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
持続可能性に関する基礎概念や政策規範・政策原則を分析視角とし、政策課題と政策展開について検討しながら、今後を展望する。パワーポイントのほか配布資料を使用しながら講義を行うが、各地の最新の政策情報を共有しながら、参加者とも議論をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「持続可能性」の概念と「持続可能な地域社会」の多様性	「持続可能性」の概念構成から政策原則を導き、さらに地域特性に応じた政策課題の多様性について検討する。
2	都市と過疎地域の政策的な方向性	地域の多様性をふまえた上で、持続可能性という視点でみた都市と過疎地域の政策的方向性を、「変容」と「存続」としてとらえ直して検討する。
3	グローカリズムと自治体政策	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考し、政策責任や政策行動モデルなどに関する理論的な整理を行いながら、自治体の政策動向について検討する。
4	持続可能性の包括性・統合性と自治体政策	「持続可能性」概念の包括性・統合性について、地域の具体的な政策課題を通して確認する。さらに、「環境政策統合」の考え方をふまえながら、「持続可能な地域社会」への総合政策論について検討する。
5	SDGs と自治体政策	SDGs をめぐる自治体政策の現状と課題について検討しながら、政策イノベーションのツールとしての可能性について展望する。
6	都市と過疎地域の持続可能性	都市と過疎地域の持続可能性について比較しながら、自治体政策の現状と課題について検討する。
7	都市と過疎地域の政策連携の展望	都市－農山漁村の地域間連帯の動向とともに、生態系サービスや地域間の相互依存関係をふまえて、今後の政策連携について展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする）。
・配布資料やその他の関連資料を読む。
・指示した課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
必読参考文献は開講時に紹介し、また必要に応じて参考資料を配付する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的な参加姿勢）（70 %）、課題への取り組み（10 %）、最終レポート（20 %）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
2021 年度は休講であったため、最新のフィードバックはありません。過去のアンケート、学生の意見、内省等からの気づきは、以下のとおりです。
・「持続可能性」や「持続可能な地域社会」について俯瞰することには、現代的かつ学際的な意義があると考えています。
・多様な問題領域を扱うことで、それぞれの研究テーマをもつ院生の視野を広げることができると考えています。
・政策事例の検討により、「臨床の知」から政策思考を育む教育効果があると考えています。
・対話型授業の要素を取り入れてきましたが、その必要性を実感しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、パソコンからプロジェクターに画像を投影する。

【その他の重要事項】
第 1 回はオンラインで参加者数などを確認し、第２回からは対面を予定しています。ただし、COVID-19 と学生のおかれた状況によってはオンラインに切り替えるなど、柔軟に対応します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　行政学、地方自治論
＜研究テーマ＞　持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、市民社会と自治体行政システム
＜主要研究業績＞
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編」『自治体経営改革』（共著）（ぎょうせい、2004）
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
『フィールドから考える地域環境　持続可能な地域社会をめざして』（共編著）、（ミネルヴァ書房、2012）
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574、2012）

【Outline (in English)】
The objective of this course is to examine the policy of local government comprehensively from the viewpoint of sustainability.　Firstly, we will think about the conception of sustainability, regional diversity and policy direction.　Furthermore, we will discuss the trend of “Glocal policy” , sustainability of urban areas and rural areas, “Policy integration” and SDGs, traffic policy, urban sustainability risk, shrinking city problems and policy development, cooperation policy between urban and rural areas, etc.
The purpose of this course is for students to understand public policy for sustainable community.
At the end of the course, students are expected to achieve the following:
(1)Acquire knowledge of sustainable community and the role of local Government.
(2)Understand structure of public policy
(3)Gain ability of policy thinking
Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on some assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.
Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Active class participation:70%,Assignments:10%,Final report:20%

SES500P2 － 123

地域環境計画研究

湯澤　規子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生は「食」と「農」と「地域」をキーワードとして、その関係性を歴史的に検討します。「自然環境」、「社会環境」の両側面から「環境」を捉え、様々な事例から持続可能な社会のしくみについて考えます。

【到達目標】
受講生は食と農と地域の歴史を理解し、地域環境を論じる基礎的知識と視角を身につけます。文献講読および具体的な事例を通して、現代社会の課題と今後の展望を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
講義を中心としつつ、ディスカッションペーパーにもとづく議論を適宜織り交ぜて、考察を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域環境を論じる視点
第 2 回	問題提起	地域環境を論じた近年の研究成果の検討
第 3 回	文献講読（1）	地域環境に関わる文献講読
第 4 回	文献講読（2）	地域環境に関わる文献講読
第 5 回	文献講読（3）	地域環境に関わる文献講読
第 6 回	地域・環境・計画についての討論	様々なアクターについて考える
第 7 回	総括と展望	各自の研究課題との関連について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。具体的には課題文献の精読、報告レジュメ作成、論点の検討などに取り組んで下さい。

【テキスト（教科書）】
今のところ、下記の文献を候補としているが、参加者との相談で決定する。
・木村純子ほか『イタリアのテリトーリオ戦略―甦る都市と農村の交流』白桃書房、2022 年 3 月刊行予定。
・土肥秀行、山手昌樹編著『教養のイタリア近現代史』ミネルヴァ書房、2017 年

【参考書】
・内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書、1971 年
・鶴見和子『内発的発展論の展開』筑摩書房、1996 年
・カール・ポランニーほか『経済の文明史』ちくま学芸文庫、2003 年
・宇沢弘文『人間の経済』新潮新書、2017 年・矢ケ崎典隆・森島斉・横山智編『トピックス地誌３　サステイナビリティ』2018 年、朝倉書店
・湯澤規子『胃袋の近代―食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018 年
その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加および報告（50 %）と最終レポート（50 %）で評価します。具体的には主体性、独自性、堅実性に基づいて評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
参加者それぞれの問題意識を深められるように、ディスカッションの時間を活用したいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『7 袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019 年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018 年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009 年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18 年、104-113 頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016 年、57-72 頁

【Outline (in English)】
◆ Course outline
Students will examine this relationship from a historical point of view using "food", "agriculture" and "region" as keywords.We will consider the "environment" from both the "natural environment" and "social environment" and think about the structure of a sustainable society from various cases.
◆ Learning Objectives
Students will gain an understanding of the history of food, agriculture, and local communities, and acquire the basic knowledge and perspectives to discuss the local environment. The course aims to examine the issues and future prospects of contemporary society through literature reading and specific case studies.
◆ Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, please read the assigned literature carefully, prepare a resume, and discuss the issues.
◆ Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on lecture participation and report (50%) and final report (50%). Specifically, evaluation will be based on initiative, originality, and solidity. The theme will be presented at the beginning of the lecture.

HIS500P2 － 141

サステイナビリティ学事例研究Ⅰ

辻　英史

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ社会国家の発展の歴史を、ボランティアの観点から学ぶ。
社会福祉史においては、国家による上からの社会政策だけでなく、民間の中間団体や個人的なエージェントの下からの活動を重視し、現代の社会保障体制を両者が一体となった「福祉の複合体」として理解する見方が注目されている。
この授業では、ドイツの社会福祉の歴史を、その「福祉の複合体」の担い手としてのボランティアに注目しながら再構成していく。国家が独占的に社会保障の担い手となった時期はかなり遅く、ドイツにおいてはようやく 20 世紀初頭のことにすぎない。それまで社会福祉のかなり部分は都市自治の枠内で行われ、またそれは市民の自発的なボランタリーな活動に大部分依存していたのである。また 20 世紀の末以降、社会福祉のみならず民主主義の発展や社会的課題の解決におけるボランティアの役割への再評価が進み、市民参加を拡大しようとする政策が大々的に展開されている。
このようにボランティアを軸としてドイツ社会国家を検証することから、現在社会保障制度の改革が急務となっている日本社会の現状と課題の分析にとって有意義な情報が得られるだろう。

【到達目標】
ドイツの社会福祉の歴史と現状を理解し、自分の研究への示唆を得る。
1. ドイツ社会国家の歴史的形成過程について理解する。
関連する法律や制度だけでなく、政治、行政、サービス提供者（企業、第三セクター）、福祉専門職やボランティア、そしてクライアントなどの相互作用をふくむダイナミックな関係として浮かび上がらせる。
2. ドイツ社会国家の現在の姿について理解する。
1990 年代末以降の改革で大きく変化しつつある全体像を理解したうえで、いくつかの分野について詳細に検討する。
3. 日本および他国・他地域との比較をおこなう（ディスカッション）。
ドイツ社会国家の歴史的発展のそれぞれのステージをその問題点を含めて検討した上で、さらに参加者の関心のある地域や国との比較をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、時代順に並べた 7 つのモジュールにより構成される。
モジュールごとに講義と資料講読、文献講読を組み合わせるほか、参加者とディスカッションをおこない、その中で情報を補足し理解を深めていく。その際、他の国や地域とくに日本の状況との比較について、参加者からの問題提起・知識提供を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ボランティアを中心に社会国家を考えることの意味について。
第 2 回	モジュール①ボランティアの誕生	中世から近世までの都市自治や市民のあいだの協会活動について。
第 3 回	モジュール② 19 世紀ドイツにおけるボランタリズムの展開　その 1	19 世紀初頭のドイツにおける都市自治の再編と市民社会の成立について。
第 4 回	モジュール② 19 世紀ドイツにおけるボランタリズムの展開　その 2	市民衛兵や救貧行政など公的な領域や、協会や結社など民間の領域における 19 世紀市民層の活動について。
第 5 回	モジュール③ 20 世紀国家とボランタリズム　その 1	第 1 次世界大戦をきっかけにした社会政策の局面転換と社会国家概念の登場について。
第 6 回	モジュール③ 20 世紀国家とボランタリズム　その 2	ヴァイマール時代からナチ期にかけて、国家への権力集中が進行した時代のボランティアのあり方について。
第 7 回	モジュール④戦後ドイツ社会における社会国家の構築とボランティア　その 1	戦後西ドイツにおける国家主導下の社会福祉の整備について。
第 8 回	モジュール④戦後ドイツ社会における社会国家の構築とボランティア　その 2	戦後ドイツ社会国家のメカニズム内にボランティアがどのように組み込まれていったのかを扱う。
第 9 回	モジュール⑤戦後西ドイツ社会の価値変容と「新しい名誉職」	高度経済成長がもたらした物質的繁栄が人びとの生活や価値観の変化を通じてボランティアのあり方にいかに影響を与えたか。
第 10 回	モジュール⑥社会国家の危機　その 1	1970 年代の経済不況を背景にそれまでの西ドイツ社会国家体制への批判が強まった。その批判内容を分析する。
第 11 回	モジュール⑥社会国家の危機　その 2	1980 年代になると社会国家の危機脱出のシナリオとしてのボランティア活動が注目されるようになる。その経緯を分析する。
第 12 回	モジュール⑦統一ドイツにおける参加政策と「市民的参加」　その 1	1990 年代末から本格化した連邦政府によるボランティア活性化政策の展開について。
第 13 回	モジュール⑦統一ドイツにおける参加政策と「市民的参加」　その 2	「市民的参加」およばれる統一ドイツにおける各種ボランティア活動の実情を明らかにする。
第 14 回	結論　現代ドイツ市民参加の課題と展望	2016 年の難民危機、2020 年以降のコロナ危機の対応に、ドイツのボランティア組織はいかに関与しているのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献を読み、ディスカッションに参加する準備をすること。
また、自分の研究や経験をふまえてディスカッションに参加し貢献することができるよう、準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜コピーを配布する。

【参考書】
辻英史／川越修編著『歴史のなかの社会国家』山川出版社、2016 年。
池田浩士『ボランティアとファシズム―自発性と社会貢献の近現代史』人文書院、2019 年。
近藤正基『現代ドイツ福祉国家の政治経済学』ミネルヴァ書房、2009 年。
坂井晃介『福祉国家の歴史社会学― 19 世紀ドイツにおける社会・連帯・補完性』勁草書房、2021 年。
西田慎／近藤正基編著『現代ドイツ政治』ミネルヴァ書房、2014 年。
福澤直樹『ドイツ社会保険史―社会国家の形成と展開』名古屋大学出版会、2012 年。
福田直人『ドイツ社会国家における「新自由主義」の諸相――赤緑連立政権による財政・社会政策の再編』明石書店、2021 年。
ほか、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッションへの参加（40 %）、学期末レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　歴史学（ドイツ近現代史）
＜研究テーマ＞　市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史
＜主要研究業績＞　『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016 年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版局、2008 年。

【Outline (in English)】
The course deals with the historical development of the German welfare state (Sozialstaat), from its beginning in the late 19th to the 21th century. Main focus will be laid on its character as "welfare mixture", which means dynamic cooperative interactions between governmental authorities, welfare organizations, and actors of the civil society (Volunteers) in building and reforming the social security system.
The class consists of seven modules arranged in chronological order.
Each module will consist of a combination of lectures, readings, and literature readings, as well as discussions with participants to supplement the information and deepen understanding.
Participants are expected to raise questions and provide knowledge about comparisons with the situation in other countries and regions, especially Japan.
Grading will be decided based on participation in discussions (40%) and term-end report (60%).

SOC500P2 － 144

環境ガバナンスⅠ

西城戸　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境ガバナンスに関わるさまざまな事例を通じて、環境と地域社会の持続性を担保するための社会的なしくみについての理論、実践について学ぶ。

【到達目標】
自然環境と地域の持続性に関する日本国内の事例を取り上げる。そして、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会、都市-農村関係に関する議論を踏まえて、環境ガバナンスのあり方を具体的に学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義では単元ごとに映像教材を用い、その内容理解のためのリアクションペーパーを求める。また、単元によっては事前に課題図書、論文に目を通した上で、それぞれの論点について講義する。最終的には、環境と地域の持続性に関するレポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境と地域の持続性を考える視点	環境と地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第 2 回	自然と人間の共生を考える	北海道のヒグマを事例として、自然と人間の共生のあり方について考察する。
第 3 回	合意形成とレジティマシー	「海は誰のものか」という題材から、合意形成とレジティマシーの関係を考える。
第 4 回	市民参加とガバナンス	地域問題の解決手段としての市民参加とそのガバナンスのあり方について考える。
第 5 回	自然再生と順応的管理（1）：コウノトリを巡る自然再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生の実践を考える。
第 6 回	自然再生と順応的管理（2）：コウノトリを巡る地域再生	自然再生と地域再生の関係性について、生態系サービスの観点から論じる。
第 7 回	自然再生と順応的管理（3）：トキとコウノトリ巡る地域再生	自然再生と地域再生の関係性について、トキとコウノトリの事例を比較して考察する。
第 8 回	自然再生と順応的管理（4）：獣害問題と地域再生	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第 9 回	「負の遺産」と地域再生（1）：炭鉱社会の帰結	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第 10 回	「負の遺産」と地域再生（2）：炭鉱遺産によるまちづくり	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第 11 回	「縮小社会」とその対応（1）：縮小社会に関する理論	「縮小社会」とはどのような現象か。東京、夕張、中国地方における「縮小社会」の現状について学ぶ。
第 12 回	「縮小社会」とその対応（2）：外部サポートの可能性と課題	中山間地域における地域再生事業に対する評価を巡る縮小社会の解決策を考える。
第 13 回	「縮小社会」とその対応（3）：労働力不足と高齢者・外国人労働	縮小社会による労働力不足の解消としての高齢者、外国人労働者の問題について考える。
第 14 回	「縮小社会」とその対応（4）：労働力不足と地方移住	地方の労働力不足と地方移住について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、それぞれの論点に関わる文献（論文、書籍）を読む。また、講義中の映像教材に関わるまとめを授業時間外で行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
随時、指定する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー 40 %
レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】
一方向的な講義だけではなく、内容理解のためのディスカッションも重視したい。

【その他の重要事項】
本講義は、サステイナビリティ専攻で開設されている「環境社会論」の応用科目として位置づけられる。「環境社会論」を受講した後で、本講義を履修することが望ましいが、本講義の履修を妨げるものではない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境社会学　社会運動論　地域社会学
＜研究テーマ＞　社会運動のイベント分析、市民運動の事例研究（生活クラブ生協、市民風車運動・事業など）、水害の記憶と環境教育に関する社会学的研究、再生可能エネルギーと内発的発展に関する社会学的研究、津波被災地および原発避難者への支援に関する研究
＜主要研究業績＞
『避難と支援』（共著、新泉社、2019 年）
『震災と地域再生』（共編著、法政大学出版局、2016 年）
『再生可能エネルギーのリスクとガバナンス: 社会を持続していくための実践』（共編著、ミネルヴァ書房、2015 年）
『用水のあるまち』（共編著、法政大学出版局、2010 年）
『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』（単著、人文書院、2008 年）

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】 The purpose of this course is to provide an understanding of the theory and practice of social mechanisms for ensuring the sustainability of the environment and local communities through various examples of environmental governance.
【Learning Objectives】
Students will study environmental governance in detail based on the discussions on consensus building, residency, subsistence, semi-cultivation, adaptive management, appropriate technology, negative heritage and regional regeneration, shrinking society, and urban-rural relations.
【Learning Activites outside of classroom】
Students are required to read the literature (articles, books) related to each issue. In addition, a summary of the video materials viewed during the lecture will be given outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria】
Reaction paper 40%.
Report 60%.

MAN500P2 － 102

環境経営論

金藤　正直

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、経営学および会計学の視点から、企業や地域における環境経営やサステナビリティ経営の仕組みを明らかにしつつ、その仕組みと国内外における先進的な企業の取組事例も考慮に入れながら、将来企業や地域において、有効的かつ効率的に実施すべき環境経営やサステナビリティ経営の方法を理論的に検討していくことを目的とする。

【到達目標】
本講義では、国内外で刊行されたマルチステークホルダーの視点からの環境経営またはサステナビリティ経営に関する文献（理論研究の論文）を多面的に分析・検討し、その結果を論理的に整理し、報告していくための能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義は対面で実施する（第 1 回と第 14 回はオンラインでの実施を予定している。これら以外の回は、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。第 1 回は、環境経営やサステナビリティ経営に関する研究論文とそれに関係する著書や報告書を紹介しつつ、講義内で履修者に分析し、検討してもらう内容やポイントについて講義を行う。第 2 回以降、履修者には、研究テーマに関係する、あるいは関心のある研究論文を 1 つ選択してもらい、その内容を企業や地域の取組事例や関連研究などを加味しながら多面的に分析・検討し、その結果を報告してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義全体の流れとその内容、講義で使用する文献の紹介、その文献を分析・検討していくための方法やポイントを説明する。
第 2 回	環境・社会問題に対応する組織①	環境・社会問題に対応する組織のあり方に触れた論文（例えば、プラハラードの論文）の内容を考察し、報告する。
第 3 回	環境・社会問題に対応する組織②	第 2 回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第 4 回	環境・社会問題解決のための経営戦略①	企業が環境重視から持続可能性に展開していくために検討し、策定すべき経営戦略に関する研究論文（例えば、ハートやアンルーの論文）の内容を考察し、報告する。
第 5 回	環境・社会問題解決のための経営戦略②	第 4 回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第 6 回	環境・社会問題解決のための新たな経営戦略①	企業が経済的価値と環境・社会的価値を同時実現していくための新たな経営戦略に関する研究論文（例えば、クリステンセンやポーター＝クラマーの論文）の内容を考察し、報告する。
第 7 回	環境・社会問題解決のための新たな経営戦略②	第 6 回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第 8 回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメント①	第 2 回から第 7 回で取り上げられた経営戦略を実現していくための組織編成・マネジメント（サプライチェーン、コレクティブ・インパクト、コラボレーション）に関する研究論文（例えば、カニア＝クラマー、アドラー、リー、ベロニカ＝デニスの論文）の内容を整理し、報告する。
第 9 回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメント②	第 8 回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第 10 回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメントの先進事例①	第 8 回と第 9 回で取りあげられた組織編成・マネジメントに関するガイドや先進事例（例えば、国連グローバルコンパクトやパタゴニアの取組み）の内容を整理し、その結果を報告する。
第 11 回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメントの先進事例②	第 10 回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域における取組事例を参考にしながら検討し、報告する。
第 12 回	戦略策定や組織編成・マネジメントを支援する会計システム①	組織（第 2 回、第 3 回）の戦略策定（第 4 回～第 7 回）と組織編成・マネジメント（第 8 回～第 11 回）を支援する会計システムに関する論文（例えば、キャプラン、エクセル、セラフェイムの論文）の内容を整理し、報告する。
第 13 回	戦略策定や組織編成・マネジメントを支援する会計システム②	第 12 回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域における取組事例を参考にしながら検討し、報告する。
第 14 回	講義のまとめ	第 13 回までの検討内容を整理しつつ、その内容をもとに新たな方法論も検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容の理解および文献の分析・検討にあたっては、少なくとも次の 3 点について行ってください。
・経営学および会計学の基礎的知識を事前に学習し、身につけること
・毎回の講義内容を復習すること
・本講義に関連する新聞・雑誌記事やホームページなどの内容をチェックすること本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・講義では、テキストは使用せず、テーマごとに配布した資料を使用します。
・報告では、配布資料の内容を整理したレジュメの作成および配布をお願いします。

【参考書】
講義中に配布資料や報告内容に関連する著書・論文・雑誌・URL などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・報告用配布レジュメの内容（20 %）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）
・討論への参加（発言内容）（30 %）
・レポートの内容（報告内容に基づくレポート）（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
・講義はワードあるいはパワーポイントを用いて進めていきますので、報告およびそのレジュメもワードか、パワーポイントを使用してください。
・質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境経営論、地域経営論
＜研究テーマ＞
企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。

【Outline (in English)】
① Course Outline
The purpose of this lecture is to learn the management method for solving environmental and social issues in companies and regions.
② Learning Objectives
Thought this lecture, graduate students are able to logically understand a new sustainability management and accounting system in companies and regions.
③ Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.
④ Grading Criteria /Policy
The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

1）Content of the resume ： 20%
2）Content of the presentation ： 30%
3）Participation in the discussion ： 30%
4）Report based on the presentation ： 20%

MAN500P2 － 107

サステイナビリティ・レポーティング

八木　裕之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業のサステナビリティ情報は、サステナビリティ報告、統合報告、ガバナンス報告、有価証券報告書などのさまざまな方法によって開示されるようになっています。履修者は、世界および日本で展開されているサステナビリティ情報開示基準に関するさまざまな動向、先進企業の実践について理論と実践を学び、サステナビリティ情報開示のあり方や利用方法についてディスカッションを通して理解を深めます。

【到達目標】
履修者は、国際的な動向を把握すると同時に、企業のサステナビリティ情報の開示方法を学び、開示されたサステナビリティ情報を経営的視点から分析する能力を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
サステナビリティ社会における企業経営のためには、企業活動のサステナビリティに関わる戦略を経営戦略に組み込むことはもちろんのこと、その状況を投資家などのステークホルダーに情報開示し、ステークホルダーとのエンゲージメントを図っていくことが必要不可欠です。本講義では、世界的に大きな変動期にある企業のサステナビリティ・報告制度や企業実践について解説すると同時に、今後のサステナビリティマネジメント、サステナビリティ・レポーティング、サステナブル投資などのあり方などについて議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	サステナビリティ・レポーティングの系譜	講義の進め方とサステナビリティ・レポーティングの歴史的発展の経緯を解説する。
2	サステナビリティ・レポーティングの発展	サステナビリティ社会におけるレポーティングの役割について考える。
3	環境マネジメントとレポーティング	環境マネジメントの仕組みとレポーティングについてガイドラインなどに基づいて考える。
4	サステナビリティ・マネジメントとレポーティング	サステナビリティ・マネジメントの仕組みとレポーティングについてガイドラインなどに基づいて考える。
5	サステイナビリティ・レポーティングとサステナブル投資	サステイナビリティ情報の利用について ESG 投資を中心に考える。
6	SDGs と企業戦略	企業のサステイナビリティ戦略と SDGs の関係について考える。
7	環境戦略と環境会計	環境会計情報のレポーティングについてガイドラインを中心に考える。
8	企業のサステナビリティ戦略の分析	履修者による企業のサステナビリティ戦略分析に基づいてディスカッションする。
9	サステナビリティ・レポーティングと財務報告	サステナビリティ・レポーティングと財務報告との関係を考える。
10	サステナビリティ・レポーティングと気候変動	気候変動に関する経営戦略と情報開示の状況を解説する。
11	サステナビリティ・レポーティングと統合報告	統合報告におけるサステナビリティ情報について考える。
12	サステナビリティ・レポーティングと自然資本	サステナビリティ・レポーティングにおける自然資本情報について考える。
13	自治体のサステナビリティ・レポーティング	自治体のためのサステナビリティ・レポーティングの仕組みと機能について考える。
14	サステナビリティ・レポーティング分析プレゼン	履修者が行ったサステナビリティ・レポーティング分析の結果を発表し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業のサステナビリティ情報に関する、サステナビリティ・レポート、環境レポート、統合報告、有価証券報告書などを準備学習、宿題などとして読んで分析します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
主に配布プリントを教材として用います。テキストは特に使用しません。読む必要がある文献は講義時に適宜指示します。

【参考書】
八木他『サステナビリティ社会のための会計 生態会計入門』森山書店、2013 年
環境省『環境報告ガイドライン 2018 年版』環境省、2018 年
環境省『環境会計ガイドライン 2005 年版』環境省、2005 年
Task Force on Climate-related Financial Disclosuresmp, Inplementing the Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures ,TCFD,2021
IIRC,International《IR》Framework,IIRC,2021
GRI,GRI Standard 2021,GRI,2021

【成績評価の方法と基準】
プレゼン（30 %）・ディスカッション（40 %）・レポート（30 %）に基づいて評価します。講義回数の 3 分の 2 以上の出席が必要です。

【学生の意見等からの気づき】
講義の教材、ケーススタディの対象企業などについては、できるだけ履修者の要望に応えますので、積極的に発言してください。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
サステナビリティ会計、サステナビリティ情報開示、サステナビリティマネジメント、環境会計、カーボン会計、自然資本会計、バイオマス環境会計

【サステナビリティ会計】
八木裕之「非財務情報と統合報告」『會計』199 巻第 1 号、森山書店、2021 年
八木裕之「環境戦略と自然資本会計」『會計』196 巻 4 号、森山書店、2019 年
八木裕之「気候変動情報開示とカーボン会計」『會計』194 巻 4 号, 森山書店、2018 年

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students study basic theory and practices of sustainability reporting and utilization of sustainability information.
【Learning Objectives】
The goals of this course are acquisition of sustainability analytical capabilities.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read sustainability reports related to each lecture at least two hours.
【Grading Criteria /Policy）】
Final grade will be calculated according to the following process: presentation (30%), term-end report (30%), and in-class contribution(40%).

ECN500P2 － 119

環境経済論

杉野　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どの様な政策が必要であるかを理論的に考える。本授業では、以下の２つを最終目的とする。① 環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に経済学を応用できるようになる。②日本の環境政策・制度およびそれらの問題点を理解し、必要とされる政策について理解を深める。なお、環境経済学を学ぶうえでミクロ経済学の基礎的な知識が必要となる。本授業では、関連するミクロ経済学を適宜説明しながら講義を行う。

【到達目標】
経済学の基礎知識と環境問題に対する理解を深めることができる。また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面での講義形式を基本とする授業を行います。毎回、講義と関連する課題（小テスト）を実施します。課題（小テスト）の解説を次の授業の冒頭に行います。また、コメントや質問に対する回答も授業の冒頭に行います。
なお、一部の授業ではゲームを行い、学んだ理論と現実の差を体感します。
また、グループディスカッションを通じて、政策の方向性などを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・環境経済学とは ミクロ経済学①（市場とは）	環境経済学を学ぶ際に必要最低限の経済学的知識を解説します。 需要曲線と供給曲線の意味および、市場の機能を解説します。
第 2 回	ミクロ経済学②（余剰分析） ミクロ経済学③（市場の効率性）	消費者余剰、生産者余剰、社会的総余剰について解説します。 市場の効率性・万能性について解説します。
第 3 回	公共財とは 外部性（様々な費用）	公共財の定義およびどの様な問題があるのかを解説します。 平均費用、平均可変費用、限界費用など費用の概念を解説します。
第 4 回	外部経済（余剰分析） 外部不経済（余剰分析）	正の外部性について解説し、市場にどの様な影響をもたらすかを解説します。 負の外部性について解説し、市場にどの様な影響をもたらすかを解説します。
第 5 回	外部不経済の内部化	外部不経済が存在する場合、社会的に望ましい状態は何かを解説します。
第 6 回	コースの定理	当事者間の交渉によって環境問題が解決することができることを解説します。
第 7 回	政策による環境問題の解決 効率的な削減（ピグー税と排出量取引）	どの様な環境政策が有効かを解説する。また、それぞれの政策の利点・欠点について議論する。
第 8 回	ゲーム①：排出量取引制度を理解する ゲーム②：排出量取引制度におけるプレーヤーを理解する	ゲームを通じて排出量取引制度の基本的な制度設計について学ぶ。
第 9 回	ゲーム③：排出量取引制度における費用軽減措置を理解する ゲーム④：排出量取引制度のまとめ	ゲームを通じて排出量取引制度の導入がもたらす様々な問題に対処する応用的な制度設計について学ぶ。
第 10 回	地球温暖化①：問題の所在 地球温暖化②：京都議定書	温暖化政策の基礎的な知識を解説する。また、京都議定書第 1 約束期間までの状況を解説する。
第 11 回	地球温暖化③：ポスト京都 地球温暖化④：各国の対策および事前評価	ポスト京都議定書（パリ協定まで）について解説し、各国の気候変動政策および事前評価について解説する。
第 12 回	廃棄物問題①：ごみ処理有料化政策 廃棄物問題②：自治体の取り組み	ごみ処理有料化政策が何故必要なのか、何を意図としているのかを解説する。また、自治体の取り組みと理論を比較する。
第 13 回	放射性廃棄物問題①：低レベル放射性廃棄物 放射性廃棄物問題②：高レベル放射性廃棄物	放射性廃棄物の最終処分問題について米国の取り組みを紹介しながら解説する。また、日本に必要な方策を考える。
第 14 回	大気汚染①：固定排出源の規制 大気汚染②：移動排出源の規制	日本における大気汚染対策を紹介し、今後の方策について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
指定したテキストおよび参考書の該当する箇所を事前に読み、授業の準備を行ってください。
また、課題を行い、内容の理解度を深めてください。

【テキスト（教科書）】
『入門　環境経済学－環境問題解決へのアプローチ』, 日引聡・有村俊秀, 中央公論新社 (2002)

【参考書】
Richard Porter The Economics of Waste, Routledge, 2002.

【成績評価の方法と基準】
小テストおよび最終課題を総合的に評価します。
具体的には、小テスト 45%、最終課題 55%の合計 100%点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
理論の理解を深めるため、排出量取引制度のゲームを引き続き実施します。また、練習問題の難易度を複数準備する。例えば、公務員試験の過去問など。

【学生が準備すべき機器他】
電子ファイル（講義資料や追加資料など）を配布いたします。パソコン（タブレット）などをインターネットに接続できるようにしてください。

【その他の重要事項】
特定の時間帯にオフィスアワーを設定していませんが、授業等がなければいつでも対応いたします。事前アポをメールで取ってください（makoto.sug@gmail.com）。
質問などがあった場合、連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013 年

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】

Economic growth has increased the burden of environmental impacts in various dimensions. In this course, we will apply microeconomic theory to environmental issues and consider what kind of policy/regulations are needed to address these issues. This course has two objectives; 1) understand the “nature” of environmental issues and apply economics to counter these issues and 2) understand Japanese environmental policies/regulations and consider further, what kind of actions are needed. This course will also discuss microeconomic theory because it is essential in understanding environmental economics.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after class. Your study time will be more than two hours for each class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in class will be decided based on the following:
Take-home test 45%, Term-end assignment 55%.

MAN500P2 － 122

サステイナブル経営論

長谷川　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではサステナビリティを巡る国際的な動向を整理し、CSR、CSV、SDGs が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。サステナビリティ経営の強化を求めるコーポレートガバナンス・コードや東証市場再編、影響力を強めている ESG マネー（投資・融資・保険）が企業経営にもたらす影響について理解を深めることめざします。

【到達目標】
サステナビリティに関する国際的な政策動向に関する基本知識を習得し、国内外の企業および機関投資家の行動を理解し正しく評価する能力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻「CSR 論」においては公共マネジメントコースの「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻「サステイナブル経営論」においては「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の SDGs/CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	価値共創時代のサステナビリティ経営①	価値共創とは何か 価値共創を実現する経営のあり方とは
第 2 回	価値共創時代のサステナビリティ経営②	越境による新事業のデザイン 価値共創ビジネスのケーススタディ
第 3 回	ESG 経営の最新動向「ガバナンス編」①	日本型ガバナンスの現状 取締役会の機能不全
第 4 回	ESG 経営の最新動向「ガバナンス編」②	企業価値を左右する社外取締役 攻めのガバナンス 東証再編とガバナンスコードの改訂
第 5 回	ESG 経営の最新動向「環境編」①	ビジネスルールが変わる パリ協定－脱炭素の本質とは
第 6 回	ESG 経営の最新動向「環境編」②	脱炭素を加速する ESG マネーの動向 企業評価の新たな尺度となる炭素利益率
第 7 回	ESG 経営の最新動向「社会編」①	変わる企業と社会の関係 人権・ダイバーシティを巡るケーススタディ
第 8 回	ESG 経営の最新動向「社会編」②	ビリーフドリブン消費者の台頭 ブランドストーリーの再構築
第 9 回	近代産業の勃興と経済倫理〔1〕「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第 10 回	日本社会における企業倫理の形成	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第 11 回	SDGs 時代に求められるパーパス経営	パーパスと SDGs の関係性 企業価値を高めるパーパス経営
第 12 回	SDGs 時代の経営モデル	シェアリングエコノミー
第 13 回	ゲストスピーカーによる講義①	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します
第 14 回	ゲストスピーカーによる講義②	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業が発行する統合報告書やサステナビリティ報告書を参照しながら、SDGs やパリ協定と企業はどのように向き合おうとしているのかについて自己学習を深めて下さい。詳細については、初回授業において説明します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメを配布します。

【参考書】
Naoya.HASEGAWA （2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGs とパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021 年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文眞堂，2019 年
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文眞堂，2018 年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016 年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート： 80 %
発表・討議： 20 %

【学生の意見等からの気づき】
複雑な数式等は使わず、財務分析や証券投資に関する知識の無い方にも理解しやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステイナビリティ
＜主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021 年 9 月 28 日）』2021 年
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020 年 3 月 2 日～12 日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319 号』2021 年

【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 1 部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連視角】
証券アナリスト検定会員（CMA）

【Outline (in English)】
In this lecture, we will review how international trends in sustainability (CSR, CSV, SDGs) have been changing. We will also examine the impact of the Corporate Governance Code, the restructuring of the Tokyo Stock Exchange and ESG money (investment, financing and insurance) on corporate management.
Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the final report (80%) and presentation (20%).

LAW500P2 － 124

環境と知的財産権

中里　妃沙子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知的財産権の基礎を押さえた後、知的財産権の現代社会のおける重要性を学び、さらに工業的分野だけでなく、知的財産権が、自然及び環境問題とどのように関連しているか、知的財産権の種類にわけて、幅広く事例を挙げて講義する。
知的財産権の法的理解を深めるために、必要に応じて、民法などの法的問題についても、講義を行う。
　特に、特許権、音楽著作権、商標権など、知的財産権の新しい動向についても解説するとともに、一般にはなじみがない種苗法も取り上げ、環太平洋パートナーシップ（TPP）の農業分野に対する影響、知的財産権に対する影響について解説する。
ほかに、生物多様性条約が知的財産権についても関連の深い条約であることを概説し、知的財産権の現代社会における広がりについて学ぶ。

【到達目標】
特に、特許権、音楽著作権、商標権など、知的財産権の新しい動向についても解説するとともに、一般にはなじみがない種苗法も取り上げ、環太平洋パートナーシップ（TPP）の農業分野に対する影響、知的財産権に対する影響について解説する。
ほかに、生物多様性条約が知的財産権についても関連の深い条約であることを概説し、知的財産権の現代社会における広がりについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面で実施予定である。講師作成のパワーポイントレジュメを使用し、判例の紹介、その他新聞記事などを適宜配布しながら、知的財産権の内容及び知的財産権と自然との関係について概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	知的財産権が属地的権利であることを確認したのち、グローバル化した社会の中で、条約などを通じて、どのように保護されていくかを論じる。	・知的財産権とはどのような権利の呼称か ・知的財産権の法的性質（「独占」）について ・知的財産権の種類 ・知的財産権の国際性（条約を中心にして）
第 2 回	工業所有権の中心的権利である特許権を概説し、工業分野だけでなく、自然及び環境との関係でも、関連の深い権利であることに触れる。	・特許法１：特許法についての概説及び特許権の具体的事例の説明
第 3 回	特許法のつづき 実用新案権についての概説	・特許法２：特許権に対する制限について ・実用新案法の解説及び実用新案権の具体的事例の説明 ・意匠法の解説及び意匠権の具体的事例を説明
第 4 回	工業所有権のひとつである意匠権の概説 農業分野で重要な権利であり、自然と直接関わりのある育成者権保護する種苗法を中心に概説する。	・意匠権に対する制限について ・種苗法１：種苗法についての解説
第 5 回	種苗法についての概説の続き	・種苗法２：指定種苗制度についての解説
第 6 回	著作権について概説する。	・著作権法１：著作権法の概説
第 7 回	著作権についての概説の続き	・著作権法２：著作権に対する制限
第 8 回	商標法について概説し、特許権と同じく、工業分野だけではなく、農業分野など、自然とも深く関わってくる権利であることに触れる。	・商標法１：商標権について概説する
第 9 回	商標についての概説の続き	・商標法２：新しい商標について概説
第 10 回	不正競争防止法について概説し、知的財産権分野だけでなく、農業分野など、自然とも深く関わってくる権利であることに触れる。	・不正競争防止法
第 11 回	自然及び環境と知的財産権の関わりについて、特許権を中心に論ずる。特に、遺伝子特許、生物特許など新しい問題についても扱う。 また、特許権と育成者権の二重保護についても触れる。	・自然と特許権 ・特許権と育成者権との関係（二重保護）
第 12 回	農林水産分野における知的財産権の保護についてのこれまでの講義の総まとめを行う。	・農林水産分野における知的財産権 ・地域団体商標 ・TPP 交渉の農業及び知的財産権に対する影響
第 13 回	生物多様性条約が、知的財産権をも扱っている点について解説し、さらに今後の知的財産権の方向性についても概説する。	・生物多様性条約（知的財産権に関連して）
第 14 回	まとめ	学生による研究発表・レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講師作成のパワーポイントレジュメ

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点　５０％　レポート課題　５０％

【学生の意見等からの気づき】
毎年、知的財産権について最新の話題を取り入れてお話しようと考えていますが、今年は特に TPP に関連する事柄について、折に触れてお話しする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
離婚・相続などの家事分野
景表法、薬機法、特商法などを踏まえた広告規制全般
＜研究テーマ＞
特になし
＜主要研究業績＞
特になし

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to help students master the basic concepts and principles of Japanese Intellectual Property Rights such as Patent Act, Utility model right Law, Design Act, Plant Variety Protection and Seed Act, Copy right Act, Trademark Act, and Unfair Competition Prevention Act.　It also introduces the International Intellectual Property including several global conventions, such as Paris Convention, Berne Convention, Agreement on Trade-Related Aspects of Intellectual Property Rights and Convention, and Convention on Biological Diversity.
At the end of the course, participants are expected to understand the Japanese Law system and social phenomena from the view points of legal perspective because Japanese Civil Code, which is the most important and basic law in Japanese law system, is introduced as well.

MAN500P2 － 133

グローバル環境経営論

白鳥　和彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日、企業経営においては、公害対策から廃棄物対策、温暖化防止や生物多様性保全など幅広く地球環境問題への対応が求められている。また、それが同時に企業の持続可能な発展につながることが求められている。日本および海外企業の環境経営の現状と今後の課題について、その本質と企業の対応について検討する。

【到達目標】
先進的な環境経営を行っている企業等の事例をもとに、環境経営の基本的考え方、基礎的な目標や達成手法などに関する基本的な知識を習得し、持続可能な社会に向けた企業の環境経営の在り方等について自ら考察出来る能力を涵養する。
ディプロマポリシーの「DP1」と「DP2」に関連している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン授業で行います。
リアルタイム型（Zoom を利用した双方向型）とします。
授業ごとに設定したテーマについて、社会や環境問題の現状、法規制、企業の取組みなど、基本的な事項を講義したのち、具体的な企業の事例を分析・検討し、受講者からの報告や教員と受講者との意見交換等を通じて理解を深めていく。
連続した２時限授業であることを活かし、講義と意見交換を交える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	環境経営の概念　～環境経営とは何か	・環境経営の概観 ・企業理念、環境方針、トップコミットメント ・環境先進企業がどう取組んできたか 等
第 2 回	エネルギー政策とエネルギー関連ビジネス	・エネルギーと環境負荷、エネルギー政策、パリ協定 ・既存エネルギー企業、再生可能エネルギー企業、IT 関連企業の取組み 等
第 3 回	資源循環・サーキュラーエコノミー	・日本および欧州の関連政策 ・製造業の資源循環の取組み（ex 自動車業界） ・プラスチックリサイクル企業、リサイクルメジャー企業の取組み 等
第 4 回	環境経営の評価：社会やステークホルダーからどう評価されるか	・環境経営度ランキング、環境・CSR 関連のインデックス 等
第 5 回	環境経営の指標化：自社のなかでどう評価・指標化し進めるか	・エコラベル、カーボンフットプリント ・環境会計とその進化（社会価値の定量化） 等
第 6 回	地域循環共生圏：第５次環境基本計画とその対応	・地域エネルギー、街づくり ・コンパクトシティ ・地域企業の取組み例 等
第 7 回	シェアリング・エコノミー 講義のまとめ	・環境対応と社会課題解決に繋がる新しいビジネスモデル ・全授業を通してのまとめ、発表 等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・地球環境問題、企業の環境・社会的責任に関する活動に関心を持ち、自己学習に努めること。各回に次回の事前・事後学習の内容を指示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。　必要に応じて資料配布する。

【参考書】
授業テーマに応じて資料・文献などを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート： 80 %
討議への関与度、発表： 20 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業に必要なパソコンおよび通信環境を準備してください。
（通信環境は通信量無制限の契約が望ましい）

【その他の重要事項】
受講者の関心事・理解度により講義内容や取り上げる事例を変更することがある。
学生からの積極的な発言や議論を期待する。
【実務経験のある教員による授業】
製造業で、ゼロエネルギー住宅の開発、居住環境・生活エネルギーに関する研究開発など環境領域での研究開発に従事。その後、環境経営およびＣＳＲ経営の立ち上げから全社の施策立案・推進に従事。環境マネジメントシステムの全社展開、ＬＣＡや環境会計手法の活用と展開、環境レポート・ＣＳＲレポートをはじめとした環境コミュニケーション、環境教育、社会貢献活動（特に次世代向け）の企画・立案・推進等、環境経営・ＣＳＲ経営に関するほぼ全ての事項や手法に携わってきた。理論だけでなく企業での施策や手法など実践的な内容を盛り込んだ講義を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境経営・CSR 経営、環境イノベーション、環境マーケティング
＜研究テーマ＞
・企業の環境・ＣＳＲ経営の取り組みに関する研究
・環境・ＣＳＲ対応と企業価値に関する研究
・持続可能な社会に向けた経営指標に関する研究
＜主要研究業績＞
①『環境企業家と環境経営の新展開』（単著、税務経理協会、2009 年）
②『マーケティングにおける現場理論の展開』（共著、創成社、2018 年）

【Outline (in English)】
Considers the current efforts and future issues of environmental management of Japanese and overseas companies, for the suatainable society.

ECN500P2 － 126

開発経済論

山田　英嗣

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済学は、開発途上国での貧困や不平等に着目し、どうすればそれらの問題を解決できるかを考察する実践的な分野である。本講義の目的は、現代の開発途上国が直面する主要な課題を把握し、開発経済学がどのような課題解決策を提示してきたのかを理解することである。特に、理論的なアプローチだけでなく、データによる実証分析も活用して開発途上国の諸課題について議論する力を習得することを目指す。

【到達目標】
本講義の到達目標は以下の 3 点である。
（1）開発経済学がどのように貧困や不平等をとらえてきたのか、主要な指標の考え方や計測方法について、基本的な知識を習得し、アジア・アフリカなどの開発途上諸国の実態を把握すること。
（2）貧困や低開発の原因やその解決方法について、開発経済学が提示してきた理論の概要を理解すること。
（3）政策の効果を統計的に評価するために定量分析の手法（特にインパクト評価）の概念を理解し、現実の実証例を通じて、開発政策実務への活用方法を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
講義はすべてオンライン授業で行う。各回の講義は、①教員による講義、②参考文献に関する学生の報告、③基礎的なデータ分析課題、④ディスカッションで構成する。講義内容は、ミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学等、経済学の基礎的な知識は前提としない。理論的な説明では数式はなるべく使用せず、グラフなどを使った直観的な理解を優先する。実証分析を理解するための統計学の基礎知識については、講義内で補足説明を行う。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/開発経済学の変遷と経済成長論	第二次世界大戦以降、開発経済学がどのように変遷してきたのか、開発途上国の発展の歴史を踏まえつつ概観する。併せて、経済成長論の概要を理解する。
第 2 回	貧困と不平等	開発経済学が解決の対象とする中心的課題が貧困と不平等である。貧困と不平等に関する諸概念を整理し、主要な指標の計測方法を習得する。開発経済学および開発の実務でよく使われるデータ（オープンデータ）の使い方についても紹介する。
第 3 回	貧困層のミクロ経済学	途上国の貧困層は、労働者・起業家・消費者としての役割を持つ経済主体である。ミクロ経済学モデルにより、経済主体としての貧困層の行動を分析するアプローチを学ぶ。
第 4 回	開発政策を実証分析する手法（インパクト評価）	近年の開発経済学において、現実の政策の効果をデータを使って実証的に分析し知見を得る「インパクト評価」が大切なツールとなっている。効果の測定に必要なデータや主要な手法について、基礎的な知識を得る。
第 5 回	教育・保健医療と開発	開発途上国における教育や保健医療の実情を主要な統計から把握する。教育や医療へのアクセスを改善するための様々な施策に関して、インパクト評価による主要な研究を概説し、どのような施策が有効なのか議論する。
第 6 回	出稼ぎ移民/環境問題	前半では、現代の開発途上国に幅広くみられる出稼ぎ移民（国内・海外）について扱う。出稼ぎの動機や故郷への送金がもたらす影響などについて考察する。 後半では、近年特に深刻となっている環境問題について、開発途上国の現状と各国政府、国際社会の取り組みを経済学的に解釈する。
第 7 回	国際協力と開発経済学	開発経済学は、開発途上国の政策や援助にどのように役立てられているのか。国際協力の歴史・最近の動向を概観しつつ、実際の開発協力事業を例に、政策策定やプロジェクトの実施における開発経済学の知見の活用例を紹介し、開発経済学の有用性・課題について理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）各回で講読する参考文献について、発表担当の学生は発表準備を、その他の学生は予習をする。学期中、各学生が 1 － 2 回発表できるようにする。参考文献には英語のものも含まれる。
（2）全体で 2 回程度、講義内容に関連する簡単なデータ分析課題を課す。講義開始前までにメールで提出、講義時間中に学生からの発表とディスカッションを行う。課題は、オープンデータ（オンラインでアクセス可能な公開データ）を使い、エクセル等の表計算ソフトで実施可能な基礎的なもので、統計分析ソフトウェア等は必要としない。
（3）期末レポートの詳細については、初回講義時にガイダンスする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
「開発経済学ー貧困削減へのアプローチ」黒崎卓・山形辰史、日本評論社、2017 年
「テキストブック開発経済学（第 3 版）」ジェトロ・アジア経済研究所・黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史、有斐閣、2016 年
「貧困の経済学（上・下）」マーティン・ラヴァリオン（柳原透　監訳）、日本評論社、2018 年

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末レポート (40%)、参考文献の発表 (20%)、データ分析課題 (20%)、授業やディスカッションへの貢献 (20%) を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞空間経済学・都市経済学・ミクロ計量経済学
＜研究テーマ＞①海外出稼ぎ移民の要因・海外送金の開発効果②インフラ事業のイ
ンパクト分析③空間経済学による環境問題の分析
＜主要研究業績＞
Satoshi Shimizutani, Eiji Yamada (2021), "Resilience against the pandemic: The impact of COVID-19 on migration and household welfare in Tajikistan," PLoS ONE 16(9): e0257469.

Enerelt Murakami, Eiji Yamada, Erica Paula Sioson, “The impact of migration and remittances on labor supply in Tajikistan,” Journal of Asian Economics, Volume 73, 2021, 101268.
Eiji Yamada, Satoshi Shimizutani, Enerelt Murakami, "The COVID-19 pandemic, remittances, and financial inclusion in the Philippines," Philippines Review of Economics, Vol 57, No. 1 (2020)
Murakami, E., Shimizutani, S. & Yamada, E. "Projection of the Effects of the COVID-19 Pandemic on the Welfare of Remittance-Dependent Households in the Philippines". Economics of Disasters and Climate Change (2020).
Eiji Yamada, "A Spatial Equilibrium Analysis of Air Pollution in China", JICA Reseach Institute Working Paper 211, 2020.
Mai Seki and Eiji Yamada, "Heterogeneous Effects of Urban Public Transportation on Employment by Gender: Evidence from the Delhi Metro", JICA Research Intitute Working paper 207, 2020.
Mahmud, Minhaj, Yasuyuki Sawada, and Eiji Yamada, “Willingness to Pay for Mortality Risk Reduction from Air Quality Improvement: Evidence from Urban Bangladesh”, JICA Research Institute Working Paper 190, 2019.

【Outline (in English)】
This course aims at providing basic knowledge on the Development Economics, in terms of its major topics and key methodological approaches. The lecture covers the concept and measurements of poverty/inequality, microeconomic models of poor households, the basics of quantitative impact evaluation, and economic interpretation of specific development issues such as education, healthcare, migration, and environment. Every week, after the lecture, one or two student(s) present a reference article followed by an open class discussion. In addition, students are required to submit short works of data analysis (graphing, tabulation, etc.) related to the contents of the lecture.

ARSl500P2 － 128

国際環境協力論

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発途上国が持続可能な開発を達成するために、日本や国際機関はどのような支援を実施しているのか、また、今後、どのように支援を行うべきなのかを学ぶ。将来、国際協力の分野に進んだ学生には、援助のあり方を考える基礎を習得する。

【到達目標】
インフラ開発に伴う社会環境配慮と環境プロジェクトの相違を理解したうえで、世界銀行やアジア開発銀行、日本のＯＤＡがどのような仕組みで動いているかを理解する。その上で、以下の事例について学習する。
・過去に行われたダム建設に伴う住民移転から得られた教訓
・工業化に伴う公害対策の先例としての日本の公害経験
・開発途上国の資源環境問題の実例としての中国の諸問題
・気候変動対策における援助の方向性
これらをベースにして、持続可能な開発に向けた援助の方向性を見据える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントは Hoppii にアップする。
国際協力の現場で働く実務家にプレゼンテーションを行って頂く予定である。海外勤務の方にはオンラインで行って頂く。このため、日程はプレゼンターの都合によるので、授業の全体スケジュールはそれに応じて変更される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	国際協力とＯＤＡの仕組み
第 2 回	日本の環境協力の歴史	１９７０年代以降の日本の環境協力
第 3 回	開発途上国の環境政策１	開発途上国で環境政策がどのように進展してきたか。
第 4 回	開発途上国の環境政策２	開発途上国の環境政策にどのような課題が残されているか。
第 5 回	日中環境技術協力	ＪＩＣＡを通じた協力事例
第 6 回	中国の資源と環境	水資源、エネルギー、公害などについて
第 7 回	アジアの事例	バングラディシュなどの事例研究
第 8 回	気候変動対策１	緩和
第 9 回	気候変動に関連する技術協力	緩和策に関連する事例
第 10 回	気候変動対策２	適応
第 11 回	日本の公害経験１	国の政策
第 12 回	日本の公害経験２	地方公共団体の政策
第 13 回	環境配慮	セーフガードポリシー
第 14 回	住民移転	ダムによる住民移転と生活再建の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義中に資料を指示する。

【参考書】
井村秀文・松岡俊二・下村恭民編著　『環境と開発』　日本評論社

【成績評価の方法と基準】
レポート（100 %）もしくは最終回に行う試験 (100%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく多くの事例を紹介することとする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【担当教員の専門分野等】
環境システム科学、国際環境協力

【担当教員の関連する業績】
1. Masato Kawanishi, Nela Anjani Lubis, Hiroyuki Ueda, Junko Morizane and Ryo Fujikura (2021) From Project to Outcome: the Case of the National Greenhouse Gas Inventory in Indonesia, Working Paper No.225, December 2021, JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development, https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp_225.html
2. 川西正人、藤倉良、加藤真、森實順子 (2021) 国家温室効果ガスインベントリ実施体制の比較研究－日本・インドネシア・ベトナム・タイの事例から－、環境科学会誌 34（3）、124 - 138、10.11353/sesj.34.124
3. Masato Kawanishi, Makoto Kato, Ryo Fujikura (2021) Analysis of the Factors Affecting the Choice of Whether to Internalize or Outsource the Task of Greenhouse Gas Inventory Calculations: The Cases of Indonesia, Vietnam, and Thailand, International Journal of Sustainable Development and Planning, Vol. 16, No. 1, February, 2021, pp. 145-154, doi: 10.18280/ijsdp.160115
4.Kawanishi, M. and Fujikura, R. (2020), Assessment for the implementation of a national greenhouse gas inventory: the case of Japan, Management of Environmental Quality, Vol. ahead-of-print No. ahead-of-print. https://doi.org/10.1108/MEQ-06-2020-0116
5.Masato Kawanishi, Junko Morizane, Nela Anjani Lubis, Ryo Fujikura (2020) Issue interpretations and implementation analysis for the national greenhouse gas inventory: the case of Indonesia, Journal of Environmental Studies and Sciences, 10(4), 411-425, https://doi.org/10.1007/s13412-020-00628-3
6. Masato Kawanishi, Makoto Kato, Emiko Matsuda, Manami Fujikura, and Ryo Fujikura (2019) Comparative study on institutional designs and performance of national greenhouse gas inventories: the cases of Vietnam and the Philippines, Environment, Development and Sustainability, Vol.21, https://doi.org/10.1007/s10668-019-00460-y
7.Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (2019) Overview: Livelihood Re-Establishment After Resettlement due to Dam Construction, Journal of Asian Development, 5(1), 1-11, doi:10.5296/jad.v5i1.14420
8.Sunardi, Ariyani, M., Febriani, R., Maharani, G.S., Fu, R. H. Y., & Fujikura, R. (2019) Rebuilding livelihood of the rural and peri-urban resettlers in post-involuntary displacement of Saguling Dam construction. Journal of Asian Development, 5(1), 12-30, doi:10.5296/jad.v5i1.14421
9.Suwartapradja, O. S., Fujikura, R., Sunardi, & Fu, R. H. Y. (2019). Resettlement caused by Jatigede Dam project: Consequence of long delayed implementation of a project. Journal of Asian Development, 5(1), 31-44, doi:10.5296/jad.v5i1.14422
10.Nakayama, M., & Fujikura, R. (2019). Addressing the Livelihood of Non-Resettlers in Dam-Induced “Detached” Areas: The Case of the Shichikashuku Dam. Journal of Asian Development, 5(1), 45-55, doi:10.5296/jad.v5i1.14423
11.Masato Kawanishi, Makoto Kato, Emiko Matsuda, and Ryo Fujikura (2019) Comparative Study of Reporting for Transparency under the International Agreements on Climate Change and Ozone Protection: A Case of the Philippines, International Journal of Environmental Science and Development, Vol.10, No.1, pp.1-8, doi: 10.18178/ijesd.2019.10.1.1137
12.Masato Kawanishi and Ryo Fujikura (2018) Evaluation of Enabling Factors for Sustainable National Greenhouse Gas Inventory in Developing Countries, International Journal of Environmental Science and Development, Vol. 9, No. 10, pp.290-297, doi: 10.18178/ijesd.2018.9.10.1116

【Outline (in English)】
Students will learn international cooperation is being implemented by Japan or international organizations in order for developing countries to achieve sustainable development and how to support them in the future. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on a report or the final exam.

ARSl500P2 － 131

国際 NGO・NPO 論

小野　行雄

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜政治＞＜経済＞と並ぶアクター＜市民社会＞として社会を構成することこそが、ＮＧＯ・ＮＰＯの本質である。
本科目では、講師が専門とする国際協力分野での活動を中心として、世界が直面する問題を理解し、ＮＧＯが活動する場と方法を学んだ上で、市民社会としてのＮＧＯの活動にも目を向ける。受講者は、組織としてのＮＧＯについて学ぶのと同時に、自らの市民としての役割についても考えることになる。

【到達目標】
1 世界の人々が直面しているグローバルな問題とそれらのつながりについて理解する
2 ＮＧＯ・ＮＰＯと市民社会に関する歴史と現状、人々のつながりを理解する
3 自ら世界に関わる市民性を涵養し、その方法論を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」関連している。

【授業の進め方と方法】
ディスカッションによる参加型グループワークを中心に進める。ネットを利用してケーススタディを行うのでパソコンまたはスマートフォンが必携。映像資料も多用する。毎回レポートを作成し、それをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ＮＧＯ・ＮＰＯの基礎	受講者のこれまでの経験と知識を整理しながらＮＧＯ・ＮＰＯの基礎を概観する
第 2 回	市民社会	市民社会論を概観し、市民社会そのもの、あるいはエージェントとしてのＮＧＯ・ＮＰＯの活動を学ぶ
第 3 回	開発の問題	近代化とグローバリゼーションについて検討し、開発をめぐる考え方を整理しながらＮＧＯ・ＮＰＯの役割を検討する
第 4 回	ＮＧＯの方法	ケーススタディとしていくつかのＮＧＯを取り上げながら、ＮＧＯの国際開発における方法論について学ぶ
第 5 回	ＮＧＯの歴史・日本のＮＧＯ	世界と日本のＮＧＯの歴史を学び、いくつかの日本のＮＧＯを取り上げて活動を検証する
第 6 回	世界のＮＧＯ	「先進国」および「途上国」のＮＧＯ、それに国際ＮＧＯの事例を取り上げて活動を検証する
第 7 回	ＮＧＯ・ＮＰＯの社会における役割	ＮＧＯ・ＮＰＯが社会に影響を与えた事例を検証し、社会における役割を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を読んでくることが必須となる。文献は毎回、印刷して渡すか、ネット上のアドレスを指定する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
「激動するグローバル市民社会」重田康博 明石書店
「国際開発ハンドブック」友松篤信編著 明石書店
「脱「開発」の時代」イヴァンイリッチ他 晶文社

【成績評価の方法と基準】
平常点（討論への参加・各回のレポート）60 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
ネットに接続できるパソコンまたはスマートフォン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 国際社会開発・開発教育
＜研究テーマ＞ＮＧＯによるコミュニティ開発・参加型学習
＜主要研究業績＞「ＮＧＯ主義で行こう」藤原書店「21 世紀の人権（共著）」日本評論社

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】Civil Society (NGO) is an actor which constitutes society along with Politics (Government) and Economy(Enterprises). Students will understand the social issues and the role of civil society, as well as contemplate their own role in the society.
【到達目標（Learning Objectives）】
1 To understand the global issues of the world and their relations.
2 To undrstand the history and the present situation of the civil society and NGOs.
3 To cultivate the citizenship and acquire the methodology.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Prepare the class by skimming through the materials provided.
After the class, take time to write a relfection paper. Try relating what you learned in the class to your previous knowledge and experiences.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation to the class and thoughtful refection is important.
Reflection report after every class 60% Term-end report 40%

CUA500P2 － 132

ヒューマン・エコロジー

山内　愛子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際的な環境保全を目的とした際に実効性ある取り組みを行うことを前提とし、多様なステークホルダーとともに協働する手法について、主に海洋を現場とした活動を取り上げる。この授業を通じて、実社会で活用可能なステークホルダーエンゲージメントの方法論を深めるとともに、中長期的に環境保全やサステナビリティに取り組むためのツールを学ぶ。

【到達目標】
1）国際的な環境保全のあり方について理解する
2）国際的な潮流と日本独自の課題の調整を検討できる
3）サステナビリティの実現に向け、利用可能なツールとその使いかたを理解する
4）国内外の多様なステークホルダーの重要性を理解し、ステークホルダーマッピングができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
1）前半は講義を通じて、国際環境 NGO の活動やステークホルダーとの連携について学び、実社会での活動のあり方への理解を深める
2）後半では、学んだ内容を活かし、実際に実施可能な計画が立てられるよう、グループディスカッションや演習を取り入れる
3）自分が選択した環境問題の解決に向けた活動計画を作成する
授業形態は対面での講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際的環境保全の実態(海洋を事例として)	国際的な環境問題について、海洋問題を中心に国際環境 NGO の取り組み事例を紹介
第 2 回	サステナビリティとステークホルダー	環境保全活動の根幹となるサステナビリティを実現する上でで重要なステークホルダーの役割について学ぶ
第 3 回	マーケットの力を利用した環境保全の事例	近年重要な位置付けにあるマーケットと環境保全の関係性を学ぶ
第 4 回	サステナビリティと多様なツール	ステークホルダーとの連携を可能にする様々なツールについて学ぶ
第 5 回	国際的な視点と国内の課題	国際的な潮流と国内の事情・背景をすり合わせた上で、期待される結果を生むような実践例を学ぶ
第 6 回	国際的な環境問題への貢献	日本で活躍するリーダーをスピーカーとして迎え、国際的視点を持った国内での活動事例を学ぶ
第 7 回	サステナビリティ社会の構築に向けた先進的事例	国際的に活動する組織の取り組みを通じて米国や欧州の先進的な事例を学ぶ
第 8 回	環境問題とその原因	自分が解決したい環境問題を選択し、その課題や背景を考える
第 9 回	環境問題とその原因	グループディスカッションを通じて、自分では見えなかった課題や背景を探る
第 10 回	ステークホルダーマッピング	ステークホルダーマッピングの方法を学ぶ
第 11 回	ステークホルダーマッピング	自分が解決したい環境問題に関するステークホルダーマッピングをグループディスカッションを通じて行う
第 12 回	環境保全活動の計画	環境保全活動を行う際の計画立案方法を学ぶ
第 13 回	環境問題の解決に向けた計画発表	実際に取り組み可能な解決方法について発表を行い、パネルディスカッションを行う
第 14 回	環境問題の解決に向けた計画発表	実際に取り組み可能な解決方法について発表を行い、パネルディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後半では、自分が解決したい環境問題を選択し、作業を行うため、事前に選択したい環境問題の知識等を深めること。また、ディスカッション等を通じて得られた他者の見解や意見について復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、毎回資料を配布します。

【参考書】
特になし。ただし、関心ある環境問題ついて参考文献が必要な場合には個別紹介します。

【成績評価の方法と基準】
独自の環境保全活動計画が完成することを目標とします（要提出）。
計画では、
1　国際的な視点で検討できているか？
2　解決すべき問題は理解できているか？
3　ステークホルダーとの連携が十分検討されているか？
を元に評価します。
評価基準：
提出された環境保全活動計画書から、
1　実践可能性　６０％
2　解決手法　　２０％
3　ステークホルダーとの連携度　２０％

【学生の意見等からの気づき】
講義の最後に振り返りディスカッションを通じて、意見交換を行います。

【学生が準備すべき機器他】
講義中に作業の実施が必要となるため、パソコンやタブレットなど個人で使用できる機器をご準備ください

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
水産学、海洋環境保全
＜研究テーマ＞
サステナブルシーフードと環境保全型漁業
＜主要研究業績＞
1 海と水産業の多面的評価－水産研究の新たな役割と方向性－
環境保全活動の目指す未来と水産研究・水産業に期待する役割、月刊海洋、2015 年 8,9 月号
２ＳＤＧｓビジネス戦略 企業と社会が共発展を遂げるための指南書
（第 3 章　企業が取り組むべき SDGs
目標 14　海の豊かさを守ろう）、日刊工業新聞社
3 海洋の生物多様性保全と持続可能な利用、水産振興、２０１１

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course is designed to learn the methodology for the development of a conservation project through practical stakeholders engagement process.
（Learning Objectives）
The objective of this corse is to learn available tools and methods to proceed "stakeholders engagement" in projects.
（Grading Criteria /Policy）
To evaluate the submitted project plan developed by the individual student.

MAN500P2 － 134

社会起業家論

吉田　秀美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、国際協力の分野で新たなアクターとして定着してきた（1）社会起業家（社会問題をビジネスの手法で解決する個人や団体）と、（2）本業の延長で貧困削減や社会問題の解決に取り組む企業（サプライチェーンマネジメントや価値共創、インクルーシブビジネス）の事例を中心に学ぶ。

【到達目標】
(1) 国際協力における社会起業家とインクルーシブビジネスの役割を理解したうえで、可能性や課題について討議し、各自の見解を深める。
(2) 各回の事例を題材に受講者のバックグラウンドと国際協力との接点について討議し、新たな国際協力の方法を提案できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
第１・２回で理論的背景を説明する。第３回目以降は、具体的な事例を紹介し、受講者との討議を行う。ゲストスピーカーに事業を行っている実務家を招待する予定あり（第１回目の授業で詳細をお知らせします）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	社会起業家とは何か？	社会起業家に関する資料をもとに概念を理解する
第 2 回	企業の価値共創とは何か	企業の価値共創について、主要論文を参考に議論する
第 3 回	社会起業家 (1)	インドの社会起業家の事例ついての講義
第 4 回	社会起業家 (2)	事例について討論
第 5 回	社会起業家 (3)	アジア各国における社会起業家についての講義
第 6 回	社会起業家 (4)	事例について討論
第 7 回	社会起業家 (5)	日本における社会起業家の事例についての講義
第 8 回	社会起業家 (6)	事例について討論
第 9 回	企業の価値共創 (1)	日本企業によるインクルーシブビジネスについての講義
第 10 回	企業の価値共創 (2)	事例について討論
第 11 回	企業の価値共創 (3)	日本企業によるインクルーシブビジネスについての講義
第 12 回	企業の価値共創 (4)	事例について討論
第 13 回	事例研究発表（1）	受講者による事例研究発表
第 14 回	事例研究発表 (2)	事例研究発表についての討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料を予習して、積極的に討論に参加すること。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。参考図書から自分の関心に近い分野を選んで読んでみてください。

【参考書】
田口 一成, 川勝 亮太郎他 (2021)『9 割の社会問題はビジネスで解決できる』PHP 研究所
Constant Beugre (2017). Social Entrepreneurship: Managing the Creation of Social Value. Routledge.
国連開発計画編、吉田秀美訳 (2010)『世界とつながるビジネス』英治出版
マイケル E. ポーター (2011)「共通価値の戦略－経済価値と社会価値を同時実現する (原文 “Creating Shared Value”) 」『Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー』2011 年 6 月号
ムハンマド・ユヌス著、猪熊弘子訳（2008）『貧困のない世界を創る』早川書房
イアン・スマイリー著、笠原清志監訳（2010）『貧困からの自由』

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献と期末レポート

【学生の意見等からの気づき】
国際協力の分野は実務が先行し、アカデミアが後追いしていることが多々あります。
国際的なジャーナルに「アカデミックな研究」や理論が掲載される頃には、現場で違う展開が起きていることに驚かされることもあります。最新の事例と理論的研究とをバランスよく紹介していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、課題提出には授業支援システムを活用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　国際協力・社会開発・貧困削減
＜研究テーマ＞
　特に南アジア・東南アジアにおけるインクルーシブビジネス
＜主要研究業績＞
国連開発計画編、吉田秀美訳 (2010)『世界とつながるビジネス』英治出版

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will focus on cases of emerging actors in the field of international cooperation: (1) social entrepreneurs, i.e., individuals and organizations that solve social problems using business methods, and (2) companies that work to reduce poverty and solve social problems through supply chain management, value co-creation, and inclusive business in their core businesses.
【Goal】
The goals of this class are:
(1) To understand social entrepreneurs and inclusive business in international cooperation.
(2) To be able to propose solutions to social problems.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to read the class material in advance and actively participate in the discussion.
【Grading Criteria】
Grades are based on active contributions to the class and a final report.

SOC500P2 － 139

国際環境政策の社会学

島田　昭仁

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に、日本とドイツのエネルギーシフト政策の違いについて学ぶ。違いの要因を知るためにコミュニティや労働に対する考え方の違いを学ばなくてはならない。そしてドイツの政策、次に日本の政策、そしてＥＵとアジアの違いについて説明する。５Ｇを活用したスマートシティー等、今後のトピックについても扱う。

【到達目標】
エネルギーシフト政策を通して、ドイツと日本、及びＥＵとアジアのコミュニティの意識の違いについて理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面式で行う。毎回、テキストと参考書に沿って進め、PPT で解説を行い、ディスカッションを行う。さらに授業でリアクションペーパーを配布し、その結果を授業にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに EU におけるドイツとは	EU において緑の党が果たした役割について…なぜ脱炭素なのか？
第 2 回	脱炭素と現代文明	労働とコミュニティと文明の関り
第 3 回	独のＥ政策 (福島の影響)	日独「エネルギー転換」比較分析 C1
第 4 回	独のＥ政策 (草創期)	日独「エネルギー転換」比較分析 C2
第 5 回	独のＥ政策 (討議主義)	日独「エネルギー転換」比較分析 C3
第 6 回	独のＥ政策 (核ｴﾈﾙｷﾞｰ)	日独「エネルギー転換」比較分析 C4
第 7 回	独のＥ政策 (政策の結末)	日独「エネルギー転換」比較分析 C5,6
第 8 回	日本のＥ政策 (電力供給)	市民電力とは何か…各地取組の実態
第 9 回	日本のＥ政策 (建築)	ZEB、ZEH …ゼロエネルギーとは
第 10 回	日本のＥ政策 (運輸交通)	運輸・航空業界における実態
第 11 回	日本のＥ政策 (都市計画)	ｽﾏｰﾄｼﾃｨｰと 5G で、都市はどうなる？
第 12 回	EU とアジアの比較 (資本主義経済とピグー税)	環境税とは何か 経済学におけるﾋﾟｸﾞｰ税の適用限界
第 13 回	EU とアジアの比較（ﾍﾟｲｼｯｸｲﾝｶﾑと森林税）	森林環境税はどこからきたのか
第 14 回	まとめ　独日、EU とｱｼﾞｱはなぜちがう	労働とｺﾐｭﾆﾃｨの考え方の違いについてディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下のテキストは授業内で配布します（購入する必要はありません。）。
・『日独「エネルギー転換」の比較分析』2019, 壽福

【参考書】
以下の参考書は授業内で配布します（購入する必要はありません。）。
・『資料で見るドイツ「エネルギー転換」の歩み』2019, 壽福
・『ゼックプロジェクト調査・研究報告書』2019, 谷口・島田

【成績評価の方法と基準】
①期末試験期間内に提出するレポート課題によって評価する。
②課題は第 14 回の授業内で示す。講義内容から自分の意見を記述する。
③評価基準は課題把握の的確さ (30%)、論理一貫性 (30%)、論拠の正当性 (30%)、誠実性 (10%) とする。

【学生の意見等からの気づき】
大事なことは何度も繰り返して説明する。

【学生が準備すべき機器他】
状況によっては Zoom 環境 (端末、Wifi) が必要となる。

【その他の重要事項】
国や自治体の政策に 25 年間関わった教員が、関連法規や施策の解説を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞都市計画
＜研究テーマ＞住民の合意形成
＜主要研究業績＞『地域づくり計画学』ｺﾐｭﾆﾃｨ科学出版,2021

【Outline (in English)】
Learn about the difference between Japan and German energy shift policy mainly. The goals is to have knowledge of the difference in way of the community and the labor. Students will be expected to read the text book and prepare reporting for the next. Your overall grade in this class will be decided based on in class contribution 50% and qualities of reports.

SES500P2 － 116

環境工学の基礎

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには科学知識が欠かせない。本講義では大気汚染、水質汚濁、廃棄物、土壌汚染、騒音・悪臭、有害物質など、ローカルな環境問題の発生メカニズムと対処に関する工学的基礎を修得し、そのような問題への対処方を考える基礎力を養うことを目指す。

【到達目標】
以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。
大気汚染発生のメカニズムと処理技術
上下水道の構造
水質汚濁発生のメカニズム
土壌汚染の特徴と対策技術
感覚公害の特徴と騒音・振動・悪臭の原因と対策技術
廃棄物の定義と現状
リサイクルの意味と関連する諸制度
リスク論の考え方と環境に関する基準の設定方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントは Hoppii にアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	環境問題とはどのようなものか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染 1	大気汚染の歴史、ばいじん、硫黄酸化物
第 3 回	大気汚染 2	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音	音とは、騒音の評価法、騒音対策
第 10 回	廃棄物 1	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物 2	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル	リサイクルの種類、関連法規
第 13 回	有害物質とリスク	有害の意味、リスクとはなにか、リスク認知
第 14 回	基準の決め方	環境基準と排出基準

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文科系のための環境科学入門』　有斐閣

【参考書】
別途、指示する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（100 %）もしくは最終回に行う試験 (100%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【担当教員の専門分野等】
環境システム科学、国際環境協力

【担当教員の関連する業績】
① Ryo Fujikura, Mikiyasu Nakayama, Manami Fujikura (2016) Formulation Process of Diet Law and Cabinet Law in Japan － A Comparative Study of Basic Environmental Law and Basic Law on Biodiversity － , International Journal of Social Science Research, Vol. 4, No. 2, DOI: http://dx.doi.org/10.5296/ijssr.v4i2.9703
② Tetsuo Kida and Ryo Fujikura (2015) Pollution Risks Accompanied with Economic Integration of ASEAN Countries and the Fragmentation of Production Processes, International Journal of Social Science Studies, Vol.3, No.5, DOI: 10.11114/ijsss.v3i5.915
③ Ryo Fujikura (2011) Environmental Policy in Japan: Progress and Challenges after the Era of Industrial Pollution, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5, pp. 303-308
④ Ryo Fujikura (2011) The Influence of Local Governments on National Policy-Setting Processes to Regulate Japan's Vehicle Emissions, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5, pp. 309-324

【Outline (in English)】
Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basic engineering knowledge regarding mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on a report or the final exam.

POL500P2 － 117

環境資源・エネルギー政策論

菊地　昌廣

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
気候・気象の不安定化の要因となる地球温暖化対策が COP26 で協議され、新たな国際的枠組みや対策が合意された。今後参加国はこの枠組みや対策に沿って、それぞれの立場で温暖化対策を推進していくことになる。一方で、我が国のエネルギー政策は、再生可能エネルギー活用の進展と原発の安全対策強化を前提とした原発再稼動の流れが進みつつあり、2050 年の温室効果ガス排出事実ゼロを目指した環境維持と経済・文明を支えるエネルギーのサステイナブルな供給を図るための政府の政策に目が離せないところであり、環境保全に親和性の高いエネルギー選択供給政策の迅速な運用が望まれる。そこで、様々な要因を分析し、環境保全に有効な最適なエネルギーミックスと国民へのエネルギー安定供給を考える上で基礎となる諸課題を理解するとともに、環境に親和性の高いサステイナブルなエネルギー供給・利用政策提言能力を習得する。

【到達目標】
①地球ライフサイクルと社会科学の視点から大気汚染、地球温暖化等、環境問題の捉え方を理解する。
②内外のエネルギー統計に基づき、豊かな社会生活を維持するために必要なエネルギー使用現状を理解する。
③利用可能なエネルギー資源の特徴とサステイナブルな供給確保のための政策立案のための考慮要因を理解する。
④エネルギー概念、エネルギー利用形態と利用効率等エネルギー利用管理上の要素を理解する。
⑤省エネルギー方法と地球に親和性の高いサステイナブルエネルギー（再生可能エネルギー）活用方法とを理解する。
⑥国際対応を含む政府の環境・エネルギー政策を分析し、将来に向けた提言能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
初期段階で環境問題を議論する時の視点を地球ライフサイクルと社会科学の 2 つの側面から整理し、地球規模のエネルギーバランス概念を持って示す。
第 2 段階で議論の背景となる国際的エネルギー資源消費状況を理解するとともに、エネルギー供給のサステイナビリティ確保のための要因を議論する。
第 3 段階でエネルギーの利用形態や利用効率等のエネルギー科学について理解するとともに、省エネルギーの概念、再生可能エネルギー導入用検討について議論する。
最終段階で、国際的な視点で配慮しなければならないエネルギー価格変動要件を踏まえた国内外のエネルギー政策について議論する。
特にテキストは採用せず、授業で使用する資料を学習支援システムを介して毎回事前に配信し、予習を求める。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境問題の捉え方	環境問題は、産業革命以来人類が構築してきた高度な文明社会の負の遺産であり、エネルギー起源の環境問題を近時間的な社会問題として捉えることを解説する。
第 2 回	世界のエネルギー資源とソースとシンクの関係	消費可能な化石資源の特徴を解説するとともに、自給率の視点から化石燃料別に海外依存度とエネルギー資源の需給バランスについて解説する。文明社会維持には、エネルギー供給が不可欠であるとの視点に立って、エネルギー資源利用の在り方を解説する。
第 3 回	エネルギー資源消費の内外の現状	環境資源・エネルギー政策を論ずる背景となるエネルギー資源消費と、地球規模でのエネルギー需要増加状況と資源価格の変動状況を踏まえて、地球規模の資源配分の公平化の視点から国際対策の在り方について解説する。
第 4 回	エネルギー利用に付帯する環境リスク（地球温暖化と気候変動）	大量の化石資源消費に起因する温室効果ガスによる地球温暖化問題と地球規模の気候変動メカニズムについて解説するとともに、環境負荷問題の地域間、世代間への広がりについて解説する。
第 5 回	環境負荷への歴史的議論とエネルギー政策立案の視点	1970 年代に行われたローマクラブの議論及び引き続き行われた環境負荷に対する議論を歴史的な変遷から整理すると共に、ここで提案された政策立案に至る手法について解説する。
第 6 回	エネルギーの科学技術	エネルギーとは何か、その種類、用途とその特徴等の概念を解説し、熱、動力、電気と形態を変えて利用されているエネルギーの特徴とエネルギー利用時の損失や回収方法について解説する。
第 7 回	安定したエネルギー資源確保のための要因とエネルギーセキュリティ	安定した資源供給のために不可欠な資源確保対策としてのエネルギーセキュリティ政策について解説する。
第 8 回	再生可能エネルギーと新エネルギー	再生可能エネルギーやその他の新エネルギー技術や導入実績について紹介すると共に、サステイナブルなエネルギー供給・利用形態について解説する。
第 9 回	省エネルギー	エネルギー利用の効率化の観点から、供給サイド及び需要サイドの視点で実施されている省エネルギーや節エネルギー等、経済基盤維持の視点からの将来的な限界や課題について解説する。
第 10 回	環境・エネルギー税制	エネルギー政策を実現する上で必要となる資金確保のための石油・石炭税、電源開発促進税等既存のエネルギーに係る税制を解説すると共に、環境税（炭素税）のあり方や用途について解説する。
第 11 回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に、現在のエネルギー関連法令について議論する。
第 12 回	政策立案のメカニズムと今後の方向性	エネルギー政策基本法に基づくエネルギー基本計画策定のメカニズムの説明と近い将来の我が国のエネルギー利用計画について解説する。
第 13 回	電力自由化政策とエネルギー供給システム	公共財としての電気エネルギー供給の立場と、私的財としての電気エネルギー供給の立場の両面から国民に安定した電力を供給するための我が国の電力供給問題について議論する。
第 14 回	環境維持に関する国際協議	地球温暖化防止のための気候変動枠組み条約の実施取り決めとしての京都議定書及びパリ協定の交渉の経緯を解説し、今後の方向性を示唆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。事前に配布する授業レジメを予習は必須。

【テキスト（教科書）】
特に特定のテキストは採用しない。講義レジメは事前に学習支援システムで配信する。

【参考書】
①成長の限界、D.H. メドウズ他著、大来佐武郎監修、ダイアモンド社、昭和 47 年 9 月 20 日
②成長を超えて、D.H. メドウズ他著、茅　陽一監修、ダイアモンド社、1992 年 12 月 3 日
③成長の限界、人類の選択、D.H. メドウズ他著、枝廣淳子訳、ダイアモンド社、2005 年 3 月 10 日

【成績評価の方法と基準】
授業を通して理解した内容をレポートにまとめ提出を求める。授業内容の理解の到達度を確認する。提出レポートの内容を 100 点を満点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
半期の授業であり、講義を効果的かつ効率的に進める必要があることから事前配付資料の予習は必須。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【エネルギー政策】
＜専門領域＞
エネルギー政策
内外のエネルギー安全保障政策、エネルギー利用環境保全政策、核不拡散政策、核物質管理政策技術
＜研究テーマ＞
地球環境に親和性の高いエネルギー利用とエネルギーセキュリティの追求
環境保全と安定したエネルギー利用に対する政策提言
＜主要研究業績＞
菊地昌廣「京都議定書目標は達成し得るか」法政大学人間環境論文集第 8 巻第 1 号
菊地昌廣「核拡散問題と検証措置」浅田正彦、戸崎洋史　編、核軍縮と不拡散の法と政治第１４章（信山社、2008 年）
菊地昌廣　「大規模災害と科学技術」科学技術と国際関係、共著第 9 章（内外出版　2013 年）

【Outline (in English)】
Course outline: Through learning relationship between global environment including climate change and current utility of energy, to consider the sustainable energy policy to be used in future world.
Learning Objectives: To obtain the capability to explain fundamental technologies of energy regarding warming of the globe progress and to have opinions about sustainable worldwide energy policy.
Learning activities outside of classroom: To be required pre- and post-learning of the resume of lecture which will be distributed through the Hoppii.
Grading criteria: Your overall grade will be decided based on term-end report and discussions in the classroom.

SOM500P2 － 121

公衆衛生研究

宮川　路子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公衆衛生学は，疾病の治療を目的とする臨床医学とは異なり、疾病の予防を目的とし、さらに健康増進を図る科学技術である。人々を病気から守り、肉体的・精神的に健康な状態で社会生活を送れることを目的としている。これは人類が求める最も基本的かつ重要なサステイナビリティーである。現代社会には、ありとあらゆる健康問題が山積している。私たちが 21 世紀を健康に生き抜いていくためには、これらの健康問題について、適切な知識を持ち、情報の取捨選択を行っていく必要がある。
本講義では、学生が健康意識を高め、よい生活習慣、予防のためのノウハウを学び、健康寿命の延長を目的として公衆衛生の立場から幅広い知識を身に着けていく。

【到達目標】
本講義では，超高齢社会を生きる社会人にとって必要な健康知識と問題解決能力の習得を目的としている。予防医学，疫学の基礎を学び，様々な領域の専門家を招いて最先端の知識を得るとともにディスカッションを行ってさらに学生が理解を深める。
疫学、統計学的、社会学的手法を用いた実態調査についても実例から方法論を学び、実際の研究調査の質を判断することができるようになる。学生はメディアにおいて氾濫している誤った健康情報から適切な情報を得ることが可能となる。学生は、将来健康問題に直面した際に正しい道を選択できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
少子高齢社会において多様化する健康問題、医療費高騰、各種保健行動などについて議論するとともに、疫学、統計学的、社会学的手法を用いた実態調査の例を論文より学び、対策を講じていく過程を学習する。また、疫学調査、産業保健、などさまざまなテーマを取り上げて専門家を招き、最先端の知識を得ると同時にディスカッションを行って、現代社会における健康、生命についての問題点を浮き彫りにしていく。課題は最終回に発表する形とし、時間内に講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 予防医学について	講義を受講するための心構え。 現代社会において必要とされる予防医学の基礎的知識を学ぶ。
第 2 回	分子整合栄養療法	健康の基本は栄養であり、細胞内の栄養バランスを適切に整えることにより、からだとこころの健康を保つことができることを学ぶ。
第 3 回	メンタルヘルスケア	産業保健の最重要課題であるメンタルヘルスケアについて学ぶ。また、メンタルヘルスケアにおいて重要なストレスと職場環境について学ぶ。
第 4 回	外部講師講義（日本の医療の問題点について）	個の医療から集団の医療へというテーマで学ぶ。
第 5 回	外部講師講義（疫学について）	疫学手法を用いた研究について実例紹介により理解を深める
第 6 回	医療と倫理	医療界に発生する様々な事件を参照し、生命倫理の問題点について学ぶ。
第 7 回	研究発表、まとめ	受講者による健康に関わるテーマの研究発表・ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
資料は講義の際に配布します。

【参考書】
こころの超整理法

【成績評価の方法と基準】
出席、講義中の発言、参加態度、修士課程の学生に対するコメント、最終回の発表とレポートによる。
平常点：５０％
発表：３０％
レポート：２０％

【学生の意見等からの気づき】
教科書に基づく基本的な知識の習得範囲を広げるとともに、専門家の講義とディスカッションをさらに充実させていく。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の発表時にレジュメを準備する。発表にパワーポイントを利用する場合には、教授室からパソコンを借りて準備をする。

【その他の重要事項】
外部講師の講義については、依頼する講師の都合により、変更することがある。

【担当教員の専門分野等】
公衆衛生学、産業保健、分子整合栄養医学、統合医療、統計学
＜研究テーマ＞栄養と健康、就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞ Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)
The European Journal of Public Health　2012 年
ビタミン D の健康効果　人間環境論集 19 巻号 79-101
日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか　人間環境論集　20 巻 1 号 1-17
https://eiyouryohou.com/

【Outline (in English)】
【Course outline】Public health, unlike clinical medicine aimed at treating diseases, is science and technology aiming at the prevention of diseases and promoting health. It aims to protect people from diseases and to live social life in a physical and mental healthy state. This is the most fundamental and important sustainability that mankind desires. In modern society, all kinds of health problems are piled up. In order to live healthy, it is necessary for us to have appropriate knowledge about these health problems, and to select information.
【Learning Objectives】In this lecture, students learn about healthy lifestyle and know-how for disease prevention, and wear broad knowledge from the viewpoint of public health for the purpose of prolonging healthy life span.
【Learning activities outside of classroom】Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria】Based on attendance, discussion during the lecture, presentation and report at the final session.
Attendance points: 50%.
Presentation: 30%.
Reports: 20%.

ENV500P2 － 112

自然環境共生研究

高田　雅之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
持続可能な社会に向けて、自然環境と人間活動との調和・共生を実現するためには、自然環境を取り巻く問題の本質を探り、科学的・社会的な視点から、社会の各主体によって相乗的で多面的に取り組まれることが望まれます。本講義では、生態系とそれをめぐる諸課題を理解し、それらに対してこれまで取り組まれてきた様々な手立てと、今後の共生実現に向けた政策の可能性について考究することをテーマとします。

【到達目標】
学生が以下の 3 点について知識と理解を深め、その要点及び自らの考えを説明できることを目標とします。
①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
②人間による影響を減じ、機能と恩恵を維持するために取り組まれてきた政策とその意義
③国際的視点に立って自然環境との共生に向けて取り組まれている諸政策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
「主な生態系の理解と保全上の難題」、「日本における自然環境保全のための基盤的な諸施策」、「生物多様性保全・自然再生・里山保全などの近年の重要課題」、「諸外国における多面的な取り組み事例」、「生物多様性と経済」などについて学びます。国内外の実例を交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね、持続可能な自然環境との共生に向けた自らの意見を養うことを通して到達目標に向かいます。
授業は対面を基本とし、必要に応じてオンラインを併用して行います。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、自然環境保全を取り巻く動向、生物多様性に関わる概念の進化
第 2 回	生物多様性のホットスポットと生物の進化	生物多様性のホットスポット、生物の大絶滅・大進化の歴史、哺乳類と人間の登場
第 3 回	生態系の理解 1 ：森林・草原	森林生態系の構造と機能、半資源草原・高山草原の生態系
第 4 回	生態系の理解 2 ：湿原・干潟	湧水湿地と泥炭地湿原・干潟生態系の特徴
第 5 回	貴重種の保護	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第 6 回	外来種問題	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第 7 回	日本の自然環境保全施策 1	自然公園と自然環境保全地域、鳥獣保護制度、野生動物の保護管理
第 8 回	日本の自然環境保全施策 2	環境アセスメントの特徴と手続き、制度構築経過、戦略的環境アセスメント
第 9 回	里山と生物多様性	里山の資源循環と共生、生物多様性とは、生態系サービス、バイオミミクリ
第 10 回	自然再生	自然再生とは、近自然河川工法、グリーンインフラ
第 11 回	海外の自然環境共生事例 1	フランスの地方自然公園とエコミュゼ、イギリスのトラスト活動
第 12 回	海外の自然環境共生事例 2	ドイツのビオトープ、欧州農業環境政策
第 13 回	生物多様性と経済	生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット、認証制度
第 14 回	景観生態学	景観生態学とは、地理空間情報を用いた分析と事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
人と自然との関わりや、自然環境政策、生物多様性などに関するメディア、文献、事例に触れることにより自主的な研究を進めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
毎回の講義において紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）：毎回提出するリアクションペーパーにより理解度を評価します。
期末レポート（50%）：最終回に示すレポート課題によって総合的な理解度と考察力を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
知識の詰め込みとならないよう、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット
＜主要研究業績＞
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci., 2017.
Drastic declines in Brown Shrike and Yellow-breasted Bunting at the Lake Utonai Bird Sanctuary, Ornithol Sci., 2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著

【実務経験のある教員による授業】
公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】
To achieve harmony and coexistence between the natural environment and human activities for a sustainable society, it is hoped that we will explore the essence of the issues surrounding the natural environment and address the issues from the scientific and social perspectives. In this lecture, the theme is to understand the ecosystem and the issues surrounding it, to learn the various measures that have been taken to address them, and the potential of policies for harmonization between human and nature.
The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

SES500P2 － 115

大気人間環境論

北川　徹哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大気は人間生活圏を覆っており，人が呼吸し，生存するために必要なものである．一方で，時には脅威となる存在であり，またある時は心地よさやエネルギーをもたらすものでもある．本講義においては，大気の動きと人間生活，社会，都市，環境との関係について多角的に学ぶ．

【到達目標】
１．大気運動のスケールと性質，ならびに大気と環境問題との関係を説明できる．
２．大気による災害の種類と，それらの人・社会・都市への影響を説明できる．
３．気流の人間生活への寄与について説明できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で進められる．また，質問は随時受け付ける．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大気のスケールと構造	マクロ・メソ・ミクロの大気現象
2	強風の種類と仕組み	台風，季節風，地形と気流，竜巻，ダウンバースト
3	強風がもたらす社会・都市への被害，強風の統計的性質	大気観測，強風の種類と被害の程度，最大風速，再現期待値・再現期間
4	大気の動きと人間	市街地・郊外上空の大気の動き，スペクトル，渦，風の息，風騒音，気流と人間生活環境
5	都市の大気汚染	汚染物質の大気拡散，ストリートキャニオン，ヒートアイランド，クリマアトラスと風の道
6	大気による粒子の輸送	飛砂，風紋，黄砂，ダストストーム，スギ花粉の飛散
7	屋内空気環境と人間生活	住居環境と汚染物質，人の温冷感

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のノートや資料などを用いて予習・復習し，後半に出題される課題に取り組み，レポートにまとめること．
本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
レポートによる平常点評価（100 %）：大気と人間生活，社会，都市あるいはエネルギーに関する課題に対し，到達目標１～３に要求される知識がレポートに展開されているか，また，適切かつ詳細な論述がなされているかを評価する．

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境流体，気象社会論，流体関連振動
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策，気象リスク
＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第 25 回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰 Ornstein-Uhlenbeck 過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集 A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博 2000 に導入された天候デリバティブについての一考察，第 23 回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み，日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】
（Course outline）
The boundary layer of the atmosphere is closely related to human life and social systems such as industries and transportations, and it is important for us to study its characteristics so as to save the human life and society from disasters/sickness, and to create better urban/regional environments. In this course, firstly we study about fundamentals on various types of atmospheric phenomena such as ENSO, the typhoon, and and the see breeze, the mountain and valley breeze, the downburst and the tornado, and about their effects on cities and people. Secondly, as an example of the air flow significantly related to the human health, the characteristics of the indoor air are focused on. While causing the pollution contaminant advection, the indoor air flow performs to remain the room environment safe and comfortable.
（Learning Objectives）
The goals of this course are
A. to learn the time-space characteristics of various types of atmospheric phenomena,
B. to study about the wind effects on cities and people, and
C. to understand the system of the indoor air ventilation.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to understand the course content after each class, and to have completed a required assignment. Your study time will be more than four hours for a class on average.
（Grading Criteria /Policies）
Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

GEO500P2 － 118

自然災害と防災

杉戸　信彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然災害のリスクは、自然界のもたらすハザードと人間社会の脆弱性との掛け算で決まる。本授業では、地域社会の防災力、ひいては持続可能性の向上をはかるため、自然環境の地域的差異と因子、歴史的変遷を踏まえながら、災害をもたらすさまざまな自然現象の姿を理解し、防災における課題を検討する。

【到達目標】
自然災害の特徴を、土地の自然的個性を踏まえて説明できる。
日本列島における防災の課題を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
主に講義形式。一部で図上作業も実施する。
リアクションペーパー等からポイントを選定し、全体に対してフィードバックを行う。
授業形態については学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自然災害と防災	自然災害のとらえ方や防災の考え方を整理する。
第 2 回	地震災害を読み解く	日本列島の地震と火山噴火を自然地理学的な視点から概観する。地殻変動や地震動、津波などについて検討を行う。
第 3 回	火山災害を読み解く	日本列島の火山活動について自然地理学的な視点から概観したのち、マグマの組成と噴火様式、火砕流、火山灰などについて検討を行う。
第 4 回	気象・土砂災害を読み解く	日本列島の気候環境について自然地理学的な視点から概観したのち、豪雨と積乱雲、台風、斜面崩壊などについて検討を行う。
第 5 回	防災気象情報と避難	災害種と予測可能性、災害情報、避難情報などについて検討を行う。
第 6 回	災害の歴史・災害経験の継承	災害の歴史、記録、記憶などについて検討を行う。
第 7 回	ハザードマップと防災教育	土地条件や想定、学校および地域における防災教育などについて検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）・期末レポート（50%）。平常点はリアクションペーパーによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞
1）杉戸信彦，2014，大地震の歴史とメカニズムを捉える－活断層への地理学的アプローチ－，木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編，「災害フィールドワーク論」，FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 5，古今書院，212p，132-149．
2）杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘，2015，津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布，地学雑誌，124，157-176．doi: 10.5026/jgeography.124.157
3）Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】
Natural disaster risk is defined by (1) natural-hazard impacts and (2) social vulnerabilities. In order to improve social resilience that supports future sustainable society, we examine various natural phenomena that cause disasters, such as earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, in terms of their spatial variation, mechanism, and history. We also examine current status and issues in disaster prevention.
Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain features of natural disasters from the perspective of land conditions, and (2) to explain issues for disaster prevention in the Japanese islands. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (50%) and the final report (50%).

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

金藤　正直

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士論文の作成を有効的に進めていくために必要とされる研究・調査の方法論を習得していくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、①研究の目的や視点の設定方法と、②先行研究の分析方法（文献調査の方法）、といった修士課程で行っていくための研究・調査の基礎的な方法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、本演習で研究・調査の方法論を習得し、これに基づいて研究・調査報告を行ってもらうとともに、小論文（研究計画書）を作成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	修士論文のフレームワークを講義するとともに、その中でこの授業で取り扱う内容について確認する。また、履修者がこれまでに取り組んできた（学部時の）研究・調査（卒業論文）の内容を報告し、その内容をこの回で講義したフレームワークに当てはめながら再確認する。
第 2 回	研究の目的と視点の設定方法①	研究の目的と視点の設定方法を講義する。
第 3 回～第 6 回	研究の目的と視点の検討	関心のある研究テーマに関する「著書」、「研究論文」、「報告書」、「新聞・雑誌記事など」の中からいくつか紹介し、その内容を報告する。
第 7 回	研究の目的と視点の設定方法②	第 3 回から第 6 回までの報告内容の検討から、修士論文における研究の目的と視点を報告する。
第 8 回	先行研究の分析方法①	第 7 回で設定された研究の目的と視点に基づく先行研究の分析方法を講義する。
第 9 回～第 12 回	先行研究の分析	研究の目的と視点に関する「著書」、「研究論文」、「報告書」、「新聞・雑誌記事など」の中からいくつか紹介し、その内容を報告する。
第 13 回	先行研究の分析方法②	第 9 回から第 12 回までの報告内容に基づいて、先行研究の分析内容をリスト化し、それを報告する。
第 14 回	小論文の作成方法	第 13 回までの内容を加味した小論文（研究計画書）の作成方法を講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などから、研究の目的と視点の検討やこれらに基づく先行研究の調査・分析を計画的に行うとともに、その結果を報告に反映させてください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・報告用配布レジュメの内容（20 %）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（20 %）
・討論への参加（発言内容）（20 %）
・小論文（研究計画書）の内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境経営論、地域経営論
＜研究テーマ＞
企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。

【Outline (in English)】
① Course Outline
The purpose of this seminar is to learn the methodology of research and survey for writing a master thesis.
② Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically discuss and summarize their research.
③ Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
④ Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Content of the resume ： 20%
2）Content of the presentation ： 20%
3）Participation in the discussion ： 20%
4）Short thesis based on the research ： 40%

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

金藤　正直

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士論文の完成度を高めていくために必要とされる研究・調査の方法論について習得していくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、論文研究指導 1A での取組みを加味しながら、次の方法論を習得することを目指していく。
①修士論文の基盤となる理論モデルの検討方法
②アンケート調査およびヒアリング調査とこれらの調査結果の分析方法
③企業や地域の事例研究（ケーススタディ）の方法
④論文研究指導 1A と①～③の検討結果のまとめ方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、本演習で研究・調査の方法論を習得し、これに基づいて研究・調査報告を行ってもらうとともに、その結果を参考にしながら小論文（研究計画書）を作成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	修士論文のフレームワークとその中で 1 年次春学期までの研究・調査の内容を再確認する。
第 2 回	理論モデルの検討方法①	論文研究指導 1 A の内容に基づいて、修士論文の基盤になる理論モデルの検討方法を講義する。
第 3 回～第 4 回	理論モデルの検討	論文の基盤になると考えられる理論モデルを「著書」、「研究論文」、「報告書」から検討し、その内容を報告する。
第 5 回	理論モデルの検討方法②	第 3 回から第 4 回までに検討した理論モデルを整理し、修士論文に適したモデルを決定する。
第 6 回	アンケート調査の方法	アンケート調査票の作成から調査結果の分析方法までの流れを講義する。
第 7 回～第 8 回	アンケート調査票の作成	アンケート調査票（案）を作成し、その内容について報告する。
第 9 回	ヒアリング調査の方法	ヒアリング調査票の作成から調査結果の分析方法までの流れを講義する。
第 10 回	ヒアリング調査票の作成	ヒアリング調査票（案）を作成し、その内容について報告する。
第 11 回	事例研究の方法	企業や地域の取組事例の研究・調査（ケーススタディ）の意義とその方法について講義する。
第 12 回～第 13 回	ケーススタディの報告	ケーススタディの結果を報告する。
第 14 回	修士論文の構想	第 13 回までの内容を加味して、修士論文の構想について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
著書、研究論文、報告書から、修士論文の基盤になると考えられる理論モデルの検討や、アンケート調査やヒアリング調査のための調査票の作成・分析方法を計画的に学習するとともに、その結果を報告や小論文（研究計画書）に反映させてください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（20 %）
・報告用配布レジュメの内容（20 %）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（20 %）
・修士論文の構想（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　環境経営論、地域経営論
＜研究テーマ＞
　企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。

【Outline (in English)】
① Course Outline
The purpose of this seminar is to learn the methodology of research and survey for writing a master thesis.
② Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically discuss and summarize their research.
③ Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
④ Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Content of the presentation ： 20%
2）Content of the resume ： 20%
3）Participation in the discussion ： 20%
4）Submission of master thesis plan:40%

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

北川　徹哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

【到達目標】
１．課題を設定する．
２．既往の研究に関する文献調査を行う．
３．課題解決への手段を構築する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
調査とディスカッションを通じて，研究方針の策定と修士論文の執筆の準備を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現状分析	文献調査，整理，理解
2	現状分析	文献調査，整理，理解
3	現状分析	文献調査，整理，理解
4	現状分析	文献調査，整理，理解
5	現状分析	文献調査，整理，理解
6	現状分析	文献調査，整理，理解
7	第１～６回のとりまとめ	文献調査，整理，理解
8	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
9	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
10	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
11	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
12	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
13	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
14	第８～１３回のとりまとめ	抽出された課題の解決方法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全回：研究の実施，資料およびスライドの作成．
本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
資料およびスライド（70 %：論述の適切さ，到達目標１～３への到達度），議論（30 %：説明の正確さ，質疑応答の適切さ）により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境流体，気象社会論，流体関連振動
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策，気象リスクヘッジ，数値流体解析
＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第 25 回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰 Ornstein-Uhlenbeck 過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集 A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博 2000 に導入された天候デリバティブについての一考察，第 23 回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み，日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Studies, investigations and discussions on the research issue for the master thesis.
（Learning Objectives）
The goals of this course are
A. to deliberate on the research objective and plan,
B. to obtain basic knowledges to proceed the master research and
C. to consider the methodology to analyze the data required in the master research.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on the qualities of the presentation (70%) and the discussion (30%).

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

北川　徹哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

【到達目標】
１．課題を設定する．
２．既往の研究に関する文献調査を行う．
３．課題解決への手段を構築する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
調査とディスカッションを通じて，研究方針の策定と修士論文の執筆の準備を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
2	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
3	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
4	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
5	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
6	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
7	第１～６回のとりまとめ	抽出された課題の解決方法の検討
8	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
9	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
10	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
11	解決方法の具体化，中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
12	解決方法の具体化，中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
13	解決方法の具体化，中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
14	第８～１３回のとりまとめ	解決方法のインプリメンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全回：研究の実施，資料およびスライドの作成．
本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
資料ならびにスライド（50 %：論述の適切さ，到達目標１～３への到達度），議論（50 %：説明の正確さ，質疑応答の適切さ）により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境流体，気象社会論，流体関連振動
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策，気象リスクヘッジ，数値流体解析
＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第 25 回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰 Ornstein-Uhlenbeck 過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集 A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博 2000 に導入された天候デリバティブについての一考察，第 23 回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み，日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Studies, investigations and discussions on the research issue for the master thesis.
（Learning Objectives）
The goals of this course are
A. to deliberate on the research objective and plan,
B. to obtain basic knowledges to proceed the master research and
C. to consider the methodology to analyze the data required in the master research.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

小島　聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、修士課程の 1 年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。
①研究テーマを決めるためのブレーンストーミング
②研究計画の案の作成

【到達目標】
この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。
・修士論文に関する調査研究の設計図をデザインする。
・調査研究の基本的な技法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
修士論文の作成に向けて、参加学生の問題意識を明確化した上で、具体的なテーマ、調査研究対象の設定について指導し、さらに調査研究計画の作成と関連文献の収集・講読などに関する指導、調査研究の遂行に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーにはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究の進捗状況から学びあう場ともする。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、COVID － 19 の状況による社会情勢や参加者の感染リスク等に応じて、Zoom による双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	調査研究や論文作成に関する基礎的な理解と工程管理を促す。
2	問題意識の報告	研究テーマの選択に向けて問題意識を報告する。
3	問題意識の具体化	研究テーマの選択のために、報告した問題意識を具体化する。
4	研究テーマの候補づくり	研究テーマの候補を作成、提示し選定する。
5	研究テーマの検討	複数のテーマの中から研究対象について検討する。
6	研究テーマの再検討	複数のテーマの中から研究対象について再検討する。
7	研究テーマの確定	複数のテーマの中から研究対象を確定する。
8	研究テーマに関する構図の作成	研究テーマについて主題を設定し、分析の構図を作成する。
9	研究テーマに関する構図の修正	研究テーマについて分析の構図を修正する。
10	調査研究計画の作成	調査研究計画を作成し工程とポイントを確認する。
11	調査研究計画の修正	調査研究計画を修正し工程とポイントを確認する。
12	調査研究計画の再修正	調査研究計画を再修正し工程とポイントを確認する。
13	関連文献リストの作成	研究テーマに関する関連文献リストを作成し検討する。
14	関連文献リストの修正	研究テーマに関する関連文献リストを修正し検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする）。
・修士論文のテーマを確定し調査研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
調査研究の進め方や論文作成の方法に関する文献、演習参加者の個別のテーマに関する文献は、演習実施期間中に適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的な参加姿勢）（50 %）、課題への取り組み（50 %）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治論
＜研究テーマ＞持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、市民社会と自治体行政システム
＜主要研究業績＞
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、ぎょうせい、2006）
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
『フィールドから考える地域環境　持続可能な地域社会をめざして』（共編著）（ミネルヴァ書房、2012）
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）
「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）

【Outline (in English)】
This seminar provides research guidance to students in the first year of the master's program. Students work on the following contents:
(1)Brainstorm for deciding research theme.
(2)Make the draft of research plan on based individual interest.
Students aim at achieving the following goals:
(1)Design the blueprint for research on master's thesis.
(2)Acquire the basic skills of academic research.
Students need to determine the theme of master's thesis ,and to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

小島　聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、修士課程の 1 年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。
①研究テーマに関する具体的な内容の検討
②既存研究の調査
③小論文の執筆

【到達目標】
この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。
①調査研究の設計図をブラッシュアップする。
②参考文献やその他の資料を作成する。
③論文の執筆能力を身につける。
④テーマについて的確に説明できる力を身につける。
⑤調査研究の基本的な技法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
修士論文の作成に向けて、論文研究指導１Ａに続いて、参加学生の研究テーマについて、調査研究計画の再調整と関連文献の収集・講読などに関する指導、調査研究の遂行に関する指導、修士論文の練習として小論文の作成に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーや小論文はその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究の進捗状況から学びあう場ともする。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、COVID － 19 の状況による社会情勢や参加者の感染リスク等に応じて、Zoom による双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	関連文献の報告	関連文献の学習状況に関する報告を行う。
2	フィールド調査プランの検討	ヒアリング等のフィールド調査プランについて検討する。
3	フィールド調査プランの確定	ヒアリング等のフィールド調査プランについて確定する。
4	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
5	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
6	研究テーマに関する構図の修正	研究テーマに関する分析の構図の修正作業を行う。
7	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
8	小論文の課題設定と執筆方法の学習	研究テーマに関連する小論文の課題を設定し、また論文の執筆方法について学ぶ。
9	フィールド調査の結果の報告と検討	フィールド調査の結果について報告し、論文への反映について検討する。
10	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
11	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
12	小論文の報告	研究テーマに関する小論文を提出し、内容を報告する。
13	小論文からの発展方向性についての検討	小論文をふまえて、どのように発展させるか、次のステップについて検討する。
14	調査研究計画の再調整	次年度の調査研究計画について再調整する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする）。
・調査研究を進めること。
・小論文を書くこと。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
調査研究の進め方や論文作成の方法に関する文献、演習参加者の個別のテーマに関する文献は、演習実施期間中に適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的な参加姿勢）（50 %）、課題への取り組み（50 %）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治論
＜研究テーマ＞持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、市民社会と自治体行政システム
＜主要研究業績＞
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、ぎょうせい、2006）
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
『フィールドから考える地域環境　持続可能な地域社会をめざして』（共編著）（ミネルヴァ書房、2012）
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）
「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）

【Outline (in English)】
This seminar provides research guidance to students in the first year of the master's program. Students work on the following contents:
(1)Examine concrete contents about research theme.
(2)Survey of existing research.
(3)Write the short report on research theme.
Students aim at achieving the following goals:
(1)Brush up the blueprint for research.
(2)Make the list of references and other resources.
(3)Acquire the ability to write research paper.
(4)Acquire the ability to explain research theme accurately.
(5)Acquire the basic skills of academic research.
Students need to proceed with research, and to write research paper.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

杉戸　信彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】
修士論文の作成に向け、課題を発見し、解決に向けた調査を実施して、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
研究の方向性を決め、文献レビュー等を行いながら研究テーマを具体的に定める。そのうえで、文献レビュー等をすすめながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。
授業形態については学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の方向性の検討（1）	研究の方向性について検討を行う。
第 2 回	研究の方向性の検討（2）	研究の方向性について検討を行い決定する。
第 3 回	関連文献のレビュー（1）	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第 4 回	関連文献のレビュー（2）	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第 5 回	研究テーマの検討	研究の方向性についてあらためて検討を行い、研究テーマを具体的に定める。
第 6 回	関連文献のレビュー（3）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 7 回	関連文献のレビュー（4）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 8 回	調査計画の立案（1）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 9 回	調査計画の立案（2）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 10 回	調査結果のまとめ（1）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 11 回	調査結果のまとめ（2）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 12 回	調査計画の立案（3）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 13 回	調査結果のまとめ（3）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 14 回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】
応用力や思考力、スキルなどの涵養を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞
1）杉戸信彦，2014，大地震の歴史とメカニズムを捉える－活断層への地理学的アプローチ－，木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編，「災害フィールドワーク論」，FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 5，古今書院，212p，132-149.
2）杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘，2015，津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布，地学雑誌，124，157-176．doi: 10.5026/jgeography.124.157
3）Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】
We conduct research and discussion for the master's thesis. The goal of this course is to complete a final report for the master's thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

杉戸　信彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】
修士論文の作成に向け、課題を発見し、解決に向けた調査を実施して、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマを具体的に定め、文献レビュー等を行いながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。
授業形態については学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの検討	研究テーマについて検討を行い、具体的に定める。
第 2 回	関連文献のレビュー（1）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 3 回	関連文献のレビュー（2）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 4 回	調査計画の立案（1）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 5 回	調査計画の立案（2）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 6 回	調査結果のまとめ（1）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 7 回	調査結果のまとめ（2）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 8 回	関連文献のレビュー（3）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 9 回	関連文献のレビュー（4）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 10 回	調査計画の立案（3）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 11 回	調査結果のまとめ（3）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 12 回	調査計画の立案（4）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 13 回	調査結果のまとめ（4）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 14 回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】
応用力や思考力、スキルなどの涵養を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞
1）杉戸信彦，2014，大地震の歴史とメカニズムを捉える－活断層への地理学的アプローチ－，木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編，「災害フィールドワーク論」，FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 5，古今書院，212p，132-149.
2）杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘，2015，津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布，地学雑誌，124，157-176．doi: 10.5026/jgeography.124.157
3）Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】
We conduct research and discussion for the master's thesis. The goal of this course is to complete a final report for the master's thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

杉野　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士論文を含む研究論文の作成に必要となる研究の進め方、調査方法の習得を目的とする。

【到達目標】
受講生が適切なテーマ設定し、文献のレビューを通じて、研究テーマの位置づけを明確にする。また、データ分析に必要な手法を学び、修士論文の作成を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者全体で対面形式の演習を行う。具体的には、受講者が進めている研究の報告や関連する研究の報告をもとに議論・指導を行う。この議論・指導を通じて、各々の研究の理解を深め、研究進化を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文のテーマ	修士論文作成のためのテーマ決定および学期のスケジュール決め
第 2 回	文献の紹介①	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 3 回	文献の紹介②	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 4 回	文献の紹介③	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 5 回	文献の紹介④	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 6 回	文献の紹介⑤	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 7 回	文献の紹介⑥	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 8 回	文献の紹介⑦	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 9 回	分析手法の紹介①	先行研究で使われる分析手法を学ぶ
第 10 回	分析手法の紹介②	先行研究で使われる分析手法を学ぶ
第 11 回	分析手法の紹介③	先行研究で使われる分析手法を学ぶ
第 12 回	分析手法の紹介④	先行研究で使われる分析手法を学ぶ
第 13 回	文献のまとめ方①	先行研究および分析手法を論文形式にまとめる方法を学ぶ
第 14 回	文献のまとめ方②	先行研究および分析手法を論文形式にまとめる方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
割り当てられた論文を読み、

【テキスト（教科書）】
登録者と相談のうえ決定する

【参考書】
有村、片山、松本（2017）『環境経済学のフロンティア』、日本評論社

【成績評価の方法と基準】
平常点 10%、報告 40%、最終課題 50%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
新任のため該当しない

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013 年

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
This course aims to prepare students for their master thesis, starting with setting the theme of the thesis. Throughout the course, participants will be expected to read and present papers that are related to their master thesis. All participants will also be expected to join the discussion which will help to improve their thesis.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have read the text and prepared for every class. Your study time will be more than two hours for each class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in class will be decided based on the following: Term-end assignment 50%, Presentation 40%, in class contribution 10%.

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

杉野　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の分析に必要なデータ収集方法や分析方法を学ぶ。

【到達目標】
各自で設定した研究テーマのデータ分析および関連する箇所の執筆を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面形式での議論を行う。まず、各受講者の進捗状況の報告を行い、議論を行う。必要に応じて、データ分析に必要なテキストの報告も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献の紹介１	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 2 回	文献の紹介２	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 3 回	文献の紹介３	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 4 回	文献の紹介４	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 5 回	文献の紹介５	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 6 回	文献の紹介６	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 7 回	文献の紹介７	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 8 回	中間報告	研究の進捗状況を報告
第 9 回	分析手法の紹介１	各自の研究テーマにあった分析手法を解説する
第 10 回	分析手法の紹介２	各自の研究テーマにあった分析手法を解説する
第 11 回	分析手法の紹介３	各自の研究テーマにあったデータ分析を行う
第 12 回	分析手法の紹介４	各自の研究テーマにあったデータ分析を行う
第 13 回	論文のまとめ方１	修士論文の執筆
第 14 回	論文のまとめ方２	修士論文の執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者と相談のうえ決定する。

【参考書】
受講者の研究テーマや関心に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】
報告（PPT 資料の作成および準備）50%、レポート 50%を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
新任のため該当しない

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013 年

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
In this course, students will start collecting and analyzing their data for their master thesis. We will start with where and how to collect relevant data. This will include making appropriate questionnaires. Then, we will learn how to analyze the data using statistical software packages. Finally, we will learn how to write the analysis part of the master thesis.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have read the text and prepared for every class. Your study time will be more than two hours for each class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in class will be decided based on the following:
Term-end assignment 50%, Presentation 50%.

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

高田　雅之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】
修士課程１年生を対象として、研究設計と計画作成、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2 年目の修士論文執筆に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 2 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 3 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 4 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 5 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 6 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 7 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 8 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 9 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 10 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 11 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 12 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 13 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 14 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット
＜主要研究業績＞
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編集・共著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「湿地の博物誌」（北大出版会，2014）編者
「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会，2014）共著
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.
Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

【実務経験のある教員による授業】
公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for master's thesis including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, collect necessary data, and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

高田　雅之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】
修士課程１年生を対象として、研究設計と計画作成、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2 年目の修士論文執筆に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第 2 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第 3 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第 4 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第 5 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第 6 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第 7 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第 8 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第 9 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第 10 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第 11 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第 12 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第 13 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第 14 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット
＜主要研究業績＞
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編集・共著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「湿地の博物誌」（北大出版会，2014）編者
「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会，2014）共著
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.
Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

【実務経験のある教員による授業】
公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for master's thesis including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, collect necessary data, and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

高橋　五月

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生はエスノグラフィーの研究手法を学びながら、それぞれの修士論文研究のテーマを絞り、リサーチプロポーザルを作成することを通して、修士論文を書き上げるための準備を行う。授業ではこれらの目標を達成するために、購読文献やリサーチプロポーザルの発表およびディスカッションを行い、学生は授業で得たフィードバックをもとにリサーチプロポーザルの完成を目指す。

【到達目標】
学生の到達目標は、1）修士論文のテーマを絞る、2）テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、3）エスノグラフィーの研究手法を学ぶ、4）事前調査を含む現地調査を実施する、5）リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、リサーチプロポーザルを作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	研究テーマを絞る（1）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 3 回	研究テーマを絞る（2）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 4 回	研究テーマを絞る（3）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 5 回	研究テーマを絞る（4）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 6 回	研究テーマを絞る（5）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 7 回	研究テーマを絞る（6）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 8 回	研究テーマを絞る（7）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 9 回	研究テーマを絞る（8）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 10 回	現地調査計画と準備（1）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 11 回	現地調査計画と準備（2）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 12 回	現地調査計画と準備（3）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 13 回	現地調査計画と準備（4）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 14 回	リサーチプロポーザル進捗状況発表	リサーチプロポーザルの進捗状況を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読、プレリサーチの実施、リサーチプロポーザルの文献レビュー作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％）、リサーチプロポーザル（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境人類学、海洋人類学、震災人類学
＜研究テーマ＞　日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学
＜主要研究業績＞　『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、３・１１後の世界に生きる）』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5 – 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】
Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for students to create a research proposal and to prepare for accomplishing master's degree thesis. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing their research proposal. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their research proposals (70%).

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

高橋　五月

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生はエスノグラフィーの研究手法を学びながら、それぞれの修士論文研究のテーマを絞り、リサーチプロポーザルを作成することを通して、修士論文を書き上げるための準備を行う。授業ではこれらの目標を達成するために、購読文献やリサーチプロポーザルの発表およびディスカッションを行い、学生は授業で得たフィードバックをもとにリサーチプロポーザルの完成を目指す。

【到達目標】
学生の到達目標は、1）修士論文のテーマを絞る、2）テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、3）エスノグラフィーの研究手法を学ぶ、4）事前調査を含む現地調査を実施する、5）リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、リサーチプロポーザルを作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	研究テーマを絞る（1）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 3 回	研究テーマを絞る（2）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 4 回	研究テーマを絞る（3）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 5 回	研究テーマを絞る（4）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 6 回	研究テーマを絞る（5）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 7 回	研究テーマを絞る（6）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 8 回	研究テーマを絞る（7）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 9 回	研究テーマを絞る（8）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 10 回	現地調査計画と準備（1）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 11 回	現地調査計画と準備（2）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 12 回	現地調査計画と準備（3）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 13 回	現地調査計画と準備（4）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 14 回	リサーチプロポーザル発表	リサーチプロポーザル発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読、プレリサーチの実施、リサーチプロポーザルの文献レビュー作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％）、リサーチプロポーザル（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境人類学、海洋人類学、震災人類学
＜研究テーマ＞　日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学
＜主要研究業績＞　『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、3・11後の世界に生きる）』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5 – 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】
Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for students to create a research proposal and to prepare for accomplishing master's degree thesis. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing their research proposal. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their research proposals (70%).

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための演習指導

【到達目標】
修士課程１年生を対象とする本演習では、①修士論文執筆のための基礎的なスキルの獲得、および、②研究テーマ設定を目標とします。「研究論文」とはいかなるものかについてよく理解し、執筆に向けたリサーチを開始することが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。論文執筆やリサーチの基礎的なスキルに関しては、紹介する文献などを通じて学びます。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	到達目標としての「修士論文」を概観する
第２回	研究の進め方	研究の進め方について基本的な知識を習得する
第３回	研究テーマ検討	演習参加者の問題関心を研究テーマに結びつける取り組みを開始する。
第４回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第１回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第１回）
第５回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第２回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第２回）
第６回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第３回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第３回）
第７回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第４回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第４回）
第８回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第５回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第５回）
第９回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第６回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第１回）
第10回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第７回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第２回）
第11回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第８回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第３回）
第12回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第９回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第４回）
第13回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第10回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第５回）
第14回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第11回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第６回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者と協議のうえ、各回の参考文献を選定します。それらの参考文献（主に先行研究）の内容について熟読のうえ、自らの研究テーマについてよく考慮し、準備することが望まれます。本演習の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。演習における積極性と貢献度 60 %、修士論文執筆準備の進捗状況 40 %

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the first year seminar for authoring master thesis.
[Learning Objectives]
This seminar for first-year master's course students aims at (1) acquiring basic skills for writing a master's thesis and (2) setting a research theme. Students are expected to have a good understanding of what a "research paper" is and to start researching for writing one.
[Learning Activities outside of classroom]
References for each session will be selected in consultation with the seminar participants. It is recommended that you carefully read the texts of these references (mainly prior research), consider your own research theme, and prepare for the course. The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be evaluated based on the following balance. Proactive participation and contribution in the seminar 60%, progress in preparation for writing the master's thesis 40%.

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための演習指導

【到達目標】
修士課程１年生を対象とする本演習では、①修士論文執筆のための基礎的なスキルの獲得、および、②研究テーマ設定を目標とします。「研究論文」とはいかなるものかについてよく理解し、執筆に向けたリサーチを開始することが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。論文執筆やリサーチの基礎的なスキルに関しては、紹介する文献などを通じて学びます。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第１回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第１回）
第２回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第２回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第２回）
第３回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第３回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第３回）
第４回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第４回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第４回）
第５回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第５回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第５回）
第６回	研究手法の検討（第１回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第１回）
第７回	研究手法の検討（第２回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第２回）
第８回	研究手法の検討（第３回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第３回）
第９回	研究手法の検討（第４回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第４回）
第10回	研究手法の検討（第５回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第５回）
第11回	研究構想の検討（第１回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第１回）
第12回	研究構想の検討（第２回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第２回）
第13回	研究構想の検討（第３回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第３回）
第14回	研究構想の検討（第４回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第４回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者と協議のうえ、各回の参考文献を選定します。それらの参考文献（主に先行研究）の内容について熟読のうえ、自らの研究テーマについてよく考慮し、準備することが望まれます。本演習の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。演習における積極性と貢献度 60 %、修士論文執筆準備の進捗状況 40 %

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the first year seminar for authoring master thesis.
[Learning Objectives]
This seminar for first-year master's course students aims at (1) acquiring basic skills for writing a master's thesis and (2) setting a research theme. Students are expected to have a good understanding of what a "research paper" is and to start researching for writing one.
[Learning Activities outside of classroom]
References for each session will be selected in consultation with the seminar participants. It is recommended that you carefully read the texts of these references (mainly prior research), consider your own research theme, and prepare for the course. The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be evaluated based on the following balance. Proactive participation and contribution in the seminar 60%, progress in preparation for writing the master's thesis 40%.

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

辻　英史

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程１年の大学院生に対し、歴史学研究の基礎を身につけることを通じて、修士論文執筆の準備作業を支援する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な歴史学研究の理論的方法論的基礎を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の関心に応じて毎回課題を出すので、次回に各自が作業した結果を報告する。さらに参加者全員のディスカッションにより理解を深める。
2022 年度は対面を基本とし、場合によってはオンラインにより授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	研究関心の確認	参加者各自が自分のテーマについて考えていることや現状を報告する。
第２回	先行研究の把握 ①和文文献	各種の先行研究について、参加者各自の関心にもとづいて作業をおこない、判明した研究状況を報告する。
第３回	先行研究の把握 ②欧文文献	各種の先行研究について、参加者各自の関心にもとづいて作業をおこない、判明した研究状況を報告する。
第４回	先行研究の把握 ③同時代文献	各種の先行研究について、参加者各自の関心にもとづいて作業をおこない、判明した研究状況を報告する。
第５回	研究動向の把握①	重要と考えられる先行研究を読み込み、研究動向を把握し、その問題点を指摘する。
第６回	研究動向の把握②	重要と考えられる先行研究を読み込み、研究動向を把握し、その問題点を指摘する。
第７回	問題提起の検証	研究動向を踏まえ、独自性のある論文のテーマを導き出す作業をおこなう。
第８回	史料の調査① 文献史料（1）	新聞、雑誌、書籍、パンフレットなど、刊行された文献史料について、どのようなものがあるかを調査し、その概要を報告する。
第９回	史料の調査① 文献史料（2）	上記の史料について、できる限り内容を精査し、解釈の可能性を検討する。
第10回	史料の調査② 統計史料（1）	統計集など数量データについて、どのような史料があるのかを調査し、その概要を報告する。
第11回	史料の調査② 統計史料（2）	上記の史料について、できる限り内容を精査し、解釈の可能性を検討する。
第12回	史料の調査③ 文書館史料（1）	公文書、未刊行史料など文書館史料について、どのような史料があるのかを調査し、その概要を報告する。
第13回	史料の調査③ 文書館史料（2）	上記の史料について、できる限り内容を精査し、解釈の可能性を検討する。
第14回	仮説の検証	問題提起をふまえ、論文執筆の前提となる仮説の構築と、それに基づいた行論を組み立てる作業を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の課題をしっかりこなすだけでなく、各自がさらに工夫して修士論文の内容を向上させていく姿勢が必要である。
とくに、欧文の同時代文献を読解するために必須となる語学能力、史料分析能力については授業内では十分なトレーニングをおこないえないので、各自で必要な能力を身につけるよう努力すること。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要に応じて指示する。

【参考書】
授業内でその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（40 %）とレポート（60 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　歴史学（ドイツ近現代史）
＜研究テーマ＞　市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史
＜主要研究業績＞　『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016 年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版局、2008 年。

【Outline (in English)】
Small group workshop for master student to improve methodological knowledge and to advance research plan.
It is necessary for each student to not only do well in each assignment, but also to improve the content of his/her master's thesis by making further efforts.
Evaluation will be based on participation in discussions (40%) and reports (60%).

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

辻　英史

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 1 年の大学院生に対し、歴史学研究の基礎を身につけることを通じて、修士論文執筆の準備作業を支援する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な歴史学研究の実践的実証的基礎を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の関心に応じて毎回課題を出すので、次回に各自が作業した結果を報告する。さらに参加者全員のディスカッションにより理解を深める。
2021 年度は対面を基本とし、場合によってはオンラインにより授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	作業状況の確認	参加者各自が現在の問題関心と作業状況について報告する。
第 2 回	論文構成の検討①	春学期に調査した先行研究と史料にもとづき、修士論文の主たる論点と構成を決めていく。
第 3 回	論文構成の検討②	春学期に調査した先行研究と史料にもとづき、修士論文の主たる論点と構成を決めていく。
第 4 回	論文構成の検討③	春学期に調査した先行研究と史料にもとづき、修士論文の主たる論点と構成を決めていく。
第 5 回	研究史の分析①	修士論文の対象とする地域や時代について、重要と考えられる先行研究を読み込み、その問題点を指摘する。
第 6 回	研究史の分析②	修士論文の対象とする地域や時代について、重要と考えられる先行研究を読み込み、その問題点を指摘する。
第 7 回	研究史の分析③	修士論文の対象とする地域や時代について、重要と考えられる先行研究を読み込み、その問題点を指摘する。
第 8 回	他事例研究の分析① 同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。	構想中の修士論文と同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。
第 9 回	他事例研究の分析② 同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。	構想中の修士論文と同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。
第 10 回	他事例研究の分析③ 同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。	構想中の修士論文と同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。
第 11 回	史料分析の準備①	修士論文で使用する史料を決定し、その形態や所蔵を調査し、収集の準備作業をおこなう。
第 12 回	史料分析の準備②	修士論文で使用する史料を決定し、その形態や所蔵を調査し、収集の準備作業をおこなう。
第 13 回	史料分析の準備③	修士論文で使用する史料を決定し、その形態や所蔵を調査し、収集の準備作業をおこなう。
第 14 回	論文中間報告	修士論文のテーマ、章立て、中心となる仮説を提示し、全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の課題をしっかりこなすだけでなく、各自がさらに工夫して修士論文の内容を向上させていく姿勢が必要である。
とくに、欧文の同時代文献を読解するために必須となる語学能力、史料分析能力については授業内では十分なトレーニングをおこないえないので、各自で必要な能力を身につけるよう努力すること。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要に応じて指示する。

【参考書】
授業内でその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（40 %）とレポート（60 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　歴史学（ドイツ近現代史）
＜研究テーマ＞　市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史
＜主要研究業績＞　『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016 年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版局、2008 年。

【Outline (in English)】
Small group workshop for master students to expand their abilities to research and analyze historical documents and to write their master's thesis.
It is necessary for each student to not only do well in each assignment, but also to improve the content of his/her master's thesis by making further efforts.
Evaluation will be based on participation in discussions (40%) and reports (60%).

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

永野　秀雄

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の研究テーマを設定するための基礎となるリサーチ方法や、分析手法についても、一緒に検討いたします。

【到達目標】
修士論文の研究テーマを設定し、できるだけ早い時期に研究に着手することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
社会科学系の環境問題等について議論し、方法を指導し、個々の研究を進めます。
また、授業は、対面授業を予定しておりますが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業といたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	修士論文テーマ	学生の方の修士論文構想について、意見を聞きます。
2	修士論文レベルのリサーチ方法（１）	修士論文レベルの先行論文等の検索方法の指導。
3	修士論文レベルのリサーチ方法（２）	仮の修士論文テーマに関して、WEB上またはデータベース上の先行論文等の検索と確認。
4	修士論文レベルのリサーチ方法（３）	仮の修士論文テーマに関して、文献ベースでの先行論文等の検索と確認。
5	修士論文の書き方（１）	修士レベルの論文の執筆方法の基礎について学ぶ。
6	修士論文の書き方（２）	修士レベルの論文に関する論理展開、立証、脚注における引用方式等を学ぶ。
7	修士論文執筆計画の策定	具体的な修士論文のテーマを話し合い、執筆計画を策定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講師により前回指導された点について、必要なリサーチ、検討、起案を行うこと。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
リサーチの状況（５０％）、リサーチの結果（５０％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当科目ではありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日米比較法（特に、環境法、先端技術法）
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「軍事基地騒音問題」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞（近年のもの）
「米国国防総省によるサイバーセキュリティ成熟度モデル認証 (CMMC) の導入：現行の NIST SP 800-171 の遵守制度を超えて」CISTEC journal186 号 200 頁以下（2020 年３月）。
「米国におけるセキュリティクリアランス制度の大改革」CISTEC journal185 号 223 頁以下（2020 年１月）。
「米国の重要インフラに関するサイバーセキュリティとセキュリティ・クリアランス法制 (上)」人間環境論集 19 巻１号 13 頁以下（2018 年 12 月）。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
This course provides a basic introduction of the research method and analytical method as the basis for setting the research theme of the master thesis.
< Learning Objectives >
The goals of this course are to set the theme of the master thesis and to start research as soon as possible
< Learning Activities outside of Classroom >
Students are expected to conduct necessary research, examination, and drafting the thesis.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in this course will be decided based on your research (50%) and its results (50%).

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

永野　秀雄

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の研究テーマを設定するための基礎となるリサーチ方法や、分析手法についても、一緒に検討いたします。

【到達目標】
修士論文の研究テーマを設定し、できるだけ早い時期に研究に着手することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
社会科学系の環境問題について議論し、方法を指導し、個々の研究を進めます。また、授業は、対面授業を予定していますが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	先行文献の調査（１）（春学期の続き）	先行文献の調査を行い、その報告を受け、検証する（法令、判例、その他データ等）。
2	先行文献の調査（２）	その他、先行文献や英語文献等の調査が必要であれば、その報告を受け、検証する。
3	中間報告書骨子案のテーマ、論旨の検証	先行文献調査から、受講者が選んだテーマが、これまで検証されたものではなく、かつ、立証可能なものか否かを検討する。
4	中間報告骨子案の理論展開の検証	中間報告骨子案における、本文の理論展開の整合性について検証する。
5	中間報告骨子案の立証責任の検証	中間報告骨子案における、本文の立証可能性について検証する。
6	中間報告骨子案に関する話し合い	受講者から、中間報告骨子案に関する報告を受け、話し合い、最終案を検討する。
7	中間報告骨子案の画定	中間報告骨子案を検討し、内容を画定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講師により前回指導された点について、必要なリサーチ、検討、起案を行うこと。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
先行論文の調査（２０％）、中間報告骨子案（８０％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当科目ではありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日米比較法（特に、環境法、先端技術法）
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞（近年のもの）
「米国国防総省によるサイバーセキュリティ成熟度モデル認証 (CMMC) の導入：現行の NIST SP 800-171 の遵守制度を超えて」CISTEC journal186 号 200 頁以下（2020 年３月）。
「米国におけるセキュリティクリアランス制度の大改革」CISTEC journal185 号 223 頁以下（2020 年１月）。
「米国の重要インフラに関するサイバーセキュリティとセキュリティ・クリアランス法制 (上)」人間環境論集 19 巻１号 13 頁以下（2018 年 12 月）。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
This course provides a basic introduction of the research method and analytical method as the basis for setting the research theme of the master thesis.
< Learning Objectives >
The goals of this course are to set the theme of the master thesis and to start research as soon as possible
< Learning Activities outside of Classroom >
Students are expected to conduct necessary research, examination, and drafting the thesis.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in this course will be decided based on the survey of previous papers (20%) and the draft of interim report (80%).

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

長谷川　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、修士論文の完成に向けて、テーマ設定、先行研究のサーベイ、調査方法（フィールド調査を含む）、執筆要領などについて指導を行います。

【到達目標】
修士論文の執筆を通じて、高度職業人として多面的かつ学術的な知見に基づく問題解決能力を習得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
履修者の関心領域や調査の可能性を踏まえ、教員と院生の自由なディスカッションを通じて、研究計画の作成と先行研究の収集・分析に関する指導を行います。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げて、フィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの検討①	履修者による研究テーマの発表と討議
第 2 回	研究テーマの検討②	研究テーマの確定
第 3 回	研究計画の作成①	履修者による研究計画の発表と討議
第 4 回	研究計画の作成②	研究計画の確定
第 5 回	先行研究のサーベイ①	履修者による先行研究リストの発表と討議
第 6 回	先行研究のサーベイ②	修士論文に関係する先行研究の発表と討議
第 7 回	先行研究のサーベイ③	修士論文に関係する先行研究の発表と討議
第 8 回	フィールド調査の検討①	履修者によるフィールド調査計画の発表と討議
第 9 回	フィールド調査の検討②	フィールド調査計画の確定
第 10 回	修士論文のテーマに関係する文献購読①	基本文献の購読と討議
第 11 回	修士論文のテーマに関係する文献購読②	基本文献の購読と討議
第 12 回	修士論文のテーマに関係する文献購読③	基本文献の購読と討議
第 13 回	修士論文のテーマに関係する文献購読④	基本文献の購読と討議
第 14 回	修士論文の構想発表とディスカッション	履修者による論文構想の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文のテーマに沿ってフィールド調査を行い、オリジナルデータの収集と分析を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
受講者のテーマに応じて授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学生による研究報告： 100 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステイナビリティ
＜主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021 年 9 月 28 日）』2021 年
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020 年 3 月 2 日～12 日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319 号』2021 年

【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 1 部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this seminar, I will provide guidance on the following topics necessary for writing a master's thesis.
(1) theme setting, (2) survey of previous research, (3) analysis methods (including field research), and (4) writing guidelines.
This seminar aims to help students determine the theme of their master's thesis through a survey of previous research.
Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the student's presentation (100%).

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

長谷川　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では修士論文の完成に向けて、データの分析方法、分析結果に基づく論文執筆の指導を行います。

【到達目標】
修士論文の執筆を通じて、高度職業人として多面的かつ学術的な知見に基づく問題解決能力を習得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
履修者の関心領域や調査の可能性を踏まえ、教員と院生の自由なディスカッションを通じて、データ分析の手法や学術論文に必要な執筆ルール等について指導を行います。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げて、フィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	調査報告と討議①	アンケートやヒアリング調査等の結果報告
第 2 回	調査報告と討議②	データ分析から抽出した知見に関する報告と討議
第 3 回	調査報告と討議③	データ分析から抽出した知見に関する報告と討議
第 4 回	修士論文執筆構想の検討①	履修者による執筆構想の発表と討議
第 5 回	修士論文執筆構想の検討②	履修者による執筆構想の発表と討議
第 6 回	修士論文執筆構想の検討③	履修者による執筆構想の発表と討議
第 7 回	先行研究の再検討①	修士論文に関係する先行研究の再検討
第 8 回	先行研究の再検討②	修士論文に関係する先行研究の再検討
第 9 回	学術論文の執筆技法①	過去の修士論文を教材にして学術論文の書き方を指導
第 10 回	学術論文の執筆技法②	過去の修士論文を教材にして学術論文の書き方を指導
第 11 回	修士論文中間構想の発表①	修士論文の構成（章立てと方向性）についての発表と討議
第 12 回	修士論文中間構想の発表②	修士論文の構成（章立てと方向性）について発表と討議
第 13 回	M1 中間発表にに向けた指導①	中間報告の内容と発表資料に関する指導
第 14 回	M1 中間発表にに向けた指導②	中間報告の内容と発表資料に関する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文のテーマに沿ってフィールド調査等を行い、オリジナルデータの収集と分析を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
受講者のテーマに応じて授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学生による研究報告： 100 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステイナビリティ
＜主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021 年 9 月 28 日）』2021
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020 年 3 月 2 日～12 日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021 年

【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 1 部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this seminar, I give guidance to graduate students on how to analyze data and write their thesis based on the results of the analysis, in order to help them complete their master's thesis. Students will analyze both quantitative and qualitative data, and aim to find academic significance in the analysis results as the core of their master's thesis.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the student's presentation (100%).

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための研究指導を行う。

【到達目標】
修士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講生の関心の方向性を発表する。
第 2 回	関心テーマの絞り込み	関心テーマの概要をとりまとめ、修士論文の落としどころを考える。
第 3 回	関心テーマの実現可能性	関心テーマを主題とした場合に、それを修士論文に至らしめることができるかを検討する。
第 4 回	修士論文の主題案	修士論文の主題案を決める。
第 5 回	関連情報の収集	修士論文に関連する情報を収集する。
第 6 回	関連情報の分析	収集した関連情報を分析する。
第 7 回	修士論文の実現可能性	関連情報の分析結果から、設定した修士論文テーマで研究遂行が可能か否かを再検討する。
第 8 回	修士論文のテーマ再確認	前回の検討に基づき、修士論文のテーマが妥当であることを再確認する。
第 9 回	研究テーマの検討	研究テーマについて発表し議論する。
第 10 回	研究枠組みの検討	研究を実施するための枠組みを検討する。
第 11 回	作業仮説の設定	作業仮説を設定し、妥当性や実施可能性について議論する。
第 12 回	方法論の設定	方法論を設定して発表し、議論する。
第 13 回	周辺情報の再収集	作業仮説や方法論に基づいて、関連する周辺情報を再収集する。
第 14 回	先行研究の収集	先行研究を収集する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。

【テキスト（教科書）】
指導中に適宜指示する。

【参考書】
指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況を基準にする (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【担当教員が執筆した参考文献】
1. 藤倉良（2021）長い文章の書き方　人間環境論集，第 22 巻，第 1 号，pp.23-37
2. 藤倉良 (2007)　研究報告ということ，人間環境論集，第７巻，第２号，pp.95-102
3. 藤倉良 (2006)　研究をするということ，人間環境論集，第６巻，第２号，pp.37-48
4. 藤倉良 (2005)　論文を書くということ，人間環境論集，第６巻，第１号，pp.81-87
法政大学リポジトリからダウンロード可能

【Outline (in English)】
Research guidance for writing master thesis. Student will learn how to write thesis. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on the final report.

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】
修士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後のロードマップを確認する。
第 2 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 3 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 4 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 5 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 6 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 7 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 8 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 9 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 10 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 11 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 12 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 13 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 14 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導中に適宜指示する。

【参考書】
指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【Outline (in English)】
Students will learn how to write thesis and practice. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on the participation.

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

松本　倫明

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】
修士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講生の関心の方向性を発表する。
第 2 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 3 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 4 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 5 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 6 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 7 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 8 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 9 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 10 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 11 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 12 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 13 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 14 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導中に適宜指示する。

【参考書】
指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【その他の重要事項】
受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、プログラミング（Python など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞理論天文学
＜研究テーマ＞星形成、宇宙天気
＜主要研究業績＞
① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123
② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77
③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】
(Course outline) Seminar for master thesis.
(Learning Objectives) This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.
(Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy) Research progress (100%).

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

松本　倫明

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】
修士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後のロードマップを確認する。
第 2 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 3 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 4 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 5 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 6 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 7 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 8 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 9 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 10 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 11 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 12 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 13 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 14 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導中に適宜指示する。

【参考書】
指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【その他の重要事項】
受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞理論天文学
＜研究テーマ＞星形成、宇宙天気
＜主要研究業績＞
① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123
② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77
③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】
(Course outline) Seminar for master thesis.
(Learning Objectives) This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.
(Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy) Research progress (100%).

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

宮川　路子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文および研究論文作成のための演習指導を行う。
学生はテーマを選定し、先行論文の調査を行い、それらをまとめて課題をみつけ、仮説をたて、課題解決のための方法を探り、論文を執筆することを最終的な目標とする。

【到達目標】
学生は修士論文執筆のために、まず研究テーマの設定を行う。関心のある分野の学術的な背景を先行研究を調査することにより明らかにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。
執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究の進め方について
第 2 回	研究とは何か	研究を進めていくための基礎的な知識とスキルを習得する
第 3 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 4 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 5 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 6 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 7 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 8 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 9 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 10 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 11 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 12 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 13 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 14 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加者それぞれが自分の問題関心に合わせて文献調査を行い、報告する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習における報告内容（60 %）、研究の準備状況（40 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『7 袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019 年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018 年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009 年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18 年、104-113 頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016 年、57-72 頁

【Outline (in English)】
【Course outline】Practice for preparing master's thesis and research paper.
Students will select a topic, conduct a survey of previous papers, summarize them, find a problem, formulate a hypothesis, and explore ways to solve the problem. Students are expected to write a master's thesis at the end of the course.
【Learning Objectives】To write a master's thesis, students must first establish a research topic. The academic background of the area of interest is clarified by surveying previous studies.
【Learning activities outside of classroom】Each participant will conduct and report on a literature review according to his or her own problematic interests.
【Grading Criteria】The content of the report in the exercise (60%) and the state of preparation for the research (40%) will be comprehensively evaluated.

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

宮川　路子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の執筆に向けた問題意識の醸成、文献検索の方法、調査、解析方法などを身につけ、論文作成に必要な能力を身につける。学生は先行研究を調査し、自分の研究テーマを決定する。課題発見、仮説の設定、先行研究を交えながら論を展開し、考察し、結論を導き出し、最終的に論文を執筆する。

【到達目標】
学生が適切なテーマを選択し、文献検索を行って自身の研究テーマの先行研究における位置づけを明確にする。
必要な調査を明らかにすることにより、調査方法を決定する。得られたデータを適切に分析するための解析方法を学ぶ。
論文作成を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。
執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 2 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 3 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 4 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 5 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 6 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 7 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 8 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 9 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 10 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 11 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 12 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 13 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 14 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は研究テーマについて調査、研究を継続して行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
研究の進捗状況に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、発表 10 %、研究内容 60 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
該当無し。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
公衆衛生学、産業保健、分子整合栄養医学、統合医療、統計学
＜研究テーマ＞栄養と健康、就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞ Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)
The European Journal of Public Health　2012 年
ビタミン D の健康効果　人間環境論集 19 巻号 79-101
日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか　人間環境論集　20 巻 1 号 1-17
https://eiyouryohou.com/

【Outline (in English)】
【Course outline】Students will develop an awareness of the issues involved in writing a master's thesis.Students will investigate previous research and determine their own research topic. Students discover issues, formulate hypotheses, and develop and discuss their arguments with previous research. Students are expected to draw a final conclusion and write a paper.
【Learning Objectives】Students will select an appropriate topic and conduct a literature search to clarify the position of their own research topic in previous studies. Determine the research method by identifying the necessary research. Students will learn how to analyze the data obtained in an appropriate manner.
Students will tart writing a paper.
【Learning activities outside of classroom】Students will continue to investigate their research topic.
【Grading Criteria】Evaluation will be made on the basis of 30% of normal points, 10% of presentations, and 60% of research content.

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

湯澤　規子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は修士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】
学生は修士論文を作成するために、次の３つを目標にします。
①研究の核心となる「問い」を明確にする。
②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
③実証研究の実施と報告。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	参加者の「問い」を共有、テーマと文献の選定
第 2 回	研究とは何か	研究を進めていくための基礎的な知識とスキルを習得する
第 3 回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（１）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第１回）
第 4 回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（２）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第２回）
第 5 回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（３）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第３回）
第 6 回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（４）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第４回）
第 7 回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（５）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第５回）
第 8 回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（１）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第１回）
第 9 回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（２）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第２回）
第 10 回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（３）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第３回）
第 11 回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（４）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第４回）
第 12 回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（５）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第５回）
第 13 回	修士論文のテーマ設定（１）	２回の報告を総括し、修士論文のテーマについて報告し、議論する（第１回）
第 14 回	修士論文のテーマ設定（２）	２回の報告を総括し、修士論文のテーマについて報告し、議論する（第２回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は自分の問題関心に合わせて参考文献を選定したうえで熟読し、報告してください。かならず１度はフィールドワークに取り組み、その報告をして下さい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習における報告内容（60 %）、研究の準備状況（40 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『７袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019 年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018 年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009 年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18 年、104-113 頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016 年、57-72 頁

【Outline (in English)】
◆ Course outline
Students will learn analytical and thesis writing techniques for the preparation of master's theses and research papers.
◆ Learning Objectives
Students will have the following three goals for their master's thesis
(1) Clarify the "question" that is the core of the research.
(2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
(3) Conduct and report on empirical research.
◆ Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to actively access, collect, organize, and read articles, literature, and other materials related to their own problem consciousness. The standard preparation and review time is 2 hours.
◆ Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on the content of the reports in the exercises (60%) and the preparation of the research (40%).

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

湯澤　規子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は修士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】
学生は、修士論文を作成するために、次の３つを目標にします。
①研究の核心となる「問い」を洗練する。
②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
③研究計画を立て、調査を実施し、報告する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の報告と検討（1）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第１回）
第 2 回	研究計画の報告と検討（2）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第２回）
第 3 回	研究計画の報告と検討（3）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第３回）
第 4 回	研究計画の報告と検討（4）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第４回）
第 5 回	研究計画の報告と検討（5）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第５回）
第 6 回	フィールドワークの報告と検討（1）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第１回）
第 7 回	フィールドワークの報告と検討（2）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第２回）
第 8 回	フィールドワークの報告と検討（3）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第３回）
第 9 回	フィールドワークの報告と検討（4）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第４回）
第 10 回	フィールドワークの報告と検討（5）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第５回）
第 11 回	研究計画のブラッシュアップ（1）	２回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する（第１回）
第 12 回	研究計画のブラッシュアップ（2）	２回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する（第２回）
第 13 回	研究計画のブラッシュアップ（3）	２回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する（第３回）
第 14 回	研究計画のブラッシュアップ（4）	２回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する（第４回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読することをすすめます。2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習における報告内容（60 %）、研究の準備状況（40 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『７袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019 年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018 年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009 年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18 年、104-113 頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016 年、57-72 頁

【Outline (in English)】
◆ Course outline
Students will learn analytical and thesis writing techniques for the preparation of master's theses and research papers.
◆ Learning Objectives
Students will have the following three goals for their master's thesis
(1) Clarify the "question" that is the core of the research.
(2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
(3) Conduct and report on empirical research.
◆ Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to actively access, collect, organize, and read articles, literature, and other materials related to their own problem consciousness. The standard preparation and review time is 2 hours.
◆ Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on the content of the reports in the exercises (60%) and the preparation of the research (40%).

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

吉永　明弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境倫理学に関するレポート・論文の書き方を学ぶ。

【到達目標】
環境倫理学の考え方を理解し、自分なりの問題意識をもって、それを文章化できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面で行う。環境倫理学のレポートや論文を書くためには文献を読む必要がある。この授業では、参加者の問題関心に応じた文献購読をまず行い、そこから受講者が各自のテーマを決定し、レポートを作成し、それを添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	倫理学の方法論	倫理学の論文に固有の方法論について解説する。
第 2 回	環境倫理学の概要	環境倫理学の問題意識とこれまでの議論を紹介する。
第 3 回	環境問題に関するディスカッション	関心のある環境問題について話し合い、購読する本を決める。
第 4 回	レポート・論文の書き方	レポート・論文の書き方を紹介する。
第 5 回	文献購読（1）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 6 回	文献購読（2）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 7 回	文献購読（3）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 8 回	文献購読（4）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 9 回	文献購読（5）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 10 回	文献購読（6）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 11 回	文献購読（7）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 12 回	文献購読（8）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 13 回	レポートの添削指導（1）	提出されたレポートを添削し、問題点を共有する。
第 14 回	レポートの添削指導（2）	再提出されたレポートを添削し、改善点を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書をよく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017 年
吉永明弘、寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年
そのほか、授業内で購読する文献を決定する。

【参考書】
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年

【成績評価の方法と基準】
作成したレポートについて評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境倫理学
＜研究テーマ＞都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理
＜主要研究業績＞
『都市の環境倫理』
『ブックガイド　環境倫理』
『未来の環境倫理学』
いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire how to write reports and papers on environmental ethics. At the end of the course, students are expected to writing report. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following final reports : 100%.

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

吉永　明弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境倫理学に関する研究発表の仕方を学ぶ。

【到達目標】
環境倫理学の考え方を理解し、自分なりの問題意識をもって、それを研究発表できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面で行う。環境倫理学の研究発表を行うためには文献を読む必要がある。この授業では、参加者の問題関心に応じた文献購読をまず行い、そこから受講者が各自のテーマを決定し、発表資料を作成し、パワーポイント等を用いて発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	倫理学の方法論	倫理学の論文に固有の方法論について解説する。
第 2 回	環境倫理学の概要	環境倫理学の問題意識とこれまでの議論を紹介する。
第 3 回	環境問題に関するディスカッション	関心のある環境問題について話し合い、購読する本を決める。
第 4 回	研究発表のしかた	研究発表のしかたを説明する。
第 5 回	文献購読（1）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 6 回	文献購読（2）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 7 回	文献購読（3）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 8 回	文献購読（4）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 9 回	文献購読（5）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 10 回	文献購読（6）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 11 回	文献購読（7）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 12 回	文献購読（8）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 13 回	研究発表（1）	各自のテーマについて発表し、コメントしあう。
第 14 回	研究発表（2）	コメントをふまえて修正したものを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表の準備を各自ですること。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017 年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年

【参考書】
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年

【成績評価の方法と基準】
期末の発表（60%）と授業内での作業（40%）をあわせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞環境倫理学
＜主要研究業績＞都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理
＜主要研究業績＞
『都市の環境倫理』
『ブックガイド　環境倫理』
『未来の環境倫理学』
いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire how to make research presentations on environmental ethics. At the end of the course, students are expected to make research presentations on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end presentation: 60%,in class contribution:40%.

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

横内　恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための基礎的な研究能力を獲得することを目的として、修士課程１年次を対象として、演習形式で研究指導を行う。

【到達目標】
修士論文を執筆するために必要となる基礎的なスキルを身につけ、修士課程１年次の終わりまでに修士論文のテーマを設定し、研究の構想を立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
オンライン授業の予定である。受講者による報告、教員と他の受講者からのコメント、ディスカッションを中心にとして演習を進める。教員から、基礎的な研究スキルを習得するための課題を出したり、そのための文献を紹介したりすることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文執筆という目標について理解を深める
第 2 回	研究の進め方	修士論文執筆に向けた研究の進め方について解説する
第 3 回	研究テーマ検討	春学期の報告準備を開始するにあたり、研究テーマを検討し始める
第 4 回	研究報告と研究テーマ検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究テーマを検討する
第 5 回	研究報告と研究テーマ検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究テーマを検討する
第 6 回	研究報告と研究テーマ検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究テーマを検討する
第 7 回	研究報告と研究テーマ検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究テーマを検討する
第 8 回	研究報告と研究テーマ検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究テーマを検討する
第 9 回	研究報告と研究テーマ検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究テーマを検討する
第 10 回	研究報告と研究テーマ検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究テーマを検討する
第 11 回	研究報告と研究テーマ検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究テーマを検討する
第 12 回	研究報告と研究テーマ検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究テーマを検討する
第 13 回	研究報告と研究テーマ検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究テーマを検討する
第 14 回	まとめ	春学期のまとめとして、各受講者の進捗状況を確認し、秋学期の具体的な目標設定をともに行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告者は研究報告準備を事前にしっかりと行ってください。そのために必要となる文献等は、受講者の相談を受けながら選定します。準備学習時間・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
総合評価による（目安としては、研究報告３０％、平常点７０％）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境法、公法（憲法・行政法）
＜研究テーマ＞環境リスクの法的制御、廃棄物処理法制
＜主要研究業績＞①「順応型リスク制御と比例性：ドイツ遺伝子技術法の閉鎖系規律手続を題材として」大塚直編『環境法研究』7 号（信山社、2017 年）13-45 頁。
②「廃棄物処理法に基づく生活環境影響調査の対象地域に関する一考察 ― 高城町事件と東海村事件を事例として」大阪経大論集 67 巻 3 号（2016 年）113-134 頁。
③「科学的不確実性を伴う環境リスクに対する法的制御の可能性と限界」OUFC ブックレット 8 号「中国の食・健康・環境の現状から導く東アジアの未来」（2016 年）62-74 頁。

【Outline (in English)】
Course outline: The course is designed as a course for students in the 1st year of a Master's degree.
Learning Objectives :By the end of the course, students should be able to acquire basic skills for conducting research.
Learning activities outside of classroom :The standard preparation and review time for this class is two hours each week.
Grading Criteria /Policy :presentation (30%), active participation in discussion (70%).

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

横内　恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文研究指導１Ａに引き続き、修士論文執筆のために、演習形式で研究指導を行う。

【到達目標】
各受講者が持っている問題意識と関心を確認し、分析手法を検討し、情報収集を行うなど研究遂行のための基礎力をさらに身につけることを目標とする。論文を作成するための事項についてのさらなる修得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
オンライン授業の予定である。教員を含めた参加者による討論を繰り返していく。これにより、各々のテーマに関して柔軟かつ複眼的な見方ができるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第１回	テーマの確認と研究計画（１）	研究内容についての確認と計画のさらなる検討
第２回	テーマの確認と研究計画（２）	研究内容についての確認と計画のさらなる検討
第３回	テーマの確認と研究計画（３）	先行研究についての確認と計画のさらなる検討
第４回	テーマの確認と研究計画（４）	先行研究についての確認と計画のさらなる検討
第５回	分析手法・技法の検討（１）	分析手法・技法、評価・検証とその検討
第６回	分析手法・技法の検討（２）	分析手法・技法、評価・検証とその検討
第７回	分析手法・技法の検討（３）	分析手法・技法、評価・検証とその検討
第８回	分析手法・技法の検討（４）	分析手法・技法、評価・検証とその検討
第９回	研究遂行状況の報告と検討（１）	研究遂行状況の報告と検討、新たな課題の洗い出し
第10回	研究遂行状況の報告と検討（２）	研究遂行状況の報告と検討、新たな課題の洗い出し
第11回	研究遂行状況の報告と検討（３）	研究遂行状況の報告と検討、新たな課題の洗い出し
第12回	研究遂行状況の報告と検討（４）	研究遂行状況の報告と検討、新たな課題の洗い出し
第13回	プレゼンテーション法（１）	進捗度の確認、プレゼンテーション資料の作成法
第14回	プレゼンテーション法（２）	進捗度の確認、プレゼンテーション資料の作成法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容の考察、先行研究（文献等）に関する情報収集、プレリサーチ、報告の準備などの作業をすすめる。準備学習時間・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
総合評価による（目安としては、平常点７０％、研究報告３０％）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境法、公法（憲法・行政法）
＜研究テーマ＞
環境リスクの法的制御、廃棄物処理法制
＜主要研究業績＞
①「順応型リスク制御と比例性：ドイツ遺伝子技術法の閉鎖系規律手続を題材として」大塚直編『環境法研究』7 号（信山社、2017 年）13-45 頁。
②「廃棄物処理法に基づく生活環境影響調査の対象地域に関する一考察 ― 高城町事件と東海村事件を事例として」大阪経大論集 67 巻 3 号（2016 年）113-134 頁。
③「科学的不確実性を伴う環境リスクに対する法的制御の可能性と限界」OUFC ブックレット 8 号「中国の食・健康・環境の現状から導く東アジアの未来」（2016 年）62-74 頁。

【Outline (in English)】
Course outline: The course is designed as a course for students in the 1st year of a Master's degree.
Learning Objectives :By the end of the course, students should be able to acquire basic skills for conducting research.
Learning activities outside of classroom :The standard preparation and review time for this class is two hours each week.
Grading Criteria /Policy :presentation (30%), active participation in discussion (70%).

SES600P2 － 201

論文研究指導１Ａ

渡邊　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この論文研究指導では修士論文の作成に向けて、テーマ選定、先行研究の調査、分析手法・技法を含めた研究方法、結果の吟味と評価・検証などの考え方について検討する。これにより受講者は研究活動を遂行するための基礎力を修得する。ここでは概ねテーマの選定から先行研究の調査に関わる内容を中心に研究する。

【到達目標】
研究遂行のための基礎力を身につけることを目指す。受講者は各々の問題意識と関心事を確認し、情報収集、論点整理、分析手法の検討、さらには結果の解釈と検証などができるようになることを目標とする。また論文を執筆するための基礎的事項を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
教員を含めた参加者による討論を繰り返していく。これにより受講者は各々のテーマに関して柔軟かつ複眼的な見方ができるようになる。参加者は授業時に各々の研究の進捗状況の報告を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の方針、進め方などについての説明
第 2 回	テーマの検討（問題意識の報告と検討）	問題意識の確認と研究テーマに関する概要の検討
第 3 回	テーマの検討（リサーチクエッションへの発展）	問題意識の確認と研究テーマに関する詳細検討
第 4 回	テーマの検討（研究テーマの妥当性の検討）	論点整理と社会的意義に関する検討
第 5 回	テーマの検討（研究テーマの選定）	論点整理と課題整理
第 6 回	研究活動の設計（概要設計）	研究活動の概要の設計・計画、調査方針などの検討
第 7 回	研究活動の設計（詳細設計）	研究活動の詳細設計・計画、調査方法などの検討
第 8 回	先行研究の調査（情報検索）	文献の収集と調査、図書館における文献検索
第 9 回	先行研究の調査（情報収集）	文献の収集と調査、図書館における資料収集
第 10 回	先行研究の調査（論点整理）	関連文献の講読と精査、論点整理
第 11 回	先行研究の調査（課題整理）	関連文献の講読と精査、課題整理
第 12 回	先行研究の調査（研究計画の更なる検討）	関連文献の講読と精査、論点整理・課題整理と研究計画への反映
第 13 回	研究活動の設計（詳細設計の検討）	研究テーマの確認と研究活動の詳細設計
第 14 回	研究活動の設計（詳細設計の更なる検討）	研究テーマの確認と研究活動の詳細設計の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。テーマの考察、先行研究（文献等）に関する情報収集、プレリサーチ、報告の準備などの作業を進めることにする。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
開講時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加の積極性 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
参加者間のコミニュケーションがさらに深まるよう考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞ Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a guidance seminar to accomplish research projects for each member of this class in the master's course. Here we will mainly learn the process for planning of themes and examination of previously reported works.
(Learning Objectives） At the end of this class, we are expected to have the bases of investigation for each theme including paper-writing skills.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES600P2 － 202

論文研究指導１Ｂ

渡邊　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「論文研究指導１Ａ」に引き続き、ここでは修士論文の作成に向けて、テーマ選定、先行研究の調査、分析手法・技法を含めた研究方法、結果の吟味と評価・検証などの考え方について検討する。これにより受講者は研究活動を遂行するための基礎力を修得する。ここでは概ね分析手法・技法の検討、結果の評価・検証等に関わる内容を中心に研究する。さらに論文作成へ発展させるために必要な事項について検討する。

【到達目標】
研究遂行のための基礎力をさらに身に付けることを目指す。受講者は各々の問題意識と関心事を確認し、情報収集、論点整理、分析手法の検討、さらには結果の解釈と検証などができるようになることを目標とする。また論文を執筆するための基礎的事項を幅広く修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
教員を含めた参加者による討論を繰り返していく。これにより、受講者は各々のテーマに関して柔軟かつ複眼的な見方ができるようになる。参加者は授業時に各々の研究の進捗状況の報告を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの確認と研究計画（研究計画の概要確認）	研究内容についての確認
第 2 回	テーマの確認と研究計画（研究計画の詳細検討）	研究計画についての詳細な検討
第 3 回	テーマの確認と研究計画（先行研究の確認）	先行研究の論点確認
第 4 回	テーマの確認と研究計画（研究計画の再検討）	先行研究の論点確認と研究計画の更なる検討
第 5 回	分析手法・技法の検討（情報収集）	分析手法・技法、評価・検証の方法
第 6 回	分析手法・技法の検討（検討）	分析手法・技法、評価・検証の方法とその考察
第 7 回	分析手法・技法の検討（選定）	分析手法・技法、評価・検証の方法と妥当性の検討
第 8 回	分析手法・技法の検討（確認）	分析手法・技法、評価・検証の方法の再確認
第 9 回	研究遂行状況の報告と検討（報告）	研究遂行状況報告と検討
第 10 回	研究遂行状況の報告と検討（検討）	研究遂行状況報告と討論
第 11 回	研究遂行状況の報告と検討（論点整理）	研究遂行状況報告と論点の整理および検討
第 12 回	研究遂行状況の報告と検討（課題整理）	研究遂行状況報告と課題の整理および検討
第 13 回	論文作成法（基礎的事項）	進捗度の確認、論文執筆のためのスキル研究
第 14 回	プレゼンテーション法（資料作成法と報告）	進捗度の確認、プレゼンテーション資料作成のためのスキル研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。研究内容の考察、先行研究（文献等）に関する情報収集、プレリサーチ、報告の準備などの作業を進めることにする。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
開講時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加の積極性 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
参加者間のコミニュケーションがさらに深まるよう考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス、
＜主要研究業績＞ Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a guidance seminar to accomplish research projects for each member of this class in the master's course. Here we will mainly learn the methodology of analysis, evaluation techniques, and presentation methods of works. This seminar is a developed subject from 1A.
（Learning Objectives） At the end of this class, we are expected to have the bases of investigation for each theme including paper-writing skills.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES600P2 － 203

論文研究指導２Ａ

金藤　正直

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、論文研究指導 1A・B で習得した研究・調査の方法論、小論文（研究計画書）の内容、そして、修士論文の構想に基づいて、研究・調査内容を報告するとともに、その報告結果を参考にしながら完成度の高い修士論文を作成していくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、修士論文の中間報告書（粗原稿）を作成していくために、論文研究指導 1A・B よりも論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、論文研究指導 1A・B で習得した研究・調査の方法論、小論文（研究計画書）、修士論文の構想に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ヒアリング調査、ケーススタディから明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	1 年次までに行った研究・調査とそれに基づく今後の取組みについて確認する。
第 2 回	修士論文の構成（案）の検討	修士論文を構成する章や節の設定方法を講義するとともに、その案について報告する。
第 3 回～第 11 回	研究・調査の成果報告	第 2 回の構成（案）に基づいて、研究・調査を進めていくとともに、その成果を報告する。
第 12 回	修士論文の体裁	修士論文の体裁を整えていくための方法を講義する。
第 13 回	修士論文の構成（案）の再検討	これまでの講義に基づいて、章や節の構成（案）を再検討する。
第 14 回	修士論文の中間報告書（粗原稿）の作成	第 13 回の構成に基づいて作成される修士論文の全体内容を報告するとともに、その内容の粗原稿を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を修士論文の中間報告書（粗原稿）に反映させてください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（10 %）
・報告用配布レジュメの内容（10 %）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）
・修士論文（粗原稿）の内容（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境経営論、地域経営論
＜研究テーマ＞
企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。

【Outline (in English)】
① Course Outline
The purpose of this seminar is to study the details of a master thesis.
② Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a master thesis.
③ Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
④ Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion ： 10%
2）Content of the resume ： 10%
3）Content of the presentation ： 30%
4）Content of master thesis （rough draft）： 50%

SES600P2 － 204

論文研究指導２Ｂ

金藤　正直

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、論文研究指導 1A・B で習得した研究・調査の方法論、小論文（研究計画書）の内容、修士論文の構想、そして、論文研究指導 2A で作成した修士論文の中間報告書（粗原稿）の内容に基づいて、研究・調査を進め、その結果を報告するとともに、その報告内容を参考にしながら完成度の高い修士論文を作成していくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、論文研究指導 1A・B や論文研究指導 2A での学習内容を参考にしながら、修士論文を作成していくための論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、論文研究指導 1A・B で習得した研究・調査の方法論、作成した小論文（研究計画書）の内容、修士論文の構想、論文研究指導 2A で作成した修士論文の中間報告書（粗原稿）の内容に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査から明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査の進展について報告するとともに、完成から提出までのスケジュールを確認する。
第 2 回～第 5 回	追加的作業の確認	修士論文の完成のために必要不可欠となる作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第 6 回～第 13 回	修士論文の作成	論文研究指導 2A で作成した修士論文の中間報告書（粗原稿）に、これまでに行ってきた研究・調査内容を反映させた（加筆修正した）部分、また、内容調整した部分について報告する。
第 14 回	修士論文の最終版の調整	修士論文の形式と内容の最終調整を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その内容を修士論文に反映させ、完成度の高い論文にしてください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（10 %）
・報告用配布レジュメの内容（10 %）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）
・修士論文（提出前原稿）の内容（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境経営論、地域経営論
＜研究テーマ＞
企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。

【Outline (in English)】
① Course Outline
The purpose of this seminar is to study the details of a master thesis.
② Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a master thesis.
③ Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
④ Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion ： 10%
2）Content of the resume ： 10%
3）Content of the presentation ： 30%
4）Content of master thesis ： 50%

SES600P2 － 203

論文研究指導２Ａ

小島　聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、修士課程の 2 年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。
①研究テーマの細部の再調整
②追加的な調査研究
③修士論文の草稿の執筆

【到達目標】
この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。
・修士論文の執筆能力を身につける。
・学術論文の技法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
修士論文の草稿執筆に向けて、章構成に関する指導、調査研究の遂行に関する指導、調査研究から得た知見の評価と修士論文への反映に関する指導、修士論文の論理展開や技術・作法に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究および論文執筆の進捗状況から学び合う場ともする。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、COVID －19 の状況による社会情勢や参加者の感染リスク等に応じて、Zoom による双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	１年間の調査研究成果の報告	M1 の調査研究成果について報告し、今後の方向性について確認する。
2	修士論文完成までの工程確認	修士論文作成までの工程と具体的な調査研究課題を確認する。
3	修士論文の構造と技法の学習	修士論文の論理展開の重要性、章構成、技法について学ぶ。
4	章節構成案の報告	章節構成案を報告し、論文の構造について検討する。
5	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
6	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
7	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
8	章節構成案の再検討	調査研究の進展をふまえて、章節構成案を再検討する。
9	草稿執筆の準備作業の報告	草稿執筆に向けた準備作業について報告し、工程を確認する。
10	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
11	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
12	草稿執筆に関する報告と検討	執筆中の草稿の進捗状況について報告し、今後の作業課題について検討する。
13	草稿執筆に関する報告と検討	執筆中の草稿の進捗状況について報告し、今後の作業課題について検討する。
14	草稿執筆に関する報告と検討	執筆中の草稿の進捗状況について報告し、今後の作業課題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする）。
・調査研究を進めること。
・修士論文の草稿を執筆すること。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
修士論文の作業の進捗状況に応じて、適宜、関連文献を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的な参加姿勢）（50 %）、課題への取り組み（50 %）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治論
＜研究テーマ＞持続可能性と自治体環境政策、地域環境ガバナンス、市民社会と自治体行政システム
＜主要研究業績＞
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
『フィールドから考える地域環境　持続可能な地域社会をめざして』（共編著）（ミネルヴァ書房、2012）
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）
「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）

【Outline (in English)】
This seminar provides research guidance to students in the second year of the master's program. Students work on the following contents:
(1)Readjust the details of the research theme.
(2)Work on additional research.
(3)Write the draft of master's thesis.
Students aim at achieving the following goals:
(1)Acquire the ability to write master's thesis.
(2)Acquire the techniques of academic paper.
Students need to proceed with research, and to write the draft of master's thesis. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2 － 204

論文研究指導２Ｂ

小島　聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、修士課程の 2 年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。
①修士論文の草稿の検討と修正
②研究成果と今後の研究課題の確認

【到達目標】
この演習に参加する学生の到達目標は、以下の通りである。
・修士論文を完成させる。
・修士論文について的確に説明できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
修士論文の完成に向けて、草稿修正に関する指導、追加的な調査研究の遂行に関する指導、そこから得た知見の評価と修士論文への反映に関する指導、修士論文の論理展開や技術・作法に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、修士論文の草稿については、添削とコメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究および論文執筆の進捗状況から学び合う場ともする。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、COVID－19 の状況による社会情勢や参加者の感染リスク等に応じて、Zoom による双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	修士論文の草稿に関する報告	草稿について報告し、今後の修正課題について検討する。
2	追加的な調査研究の報告	追加的な調査研究の進捗状況について報告する。
3	追加的な調査研究の報告	追加的な調査研究の進捗状況について報告する。
4	追加的な調査研究の報告	追加的な調査研究の進捗状況について報告する。
5	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
6	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
7	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
8	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
9	修士論文の参考文献・資料に関する報告	修士論文の参考文献・資料について報告し精査する。
10	修士論文の全章に関する構成の最終確認	修士論文の全章に関する構成を最終確認し、重要な箇所について内容を精査する。
11	修士論文（案）の提出と報告	修士論文（案）を提出し、内容について報告する。
12	修士論文（案）の修正状況の報告	修士論文（案）の修正状況について報告する。
13	修士論文（案）の修正状況の報告	修士論文（案）の修正状況について報告する。
14	修士論文の最終案の報告と形式的調整	修士論文の最終案の報告と論文形式に関する調整を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする）。
・調査研究を進めること。
・修士論文を執筆すること。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
修士論文の作業の進捗状況に応じて、適宜、関連文献を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的な参加姿勢）（50 %）、課題への取り組み（50 %）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治論
＜研究テーマ＞持続可能性と自治体環境政策、地域環境ガバナンス、市民社会と自治体行政システム
＜主要研究業績＞
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
『フィールドから考える地域環境　持続可能な地域社会をめざして』（共編著）（ミネルヴァ書房、2012）
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）
「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）

【Outline (in English)】
This seminar provides research guidance to students in the second year of the master's program. Students work on the following contents:
(1)Review and revise the draft of master's thesis.
(2)Confirm of research results and future research issues.
Students aim at achieving the following goals:
(1)Complete the master's thesis.
(2)Acquire the ability to explain the master's thesis accurately.
Students need to proceed with research, and to write the master's thesis.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2 － 203

論文研究指導２Ａ

高田　雅之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を通して、修士論文を完成させます。

【到達目標】
修士課程 2 年生が、収集した資料及び取得したデータの分析と評価を行い、追加的に必要となる情報や知見等を明らかにした上でこれらを入手し、解析評価をとおして修士論文を完成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、修士論文の完成に到達します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第 2 回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第 3 回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第 4 回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第 5 回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第 6 回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 7 回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 8 回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 9 回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 10 回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 11 回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習
第 12 回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習
第 13 回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習
第 14 回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の取りまとめに向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット
＜主要研究業績＞
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編集・共著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「湿地の博物誌」（北大出版会，2014）編者
「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会，2014）共著
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.
Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

【実務経験のある教員による授業】
公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students complete the master's thesis through research direction including theme setting, study methodology and analysis.
The goals of this class are to reach the analysis and evaluation of acquired data, additional research and to complete master's thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2 － 204

論文研究指導２Ｂ

高田　雅之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を通して、修士論文を完成させます。

【到達目標】
修士課程 2 年生が、収集した資料及び取得したデータの分析と評価を行い、追加的に必要となる情報や知見等を明らかにした上でこれらを入手し、解析評価をとおして修士論文を完成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、修士論文の完成に到達します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第 2 回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第 3 回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第 4 回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第 5 回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第 6 回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第 7 回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第 8 回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第 9 回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第 10 回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第 11 回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導
第 12 回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導
第 13 回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導
第 14 回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の取りまとめに向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット
＜主要研究業績＞
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編集・共著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「湿地の博物誌」（北大出版会，2014）編者
「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会，2014）共著
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.
Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

【実務経験のある教員による授業】
公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students complete the master's thesis through research direction including theme setting, study methodology and analysis.
The goals of this class are to reach the analysis and evaluation of acquired data, additional research and to complete master's thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2 － 203

論文研究指導２Ａ

高橋　五月

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は修士１年生時に作成したリサーチプロポーザルをもとに、必要な文献調査および現地調査を実行し、修士論文を完成させる。授業では、文献レビュー、現地調査をもとにした民族誌の記述について発表および意見交換を行い、学生は授業で得たフィードバックをもとに修士論文の完成を目指す。

【到達目標】
学生の到達目標は、１）修士論文のテーマを絞る、２）テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、３）エスノグラフィーの研究手法を学ぶ、４）事前調査を含む現地調査を実施する、５）リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、修士論文を作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	文献講読と先行研究レビュー（1）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 3 回	文献講読と先行研究レビュー（2）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 4 回	文献講読と先行研究レビュー（3）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 5 回	文献講読と先行研究レビュー（4）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 6 回	文献講読と先行研究レビュー（5）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 7 回	文献講読と先行研究レビュー（6）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 8 回	文献講読と先行研究レビュー（7）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 9 回	文献講読と先行研究レビュー（8）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 10 回	民族誌の記述（1）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 11 回	民族誌の記述（2）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 12 回	民族誌の記述（3）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 13 回	民族誌の記述（4）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 14 回	修士論文進捗状況報告	修士論文進捗状況報告をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読、文献レビュー作成、現地調査、修士論文の作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％）、修士論文（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境人類学、海洋人類学、震災人類学
＜研究テーマ＞　日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学
＜主要研究業績＞　『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、３・１１後の世界に生きる）』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5 – 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】
Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for students to complete their master's degree thesis. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing up their thesis. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their thesis (70%).

SES600P2 － 204

論文研究指導２Ｂ

高橋　五月

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は修士１年生時に作成したリサーチプロポーザルをもとに、必要な文献調査および現地調査を実行し、修士論文を完成させる。授業では、文献レビュー、現地調査をもとにした民族誌の記述について発表および意見交換を行い、学生は授業で得たフィードバックをもとに修士論文の完成を目指す。

【到達目標】
学生の到達目標は、１）修士論文のテーマを絞る、２）テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、３）エスノグラフィーの研究手法を学ぶ、４）事前調査を含む現地調査を実施する、５）リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、修士論文を作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	文献講読と先行研究レビュー（1）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 3 回	文献講読と先行研究レビュー（2）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 4 回	文献講読と先行研究レビュー（3）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 5 回	文献講読と先行研究レビュー（4）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 6 回	文献講読と先行研究レビュー（5）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 7 回	文献講読と先行研究レビュー（6）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 8 回	文献講読と先行研究レビュー（7）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 9 回	文献講読と先行研究レビュー（8）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 10 回	民族誌の記述（1）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 11 回	民族誌の記述（2）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 12 回	民族誌の記述（3）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 13 回	民族誌の記述（4）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 14 回	修士論文発表	修士論文発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読、文献レビュー作成、現地調査、修士論文の作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％）、修士論文（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境人類学、海洋人類学、震災人類学
＜研究テーマ＞　日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学
＜主要研究業績＞　『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、３・１１後の世界に生きる）』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5 – 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】
Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for students to complete their master's degree thesis. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing up their thesis. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their thesis (70%).

SES600P2 － 203

論文研究指導２Ａ

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための演習指導（2 年目以降）

【到達目標】
修士課程 2 年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なリサーチを行ない、実際に修士論文を執筆、完成させると同時に的確な報告ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究構想の検討（第 6 回）	前年度の演習に引き続き、演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第 6 回 前年度からの継続）
第 2 回	研究構想の検討（第 7 回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第 7 回）
第 3 回	研究構想の検討（第 8 回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第 8 回）
第 4 回	研究構想の検討（第 9 回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第 9 回）
第 5 回	研究構想の検討（第 10 回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第 10 回）
第 6 回	研究構想の検討（第 11 回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第 11 回）
第 7 回	研究構想の検討（第 12 回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第 12 回）
第 8 回	修士論文執筆と進捗報告（第 1 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 1 回）
第 9 回	修士論文執筆と進捗報告（第 2 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 2 回）
第 10 回	修士論文執筆と進捗報告（第 3 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 3 回）
第 11 回	修士論文執筆と進捗報告（第 4 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 4 回）
第 12 回	修士論文執筆と進捗報告（第 5 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 5 回）
第 13 回	修士論文執筆と進捗報告（第 6 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 6 回）
第 14 回	修士論文執筆と進捗報告（第 7 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に中間報告に向けた発表準備）（第 7 回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者との協議を通じて、修士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。修士論文（内容およびプレゼンテーション）70 %、演習における積極性と貢献度 30 %

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is a second year seminar for authoring master thesis.
[Learning Objectives]
The goal of this exercise for second-year master's students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a master's thesis, and appropriately present their research.
[Learning Activities outside of classroom]
The progress of the master's thesis writing will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and write their theses accordingly. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. Participants are also expected to make presentations at academic conferences.
The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall evaluation will be based on the following balance. Master's thesis (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution to the seminar: 30%

SES600P2 － 204

論文研究指導２Ｂ

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための演習指導（2 年目以降）

【到達目標】
修士課程 2 年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なリサーチを行ない、実際に修士論文を執筆、完成させると同時に的確な報告ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文執筆と進捗報告（第 1 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 1 回）
第 2 回	修士論文執筆と進捗報告（第 2 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 2 回）
第 3 回	修士論文執筆と進捗報告（第 3 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 3 回）
第 4 回	修士論文執筆と進捗報告（第 4 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 4 回）
第 5 回	修士論文執筆と進捗報告（第 5 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 5 回）
第 6 回	修士論文執筆と進捗報告（第 6 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 6 回）
第 7 回	修士論文執筆と進捗報告（第 7 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 7 回）
第 8 回	修士論文執筆と進捗報告（第 8 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 8 回）
第 9 回	修士論文執筆と進捗報告（第 9 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 9 回）
第 10 回	修士論文執筆と進捗報告（第 10 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 10 回）
第 11 回	修士論文執筆と進捗報告（第 11 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 11 回）
第 12 回	修士論文執筆と進捗報告（第 12 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 12 回）
第 13 回	修士論文執筆と進捗報告（第 13 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 13 回）
第 14 回	修士論文執筆と進捗報告（第 14 回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に最終発表に向けた発表準備）（第 14 回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者との協議を通じて、修士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。本演習の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。修士論文（内容およびプレゼンテーション）70 %、演習における積極性と貢献度 30 %

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is a second year seminar for authoring master thesis.
[Learning Objectives]
The goal of this exercise for second-year master's students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a master's thesis, and appropriately present their research.
[Learning Activities outside of classroom]
The progress of the master's thesis writing will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and write their theses accordingly. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. Participants are also expected to make presentations at academic conferences.
The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall evaluation will be based on the following balance. Master's thesis (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution to the seminar: 30%

SES600P2 － 203

論文研究指導２Ａ

長谷川　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、論文研究指導１Ａ・１Ｂでの学習を踏まえて、修士論文を完成するための指導を行います。

【到達目標】
学術的に完成度の高い修士論文を執筆することを通じて、高度職業人として多面的かつ学術的な問題解決能力を涵養することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
修士論文のテーマや研究対象を踏まえ、履修者とのディスカッションを通じてデータ解析と学術論文の執筆に関する指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	修士論文の執筆計画の検討①	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第２回	修士論文の執筆計画の検討②	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第３回	修士論文の執筆計画の検討③	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第４回	修士論文の進捗状況報告①	執筆部分の報告と討議
第５回	修士論文の進捗状況報告②	執筆部分の報告と討議
第６回	修士論文の進捗状況報告③	執筆部分の報告と討議
第７回	修士論文の進捗状況報告④	執筆部分の報告と討議
第８回	修士論文の進捗状況報告⑤	執筆部分の報告と討議
第９回	修士論文の進捗状況報告⑥	執筆部分の報告と討議
第10回	修士論文の進捗状況報告⑦	執筆部分の報告と討議
第11回	修士論文の進捗状況報告⑧	執筆部分の報告と討議
第12回	修士論文中間発表①	修士論文の全体像についての報告
第13回	修士論文中間発表②	修士論文に対する修正点の討議
第14回	修士論文中間発表③	修士論文に対する修正点の討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
収集したデータの解析と修士論文の執筆を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
修士論文の執筆状況： 80 %
発表・討議： 20%

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステイナビリティ
＜主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年９月28日）』2021年
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年３月２日～12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021年

【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証１部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this seminar, I will guide students to complete their master's thesis based on their learning in Thesis Research Guidance 1A and 1B.
This seminar aims to help students acquire multifaceted and academic problem-solving skills through the writing of their master's thesis.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the content of the master's thesis (80%) and the presentation (20%).

SES600P2 － 204

論文研究指導２Ｂ

長谷川　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、論文研究指導２Ａでの学習を踏まえて、修士論文を完成するための指導を行います。

【到達目標】
学術的に完成度の高い修士論文を執筆することを通じて、高度職業人として多面的かつ科学的な問題解決能力を涵養することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
修士論文のテーマや研究対象を踏まえ、履修者とのディスカッションを通じて、データ解析と学術論文の執筆に関する指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の進捗状況報告①	執筆部分の報告と討議
第 2 回	修士論文の進捗状況報告②	執筆部分の報告と討議
第 3 回	修士論文の進捗状況報告③	執筆部分の報告と討議
第 4 回	プレ最終発表①	執筆済み修士論文の発表と討議
第 5 回	プレ最終発表②	執筆済み修士論文の発表と討議
第 6 回	修士論文の修正点の討議①	履修者と修士論文の修正点について討議
第 7 回	修士論文の修正点の討議②	履修者と修士論文の修正点について討議
第 8 回	修士論文の修正点の討議③	履修者と修士論文の修正点について討議
第 9 回	修正論文の報告と討議①	履修者による修正論文の報告と討議
第 10 回	修正論文の報告と討議②	履修者による修正論文の報告と討議
第 11 回	修正論文の報告と討議③	履修者による修正論文の報告と討議
第 12 回	修士論文の最終報告①	完成した修士論文の発表と討議
第 13 回	修士論文の最終報告②	修正を反映した修士論文の発表と討議
第 14 回	最終プレゼンテーション	口述試験におけるプレゼンテーションの予行演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
収集したデータの解析と修士論文の執筆を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
修士論文： 90 %
発表・討議： 10 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてプロジェクターとパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステイナビリティ
＜主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021 年 9 月 28 日）』2021 年
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020 年 3 月 2 日～12 日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021 年

【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 1 部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this seminar, I will guide students to complete their master's thesis based on their learning in Thesis Research Guidance 2A. This seminar aims to help students complete a high quality master's thesis.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the content of the master's thesis (90%) and the presentation (10%).

SES600P2 － 203

論文研究指導２Ａ

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための個別指導

【到達目標】
論文研究指導１Ｂで収集したデータの解析

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、関心事項の報告や他の院生の報告を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら、データ収集を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
2	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
3	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
4	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
5	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
6	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
7	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
8	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
9	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
10	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
11	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
12	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
13	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
14	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとＰＰＴファイルを事前に準備する。また、ゼミでの指摘事項を踏まえた対応の実施。疑問点などについては適宜メールで教員と連絡をとりあう。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
データ解析の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談で対応する。

【Outline (in English)】
Students will draft thesis. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on participation.

SES600P2 － 204

論文研究指導２Ｂ

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための個別指導

【到達目標】
論文研究指導２Ａまでに行った調査研究結果のとりまとめと修士論文作成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、関心事項の報告や他の院生の報告を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら、データ収集を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
2	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
3	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
4	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
5	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
6	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
7	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
8	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
9	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
10	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
11	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
12	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
13	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
14	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとＰＰＴファイルを事前に準備する。また、ゼミでの指摘事項を踏まえた対応の実施。疑問点などについては適宜メールで教員と連絡をとりあう。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
データ解析の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談で対応する。

【Outline (in English)】
Completion of master thesis. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on the thesis.

SES600P2 － 203

論文研究指導２Ａ

宮川　路子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成のステップとして修士課程 2 年生を対象として、修士論文作成のための研究調査活動、論文執筆の指導を行う。学生は定めたテーマについて先行研究をまとめ、課題を提示し、仮説を設定して考察を行うことを目的とする。

【到達目標】
学生が適切なテーマについて、調査、分析、考察を行い、仮説を検証していく過程を指導する。
学生は論理を組み立てる能力、データを解析する能力、そして結果について考察、説明する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。
執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の作成	先行研究について
第 2 回	修士論文の作成	これまでの研究、調査結果の報告、問題点の把握
第 3 回	修士論文の作成	問題点の解決について
第 4 回	修士論文の作成	調査についての報告
第 5 回	修士論文の作成	調査の問題点について
第 6 回	修士論文の作成	調査結果の解析
第 7 回	修士論文の作成	調査結果解析についての課題検討
第 8 回	修士論文の作成	解析結果の課題検討と考察
第 9 回	修士論文の作成	解析結果の課題検討と考察
第 10 回	修士論文の作成	これまでに得られた結果の総括と新知見の再確認
第 11 回	修士論文の作成	論文執筆の開始
第 12 回	修士論文の作成	論文執筆についての報告と内容の確認
第 13 回	修士論文の作成	追加的調査、文献検索についての検討
第 14 回	修士論文の作成	論文ドラフトの提出と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の完成に向けてテーマについての調査、研究を継続的に行う。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
研究、執筆の状況に応じて必要に応じ提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、指示した課題の消化状況 40 %、研究内容 30 %として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞公衆衛生学、産業保健
＜研究テーマ＞就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞ Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study),The European Journal of Public Health　2012 年
ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー
労働安全衛生広報　2010 年
マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健２１　2010 年

【Outline (in English)】
【Course outline】 As a step toward the completion of the master's thesis, research and survey activities for the preparation of the master's thesis and guidance in writing the thesis are provided. Students are expected to summarize previous research on a defined topic, present a problem, set a hypothesis, and conduct a study.
【Learning Objectives】 Students will be guided through the process of researching, analyzing, and discussing an appropriate topic and testing hypotheses. Students will develop the ability to formulate logic, analyze data, and discuss and explain the results.
【Learning activities outside of classroom】 Students will continue to investigate and research on the topic to complete their master's thesis.
【Grading Criteria】 The evaluation will be based on 30% of the normal score, 40% of the completion of the assigned tasks, and 30% of the research content.

SES600P2 － 204

論文研究指導２Ｂ

宮川　路子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成のための最終段階として、論文執筆の指導を行う。
学生は修士論文を仕上げることを目標とする。

【到達目標】
学生が適切なテーマについて、調査、分析、考察を行い、仮説を検証していく過程を指導する。
学生は論理を組み立てる能力、データを解析する能力、そして結果について考察、説明する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。
執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の作成	論文ドラフトの提出と修正
第 2 回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第 3 回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第 4 回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第 5 回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第 6 回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第 7 回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第 8 回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第 9 回	修士論文の作成	論文完成にむけて検討
第 10 回	修士論文の作成	論文完成にむけて検討
第 11 回	修士論文の作成	論文完成にむけて検討
第 12 回	修士論文の作成	論文を完成させる
第 13 回	修士論文の作成	論文を完成させる
第 14 回	修士論文の作成	論文を完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の完成に向けてテーマについての調査、研究を継続的に行う。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
研究、執筆の状況に応じて必要に応じ提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、指示した課題の消化状況 40 %、研究内容 30 %として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞公衆衛生学、産業保健
＜研究テーマ＞就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞ Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study),The European Journal of Public Health　2012 年
ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー　労働安全衛生広報　2010 年
マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健２１　2010 年

【Outline (in English)】
【Course outline】Students will receive guidance in writing their paper as the final step in preparing their master's thesis. Students are expected to complete their master's thesis.
【Learning Objectives】Students will be guided the process of researching, analyzing, and discussing an appropriate topic and testing hypotheses. Students will develop the ability to formulate logic, analyze data, and discuss and explain the results.
【Learning activities outside of classroom】Students will continue to investigate and research on the topic to complete their master's thesis.
【Grading Criteria】The evaluation will be based on 30% of the normal score, 40% of the completion of the assigned tasks, and 30% of the research content.

SES600P2 － 203

論文研究指導２Ａ

渡邊　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「論文研究指導１ B」に引き続き、ここでは修士論文の作成に向けて、テーマ選定、先行研究の調査、分析手法・技法を含めた研究方法、結果の吟味と評価・検証などについて深く検討する。これにより受講者は研究活動を遂行するための応用力を修得する。論文執筆のための基礎的事項についても研究する。

【到達目標】
研究遂行のための基礎力と応用力を身に付けることを目指す。受講者は各々の問題意識と関心事を再確認し、情報収集、論点整理、分析手法の検討、さらには結果の解釈と検証などができるようになることを目標とする。また論文を執筆するための実践力を身につけることも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
教員を含めた参加者による討論を繰り返していく。これにより、受講者は各々のテーマに関して柔軟かつ複眼的な見方ができるようになる。受講者は、授業時に各々の研究の進捗状況の報告を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論点整理と研究計画（概要検討）	研究内容についての確認と計画の更なる検討
第 2 回	論点整理と研究計画（詳細検討）	研究内容についての確認と計画の詳細な検討
第 3 回	先行研究の検討（視点と論点の確認）	先行研究における視点および論点の整理と確認
第 4 回	先行研究の検討（課題の確認）	先行研究における新たな課題の整理と確認
第 5 回	データ分析と考察（情報収集と活用）	データ収集と分析手法の検討
第 6 回	データ分析と考察（分析結果の再検討）	分析結果の評価・検証の更なる検討
第 7 回	データ分析と考察（解釈の検討）	分析結果の活用と解釈の検討
第 8 回	データ分析と考察（論理展開の検討）	分析結果の活用と解釈の論理性、妥当性の検討
第 9 回	研究遂行状況の報告と検討（論点報告）	リサーチクエッションと論点の再確認
第 10 回	研究遂行状況の報告と検討（詳細検討と考察）	論理性の確認と妥当性の検討および考察
第 11 回	研究遂行状況の報告と検討（主張整理）	研究遂行状況の報告と検討（主張の確認とその妥当性検討）
第 12 回	論文執筆入門（論点整理と論文構成の検討）	論文執筆構想と論文構成の検討
第 13 回	論文執筆入門（論文構造と論理の検討）	論文執筆計画と論理構成および論文構造の検討
第 14 回	論文執筆入門（表現検討）	論文作成のための表現研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。研究内容の考察、先行研究（文献等）に関する情報収集、プレリサーチ、報告の準備などの作業を進めることにする。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
開講時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加の積極性 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
参加者間のコミニュケーションがさらに深まるよう考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス、
＜主要研究業績＞ Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a practical seminar to accomplish research projects for each member of this class in the master's course. Here we will mainly learn the methods for research analysis, evaluation techniques, and presentation methods of works. Instruction for paper writing is included in the class. This seminar is a developed subject from 1B.
（Learning Objectives） At the end of this class, we are expected to have the developed understanding of investigation for each theme including paper-writing skills.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES600P2 － 204

論文研究指導２Ｂ

渡邊　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「論文研究指導 2A」に引き続き、ここでは修士論文の作成に向けて、テーマ選定、先行研究の調査、分析手法・技法を含めた研究方法、結果の吟味と評価・検証などについてさらに深く検討する。これにより受講者は研究活動を遂行するための実践的力を修得する。論文等筆のための発展的事項についても研究する。

【到達目標】
研究遂行のための基礎力と応用力をさらに身に付けることを目指す。受講者は各々の問題意識と関心事を再確認し、情報収集、論点整理、分析手法の検討、さらには結果の解釈と検証などができるようになることを目標とする。また論文を執筆するための実践力をさらに身につけることも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】
教員を含めた参加者による討論を繰り返していく。これにより、受講者は各々のテーマに関して柔軟かつ複眼的な見方ができるようになる。参加者は授業時に各々の研究の進捗状況の報告を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究報告と討論 （研究遂行状況の確認）	研究報告と討論、更なる検討
第 2 回	研究報告と討論 （主張内容の確認）	研究報告と討論、主張内容の確認
第 3 回	論文執筆のための基礎事項 （リサーチクエッションについて）	研究テーマの学術的有効性の考察
第 4 回	論文執筆のための基礎事項 （先行研究について）	先行研究の記述法の研究
第 5 回	論文執筆のための基礎事項 （論文構成について）	論文構成法の研究
第 6 回	論文執筆のための基礎事項 （論文構造について）	論文構造と記述法の研究
第 7 回	論文執筆のための基礎事項 （論文表現と語句の選定について）	論文としてふさわしい表現（語句、単語の用い方）
第 8 回	論文執筆のための基礎事項 （文章表現について）	論文としてふさわしい表現法の検討
第 9 回	論文執筆のための実践的事項 （論理的記述）	論文の論理的記述とその研究
第 10 回	論文執筆のための実践的事項 （先行研究の記述と構成について）	先行研究の整理、記述とその研究
第 11 回	論文執筆のための実践的事項 （文章表現について）	適切な単語・語句の選定、論理的文章表現とその研究
第 12 回	論文執筆のための実践的事項 （レジュメ作成について）	要約、レジュメなどの記述とその研究
第 13 回	口頭発表のための実践的事項 （発表資料作成技法など）	資料作成とその研究
第 14 回	口頭発表のための実践的事項 （口述法など）	口述発表、質疑応答とその研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。研究内容の考察、先行研究（文献等）に関する情報収集、プレリサーチ、報告の準備などの作業を進めることにする。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
開講時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加の積極性 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
参加者間のコミニュケーションがさらに深まるよう考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス、
＜主要研究業績＞ Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a practical seminar to accomplish research projects for each member of this class in the master's course. Here we will mainly learn the methods for research analysis, evaluation techniques, and presentation methods of works. Instruction for paper writing is included in the class. This seminar is a developed subject from 2A.
（Learning Objectives） At the end of this class, we are expected to have the developed understanding of investigation for each theme including paper-writing skills.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

金藤　正直

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士論文の作成を通じて習得してきた研究・調査の方法論と、修士論文の内容に基づいて、博士論文の構成・内容（素案）を検討し、報告するとともに、その結果を参考にしながら小論文（研究計画書）を作成していくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、博士論文の作成で行っていく高度な研究・調査に必要とされる論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、修士課程で習得した研究・調査の方法論と、修士論文の内容に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルの特長や問題点、そして、実践適用可能性をさらに深く検討してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	修士課程までに行った研究・調査の内容（修士論文の内容）とそれに基づく今後の取組みについて確認する。
第 2 回～第 3 回	博士論文の構成・内容（案）の検討	博士論文の章・節の構成・内容（案）について検討する。
第 4 回～第 12 回	研究・調査の成果報告	第 2 回～第 3 回の構成・内容（案）に基づいて、研究・調査の成果を報告する。
第 13 回	博士論文の構成・内容（素案）の検討	これまでの研究・調査に基づいて、章・節の構成・内容（素案）を検討する。
第 14 回	小論文の作成	第 13 回の構成・内容（素案）に基づいて、博士論文の方向性を報告するとともに、その報告内容に基づく小論文（研究計画書）を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を博士論文のための小論文（研究計画書）の作成に反映させてください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（20 %）
・報告用配布レジュメの内容（20 %）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（20 %）
・小論文（研究計画書）の内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境経営論、地域経営論
＜研究テーマ＞
企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。

【Outline (in English)】
① Course Outline
The purpose of this seminar is to consider the composition of a doctoral thesis and its contents.
② Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically discuss and summarize their research.
③ Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
④ Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion ： 20%
2）Content of the resume ： 20%
3）Content of the presentation ： 20%
4）Short thesis based on the research ： 40%

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

金藤　正直

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士論文の作成を通じて習得してきた研究・調査の方法論、修士論文の内容、サステイナビリティ特殊研究１Ａで作成した小論文（研究計画書）の内容に基づいて、博士論文の構成・内容（素案）を再検討し、報告するとともに、その報告内容を参考にしながら、博士論文の中間報告と博士論文の内容を検討していくこと（学会誌（研究誌）などへの投稿論文や学会報告も含む）を目的とする。

【到達目標】
本演習では、博士論文の中間報告と博士論文の作成で行われる高度な研究・調査のために必要な論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、修士課程で習得した研究・調査の方法論、修士論文の内容、博士論文のための小論文（研究計画書）の内容に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ヒアリング調査、ケーススタディから明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査の進展について報告するとともに、博士論文の中間報告および博士論文（投稿論文も含む）の作成までのスケジュールを確認する。
第 2 回～第 11 回	追加的作業の確認	博士論文の中間報告および博士論文の作成のために必要な作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第 12 回～第 13 回	博士論文の構成・内容（素案）の再検討・調整	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文の構成・内容（案）に反映させ、論文内容を再検討し、調整する。
第 14 回	博士論文の構成・内容（素案）の決定	博士論文の構成・内容（素案）を再調整し、決定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を博士論文の中間報告や、博士論文の中間報告書に反映させてください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（10 %）
・報告用配布レジュメの内容（10 %）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）
・博士論文の中間報告、投稿論文を含む博士論文（中間報告書）の構成・内容（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　環境経営論、地域経営論
＜研究テーマ＞
　企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。

【Outline (in English)】
① Course Outline
The purpose of this seminar is to consider the composition of a doctoral thesis and its contents.
② Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a paper.
③ Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
④ Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion ： 10%
2）Content of the resume ： 10%
3）Content of the presentation ： 30%
4）Structure and content of doctoral thesis or research paper ： 50%

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

北川　徹哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

【到達目標】
１．課題を設定する．
２．既往の研究に関する文献調査を行う．
３．課題解決への手段を構築する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
調査とディスカッションを通じて，研究方針の策定と博士論文の執筆の準備を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現状分析	文献調査，整理，理解
2	現状分析	文献調査，整理，理解
3	現状分析	文献調査，整理，理解
4	現状分析	文献調査，整理，理解
5	現状分析	文献調査，整理，理解
6	現状分析	文献調査，整理，理解
7	第１～６回のとりまとめ	文献調査，整理，理解
8	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
9	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
10	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
11	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
12	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
13	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
14	第８～１３回のとりまとめ	抽出された課題の解決方法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全回：研究の実施，資料とスライドの作成．
本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
資料とスライド（50 %：論述の適切さ，到達目標１～３への到達度），議論（50 %：説明の正確さ，質疑応答の適切さ）により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境流体，気象社会論，流体関連振動
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策，気象リスクヘッジ，数値流体解析
＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第 25 回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰 Ornstein-Uhlenbeck 過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集 A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博 2000 に導入された天候デリバティブについての一考察，第 23 回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み，日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Studies, investigations and discussions on the research issue for the doctor thesis.
（Learning Objectives）
The goals of this course are
A. to deliberate on the research objective and plan,
B. to obtain basic knowledges to proceed the doctor research and
C. to consider the methodology to analyze the data required in the doctor research.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

北川　徹哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

【到達目標】
１．課題を設定する．
２．既往の研究に関する文献調査を行う．
３．課題解決への手段を構築する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
調査とディスカッションを通じて，研究方針の策定と博士論文の執筆の準備を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
2	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
3	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
4	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
5	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
6	解決方法の探索，中間報告会の準備	抽出された課題の解決方法の検討
7	第１～６回のとりまとめ，中間報告会の準備	抽出された課題の解決方法の検討
8	解決方法の具体化，中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
9	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
10	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
11	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
12	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
13	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
14	第８～１３回のとりまとめ	解決方法のインプリメンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全回：研究の実施，資料とスライドの作成．
本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
資料とスライド（50 %：論述の適切さ，到達目標１～３への到達度），議論（50 %：説明の正確さ，質疑応答の適切さ）により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境流体，気象社会論，流体関連振動
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策，気象リスクヘッジ，数値流体解析
＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第 25 回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰 Ornstein-Uhlenbeck 過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集 A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博 2000 に導入された天候デリバティブについての一考察，第 23 回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み，日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Studies, investigations and discussions on the research issue for the doctor thesis.
（Learning Objectives）
The goals of this course are
A. to deliberate on the research objective and plan,
B. to obtain basic knowledges to proceed the doctor research and
C. to consider the methodology to analyze the data required in the doctor research.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

小島　聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、博士課程の１年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。
①修士論文の成果の確認
②博士過程における研究テーマの検討

【到達目標】
この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。
①博士論文のテーマを決定する。
②博士論文に関する調査研究の設計図をデザインする。
③高度な研究能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
参加学生のそれまでの研究成果の報告と次の段階における問題意識を明確化した上で、具体的なテーマ、調査研究計画の作成と遂行に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、COVID－19 の状況による社会情勢や参加者の感染リスク等に応じて、Zoom による双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	これまでの研究ストックの確認と、現在の問題意識や構想に関するブレーンストーミングを行う。
2	修士論文の報告	修士論文の詳細な内容とそこから浮かび上がった研究課題について報告する。
3	研究構想の具体化への着手	博士課程における研究テーマについて、代替案をいくつか提示しながら、その意義や実行可能性などについて比較検討する。
4	研究テーマの候補の検討	引き続き、複数の研究テーマを比較検討する。
5	研究テーマの確定	博士課程における研究テーマを確定する。
6	調査研究計画の作成	調査研究計画を報告しロードマップや研究のポイントを検討する
7	調査研究計画の精査	調査研究計画を精査し、ブラッシュアップを図る。
8	先行研究のリサーチ	選定したテーマに関する先行研究のリサーチを行い、その水準、自分のテーマのニッチ・意義・方向性について検討する。
9	先行研究のリサーチ	選定したテーマに関する先行研究のリサーチを行い、その水準、自分のテーマのニッチ・意義・方向性について検討する。
10	先行研究のリサーチ	選定したテーマに関する先行研究のリサーチを行い、その水準、自分のテーマのニッチ・意義・方向性について検討する。
11	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
12	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
13	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
14	調査研究計画の修正	調査研究の進捗をふまえて調査研究計画を修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする）。
・博士論文のテーマを決定し調査研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
演習実施期間中に適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的な参加姿勢）（50 %）、課題への取り組み（50 %）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治論
＜研究テーマ＞持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、市民社会と自治体行政システム

【Outline (in English)】
This seminar provides research guidance to students in the first year of the doctorial program. Students work on the following contents:
(1)Examine the results of master's thesis and future research issues.
(2)Consider the research theme in the doctoral program.
Students aim at achieving the following goals:
(1)Determine the theme of doctoral dissertation
(1)Design the blueprint for research on doctoral dissertation
(2)Acquire advanced research ability.
Students need to determine the theme of doctoral dissertation and to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Active class participation:50%,Assignments:50%

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

小島　聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、博士課程の１年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。
①研究テーマの細部の検討
②既存研究の調査
③フィールド調査の計画と実施

【到達目標】
この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。
①調査研究の設計図をブラッシュアップする。
②参考文献やその他の資料のリストを作成する。
③フィールド調査から知見を得る。
④高度な研究能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
サステイナビリティ特殊研究１Ａに続いて、参加学生の研究テーマについて、毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、COVID－19 の状況による社会情勢や参加者の感染リスク等に応じて、Zoom による双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
2	調査研究計画の調整	調査研究の内容の細部と工程を調整する。
3	先行研究の調査	先行研究について文献調査を行い、リストを作成する。
4	先行研究の調査	テーマに関して重要な先行研究をピックアップして報告する。
5	先行研究の調査	テーマに関して重要な先行研究をピックアップして報告する。
6	先行研究の調査	先行研究に関するリサーチペーパーを作成し報告する。
7	研究テーマに関する新たな文献や関連資料の探索	研究テーマに関する新たな文献や関連資料をを探索し、リストを作成して報告する。
8	フィールド調査プランの提示	研究テーマに関するヒアリング等のフィールド調査プランについて報告し検討する。
9	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
10	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
11	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
12	フィールド調査の報告	フィールド調査の進捗状況について報告する。
13	調査研究計画の再調整	次年度の調査研究計画について再調整する。
14	調査研究計画の再調整	次年度の調査研究計画について再調整する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする）。
・調査研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
演習実施期間中に適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的な参加姿勢）（50 %）、課題への取り組み（50 %）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治論
＜研究テーマ＞持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、市民社会と自治体行政システム

【Outline (in English)】
This seminar provides research guidance to students in the first year of the doctorial program. Students work on the following contents:
(1)Consider the details of research theme.
(2)Survey of existing research.
(3)Plan and carry out field surveys.
Students aim at achieving the following goals:
(1)Brush up the blueprint for research.
(2)Make the list of references and other resources.
(3)Gain insights from field research
(4)Acquire advanced research ability.
Students need to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Active class participation:50%,Assignments:50%

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

杉戸　信彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】
博士論文の作成に向け、課題を発見し、解決に向けた調査を実施して、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
研究の方向性を決め、文献レビュー等を行いながら研究テーマを具体的に定める。そのうえで、文献レビュー等をすすめながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。
授業形態については学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の方向性の検討（1）	研究の方向性について検討を行う。
第 2 回	研究の方向性の検討（2）	研究の方向性について検討を行い決定する。
第 3 回	関連文献のレビュー（1）	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第 4 回	関連文献のレビュー（2）	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第 5 回	研究テーマの検討	研究の方向性についてあらためて検討を行い、研究テーマを具体的に定める。
第 6 回	関連文献のレビュー（3）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 7 回	関連文献のレビュー（4）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 8 回	調査計画の立案（1）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 9 回	調査計画の立案（2）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 10 回	調査結果のまとめ（1）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 11 回	調査結果のまとめ（2）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 12 回	調査計画の立案（3）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 13 回	調査結果のまとめ（3）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 14 回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】
応用力や思考力、スキルなどの涵養を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞
1）杉戸信彦，2014，大地震の歴史とメカニズムを捉える－活断層への地理学的アプローチ－，木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編，「災害フィールドワーク論」，FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 5，古今書院，212p，132-149.
2）杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘，2015，津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布，地学雑誌，124，157-176．doi: 10.5026/jgeography.124.157
3）Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】
We conduct research and discussion for the doctoral thesis. The goal of this course is to complete a final report for the doctoral thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

杉戸　信彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】
博士論文の作成に向け、課題を発見し、解決に向けた調査を実施して、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマを具体的に定め、文献レビュー等を行いながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。
授業形態については学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの検討	研究テーマについて検討を行い、具体的に定める。
第 2 回	関連文献のレビュー（1）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 3 回	関連文献のレビュー（2）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 4 回	調査計画の立案（1）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 5 回	調査計画の立案（2）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 6 回	調査結果のまとめ（1）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 7 回	調査結果のまとめ（2）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 8 回	関連文献のレビュー（3）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 9 回	関連文献のレビュー（4）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 10 回	調査計画の立案（3）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 11 回	調査結果のまとめ（3）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 12 回	調査計画の立案（4）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 13 回	調査結果のまとめ（4）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 14 回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】
応用力や思考力、スキルなどの涵養を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞
1）杉戸信彦，2014，大地震の歴史とメカニズムを捉える－活断層への地理学的アプローチ－，木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編，「災害フィールドワーク論」，FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 5，古今書院，212p，132-149.
2）杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘，2015，津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布，地学雑誌，124，157-176．doi: 10.5026/jgeography.124.157
3）Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】
We conduct research and discussion for the doctoral thesis. The goal of this course is to complete a final report for the doctoral thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

杉野　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文のテーマを設定し、骨子案を作成する。

【到達目標】
論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回ゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去の進捗状況を報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	論文の方向性を報告する
第 2 回	関心テーマの設定	関心テーマの概要をとりまとめる
第 3 回	関心テーマの実現可能性	関心テーマが実施できるかを検討する
第 4 回	関連情報の収集	論文に関連する情報を収集する
第 5 回	関連情報の収集	論文に関連する情報を収集する
第 6 回	関連情報の分析	収集した関連情報を分析する
第 7 回	関連情報の分析	収集した関連情報を分析する
第 8 回	論文の実現可能性	論文の実現可能性を再検討し、論文の内容を確定する
第 9 回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第 10 回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第 11 回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第 12 回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第 13 回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第 14 回	春学期報告	論文の進捗状況を報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者と相談のうえ決定する

【参考書】
適宜、関連する文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】
報告（PPT 資料の作成および準備）40%とレポート 60%を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
新任のため該当しない

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013 年

【Outline (in English)】
(Course outline) Prepare for dissertation by setting the theme and making the overall outline.
(Learning Objectives) Writing the dissertation.
(Learning activities outside of classroom) Collect, analyze, and writing the doctor dissertation.
(Grading Criteria /Policy) Grades will be based on 1)Presentation 40% and 2) term report 60%.

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

杉野　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文の分析および論文を執筆する。

【到達目標】
論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回ゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去の進捗状況を報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究方針の確認	設定した研究テーマを確認する
第 2 回	データ収集	データの収集方法などを検討する
第 3 回	データ収集	データの収集方法などを検討する
第 4 回	データ収集	データの収集方法などを検討する
第 5 回	分析手法の解説	先行研究に用いられている分析手法の理解を深める
第 6 回	分析手法の解説	先行研究に用いられている分析手法の理解を深める
第 7 回	分析手法の解説	先行研究に用いられている分析手法の理解を深める
第 8 回	分析結果の報告	分析結果を報告し、追加的な分析の必要を検討する
第 9 回	分析結果の報告	分析結果を報告し、追加的な分析の必要を検討する
第 10 回	追加データ収集・分析	追加的なデータ収集およびヒアリング調査の結果を報告
第 11 回	論文の執筆	論文をまとめる
第 12 回	論文の執筆	論文の書き方
第 13 回	論文の執筆	論文の書き方
第 14 回	秋学期報告	論文の進捗状況を報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者と相談のうえ決定する

【参考書】
適宜、関連する文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】
報告（PPT 資料の作成および準備）40%とレポート 60%を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
新任のため該当しない

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013 年

【Outline (in English)】
(Course outline) Data collecting, data analysis and writing the dissertation.
(Learning Objectives) Writing the dissertation.
(Learning activities outside of classroom) Collect, analyze, and writing the doctor dissertation.
(Grading Criteria /Policy) Grades will be based on 1)Presentation 40% and 2) term report 60%.

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

高田　雅之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む博士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】
博士課程 1 年生を対象として、研究設計と計画作成、先行研究の調査、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2 年目の投稿論文作成に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、先行研究論文や関連する文献資料・事例を題材として研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 2 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 3 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 4 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 5 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 6 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 7 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 8 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 9 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 10 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 11 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 12 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 13 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究
第 14 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する先行論文研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット
＜主要研究業績＞
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編集・共著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「湿地の博物誌」（北大出版会，2014）編者
「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会，2014）共著
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.
Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

【実務経験のある教員による授業】
公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for doctoral dissertations including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, find related paper/methodology, collect necessary data and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

高田　雅之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む博士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】
博士課程 1 年生を対象として、研究設計と計画作成、先行研究の調査、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2 年目の投稿論文作成に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、先行研究論文や関連する文献資料・事例を題材として研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 2 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 3 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 4 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 5 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 6 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 7 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 8 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 9 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 10 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 11 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 12 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 13 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 14 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット
＜主要研究業績＞
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編集・共著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「湿地の博物誌」（北大出版会，2014）編者
「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会，2014）共著
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.
Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

【実務経験のある教員による授業】
公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for doctoral dissertations including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, find related paper/methodology, collect necessary data and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

高橋　五月

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は博士課程１年生を対象とした演習科目であり、学生は修士論文を振り返りつつ、博士論文研究で必要な文献調査および現地調査を実行することを目標とする。授業では、文献レビュー、現地調査をもとにした民族誌の記述について発表および意見交換を行い、学生は授業で得たフィードバックをもとに研究計画を立て、博士論文研究を進める。

【到達目標】
学生の到達目標は、1）博士論文のテーマを絞る、2）テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、3）事前調査を含む現地調査を実施する、4）リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、博士論文を作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	文献講読と先行研究レビュー（1）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 3 回	文献講読と先行研究レビュー（2）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 4 回	文献講読と先行研究レビュー（3）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 5 回	文献講読と先行研究レビュー（4）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 6 回	文献講読と先行研究レビュー（5）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 7 回	文献講読と先行研究レビュー（6）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 8 回	文献講読と先行研究レビュー（7）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 9 回	文献講読と先行研究レビュー（8）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 10 回	民族誌の記述（1）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 11 回	民族誌の記述（2）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 12 回	民族誌の記述（3）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 13 回	民族誌の記述（4）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 14 回	博士論文進捗状況報告	博士論文進捗状況報告をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読、文献レビュー作成、現地調査、博士論文の作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％）、プロポーザル（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境人類学、海洋人類学、震災人類学
＜研究テーマ＞　日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学
＜主要研究業績＞　『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、3・11後の世界に生きる）』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5 – 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】
Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for doctorate students to carry out their dissertation research. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing up their dissertations. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their dissertation proposals (70%).

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

高橋　五月

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は博士課程１年生を対象とした演習科目であり、学生は修士論文を振り返りつつ、博士論文研究で必要な文献調査および現地調査を実行することを目標とする。授業では、文献レビュー、現地調査をもとにした民族誌の記述について発表および意見交換を行い、学生は授業で得たフィードバックをもとに研究計画を立て、博士論文研究を進める。

【到達目標】
学生の到達目標は、1）博士論文のテーマを絞る、2）テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、3）事前調査を含む現地調査を実施する、4）リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、博士論文を作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	文献講読と先行研究レビュー（1）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 3 回	文献講読と先行研究レビュー（2）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 4 回	文献講読と先行研究レビュー（3）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 5 回	文献講読と先行研究レビュー（4）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 6 回	文献講読と先行研究レビュー（5）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 7 回	文献講読と先行研究レビュー（6）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 8 回	文献講読と先行研究レビュー（7）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 9 回	文献講読と先行研究レビュー（8）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 10 回	民族誌の記述（1）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 11 回	民族誌の記述（2）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 12 回	民族誌の記述（3）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 13 回	民族誌の記述（4）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第 14 回	博士論文進捗状況報告	博士論文進捗状況報告をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読、文献レビュー作成、現地調査、博士論文の作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％）、プロポーザル（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境人類学、海洋人類学、震災人類学
＜研究テーマ＞　日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学
＜主要研究業績＞　『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、3・11後の世界に生きる）』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5 – 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】
Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for doctorate students to carry out their dissertation research. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing up their dissertations. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their dissertation proposals (70%).

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための演習指導（1 年目）

【到達目標】
博士課程 1 年生を対象とする本演習では、①博士論文執筆のための基礎的なスキルの獲得、および、②研究テーマ設定を目標とします。「研究論文」とはいかなるものかについてよく理解し、執筆に向けたリサーチを開始することが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。論文執筆やリサーチの基礎的なスキルに関しては、紹介する文献などを通じて学びます。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	到達目標としての「博士論文」を概観する
第 2 回	研究の進め方の確認	研究の進め方について基本的な知識を確認する
第 3 回	研究テーマ検討	演習参加者の修士論文などをレビューするとともに問題関心を研究テーマに結びつける取り組みを開始する。
第 4 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 1 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第 1 回）
第 5 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 2 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第 2 回）
第 6 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 3 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第 3 回）
第 7 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 4 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第 4 回）
第 8 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 5 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第 5 回）
第 9 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 6 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第 1 回）
第 10 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 7 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第 2 回）
第 11 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 8 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第 3 回）
第 12 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 9 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第 4 回）
第 13 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 10 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第 5 回）
第 14 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 11 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第 6 回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者と協議のうえ、各回の参考文献を選定します。それらの参考文献（主に先行研究）の内容について熟読のうえ、自らの研究テーマについてよく考慮し、準備することが望まれます。本演習の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。演習における積極性と貢献度 60 %、博士論文執筆準備の進捗状況 40 %

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the first year seminar for authoring a doctoral dissertation.
[Learning Objectives]
This seminar for first-year doctoral students aims at (1) acquiring the basic skills for writing a doctoral dissertation and (2) setting a research theme. Students are expected to have a good understanding of what a "research paper" is and to start research for writing one.
[Learning Activities outside of classroom]
References for each session will be selected in consultation with the seminar participants. It is recommended that you carefully read the texts of these references (mainly prior research), consider your own research theme, and prepare for the course.
The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be evaluated based on the following balance. Proactive participation and contribution in the seminar 60%, progress in preparation for writing a doctoral dissertation 40%.

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための演習指導（1 年目）

【到達目標】
博士課程 1 年生を対象とする本演習では、①博士論文執筆のための基礎的なスキルの獲得、および、②研究テーマ設定を目標とします。「研究論文」とはいかなるものかについてよく理解し、執筆に向けたリサーチを開始することが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。論文執筆やリサーチの基礎的なスキルに関しては、紹介する文献などを通じて学びます。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 1 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第 1 回）
第 2 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 2 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第 2 回）
第 3 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 3 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第 3 回）
第 4 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 4 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第 4 回）
第 5 回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第 5 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第 5 回）
第 6 回	研究手法の検討（第 1 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第 1 回）
第 7 回	研究手法の検討（第 2 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第 2 回）
第 8 回	研究手法の検討（第 3 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第 3 回）
第 9 回	研究手法の検討（第 4 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第 4 回）
第 10 回	研究手法の検討（第 5 回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第 5 回）
第 11 回	研究構想の検討（第 1 回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第 1 回）
第 12 回	研究構想の検討（第 2 回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第 2 回）
第 13 回	研究構想の検討（第 3 回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第 3 回）
第 14 回	研究構想の検討（第 4 回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第 4 回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者と協議のうえ、各回の参考文献を選定します。それらの参考文献（主に先行研究）の内容について熟読のうえ、自らの研究テーマについてよく考慮し、準備することが望まれます。本演習の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。演習における積極性と貢献度 60 %、博士論文執筆準備の進捗状況 40 %

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the first year seminar for authoring a doctoral dissertation.
[Learning Objectives]
This seminar for first-year doctoral students aims at (1) acquiring the basic skills for writing a doctoral dissertation and (2) setting a research theme. Students are expected to have a good understanding of what a "research paper" is and to start research for writing one.
[Learning Activities outside of classroom]
References for each session will be selected in consultation with the seminar participants. It is recommended that you carefully read the texts of these references (mainly prior research), consider your own research theme, and prepare for the course.
The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be evaluated based on the following balance. Proactive participation and contribution in the seminar 60%, progress in preparation for writing a doctoral dissertation 40%.

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

辻　英史

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学研究（ヨーロッパ史）に興味をもつ博士課程の大学院生を対象に、博士論文執筆のための支援をおこなう。

【到達目標】
3 年間で博士論文を執筆すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
第 1 年は入学時の研究テーマをさらに推敲し、博士論文の内容として構築する。春学期では、独創性のある論文のテーマを設定するため、隣接学問領域を含めた幅広く知識を吸収することで問題意識を広げていく。
第 2 年は、史料収集をおこなう。先行研究および問題設定を踏まえて、必要な史料を探索・収集し、さらにそれを整理する方法を学ぶ。春学期ではまず刊行文献を扱うことからはじめる。
第 3 年は論文を執筆し、その進捗状況について報告する。
2021 年度は対面を基本とし、場合によってはオンラインにより授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	各自のテーマと現在の状況の報告。
第 2 回	文献紹介①前半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第 3 回	文献紹介①後半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第 4 回	文献紹介②前半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第 5 回	文献紹介②後半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第 6 回	史料紹介①前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第 7 回	史料紹介①後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第 8 回	史料紹介②前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第 9 回	史料紹介②後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第 10 回	史料紹介③前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第 11 回	史料紹介③後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第 12 回	論文執筆状況報告①前半	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。
第 13 回	論文執筆状況報告①後半	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。
第 14 回	論文執筆状況報告②	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告箇所を準備しつつ論文執筆を進める。

【テキスト（教科書）】
授業中に必要に応じて指示する。

【参考書】
授業中にその都度個別に指示する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（40 %）、レポート（60 %）により評価する。3 年生はレポートに代えて博士論文執筆の進捗状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　歴史学（ドイツ近現代史）
＜研究テーマ＞　市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史
＜主要研究業績＞　『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016 年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版局、2008 年。

【Outline (in English)】
Small group workshop for doctoral candidates to improve methodological knowledge and to advance research plan.
The goals of this course is to write a doctoral dissertation in three years.
Evaluation will be based on participation in discussions (40%) and reports (60%). Third-year doctoral students will be evaluated based on the progress of writing the doctoral dissertation instead of the report.

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

辻　英史

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学研究（ヨーロッパ史）に興味をもつ博士課程の大学院生を対象に、博士論文執筆のための支援をおこなう。

【到達目標】
3 年間で博士論文を執筆すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
第 1 年は入学時の研究テーマをさらに推敲し、博士論文へ拡大深化させていく。秋学期は論文の内容をさらに掘り下げるため、論文で扱う分野に限定して先行研究を徹底的に読み込む作業をおこなう。
第 2 年は、必要な史料を収集する。先行研究および問題設定を踏まえて、必要な史料を探索・収集し、それを整理する方法を学ぶ。必要に応じて統計や文書館史料に取り組む。
第 3 年は論文を執筆し、その進捗状況について報告する。
2021 年度は対面を基本とし、場合によってはオンラインにより授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	各自のテーマと現在の状況の報告。
第 2 回	文献紹介①前半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第 3 回	文献紹介①後半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第 4 回	文献紹介②前半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第 5 回	文献紹介②後半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第 6 回	史料紹介①前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第 7 回	史料紹介①後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第 8 回	史料紹介②前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第 9 回	史料紹介②後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第 10 回	史料紹介③前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第 11 回	史料紹介③後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第 12 回	論文執筆状況報告①前半	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。
第 13 回	論文執筆状況報告①後半	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。
第 14 回	論文執筆状況報告②	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告箇所を準備しつつ論文執筆を進める。

【テキスト（教科書）】
授業中に必要に応じて指示する。

【参考書】
授業中にその都度個別に指示する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（40 %）、レポート（60 %）により評価する。3 年生はレポートに代えて博士論文執筆の進捗状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　歴史学（ドイツ近現代史）
＜研究テーマ＞　市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史
＜主要研究業績＞　『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016 年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版局、2008 年。

【Outline (in English)】
Small group workshop for doctoral candidates to expand their abilities to research and analyze historical documents and to write their dissertations.

The goals of this course is to write a doctoral dissertation in three years. Evaluation will be based on participation in discussions (40%) and reports (60%). Third-year doctoral students will be evaluated based on the progress of writing the doctoral dissertation instead of the report.

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

永野　秀雄

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究テーマ設定の検討、基礎となるリサーチ方法、論文のまとめ方等について，個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】
米国法又は米国の公共政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し，最終的に博士論文を作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
米国法又は米国の公共政策に一定の知識があり、英語論文・法令・判例等をある程度読みこなせる能力をもち、かつ修士号を取得した者を主たる対象とする。これまでに本人が蓄積してきた知識・能力と，本講義を通じて収集する最新情報に基づいて，米国法又は同国の公共政策を分析・検討する博士論文の作成を目指す。なお、米国法等の分析にとどまらず、わが国との比較検討ができれば優れた博士論文になると考える。
また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	博士論文のテーマ	学生の方の博士論文構想について、意見を聞きます。
2	博士論文レベルのリサーチ（1）	博士論文レベルの先行論文等の検索方法の指導。
3	博士論文レベルのリサーチ（2）	仮の博士論文テーマに関して、WEB上またはデータベース上の先行論文等の検索方法の指導。
4	博士論文レベルのリサーチ（3）	仮の博士論文テーマに関して、文献ベースでの先行論文等の検索方法の指導
5	博士論文の書き方（1）	博士論文レベルの執筆方法の基礎について学ぶ。
6	博士論文の書き方（2）	博士論文レベルの論文に関する理論展開、立証、脚注における引用方式等を学ぶ。
7	博士論文執筆計画の策定	具体的な博士論文の構成と、執筆計画を策定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生と相談し，進め方を決定していく。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
参加３０％、進捗状況７０％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今後も、博士号論文の執筆に関する進捗状況を確認し、学会発表等への推薦等を継続して行っていく。

【学生が準備すべき機器他】
インターネット検索、法令・判例検索、学会発表練習のためのコンピュータ。

【担当教員の専門分野等】
専門領域は、日米比較法（環境法、防衛法、先端技術法など）。現在の研究テーマは、「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」など。近年の論文は、以下のとおり。
「米国国防総省によるサイバーセキュリティ成熟度モデル認証 (CMMC) の導入：現行の NIST SP 800-171 の遵守制度を超えて」CISTEC journal186 号 200 頁以下（2020 年３月）。
「米国におけるセキュリティクリアランス制度の大改革」CISTEC journal185 号 223 頁以下（2020 年１月）。
「米国の重要インフラに関するサイバーセキュリティとセキュリティ・クリアランス法制 (上)」人間環境論集 19 巻１号 13 頁以下（2018 年 12 月）。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
As a research and writing instruction course of the Graduate School of Public Policy and Social Governance, this course provides a basic introduction of the research method and analytical method as the basis for setting the research theme of the doctoral dissertation.
< Learning Objectives >
Students are expected to gain expertise, advanced research methods, and dissertation writing skills in US law or public policy. The goal is for students to finally complete their doctoral dissertation.
< Learning Activities outside of Classroom >
The instructor consults with the students and decides how to proceed with the learning.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contributions (30%) and paper progress (70%).

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

永野　秀雄

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究テーマ設定の検討、基礎となるリサーチ方法、論文のまとめ方等について，個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】
米国法又は米国の公共政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し，最終的に博士論文を作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
米国法又は米国の公共政策に一定の知識があり、英語論文・法令・判例等をある程度読みこなせる能力をもち、かつ修士号を取得した者を主たる対象とする。これまでに本人が蓄積してきた知識・能力と，本講義を通じて収集する最新情報に基づいて，米国法又は同国の公共政策を分析・検討する博士論文の作成を目指す。なお、米国法等の分析にとどまらず、わが国との比較検討ができれば優れた博士論文になると考える。
また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	先行文献の調査	先行文献の調査に関する報告を受け、検証する。
2	学会における発表状況の報告	テーマに関連する学会における発表状況につき、報告を受ける。
3	今後の学会における発表テーマの検討	今年度中に発表可能な論文について、特定の学会における報告可能性を検討する。
4	博士論文の構成に関する検証	これまで行ってきた学会発表論文と博士号論文の章立てとの検討を行う。
5	博士号論文の構成の確定	博士号論文の構成を確定する。
6	博士号論文の本文校正	博士号論文の本文に関する校正を行う。
7	博士号論文のサイテーションに関する校正	博士号論文のサイテーションにつき、米国法の引用方式であるブルーブックに基づく校正を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生と相談し，進め方を決定していく。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
参加３０％、進捗状況７０％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今後も、博士号論文の執筆に関する進捗状況を確認し、学会発表等への推薦等を継続して行っていく。

【学生が準備すべき機器他】
インターネット検索、法令・判例検索、学会発表練習のためのコンピュータ。

【担当教員の専門分野等】
専門領域は、日米比較法（環境法、防衛法、先端技術法など）。現在の研究テーマは、「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」など。最近の論文は、以下のとおり。
「米国国防総省によるサイバーセキュリティ成熟度モデル認証 (CMMC) の導入：現行の NIST SP 800-171 の遵守制度を超えて」CISTEC journal186 号 200 頁以下（2020 年３月）。
「米国におけるセキュリティクリアランス制度の大改革」CISTEC journal185 号 223 頁以下（2020 年１月）。
「米国の重要インフラに関するサイバーセキュリティとセキュリティ・クリアランス法制 (上)」人間環境論集 19 巻１号 13 頁以下（2018 年 12 月）。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
As a research and writing instruction course of the Graduate School of Public Policy and Social Governance, this course provides a basic introduction of the research method and analytical method as the basis for setting the research theme of the doctoral dissertation.
< Learning Objectives >
Students are expected to gain expertise, advanced research methods, and dissertation writing skills in US law or public policy. The goal is for students to finally complete their doctoral dissertation.
< Learning Activities outside of Classroom >
The instructor consults with the students and decides how to proceed with the learning.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contributions (30%) and paper progress (70%).

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

長谷川　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は博士論文の執筆に必要な先行研究について検討を行ないます。参加者は博士論文の構想や論点に関係する先行研究のリストを作成し、先行研究の内容を報告をして下さい。本授業は博士論文で取り上げるテーマの研究史上での位置づけを明確にすることを目指します。

【到達目標】
この授業では、博士論文のテーマの絞り込みを行う上で必要となる先行研究の到達点（論点）や研究方法を理解し、オリジナリティある博士論文のフレームワークを作り上げることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
履修者は博士論文に関係する主要な先行研究の報告を行います。報告内容を踏まえ、博士論文のテーマや研究方法について討議を行ないます。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げて、フィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の方針・進め方
第 2 回	これまでの研究実績の報告	修士論文を中心とする研究実績の報告と討議
第 3 回	研究計画の検討①	履修者による研究計画の発表と討議
第 4 回	研究計画の検討②	研究テーマ・研究方法の確定
第 5 回	フィールド調査の検討	履修者によるフィールド調査計画の発表と討議
第 6 回	博士論文に関係する研究実績の整理	履修者による先行研究リストの発表と討議
第 7 回	先行研究のサーベイ①［国内文献］	博士論文に関係する国内の先行研究の発表と討議
第 8 回	先行研究のサーベイ②［国内文献］	博士論文に関係する国内の先行研究の発表と討議
第 9 回	先行研究のサーベイ③［国内文献］	博士論文に関係する国内の先行研究の発表と討議
第 10 回	先行研究のサーベイ④［国内文献］	博士論文に関係する国内の先行研究の発表と討議
第 11 回	先行研究のサーベイ①［海外文献］	博士論文に関係する海外の先行研究の発表と討議
第 12 回	先行研究のサーベイ②［海外文献］	博士論文に関係する海外の先行研究の発表と討議
第 13 回	先行研究のサーベイ③［海外文献］	博士論文に関係する海外の先行研究の発表と討議
第 14 回	先行研究のサーベイ④［海外文献］	博士論文に関係する海外の先行研究の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修者には博士論文のテーマに関係する主要な先行研究を事前に整理しておくことが求められます。授業で指摘された点を復習し論点の整理を行ないます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
受講者のテーマに応じて授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
報告・討議： 100%

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使用する場合があります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
CSR・企業倫理・ESG 投資
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステイナビリティ
＜主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021 年 9 月 28 日）』2021 年
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020 年 3 月 2 日～12 日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021 年

【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 1 部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this class, we will discuss prior research necessary for writing a doctoral dissertation. Students are expected to prepare a list of previous research related to the theme of the doctoral dissertation and report on the contents of the previous research. This class aims to clarify the position of the doctoral dissertation topic in the history of research.
This class aims to provide students with the basic knowledge of stainability necessary to write a doctoral dissertation.
Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the student's presentation (100%).

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

長谷川　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は博士論文のテーマに関係する国内外の政策動向や企業経営の最新事例について検討を行ないます。履修者は博士論文に関係する政策と企業事例について報告を行い、今後の研究方針や調査方法について討議します。

【到達目標】
経営学分野におけるサステイナビリティに関する専門知識，国内外の研究成果、研究方法，データ解析スキルを体得し，博士論文の執筆に必要な研究のフレームワークを確立することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業では、修士論文の執筆を通じて蓄積してきた知見と国内外の政策や企業事例に基づいて、実証研究とその理論化に関するスキルを身につけるよう指導します。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げて、フィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	授業の方針・進め方
第２回	サステナビリティを巡る政策動向のサーベイ①［国内］	博士論文に関係する国内の政策動向の発表と討議
第３回	サステナビリティを巡る政策動向のサーベイ②［国内］	博士論文に関係する国内の政策動向の発表と討議
第４回	サステナビリティを巡る政策動向のサーベイ③［海外］	博士論文に関係する海外の政策動向の発表と討議
第５回	サステナビリティを巡る政策動向のサーベイ④［海外］	博士論文に関係する海外の政策動向の発表と討議
第６回	サステナビリティを巡る企業事例のサーベイ①［国内］	博士論文に関係する国内企業の事例発表と討議
第７回	サステナビリティを巡る企業事例のサーベイ②［国内］	博士論文に関係する国内企業の事例発表と討議
第８回	サステナビリティを巡る企業事例のサーベイ③［海外］	博士論文に関係する外国企業の事例発表と討議
第９回	サステナビリティを巡る企業事例のサーベイ④［海外］	博士論文に関係する外国企業の事例発表と討議
第10回	実証調査の検討①	実施調査の目的と方法論の検討
第11回	実証調査の検討②	実施調査の目的と方法論の確定
第12回	査読論文の内容検討①	博士論文執筆の前提条件となる査読論文の報告と討議
第13回	査読論文の内容検討②	博士論文執筆の前提条件となる査読論文の報告と討議
第14回	博士論文中間構想の発表	博士論文の構成（章立てと方向性）についての発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は博士論文の執筆に必要な最新研究を事前に整理しておくことが求められます。授業で指摘された点を復習し論点の整理を行ないます。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
受講者のテーマに応じて授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
報告・討議： 100 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステイナビリティ
＜主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年９月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年３月２日～12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証１部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this class, we will examine domestic and international policy trends and the latest examples of corporate management related to the theme of the doctoral dissertation.
Students will report on policies and corporate cases related to their doctoral thesis, and discuss future research policies and methods.
This class aims to provide students with the basic knowledge of stainability necessary to write a doctoral dissertation.
Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the student's presentation (100%).

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】
博士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講生の関心の方向性を発表する。
第 2 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 3 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 4 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 5 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 6 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 7 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 8 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 9 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 10 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 11 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 12 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 13 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 14 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導中に適宜指示する。

【参考書】
指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【Outline (in English)】
This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a doctoral thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on participation.

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】
博士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後のロードマップを確認する。
第 2 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 3 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 4 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 5 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 6 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 7 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 8 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 9 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 10 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 11 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 12 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 13 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 14 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導中に適宜指示する。

【参考書】
指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【Outline (in English)】
This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a doctoral thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on participation.

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

松本　倫明

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】
博士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講生の関心の方向性を発表する。
第 2 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 3 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 4 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 5 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 6 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 7 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 8 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 9 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 10 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 11 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 12 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 13 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 14 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導中に適宜指示する。

【参考書】
指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【その他の重要事項】
受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞理論天文学
＜研究テーマ＞星形成、宇宙天気
＜主要研究業績＞
① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123
② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77
③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】
(Course outline) Seminar for doctoral thesis.
(Learning Objectives) This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.
(Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy) Research progress (100%).

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

松本　倫明

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】
博士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後のロードマップを確認する。
第 2 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 3 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 4 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 5 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 6 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 7 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 8 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 9 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 10 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 11 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 12 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 13 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 14 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導中に適宜指示する。

【参考書】
指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【その他の重要事項】
受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞理論天文学
＜研究テーマ＞星形成、宇宙天気
＜主要研究業績＞
① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123
② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77
③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】
(Course outline) Seminar for a doctoral thesis.
(Learning Objectives) This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.
(Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy) Research progress (100%).

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

宮川　路子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科における博士論文指導科目として、博士号取得に向け、研究構想とテーマの選定、基礎となる資料収集、先行研究の調査、論点整理と分析、仮説の設定と検証、論文のまとめ方などについて個々の受講者の状況に応じて指導していく。博士号取得可能な専門性と研究能力を獲得し、論文執筆する能力を養うことを目標とする。

【到達目標】
博士論文を仕上げるための過程で必要とされるスキルを身に着けることが目標である。
研究構想とテーマの選定、基礎となる資料収集、先行研究の調査、論点整理と分析、仮説の設定と検証を行い、論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について話し合う
第 2 回	研究及び文献講読 (1)	研究構想を練り、テーマを選定する。文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 3 回	研究及び文献講読 (2)	研究構想を練り、テーマを選定する。文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 4 回	研究及び文献講読 (3)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 5 回	研究及び文献講読 (4)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 6 回	研究及び文献講読 (5)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 7 回	研究及び文献講読 (6)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 8 回	研究及び文献講読 (7)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 9 回	研究及び文献講読 (8)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 10 回	研究及び文献講読 (9)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 11 回	研究及び文献講読 (10)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 12 回	研究及び文献講読 (11)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 13 回	研究及び文献講読（12）	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 14 回	研究及び文献講読 (13)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマについて調査、研究を進める。報告のためにレジュメ、資料等を作成する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
随時紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点 10 %、発表 10 %、研究内容 80 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を反映させながらニーズに応じて対応します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
公衆衛生学、産業保健、分子整合栄養医学、統合医療、統計学
＜研究テーマ＞栄養と健康、就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞ Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)
The European Journal of Public Health　2012 年
ビタミン D の健康効果　人間環境論集 19 巻号 79-101
日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか　人間環境論集　20 巻 1 号 1-17
https://eiyouryohou.com/

【Outline (in English)】
As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.
The goal for students is to acquire expertise and research skills that will enable them to obtain a doctoral degree and to develop the ability to write a dissertation.
Learning Objectives
The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.
Students will write their dissertation by selecting a research concept and topic, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and formulating and testing a hypothesis.
Learning activities outside of classroom
Students will conduct research on their research topic. Students will prepare resumes, materials, etc. for their reports.
Grading Policy
Evaluation will be made on the basis of 10% of normal score, 10% of presentation, and 80% of research content.

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

宮川　路子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科における博士論文指導科目として、博士号取得に向け、研究構想とテーマの選定、基礎となる資料収集、先行研究の調査、論点整理と分析、仮説の設定と検証、論文のまとめ方などについて個々の受講者の状況に応じて指導していく。博士号取得可能な専門性と研究能力を獲得し、論文執筆する能力を養うことを目標とする。

【到達目標】
博士論文を仕上げるための過程で必要とされるスキルを身に着けることが目標である。
研究構想とテーマの選定、基礎となる資料収集、先行研究の調査、論点整理と分析、仮説の設定と検証を行い、論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。
講義の方法は対面で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	研究及び文献購読（14）	文献収集し、先行研究を調査、検討する。
第 2 回	研究及び文献購読（15）	文献収集し、先行研究を調査、検討する。
第 3 回	研究及び文献購読（16）	文献収集し、先行研究を調査、検討する。
第 4 回	研究テーマの選定	先行研究の調査をふまえて研究テーマを選定する
第 5 回	研究テーマの選定	先行研究の調査をふまえて研究テーマを選定する
第 6 回	研究テーマの選定	先行研究の調査をふまえて研究テーマを選定する
第 7 回	論文構想について	論文構想を練る
第 8 回	論文構想について	論文構想を練る
第 9 回	論点整理	論文の論点を整理し、課題を設定する
第 10 回	論点整理	論文の論点を整理し、課題を設定する
第 11 回	研究中間検討	これまでの進捗状況を振り返り、まとめる
第 12 回	研究中間検討	先行研究との照らし合わせを行い、テーマ、論の展開などについて検討を行う
第 13 回	調査について	実施する調査についての検討を行う
第 14 回	1 年のまとめ	先行研究の調査と検討 論文構想と執筆法 論点整理と課題の設定 分析・解析法とその選定 研究結果等の検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者各人の研究テーマについて研究を進める。報告担当の授業時のためにレジュメ、資料等を作成する。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
随時紹介する

【成績評価の方法と基準】
自身の研究の進捗状況（報告内容）と質疑応答などの平常点：３０％
論文執筆状況：７０％

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見を聞きながら柔軟に対応していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【担当教員の専門分野等】
公衆衛生学、産業保健　、分子整合栄養医学、統合医療、統計学

【Outline (in English)】
As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.
Learning Objectives
The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.
Students will write their dissertation by selecting a research concept and theme, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and setting and testing hypotheses.
Learninge activities outside of classroom
Each student will conduct research on his/her own research theme. Students will prepare resumes, materials, etc. for the class to which they are assigned.
Grading Policy
Progress of research (content of report) and normal points such as questions and answers: 30%.
Paper writing: 70%.

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

湯澤　規子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は博士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】
学生は博士論文を作成するために、次の３つを目標にします。
①研究の核心となる「問い」を明確にする。
②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
③実証研究の実施と報告。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	参加者の「問い」を報告し、議論する。
第 2 回	研究を進めるにあたって	博士論文作成に向けてのスキルと、キャリア形成について情報を共有し、議論する。
第 3 回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（１）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第１回）
第 4 回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（２）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第２回）
第 5 回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（３）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第３回）
第 6 回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（４）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第４回）
第 7 回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（５）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第５回）
第 8 回	研究論文作成に向けて（１）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第１回）
第 9 回	研究論文作成に向けて（２）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第２回）
第 10 回	研究論文作成に向けて（３）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第３回）
第 11 回	研究論文作成に向けて（４）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第４回）
第 12 回	研究論文作成に向けて（５）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第５回）
第 13 回	研究論文作成に向けて（６）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第６回）
第 14 回	研究論文作成に向けて（７）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第７回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。学内外の研究会への積極的な参加をすすめます。準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習における出席と報告内容（60 %）、研究の準備状況（40 %）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『7 袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019 年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018 年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009 年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18 年、104-113 頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016 年、57-72 頁

【Outline (in English)】
◆ Course outline
Students will learn analytical and thesis writing techniques for preparing doctoral dissertations and research papers.
◆ Learning Objectives
Students will have the following three goals for their doctoral dissertation
(1) Clarify the "question" that is the core of the research.
(2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
(3) Conduct and report on empirical research.
◆ Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to have active access to articles, literature, and materials, to collect, organize, and peruse them independently, and to become aware of their originality. Students are encouraged to actively participate in research groups both on and off campus. Standard preparation and review time is 2 hours each.
◆ Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on attendance and reported content in the exercises (60%) and research preparation (40%).

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

湯澤　規子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は博士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】
学生は博士論文を作成するために、次の３つを目標にします。
①研究の核心となる「問い」を洗練にする。
②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
③研究論文を作成し、その公表を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究論文作成に向けて（1）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第１回）
第 2 回	研究論文作成に向けて（2）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第２回）
第 3 回	研究論文作成に向けて（3）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第３回）
第 4 回	研究論文作成に向けて（4）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第４回）
第 5 回	研究論文作成に向けて（5）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第５回）
第 6 回	調査の報告と検討（1）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第１回）
第 7 回	調査の報告と検討（2）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第２回）
第 8 回	調査の報告と検討（3）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第３回）
第 9 回	調査の報告と検討（4）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第４回）
第 10 回	調査の報告と検討（5）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第５回）
第 11 回	調査の報告と検討（6）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第６回）
第 12 回	調査の報告と検討（7）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第７回）
第 13 回	調査の報告と検討（8）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第８回）
第 14 回	調査の報告と検討（9）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第９回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。学内外の研究会への積極的な参加をすすめます。準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習における報告内容（60 %）、研究の準備状況（40 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『７袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019 年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018 年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009 年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18 年、104-113 頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016 年、57-72 頁

【Outline (in English)】
◆ Course outline
Students will learn analytical and thesis writing techniques for preparing doctoral dissertations and research papers.
◆ Learning Objectives
Students will have the following three goals for their doctoral dissertation
(1) Refine the "question" that is the core of the research.
(2) To understand the relevant academic background through literature reading and other means.
(3) Prepare a research paper and aim to publish it.
◆ Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to have active access to articles, literature, and materials, to collect, organize, and peruse them independently, and to become aware of their originality. Students are encouraged to actively participate in research groups both on and off campus. Standard preparation and review time is 2 hours each.
◆ Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on attendance and reported content in the exercises (60%) and research preparation (40%).

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

吉永　明弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境倫理学に関する博士論文の書き方を学ぶ。

【到達目標】
環境倫理学の考え方を理解し、自分なりの問題意識をもって、それを文章化できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面で行う。演習形式で、各自の問題関心を文章の読み上げ形式で発表し、添削する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	倫理学と環境倫理学	倫理学と環境倫理学について概説する。
第 2 回	修士論文の概要紹介	受講者の修士論文の概要を共有する。
第 3 回	博士論文の書き方	博士論文の書き方について解説する。
第 4 回	研究経過の報告（１）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 5 回	研究経過の報告（２）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 6 回	研究経過の報告（３）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 7 回	研究経過の報告（４）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 8 回	研究経過の報告（５）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 9 回	研究経過の報告（６）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 10 回	研究経過の報告（７）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 11 回	研究経過の報告（８）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 12 回	研究経過の報告（９）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 13 回	研究経過の報告（１０）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 14 回	これまでの研究のまとめ	各自の研究の現時点でのまとめをレポートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が必要な文献収集を行ってください。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年
吉永明弘『ブックガイド　環境倫理』勁草書房、2017 年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年

【成績評価の方法と基準】
研究経過の報告（40 %）と最終レポート（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境倫理学
＜研究テーマ＞都市の環境倫理・災後と人新世時代の環境倫理
＜主要研究業績＞
『都市の環境倫理』
『ブックガイド　環境倫理』
『未来の環境倫理学』

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire how to write a doctoral dissertation on environmental ethics. At the end of the course, students are expected to write a paper on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end reports : 60%,in class contribution: 40%.

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

吉永　明弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境倫理学に関する博士論文の書き方を学ぶ。

【到達目標】
環境倫理学の考え方を理解し、自分なりの問題意識をもって、それを文章化できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面で行う。演習形式で、各自の問題関心を文章の読み上げ形式で発表し、添削する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の共有	受講者の問題意識を表明しあう。
第 2 回	博士論文の書き方	博士論文の書き方を復習する。
第 3 回	研究経過の報告（1）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 4 回	研究経過の報告（2）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 5 回	研究経過の報告（3）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 6 回	研究経過の報告（4）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 7 回	研究経過の報告（5）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 8 回	研究経過の報告（6）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 9 回	研究経過の報告（7）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 10 回	研究経過の報告（8）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 11 回	研究経過の報告（9）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 12 回	研究経過の報告（１０）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 13 回	研究経過の報告（１１）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 14 回	これまでの研究のまとめ	各自の研究の現時点でのまとめをレポートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が必要な文献収集を行ってください。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年
吉永明弘『ブックガイド　環境倫理』勁草書房、2017 年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年

【成績評価の方法と基準】
研究経過の報告（40 %）と最終レポート（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境倫理学
＜研究テーマ＞都市の環境倫理・災後と人新世時代の環境倫理
＜主要研究業績＞
『都市の環境倫理』
『ブックガイド　環境倫理』
『未来の環境倫理学』

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire how to write a doctoral dissertation on environmental ethics. At the end of the course, students are expected to write a paper on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end reports : 60%,in class contribution: 40%.

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

横内　恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆を目的として、演習形式で研究指導を行う。

【到達目標】
博士課程１年次の終わりまでに、修士論文を踏まえて博士論文のテーマを設定し、研究の構想を立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
オンライン授業の予定である。受講者による報告、教員と他の受講者からのコメント、ディスカッションを中心にとして演習を進める。教員から課題を出したり、そのための文献を紹介したりすることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	博士論文執筆という目標について理解を深める
第 2 回	研究の進め方の確認	研究の進めるために必要となる知識・スキルを確認する
第 3 回	研究テーマ検討	修士論文を振り返り、博士論文のテーマを検討する
第 4 回	研究テーマ検討	修士論文を振り返り、博士論文のテーマを検討する
第 5 回	研究テーマ検討	修士論文を振り返り、博士論文のテーマを検討する
第 6 回	研究テーマ検討	修士論文を振り返り、博士論文のテーマを検討する
第 7 回	研究テーマ検討	修士論文を振り返り、博士論文のテーマを検討する
第 8 回	研究テーマ検討	修士論文を振り返り、博士論文のテーマを検討する
第 9 回	研究テーマ検討	修士論文を振り返り、博士論文のテーマを検討する
第 10 回	研究テーマ検討	修士論文を振り返り、博士論文のテーマを検討する
第 11 回	研究テーマ検討	修士論文を振り返り、博士論文のテーマを検討する
第 12 回	研究テーマ検討	修士論文を振り返り、博士論文のテーマを検討する
第 13 回	研究テーマ検討	修士論文を振り返り、博士論文のテーマを検討する
第 14 回	まとめ	博士論文の研究テーマを設定し、秋学期の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告者は研究報告準備を事前にしっかりと行ってください。そのために必要となる文献等は、受講者の相談を受けながら選定します。準備学習時間・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
総合評価による（目安としては、平常点７０％、研究報告３０％）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境法、公法（憲法・行政法）
＜研究テーマ＞
環境リスクの法的制御、廃棄物処理法制
＜主要研究業績＞
①「順応型リスク制御と比例性：ドイツ遺伝子技術法の閉鎖系規律手続を題材として」大塚直編『環境法研究』7 号（信山社、2017 年）13-45 頁。
②「廃棄物処理法に基づく生活環境影響調査の対象地域に関する一考察 ― 高城町事件と東海村事件を事例として」大阪経大論集 67 巻 3 号（2016 年）113-134 頁。
③「科学的不確実性を伴う環境リスクに対する法的制御の可能性と限界」OUFC ブックレット 8 号「中国の食・健康・環境の現状から導く東アジアの未来」（2016 年）62-74 頁。

【Outline (in English)】
Course outline: The course is designed as a seminar course for PHD students.
Learning Objectives :By the end of the course, students should be able to acquire advanced skills for conducting research.
Learning activities outside of classroom :The standard preparation and review time for this class is two hours each week.
Grading Criteria /Policy :presentation (30%), active participation in discussion (70%).

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

横内　恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆を目的として、演習形式で研究指導を行う。

【到達目標】
博士課程１年次の終わりまでに、修士論文を踏まえて博士論文のテーマを設定し、研究の構想を立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
オンライン授業の予定である。受講者による報告、教員と他の受講者からのコメント、ディスカッションを中心にとして演習を進める。教員から課題を出したり、そのための文献を紹介したりすることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究テーマ設定を確認し、研究構想の立て方について話し合う
第 2 回	研究構想の検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究の構想を立てる
第 3 回	研究構想の検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究の構想を立てる
第 4 回	研究構想の検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究の構想を立てる
第 5 回	研究構想の検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究の構想を立てる
第 6 回	研究構想の検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究の構想を立てる
第 7 回	研究構想の検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究の構想を立てる
第 8 回	研究構想の検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究の構想を立てる
第 9 回	研究構想の検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究の構想を立てる
第 10 回	研究構想の検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究の構想を立てる
第 11 回	研究構想の検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究の構想を立てる
第 12 回	研究構想の検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究の構想を立てる
第 13 回	研究構想の検討	受講者による報告とディスカッションを通して、研究の構想を立てる
第 14 回	まとめ	研究構想を確認し（場合によっては、研究テーマ設定の軌道修正も行い）、今後の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告者は研究報告準備を事前にしっかりと行ってください。そのために必要となる文献等は、受講者の相談を受けながら選定します。準備学習時間・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
総合評価による（目安としては、平常点７０％、研究報告３０％）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境法、公法（憲法・行政法）
＜研究テーマ＞
環境リスクの法的制御、廃棄物処理法制
＜主要研究業績＞
①「順応型リスク制御と比例性：ドイツ遺伝子技術法の閉鎖系規律手続を題材として」大塚直編『環境法研究』7 号（信山社、2017 年）13-45 頁。
②「廃棄物処理法に基づく生活環境影響調査の対象地域に関する一考察 ― 高城町事件と東海村事件を事例として」大阪経大論集 67 巻 3 号（2016 年）113-134 頁。
③「科学的不確実性を伴う環境リスクに対する法的制御の可能性と限界」OUFC ブックレット 8 号「中国の食・健康・環境の現状から導く東アジアの未来」（2016 年）62-74 頁。

【Outline (in English)】
Course outline: The course is designed as a seminar course for PHD students.
Learning Objectives :By the end of the course, students should be able to acquire advanced skills for conducting research.
Learning activities outside of classroom :The standard preparation and review time for this class is two hours each week.
Grading Criteria /Policy :presentation (30%), active participation in discussion (70%).

SES700P2 － 001

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

渡邊　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究活動を遂行し博士論文を執筆するために必要な事項について学ぶ。本科目では、受講者が研究者になるために必要な高度な事柄を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、論文技法と表現法などについて、まずはその基礎的な内容を修得する。

【到達目標】
研究を遂行するための力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、学会発表を行うために必要な事柄について修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第 2 回	テーマの検討（実現性・妥当性などの確認）	課題の発掘とテーマ選定のための検討
第 3 回	テーマの検討（新規性・社会的意義などの確認）	課題の発掘とテーマ選定
第 4 回	先行研究の調査と分析（先行研究の確認）	文献の調査と読み込み
第 5 回	先行研究の調査と分析（論点整理）	文献の調査と読み込み、論点整理
第 6 回	分析・評価手法の検討（選択）	分析手法・技法などの検討
第 7 回	分析・評価手法の検討（確認）	分析手法・技法などの検討と確認
第 8 回	研究の企画と設計・計画（概要設計の確認）	研究の概要設計と計画などの検討
第 9 回	研究の企画と設計・計画（詳細設計の確認）	研究の詳細設計と計画などの検討
第 10 回	研究の企画と設計・計画（計画の再検討）	研究の設計と計画、分析手法・技法、評価手法などの検討
第 11 回	研究と表現（報告資料作成方法の検討）	文章表現、プレゼンテーション法の検討
第 12 回	研究と表現（文章表現の検討）	文章表現、論文記述法の検討
第 13 回	報告とディスカッション（研究遂行状況の報告）	テーマに関する調査・検討内容の報告と討論
第 14 回	報告とディスカッション（研究遂行状況の検討）	テーマに関する調査・検討内容の討論と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ、報告の準備を行う。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
討論参加の充実度 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞ Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a seminar to accomplish research themes for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: decision of research theme, analysis of previous works, derivation of the points at issue, the presentation methods, and other points required. This seminar deals with the basic aspects in preparing doctor's thesis.
（Learning Objectives） At the end of this class, we are expected to have understanding of research execution for each theme and paper completion with writing skills.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2 － 002

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

渡邊　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「サステイナビリティ特殊研究１Ａ」に引き続き、研究活動を遂行し博士論文を執筆するために必要な事項について学ぶ。本科目では、受講者が研究者になるために必要な高度な事柄を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、論文技法と表現法などについて、１Ａに続いてその基礎的内容をさらに修得する。

【到達目標】
研究を遂行するするための力をさらに身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、学会発表を行うために必要な事柄について修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第 2 回	研究テーマ確認（検討）	論点整理と視点の検討、研究テーマの確認
第 3 回	研究テーマ確認（考察）	論点整理と視点の考察、研究テーマの再確認
第 4 回	研究報告と討論（報告）	調査内容の報告と討論
第 5 回	研究報告と討論（考察）	調査内容の報告と検討
第 6 回	研究報告と討論（論点整理）	調査内容の報告と論点の確認
第 7 回	研究報告と討論（主張の検討）	調査内容の報告、主張内容の提示とその検討
第 8 回	研究報告と討論（主張の整理）	調査内容の報告、主張内容の整理と妥当性検討
第 9 回	研究報告と討論（論理性の確認）	調査内容の報告、論理性の確認と検討
第 10 回	研究報告と討論（課題整理）	調査内容の報告、新たな課題の発掘と整理
第 11 回	研究の総合的評価（新規性確認）	報告内容の新規性などの検討
第 12 回	研究の総合的評価（有効性確認）	報告内容の有効性、社会的意義などの検討
第 13 回	論文執筆の手法・技法（論文表現法の検討）	論文執筆法と表現の検討
第 14 回	論文執筆の手法・技法（論文表現法の確認）	論文執筆法と表現の更なる検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
討論参加の充実度 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞ Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a seminar to accomplish research themes for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: decision of research theme, analysis of previous works, planning of investigation, derivation of the points at issue, the presentation methods, and other points required. This seminar is a developed subject from 1A.
（Learning Objectives） At the end of this class, we are expected to have understanding of research execution for each theme and paper completion with writing skills.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2 － 003

サステイナビリティ特殊研究２Ａ

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための演習指導（2 年目）

【到達目標】
博士課程２年生を対象とする本演習では、①博士論文執筆のために必要な調査研究（文献調査およびフィールド調査）の実施、②調査結果に基づく研究テーマ設定やリサーチクエスチョンの再検討、③博士論文の適切なアウトライン作成を目標とします。またあわせて、学術誌等に発表する査読論文を執筆します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。論文執筆やリサーチの基礎的なスキルに関しては、紹介する文献などを通じて学びます。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	到達目標としての「博士論文」を確認すると同時に、必要な調査、査読論文の執筆について学ぶ
第 2 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 1 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 1 回）
第 3 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 2 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 2 回）
第 4 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 3 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 3 回）
第 5 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 4 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 4 回）
第 6 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 5 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 5 回）
第 7 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 6 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 6 回）
第 8 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 7 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 7 回）
第 9 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 8 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 8 回）
第 10 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 9 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 9 回）
第 11 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 10 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 10 回）
第 12 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 11 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 11 回）
第 13 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 12 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 12 回）
第 14 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 13 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 13 回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者と協議のうえ、各回の参考文献を選定します。それらの参考文献（主に先行研究）の内容について熟読のうえ、自らの研究テーマについてよく考慮し、準備することが望まれます。本演習の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。演習における積極性と貢献度 60 %、博士論文執筆準備の進捗状況 40 %

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the second year seminar for authoring a doctoral dissertation.
[Learning Objectives]
The objectives of this seminar for second-year doctoral students are: 1) to conduct research (literature review and field survey) necessary for writing a doctoral dissertation, 2) to set a research theme and review research questions based on the results of the research, and 3) to prepare an appropriate outline for a doctoral dissertation. In addition, students will write a peer-reviewed paper to be published in an academic journal.
[Learning Activities outside of classroom]
References for each session will be selected in consultation with the seminar participants. It is recommended that you carefully read the texts of these references (mainly prior research), consider your own research theme, and prepare for the course.
The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be evaluated based on the following balance. Proactive participation and contribution in the seminar 60%, progress in preparation for writing a doctoral dissertation 40%.

SES700P2 － 004

サステイナビリティ特殊研究２Ｂ

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための演習指導（2 年目）

【到達目標】
博士課程２年生を対象とする本演習では、①博士論文執筆のために必要な調査研究（文献調査およびフィールド調査）の実施、②調査結果に基づく研究テーマ設定やリサーチクエスチョンの再検討、③博士論文の適切なアウトライン作成を目標とします。またあわせて、学術誌等に発表する査読論文を執筆します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。論文執筆やリサーチの基礎的なスキルに関しては、紹介する文献などを通じて学びます。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	到達目標としての「博士論文」を確認すると同時に、必要な調査、査読論文の執筆について確認する
第 2 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 1 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 1 回）
第 3 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 2 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 2 回）
第 4 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 3 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 3 回）
第 5 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 4 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 4 回）
第 6 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 5 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 5 回）
第 7 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 6 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 6 回）
第 8 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 7 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 7 回）
第 9 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 8 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 8 回）
第 10 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 9 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 9 回）
第 11 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 10 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 10 回）
第 12 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 11 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 11 回）
第 13 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 12 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 12 回）
第 14 回	調査研究と論文執筆の進捗報告（第 13 回）	演習参加者による調査研究および査読論文執筆に関する進捗報告と議論を行う（第 13 回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者と協議のうえ、各回の参考文献を選定します。それらの参考文献（主に先行研究）の内容について熟読のうえ、自らの研究テーマについてよく考慮し、準備することが望まれます。本演習の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。演習における積極性と貢献度 60 %、博士論文執筆準備の進捗状況 40 %

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the second year seminar for authoring a doctoral dissertation.
[Learning Objectives]
The objectives of this seminar for second-year doctoral students are: 1) to conduct research (literature review and field survey) necessary for writing a doctoral dissertation, 2) to set a research theme and review research questions based on the results of the research, and 3) to prepare an appropriate outline for a doctoral dissertation. In addition, students will write a peer-reviewed paper to be published in an academic journal.
[Learning Activities outside of classroom]
References for each session will be selected in consultation with the seminar participants. It is recommended that you carefully read the texts of these references (mainly prior research), consider your own research theme, and prepare for the course.
The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be evaluated based on the following balance. Proactive participation and contribution in the seminar 60%, progress in preparation for writing a doctoral dissertation 40%.

SES700P2 － 003

サステイナビリティ特殊研究２Ａ

宮川　路子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマに基づいて文献調査を行い、論文執筆を開始する。また、博士課程中間報告会に向け準備を行う。

【到達目標】
博士論文の完成を目指してより内容を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第 2 回	論文執筆 (1)	論文の執筆を行う。
第 3 回	論文執筆 (2)	論文の執筆を行う。
第 4 回	論文執筆 (3)	論文の執筆を行う。
第 5 回	論文執筆 (4)	論文の執筆を行う。
第 6 回	論文執筆 (5)	論文の執筆を行う。
第 7 回	論文執筆 (6)	論文の執筆を行う。
第 8 回	論文執筆 (7)	論文の執筆を行う。
第 9 回	論文執筆 (8)	論文の執筆を行う。
第 10 回	論文執筆 (9)	論文の執筆を行う。
第 11 回	論文執筆 (10)	論文の執筆を行う。
第 12 回	論文執筆 (11)	論文の執筆を行う。
第 13 回	論文執筆 (12)	論文の執筆を行う。
第 14 回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。
Students should complete the work as instructed before the next seminar.

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点（10 %）、論文の進捗状況（90 %）により行う。

【学生の意見等からの気づき】
お互いにしっかりと連絡を取り、報告を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
公衆衛生学、産業保健、分子整合栄養医学、統合医療、統計学
＜研究テーマ＞栄養と健康、就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞ Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)
The European Journal of Public Health　2012 年
ビタミン D の健康効果　人間環境論集 19 巻号 79-101
日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか　人間環境論集　20 巻 1 号 1-17
https://eiyouryohou.com/

【Outline (in English)】
As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.
The goal for students is to acquire expertise and research skills that will enable them to obtain a doctoral degree and to develop the ability to write a dissertation.
Learning Objectives
The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.
Students will write their dissertation by selecting a research concept and topic, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and formulating and testing a hypothesis.
Learning activities outside of classroom
Students will conduct research on their research topic. Students will prepare resumes, materials, etc. for their reports.
Grading Policy
Evaluation will be made on the basis of 10% of normal score, 10% of presentation, and 80% of research content.

SES700P2 － 004

サステイナビリティ特殊研究２Ｂ

宮川　路子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成に向けて研究を行う

【到達目標】
博士論文の作成に向けて、テーマを定め、文献調査、実地調査などを行い、結果をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの検討	研究テーマについて検討し、定める。
第 2 回	関連文献のレビュー（1）	研究テーマに関する文献の調査を行い、研究内容を検討する。
第 3 回	関連文献のレビュー（2）	研究テーマに関する文献の調査を行い、研究内容を検討する。
第 4 回	関連文献のレビュー（3）	研究テーマに関する文献の調査を行い、研究内容を検討する。
第 5 回	関連文献のレビュー（4）	研究テーマに関する文献の調査を行い、研究内容を検討する。
第 6 回	調査の計画（1）	調査を計画する
第 7 回	調査の計画（2）	調査を計画する
第 8 回	調査の計画（3）	調査を計画する
第 9 回	調査の実施（1）	計画に基づいて調査を行う。
第 10 回	調査の実施（2）	計画に基づいて調査を行う。
第 11 回	調査の実施（3）	計画に基づいて調査を行う。
第 12 回	調査結果を解析する	調査結果について解析を行う。
第 13 回	調査結果の解析、まとめ	調査結果を解析し、まとめる。
第 14 回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
論文の進捗状況（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
お互いにしっかりと連絡を取り合い、報告を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞公衆衛生学、産業保健　、分子整合栄養医学、統合医療、統計学
＜研究テーマ＞働く人のストレス、女性就労問題、心と身体の栄養療法

【Outline (in English)】
As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.
The goal for students is to acquire expertise and research skills that will enable them to obtain a doctoral degree and to develop the ability to write a dissertation.
Learning Objectives
The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.
Students will write their dissertation by selecting a research concept and topic, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and formulating and testing a hypothesis.
Learning activities outside of classroom
Students will conduct research on their research topic. Students will prepare resumes, materials, etc. for their reports.
Grading Policy
Evaluation will be made on the basis of 10% of normal score, 10% of presentation, and 80% of research content.

SES700P2 － 003

サステイナビリティ特殊研究２Ａ

渡邊　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「サステイナビリティ特殊研究１ B」に引き続き、研究活動を遂行し博士論文を執筆するために必要な事項について学ぶ。本科目では、受講者が研究者になるために必要な高度な事柄を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、論文技法と表現法などについて、1B に続いてその発展的な内容を修得する。

【到達目標】
研究を遂行するするための実践力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、さらに学会発表するために必要な事柄について修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究状況報告と討論（リサーチクエッションの確認）	研究動機の確認とその有効性の評価
第 2 回	研究状況広告と討論（研究テーマの検討）	研究テーマの妥当性の評価
第 3 回	研究状況報告と討論（研究概要の検討）	研究内容の新規性の評価
第 4 回	研究状況報告と討論（研究概要の考察）	研究内容の発展性の評価
第 5 回	研究状況報告と討論（情報収集）	情報収集とその読み込み
第 6 回	研究状況報告と討論（情報収集と発展）	情報収集とその活用
第 7 回	研究状況報告と討論（先行研究の検討）	先行研究の概要確認
第 8 回	研究状況報告と討論（先行研究の考察）	先行研究の詳細検討
第 9 回	研究状況報告と討論（先行研究の分析と検討）	先行研究の分析と論点整理
第 10 回	研究状況報告と討論（先行研究の分析と考察）	先行研究の分析と新たな課題の発掘
第 11 回	研究状況報告と討論（調査内容確認と検討）	調査内容確認と研究方針の再検討
第 12 回	研究状況報告と討論（調査内容確認と考察）	調査内容確認と遂行計画の再検討
第 13 回	研究状況報告と討論（データ分析と検討）	情報収集とその分析、解釈の検討
第 14 回	研究状況報告と討論（データ分析と考察）	情報収集とその分析、解釈の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
討論参加の充実度 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞ Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a seminar to accomplish research themes for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: decision of research theme, analysis of previous works, planning of investigation, derivation of the points at issue, the presentation methods, and other points required. This seminar is a developed subject from 1B.
（Learning Objectives） At the end of this class, we are expected to have the practical activity of research execution for each theme and paper completion with writing skills.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2 － 004

サステイナビリティ特殊研究２Ｂ

渡邊　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「サステイナビリティ特殊研究 2A」に引き続き、研究活動を遂行し博士論文を執筆するために必要な事項について学ぶ。本科目では、受講者が研究者になるために必要な高度な事柄を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、論文技法と表現法などについて、2A に続いてその発展的な内容をさらに修得する。

【到達目標】
研究を遂行するするための実践力をさらに身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、さらに学会発表するために必要な事柄について修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究状況報告と討論（情報収集と検討）	収集した情報による現象的考察
第 2 回	研究状況報告と討論（情報収集と考察）	収集した情報による論理的考察
第 3 回	研究状況報告と討論（視点および論点の確認）	論点の再確認と検討
第 4 回	研究状況報告と討論（視点および論点の確認と考察）	論点の再確認と考察
第 5 回	研究状況報告と討論（論理性の確認）	研究内容の論理性の評価とその確認
第 6 回	研究状況報告と討論（論理性の検討）	研究内容の論理性の評価とその再検討
第 7 回	研究状況報告と討論（結論導出と妥当性）	研究の進展から得られる結論の導出と検討
第 8 回	研究状況報告と討論（結論導出と波及性）	研究の進展から得られる結論の導出と考察
第 9 回	研究状況報告と討論（新たな課題の検討）	研究遂行に伴う新たな課題・問題の検討
第 10 回	研究状況報告と討論（新たな課題の考察）	研究遂行に伴う新たな課題・問題の考察
第 11 回	研究状況報告と討論（論文執筆へ向けての検討）	論文の構成と主張の検討
第 12 回	研究状況報告と討論（論文執筆へ向けての考察）	論文の構成と主張の考察
第 13 回	研究状況報告と討論（論文記述と口頭報告のための検討）	論文記述、口頭発表に適した表現の検討
第 14 回	研究状況報告と討論（論文記述と口頭報告のための更なる検討）	論文記述、口頭発表に適した表現の研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
討論参加の充実度 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞ Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a seminar to accomplish research themes for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: decision of research theme, analysis of previous works, planning of investigation, derivation of the points at issue, the presentation methods, and other points required. This seminar is a developed subject from 2A.
（Learning Objectives） At the end of this class, we are expected to have the practical activity of research execution for each theme and paper completion with writing skills.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2 － 005

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

金藤　正直

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、サステイナビリティ特殊研究 1A・1B および 2A・B で作成した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、論文内容を具体的に検討し、また、その検討結果を報告していく。また、その報告内容を参考にしながら、研究報告（学会報告や博士論文の中間報告）、博士論文の作成（学会誌（研究誌）などへの投稿論文も含む）を進めていくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、研究報告と博士論文の作成に行われる高度な研究・調査のために必要な論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、サステイナビリティ特殊研究 1A・1B および 2A・2B で作成した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ヒアリング調査、ケーススタディから明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査について報告するとともに、研究報告や、博士論文の作成までのスケジュールを確認する。
第 2 回～第 6 回	追加的作業の確認	研究報告や、博士論文の作成のために必要となる作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第 7 回～第 14 回	博士論文の構成・内容（原案）の再検討・再調整	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文に反映させ、その内容を再検討し、再調整する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を研究報告や、博士論文の作成に反映させてください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（10 %）
・報告用配布レジュメの内容（10 %）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）
・研究報告、博士論文の内容（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境経営論、地域経営論
＜研究テーマ＞
企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。

【Outline (in English)】
① Course Outline
The purpose of this seminar is to write a doctoral thesis based on the results of previous research.
② Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a doctoral thesis.
③ Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
④ Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion ： 10%
2）Content of the resume ： 10%
3）Content of the presentation ： 30%
4）Content of research report and doctoral thesis ： 50%

SES700P2 － 006

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

金藤　正直

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、サステイナビリティ特殊研究 3A で再調整した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、論文内容を具体的に再検討し、また、その結果を報告する。さらに、その報告内容に基づいて、博士論文の作成を進め、完成することを目的とする。

【到達目標】
本演習では、研究報告や、博士論文の作成に行われる高度な研究・調査のための論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、サステイナビリティ特殊研究 3A で再調整した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、「博士論文に関する報告 ⇒ 内容の作成 ⇒ 作成した内容の加筆修正」というプロセスを繰り返し、同論文を完成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査について報告するとともに、博士論文の作成および完成までのスケジュールを確認する。
第 2 回～第 3 回	博士論文の構成・内容（原案）の再検討	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文に反映させ、その内容を再検討する。
第 4 回	博士論文の構成・内容の決定（決定案）	博士論文の構成を最終調整し、内容を決定する。
第 5 回～第 13 回	博士論文の構成・内容の報告、作成、加筆修正	第 4 回に基づいて、博士論文の構成・内容に関する報告とともに、その報告を参考にしながら内容を作成し、加筆修正を行う。
第 14 回	博士論文の微調整と完成	博士論文の構成・内容を微調整し、同論文を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を研究報告や、博士論文の作成に反映させてください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（10 %）
・報告用配布レジュメの内容（10 %）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（20 %）
・博士論文の内容（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境経営論、地域経営論
＜研究テーマ＞
企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。

【Outline (in English)】
① Course Outline
The purpose of this seminar is to complete a doctoral thesis.
② Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a doctoral thesis.
③ Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
④ Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion ： 10%
2）Content of the resume ： 10%
3）Content of the presentation ： 20%
4）Content of doctoral thesis ： 60%

SES700P2 － 005

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための演習指導（3 年目以降）

【到達目標】
博士課程 3 年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なリサーチを行ない、実際に博士論文を執筆、完成させると同時に的確な研究発表ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文執筆と進捗報告（第 1 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 1 回）
第 2 回	博士論文執筆と進捗報告（第 2 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 2 回）
第 3 回	博士論文執筆と進捗報告（第 3 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 3 回）
第 4 回	博士論文執筆と進捗報告（第 4 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 4 回）
第 5 回	博士論文執筆と進捗報告（第 5 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 5 回）
第 6 回	博士論文執筆と進捗報告（第 6 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 6 回）
第 7 回	博士論文執筆と進捗報告（第 7 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 7 回）
第 8 回	博士論文執筆と進捗報告（第 8 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 8 回）
第 9 回	博士論文執筆と進捗報告（第 9 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 9 回）
第 10 回	博士論文執筆と進捗報告（第 10 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 10 回）
第 11 回	博士論文執筆と進捗報告（第 11 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 11 回）
第 12 回	博士論文執筆と進捗報告（第 12 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 12 回）
第 13 回	博士論文執筆と進捗報告（第 13 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 13 回）
第 14 回	博士論文執筆と進捗報告（第 14 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に中間報告に向けた発表準備）（第 14 回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者との協議を通じて、博士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。本演習の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。博士論文（内容およびプレゼンテーション）70 %、演習における積極性と貢献度 30 %

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the third year seminar for authoring a doctoral dissertation.
[Learning Objectives]
The goal of this seminar for third-year doctoral students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a doctoral dissertation, and give an appropriate research presentation.
[Learning Activities outside of classroom]
The progress of writing the doctoral dissertation will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and follow them. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. We will also aim to make presentations at academic conferences. The standard preparation and review time for this exercise is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be evaluated based on the following balance. Doctoral dissertation (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution in the seminar: 30%.

SES700P2 － 006

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための演習指導（3 年目以降）

【到達目標】
博士課程 3 年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なリサーチを行ない、実際に博士論文を執筆、完成させると同時に的確な研究発表ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文執筆と進捗報告（第 1 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 1 回）
第 2 回	博士論文執筆と進捗報告（第 2 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 2 回）
第 3 回	博士論文執筆と進捗報告（第 3 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 3 回）
第 4 回	博士論文執筆と進捗報告（第 4 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 4 回）
第 5 回	博士論文執筆と進捗報告（第 5 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 5 回）
第 6 回	博士論文執筆と進捗報告（第 6 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 6 回）
第 7 回	博士論文執筆と進捗報告（第 7 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 7 回）
第 8 回	博士論文執筆と進捗報告（第 8 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 8 回）
第 9 回	博士論文執筆と進捗報告（第 9 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 9 回）
第 10 回	博士論文執筆と進捗報告（第 10 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 10 回）
第 11 回	博士論文執筆と進捗報告（第 11 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 11 回）
第 12 回	博士論文執筆と進捗報告（第 12 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 12 回）
第 13 回	博士論文執筆と進捗報告（第 13 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第 13 回）
第 14 回	博士論文執筆と進捗報告（第 14 回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に最終発表に向けた発表準備）（第 14 回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者との協議を通じて、博士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。本演習の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。博士論文（内容およびプレゼンテーション）70 %、演習における積極性と貢献度 30 %

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the third year seminar for authoring a doctoral dissertation.
[Learning Objectives]
The goal of this seminar for third-year doctoral students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a doctoral dissertation, and give an appropriate research presentation.
[Learning Activities outside of classroom]
The progress of writing the doctoral dissertation will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and follow them. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. We will also aim to make presentations at academic conferences. The standard preparation and review time for this exercise is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be evaluated based on the following balance. Doctoral dissertation (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution in the seminar: 30%.

SES700P2 － 005

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】
博士論文の作成に向け、課題を発見し、解決に向けた調査を実施して、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面授業を予定している。
研究の方向性を決め、文献レビュー等を行いながら研究テーマを具体的に定める。そのうえで、文献レビュー等をすすめながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の方向性の検討（1）	研究の方向性について検討を行う。
第 2 回	研究の方向性の検討（2）	研究の方向性について検討を行い決定する。
第 3 回	関連文献のレビュー（1）	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第 4 回	関連文献のレビュー（2）	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第 5 回	研究テーマの検討	研究の方向性についてあらためて検討を行い、研究テーマを具体的に定める。
第 6 回	関連文献のレビュー（3）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 7 回	関連文献のレビュー（4）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 8 回	調査計画の立案（1）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 9 回	調査計画の立案（2）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 10 回	調査結果のまとめ（1）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 11 回	調査結果のまとめ（2）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 12 回	調査計画の立案（3）	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 13 回	調査結果のまとめ（3）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 14 回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む（授業時間は発表や議論が中心となるため）。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業中に紹介

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）

【学生の意見等からの気づき】
応用力や思考力、スキルなどの涵養を心がける。

【Outline (in English)】
We conduct research and discussion for doctoral theses. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on participation.

SES700P2 － 006

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を完成させる。

【到達目標】
博士論文を完成させ、公開審査会に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
毎週土曜日のゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去 1 週間の進捗状況を報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 2 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 3 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 4 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 5 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 6 回	論文執筆	博士論文を提出する。
第 7 回	公開審査会の準備	公開審査会の準備を行う。
第 8 回	公開審査会の準備	公開審査会の準備を行う。
第 9 回	公開審査会の準備	公開審査会の準備を行う。
第 10 回	公開審査会の準備	公開審査会の準備を行う。
第 11 回	公開審査会の準備	公開審査会の準備を行う。
第 12 回	公開審査会の準備	公開審査会の準備を行う。
第 13 回	公開審査会の準備	公開審査会の準備を行う。
第 14 回	公開審査会	公開審査会に臨む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
論文の進捗状況（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
密接に連絡を取り合う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし。

【これまでの博士号取得者】
６名

【Outline (in English)】
Completion of doctoral Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on the dissertation.

SES700P2 － 005

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

宮川　路子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマに基づいて文献調査を行い、論文執筆を開始する。また、博士課程中間報告会に向け準備を行う。

【到達目標】
博士論文の完成を目指してより内容を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。
講義の方法は対面で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第 2 回	論文執筆 (1)	論文の執筆を行う。
第 3 回	論文執筆 (2)	論文の執筆を行う。
第 4 回	論文執筆 (3)	論文の執筆を行う。
第 5 回	論文執筆 (4)	論文の執筆を行う。
第 6 回	論文執筆 (5)	論文の執筆を行う。
第 7 回	論文執筆 (6)	論文の執筆を行う。
第 8 回	論文執筆 (7)	論文の執筆を行う。
第 9 回	論文執筆 (8)	論文の執筆を行う。
第 10 回	論文執筆 (9)	論文の執筆を行う。
第 11 回	論文執筆 (10)	論文の執筆を行う。
第 12 回	論文執筆 (11)	論文の執筆を行う。
第 13 回	論文執筆 (12)	論文の執筆を行う。
第 14 回	中間報告会の準備	論文の執筆を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（10 %）、論文の進捗状況（90 %）

【学生の意見等からの気づき】
お互いにしっかりと連絡を取り、報告を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
公衆衛生学、産業保健、分子整合栄養医学、統合医療、統計学
＜研究テーマ＞栄養と健康、就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞ Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)
The European Journal of Public Health　2012 年
ビタミン D の健康効果　人間環境論集 19 巻号 79-101
日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか　人間環境論集　20 巻 1 号 1-17
https://eiyouryohou.com/

【Outline (in English)】
As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.
The goal for students is to acquire expertise and research skills that will enable them to obtain a doctoral degree and to develop the ability to write a dissertation.
Learning Objectives
The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.
Students will write their dissertation by selecting a research concept and topic, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and formulating and testing a hypothesis.
Learning activities outside of classroom
Students will conduct research on their research topic. Students will prepare resumes, materials, etc. for their reports.
Grading Policy
Evaluation will be made on the basis of 10% of normal score, 10% of presentation, and 80% of research content.

SES700P2 － 006

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

宮川　路子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を完成させる。

【到達目標】
博士論文を完成させ、審査で合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 2 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 3 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 4 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 5 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 6 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 7 回	論文執筆	論文の提出
第 8 回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第 9 回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第 10 回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第 11 回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第 12 回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第 13 回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第 14 回	審査会	審査会で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文執筆を進める。ゼミで報告するためのレジュメを作成する。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
論文の進捗状況による（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野】
公衆衛生学、産業保健、分子整合栄養医学、統合医療、統計学
＜研究テーマ＞栄養と健康、就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞ Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)
The European Journal of Public Health　2012 年
ビタミン D の健康効果　人間環境論集 19 巻号 79-101
日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか　人間環境論集　20 巻 1 号 1-17
https://eiyouryohou.com/

【これまで指導した博士論文】
1 名

【Outline (in English)】
Outline and Learning Objectives: Complete doctoral dissertation.
Learning activities outside of classroom: Proceed with writing the paper.
Prepare a resume to present in the seminar.
Grading policy: Depends on the progress of the paper (100%)

LAW500P2 － 007

環境法基礎 D

永野　秀雄、横内　恵、立松　美也子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生の皆さんは、本授業で、環境問題に関する民事法、行政法、国際法について、その基礎を学ぶことができます。授業は、皆さんが、法律の素人であることを前提にして授業を行います。

【到達目標】
環境法の知識のない学生が、その全体像を把握することが、到達目標である。環境分野で仕事をする上で不可欠な知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
まず、環境法がどのような法律分野から構成されており、環境問題に対して、どのような機能を果たしているのかについて概観する。また、基本的な文献リサーチ方法についても説明する。次に、環境私法について、私人間の環境紛争で、民法に規定された不法行為という考え方がどのように機能するのかを学ぶ。そして、最後に、実際に起こった公害事案をもとにしながら、判例法の妥当性を検証する。
次に、環境行政法について、日本における環境行政法の展開を学んだ後、個別規制法と環境アセスメント、自然保護法及び環境行政訴訟を概観する。
最後に、国際的な環境問題を検討するにあたり必要となる国際法の基本理論を学ぶ。国際社会の基本単位である国家の役割、国際法の特質を概観した後、受講者の関心がある国際環境問題を取り上げながら、国際社会における紛争解決の仕組み、国家責任等について適宜判例を紹介しつつ検討し、国際環境問題への国際法からのアプローチの仕方を習得する。
また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	環境法の概観（1）（永野秀雄）	環境問題と環境法
2	環境法の概観（2）（永野秀雄）	①環境法とは何か、②環境法の構成
3	環境私法（1）（永野秀雄）	①環境私法とは何か、②不法行為の基礎理論
4	環境私法（2）（永野秀雄）	損害賠償請求と差止請求
5	環境私法（3）（永野秀雄）	①環境訴訟における因果関係の立証、②複合汚染と共同不法行為
6	環境私法（4）（永野秀雄）	公害事案に基づく議論
7	環境行政法（1）（横内恵）	日本における環境行政法の展開
8	環境行政法（2）（横内恵）	個別規制法と環境アセスメント
9	環境行政法（3）（横内恵）	自然保護法
10	環境行政法（4）（横内恵）	環境行政訴訟
11	国際環境法（1）（立松美也子）	国際法の基本原則と国際環境問題
12	国際環境法（2）（立松美也子）	国際環境問題における国家責任法とその限界
13	国際環境法（3）（立松美也子）	持続可能な開発と国際環境法の発展
14	国際環境法（4）（立松美也子）	判例研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。プリントを適宜配布する。

【参考書】
北村喜宣『環境法（第５版）』（有斐閣ストゥディア、2020 年）。
黒川哲志・奥田進一編『環境法へのフロンティア』（成文堂、2015 年）。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦他編著『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020 年）。

【成績評価の方法と基準】
配分：授業内での発表、議論への参加・貢献度 30 %、期末レポート 70 %。
評価基準： 3 人の講師が、授業中に、それぞれ 2 つのテーマを提示する。この合計 6 つのテーマの中からレポートを 1 つ作成し、担当講師に提出する。選択したテーマにつき、判例や法律論文等を最低 5 つ以上参照して、レポートを書くこと。論点、構成、内容の理解度から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン。

【担当教員の専門分野等】
永野　秀雄
＜専門領域＞日米比較法 (特に、環境法、労働法、先端技術法)
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞ (環境関連のもの)
①単著『電磁波訴訟の判例と理論―米国の現状と日本の展望』(三和 書籍、2008 年)。
②「気候変動と企業統治」鈴木幸毅・所伸之編著『環境経営学の扉 ―社会科学からのアプローチ』(文眞堂、2008 年) 171-184 頁。
③「米国における高レベル放射性廃棄物の処分と問題点」人間環境 論集 6 巻 2 号 (2006 年)1-21 頁。
横内　恵
＜専門領域＞環境法、公法（憲法・行政法）
＜研究テーマ＞環境リスクの法的制御、廃棄物処理法制
＜主要研究業績＞
①「順応型リスク制御と比例性：ドイツ遺伝子技術法の閉鎖系規律手続を題材として」大塚直編『環境法研究』7 号（信山社、2017 年）13-45 頁。
②「廃棄物処理法に基づく生活環境影響調査の対象地域に関する一考察 ― 高城町事件と東海村事件を事例として」大阪経大論集 67 巻 3 号（2016 年）113-134 頁。
③「科学的不確実性を伴う環境リスクに対する法的制御の可能性と限界」OUFC ブックレット 8 号「中国の食・健康・環境の現状から導く東アジアの未来」（2016 年）62-74 頁。
立松美也子
〈専門領域〉国際法 (国際人権法、条約法、国際環境法)
〈研究テーマ〉　国際法の履行確保、国内実施、難民、出入国管理
〈主要研究業績〉
(共著)　Chapter8 人権を国際的に保護する、Chapter10 国境を越えるモノ、サービス、資本、Chapter11　地球規模の環境問題に取り組む 加藤信行、植木俊哉、森川幸一、真山全、酒井啓亘、立松美也子編『ビジュアルテキスト国際法第 2 版』（有斐閣、　2020 年）。
単著
「難民をめぐる国際制度： UNHCR と難民条約」国際法外交雑誌 117 巻 3 号 (2018 年)。
「環境問題と少数者を文化を享受する権利－ポマ対ペルー事件 (自由権規約委員会 2009 年 3 月 27 日見解)」国際人権 21 号 122 － 124 頁、(2010 年)。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
Students will learn the basics of civil, administrative, and international law on environmental issues in this class. The class will be taught on the assumption that you are a layman in the law.
< Learning Objectives >
The goal of this course is for students who have no knowledge of environmental law to grasp the whole picture. Students are expected to acquire essential knowledge for working in the environmental field.
< Learning Activities outside of Classroom >
Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, three instructors will each present two themes during these classes. You can take one of the themes, referring to five or more legal cases or papers, write a report on the theme, and submit it to the instructor in charge. Your report will be evaluated based on issues, structure, and understanding of the content.

SES500P2 － 008

地球環境学基礎 D

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせない。本講義では気候変動を中心にしつつ、オゾン層保護、酸性雨など環境問題や、エネルギーや淡水などの資源問題について、発生メカニズムと対処に関する科学の基礎を修得し、地球規模や国境を超える環境問題に対処する基礎力を養うことを目指す。

【到達目標】
以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。
人口増加と減少パターンの発生理由。
オゾンホールが南極上空にできる理由。
温室効果のメカニズムと気候変動の科学の不確実性。
日本では酸性雨の生態影響が顕在化していない理由。
生物多様性を保全しなければならない理由。
資源のもつ意味。
淡水、土壌、金属などの資源のもつ役割。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントは Hoppii にアップする。なお講義の順番は状況によって変更になることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	地球環境問題をとりまく諸状況
第 2 回	人口	人口が増加する要因、都市の人口問題
第 3 回	オゾン層	オゾン層が破壊されるメカニズム、オゾン層破壊物質、ウイーン条約、モントリオール議定書、国内対策
第 4 回	気候変動①	地球温暖化のメカニズム、将来予測
第 5 回	気候変動②	ＩＰＣＣ、国際社会、国際交渉、パリ協定
第 6 回	気候変動③	緩和策と適応策
第 7 回	越境する大気汚染	酸性雨、光化学オキシダント、PM2.5
第 8 回	生物多様性	生物多様性保全の意義、生態系サービス、遺伝資源
第 9 回	資源とは何か	「資源」の持つ意味、「資源の呪い」、資源に関する楽観論と悲観論
第 10 回	水資源	世界の水資源、国際流域の課題
第 11 回	土壌資源、窒素とリン	土壌の成り立ち、機能、窒素とリンの循環、リン資源
第 12 回	エネルギー資源①	化石燃料
第 13 回	エネルギー資源②	原子力、新エネルギー
第 14 回	金属資源	ベースメタル、レアメタル、リサイクル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文科系のための環境科学入門』　有斐閣

【参考書】
講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
最終回に行う試験 (100%) またはレポート（100 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

【学生が準備すべき機器他】
とくにない。

【担当教員の専門分野等】
環境システム科学、国際環境協力

【担当教員が関連した書籍】
1. Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford
2. Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London
3. Ryo Fujikura (Guest Editor) (2011) Environmental Policy in Japan: From Pollution Control to Sustainable Environmental Management, Special Issue, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5
4. Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development – Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

【Outline (in English)】
Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource problems such as energy and freshwater. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on final exam (100%) or report (100%)

ARS500P2 － 009

国際協力論 D

武貞　稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】
一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1) 現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2) 国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3) 誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。
　報告対象とする文献については、2022 年度秋学期開始前に学習支援システム（Hoppii）を通じて通知／配布予定。
　なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウィルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景ー途上国の貧困と先進国との格差ーについて概観する。
第 2 回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後 1970 年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第 3 回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980 年代、90 年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第 4 回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000 年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第 5 回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第 6 回	「開発」とは何か:開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第 7 回	アフリカ	国際協力における近年の「大きな課題（問題）」であるアフリカについて、何が「問題」となっているのか、その由来や対応を含めて概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
斎藤文彦『国際開発論』（日本評論社）、下村恭民他『国際協力』（有斐閣）、外務省『日本の経済協力』（ODA 白書）を基本書とします。
他は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末レポート (50%)、各回の担当報告の内容 (30%)、授業やディスカッションへの貢献 (20%) を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】
過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】
担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.
[Learning Objectives]
Completing the course, students are expected;
1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.
{Learning Activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

MAN500P2 － 013

環境経営論 D

金藤　正直

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、経営学および会計学の視点から、企業や地域における環境経営やサステナビリティ経営の仕組みを明らかにしつつ、その仕組みと国内外における先進的な企業の取組事例も考慮に入れながら、将来企業や地域において、有効的かつ効率的に実施すべき環境経営やサステナビリティ経営の方法を理論的に検討していくことを目的とする。

【到達目標】
本講義では、国内外で刊行されたマルチステークホルダーの視点からの環境経営またはサステナビリティ経営に関する文献（理論研究の論文）を多面的に分析・検討し、その結果を論理的に整理し、報告していくための能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義は対面で実施する（第 1 回と第 14 回はオンラインでの実施を予定している。これら以外の回は、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。第 1 回は、環境経営やサステナビリティ経営に関する研究論文とそれに関係する著書や報告書を紹介しつつ、講義内で履修者に分析し、検討してもらう内容やポイントについて講義を行う。第 2 回以降、履修者には、研究テーマに関係する、あるいは関心のある研究論文を 1 つ選択してもらい、その内容を企業や地域の取組事例や関連研究などを加味しながら多面的に分析・検討し、その結果を報告してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義全体の流れとその内容、講義で使用する文献の紹介、その文献を分析・検討していくための方法やポイントを説明する。
第 2 回	環境・社会問題に対応する組織①	環境・社会問題に対応する組織のあり方に触れた論文（例えば、プラハラードの論文）の内容を考察し、報告する。
第 3 回	環境・社会問題に対応する組織②	第 2 回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第 4 回	環境・社会問題解決のための経営戦略①	企業が環境重視から持続可能性に展開していくために検討し、策定すべき経営戦略に関する研究論文（例えば、ハートやアンルーの論文）の内容を考察し、報告する。
第 5 回	環境・社会問題解決のための経営戦略②	第 4 回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第 6 回	環境・社会問題解決のための新たな経営戦略①	企業が経済的価値と環境・社会的価値を同時実現していくための新たな経営戦略に関する研究論文（例えば、クリステンセンやポーター＝クラマーの論文）の内容を考察し、報告する。
第 7 回	環境・社会問題解決のための新たな経営戦略②	第 6 回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第 8 回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメント①	第 2 回から第 7 回で取り上げられた経営戦略を実現していくための組織編成・マネジメント（サプライチェーン、コレクティブ・インパクト、コラボレーション）に関する研究論文（例えば、カニア＝クラマー、アドラー、リー、ベロニカ＝デニスの論文）の内容を整理し、報告する。
第 9 回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメント②	第 8 回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第 10 回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメントの先進事例①	第 8 回と第 9 回で取りあげられた組織編成・マネジメントに関するガイドや先進事例（例えば、国連グローバルコンパクトやパタゴニアの取組み）の内容を整理し、その結果を報告する。
第 11 回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメントの先進事例②	第 10 回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域における取組事例を参考にしながら検討し、報告する。
第 12 回	戦略策定や組織編成・マネジメントを支援する会計システム①	組織（第 2 回、第 3 回）の戦略策定（第 4 回～第 7 回）と組織編成・マネジメント（第 8 回～第 11 回）を支援する会計システムに関する論文（例えば、キャプラン、エクセル、セラフェイムの論文）の内容を整理し、報告する。
第 13 回	戦略策定や組織編成・マネジメントを支援する会計システム②	第 12 回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域における取組事例を参考にしながら検討し、報告する。
第 14 回	講義のまとめ	第 13 回までの検討内容を整理しつつ、その内容をもとに新たな方法論も検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容の理解および文献の分析・検討にあたっては、少なくとも次の 3 点について行ってください。
・経営学および会計学の基礎的知識を事前に学習し、身につけること
・毎回の講義内容を復習すること
・本講義に関連する新聞・雑誌記事やホームページなどの内容をチェックすること本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・講義では、テキストは使用せず、テーマごとに配布した資料を使用します。
・報告では、配布資料の内容を整理したレジュメの作成および配布をお願いします。

【参考書】
講義中に配布資料や報告内容に関連する著書・論文・雑誌・URL などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・報告用配布レジュメの内容（20 %）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）
・討論への参加（発言内容）（30 %）
・レポートの内容（報告内容に基づくレポート）（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
・講義はワードあるいはパワーポイントを用いて進めていきますので、報告およびそのレジュメもワードか、パワーポイントを使用してください。
・質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境経営論、地域経営論
＜研究テーマ＞
企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。

【Outline (in English)】
① Course Outline
The purpose of this lecture is to learn the management method for solving environmental and social issues in companies and regions.
② Learning Objectives
Thought this lecture, graduate students are able to logically understand a new sustainability management and accounting system in companies and regions.
③ Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.
④ Grading Criteria /Policy
The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

1）Content of the resume ： 20%
2）Content of the presentation ： 30%
3）Participation in the discussion ： 30%
4）Report based on the presentation ： 20%

LAW500P2 － 014

環境行政法 D

横内　恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境法の制度や理論の発展の歴史を踏まえて、環境法の基本的な考え方や仕組みを解説します。その上で、例えば環境アセスメント、廃棄物処理法、環境リスクといった個別分野につき、判例を検討対象に含めて、行政法理論との関係で理解を深めます。その際には、関連法令や判決文を実際に参照しながら、基礎的な調査能力を習得することをも目指します。

【到達目標】
本講義は、様々な環境問題に対する事前の防止や事後的な解決において法の果たす役割について、理論的かつ総合的に理解すること、また、個別の環境法制の検討を通して、環境法政策の実務的な課題をとらえるとともに、それをめぐる法的論点の理解を深めることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
受講者が少数の場合は、演習形式を中心として授業を実施する。
オンラインでの開講を予定している。ZOOM 等を用いてリアルタイムで開講する回と、オンデマンド形式で開講する回の別については、授業開始日に学習支援システムにおいて提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、イントロダクション	スライドやレジュメに沿って解説します。
第 2 回	環境法の基本的な考え方・手法	教科書やレジュメに沿って解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 3 回	公害対策基本法と環境基本法	教科書やレジュメに沿って解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 4 回	個別規制法	教科書やレジュメに沿って解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 5 回	環境アセスメント（1）	教科書やレジュメに沿ってアセスの法制度を解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 6 回	環境アセスメント（2）	レジュメに沿って我が国のアセスの課題について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 7 回	環境アセスメント（3）	レジュメや資料に沿ってアセスをめぐる訴訟について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 8 回	廃棄物処理法（1）	教科書やレジュメに沿ってわが国の廃棄物処理法制について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 9 回	廃棄物処理法（2）	教科書やレジュメに沿って、とりわけ産業廃棄物処理の法制度について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 10 回	廃棄物処理法（3）	教科書やレジュメに沿って、産業廃棄物処理施設設置手続の諸問題について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 11 回	廃棄物処理法（4）	レジュメや資料に沿って、廃棄物処理施設をめぐるの訴訟について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 12 回	環境リスク制御法制（1）	レジュメや資料に沿って、環境リスクの法的対処に関する理論状況を解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 13 回	環境リスク制御法制（2）	レジュメや資料に沿って、ドイツにおける環境リスク対処を解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。
第 14 回	環境リスク制御法制（3）	レジュメや資料に沿って、とりわけ遺伝子技術規制について解説し、質疑応答などを通して理解を深めて頂きます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習については、講義中に指示します。授業後に、レジュメやノートをしっかりと読んで復習してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
北村喜宣『環境法〔第 4 版〕』（弘文堂、2017 年）。

【参考書】
大塚直『環境法〔第 3 版〕』（有斐閣、2010 年）。その他、必要に応じて講義中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容（60%）、討論参加の積極性（30%）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境法、公法（憲法・行政法）
＜研究テーマ＞
環境リスクの法的制御、廃棄物処理法制
＜主要研究業績＞
①「順応型リスク制御と比例性：ドイツ遺伝子技術法の閉鎖系規律手続を題材として」大塚直編『環境法研究』7 号（信山社、2017 年）13-45 頁。
②「廃棄物処理法に基づく生活環境影響調査の対象地域に関する一考察 ― 高城町事件と東海村事件を事例として」大阪経大論集 67 巻 3 号（2016 年）113-134 頁。
③「科学的不確実性を伴う環境リスクに対する法的制御の可能性と限界」OUFC ブックレット 8 号「中国の食・健康・環境の現状から導く東アジアの未来」（2016 年）62-74 頁。

【Outline (in English)】
Course outline : The programme gives special knowledge and skills within several environmental fields.
Learning Objectives :By the end of the course, students should be able to develop an understanding of the legal issues surrounding the practical challenges of environmental law and policy.
Learning activities outside of classroom :The standard preparation and review time for this class is two hours each week.
Grading Criteria /Policy :presentation (60%), active participation in discussion (40%).

LAW500P2 － 015

環境私法 D

永野　秀雄

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、これまで環境法を学んだことのない大学院生のために、環境私法を概説することを目的としている。この環境私法では、環境被害を受けた人々が、国や企業などに損害賠償を求めたり、その環境被害のもととなる汚染原因等を排出しないように求めたりする訴訟を扱う。具体的には、民法に規定されている不法行為という考え方が、大気汚染訴訟、水質汚濁訴訟といった様々な形の訴訟の中で、どのように機能するかを学んでいく。

【到達目標】
この授業の到達目標は、受講生の所属する組織または生活する地域が、環境にかかわる紛争に直面したときに、どのような法的なルールが適用されるのかを理解することにある。言い換えれば、受講生が、法の専門家（弁護士や企業法務部等）と協同してこのような問題に対処しえる知的枠組みを獲得することを目指している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
まず、環境私法で最も基本となる民法に規定された「不法行為」という考え方を学ぶ。そして、この不法行為に関する理論が、環境紛争にどのように適用されるのかを概説する。
これに続いて、具体的な環境汚染原因ごとに、不法行為を中心とする法理論が適用されるのかについて解説する。大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、日照、景観といった問題ごとに個別のルールが形成されているので、これを学んでいくことにする。
最後に、総合的な問題を扱う環境監査において、どのような法的規制が必要であり、今後どのように運営されるべきかを検討する。
なお、本授業は、オンライン授業により実施される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	不法行為の基礎（１）	①環境法とは何か、②環境紛争と環境私法
2	不法行為の基礎（２）	不法行為法とは何か
3	不法行為の基礎（３）	共同不法行為とは何か
4	不法行為の基礎（４）	複合汚染と共同不法行為
5	公害紛争処理制度等	①公害紛争処理制度、②協定による紛争解決
6	大気汚染訴訟の基礎	①共同不法行為理論の適用、②大気汚染訴訟の難しさ
7	大気汚染訴訟の展開	大気汚染訴訟の展開と現状
8	水質汚濁訴訟	水質汚濁訴訟の分析
9	悪臭訴訟、騒音・振動訴訟	①悪臭訴訟、②騒音・振動訴訟
10	日照・通風・風害訴訟	日照・通風・風害訴訟の分析
11	眺望訴訟、景観訴訟	①眺望訴訟、②景観訴訟
12	風評被害訴訟	風評被害訴訟の分析
13	嫌悪施設訴訟（１）	原子力関連の民事訴訟
14	嫌悪施設訴訟（２）	廃棄物処理場関連の民事訴訟

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を Hoppi から配布します。

【参考書】
大塚直・北村喜宣『環境法判例百選（第 3 版）』（有斐閣、2018 年）。

【成績評価の方法と基準】
授業内での発表、議論への参加・貢献度 30%、期末レポート 70 %。期末レポートは、環境私法のテーマの中から 1 つを取り上げ、法律論文等を 3 つ以上参照して、その問題に関するレポート（A4 で 10 頁程度）を作成すること。

【学生の意見等からの気づき】
今後も、わかりやすい解説に努めたいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日米比較法（特に、環境法、先端技術法）
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞（近年のもの）
「米国国防総省によるサイバーセキュリティ成熟度モデル認証 (CMMC) の導入：現行の NIST SP 800-171 の遵守制度を超えて」CISTEC journal186 号 200 頁以下（2020 年３月）。
「米国におけるセキュリティクリアランス制度の大改革」CISTEC journal185 号 223 頁以下（2020 年１月）。
「米国の重要インフラに関するサイバーセキュリティとセキュリティ・クリアランス法制 (上)」人間環境論集 19 巻１号 13 頁以下（2018 年 12 月）。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
This course provides a basic introduction of environmental civil litigation for graduate students. The course focuses on lawsuits in which people suffering from environmental damage sued the government of Japan and companies for damages and for the injunction of the pollutions and nuisances. Specifically, students will learn how the idea of torts in the Civil Code works in various forms of litigation, such as air pollution and water pollution cases.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to understand which legal rules should apply when a student's organization or area of residence faces an environmental conflict. In other words, this course will help students work with lawyers and other legal professionals to solve environmental problems.
< Learning Activities outside of Classroom >
Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, you can take one of the themes of private environmental law, referring to three or more legal papers, and write a report on the theme (about 10 pages in A4).

ENV500P2 － 016

自然環境共生研究 D

高田　雅之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
持続可能な社会に向けて、自然環境と人間活動との調和・共生を実現するためには、自然環境を取り巻く問題の本質を探り、科学的・社会的な視点から、社会の各主体によって相乗的で多面的に取り組まれることが望まれます。本講義では、生態系とそれをめぐる諸課題を理解し、それらに対してこれまで取り組まれてきた様々な手立てと、今後の共生実現に向けた政策の可能性について考究することをテーマとします。

【到達目標】
学生が以下の 3 点について知識と理解を深め、その要点及び自らの考えを説明し、さらに学術的視点で自らの研究に応用する力を身に付けることを目標とします。
①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
②人間による影響を減じ、機能と恩恵を維持するために取り組まれてきた政策とその意義
③国際的視点に立って自然環境との共生に向けて取り組まれている諸政策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
「主な生態系の理解と保全上の難題」、「日本における自然環境保全のための基盤的な諸施策」、「生物多様性保全・自然再生・里山保全などの近年の重要課題」、「諸外国における多面的な取り組み事例」、「生物多様性と経済」などについて学びます。国内外の実例を交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね、持続可能な自然環境との共生に向けた自らの意見を養うことを通して到達目標に向かいます。
授業は対面を基本とし、必要に応じてオンラインを併用して行います。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、自然環境保全を取り巻く動向、生物多様性に関わる概念の進化
第 2 回	生物多様性のホットスポットと生物の進化	生物多様性のホットスポット、生物の大絶滅・大進化の歴史、哺乳類と人間の登場
第 3 回	生態系の理解 1 ：森林・草原	森林生態系の構造と機能、半資源草原・高山草原の生態系
第 4 回	生態系の理解 2 ：湿原・干潟	湧水湿地と泥炭地湿原・干潟生態系の特徴
第 5 回	貴重種の保護	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第 6 回	外来種問題	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第 7 回	日本の自然環境保全施策 1	自然公園と自然環境保全地域、鳥獣保護制度、野生動物の保護管理
第 8 回	日本の自然環境保全施策 2	環境アセスメントの特徴と手続き、制度構築経過、戦略的環境アセスメント
第 9 回	里山と生物多様性	里山の資源循環と共生、生物多様性とは、生態系サービス、バイオミミクリ
第 10 回	自然再生	自然再生とは、近自然河川工法、グリーンインフラ
第 11 回	海外の自然環境共生事例 1	フランスの地方自然公園とエコミュゼ、イギリスのトラスト活動
第 12 回	海外の自然環境共生事例 2	ドイツのビオトープ、欧州農業環境政策
第 13 回	生物多様性と経済	生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット、認証制度
第 14 回	景観生態学	景観生態学とは、地理空間情報を用いた分析と事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
人と自然との関わりや、自然環境政策、生物多様性などに関するメディア、文献、事例に触れることにより自主的な研究を進めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
毎回の講義において紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）：毎回提出するリアクションペーパーにより理解度を評価します。
期末レポート（50%）：最終回に示すレポート課題によって総合的な理解度と考察力を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
知識の詰め込みとならないよう、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット
＜主要研究業績＞
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci., 2017.
Drastic declines in Brown Shrike and Yellow-breasted Bunting at the Lake Utonai Bird Sanctuary, Ornithol Sci., 2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著

【実務経験のある教員による授業】
公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】
To achieve harmony and coexistence between the natural environment and human activities for a sustainable society, it is hoped that we will explore the essence of the issues surrounding the natural environment and address the issues from the scientific and social perspectives. In this lecture, the theme is to understand the ecosystem and the issues surrounding it, to learn the various measures that have been taken to address them, and the potential of policies for harmonization between human and nature.
The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters with academic thinking skills.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

SES500P2 － 018

大気人間環境論 D

北川　徹哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大気は人間生活圏を覆っており，人が呼吸し，生存するために必要なものである．一方で，時には脅威となる存在であり，またある時は心地よさやエネルギーをもたらすものでもある．本講義においては，大気の動きと人間生活，社会，都市，環境との関係について多角的に学ぶ．

【到達目標】
１．大気運動のスケールと性質，ならびに大気と環境問題との関係を説明できる．
２．大気による災害の種類と，それらの人・社会・都市への影響を説明できる．
３．大気の動きの人間生活への寄与について説明できる．
４．上記１～３のうち，少なくとも一つについて定量的に評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で進められる．また，質問は随時受け付ける．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大気のスケールと構造	マクロ・メソ・ミクロの大気現象
第 2 回	強風の種類と仕組み	台風，季節風，地形と気流，竜巻，ダウンバースト
第 3 回	強風がもたらす社会・都市への被害，強風の統計的性質	大気観測，強風の種類と被害の程度，最大風速，再現期待値・再現期間
第 4 回	大気の動きと人間	市街地・郊外上空の大気の動き，スペクトル，渦，風の息，風騒音，気流と人間生活環境
第 5 回	都市の大気汚染	汚染物質の大気拡散，ストリートキャニオン，ヒートアイランド，クリマアトラスと風の道
第 6 回	大気による粒子の輸送	飛砂，風紋，黄砂，ダストストーム，スギ花粉の飛散
第 7 回	屋内空気環境と人間生活	住居環境と汚染物質，人の温冷感

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のノートや資料などを用いて予習・復習し，後半に出題される課題に取り組み，レポートにまとめること．
本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
レポート（100 %）：大気と人間生活，社会，都市あるいはエネルギーに関するレポート課題に対し，到達目標１～４に要求される知識がレポートに展開されているか，また，適切かつ詳細な論述がなされているかを評価する．

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境流体，気象社会論，流体関連振動
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策，気象リスクヘッジ，数値流体解析
＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第 25 回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰 Ornstein-Uhlenbeck 過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集 A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博 2000 に導入された天候デリバティブについての一考察，第 23 回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み，日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】
（Course outline）
The boundary layer of the atmosphere is closely related to human life and social systems such as industries and transportations, and it is important for us to study its characteristics so as to save the human life and society from disasters/sickness, and to create better urban/regional environments. In this course, firstly we study about fundamentals on various types of atmospheric phenomena such as ENSO, the typhoon, and and the see breeze, the mountain and valley breeze, the downburst and the tornado, and about their effects on cities and people. Secondly, as an example of the air flow significantly related to the human health, the characteristics of the indoor air are focused on. While causing the pollution contaminant advection, the indoor air flow performs to remain the room environment safe and comfortable.
（Learning Objectives）
The goals of this course are
A. to learn the time-space characteristics of various types of atmospheric phenomena,
B. to study about the wind effects on cities and people,
C. to understand the system of the indoor air ventilation and
D. to learn a statistical evaluation on atmospheric environments.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to understand the course content after each class, and to have completed a required assignment. Your study time will be more than four hours for a class on average.
（Grading Criteria /Policies）
Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

SES500P2 － 019

環境工学の基礎 D

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには科学知識が欠かせない。本講義では大気汚染、水質汚濁、廃棄物、土壌汚染、騒音・悪臭、有害物質など、ローカルな環境問題の発生メカニズムと対処に関する工学的基礎を修得し、そのような問題への対処方を考える基礎力を養うことを目指す。

【到達目標】
以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。
大気汚染発生のメカニズムと処理技術
上下水道の構造
水質汚濁発生のメカニズム
土壌汚染の特徴と対策技術
感覚公害の特徴と騒音・振動・悪臭の原因と対策技術
廃棄物の定義と現状
リサイクルの意味と関連する諸制度
リスク論の考え方と環境に関する基準の設定方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントは Hoppii にアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	環境問題とはどのようなものか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染 1	大気汚染の歴史、ばいじん、硫黄酸化物
第 3 回	大気汚染 2	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音	音とは、騒音の評価法、騒音対策
第 10 回	廃棄物 1	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物 2	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル	リサイクルの種類、関連法規
第 13 回	有害物質とリスク	有害の意味、リスクとはなにか、リスク認知
第 14 回	基準の決め方	環境基準と排出基準

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文科系のための環境科学入門』　有斐閣

【参考書】
別途、指示する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（100 %）もしくは最終回に行う試験 (100%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【担当教員の専門分野等】
環境システム科学、国際環境協力

【担当教員の関連する業績】
① Ryo Fujikura, Mikiyasu Nakayama, Manami Fujikura (2016) Formulation Process of Diet Law and Cabinet Law in Japan － A Comparative Study of Basic Environmental Law and Basic Law on Biodiversity － , International Journal of Social Science Research, Vol. 4, No. 2, DOI: http://dx.doi.org/10.5296/ijssr.v4i2.9703
② Tetsuo Kida and Ryo Fujikura (2015) Pollution Risks Accompanied with Economic Integration of ASEAN Countries and the Fragmentation of Production Processes, International Journal of Social Science Studies, Vol.3, No.5, DOI: 10.11114/ijsss.v3i5.915
③ Ryo Fujikura (2011) Environmental Policy in Japan: Progress and Challenges after the Era of Industrial Pollution, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5, pp. 303-308
④ Ryo Fujikura (2011) The Influence of Local Governments on National Policy-Setting Processes to Regulate Japan's Vehicle Emissions, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5, pp. 309-324

【Outline (in English)】
Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basic engineering knowledge regarding mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on the final exam or a report.

GEO500P2 － 020

自然災害と防災 D

杉戸　信彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然災害のリスクは、自然界のもたらすハザードと人間社会の脆弱性との掛け算で決まる。本授業では、地域社会の防災力、ひいては持続可能性の向上をはかるため、自然環境の地域的差異と因子、歴史的変遷を踏まえながら、災害をもたらすさまざまな自然現象の姿を理解し、防災における課題を検討する。

【到達目標】
自然災害の特徴を、土地の自然的個性を踏まえて説明できる。
日本列島における防災の課題を具体的に記述し、解決案を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
主に講義形式。一部で図上作業も実施する。
リアクションペーパー等からポイントを選定し、全体に対してフィードバックを行う。
授業形態については学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自然災害と防災	自然災害のとらえ方や防災の考え方を整理する。
第 2 回	地震災害を読み解く	日本列島の地震と火山噴火を自然地理学的な視点から概観する。地殻変動や地震動、津波などについて検討を行う。
第 3 回	火山災害を読み解く	日本列島の火山活動について自然地理学的な視点から概観したのち、マグマの組成と噴火様式、火砕流、火山灰などについて検討を行う。
第 4 回	気象・土砂災害を読み解く	日本列島の気候環境について自然地理学的な視点から概観したのち、豪雨と積乱雲、台風、斜面崩壊などについて検討を行う。
第 5 回	防災気象情報と避難	災害種と予測可能性、災害情報、避難情報などについて検討を行う。
第 6 回	災害の歴史・災害経験の継承	災害の歴史、記録、記憶などについて検討を行う。
第 7 回	ハザードマップと防災教育	土地条件や想定、学校および地域における防災教育などについて検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）・期末レポート（60%）。平常点はリアクションペーパーによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞
1）杉戸信彦，2014，大地震の歴史とメカニズムを捉える－活断層への地理学的アプローチ－，木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編，「災害フィールドワーク論」，FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 5，古今書院，212p，132-149.
2）杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘，2015，津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布，地学雑誌，124，157-176．doi: 10.5026/jgeography.124.157
3）Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】
Natural disaster risk is defined by (1) natural-hazard impacts and (2) social vulnerabilities. In order to improve social resilience that supports future sustainable society, we examine various natural phenomena that cause disasters, such as earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, in terms of their spatial variation, mechanism, and history. We also examine current status and issues in disaster prevention.
Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain features of natural disasters from the perspective of land conditions, and (2) to explain issues and propose ideas for disaster prevention in the Japanese islands. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (40%) and the final report (60%).

ECN500P2 － 021

環境経済論 D

杉野　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どの様な政策が必要であるかを理論的に考える。本授業では、以下の２つを最終目的とする。① 環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に経済学を応用できるようになる。②日本の環境政策・制度およびそれらの問題点を理解し、必要とされる政策について理解を深める。なお、環境経済学を学ぶうえでミクロ経済学の基礎的な知識が必要となる。本授業では、関連するミクロ経済学を適宜説明しながら講義を行う。

【到達目標】
経済学の基礎知識と環境問題に対する理解を深めることができる。
また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
対面での講義形式を基本とする授業を行います。毎回、講義と関連する課題（小テスト）を実施します。課題（小テスト）の解説を次の授業の冒頭に行います。また、コメントや質問に対する回答も授業の冒頭に行います。
なお、一部の授業ではゲームを行い、学んだ理論と現実の差を体感します。
また、グループディスカッションを通じて、政策の方向性などを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・環境経済学とは ミクロ経済学①（市場とは）	環境経済学を学ぶ際に必要最低限の経済学的知識を解説します。 需要曲線と供給曲線の意味および、市場の機能を解説します。
第 2 回	ミクロ経済学②（余剰分析） ミクロ経済学③（市場の効率性）	消費者余剰、生産者余剰、社会的総余剰について解説します。 市場の効率性・万能性について解説します。
第 3 回	公共財とは 外部性（様々な費用）	公共財の定義およびどの様な問題があるのかを解説します。 平均費用、平均可変費用、限界費用など費用の概念を解説します。
第 4 回	外部経済（余剰分析） 外部不経済（余剰分析）	正の外部性について解説し、市場にどの様な影響をもたらすかを解説します。 負の外部性について解説し、市場にどの様な影響をもたらすかを解説します。
第 5 回	外部不経済の内部化	外部不経済が存在する場合、社会的に望ましい状態は何かを解説します。
第 6 回	コースの定理	当事者間の交渉によって環境問題が解決することができることを解説します。
第 7 回	政策による環境問題の解決 効率的な削減（ピグー税と排出量取引）	どの様な環境政策が有効かを解説する。また、それぞれの政策の利点・欠点について議論する。
第 8 回	ゲーム①：排出量取引制度を理解する ゲーム②：排出量取引制度におけるプレーヤーを理解する	ゲームを通じて排出量取引制度の基本的な制度設計について学ぶ。
第 9 回	ゲーム③：排出量取引制度における費用軽減措置を理解する ゲーム④：排出量取引制度のまとめ	ゲームを通じて排出量取引制度の導入がもたらす様々な問題に対処する応用的な制度設計について学ぶ。
第 10 回	地球温暖化①：問題の所在 地球温暖化②：京都議定書	温暖化政策の基礎的な知識を解説する。また、京都議定書第 1 約束期間までの状況を解説する。
第 11 回	地球温暖化③：ポスト京都 地球温暖化④：各国の対策および事前評価	ポスト京都議定書（パリ協定まで）について解説し、各国の気候変動政策および事前評価について解説する。
第 12 回	廃棄物問題①：ごみ処理有料化政策 廃棄物問題②：自治体の取り組み	ごみ処理有料化政策が何故必要なのか、何を意図としているのかを解説する。また、自治体の取り組みと理論を比較する。
第 13 回	放射性廃棄物問題①：低レベル放射性廃棄物 放射性廃棄物問題②：高レベル放射性廃棄物	放射性廃棄物の最終処分問題について米国の取り組みを紹介しながら解説する。また、日本に必要な方策を考える。
第 14 回	大気汚染①：固定排出源の規制 大気汚染②：移動排出源の規制	日本における大気汚染対策を紹介し、今後の方策について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
指定したテキストおよび参考書の該当する箇所を事前に読み、授業の準備を行ってください。
また、課題を行い、内容の理解度を深めてください。

【テキスト（教科書）】
『入門　環境経済学－環境問題解決へのアプローチ』, 日引聡・有村俊秀, 中央公論新社 (2002)

【参考書】
Richard Porter The Economics of Waste, Routledge, 2002.

【成績評価の方法と基準】
小テストおよび最終課題を総合的に評価します。
具体的には、小テスト 45%、最終課題 55%の合計 100%点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
理論の理解を深めるため、排出量取引制度のゲームを引き続き実施します。また、練習問題の難易度を複数準備する。例えば、公務員試験の過去問など。

【学生が準備すべき機器他】
電子ファイル（講義資料や追加資料など）を配布いたします。パソコン（タブレット）などをインターネットに接続できるようにしてください。

【その他の重要事項】
特定の時間帯にオフィスアワーを設定していませんが、授業等がなければいつでも対応いたします。事前アポをメールで取ってください（makoto.sug@gmail.com）。
質問などがあった場合、連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013 年

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
Economic growth has increased the burden of environmental impacts in various dimensions. In this course, we will apply microeconomic theory to environmental issues and consider what kind of policy/regulations are needed to address these issues. This course has two objectives; 1) understand the “nature” of environmental issues and apply economics to counter these issues and 2) understand Japanese environmental policies/regulations and consider further, what kind of actions are needed. This course will also discuss microeconomic theory because it is essential in understanding environmental economics.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after class. Your study time will be more than two hours for each class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in class will be decided based on the following:
Take-home test 45%, Term-end assignment 55%.

POL500P2 － 022

サステイナブル地域政策研究 D

小島　聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「サステイナビリティ」（持続可能性）の視点から自治体政策について総合的に検討する。授業では、まず持続可能性の概念、地域の多様性と政策の方向性について理解する。さらに、グローカルな政策、政策統合と SDGs、縮小都市問題と政策展開、都市と過疎地域の政策連携などについて議論する。この授業の目的は、持続可能な地域社会に関する公共政策研究に必要な現代地方自治の動向を理解することである。

【到達目標】
この授業に参加することによる学生の到達目標は、以下のとおりである。
・高度な研究のために知的基盤を構築し広い視野を形成する。
・持続可能な地域政策に関する政策分析力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
持続可能性に関する基礎概念や政策規範・政策原則を分析視角とし、政策課題と政策展開について検討しながら、今後を展望する。パワーポイントのほか配布資料を使用しながら講義を行うが、各地の最新の政策情報を共有しながら、参加者とも議論をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「持続可能性」の概念と「持続可能な地域社会」の多様性	「持続可能性」の概念構成から政策原則を導き、さらに地域特性に応じた政策課題の多様性について検討する。
2	都市と過疎地域の政策的な方向性	地域の多様性をふまえた上で、持続可能性という視点でみた都市と過疎地域の政策的方向性を、「変容」と「存続」としてとらえ直して検討する。
3	グローカリズムと自治体政策	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考し、政策責任や政策行動モデルなどに関する理論的な整理を行いながら、自治体の政策動向について検討する。
4	持続可能性の包括性・統合性と自治体政策	「持続可能性」概念の包括性・統合性について、地域の具体的な政策課題を通して確認する。さらに、「環境政策統合」の考え方をふまえながら、「持続可能な地域社会」への総合政策論について検討する。
5	SDGs と自治体政策	SDGs をめぐる自治体政策の現状と課題について検討しながら、政策イノベーションのツールとしての可能性について展望する。
6	都市と過疎地域の持続可能性	都市と過疎地域の持続可能性について比較しながら、自治体政策の現状と課題について検討する。
7	都市と過疎地域の政策連携の展望	都市－農山漁村の地域間連帯の動向とともに、生態系サービスや地域間の相互依存関係をふまえて、今後の政策連携について展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする）。
・配布資料やその他の関連資料を読む。
・指示した課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
必読参考文献は開講時に紹介し、また必要に応じて参考資料を配付する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的な参加姿勢）（50 %）、課題への取り組み（10 %）、博士論文への応用可能性に関するレポート（40 %）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は休講であったため、最新のフィードバックはありません。過去のアンケート、学生の意見、内省等からの気づきは、以下のとおりです。
・「持続可能性」や「持続可能な地域社会」について俯瞰することには、現代的かつ学際的な意義があると考えています。
・多様な問題領域を扱うことで、それぞれの研究テーマをもつ院生の視野を広げることができると考えています。
・政策事例の検討により、「臨床の知」から政策思考を育む教育効果があると考えています。
・対話型授業の要素を取り入れてきましたが、その必要性を実感しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、パソコンからプロジェクターに画像を投影する。

【その他の重要事項】
第 1 回はオンラインで参加者数などを確認し、第 2 回からは対面を予定しています。ただし、COVID-19 と学生のおかれた状況によってはオンラインに切り替えるなど、柔軟に対応します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　行政学、地方自治論
＜研究テーマ＞　持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、市民社会と自治体行政システム
＜主要研究業績＞
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編」『自治体経営改革』（共著）（ぎょうせい、2004）
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
『フィールドから考える地域環境　持続可能な地域社会をめざして』（共編著）、（ミネルヴァ書房、2012）
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574、2012）

【Outline (in English)】
The objective of this course is to examine the policy of local government comprehensively from the viewpoint of sustainability. Firstly, we will think about the conception of sustainability, regional diversity and policy direction. Furthermore, we will discuss the trend of “Glocal policy” , sustainability of urban areas and rural areas, “Policy integration” and SDGs, traffic policy, urban sustainability risk, shrinking city problems and policy development, cooperation policy between urban and rural areas, etc.
The purpose of this course is for students to understand modern trends of local governance needed for public policy research on sustainable community.
At the end of the course, students are expected to achieve the following:
(1)Build intellectual foundation and form broad perspective for advanced research.
(2)Gain policy analysis ability of regional sustainable policy.
Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on some assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.
Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Active class participation:50%,Assignments:10%,Report on applicability to doctoral dissertaiton:40%

SOM500P2 － 023

公衆衛生研究 D

宮川　路子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公衆衛生学は、疾病の治療を目的とする臨床医学とは異なり、疾病の予防を目的とし、さらに健康増進を図る科学技術である。人々を病気から守り、肉体的・精神的に健康な状態で社会生活を送れることを目的としている。これは人類が求める最も基本的かつ重要なサステイナビリティーである。現代社会には、ありとあらゆる健康問題が山積している。私たちが 21 世紀を健康に生き抜いていくためには、これらの健康問題について、適切な知識を持ち、情報の取捨選択を行っていく必要がある。
本講義では、学生が健康意識を高め、よい生活習慣、予防のためのノウハウを学び、健康寿命の延長を目的として公衆衛生の立場から幅広い知識を身に着けていく。

【到達目標】
本講義では，超高齢社会を生きる社会人にとって必要な健康知識と問題解決能力を習得する。すべての社会問題は人の健康と密接な関係がある。地球上における持続可能性は結局のところ人類が健康に生活していくことを目的としたものある。
博士課程における研究において人との関わりを考慮する際、予防医学，疫学の知識を持つことは非常に重要である。たとえ、研究テーマが医学と直接かかわりがないものであったとしても、視点を変えてみると新たな問題点、解決策の発見につながる可能性がある。
本講義では、幅広い知識を身につけるため、様々な領域の専門家を招いて最先端の知識を得るとともにディスカッションを行って理解を深める。
疫学、統計学的、社会学的手法を用いた実態調査についても実例から方法論を学び、研究に活用する手法、更に自分自身が健康に生きて行くための知識、能力を身につけていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
少子高齢社会において多様化する健康問題、医療費高騰、各種保健行動などについて議論するとともに、疫学、統計学的、社会学的手法を用いた実態調査の例を論文より学び、対策を講じていく過程を学習する。また、疫学調査、産業保健、などさまざまなテーマを取り上げて専門家を招き、最先端の知識を得ると同時にディスカッションを行って、現代社会における健康、生命についての問題点を浮き彫りにしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 予防医学について	講義を受講するための心構え。 現代社会において必要とされる予防医学の基礎的知識を学ぶ。
第 2 回	分子整合栄養療法とメンタルヘルスケア	健康の基本は栄養であり、細胞内の栄養バランスを適切に整えることにより、からだとこころの健康を保つことができることを学ぶ。
第 3 回	外部講師講義（曼荼羅ワークショップ）	人生の曼荼羅で自分の今までを振り返り、今後に生かすワークショップを行う
第 4 回	外部講師講義（日本の医療の問題点について）	個の医療から集団の医療へというテーマで学ぶ。
第 5 回	外部講師講義（疫学について）	疫学手法を用いた研究について実例紹介により理解を深める
第 6 回	外部講師講義（日本の精神科医療の問題について）	精神科専門医から、我が国の精神科医療についての話を聴く
第 7 回	研究発表、まとめ	受講者による健康に関わるテーマの研究発表・ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料は講義の際に配布する。

【参考書】
こころの超整理法

【成績評価の方法と基準】
出席、講義中のディスカッション、最終回の発表とレポートによる。
平常点：５０％
発表：３０％
レポート：２０％

【学生の意見等からの気づき】
教科書に基づく基本的な知識の習得範囲を広げるとともに、専門家の講義とディスカッションをさらに充実させていく。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の発表時にレジュメを準備する。

【その他の重要事項】
外部講師の講義については、依頼する講師の都合により、変更することがある。

【担当教員の専門分野等】
公衆衛生学、産業保健、分子整合栄養医学、統合医療、統計学
＜研究テーマ＞栄養と健康、就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞ Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)
The European Journal of Public Health　2012 年
ビタミン D の健康効果　人間環境論集 19 巻号 79-101
日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか　人間環境論集　20 巻 1 号 1-17
https://eiyouryohou.com/

【Outline (in English)】
【Course outline】Public health, unlike clinical medicine aimed at treating diseases, is science and technology aiming at the prevention of diseases and promoting health. It aims to protect people from diseases and to live social life in a physical and mental healthy state. This is the most fundamental and important sustainability that mankind desires. In modern society, all kinds of health problems are piled up. In order to live healthy, it is necessary for us to have appropriate knowledge about these health problems, and to select information.
【Learning Objectives】In this lecture, students learn about healthy lifestyle and know-how for disease prevention, and wear broad knowledge from the viewpoint of public health for the purpose of prolonging healthy life span.
【Learning activities outside of classroom】Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria】Based on attendance, discussion during the lecture, presentation and report at the final session.
Attendance points: 50%.
Presentation: 30%.
Reports: 20%.

MAN500P2 － 024

サステイナブル経営論 D

長谷川　直哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではサステナビリティを巡る国際的な動向を整理し、CSR、CSV、SDGs が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。サステナビリティ経営の強化を求めるコーポレートガバナンス・コードや東証市場再編、影響力を強めている ESG マネー（投資・融資・保険）が企業経営にもたらす影響について検討します。

【到達目標】
SDG に関する基本的な知識を習得したうえで、現代企業のサステナビリティ経営や脱炭素経営の実態を正しく評価する能力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の SDGs/CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	価値共創時代のサステナビリティ経営①	価値共創とは何か 価値共創を実現する経営のあり方とは
第 2 回	価値共創時代のサステナビリティ経営②	越境による新事業のデザイン 価値共創ビジネスのケーススタディ
第 3 回	ESG 経営の最新動向「ガバナンス編」①	日本型ガバナンスの現状 取締役会の機能不全
第 4 回	ESG 経営の最新動向「ガバナンス編」②	企業価値を左右する社外取締役 攻めのガバナンス 東証再編とガバナンスコードの改訂
第 5 回	ESG 経営の最新動向「環境編」①	ビジネスルールが変わる パリ協定－脱炭素の本質とは
第 6 回	ESG 経営の最新動向「環境編」②	脱炭素を加速する ESG マネーの動向 企業評価の新たな尺度となる炭素利益率
第 7 回	ESG 経営の最新動向「社会編」①	変わる企業と社会の関係 人権・ダイバーシティを巡るケーススタディ
第 8 回	ESG 経営の最新動向「社会編」②	ビリーフドリブン消費者の台頭 ブランドストーリーの再構築
第 9 回	近代産業の勃興と経済倫理〔1〕「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第 10 回	日本社会における企業倫理の形成	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第 11 回	SDGs 時代に求められるパーパス経営	パーパスと SDGs の関係性 企業価値を高めるパーパス経営
第 12 回	SDGs 時代の経営モデル	シェアリングエコノミー
第 13 回	ゲストスピーカーによる講義①	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します
第 14 回	ゲストスピーカーによる講義②	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業が発行する統合報告書やサステナビリティ報告書を参照しながら、SDGs やパリ協定と企業はどのように向き合おうとしているのかについて自己学習を深めて下さい。詳細については、初回授業において説明します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメを配布します。

【参考書】
Naoya.HASEGAWA （2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGs とパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021 年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文眞堂，2019 年
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資－長期的な企業価値創出メカニズムを求めて』文眞堂，2018 年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016 年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート： 80 %
発表・討議： 20 %

【学生の意見等からの気づき】
複雑な数式等は使わず、財務分析や証券投資に関する知識の無い方にも理解しやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステイナビリティ
＜最近の主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021 年 9 月 28 日）』2021 年
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020 年 3 月 2 日～12 日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021 年

【実務経験のある教員による授業】
【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 1 部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this lecture, We will review how international trends in sustainability (CSR, CSV, SDGs) have been changing. We will also examine the impact of the Corporate Governance Code, the restructuring of the Tokyo Stock Exchange and
ESG money (investment, financing and insurance) on corporate management.
Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the final report (80%) and presentation (20%).

SES500P2 － 025

地域環境計画研究 D

湯澤　規子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「食」と「農」と「地域」をキーワードとして、その関係性を歴史的に検討します。「自然環境」、「社会環境」の両側面から「環境」を捉え、様々な事例から持続可能な社会のしくみについて考えます。

【到達目標】
食と農と地域の歴史を理解し、地域環境を論じる基礎的知識と視角を身につけます。文献講読および具体的な事例を通して、現代社会の課題と今後の展望を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
講義を中心としつつ、ディスカッションペーパーにもとづく議論を適宜織り交ぜて、考察を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域環境を論じる視点
第 2 回	問題提起	地域環境を論じた近年の研究成果の検討
第 3 回	文献講読（1）	地域環境に関わる文献講読
第 4 回	文献講読（2）	地域環境に関わる文献講読
第 5 回	文献講読（3）	地域環境に関わる文献講読
第 6 回	地域・環境・計画についての討論	様々なアクターについて考える
第 7 回	総括と展望	各自の研究課題との関連について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
今のところ、下記の文献を候補としているが、参加者との相談で決定する。
・木村純子ほか『イタリアのテリトーリオ戦略―甦る都市と農村の交流』白桃書房、2022 年 3 月刊行予定。
・土肥秀行、山手昌樹編著『教養のイタリア近現代史』ミネルヴァ書房、2017 年

【参考書】
・内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書、1971 年
・鶴見和子『内発的発展論の展開』筑摩書房、1996 年
・カール・ポランニーほか『経済の文明史』ちくま学芸文庫、2003 年
・宇沢弘文『人間の経済』新潮新書、2017 年・矢ケ﨑典隆・森島斉・横山智編『トピックス地誌３　サステイナビリティ』2018 年、朝倉書店
・湯澤規子『胃袋の近代―食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018 年
その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
報告（50 %）と最終レポート（50 %）で評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。具体的には主体性、独自性、堅実性に基づいて評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
参加者それぞれの問題意識を深められるように、ディスカッションの時間を活用したいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『7 袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019 年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018 年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009 年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18 年、104-113 頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016 年、57-72 頁

【Outline (in English)】
◆ Course outline
Students will examine this relationship from a historical point of view using "food", "agriculture" and "region" as keywords. We will consider the "environment" from both the "natural environment" and "social environment" and think about the structure of a sustainable society from various cases.
◆ Learning Objectives
Students will gain an understanding of the history of food, agriculture, and local communities, and acquire the basic knowledge and perspectives to discuss the local environment. The course aims to examine the issues and future prospects of contemporary society through literature reading and specific case studies.
◆ Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, please read the assigned literature carefully, prepare a resume, and discuss the issues.
◆ Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on lecture participation and report (50%) and final report (50%). Specifically, evaluation will be based on initiative, originality, and solidity. The theme will be presented at the beginning of the lecture.

ARS500P2 － 027

国際環境協力論 D

藤倉　良

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発途上国が持続可能な開発を達成するために、日本や国際機関はどのような支援を実施しているのか、また、今後、どのように支援を行うべきなのかを学ぶ。将来、国際協力の分野に進んだ学生には、援助のあり方を考える基礎を習得する。

【到達目標】
インフラ開発に伴う社会環境配慮と環境プロジェクトの相違を理解したうえで、世界銀行やアジア開発銀行、日本のＯＤＡがどのような仕組みで動いているかを理解する。その上で、以下の事例について学習する。
・過去に行われたダム建設に伴う住民移転から得られた教訓
・工業化に伴う公害対策の先例としての日本の公害経験
・開発途上国の資源環境問題の実例としての中国の諸問題
・気候変動対策における援助の方向性
これらをベースにして、持続可能な開発に向けた援助の方向性を見据える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントは Hoppii にアップする。
国際協力の現場で働く実務家にプレゼンテーションを行って頂く予定である。海外勤務の方にはオンラインで行って頂く。このため、日程はプレゼンターの都合によるので、授業の全体スケジュールはそれに応じて変更される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	国際協力とＯＤＡの仕組み
第 2 回	日本の環境協力の歴史	１９７０年代以降の日本の環境協力
第 3 回	開発途上国の環境政策１	開発途上国で環境政策がどのように進展してきたか。
第 4 回	開発途上国の環境政策２	開発途上国の環境政策にどのような課題が残されているか。
第 5 回	日中環境技術協力	ＪＩＣＡを通じた協力事例
第 6 回	中国の資源と環境	水資源、エネルギー、公害などについて
第 7 回	アジアの事例	バングラディシュなどの事例研究
第 8 回	気候変動対策１	緩和
第 9 回	気候変動に関連する技術協力	緩和策に関連する事例
第 10 回	気候変動対策２	適応
第 11 回	日本の公害経験１	国の政策
第 12 回	日本の公害経験２	地方公共団体の政策
第 13 回	環境配慮	セーフガードポリシー
第 14 回	住民移転	ダムによる住民移転と生活再建の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義中に資料を指示する。

【参考書】
井村秀文・松岡俊二・下村恭民編著　『環境と開発』　日本評論社

【成績評価の方法と基準】
レポート（100 %）もしくは最終回に行う試験 (100%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく多くの事例を紹介することとする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【担当教員の専門分野等】
環境システム科学、国際環境協力

【担当教員の関連する業績】
1. Masato Kawanishi, Nela Anjani Lubis, Hiroyuki Ueda, Junko Morizane and Ryo Fujikura (2021) From Project to Outcome: the Case of the National Greenhouse Gas Inventory in Indonesia, Working Paper No.225, December 2021, JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development, https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp_225.html
2. 川西正人、藤倉良、加藤真、森實順子 (2021) 国家温室効果ガスインベントリ実施体制の比較研究－日本・インドネシア・ベトナム・タイの事例から－、環境科学会誌 34（3）、124 - 138、10.11353/sesj.34.124
3. Masato Kawanishi, Makoto Kato, Ryo Fujikura (2021) Analysis of the Factors Affecting the Choice of Whether to Internalize or Outsource the Task of Greenhouse Gas Inventory Calculations: The Cases of Indonesia, Vietnam, and Thailand, International Journal of Sustainable Development and Planning, Vol. 16, No. 1, February, 2021, pp. 145-154, doi: 10.18280/ijsdp.160115
4.Kawanishi, M. and Fujikura, R. (2020), Assessment for the implementation of a national greenhouse gas inventory: the case of Japan, Management of Environmental Quality, Vol. ahead-of-print No. ahead-of-print. https://doi.org/10.1108/MEQ-06-2020-0116
5.Masato Kawanishi, Junko Morizane, Nela Anjani Lubis, Ryo Fujikura (2020) Issue interpretations and implementation analysis for the national greenhouse gas inventory: the case of Indonesia, Journal of Environmental Studies and Sciences, 10(4), 411-425, https://doi.org/10.1007/s13412-020-00628-3
6. Masato Kawanishi, Makoto Kato, Emiko Matsuda, Manami Fujikura, and Ryo Fujikura (2019) Comparative study on institutional designs and performance of national greenhouse gas inventories: the cases of Vietnam and the Philippines, Environment, Development and Sustainability, Vol.21, https://doi.org/10.1007/s10668-019-00460-y
7.Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (2019) Overview: Livelihood Re-Establishment After Resettlement due to Dam Construction, Journal of Asian Development, 5(1), 1-11, doi:10.5296/jad.v5i1.14420
8.Sunardi, Ariyani, M., Febriani, R., Maharani, G.S., Fu, R. H. Y., & Fujikura, R. (2019) Rebuilding livelihood of the rural and peri-urban resettlers in post-involuntary displacement of Saguling Dam construction. Journal of Asian Development, 5(1), 12-30, doi:10.5296/jad.v5i1.14421
9.Suwartapradja, O. S., Fujikura, R., Sunardi, & Fu, R. H. Y. (2019). Resettlement caused by Jatigede Dam project: Consequence of long delayed implementation of a project. Journal of Asian Development, 5(1), 31-44, doi:10.5296/jad.v5i1.14422
10.Nakayama, M., & Fujikura, R. (2019). Addressing the Livelihood of Non-Resettlers in Dam-Induced “Detached” Areas: The Case of the Shichikashuku Dam. Journal of Asian Development, 5(1), 45-55, doi:10.5296/jad.v5i1.14423
11.Masato Kawanishi, Makoto Kato, Emiko Matsuda, and Ryo Fujikura (2019) Comparative Study of Reporting for Transparency under the International Agreements on Climate Change and Ozone Protection: A Case of the Philippines, International Journal of Environmental Science and Development, Vol.10, No.1, pp.1-8, doi: 10.18178/ijesd.2019.10.1.1137
12.Masato Kawanishi and Ryo Fujikura (2018) Evaluation of Enabling Factors for Sustainable National Greenhouse Gas Inventory in Developing Countries, International Journal of Environmental Science and Development, Vol. 9, No. 10, pp.290-297, doi: 10.18178/ijesd.2018.9.10.1116

【Outline (in English)】
Students will learn international cooperation is being implemented by Japan or international organizations in order for developing countries to achieve sustainable development and how to support them in the future. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on the final exam or a report.

CUA500P2 － 029

ヒューマン・エコロジー D

山内　愛子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際的な環境保全を目的とした際に実効性ある取り組みを行うことを前提とし、多様なステークホルダーとともに協働する手法について、主に海洋を現場とした活動を取り上げる。この授業を通じて、実社会で活用可能なステークホルダーエンゲージメントの方法論を深めるとともに、中長期的に環境保全やサステナビリティに取り組むためのツールを学ぶ。

【到達目標】
1）国際的な環境保全のあり方について理解する
2）国際的な潮流と日本独自の課題の調整を検討できる
3）サステナビリティの実現に向け、利用可能なツールとその使いかたを理解する
4）国内外の多様なステークホルダーの重要性を理解し、ステークホルダーマッピングができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】
1）前半は講義を通じて、国際環境 NGO の活動やステークホルダーとの連携について学び、実社会での活動のあり方への理解を深める
2）後半では、学んだ内容を活かし、実際に実施可能な計画が立てられるよう、グループディスカッションや演習を取り入れる
3）自分が選択した環境問題の解決に向けた活動計画を作成する
授業形態は対面での講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際的環境保全の実態(海洋問題を事例として)	国際的な環境問題について、海洋問題を中心に国際環境 NGO の取り組み事例を紹介
第 2 回	サステナビリティとステークホルダー	環境保全活動の根幹となるサステナビリティを実現する上でで重要なステークホルダーの役割について学ぶ
第 3 回	マーケットの力を利用した環境保全の事例	近年重要な位置付けにあるマーケットと環境保全の関係性を学ぶ
第 4 回	サステナビリティと多様なツール	ステークホルダーとの連携を可能にする様々なツールについて学ぶ
第 5 回	国際的な視点と国内の課題	国際的な潮流と国内の事情・背景をすり合わせた上で、期待される結果を生むような実践例を学ぶ
第 6 回	国際的な環境問題への貢献	日本で活躍するリーダーをスピーカーとして迎え、国際的視点を持った国内での活動事例を学ぶ
第 7 回	サステナビリティ社会の構築に向けた先進的事例	国際的に活動する組織の取り組みを通じて米国や欧州の先進的な事例を学ぶ
第 8 回	環境問題とその原因	自分が解決したい環境問題を選択し、その課題や背景を考える
第 9 回	環境問題とその原因	グループディスカッションを通じて、自分では見えなかった課題や背景を探る
第 10 回	ステークホルダーマッピング	ステークホルダーマッピングの方法を学ぶ
第 11 回	ステークホルダーマッピング	自分が解決したい環境問題に関するステークホルダーマッピングをグループディスカッションを通じて行う
第 12 回	環境保全活動の計画	環境保全活動を行う際の計画立案方法を学ぶ
第 13 回	環境問題の解決に向けた計画発表	実際に取り組み可能な解決方法について発表を行い、パネルディスカッションを行う
第 14 回	環境問題の解決に向けた計画発表	実際に取り組み可能な解決方法について発表を行い、パネルディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後半では、自分が解決したい環境問題を選択し、作業を行うため、事前に選択したい環境問題の知識等を深めること。また、ディスカッション等を通じて得られた他者の見解や意見について復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、毎回資料を配布します。

【参考書】
特になし。ただし、関心ある環境問題ついて参考文献が必要な場合には個別紹介します。

【成績評価の方法と基準】
独自の環境保全活動計画が完成することを目標とします（要提出）。
計画では、
1　国際的な視点で検討できているか？
2　解決すべき問題は理解できているか？
3　ステークホルダーとの連携が十分検討されているか？
を元に評価します。
評価基準：
提出された環境保全活動計画書から、
1　実践可能性　６０％
2　解決手法　　２０％
3　ステークホルダーとの連携度　２０％

【学生の意見等からの気づき】
講義の最後に振り返りディスカッションを通じて、意見交換を行います。

【学生が準備すべき機器他】
講義中に作業の実施が必要となるため、パソコンやタブレットなど個人で使用できる機器をご準備ください

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
水産学、海洋環境保全
＜研究テーマ＞
サステナブルシーフードと環境保全型漁業
＜主要研究業績＞
1 海と水産業の多面的評価－水産研究の新たな役割と方向性－
環境保全活動の目指す未来と水産研究・水産業に期待する役割、月刊海洋、2015 年 8,9 月号
２ＳＤＧｓビジネス戦略 企業と社会が共発展を遂げるための指南書
（第 3 章　企業が取り組むべき SDGs
目標 14　海の豊かさを守ろう）、日刊工業新聞社
3 海洋の生物多様性保全と持続可能な利用、水産振興、２０１１

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course is designed to learn the methodology for the development of a conservation project through practical stakeholders engagement process.
（Learning Objectives）
The objective of this corse is to learn available tools and methods to proceed "stakeholders engagement" in projects.
（Grading Criteria /Policy）
To evaluate the submitted project plan developed by the individual student.

HIS500P2 － 030

サステイナビリティ学事例研究ＤⅠ

辻　英史

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ社会国家の発展の歴史を、ボランティアの観点から学ぶ。
　社会福祉史においては、国家による上からの社会政策だけでなく、民間の中間団体や個人的なエージェントの下からの活動を重視し、現代の社会保障体制を両者が一体となった「福祉の複合体」として理解する見方が注目されている。
　この授業では、ドイツの社会福祉の歴史を、その「福祉の複合体」の担い手としてのボランティアに注目しながら再構成していく。国家が独占的に社会保障の担い手となった時期はかなり遅く、ドイツにおいてはようやく 20 世紀初頭のことにすぎない。それまで社会福祉のかなり部分は都市自治の枠内で行われ、またそれは市民の自発的なボランタリーな活動に大部分依存していたのである。また 20 世紀の末以降、社会福祉のみならず民主主義の発展や社会的課題の解決におけるボランティアの役割への再評価が進み、市民参加を拡大しようとする政策が大々的に展開されている。
　このようにボランティアを軸としてドイツ社会国家を検証することから、現在社会保障制度の改革が急務となっている日本社会の現状と課題の分析にとって有意義な情報が得られるだろう。

【到達目標】
　ドイツの社会福祉の歴史と現状を理解し、自分の研究への示唆を得る。
1. ドイツ社会国家の歴史的形成過程について理解する。
　関連する法律や制度だけでなく、政治、行政、サービス提供者（企業、第三セクター）、福祉専門職やボランティア、そしてクライアントなどの相互作用をふくむダイナミックな関係として浮かび上がらせる。
2. ドイツ社会国家の現在の姿について理解する。
　1990 年代末以降の改革で大きく変化しつつある全体像を理解したうえで、いくつかの分野について詳細に検討する。
3. 日本および他国・他地域との比較をおこなう（ディスカッション）。
　ドイツ社会国家の歴史的発展のそれぞれのステージをその問題点を含めて検討した上で、さらに参加者の関心のある地域や国との比較をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
　授業は、時代順に並べた 7 つのモジュールにより構成される。
　モジュールごとに講義と資料講読、文献講読を組み合わせるほか、参加者とディスカッションをおこない、その中で情報を補足し理解を深めていく。その際、他の国や地域とくに日本の状況との比較について、参加者からの問題提起・知識提供を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ボランティアを中心に社会国家を考えることの意味について。
第 2 回	モジュール①ボランティアの誕生	中世から近世までの都市自治や市民のあいだの協会活動について。
第 3 回	モジュール② 19 世紀ドイツにおけるボランタリズムの展開　その 1	19 世紀初頭のドイツにおける都市自治の再編と市民社会の成立について。
第 4 回	モジュール② 19 世紀ドイツにおけるボランタリズムの展開　その 2	市民衛兵や救貧行政など公的な領域や、協会や結社など民間の領域における 19 世紀市民層の活動について。
第 5 回	モジュール③ 20 世紀国家とボランタリズム　その 1	第 1 次世界大戦をきっかけにした社会政策の局面転換と社会国家概念の登場について。
第 6 回	モジュール③ 20 世紀国家とボランタリズム　その 2	ヴァイマール時代からナチ期にかけて、国家への権力集中が進行した時代のボランティアのあり方について。
第 7 回	モジュール④戦後ドイツ社会における社会国家の構築とボランティア　その 1	戦後西ドイツにおける国家主導下の社会福祉の整備について。
第 8 回	モジュール④戦後ドイツ社会における社会国家の構築とボランティア　その 2	戦後ドイツ社会国家のメカニズム内にボランティアがどのように組み込まれていったのかを扱う。
第 9 回	モジュール⑤戦後西ドイツ社会の価値変容と「新しい名誉職」	高度経済成長がもたらした物質的繁栄が人びとの生活や価値観の変化を通じてボランティアのあり方にいかに影響を与えたか。
第 10 回	モジュール⑥社会国家の危機　その 1	1970 年代の経済不況を背景にそれまでの西ドイツ社会国家体制への批判が強まった。その批判内容を分析する。
第 11 回	モジュール⑥社会国家の危機　その 2	1980 年代になると社会国家の危機脱出のシナリオとしてのボランティア活動が注目されるようになる。その経緯を分析する。
第 12 回	モジュール⑦統一ドイツにおける参加政策と「市民的参加」　その 1	1990 年代末から本格化した連邦政府によるボランティア活性化政策の展開について。
第 13 回	モジュール⑦統一ドイツにおける参加政策と「市民的参加」　その 2	「市民的参加」およばれる統一ドイツにおける各種ボランティア活動の実情を明らかにする。
第 14 回	結論　現代ドイツ市民参加の課題と展望	2016 年の難民危機、2020 年以降のコロナ危機の対応に、ドイツのボランティア組織はいかに関与しているのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　参考文献を読み、ディスカッションに参加する準備をすること。
また、自分の研究や経験をふまえてディスカッションに参加し貢献することができるよう、準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　適宜コピーを配布する。

【参考書】
辻英史／川越修編著『歴史のなかの社会国家』山川出版社、2016 年。
池田浩士『ボランティアとファシズム―自発性と社会貢献の近現代史』人文書院、2019 年。
近藤正基『現代ドイツ福祉国家の政治経済学』ミネルヴァ書房、2009 年。
坂井晃介『福祉国家の歴史社会学― 19 世紀ドイツにおける社会・連帯・補完性』勁草書房、2021 年。
西田慎／近藤正基編著『現代ドイツ政治』ミネルヴァ書房、2014 年。
福澤直樹『ドイツ社会保険史―社会国家の形成と展開』名古屋大学出版会、2012 年。
福田直人『ドイツ社会国家における「新自由主義」の諸相――赤緑連立政権による財政・社会政策の再編』明石書店、2021 年。
　ほか、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
　ディスカッションへの参加（40 %）、学期末レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
　特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　歴史学（ドイツ近現代史）
＜研究テーマ＞　市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史
＜主要研究業績＞　『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016 年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版局、2008 年。

【Outline (in English)】
The course deals with the historical development of the German welfare state (Sozialstaat), from its beginning in the late 19th to the 21th century. Main focus will be laid on its character as "welfare mixture", which means dynamic cooperative interactions between governmental authorities, welfare organizations, and actors of the civil society (Volunteers) in building and reforming the social security system.
The class consists of seven modules arranged in chronological order.
Each module will consist of a combination of lectures, readings, and literature readings, as well as discussions with participants to supplement the information and deepen understanding.
Participants are expected to raise questions and provide knowledge about comparisons with the situation in other countries and regions, especially Japan.
Grading will be decided based on participation in discussions (40%) and term-end report (60%).

SOC500P2 － 033

環境ガバナンスＤＩ

西城戸　誠

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境ガバナンスに関わるさまざまな事例を通じて、環境と地域社会の持続性を担保するための社会的なしくみについての理論、実践について学ぶ。

【到達目標】
自然環境と地域の持続性に関する日本国内の事例を取り上げる。そして、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会、都市-農村関係に関する議論を踏まえて、環境ガバナンスのあり方を具体的に学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義では単元ごとに映像教材を用い、その内容理解のためのリアクションペーパーを求める。また、単元によっては事前に課題図書、論文に目を通した上で、それぞれの論点について講義する。最終的には、環境と地域の持続性に関するレポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境と地域の持続性を考える視点	環境と地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第 2 回	自然と人間の共生を考える	北海道のヒグマを事例として、自然と人間の共生のあり方について考察する。
第 3 回	合意形成とレジティマシー	「海は誰のものか」という題材から、合意形成とレジティマシーの関係を考える。
第 4 回	市民参加とガバナンス	地域問題の解決手段としての市民参加とそのガバナンスのあり方について考える。
第 5 回	自然再生と順応的管理（1）：コウノトリを巡る自然再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生の実践を考える。
第 6 回	自然再生と順応的管理（2）：コウノトリを巡る地域再生	自然再生と地域再生の関係性について、生態系サービスの観点から論じる。
第 7 回	自然再生と順応的管理（3）：トキとコウノトリ巡る地域再生	自然再生と地域再生の関係性について、トキとコウノトリの事例を比較して考察する。
第 8 回	自然再生と順応的管理（4）：獣害問題と地域再生	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第 9 回	「負の遺産」と地域再生（1）：炭鉱社会の帰結	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第 10 回	「負の遺産」と地域再生（2）：炭鉱遺産によるまちづくり	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第 11 回	「縮小社会」とその対応（1）：縮小社会に関する理論	「縮小社会」とはどのような現象か。東京、夕張、中国地方における「縮小社会」の現状について学ぶ。
第 12 回	「縮小社会」とその対応（2）：外部サポートの可能性と課題	中山間地域における地域再生事業に対する評価を巡る縮小社会の解決策を考える。
第 13 回	「縮小社会」とその対応（3）：労働力不足と高齢者・外国人労働	縮小社会による労働力不足の解消としての高齢者、外国人労働者の問題について考える。
第 14 回	「縮小社会」とその対応（4）：労働力不足と地方移住	地方の労働力不足と地方移住について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、それぞれの論点に関わる文献（論文、書籍）を読む。また、講義中の映像教材に関わるまとめを授業時間外で行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
随時、指定する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー 40 %
レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】
一方向的な講義だけではなく、内容理解のためのディスカッションも重視したい。

【その他の重要事項】
本講義は、サステイナビリティ専攻で開設されている「環境社会論」の応用科目として位置づけられる。「環境社会論」を受講した後で、本講義を履修することが望ましいが、本講義の履修を妨げるものではない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境社会学　社会運動論　地域社会学
＜研究テーマ＞　社会運動のイベント分析、市民運動の事例研究（生活クラブ生協、市民風車運動・事業など）、水害の記憶と環境教育に関する社会学的研究、再生可能エネルギーと内発的発展に関する社会学的研究、津波被災地および原発避難者への支援に関する研究
＜主要研究業績＞
『避難と支援』（共著、新泉社、2019 年）
『震災と地域再生』（共編著、法政大学出版局、2016 年）
『再生可能エネルギーのリスクとガバナンス: 社会を持続していくための実践』（共編著、ミネルヴァ書房、2015 年）
『用水のあるまち』（共編著、法政大学出版局、2010 年）
『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』（単著、人文書院、2008 年）

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】 The purpose of this course is to provide an understanding of the theory and practice of social mechanisms for ensuring the sustainability of the environment and local communities through various examples of environmental governance.
【Learning Objectives】
Students will study environmental governance in detail based on the discussions on consensus building, residency, subsistence, semi-cultivation, adaptive management, appropriate technology, negative heritage and regional regeneration, shrinking society, and urban-rural relations.
【Learning Activites outside of classroom】
Students are required to read the literature (articles, books) related to each issue. In addition, a summary of the video materials viewed during the lecture will be given outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria】
Reaction paper 40%.
Report 60%.

法政大学
HOSEI University